

相模原市障害福祉計画等策定基礎調査

報 告 書

令和8年3月

相模原市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	アンケート調査の概要	1
3	ヒアリング調査の概要	2
II	障がいのある人へのアンケート調査の結果	4
1	回答者の属性	4
(1)	調査の回答者	4
(2)	性別	5
(3)	年齢	6
(4)	地区	7
(5)	障害者手帳の取得状況	8
(6)	障害者手帳の種別と等級	9
(7)	身体障害の種別と等級	14
(8)	自立支援医療（精神通院）の受給、障がいの診断などの状況	20
(9)	障害支援区分	22
(10)	介護保険制度における要介護度	23
(11)	介護保険によるサービスの利用状況	24
(12)	利用している介護保険によるサービス	25
(13)	現在の生活拠点	28
(14)	一緒に生活している人	29
(15)	主に介護・介助している人	32
(16)	受けている介護・介助の充足度	38
(17)	受けている介護・介助の内容	40
(18)	主な介護・介助者の健康状態	46
2	今後の暮らし方について	48
(1)	これから先の希望する生活	48
(2)	将来親や親族が病気などで一緒に生活できなくなったときに希望する生活	50
(3)	病院に入院してからの経過期間	53

(4) 退院して地域で生活することへの希望	55
(5) 今後地域で生活していくために必要なこと	55
(6) 休日など時間があるときに希望する過ごし方	56
(7) 希望する過ごし方の実現状況	59
(8) かかりつけ医療機関の有無	60
(9) かかりつけの医療機関・受診科	61
3 収入について	62
(1) 主な収入	62
(2) 働いて得ている1か月あたりの給料・報酬・事業収入・工賃	64
(3) 年金・手当・生活保護費・親族からの援助なども含めた1か月あたりの全収入	66
4 教育について	68
(1) 現在の通学・通園・通所	68
(2) 通学・通所・通園先で生活をするうえで困っていること	70
(3) 生活をするうえで家族が負担を感じていること	72
(4) 休みの日や放課後の活動についての希望	73
(5) 高等学校などを修了した後の進路希望	75
(6) 将来の進路のために希望すること	77
5 相談や福祉の情報について	79
(1) いまの生活で困っていること	79
(2) 将来の生活で心配なこと	82
(3) 現在の困りごとや将来の心配の相談相手	88
(4) 気軽に相談するために必要だと思うこと	94
(5) 福祉サービスの情報の入手方法	98
(6) 力を入れてほしい福祉サービスの情報	104
(7) パソコン・スマートフォン等の利用状況	110
(8) パソコン・スマートフォン等での福祉サービスの申請や手続の希望	112
(9) パソコン・スマートフォン等での福祉サービスの申請や手続を希望しない理由	113
(10) 福祉サービスの情報を知るために困ったこと	115
6 日中活動・就労について	117
(1) 平日の日中の主な過ごし方	117
(2) 障がいがあることで仕事をする上で不安や不満を感じることに	119
(3) 日中活動や就労等をしていない理由	121
(4) 今後の就労希望	123
(5) 希望する勤務場所	125
(6) 希望する職種	127
(7) 希望する勤務形態	130
(8) 働く上で必要な条件	132
7 外出やバリアフリーについて	136

(1) 通院以外の外出の頻度.....	136
(2) 主な外出先.....	138
(3) 主な移動手段.....	141
(4) 主に一緒に外出する人.....	143
(5) 外出時の困りごとの有無.....	145
(6) 外出しやすくなるために希望すること.....	147
(7) スポーツの実施頻度.....	151
(8) 一緒にスポーツをする人.....	152
(9) スポーツをしていない理由.....	156
(10) 現在の近所づきあい.....	162
(11) 今後の近所づきあいの希望.....	163
8 福祉サービスについて.....	165
(1) 福祉サービスの利用状況.....	165
(2) 利用している福祉サービス.....	167
(3) 福祉サービスを利用するときに困ったこと.....	171
9 権利擁護について.....	173
(1) 障がいがあることを理由とした差別を受けた・差別されたと感じた経験の有無.....	173
(2) 権利擁護に関する制度の認知度と今後の利用意向.....	175
10 災害対策について.....	179
(1) 災害発生時の不安.....	179
(2) 災害発生時の自宅以外の避難場所の有無・避難場所の認知度.....	183
11 ピアサポート活動について.....	184
(1) 同じ障がいや病気をもつ人への支援をしたいと思うか.....	184
(2) 同じ障がいや病気をもつ人へ支援する上で役立てたい経験.....	185
(3) 同じ障がいや病気をもつ人へ支援する上で心配なこと.....	186
12 啓発について.....	188
(1) 「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズやデザインの認知度.....	188
(2) 誰もが地域で生活できるよう地域の理解を進めるために力を入れるべきこと.....	190
13 相模原市の障がい者施策について.....	193
(1) 障がい者の「害」という表記について.....	193
(2) 障がいのある人が安心して生活するために望むこと.....	195
(3) 力を入れた方がよい行政の福祉施策.....	201

Ⅲ 市民アンケート調査の結果..... 204

1 回答者の属性.....	204
---------------	-----

(1) 性別.....	204
(2) 年齢.....	204
(3) 一緒に住んでいる家族の人数.....	205
(4) 相模原市での居住年数.....	206
(5) 居住地区.....	206
(6) 現在の仕事.....	207
(7) 障がいのある知り合いの有無.....	209
2 障がい者福祉への関心について.....	210
(1) 障がいのある人たちへの関心.....	210
(2) 障がいのある人との交流.....	211
3 障がいのある人に対する理解について.....	212
(1) 障害者虐待防止法の認知度.....	212
(2) 障害者差別解消法の認知度.....	213
(3) 相模原市内での障がいを理由とする差別や偏見の有無.....	214
(4) 障がいのある人に対する差別や偏見の改善状況.....	215
(5) 普段の生活の中での障がいのある人への対応や理解の状況.....	216
(6) 障がいのある人への対応や理解が足りていない状況.....	217
(7) 「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズやデザインの認知度.....	220
(8) 障がいのある人への市民の理解を深めるために必要なこと.....	221
4 障がいのある人への支援・ボランティアなどについて.....	223
(1) 福祉に関するボランティア活動への関心の有無.....	223
(2) 福祉に関するボランティア活動経験の有無.....	224
(3) 福祉に関するボランティア活動の内容.....	224
(4) 福祉に関するボランティア活動についての考え.....	225
(5) 障がいのある人にしてみたい支援や活動.....	227
5 障がいのある人の就労・教育などについて.....	230
(1) 障がいのある人の雇用を進めることについての考え.....	230
(2) 障がいのある人の雇用を進める必要がないと思う理由.....	230
(3) 障がいのある人が働くために必要だと思う条件.....	231
(4) 障がいのある児童・生徒の就学環境の整備.....	233
(5) 障がいのある児童・生徒の就学環境の整備について必要だと思うこと.....	234
6 福祉のまちづくりについて.....	235
(1) まちの環境が障がいのある人が外出しやすく改善されているか.....	235
(2) 障がいのある人にとっての施設などの利用しやすさ.....	236
7 相模原市の障がい者施策について.....	242
(1) 相模原市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思うか.....	242
(2) 障がいのある人にとって暮らしやすいまちになるために重点的に取り組むべき分野... ..	243

(3) 障がい者の「害」という表記についての考え	246
--------------------------------	-----

IV 自由意見

247

1 障がいのある人	247
(1) 身体障がい者 (142 件)	247
(2) 知的障がい者 (114 件)	250
(3) 精神障がい者 (192 件)	254
(4) 難病患者 (126 件)	257
(5) 重度心身障がい児者 (93 件)	260
(6) 発達障がい者 (111 件)	263
2 市民	267

V ヒアリング調査の結果

270

1 障がい等の理解・啓発について	270
2 権利擁護について	270
3 相談支援について	270
4 福祉・保健・医療サービスについて	271
5 教育・育成について	273
6 就労について	274
7 生活環境について	275
8 防犯・防災について	275
9 余暇活動・文化活動について	276
10 その他について	276

VI 調査結果のまとめ

277

1 障がい等の理解・啓発について	277
2 権利擁護について	277

3	相談支援について	278
4	福祉・保健・医療サービスについて	278
5	教育・育成について	279
6	就労について	279
7	生活環境について	280
8	防犯・防災について	280
9	余暇活動・文化活動について	280
 (参考) 調査票		 282

I 調査の概要

1 調査の目的

相模原市障害福祉計画等の策定にあたり、市内に居住する障がい者等を対象とした障がい者施策等に関するアンケート調査、及び障がい福祉団体等を対象としたヒアリング調査を、障がい者の実情や福祉をはじめとする各種施策のニーズと市民の意識等を把握する目的で実施しました。

2 アンケート調査の概要

(1) 調査地域 相模原市

(2) 調査対象 相模原市居住の①身体障がい者、②知的障がい者、③難病患者、
④重症心身障がい児者、⑤発達障がい者、⑥精神障がい者、⑦市民

(3) 抽出方法・標本数

調査対象	抽出方法	標本数
① 身体障がい者	身体障害者手帳所持者から無作為抽出	680
② 知的障がい者	療育手帳所持者から無作為抽出	660
③ 難病患者	特定医療費（指定難病）医療受給者証所持者から無作為抽出	650
④ 重症心身障がい児者	市内に住民登録のある重症心身障がい児者	240
⑤ 発達障がい者	療育手帳所持者からB 2-2項該当者	535
⑥ 精神障がい者	精神障害者保健福祉手帳所持者から無作為抽出	680
⑦ 市民	18歳以上の市民から無作為抽出	680
合 計		4,125

(4) 調査方法 郵送による配付・郵送またはオンラインによる回答

(5) 調査期間 令和7年12月17日（水）～令和8年1月30日（金）

(6) 回収結果

調査対象	配付数	有効回収数	有効回収率
① 身体障がい者	680票	448票	66.1%
② 知的障がい者	660票	333票	50.5%
③ 難病患者	650票	415票	63.8%
④ 重症心身障がい児者	240票	125票	52.1%
⑤ 発達障がい者	535票	289票	54.0%
⑥ 精神障がい者	680票	360票	52.9%
⑦ 市民	680票	364票	53.5%
合 計	4,125票	2,334票	56.6%

3 ヒアリング調査の概要

- (1) 調査地域 相模原市
 (2) 調査対象 相模原市内の障がい福祉団体、特別支援学校、障害福祉サービス事業所等
 (3) 調査方法 事前にヒアリング調書を郵送し、その回答内容に基づき必要に応じて、団体等にヒアリング調査を実施しました。
 (4) 調査の対象

i 障がい福祉団体 (22団体)

①障害者が地域で生きる会	⑫エンジェル会
②車いすと杖の会	⑬相模原市自閉症児・者親の会 (相模原やまびこ会)
③相模原市肢体障害者協会	⑭(一社)相模原市手をつなぐ育成会
④天命会	⑮わたげ
⑤相模原失語症友の会	⑯あしたば会 (相模原市精神障がい者仲間の会)
⑥相模原市視覚障害者協会	⑰NPO法人ぴあっと
⑦相模原市腎友会	⑱ボルトナット会
⑧相模原市聴覚障害者協会	⑲みどり会 (相模原市精神保健福祉家族会みどり会)
⑨(特非)相模原市難聴者協会・土の会	⑳四つ葉会
⑩ハイジの会	㉑オンリーワン
⑪あすなろ会	㉒相模原市障害者地域作業所等連絡協議会

ii 特別支援学校 (5校)

①神奈川県立相模原支援学校	④神奈川県立津久井支援学校
②神奈川県立相模原支援学校 橋本分教室	⑤神奈川県立座間支援学校
③神奈川県立相模原中央支援学校	

iii 障害福祉サービス事業所等 (15施設)

①相模原市立上九沢身体障害者デイサービスセンター	⑨カモミール横山台
②かわせみ荘	⑩ヘルパーステーション千代田
③くりのみ学園	⑪サポートルーム ぼっちぼっち
④ワゲン療育病院長竹	⑫あみ
⑤児童発達支援センターいっば	⑬ワークショップ・フレンド
⑥こども広場 ワンダーステップ	⑭相模原療育園
⑦やまびこ工房	⑮ブーケ
⑧たんぼぼの家	

(5) 調査項目

- 基礎項目（会員数、職員数、利用施設等）
- 目標及び活動の内容、今後新たに実施する予定の活動
- 目標の達成に向けての課題（活動、組織・人員、その他）
- 地域福祉、地域生活について（意見・要望、団体としての取り組み、市に期待する取り組み）
- 市の障がい福祉施策に関する意見・要望
- 障がい者の「害」という表記について
- その他
- ヒアリング実施希望の有無

4 この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」は、各質問の回答者数を示します。
- (2) 調査結果の比率は、nを基数として比率を算出し、小数点以下第2位を四捨五入して1位まで示しました。したがって、すべての選択肢の比率を合計しても100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問では、nを基数として比率を算出しているため、すべての選択肢の比率は通常100.0%を超えます。
- (4) クロス集計による分析では、年齢などの分析項目とした質問に無回答である層の結果を表示していません。しかし全体の基数（n）には含めているため、分析項目とした質問のすべての層の基数（n）の合計は、全体の基数（n）に一致しない場合があります。

II 障がいのある人へのアンケート調査の結果

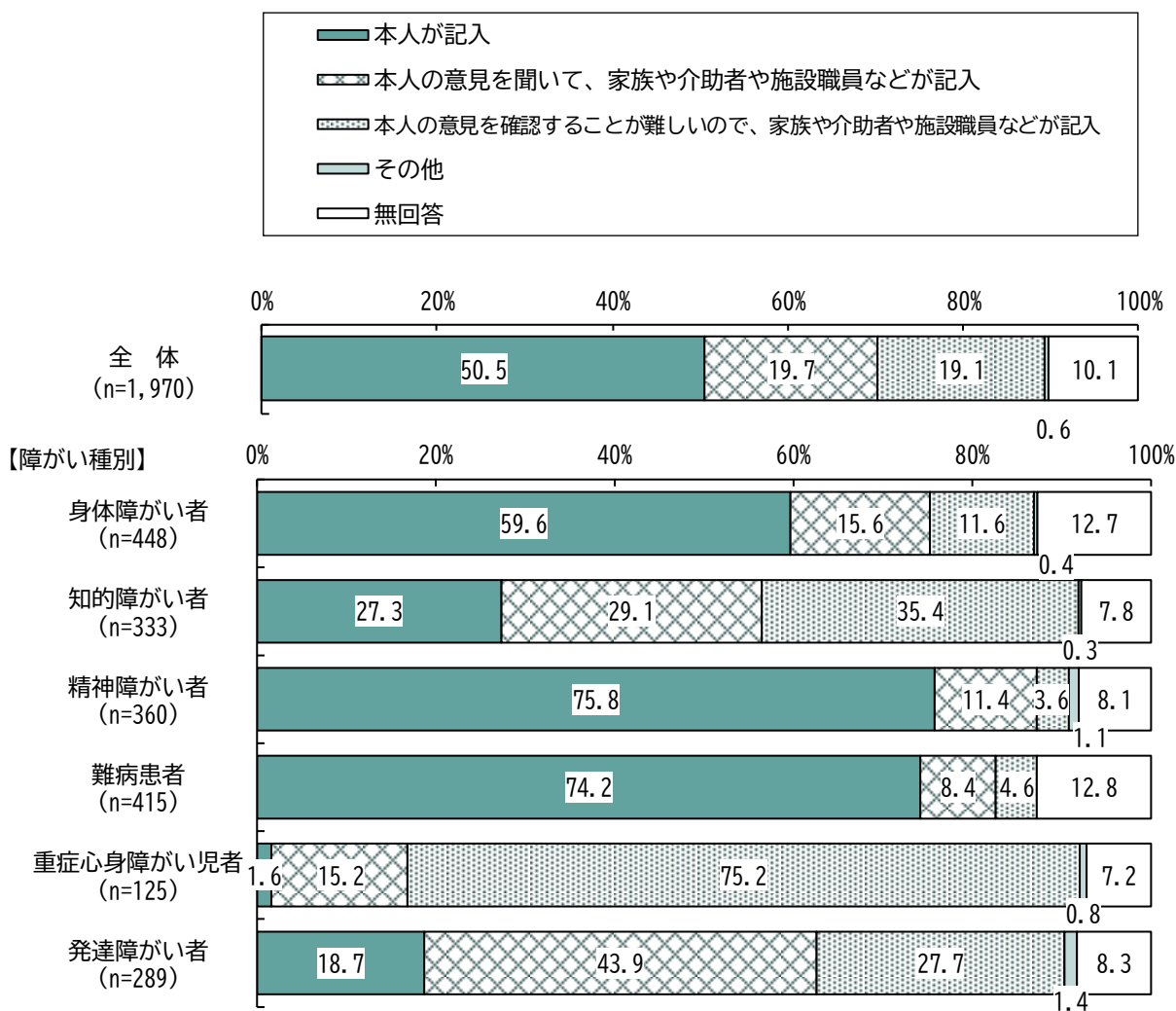
1 回答者の属性

(1) 調査の回答者

この調査票に記入していただくのはどなたですか。(○は1つ)

「本人が記入」が50.5%、「本人の意見を聞いて、家族や介助者や施設職員などが記入」が19.7%、「本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員などが記入」が19.1%などとなっています。

障がい種別にみると、「知的障がい者」、「重症心身障がい児者」では「本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員などが記入」が最も多くなっています。また、「発達障がい者」では「本人の意見を聞いて、家族や介助者や施設職員などが記入」が最も多くなっています。

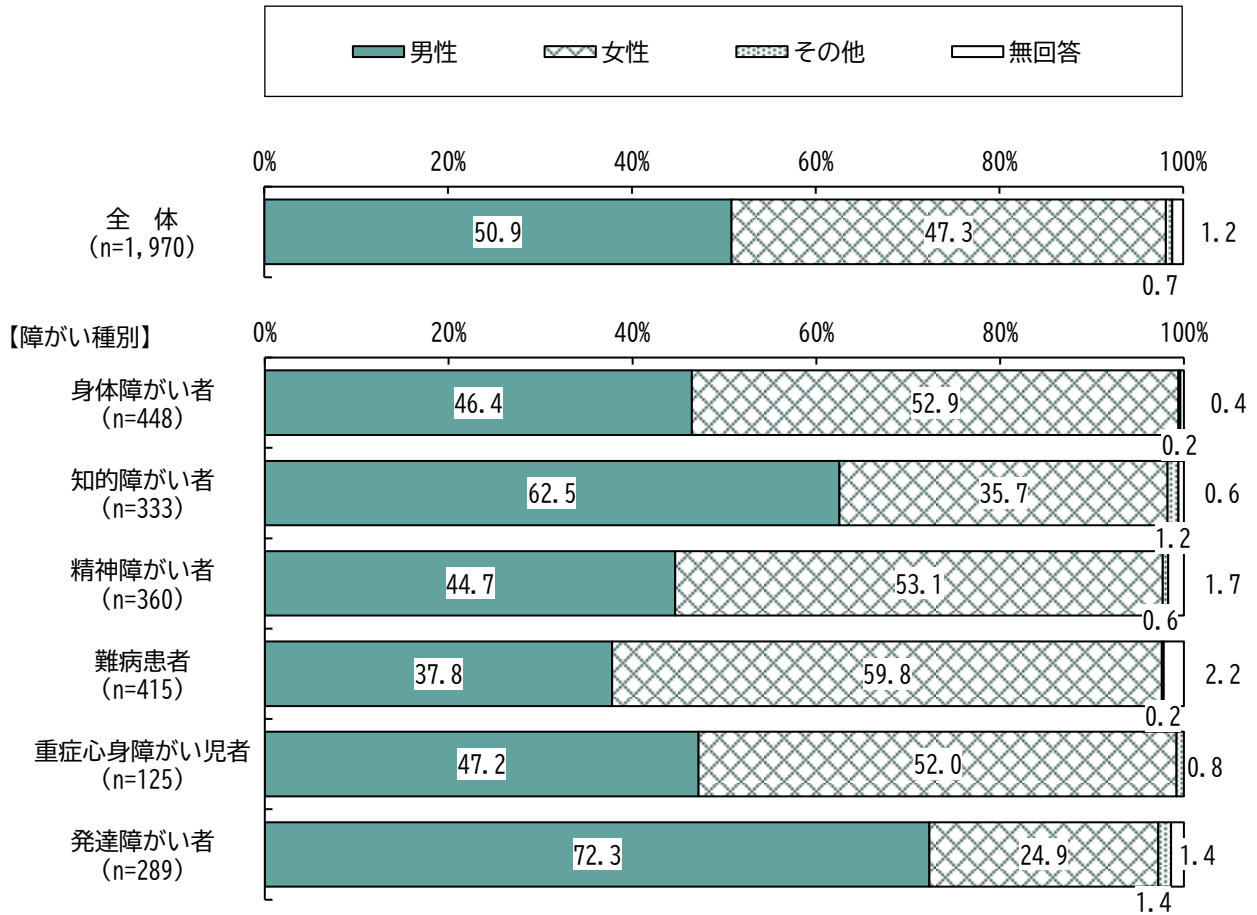


(2) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

「男性」が50.9%、「女性」が47.3%となっています。

障がい種別にみると、“身体障がい者”、“精神障がい者”、“難病患者”、“重症心身障がい児者”では「女性」のほうが多くなっています。

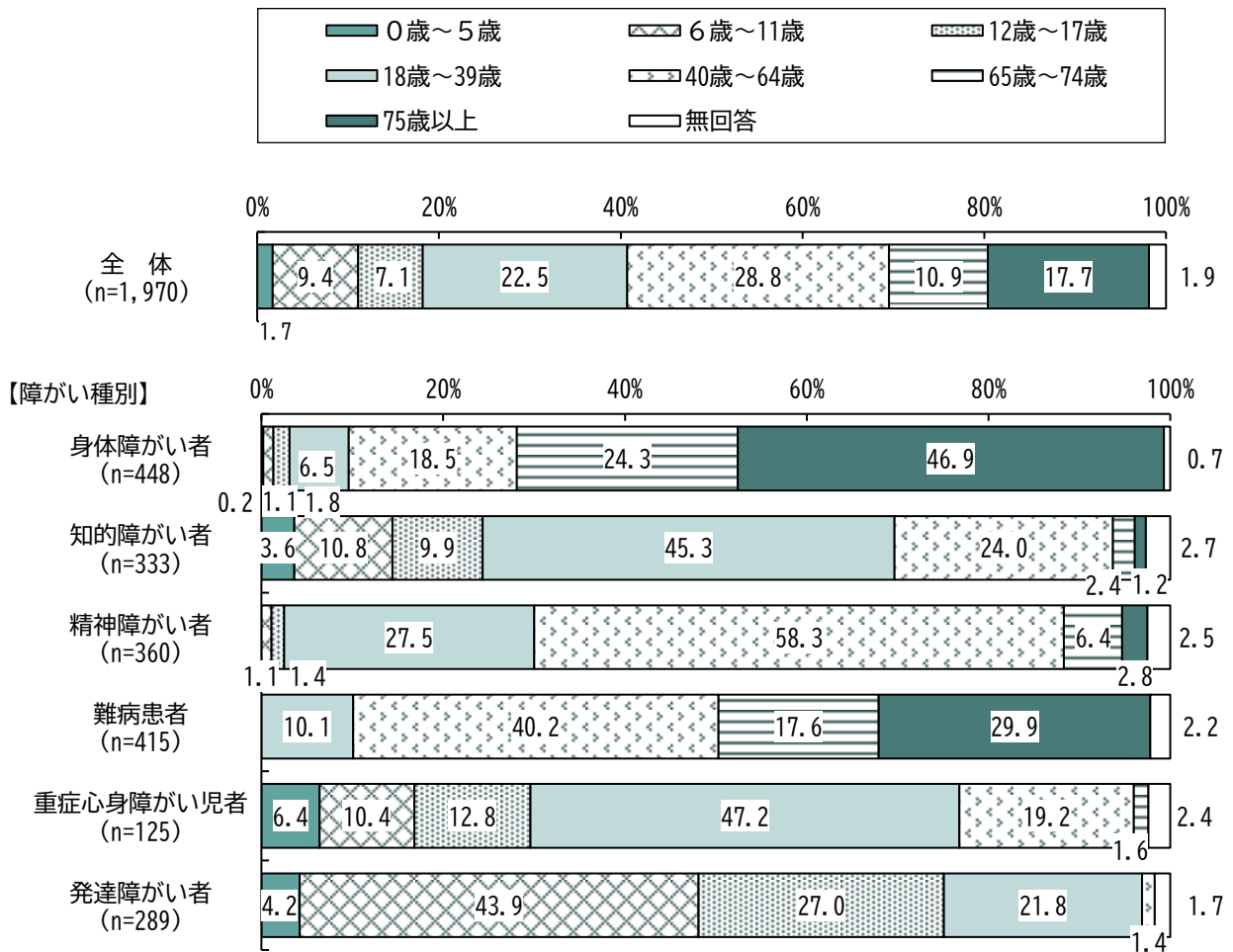


(3) 年齢

問2 年齢（令和7年12月1日現在）はおいくつですか。（数字を記入）

「40歳～64歳」が28.8%と最も多く、次いで「18歳～39歳」が22.5%、「75歳以上」が17.7%などとなっています。

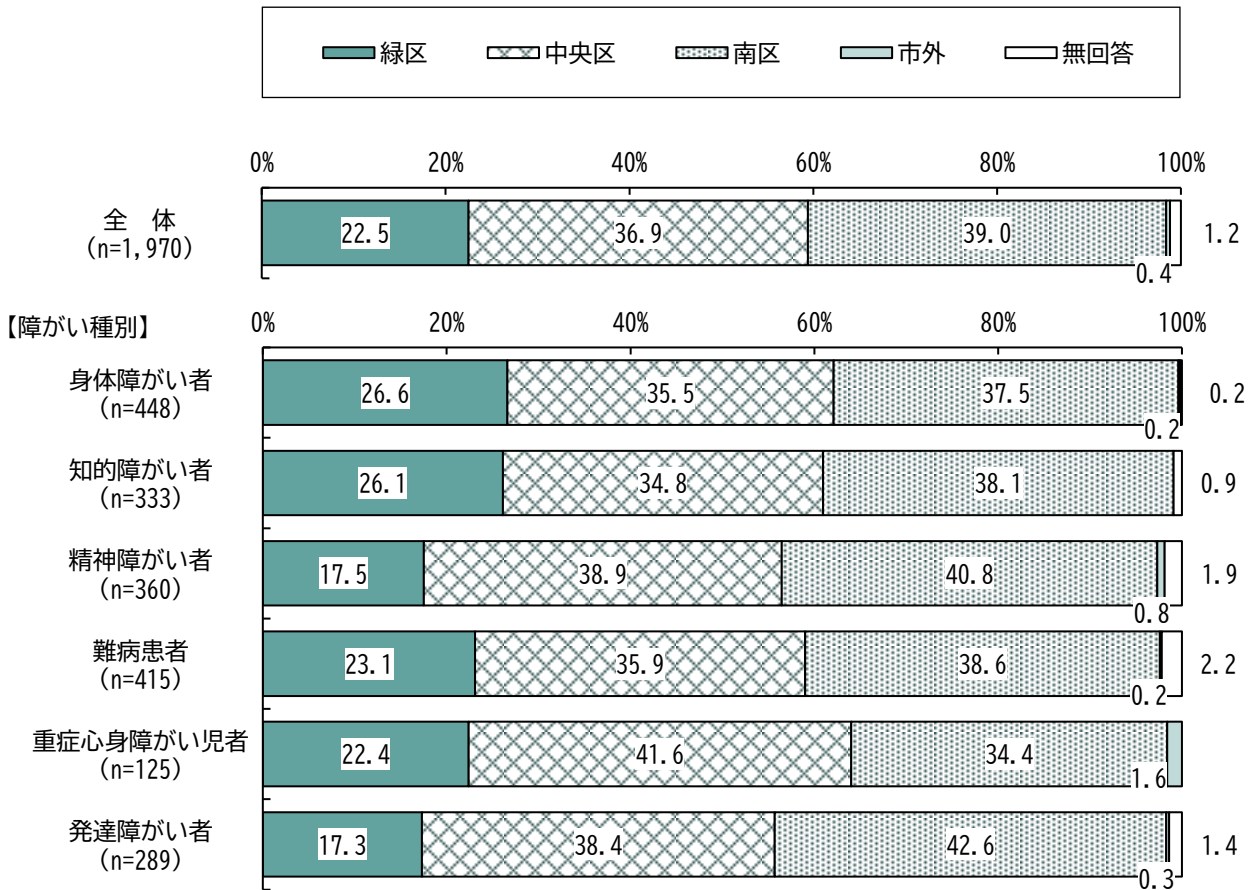
障がい種別にみると、“身体障がい者”では「75歳以上」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”、“重症心身障がい児者”では「18歳～39歳」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「6歳～11歳」が最も多くなっています。



(4) 地区

問3 現在のお住まいの地区はどこですか。(〇は1つ)

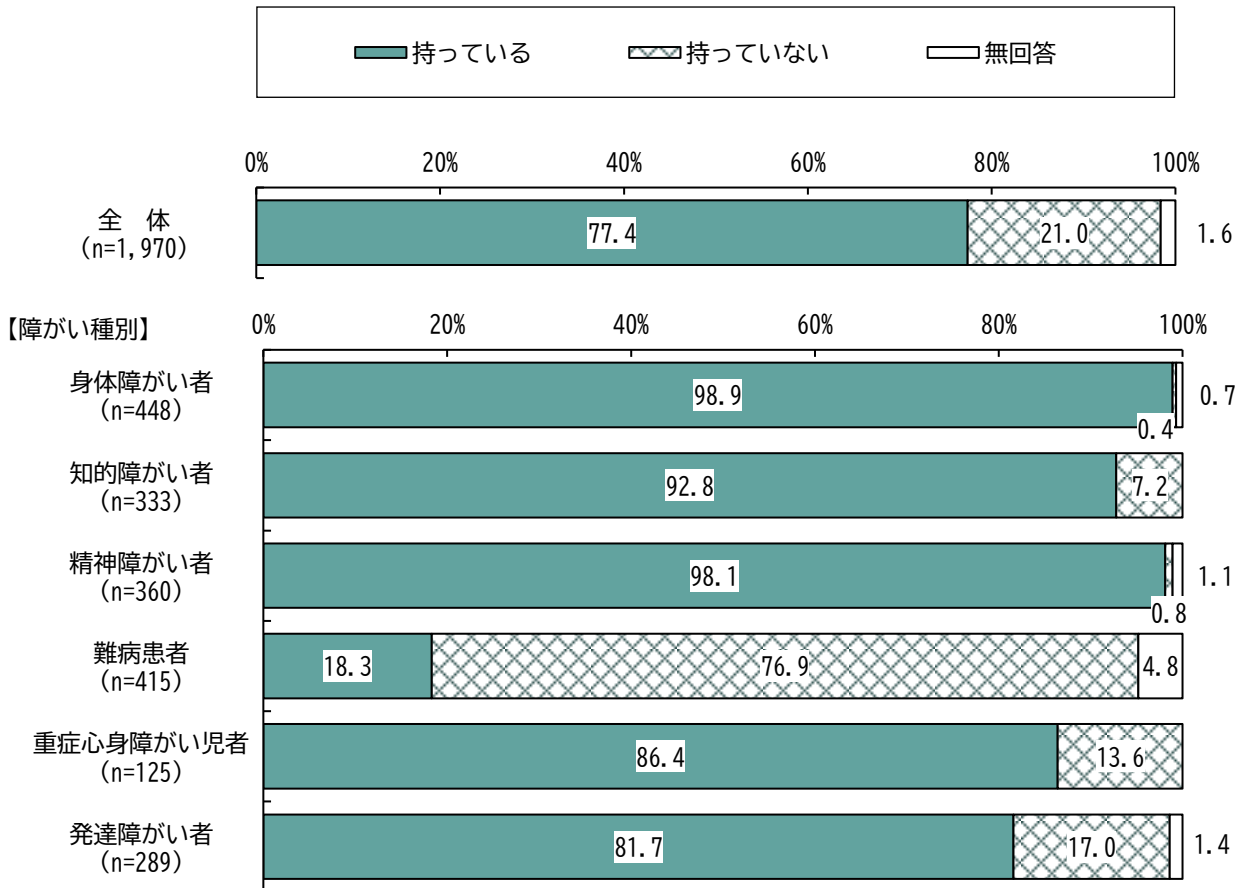
「緑区」が22.5%、「中央区」が36.9%、「南区」が39.0%、「市外」が0.4%となっています。
障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「中央区」が最も多くなっています。



(5) 障害者手帳の取得状況

問4 障害者手帳はお持ちですか。(○は1つ)

障害者手帳の所持は、「持っている」が77.4%、「持っていない」が21.0%となっています。
障がい種別にみると、“難病患者”では「持っていない」のほうが多くなっています。



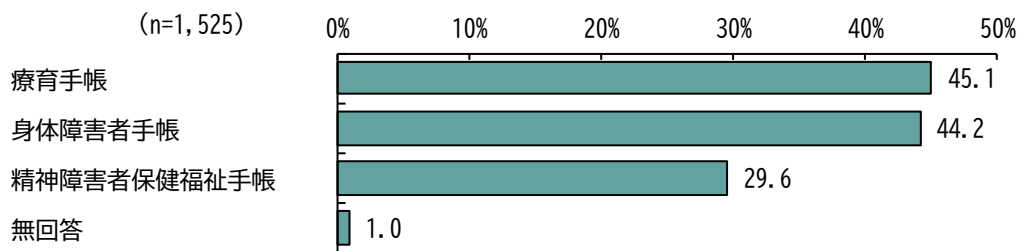
(6) 障害者手帳の種別と等級

問4-1 問4で「1 持っている」とお答えの方のうち、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方にお聞きします。現在お持ちの障害者手帳の等級は何級ですか。

(○はいくつでも)

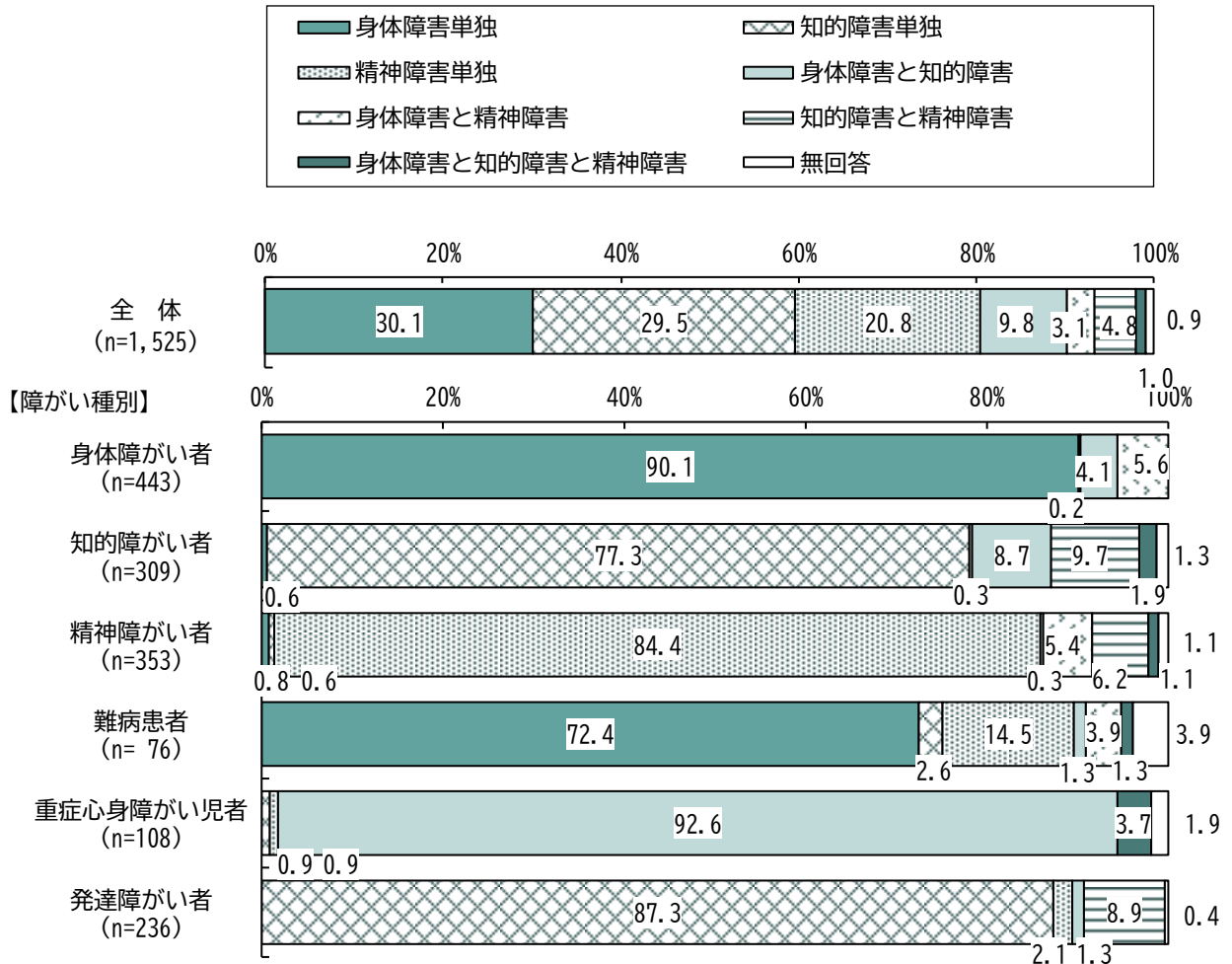
問4-2 問4で「1 持っている」とお答えの方のうち、身体障害者手帳をお持ちの方にお聞きします。現在お持ちの障害者手帳の総合等級は何級ですか。(○は1つ)

持っている障害者手帳の種別は、「療育手帳」が45.1%と最も多く、次いで「身体障害者手帳」が44.2%、「精神障害者保健福祉手帳」が29.6%となっています。



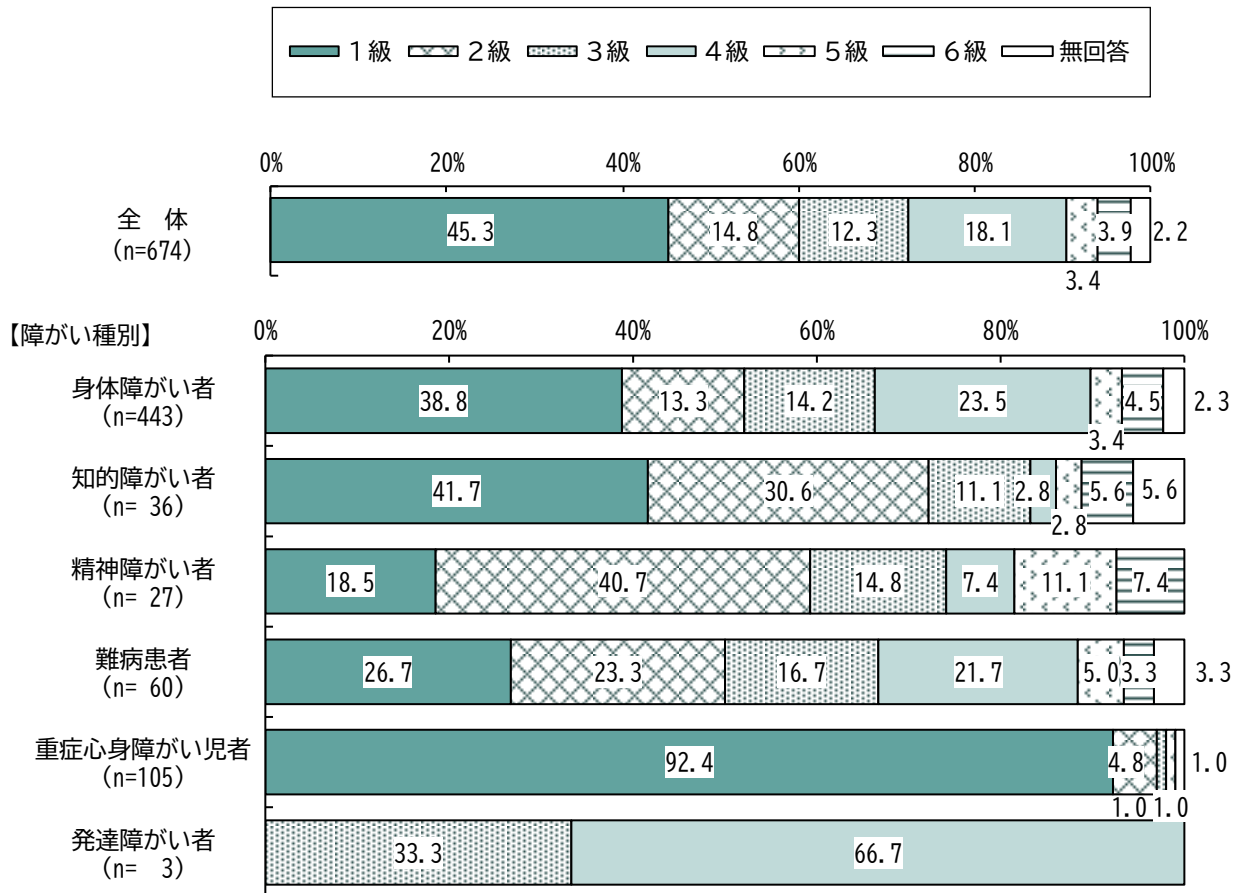
◎手帳の重複所持の状況

前記各質問の回答から、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を重複して持っているか整理すると、全体では「身体障害単独」が30.1%と最も多く、次いで「知的障害単独」が29.5%、「精神障害単独」が20.8%などとなっています。



①身体障害者手帳の等級

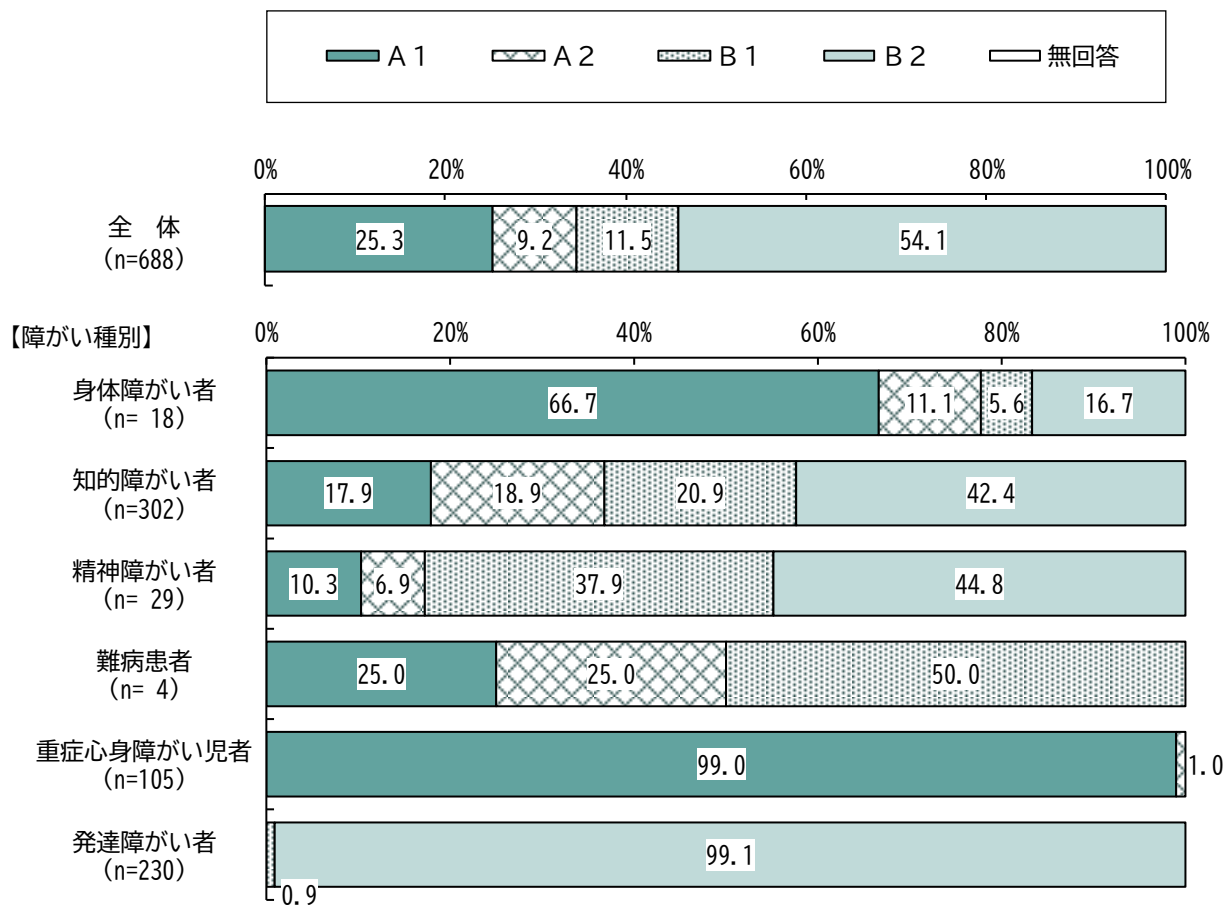
「1級」が45.3%と最も多く、次いで「4級」が18.1%、「2級」が14.8%などとなっています。
 障がい種別にみると、“精神障がい者”では「2級」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「4級」が最も多くなっています。



②療育手帳の等級

「A1」が25.3%、「A2」が9.2%、「B1」が11.5%、「B2」が54.1%となっています。

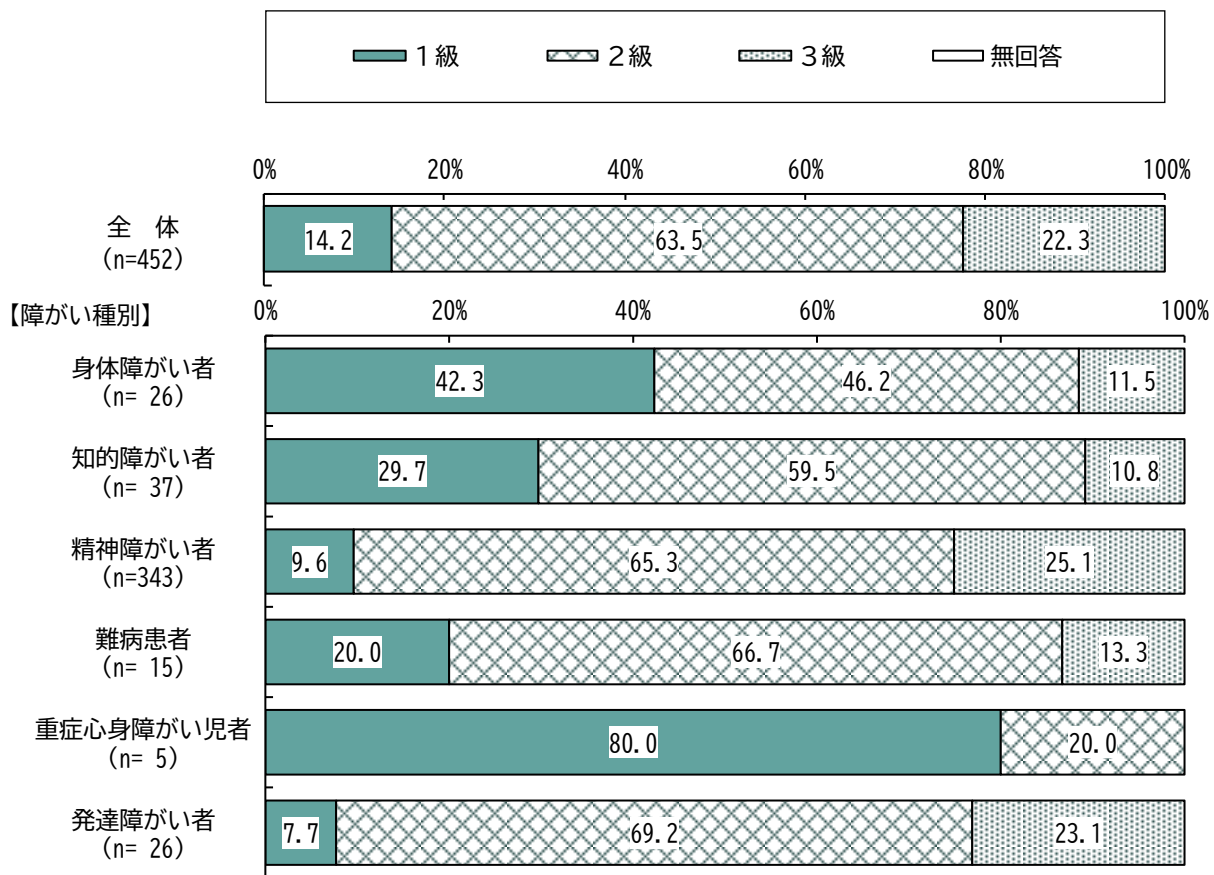
障がい種別にみると、“身体障がい者”、“重症心身障がい児者”では「A1」が最も多くなっています。また、“難病患者”では「B1」が最も多くなっています。



③精神障害者保健福祉手帳の等級

「1級」が14.2%、「2級」が63.5%、「3級」が22.3%となっています。

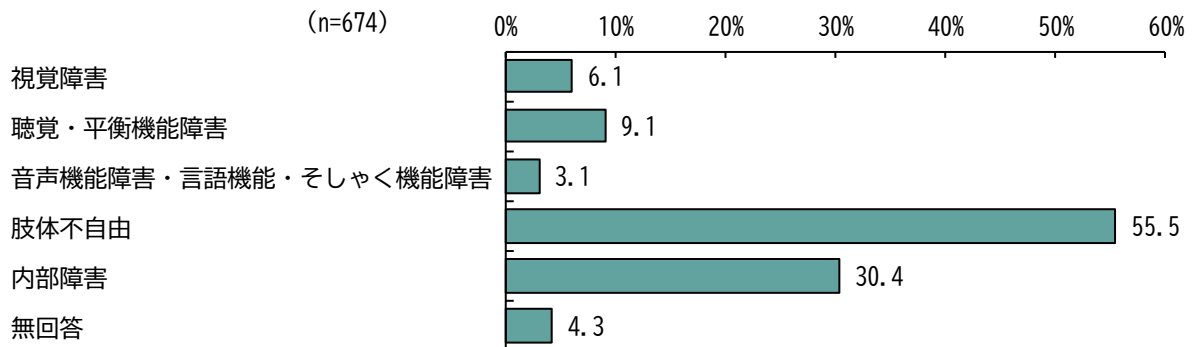
障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「1級」が最も多くなっています。



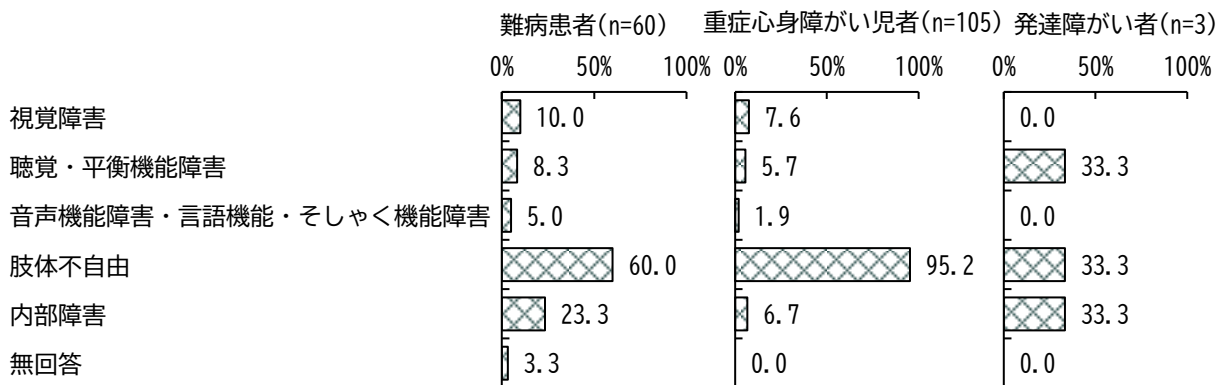
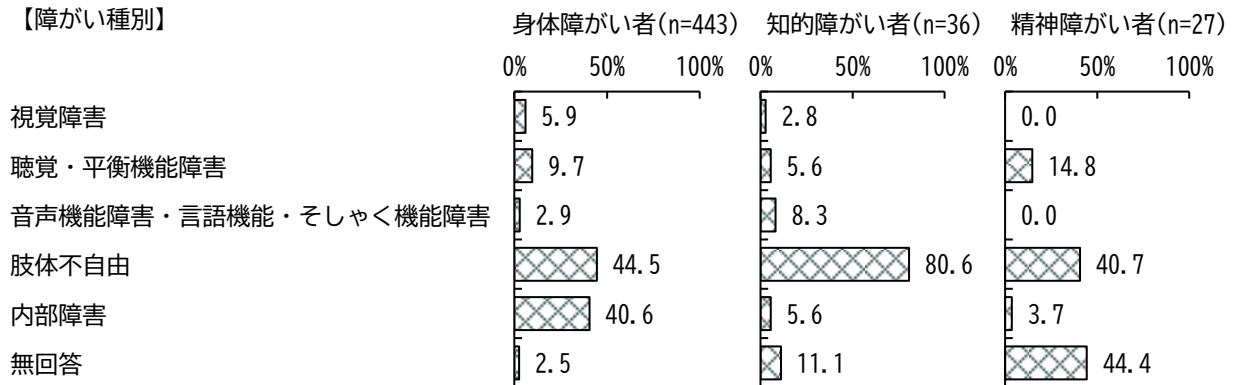
(7) 身体障害の種別と等級

問4-3 身体障害者手帳をお持ちの方にお聞きします。あてはまる障がいの種別の番号に○をつけて、等級をご記入ください。(○はいくつでも)

「肢体不自由」が55.5%と最も多く、次いで「内部障害」が30.4%、「聴覚・平衡機能障害」が9.1%などとなっています。



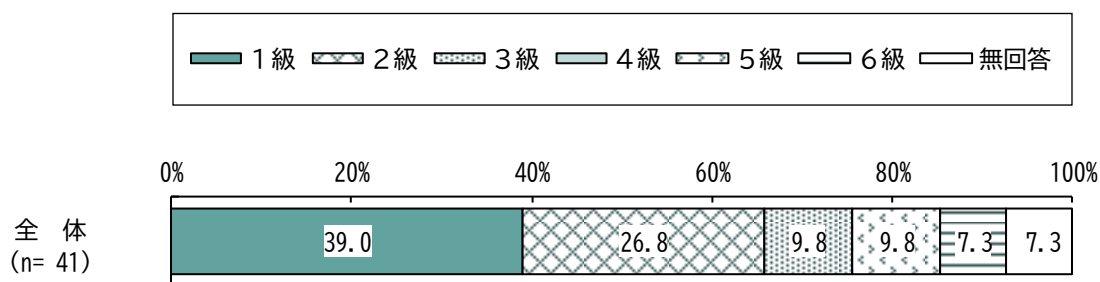
【障がい種別】



①視覚障害の等級

「1級」が39.0%と最も多く、次いで「2級」が26.8%、「3級」、「5級」が9.8%などとなっています。

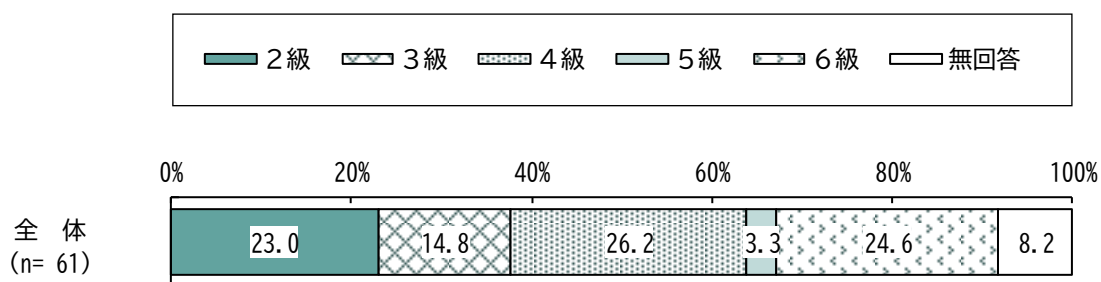
障がい種別は、nが少ないため割愛します。



②聴覚・平衡機能障害の等級

「4級」が26.2%と最も多く、次いで「6級」が24.6%、「2級」が23.0%などとなっています。

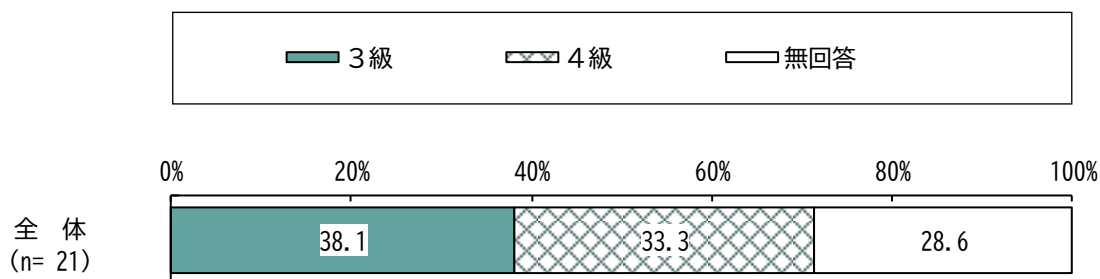
障がい種別は、nが少ないため割愛します。



③音声機能障害・言語機能・そしゃく機能障害の等級

「3級」が38.1%、「4級」が33.3%となっています。

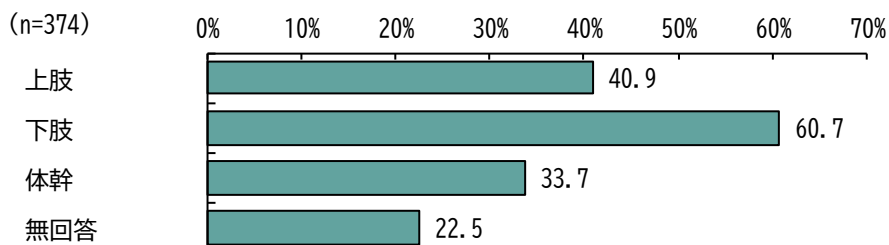
障がい種別は、nが少ないため割愛します。



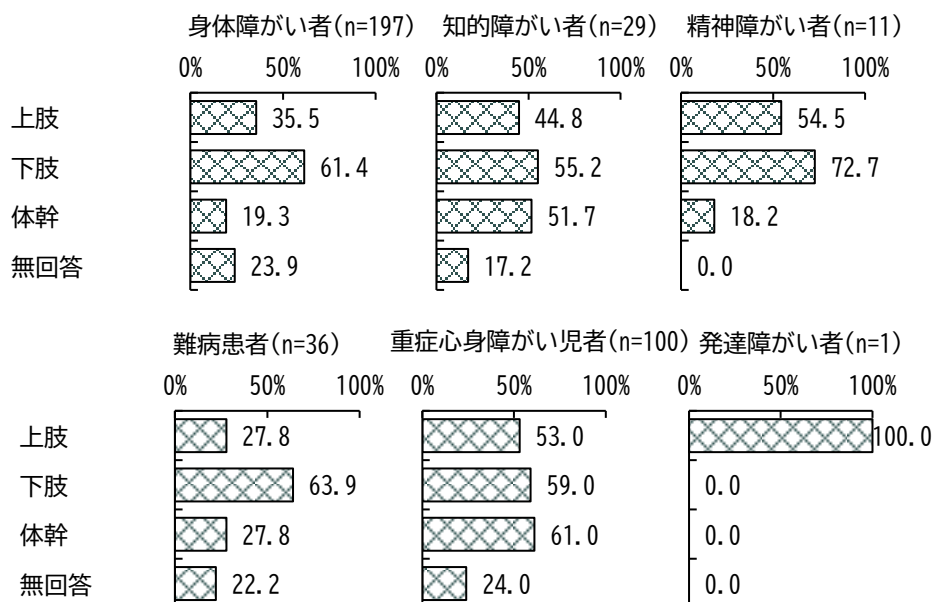
④肢体不自由の種別と等級

肢体不自由の種別は、「下肢」が60.7%と最も多く、次いで「上肢」が40.9%、「体幹」が33.7%となっています。

障がい種別にみると、「重症心身障がい児者」では「体幹」が最も多くなっています。また、「発達障がい者」では「上肢」が最も多くなっています。

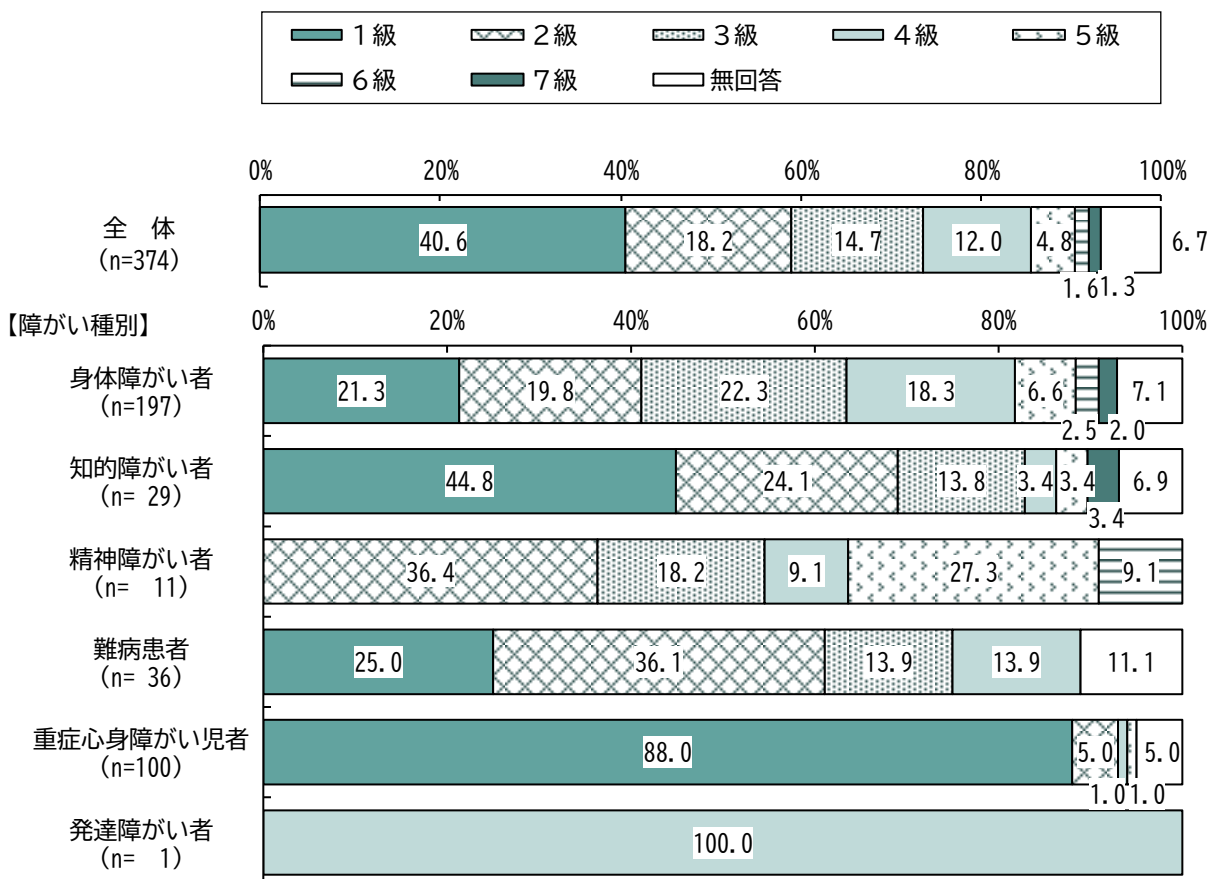


【障がい種別】



肢体不自由の等級は、「1級」が40.6%と最も多く、次いで「2級」が18.2%、「3級」が14.7%などとなっています。

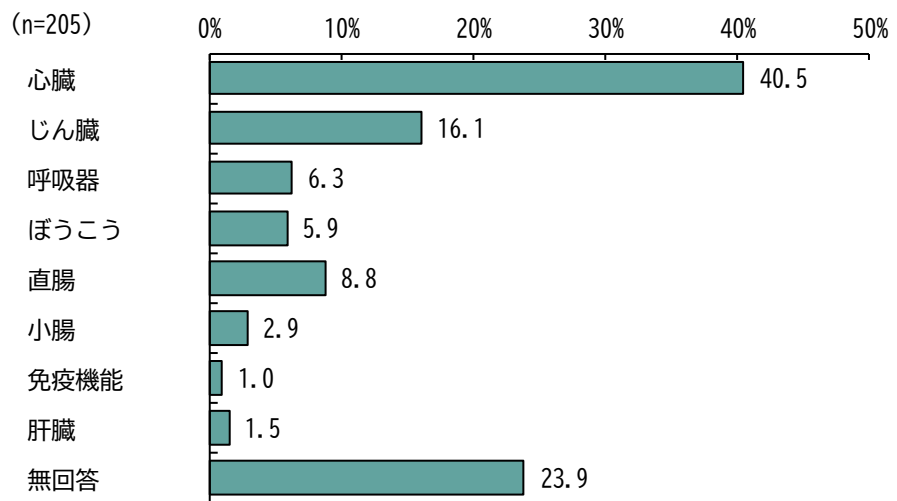
障がい種別にみると、「身体障がい者」では「3級」が最も多くなっています。また、「精神障がい者」、「難病患者」では「2級」が最も多くなっています。また、「発達障がい者」では「4級」が最も多くなっています。



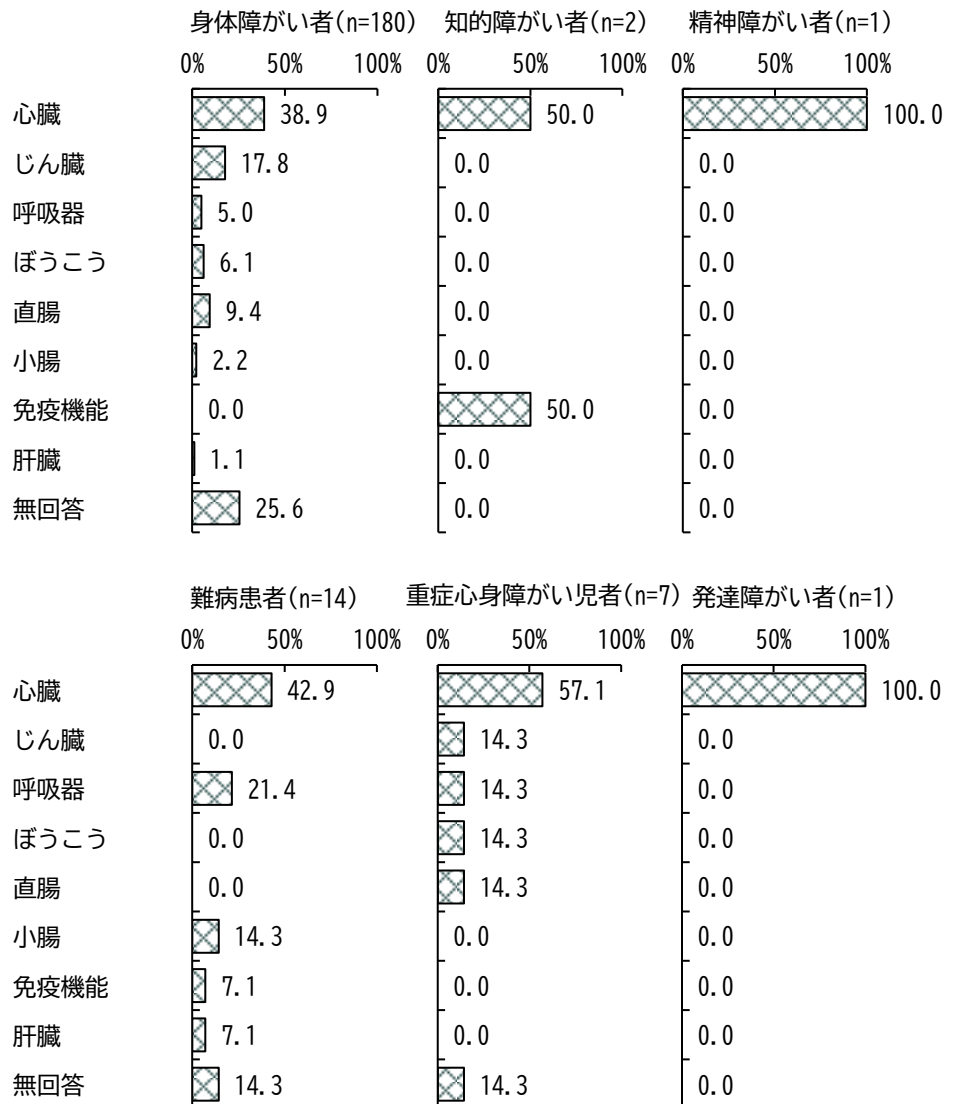
⑤内部障害の種別と等級

内部障害の種別は、「心臓」が40.5%と最も多く、次いで「じん臓」が16.1%、「直腸」が8.8%などとなっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”では「心臓」、「免疫機能」が最も多くなっています。

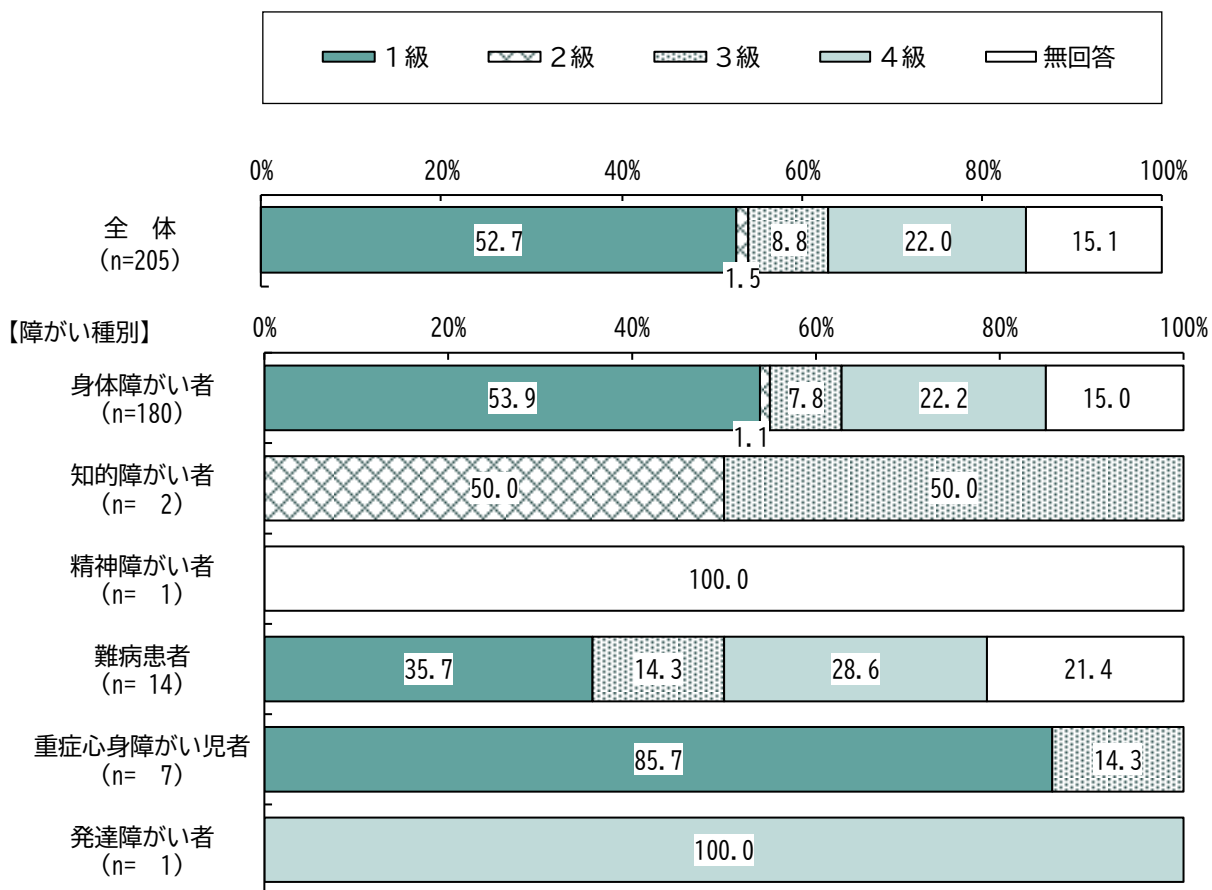


【障がい種別】



内部障害の等級は、「1級」が52.7%、「2級」が1.5%、「3級」が8.8%、「4級」が22.0%となっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”では「2級」、「3級」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「4級」が最も多くなっています。

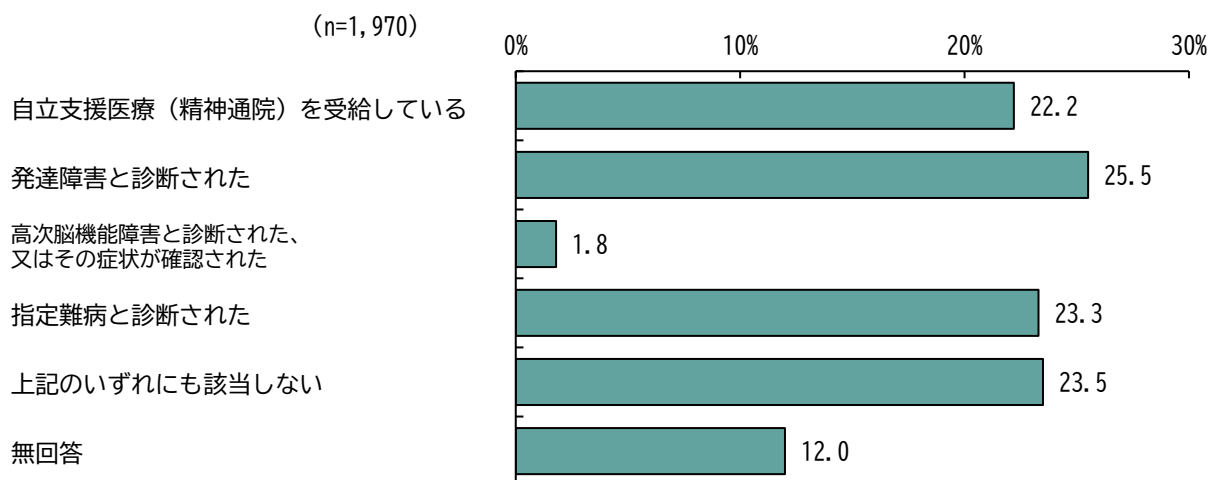


(8) 自立支援医療（精神通院）の受給、障がいの診断などの状況

問4-4 自立支援医療（精神通院）の受給、障がいの診断などについておたずねします。（あてはまる番号のすべてに○をつけてください。）

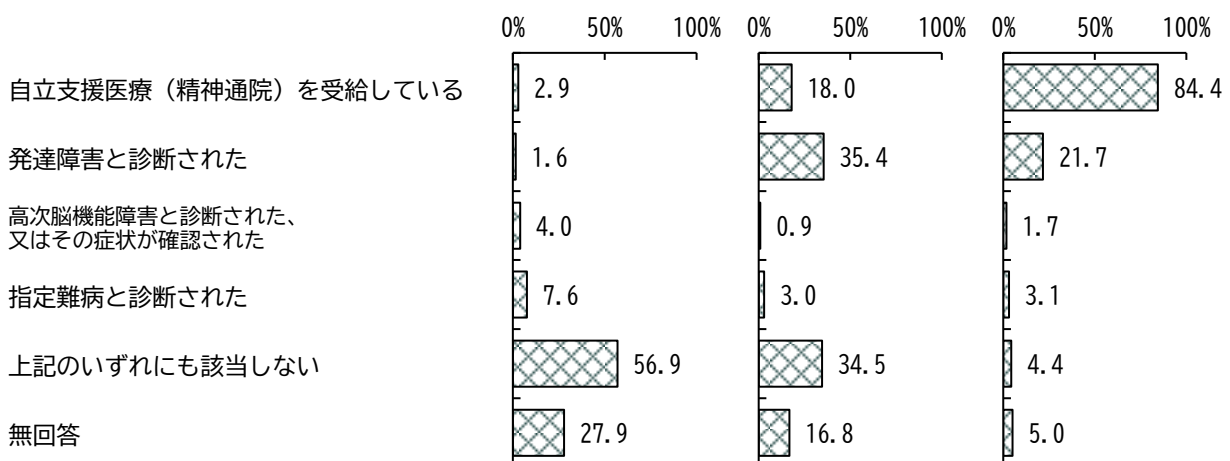
「発達障害と診断された」が25.5%最も多く、次いで「指定難病と診断された」が23.3%、「自立支援医療（精神通院）を受給している」が22.2%などとなっています。また、「上記のいずれにも該当しない」が23.5%となっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”、“発達障がい者”では「発達障害と診断された」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「自立支援医療（精神通院）を受給している」が最も多くなっています。また、“難病患者”では「指定難病と診断された」が最も多くなっています。



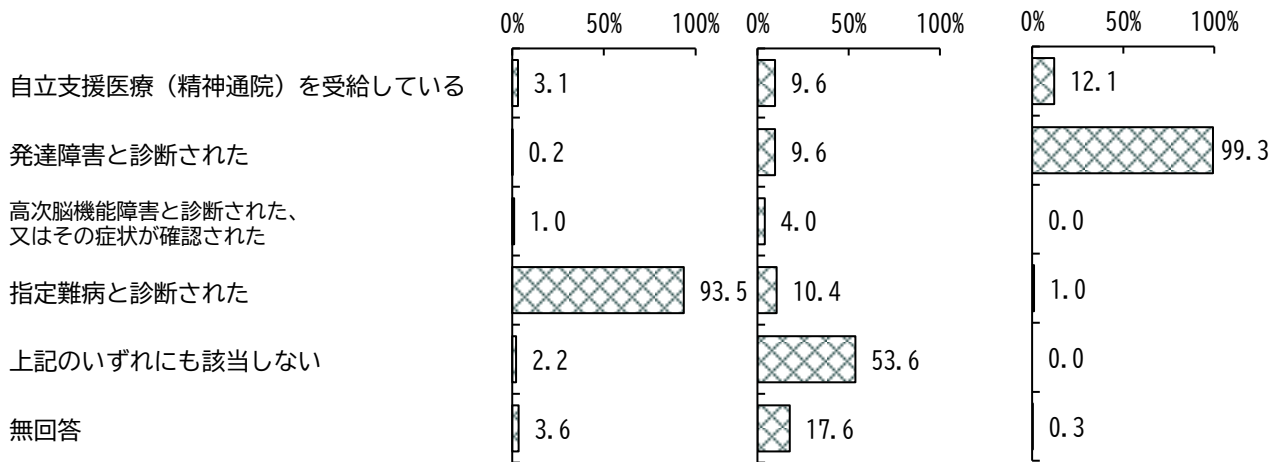
【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=360)



【障がい種別】

難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)

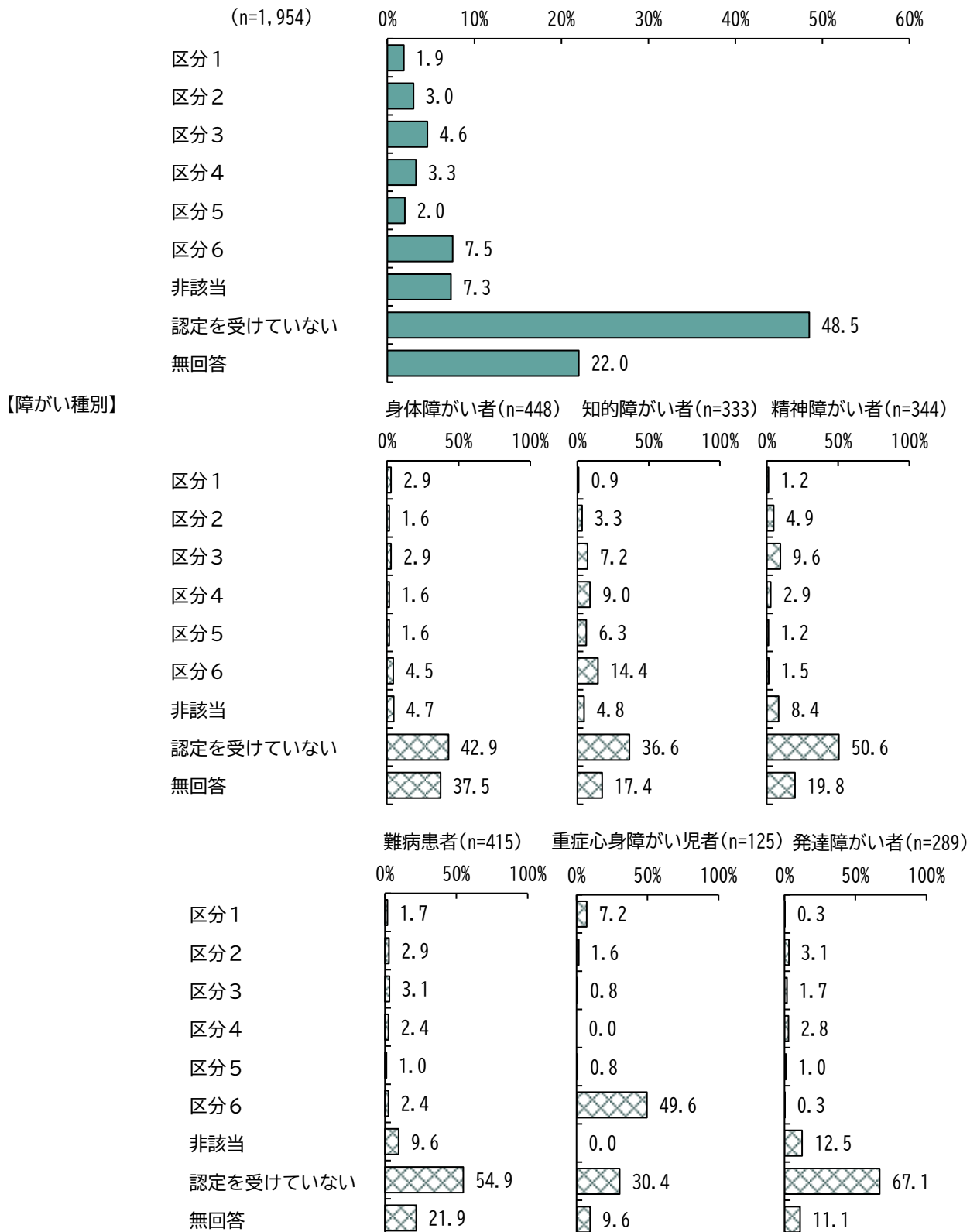


(9) 障害支援区分

問5 あなたの障害支援区分は何ですか。(○は1つ)

「認定を受けていない」が48.5%と最も多く、次いで「区分6」が7.5%、「非該当」が7.3%などとなっています。

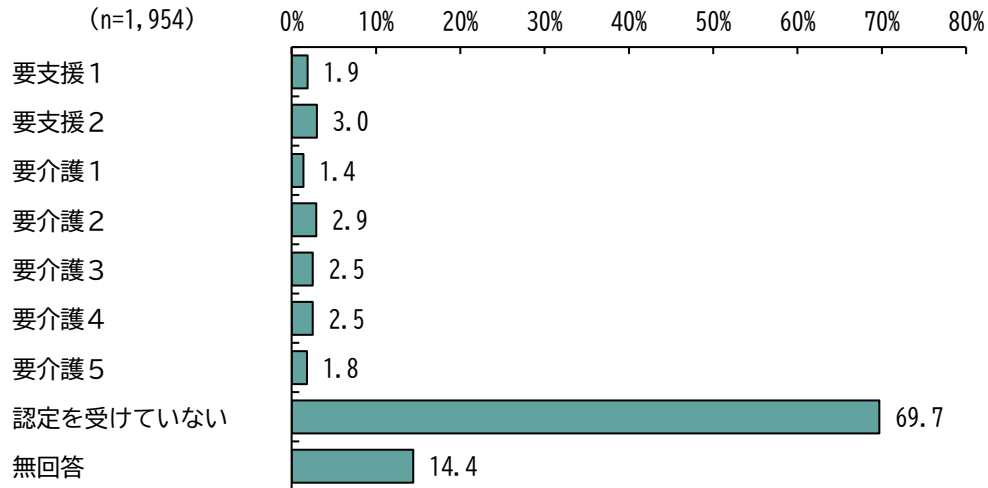
障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「区分6」が最も多くなっています。



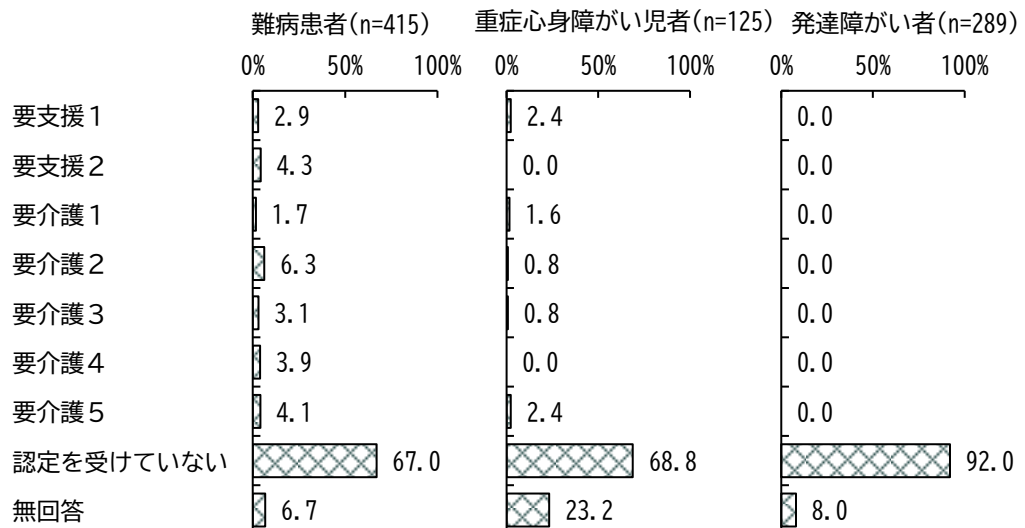
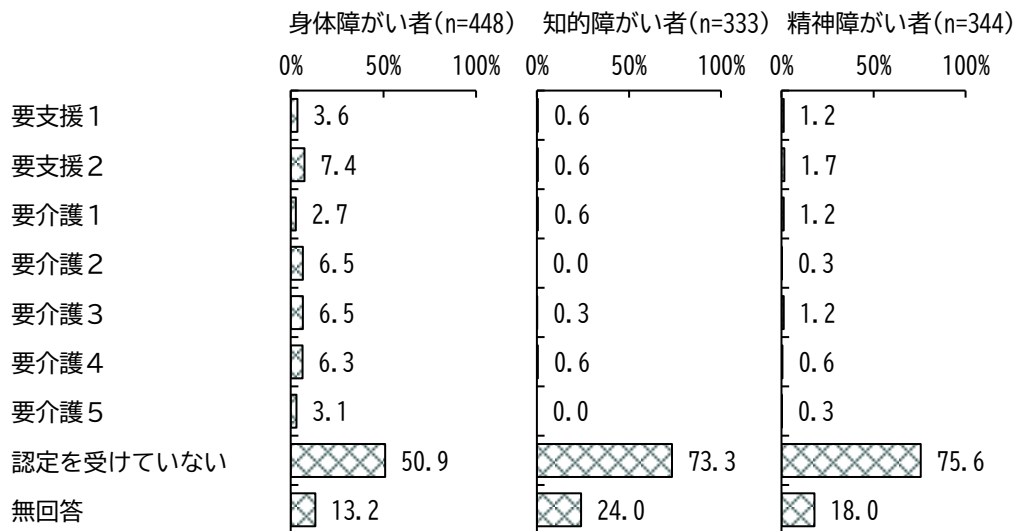
(10) 介護保険制度における要介護度

問6 あなたの介護保険制度における要介護度（認定区分）は何ですか。（○は1つ）

「認定を受けていない」が69.7%と最も多く、次いで「要支援2」が3.0%、「要介護2」が2.9%などとなっています。



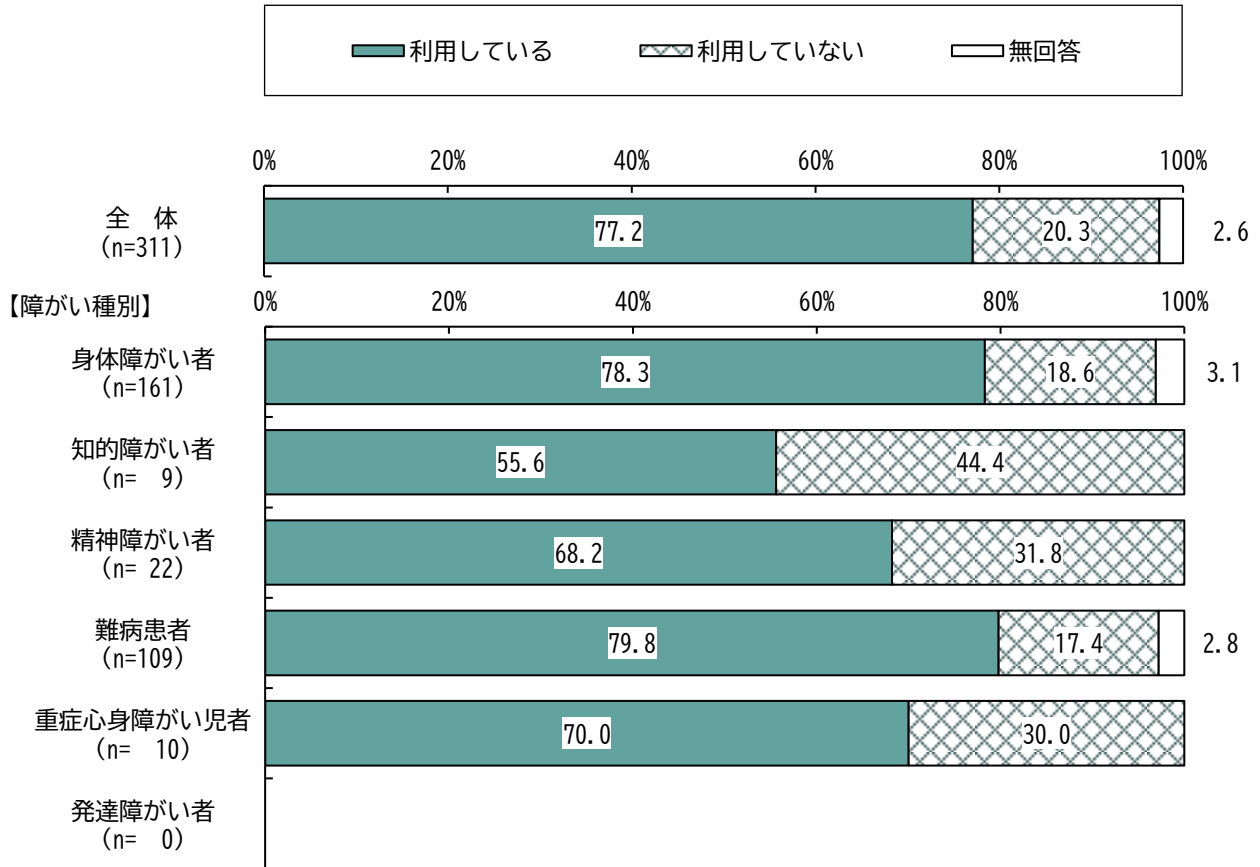
【障がい種別】



(11) 介護保険によるサービスの利用状況

問6-1 問6で「1（要支援1）～7（要介護5）」とお答えの方にお聞きします。あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。（○は1つだけ）

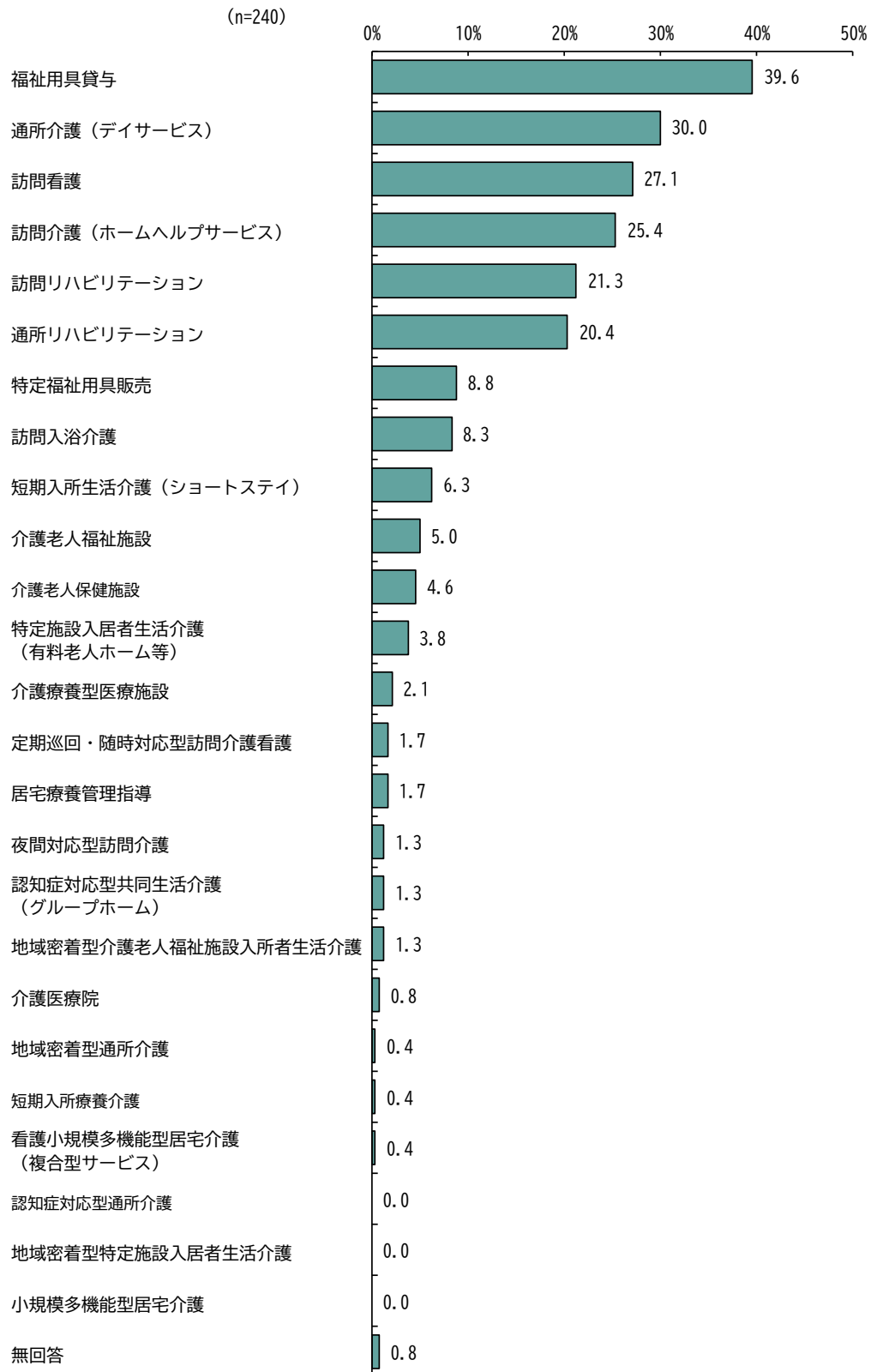
「利用している」が77.2%、「利用していない」が20.3%となっています。



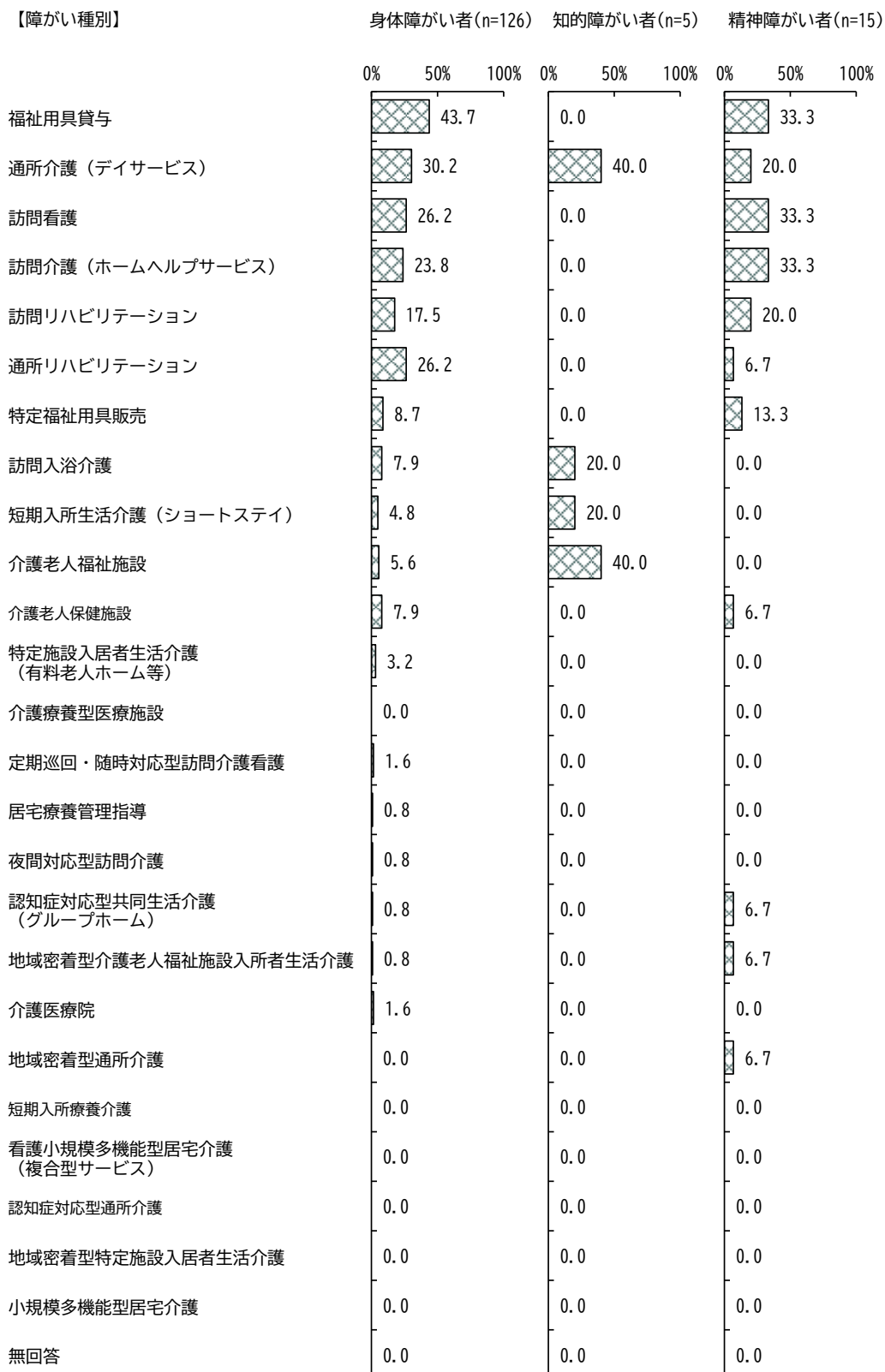
(12) 利用している介護保険によるサービス

問6-2 問6-1で「1 利用している」とお答えの方にお聞きします。利用している介護保険サービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「福祉用具貸与」が39.6%と最も多く、次いで「通所介護（デイサービス）」が30.0%、「訪問看護」が27.1%などとなっています。



障がい種別にみると、“知的障がい者”では「通所介護（デイサービス）」、「介護老人福祉施設」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「福祉用具貸与」、「訪問看護」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「通所介護（デイサービス）」、「訪問看護」が最も多くなっています。

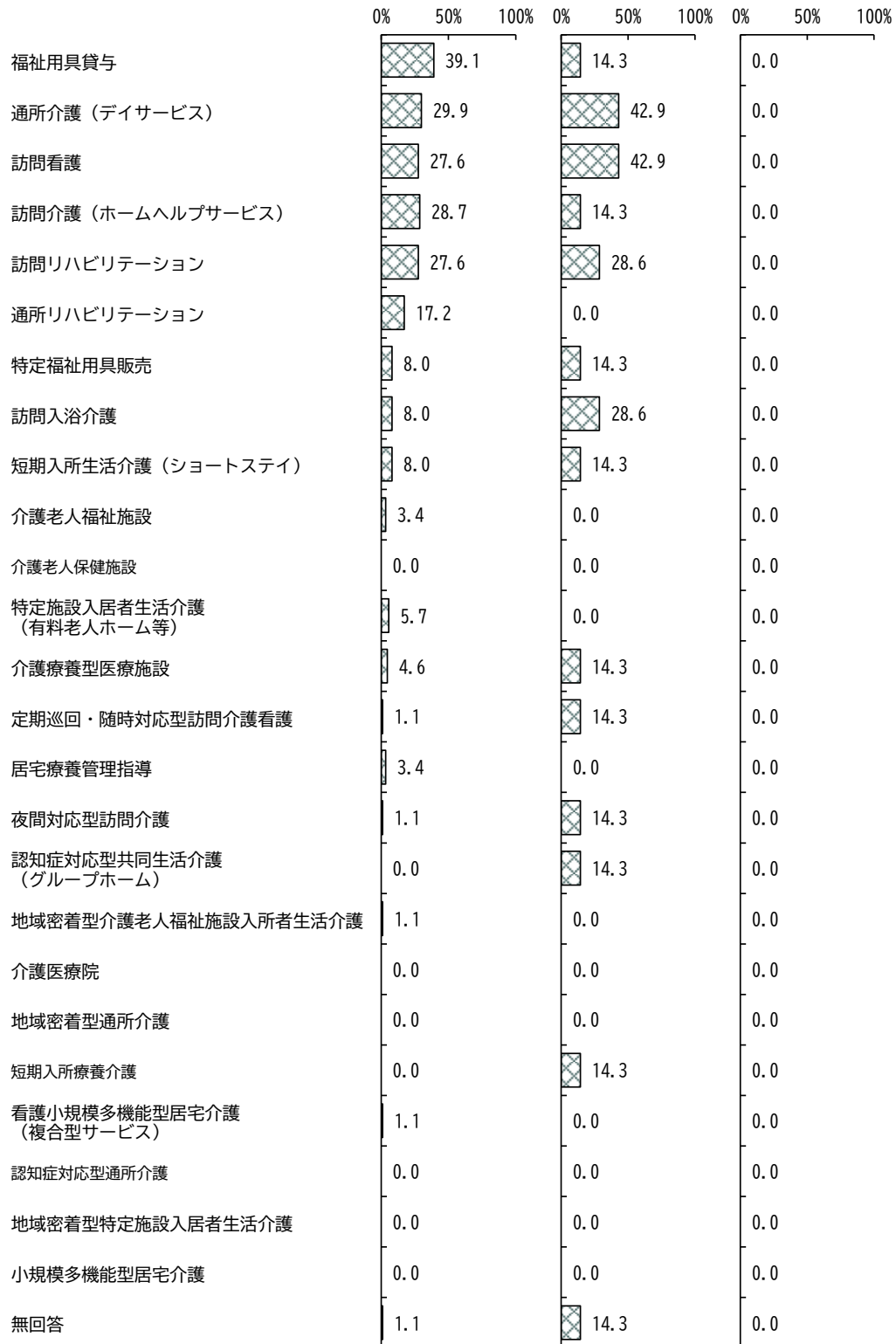


【障がい種別】

難病患者(n=87)

重症心身障がい児者(n=7)

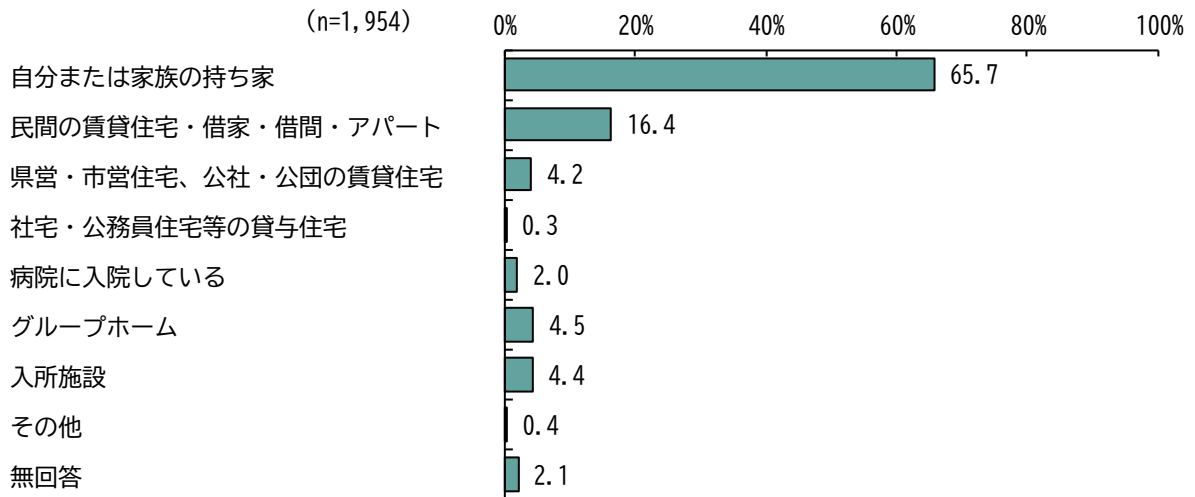
発達障がい者(n=0)



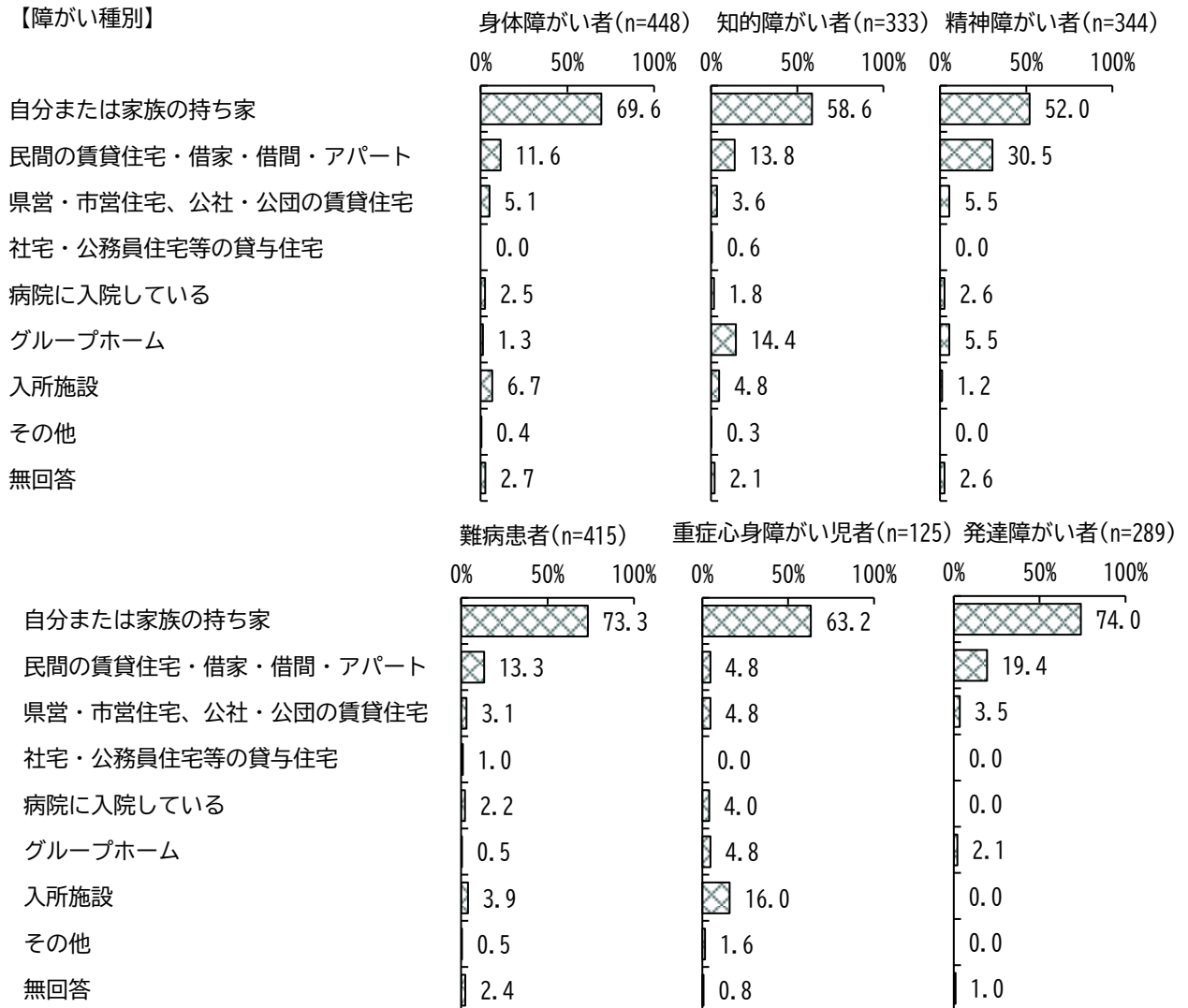
(13) 現在の生活拠点

問7 あなたは、いまどこで生活していますか。(○は1つ)

「自分または家族の持ち家」が65.7%と最も多く、次いで「民間の賃貸住宅・借家・借間・アパート」が16.4%、「グループホーム」が4.5%などとなっています。



【障がい種別】

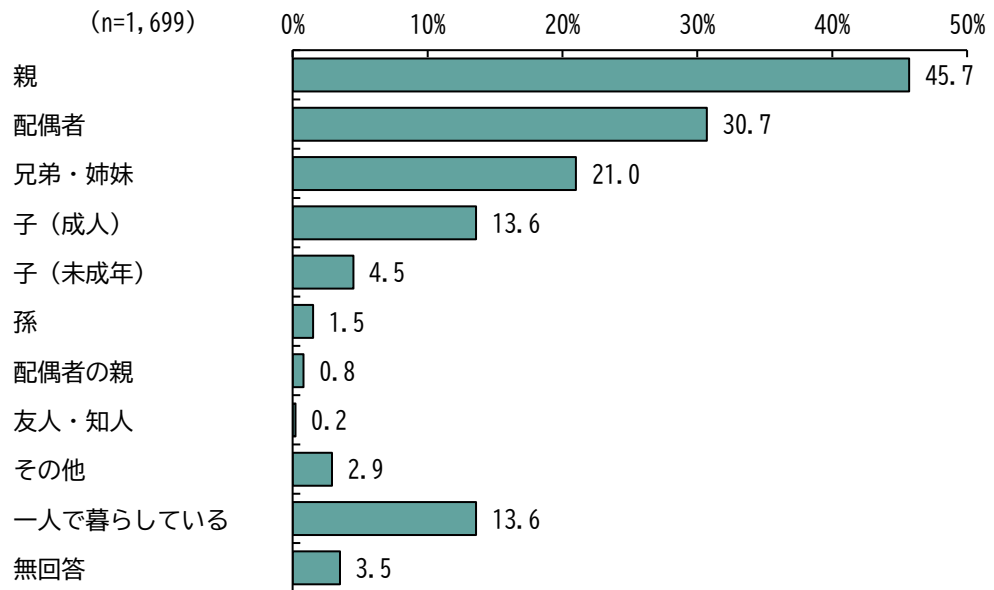


(14) 一緒に生活している人

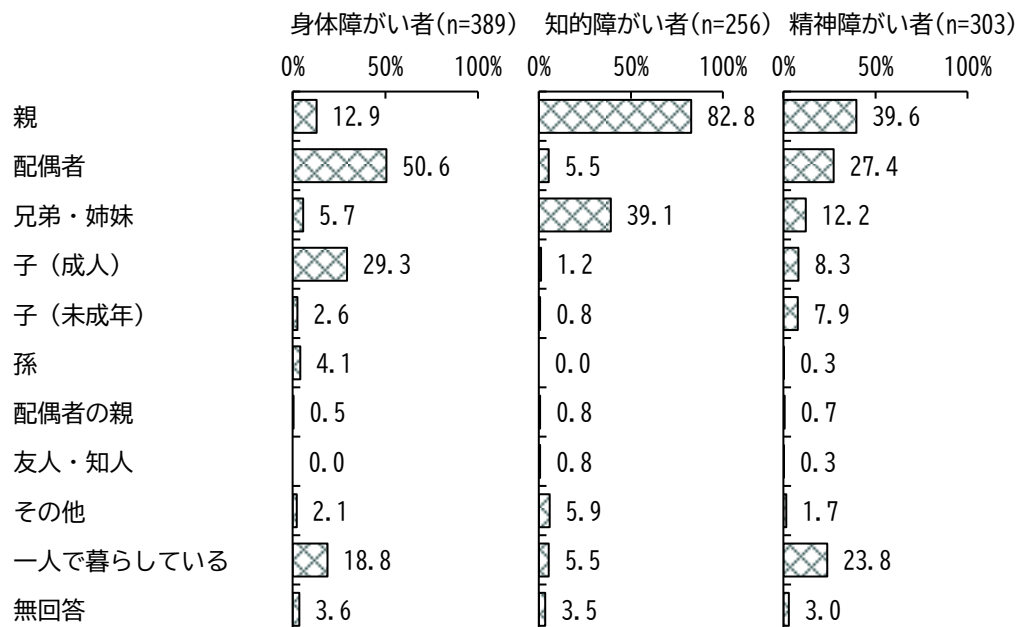
問7-1 問7で「1」～「4」または「8」とお答えの方（病院、グループホーム、入居施設以外で生活している方）にお聞きします。あなたは、いまだれと生活していますか。（〇はいくつでも）

「親」が45.7%と最も多く、次いで「配偶者」が30.7%、「兄弟・姉妹」が21.0%などとなっています。

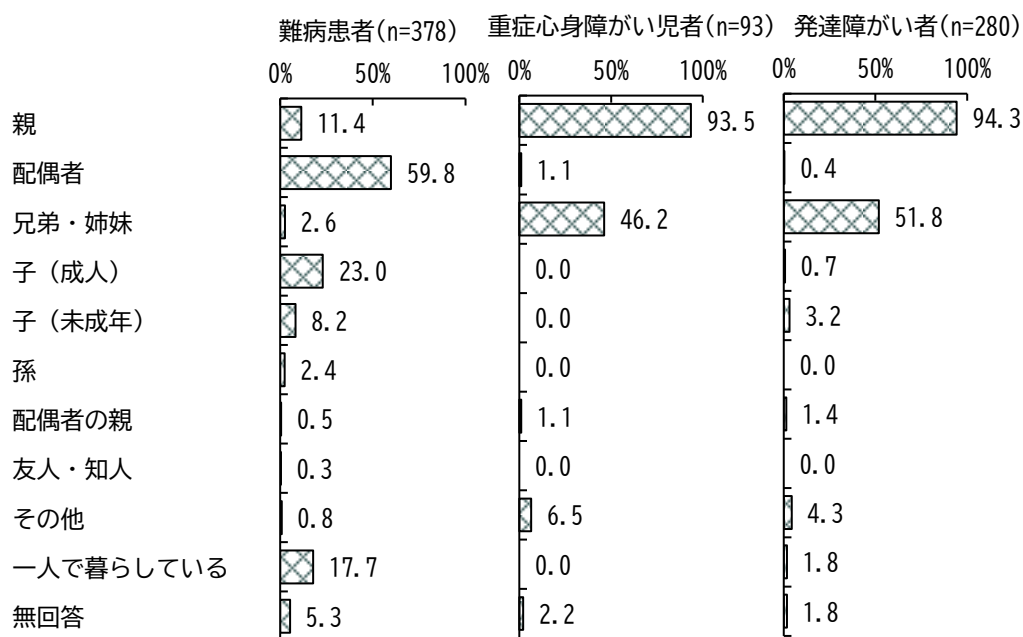
障がい種別にみると、“身体障がい者”、“難病患者”では「配偶者」が最も多くなっています。



【障がい種別】

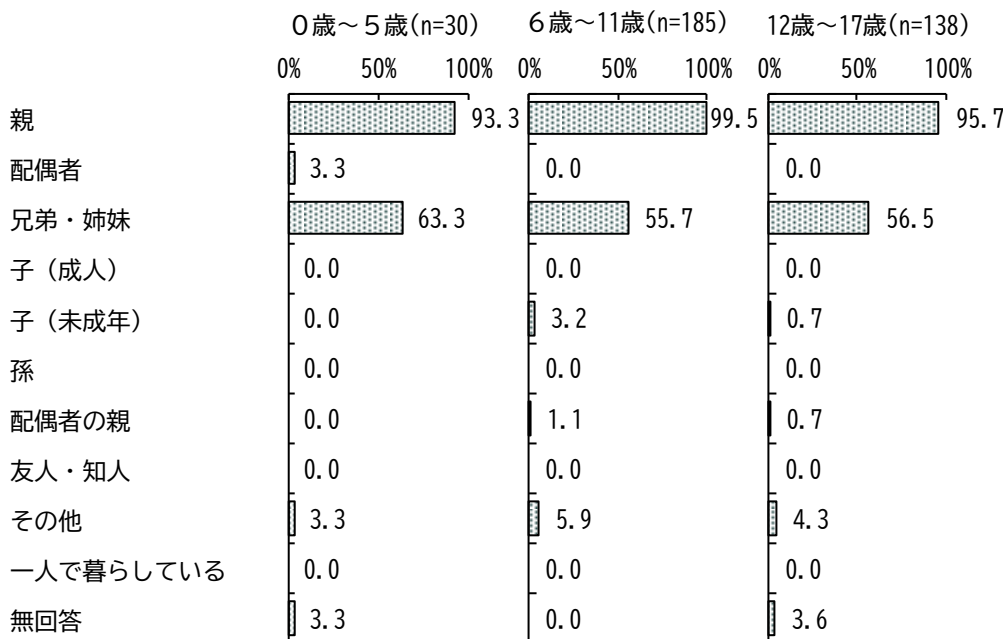


【障がい種別】

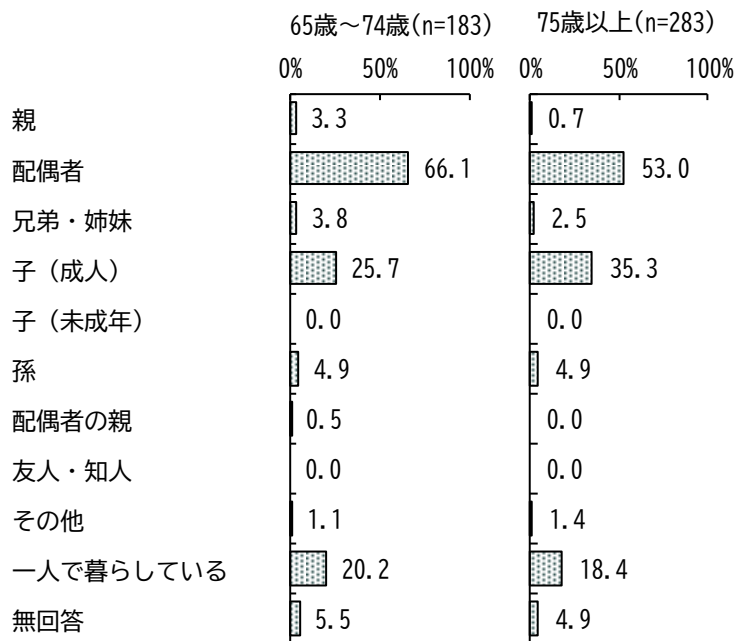
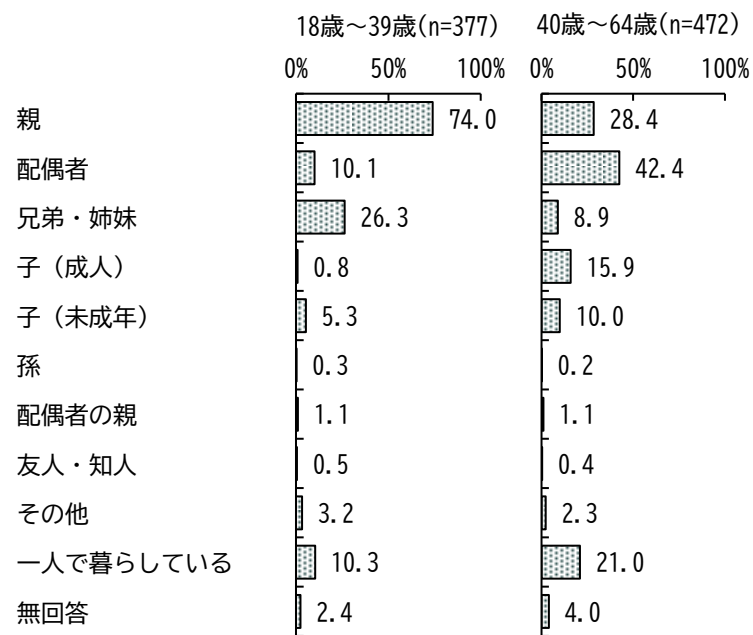


年齢別にみると、“40歳～64歳”、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「配偶者」が最も多くなっています。

【年齢別】



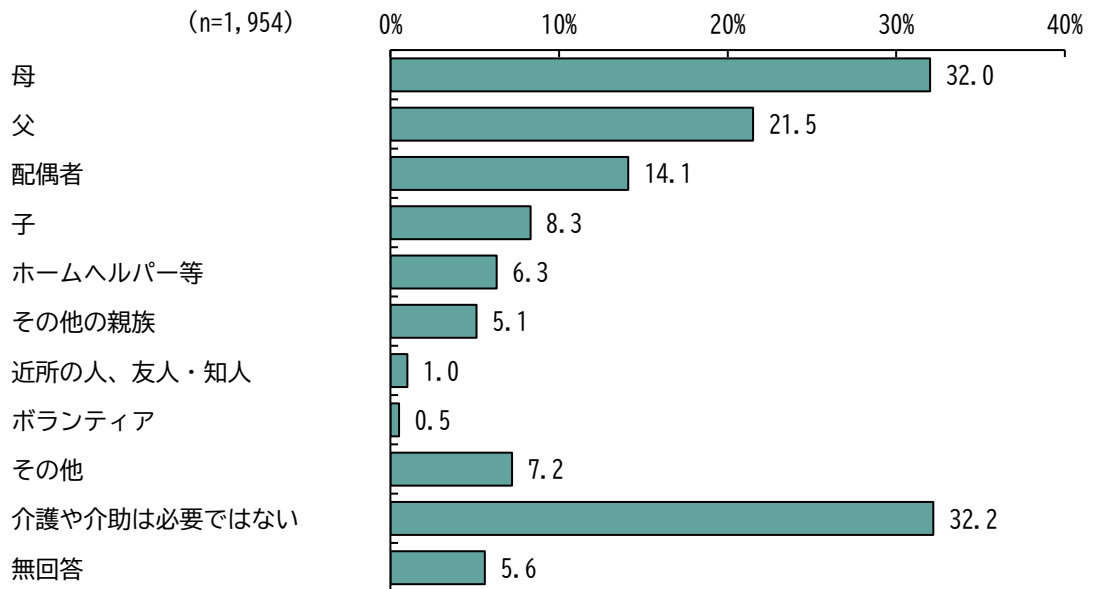
【年齢別】



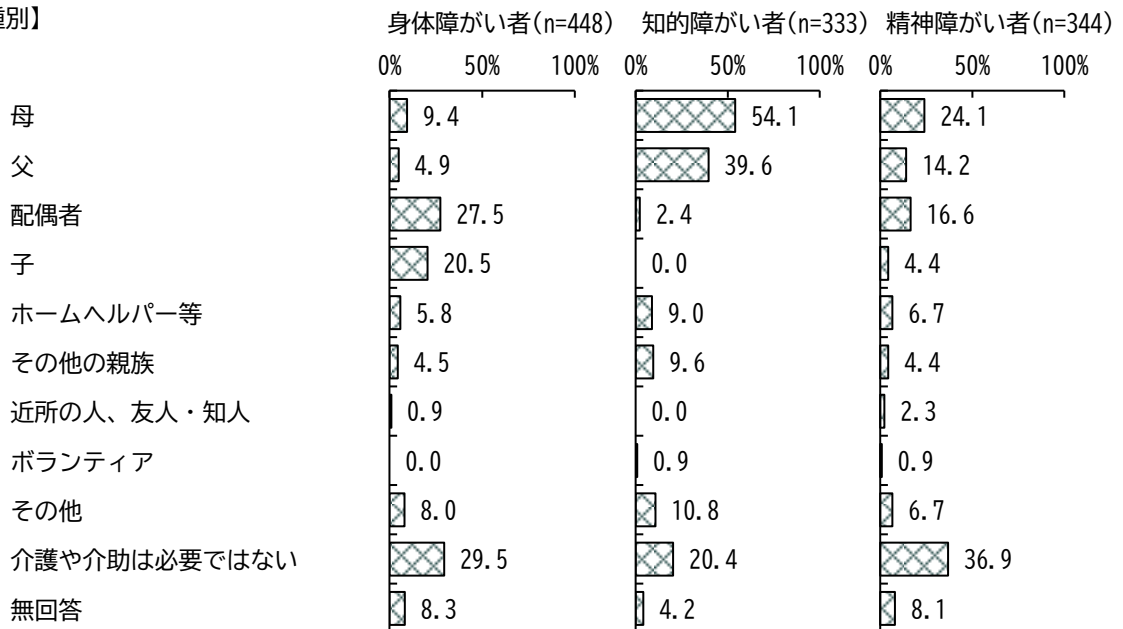
(15) 主に介護・介助している人

問8 あなたを主に介護・介助している人はどなたですか。(○は3つまで)
 また、その人が「1 父」、「2 母」、「3 配偶者」の場合は、()内に年齢を記入してください。

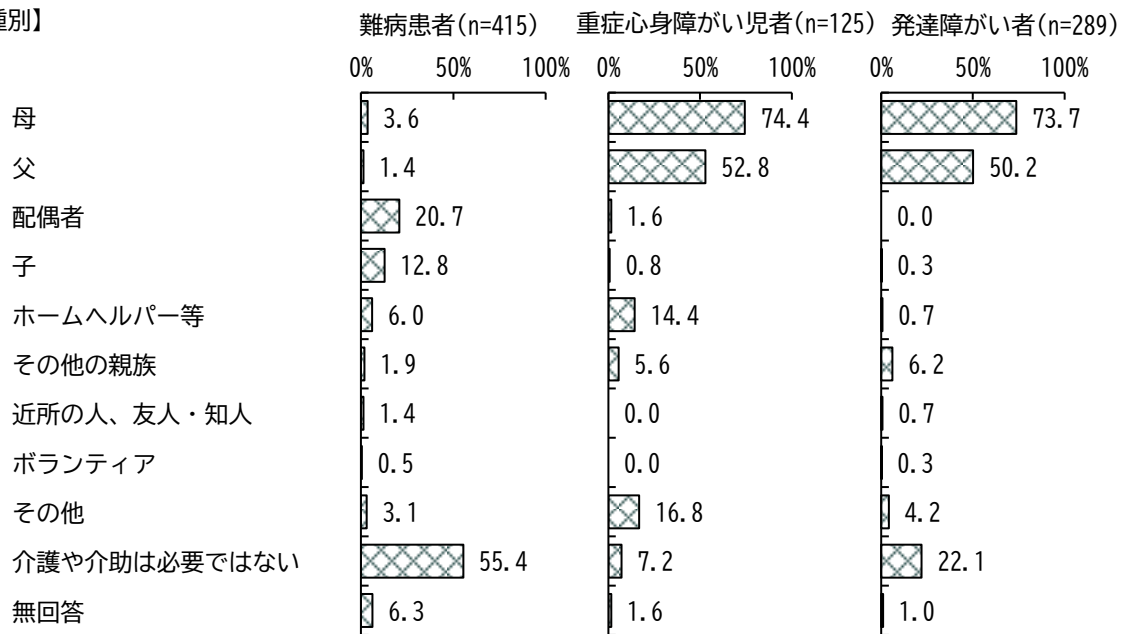
「母」が32.0%と最も多く、次いで「父」が21.5%、「配偶者」が14.1%などとなっています。また、「介護や介助は必要ではない」が32.2%となっています。



【障がい種別】

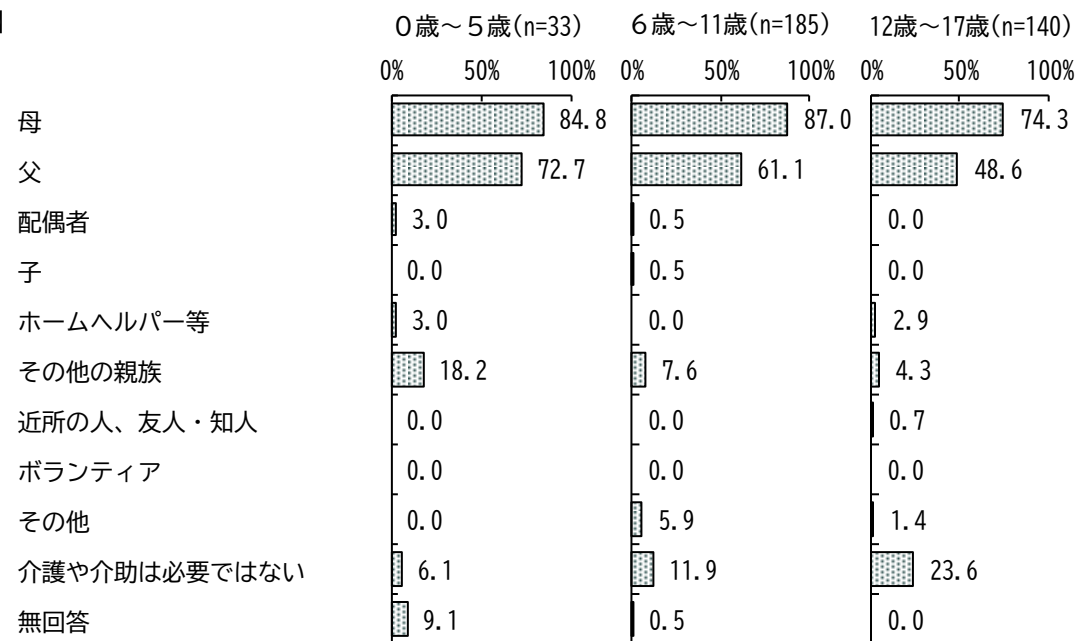


【障がい種別】

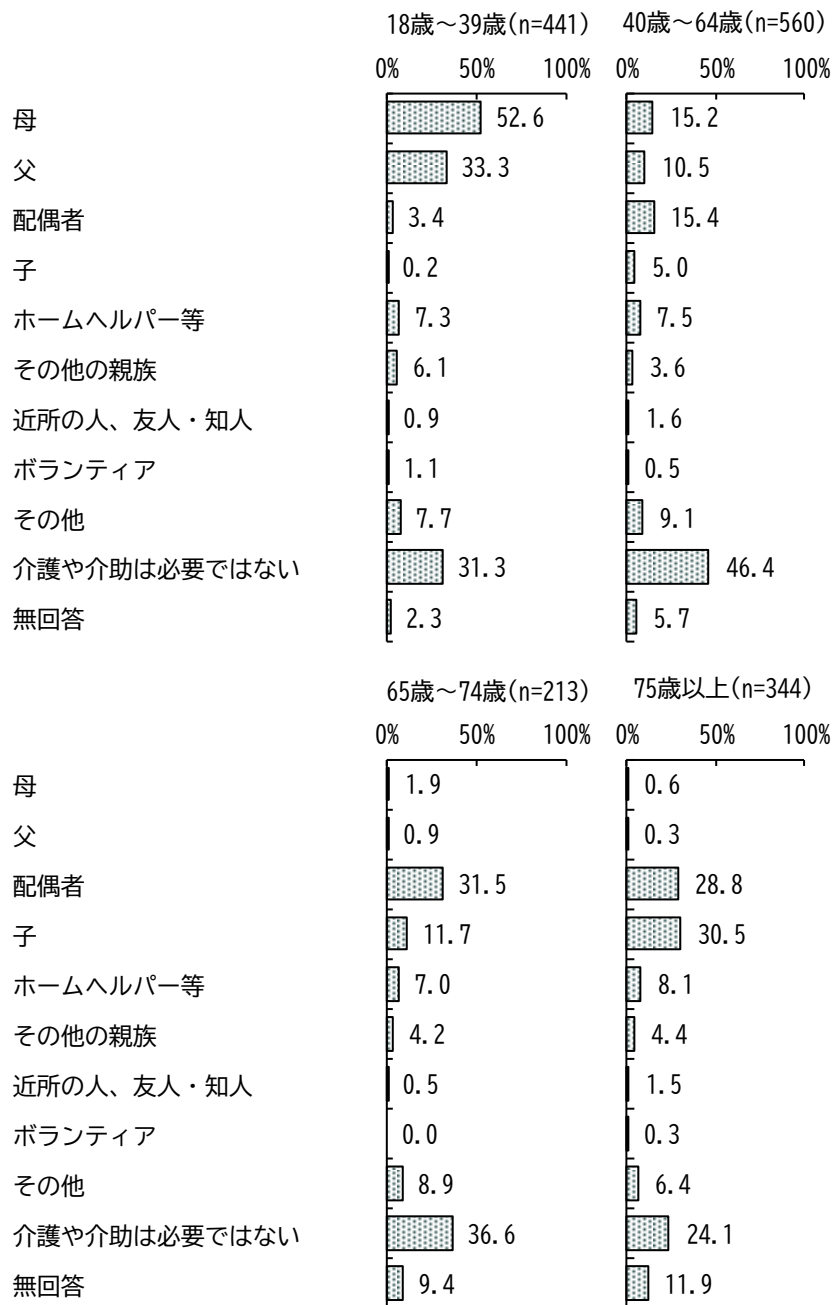


年齢別にみると、“75歳以上”では「子」が最も多くなっています。

【年齢別】



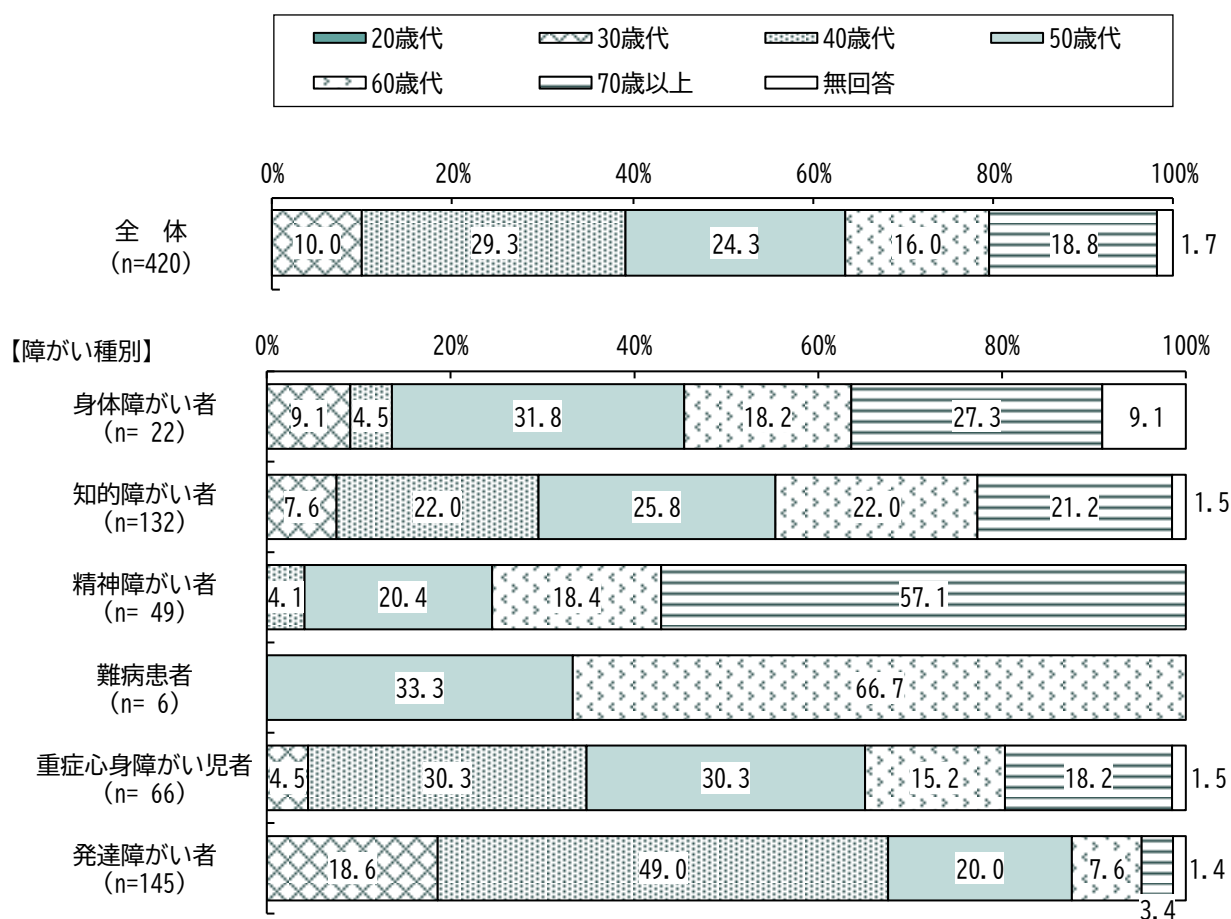
【年齢別】



①介護・介助している父の年齢

主な介護・介助者である父の年齢は、「40歳代」が29.3%と最も多く、次いで「50歳代」が24.3%、「70歳以上」が18.8%などとなっています。

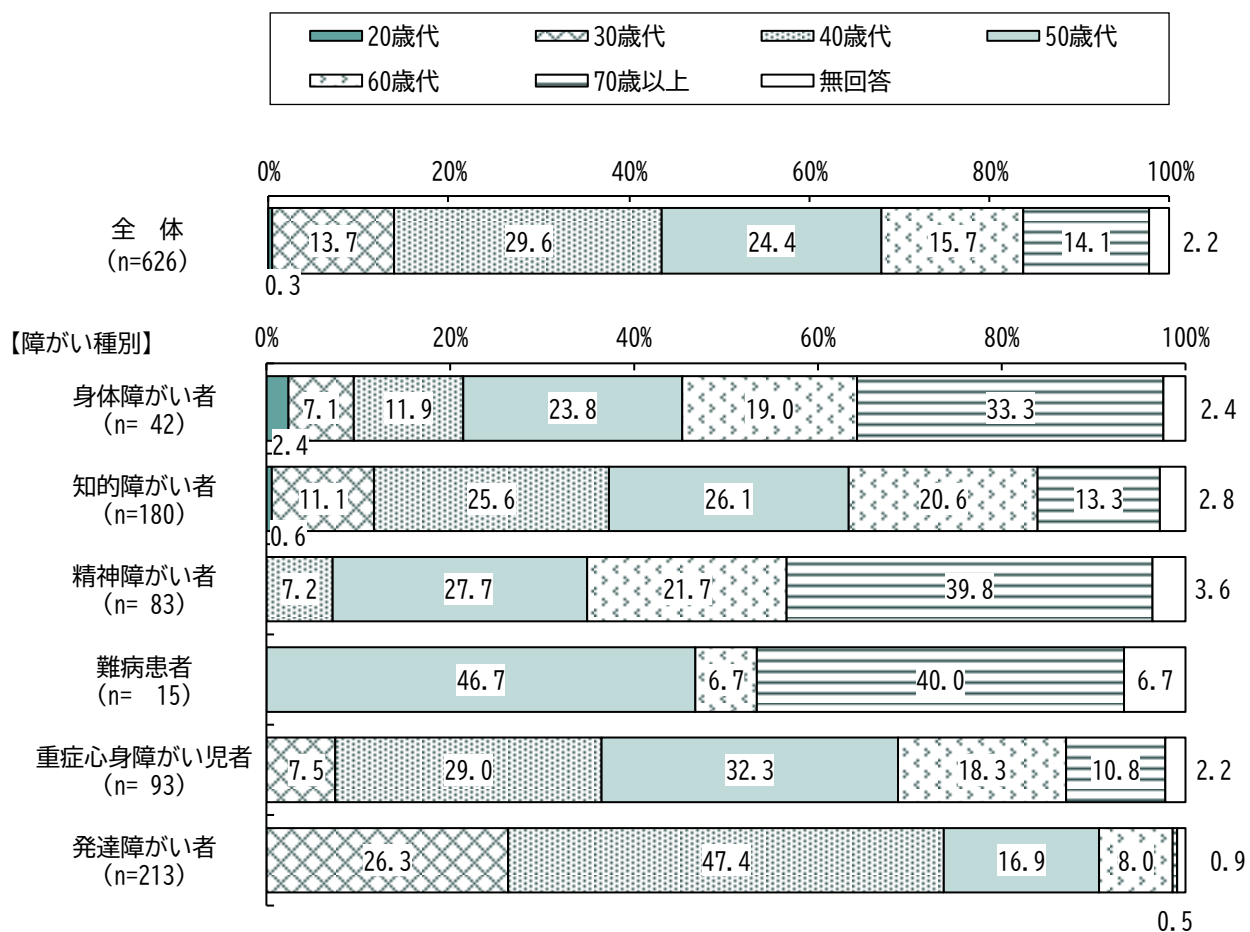
障がい種別にみると、「身体障がい者」、「知的障がい者」では「50歳代」が最も多くなっています。また、「精神障がい者」では「70歳以上」が最も多くなっています。また、「難病患者」では「60歳代」が最も多くなっています。また、「重症心身障がい児者」では「40歳代」、「50歳代」が最も多くなっています。



②介護・介助している母の年齢

主な介護・介助者である母の年齢は、「40歳代」が29.6%と最も多く、次いで「50歳代」が24.4%、「60歳代」が15.7%などとなっています。

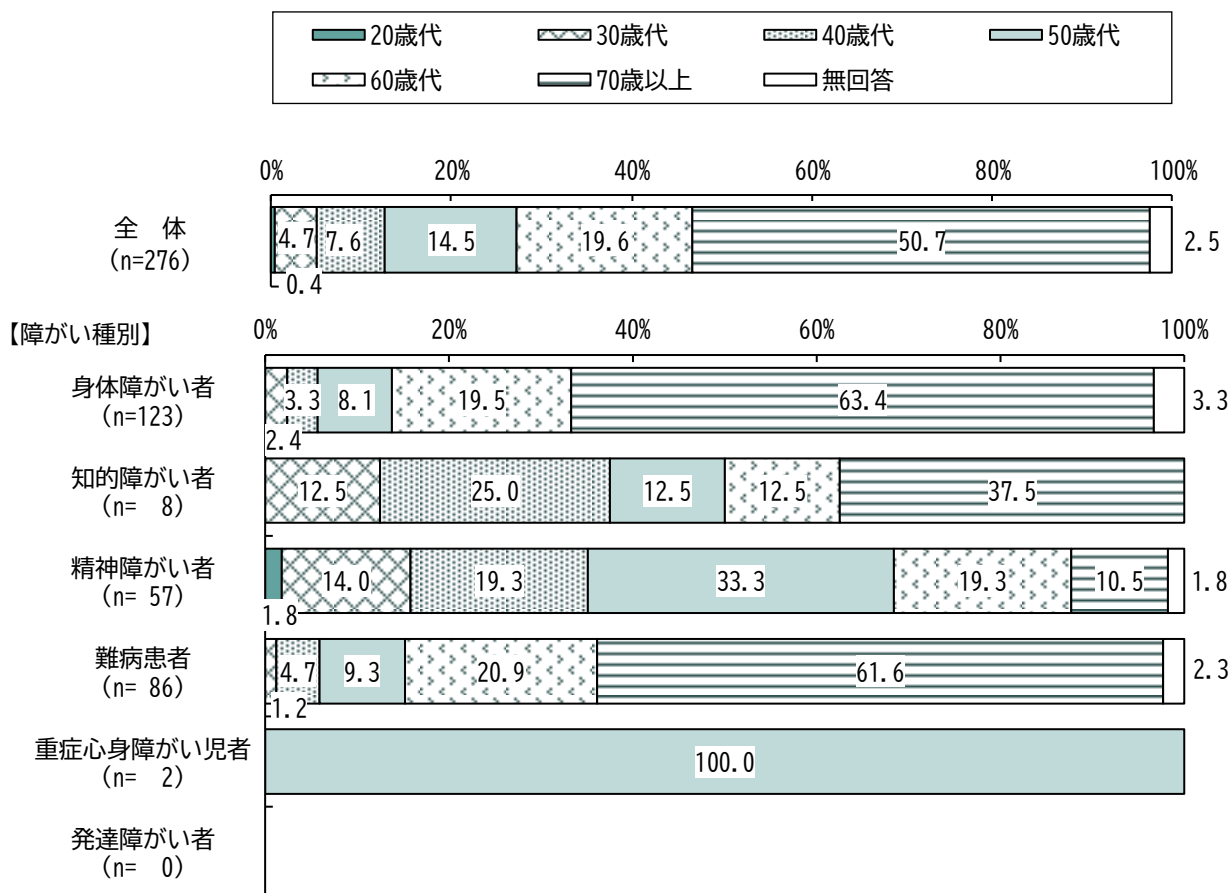
障がい種別にみると、「身体障がい者」、「精神障がい者」では「70歳以上」が最も多くなっています。また、「知的障がい者」、「難病患者」、「重症心身障がい児者」では「50歳代」が最も多くなっています。



③介護・介助している配偶者の年齢

主な介護・介助者である配偶者の年齢は、「70歳以上」が50.7%と最も多く、次いで「60歳代」が19.6%、「50歳代」が14.5%などとなっています。

障がい種別にみると、「精神障がい者」、「重症心身障がい児者」では「50歳代」が最も多くなっています。



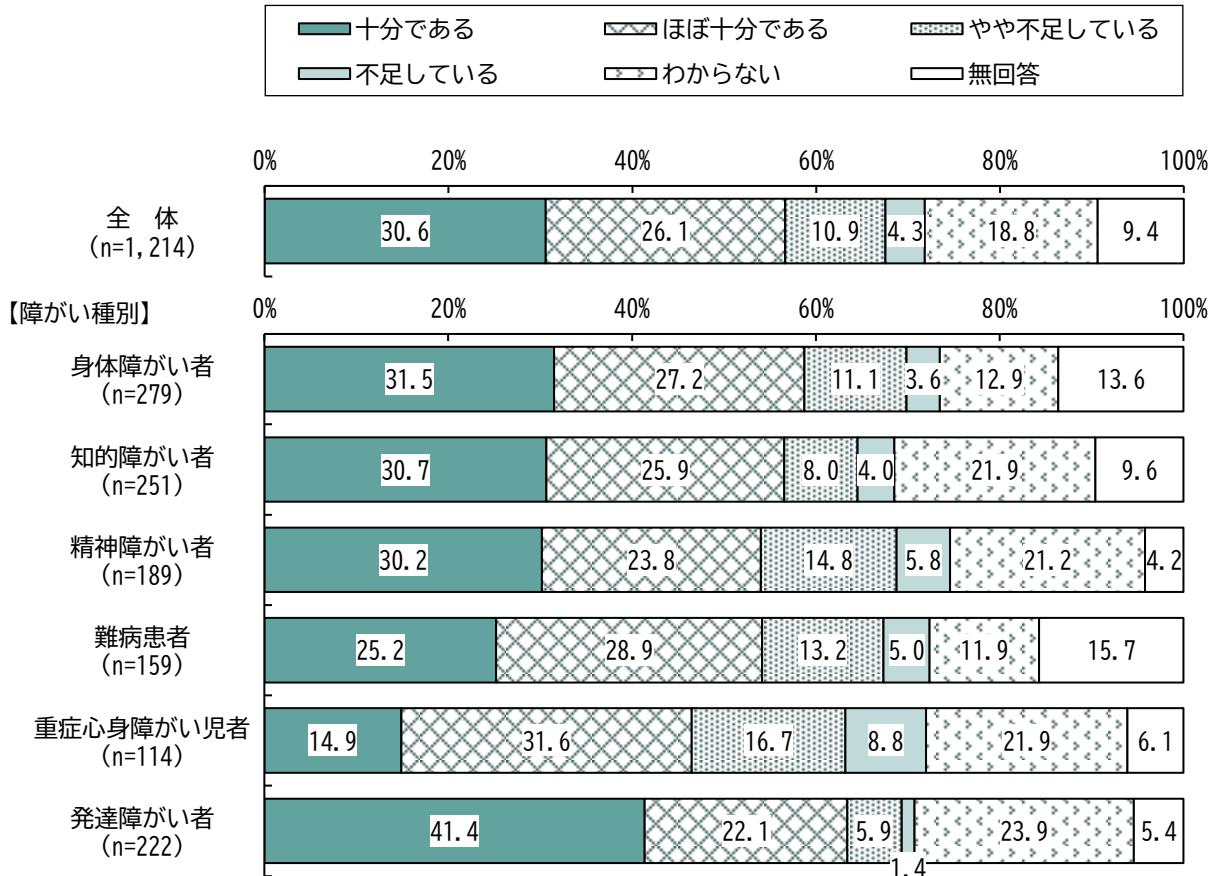
(16) 受けている介護・介助の充足度

(問8で「1」～「9」とお答えの方(あなたを介護・介助している人がいる方)にお聞きします。)

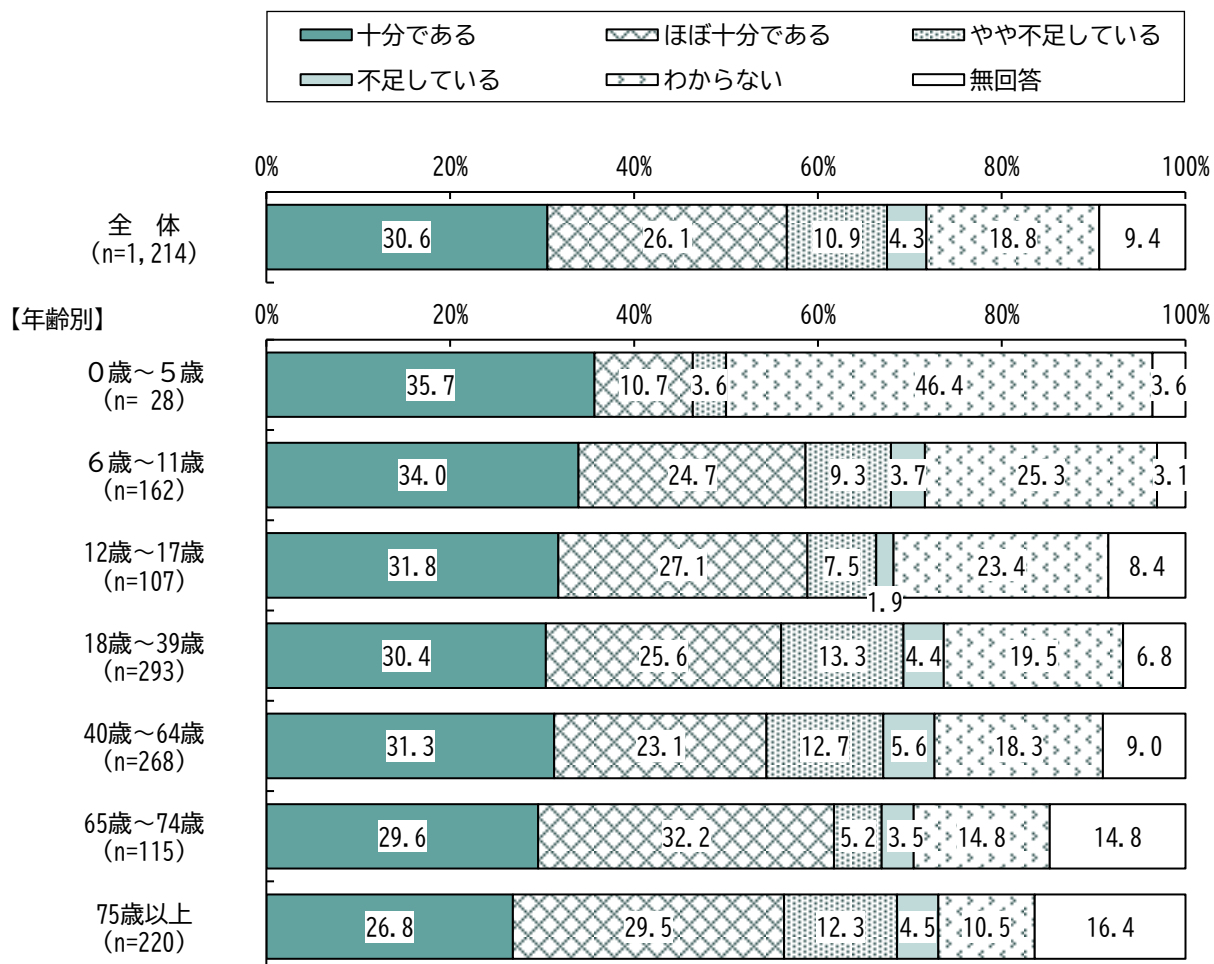
問8-1 あなたが受けている介護・介助についてどう感じていますか。(〇は1つ)

「十分である」が30.6%と最も多く、次いで「ほぼ十分である」が26.1%、「わからない」が18.8%などとなっています。

障がい種別にみると、「難病患者」、「重症心身障がい児者」では「ほぼ十分である」が最も多くなっています。



年齢別にみると、“0歳～5歳”では「わからない」が最も多くなっています。また、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「ほぼ十分である」が最も多くなっています。

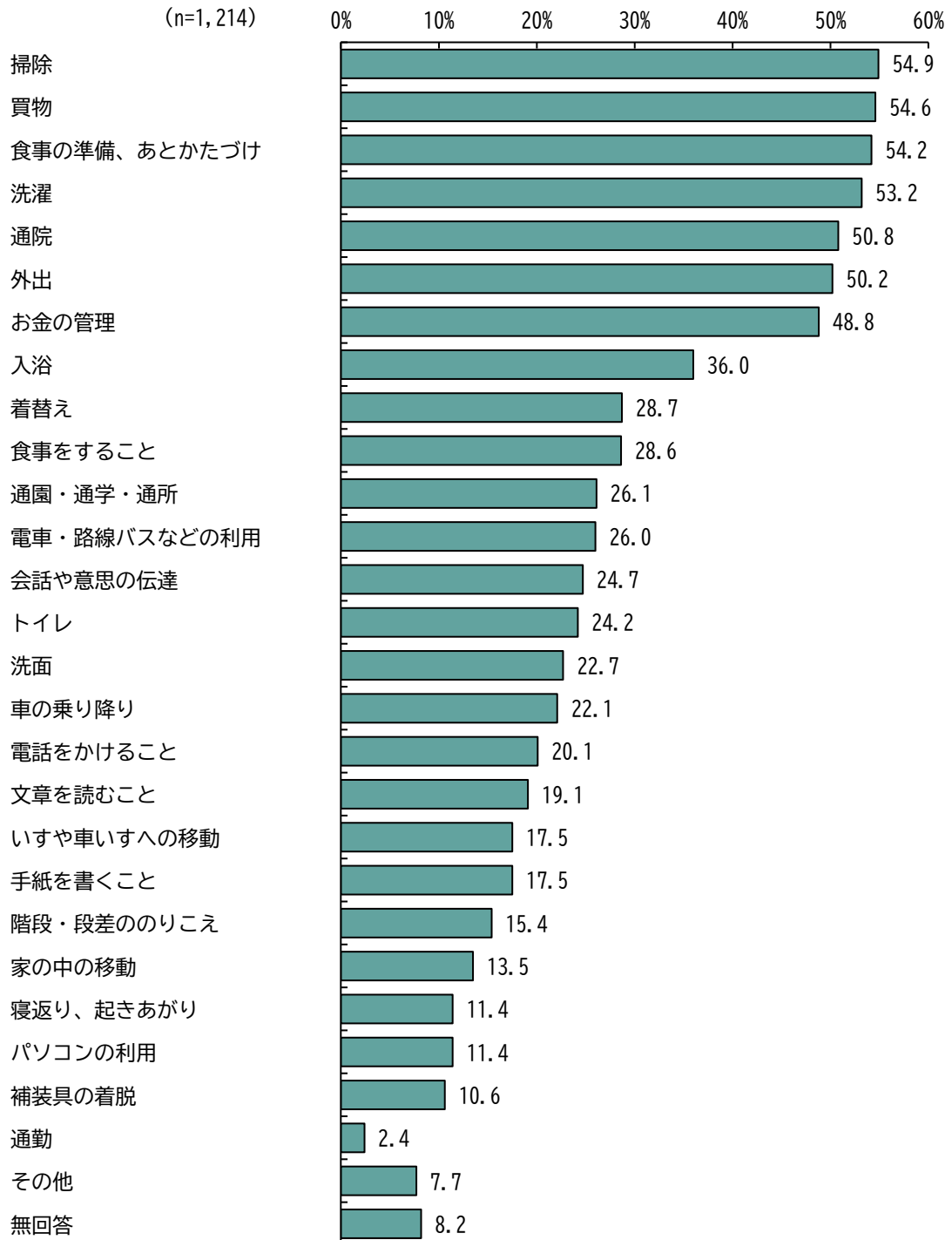


(17) 受けている介護・介助の内容

(問8で「1」～「9」とお答えの方(あなたを介護・介助している人がいる方)にお聞きします。)

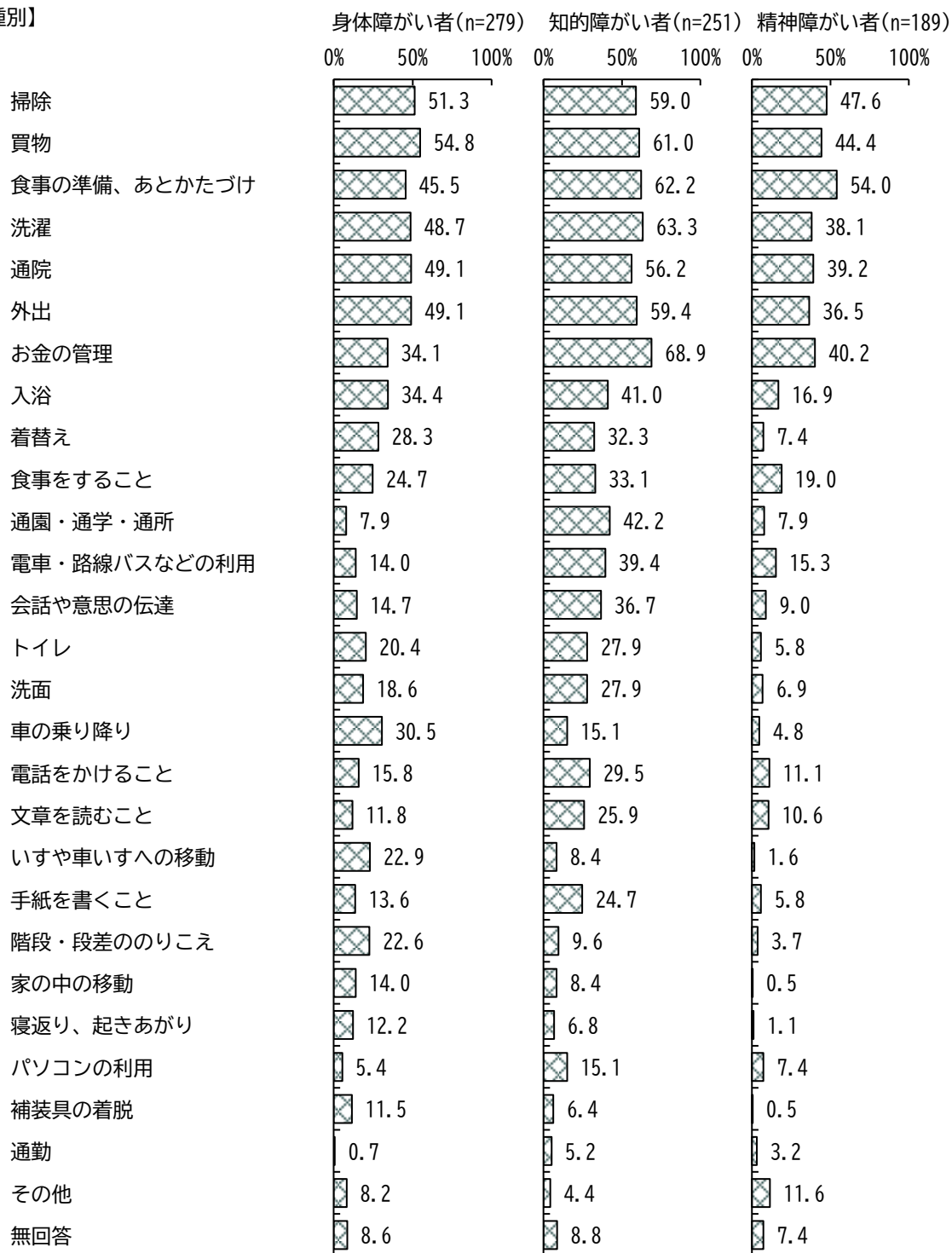
問8-2 受けている介護・介助はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

「掃除」が54.9%と最も多く、次いで「買物」が54.6%、「食事の準備、あとかたづけ」が54.2%、「洗濯」が53.2%などとなっています。

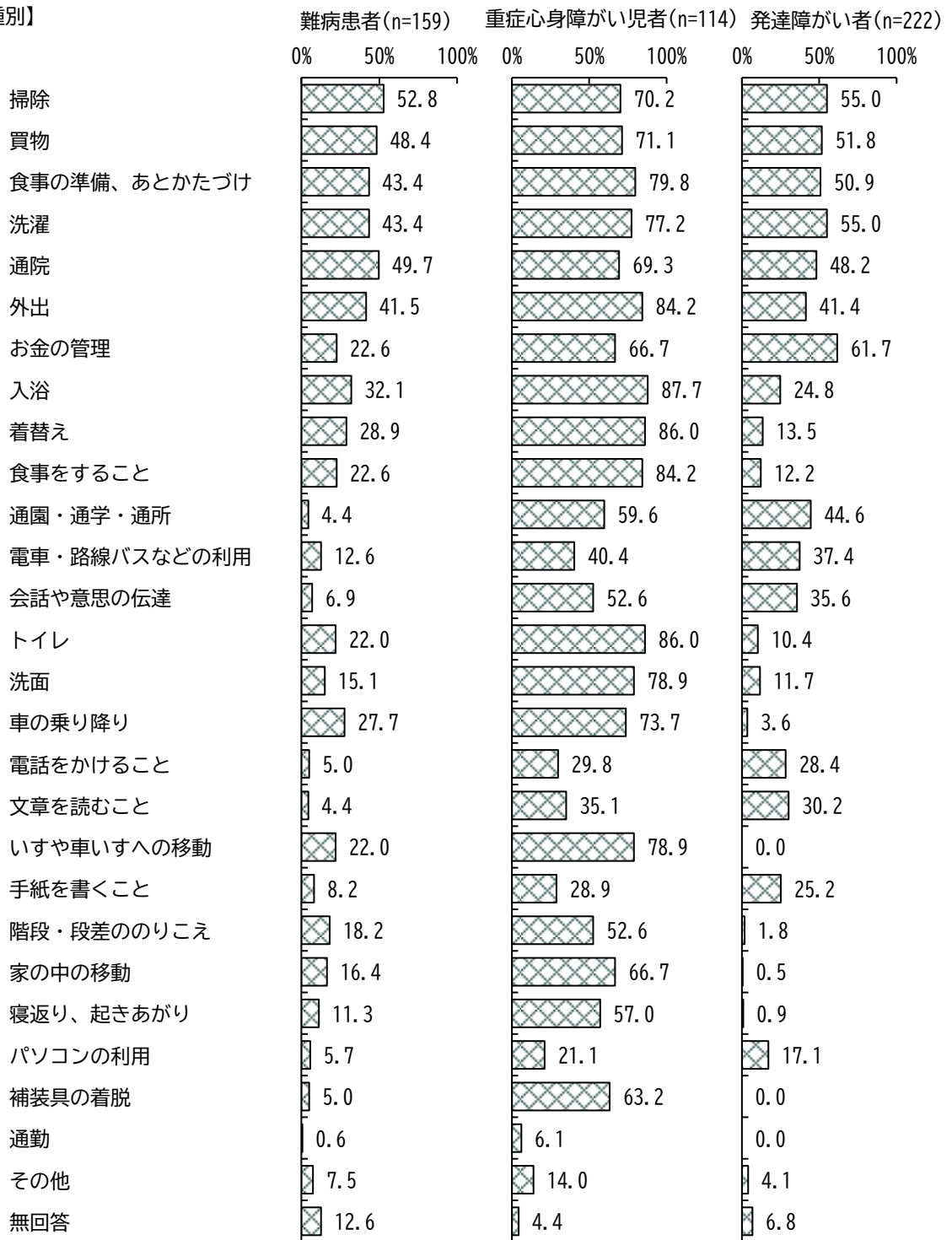


障がい種別にみると、“身体障がい者”では「買物」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”、“発達障がい者”では「お金の管理」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「食事の準備、あとかたづけ」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「入浴」が最も多くなっています。

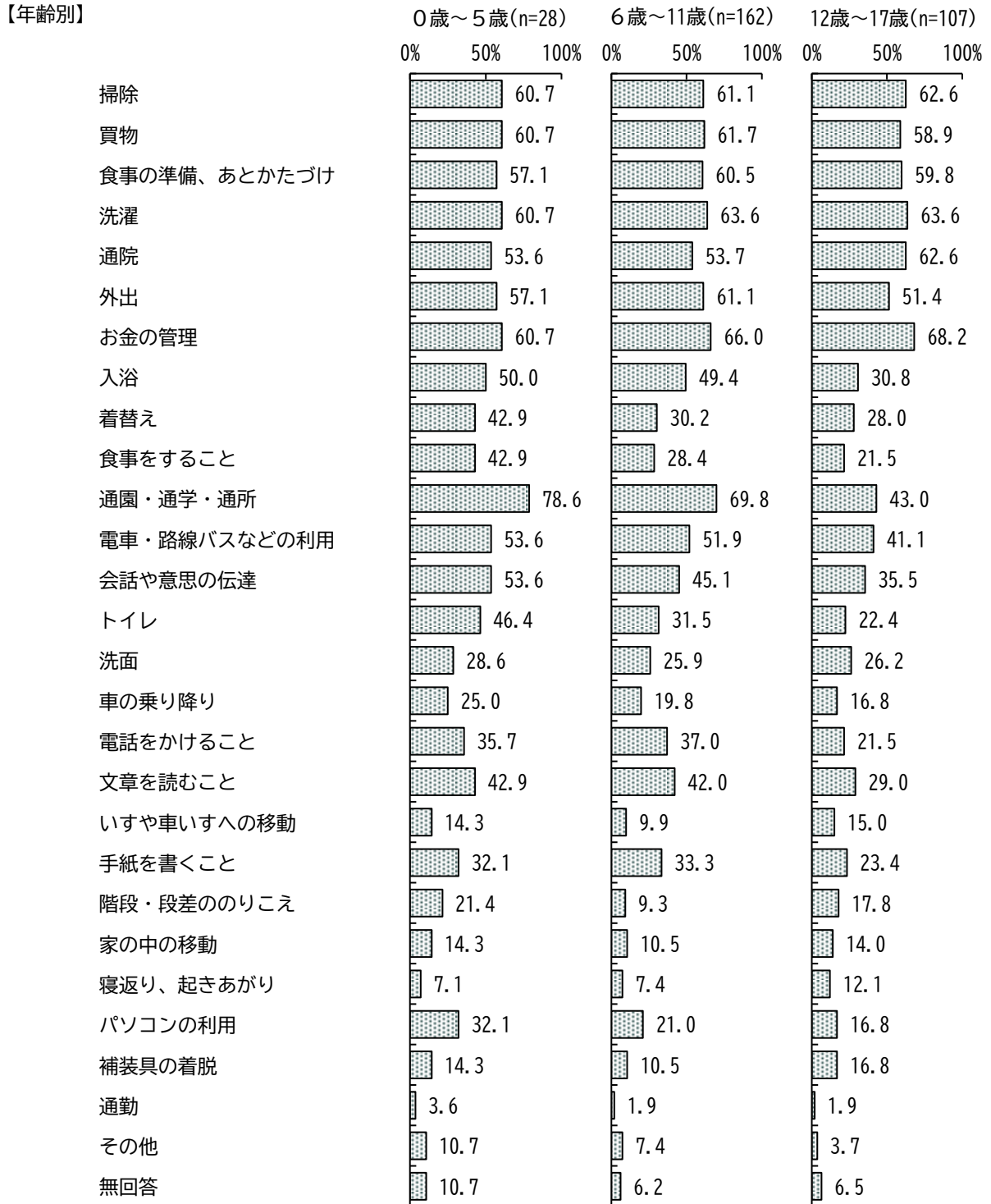
【障がい種別】



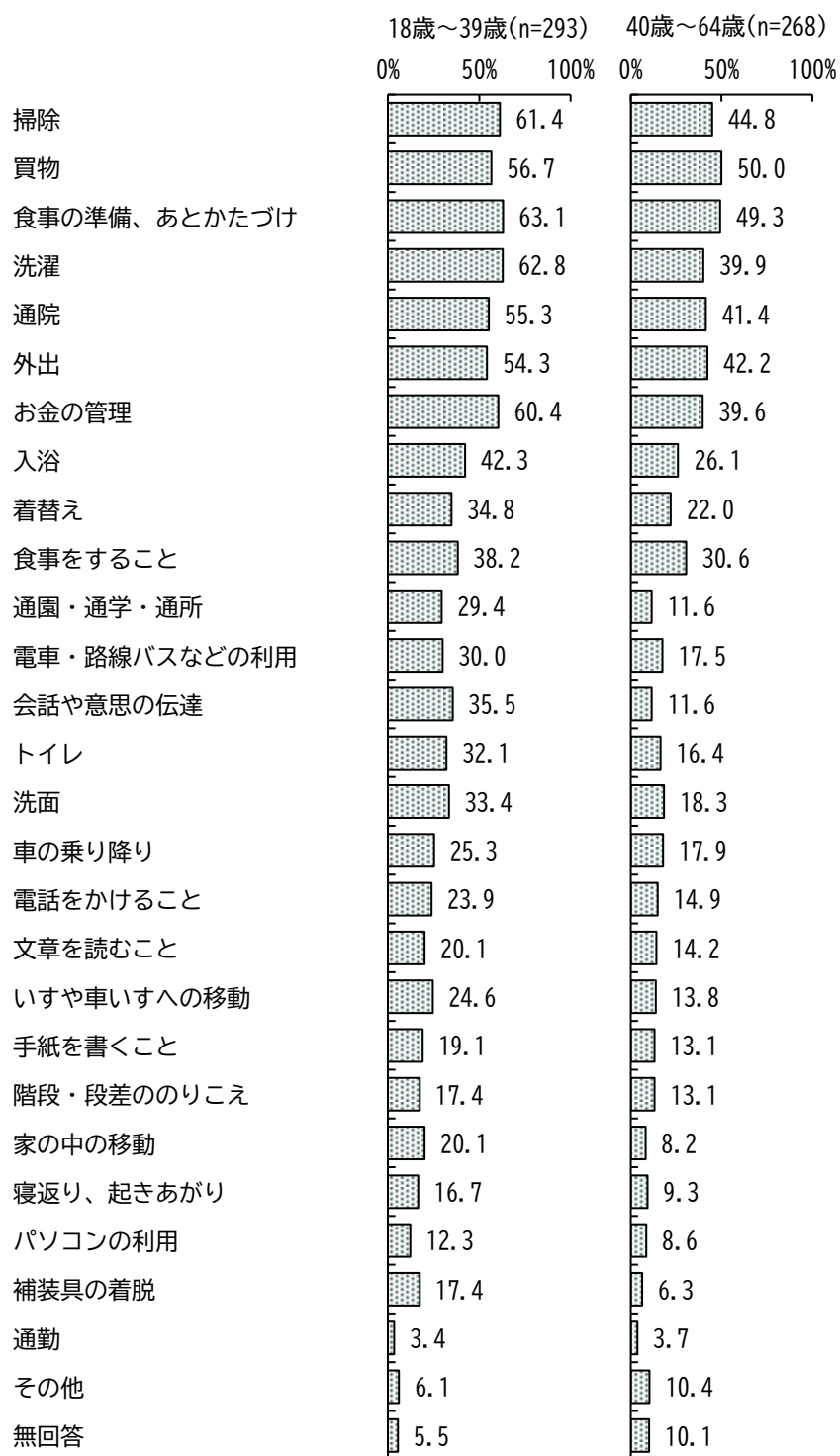
【障がい種別】



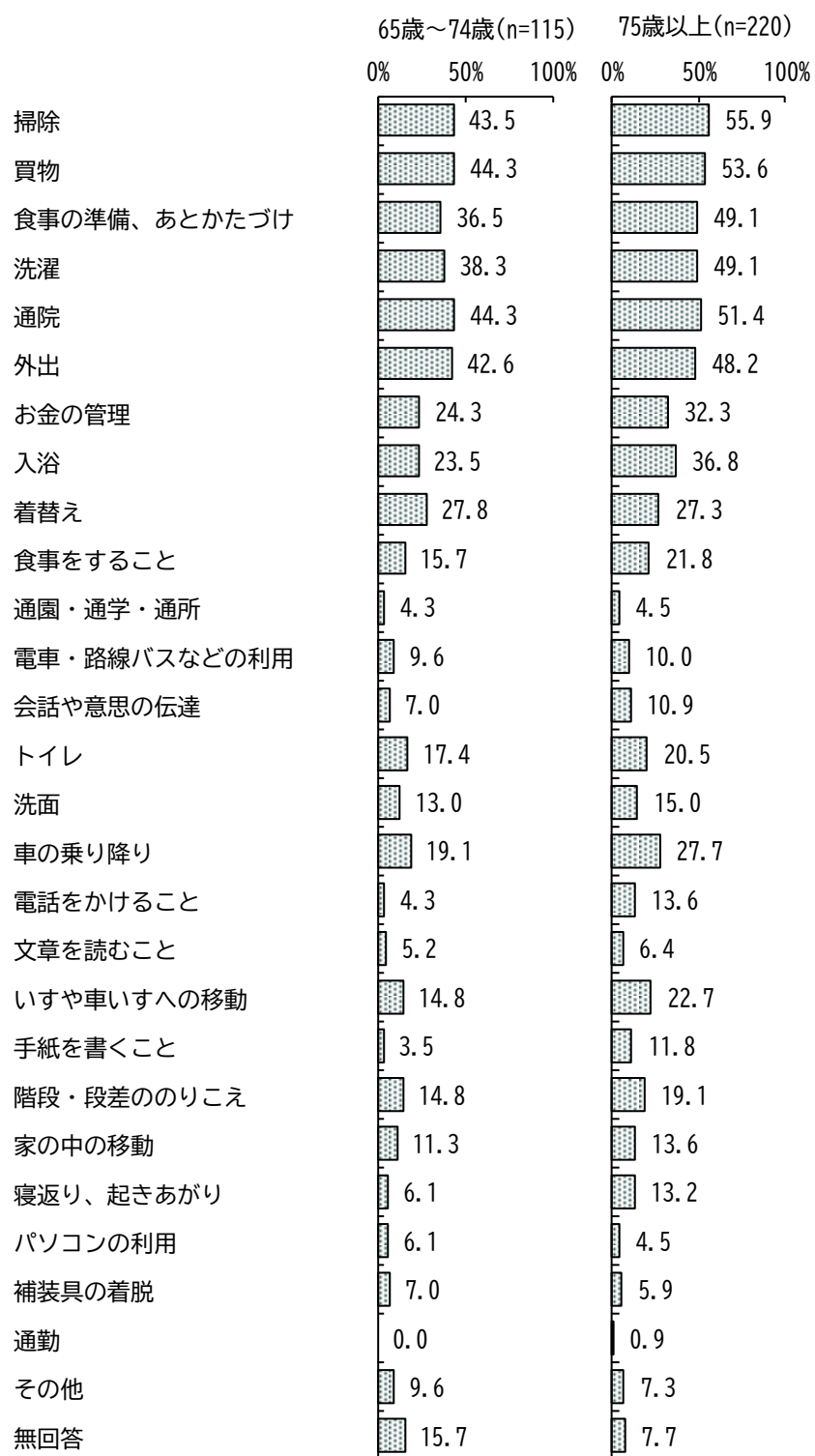
年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”では「通園・通学・通所」が最も多くなっています。また、“12歳～17歳”では「お金の管理」、「18歳～39歳」では「食事の準備、あとかたづけ」、「40歳～64歳」では「買物」、「65歳～74歳」では「買物」、「通院」が最も多くなっています。



【年齢別】



【年齢別】



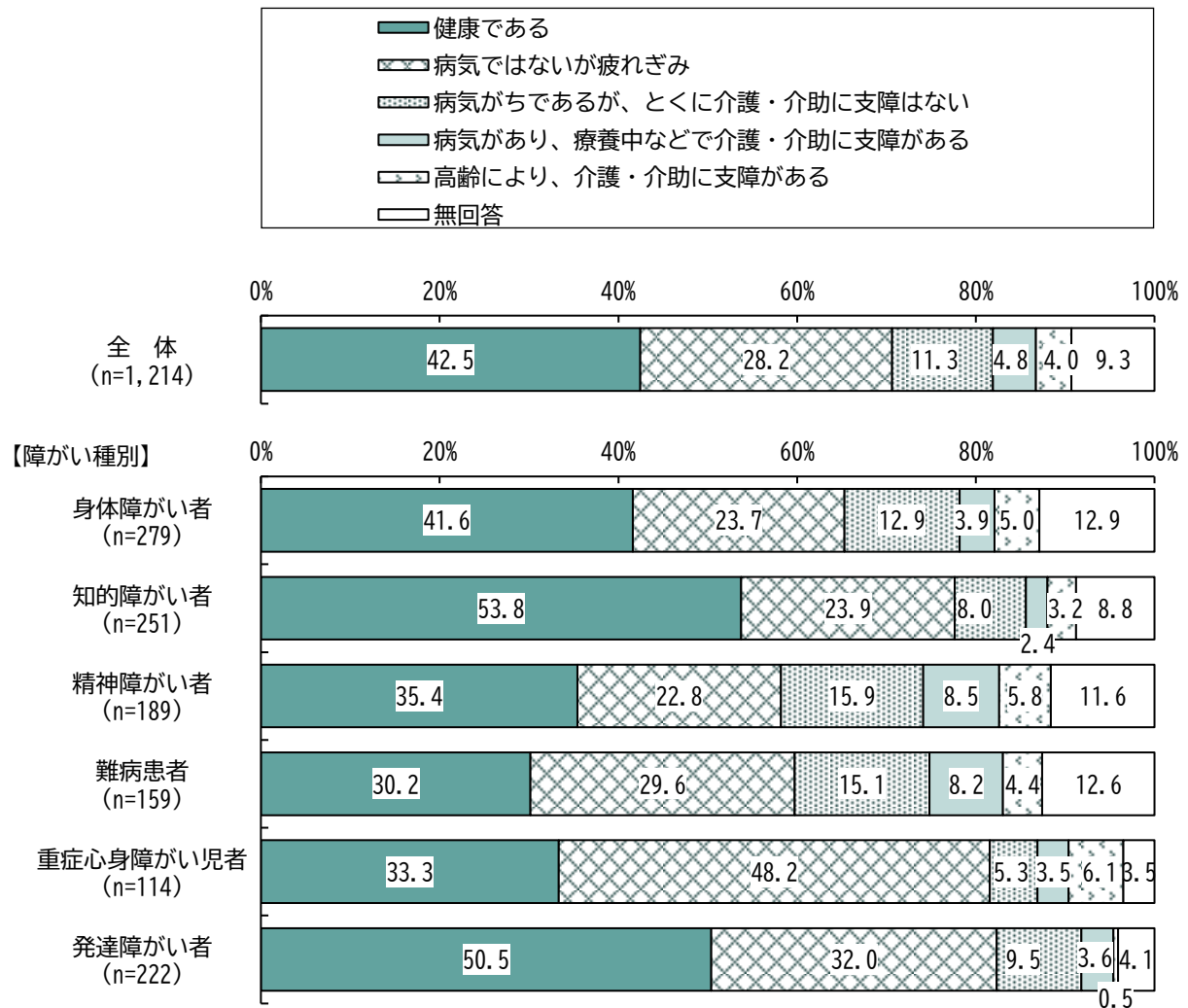
(18) 主な介護・介助者の健康状態

(問8で「1」～「9」とお答えの方(あなたを介護・介助している人がいる方)にお聞きします。)

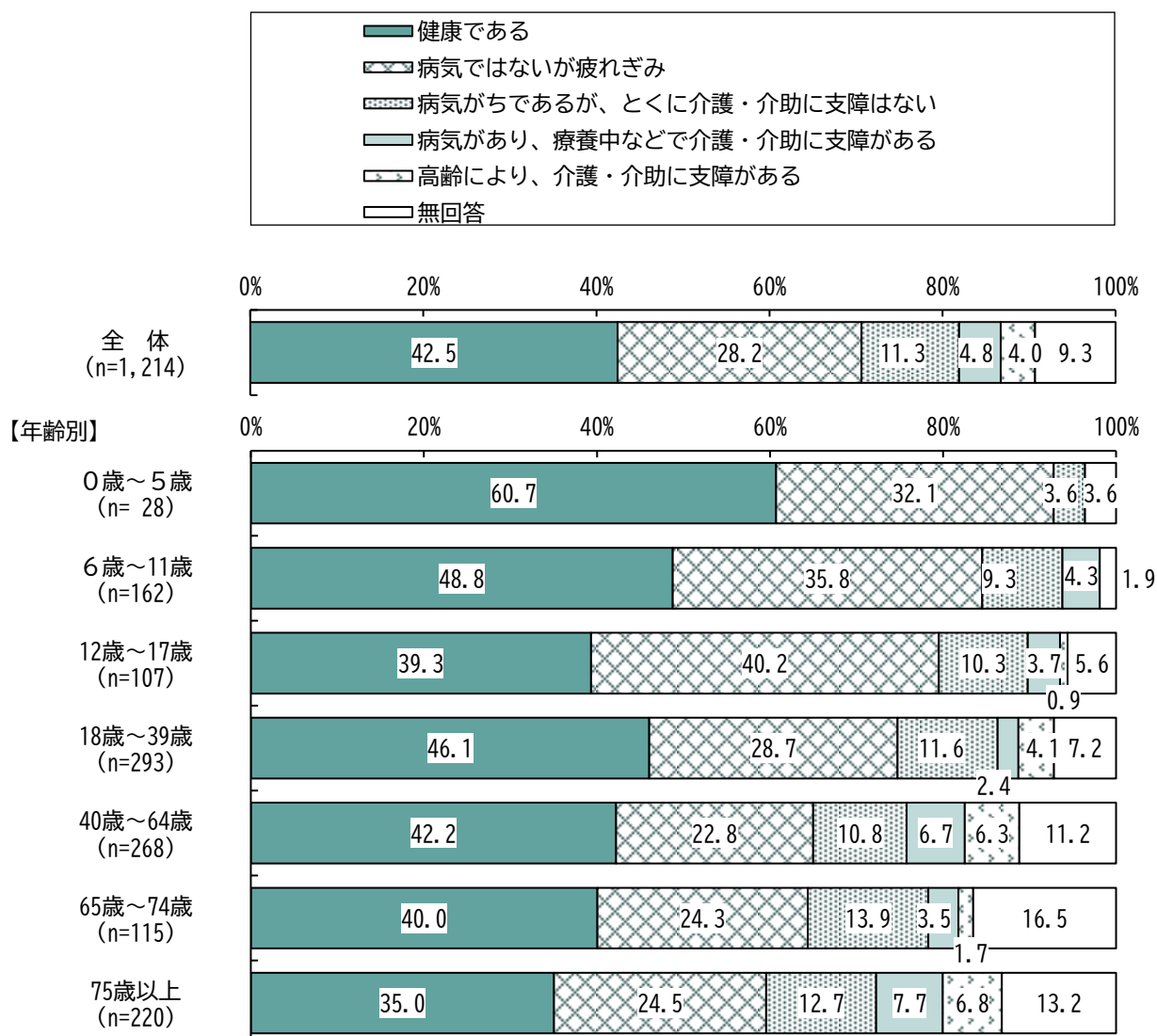
問8-3 主な介護・介助している人の状態はいかがですか。(○は1つ)

「健康である」が42.5%と最も多く、次いで「病気ではないが疲れぎみ」が28.2%、「病気がちであるが、とくに介護・介助に支障はない」が11.3%などとなっています。

障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「病気ではないが疲れぎみ」が最も多くなっています。



年齢別にみると、“12～17歳”では「病気ではないが疲れぎみ」が最も多くなっています。

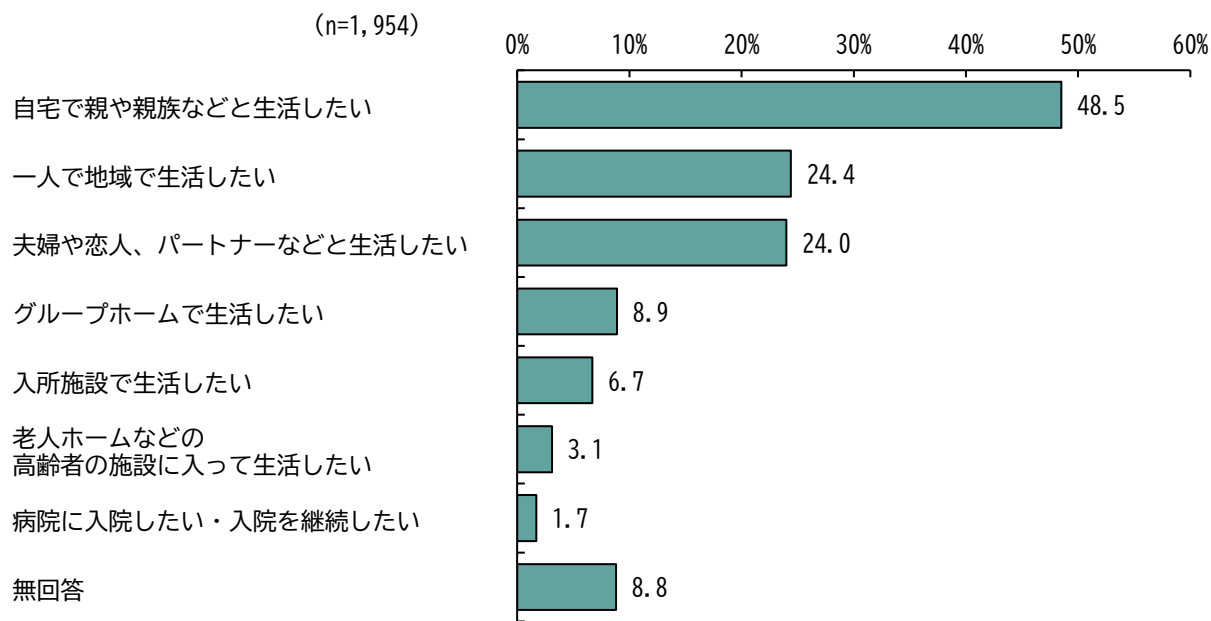


2 今後の暮らし方について

(1) これから先の希望する生活

問9 あなたは、これから次の中でどのような生活を希望しますか。(○は2つまで)

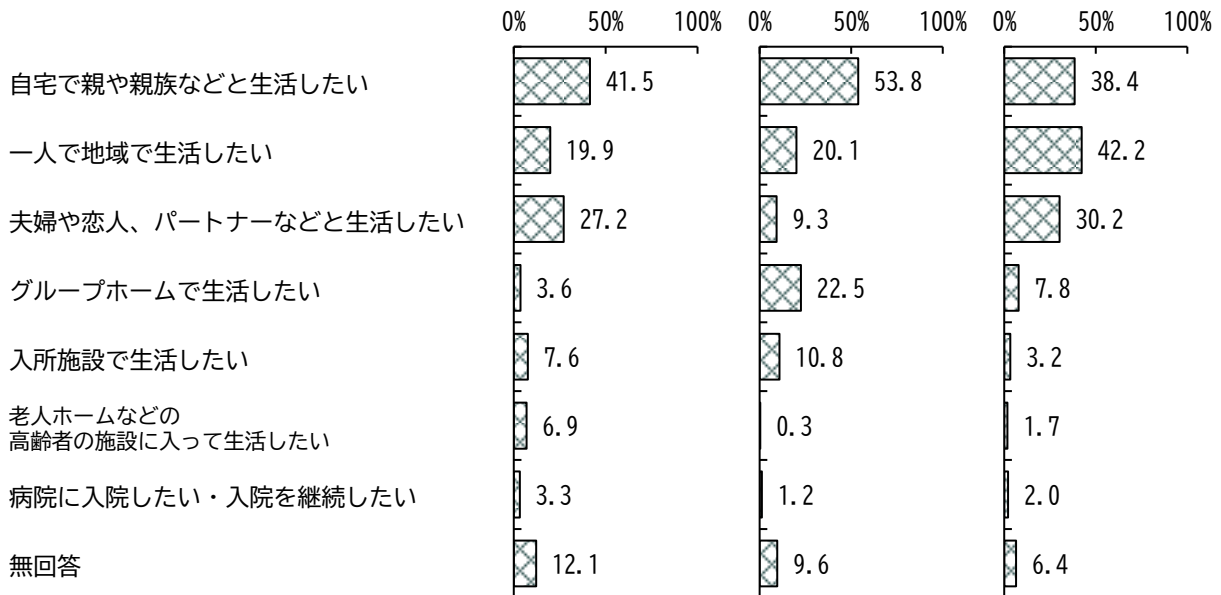
「自宅で親や親族などと生活したい」が48.5%と最も多く、次いで「一人で地域で生活したい」が24.4%、「夫婦や恋人、パートナーなどと生活したい」が24.0%などとなっています。



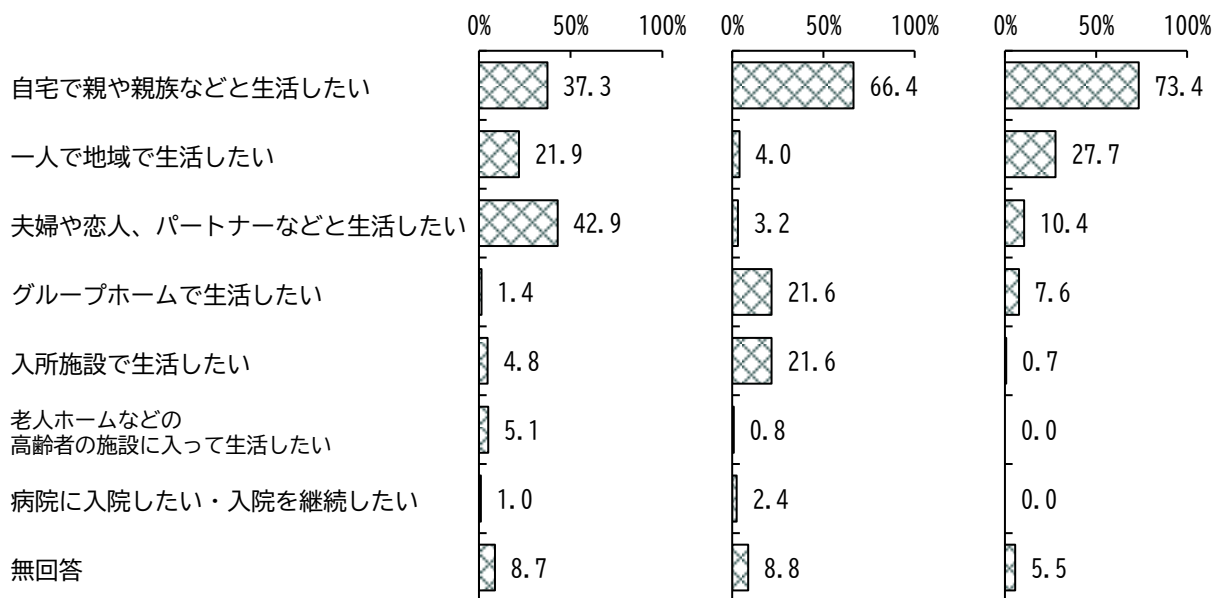
障がい種別にみると、“精神障がい者”では「一人で地域で生活したい」が最も多くなっています。また、“難病患者”では「夫婦や恋人、パートナーなどと生活したい」が最も多くなっています。

【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



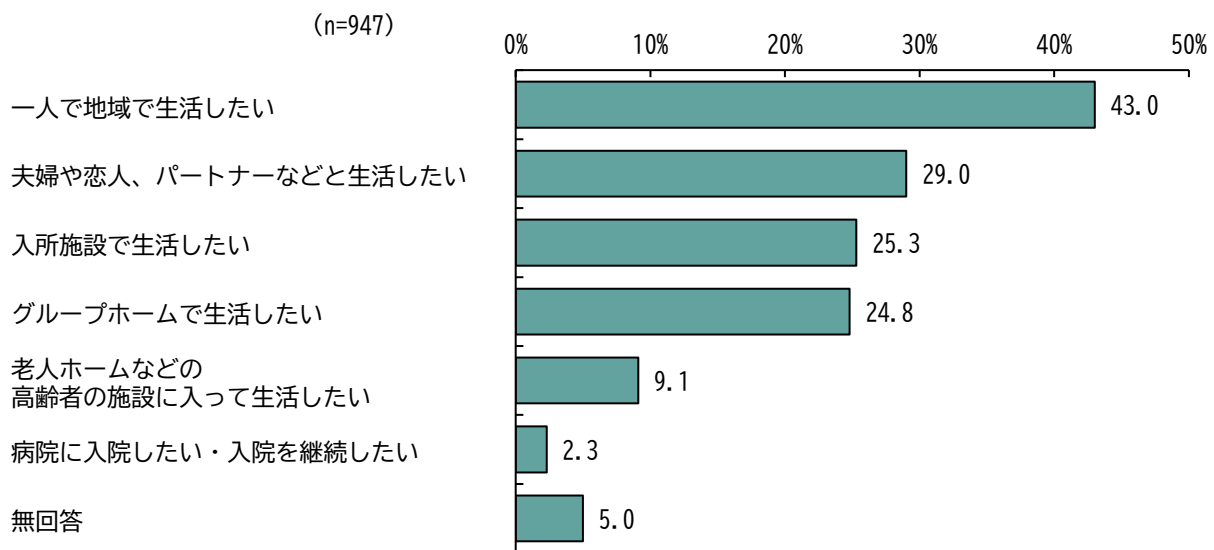
(2) 将来親や親族が病気などで一緒に生活できなくなったときに希望する生活

問9-1 問9で「②自宅で親や親族などと生活したい」とお答えの方にお聞きします。

将来、親や親族が病気などで一緒に生活できなくなったときは、次の中のどのような生活を希望しますか。(〇は2つまで)

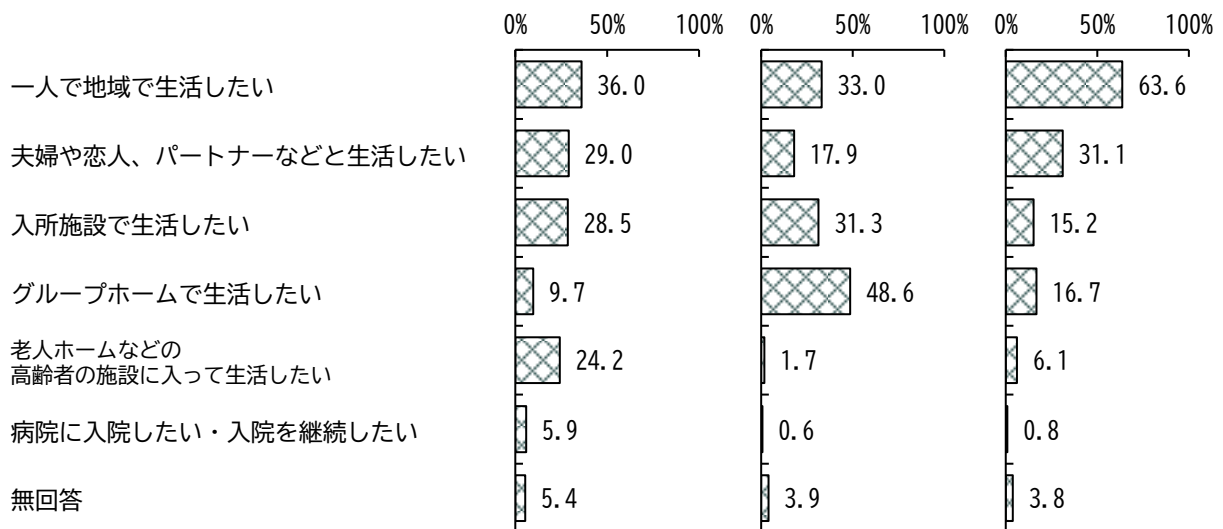
「一人で地域で生活したい」が43.0%と最も多く、次いで「夫婦や恋人、パートナーなどと生活したい」が29.0%、「入所施設で生活したい」が25.3%などとなっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”では「グループホームで生活したい」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「入所施設で生活したい」が最も多くなっています。



【障がい種別】

身体障がい者(n=186) 知的障がい者(n=179) 精神障がい者(n=132)

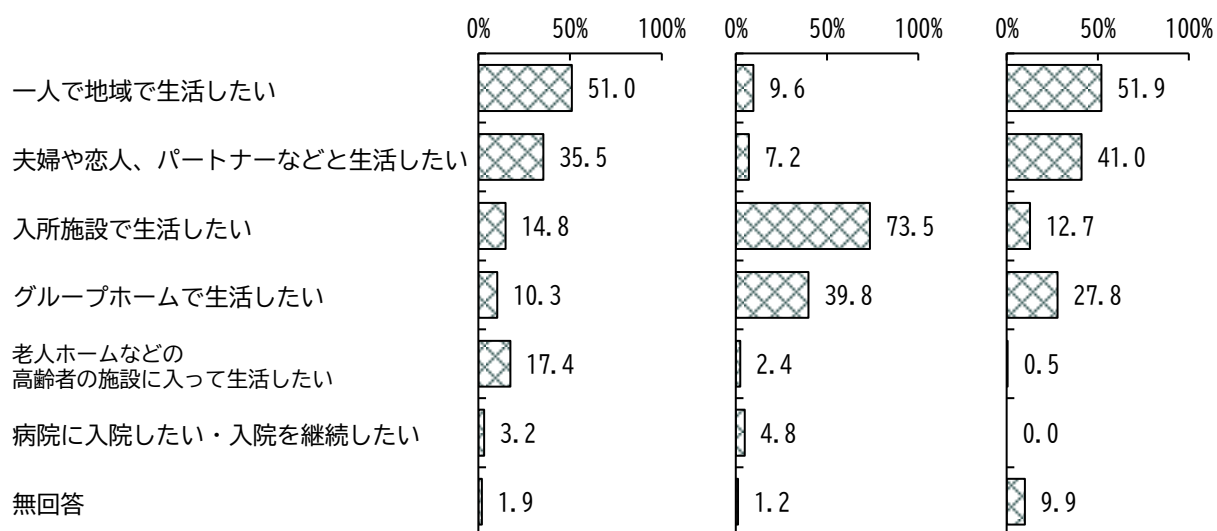


【障がい種別】

難病患者(n=155)

重症心身障がい児者(n=83)

発達障がい者(n=212)



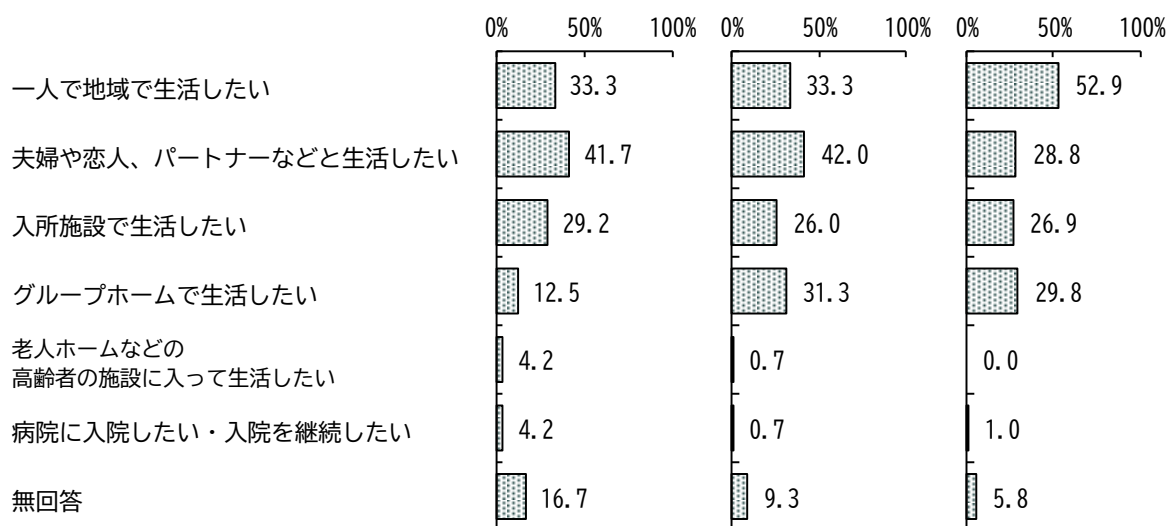
年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”では「夫婦や恋人、パートナーなどと生活したい」が最も多くなっています。また、“65歳～74歳”では「一人で地域で生活したい」、「夫婦や恋人、パートナーなどと生活したい」が最も多くなっています。

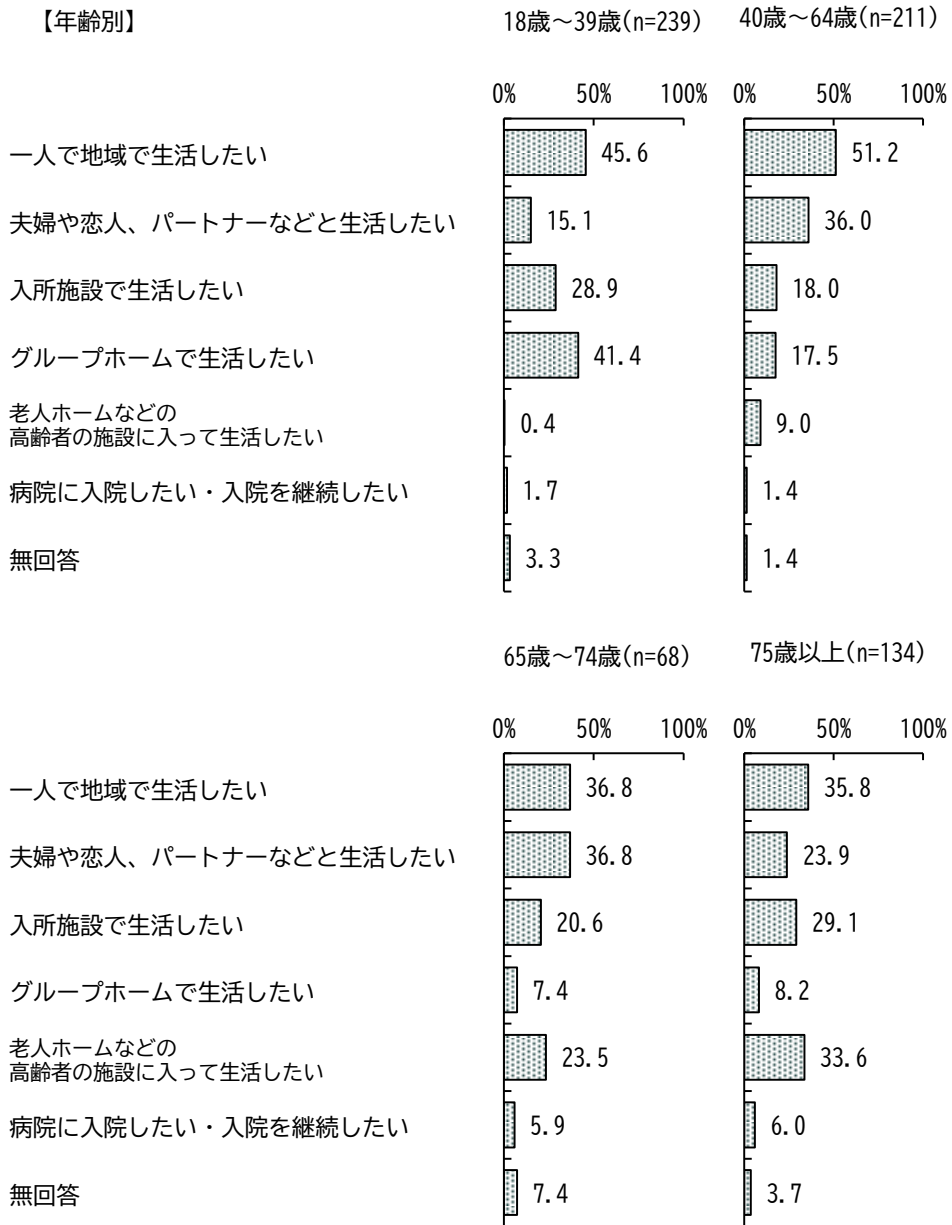
【年齢別】

0歳～5歳(n=24)

6歳～11歳(n=150)

12歳～17歳(n=104)



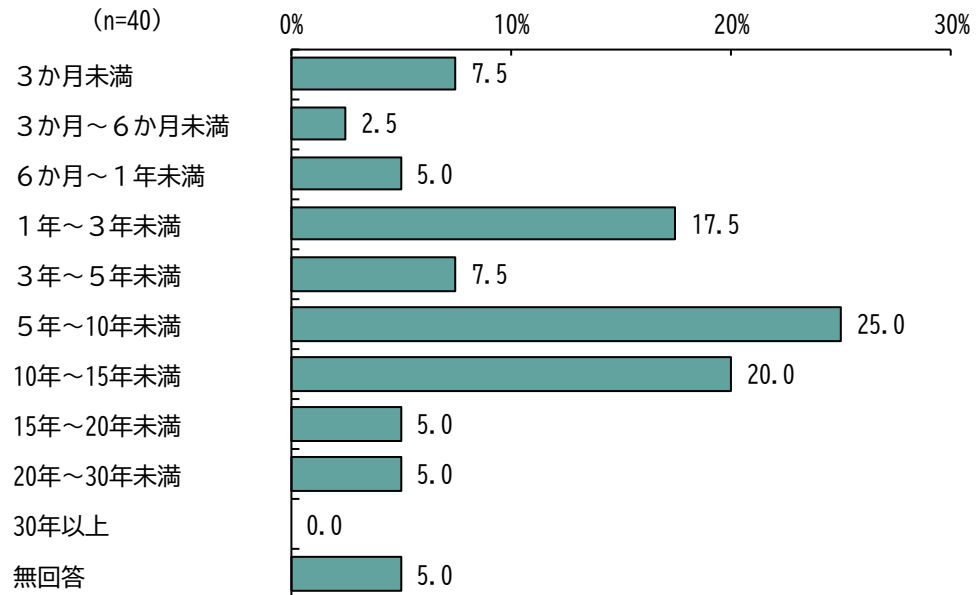


(3) 病院に入院してからの経過期間

(問10から問10-2までは、現在病院に入院している方にお聞きします。)

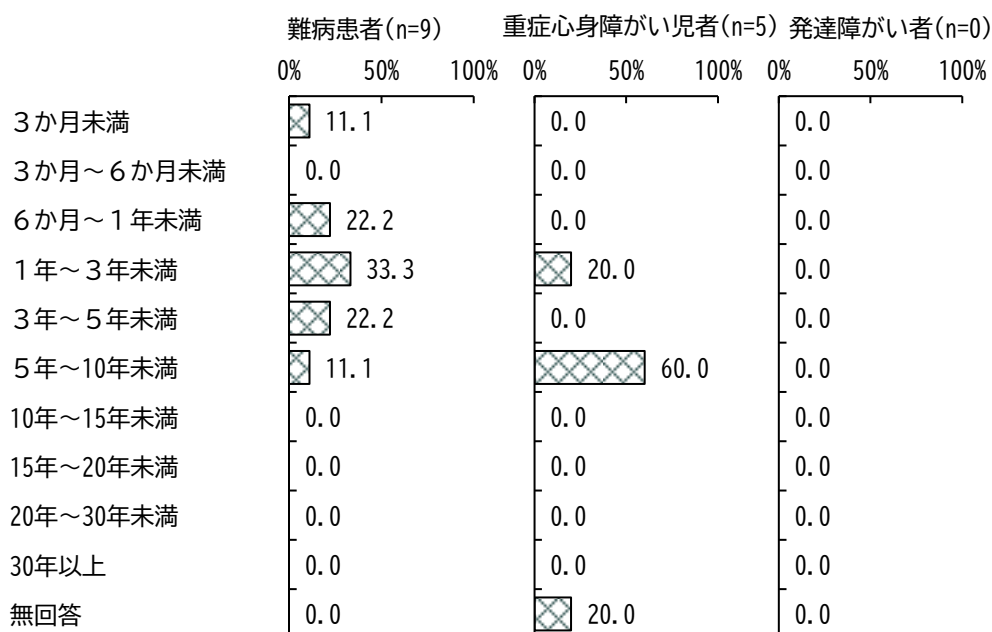
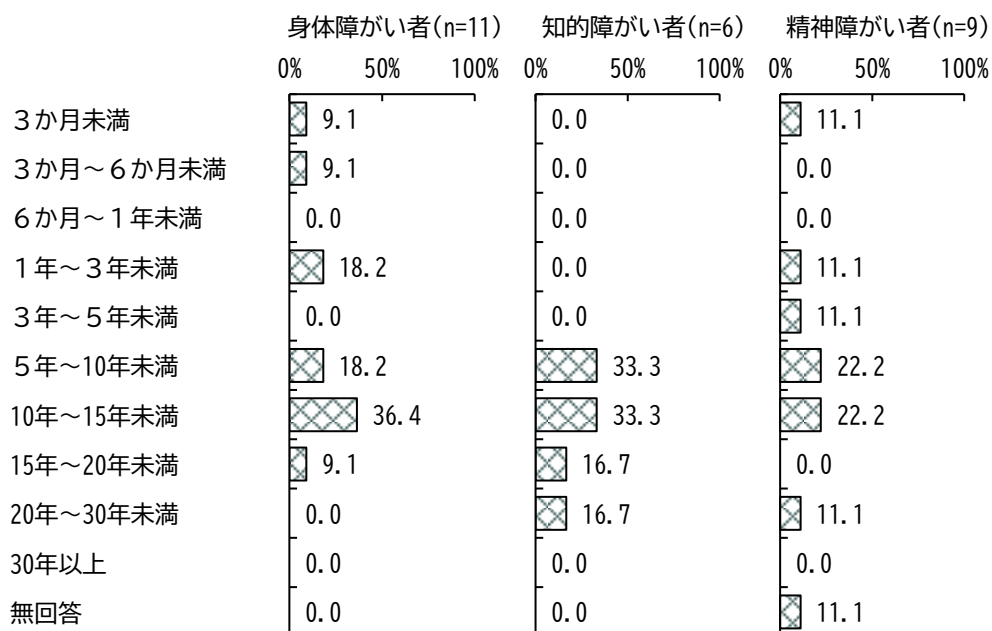
問10 あなたは、病院に入院してどのくらいの期間が経過していますか。(○は1つ)

「5年～10年未満」が25.0%と最も多く、次いで「10年～15年未満」が20.0%、「1年～3年未満」が17.5%などとなっています。



障がい種別にみると、“身体障がい者”では「10年～15年未満」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”、“精神障がい者”では「5年～10年未満」、「10年～15年未満」が最も多くなっています。また、“難病患者”では「1年～3年未満」が最も多くなっています。

【障がい種別】

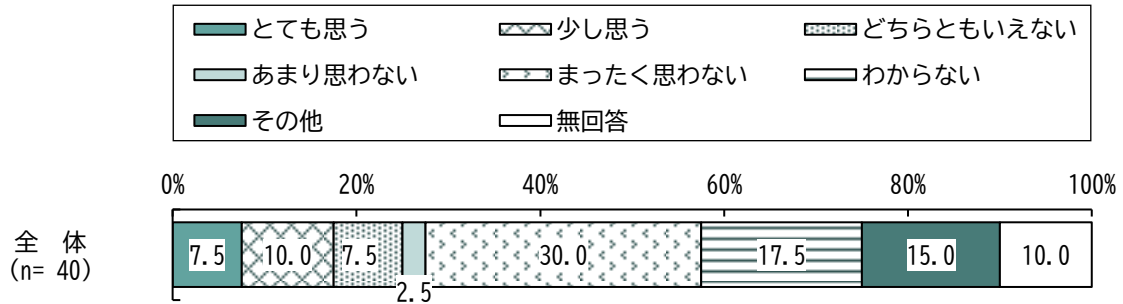


(4) 退院して地域で生活することへの希望

(問10から問10-2までは、現在病院に入院している方にお聞きします。)

問10-1 あなたは、現在入院している病院を退院して地域で生活したいと思いますか。(○は1つ)

「まったく思わない」が30.0%と最も多く、次いで「わからない」が17.5%、「その他」が15.0%などとなっています。障がい種別は、nが少ないため割愛します。



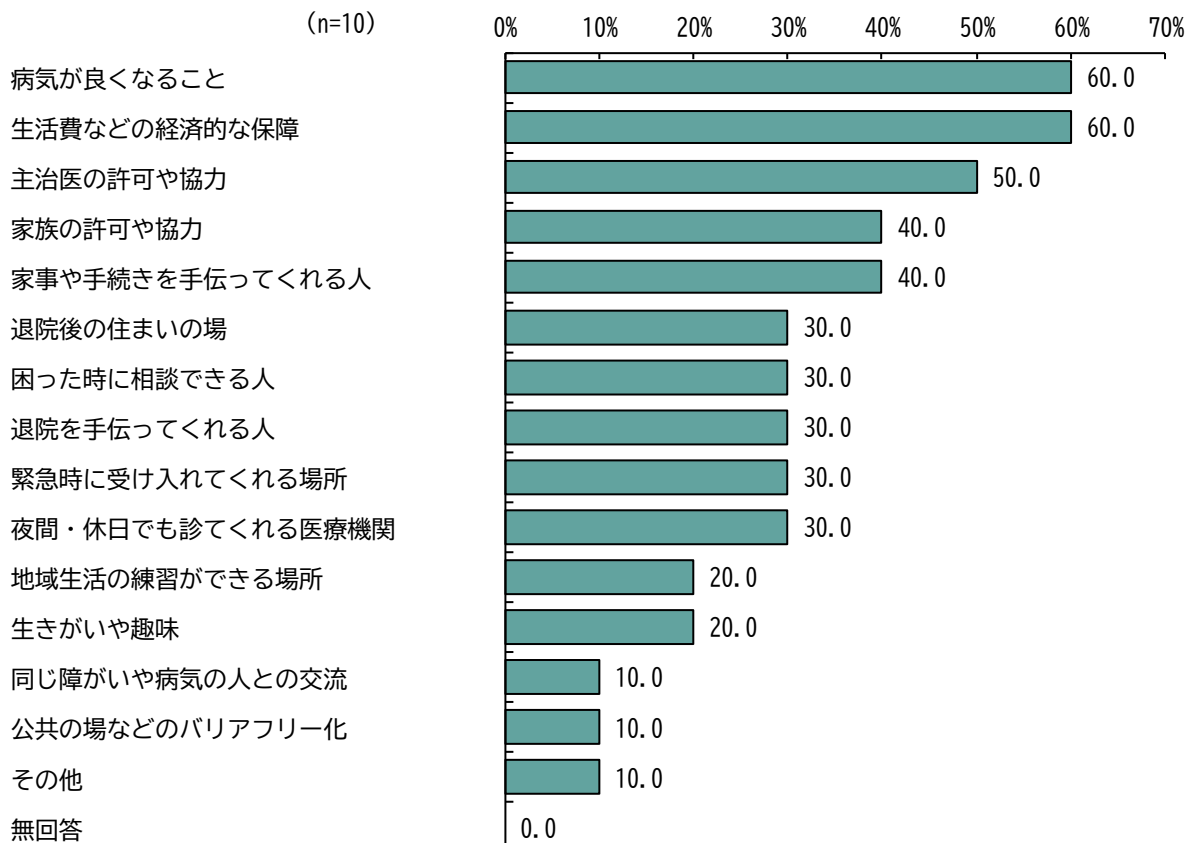
(5) 今後地域で生活していくために必要なこと

問10-2 問10-1で「1」～「3」とお答えの方(退院後地域での生活を望む方)にお聞きします。

あなたが今後地域で生活していくためには、どんなことが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

「病気が良くなること」、「生活費などの経済的な保障」が60.0%と最も多く、次いで「主治医の許可や協力」が50.0%、「家族の許可や協力」、「家事や手続きを手伝ってくれる人」が40.0%などとなっています。障がい種別は、nが少ないため割愛します。

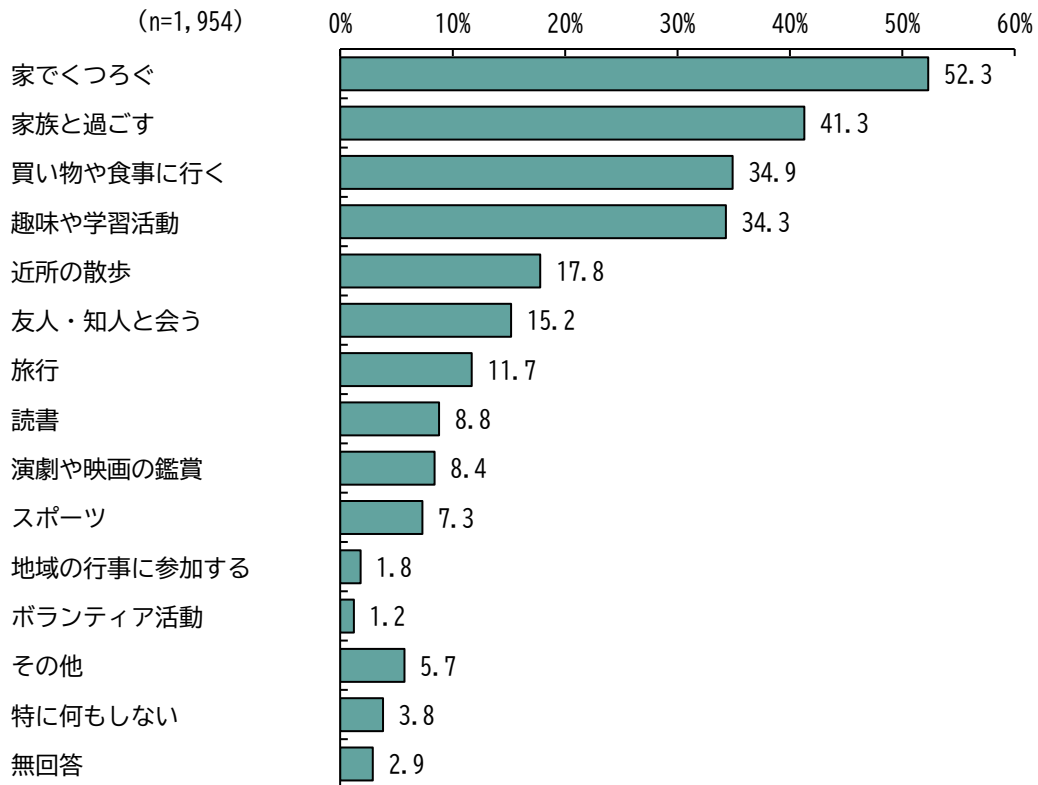


(6) 休日など時間があるときに希望する過ごし方

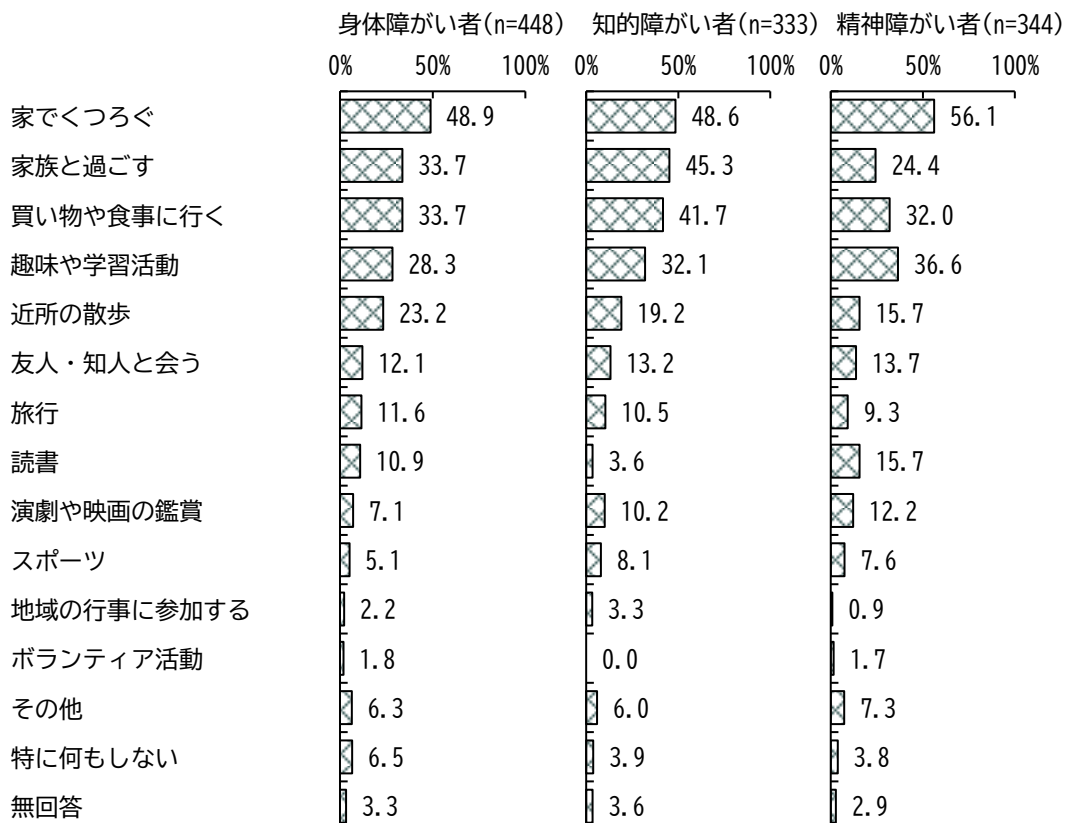
問11 あなたは、休日など時間があるとき、主にどのようにして過ごしたいですか。(○は3つまで)

「家でくつろぐ」が52.3%と最も多く、次いで「家族と過ごす」が41.3%、「買い物や食事に行く」が34.9%などとなっています。

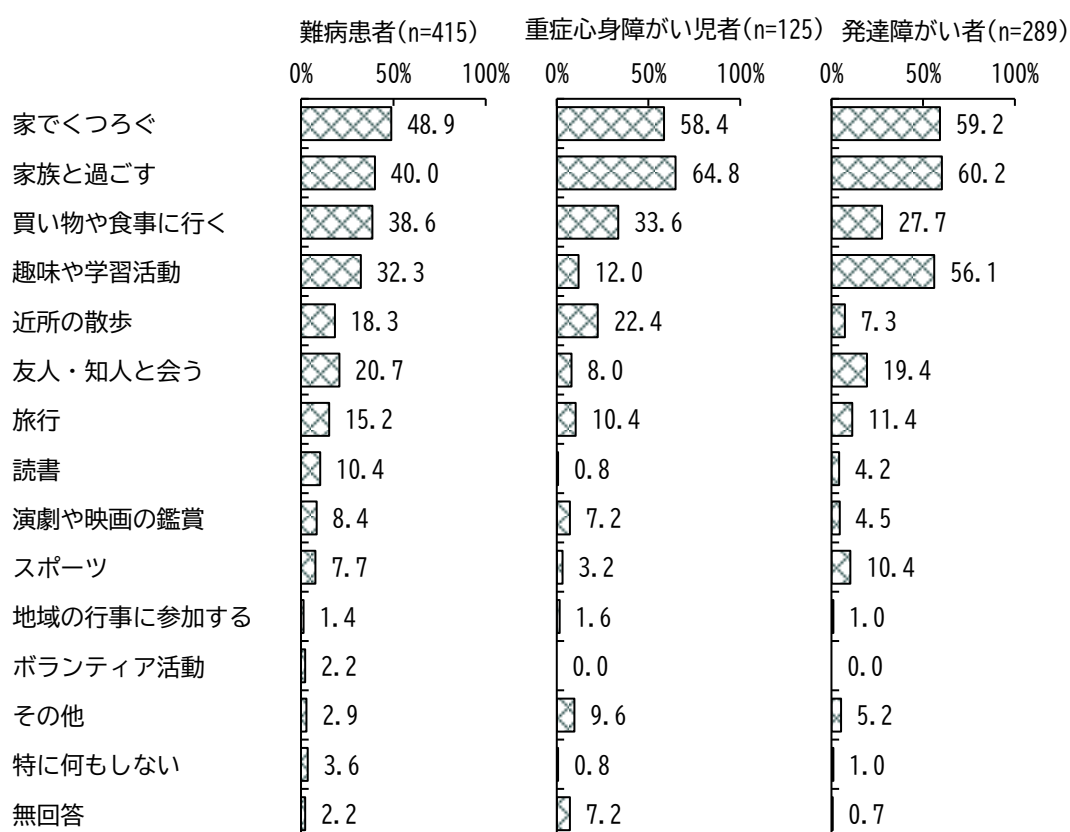
障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”、“発達障がい者”では「家族と過ごす」が最も多くなっています。



【障がい種別】

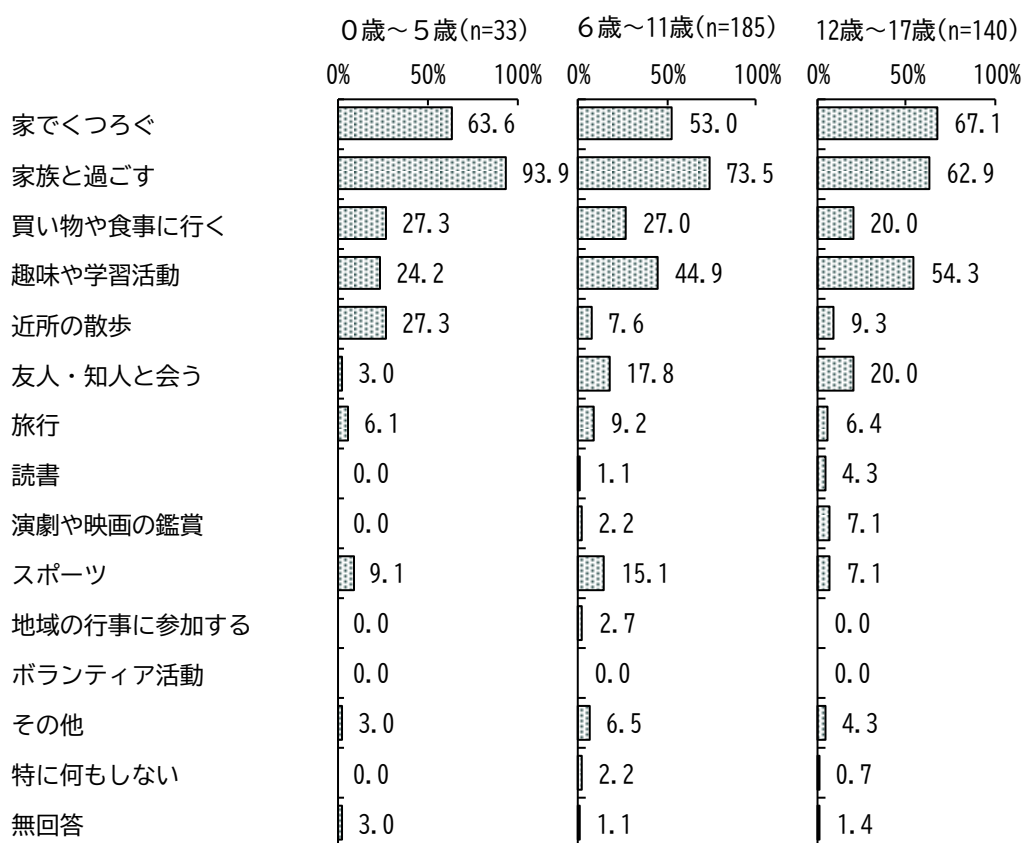


【障がい種別】

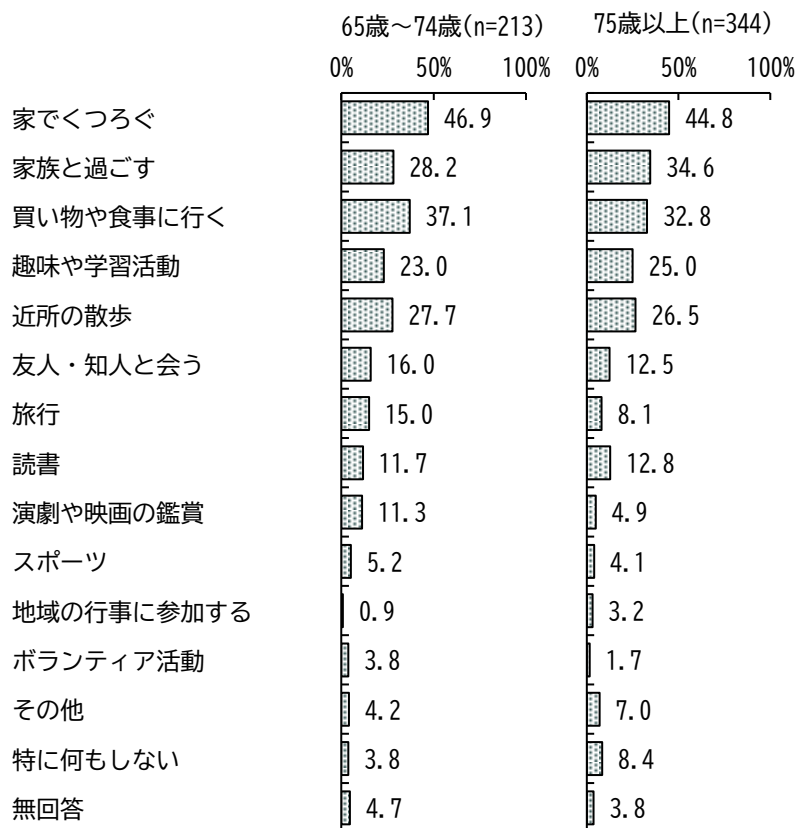
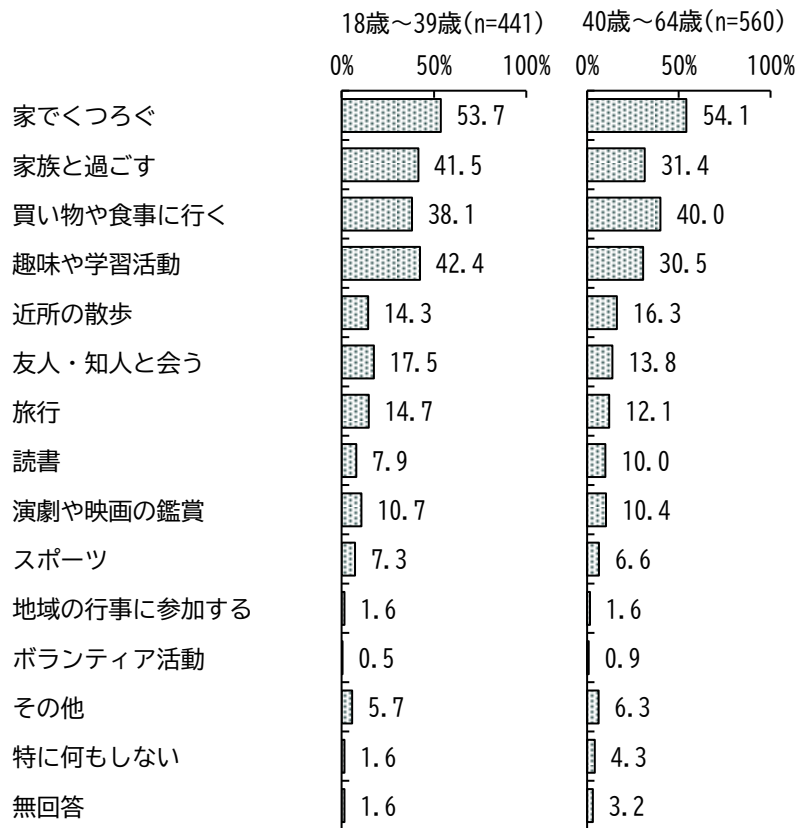


年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”では「家族と過ごす」が最も多くなっています。

【年齢別】



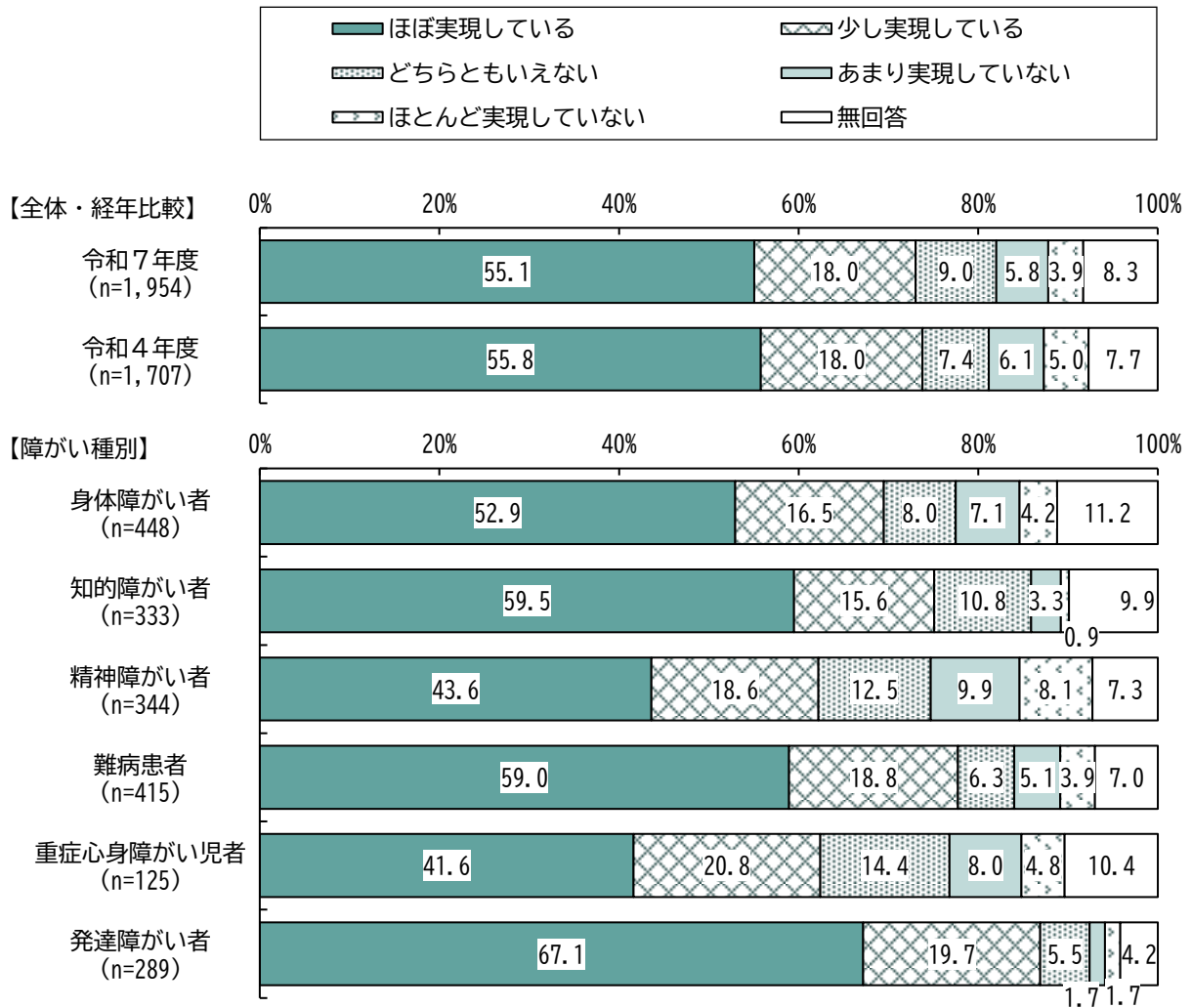
【年齢別】



(7) 希望する過ごし方の実現状況

問11-1 問11で○をつけたことについて、いまの生活ではどれくらい実現していると思いますか。
(○は1つ)

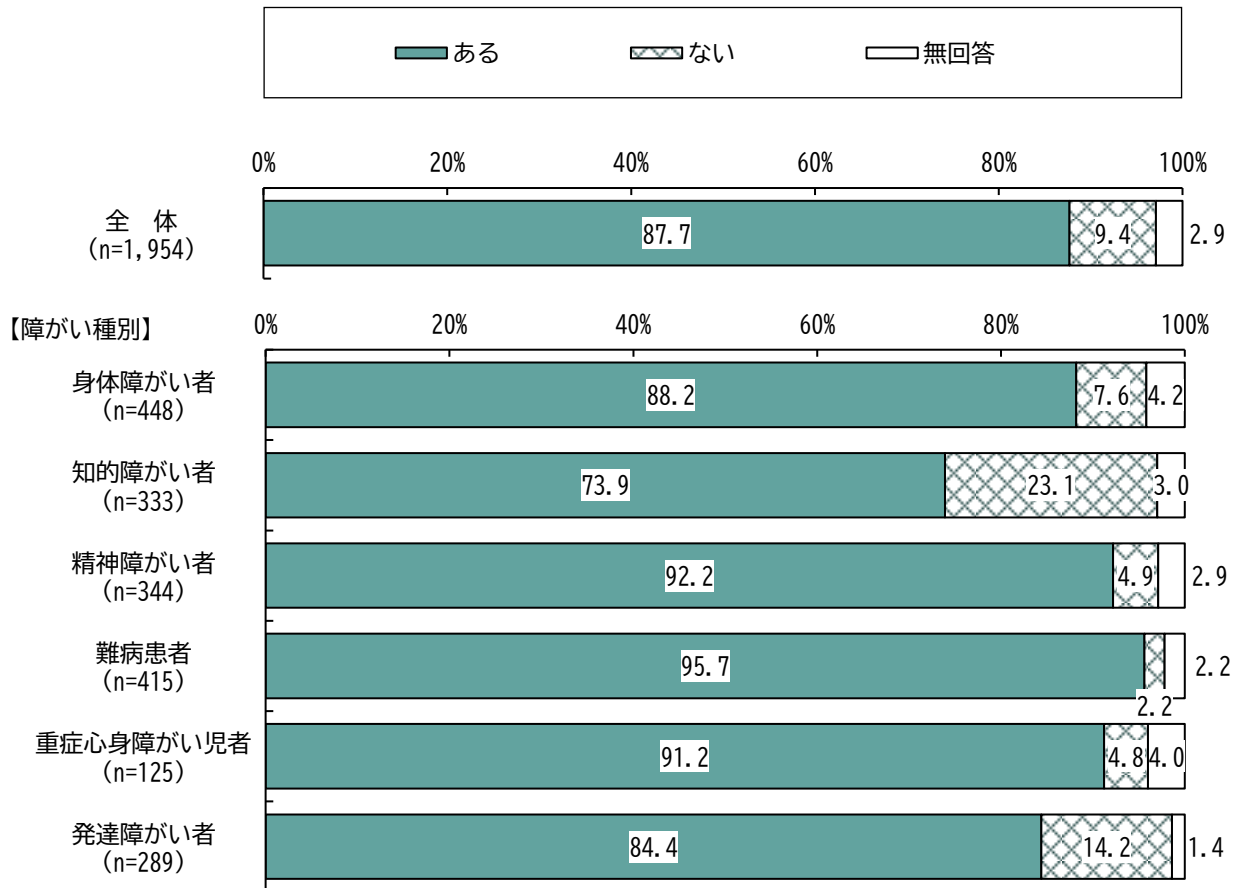
「ほぼ実現している」が55.1%と最も多く、次いで「少し実現している」が18.0%、「どちらともいえない」が9.0%などとなっています。



(8) かかりつけ医療機関の有無

問12 あなたは、継続的に治療を受けたり、健康や障がいなどについて相談したりする「かかりつけ医療機関」がありますか。(○は1つ)

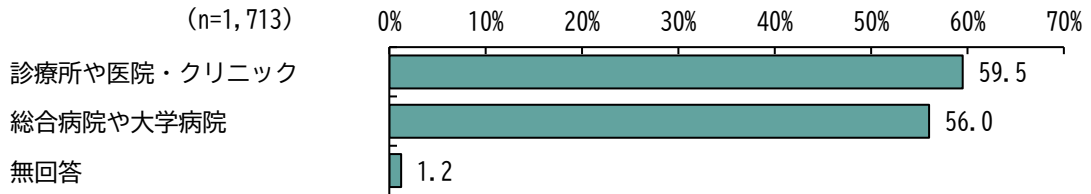
「ある」が87.7%、「ない」が9.4%となっています。



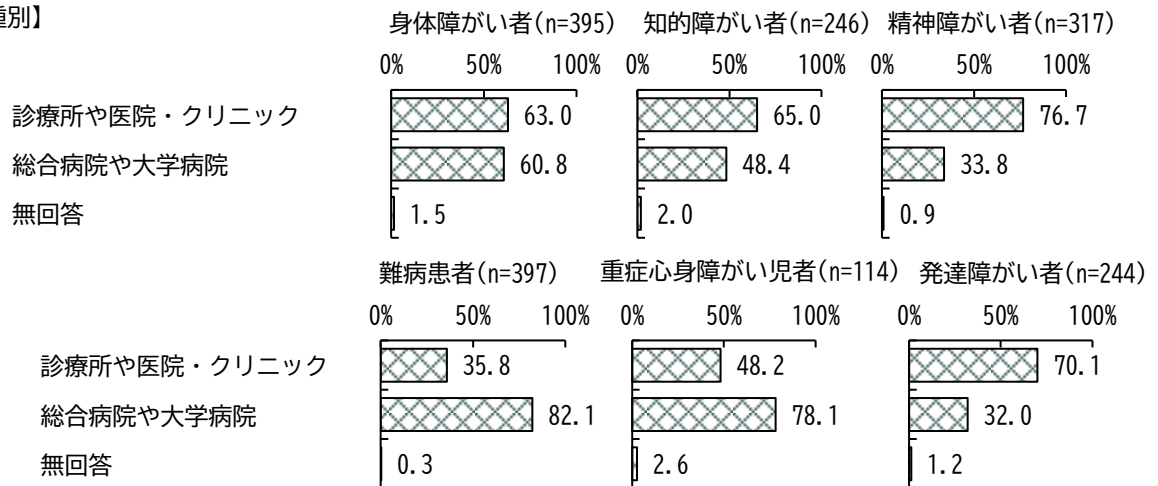
(9) かかりつけの医療機関・受診科

問12-1 問12で「1 ある」とお答えの方にお聞きします。どのような医療機関ですか。また受診科は何ですか。(〇はいくつでも)

「診療所や医院・クリニック」が59.5%、「総合病院や大学病院」が56.0%となっています。
障がい種別にみると、“難病患者”、“重症心身障がい児者”では「総合病院や大学病院」が最も多くなっています。



【障がい種別】



<診療所や医院・クリニックの受診科>

	身体障がい者 (n=395)		知的障がい者 (n=246)		精神障がい者 (n=317)		難病患者 (n=397)		重症心身障がい児者 (n=114)		発達障がい者 (n=244)	
	診療科	件	診療科	件	診療科	件	診療科	件	診療科	件	診療科	件
1位	内科	85	精神科	49	精神科	129	内科	62	内科	16	精神科	41
2位	整形外科	23	内科	36	心療内科	51	整形外科	18	眼科	6	小児科	40
3位	眼科	13	小児科	24	内科	38	眼科	11	歯科	5	発達診療科	20
4位	循環器内科	12	皮膚科	10	皮膚科	8	循環器内科/ 消化器内科	8	小児科/ 耳鼻咽喉科/ 発達診療科	3	心療内科	12
5位	眼科/ 脳神経外科	9	歯科	9	眼科	7					内科	5

<総合病院や大学病院の受診科>

	身体障がい者 (n=395)		知的障がい者 (n=246)		精神障がい者 (n=317)		難病患者 (n=397)		重症心身障がい児者 (n=114)		発達障がい者 (n=244)	
	診療科	件	診療科	件	診療科	件	診療科	件	診療科	件	診療科	件
1位	内科	30	精神科	33	精神科	53	脳神経内科	56	小児科	36	精神科	35
2位	整形外科	28	小児科	24	内科	10	リウマチ科	45	整形外科/ 脳神経内科	12	小児科	18
3位	循環器内科	27	脳神経内科	7	整形外科/ 婦人科	6	消化器内科	37			脳神経外科/ 耳鼻咽喉科	6
4位	眼科/ リウマチ科	14	内科/眼科/ 脳神経外科	6			脳神経内科	5	内科	32		
5位					循環器内科/ 血液内科	18						

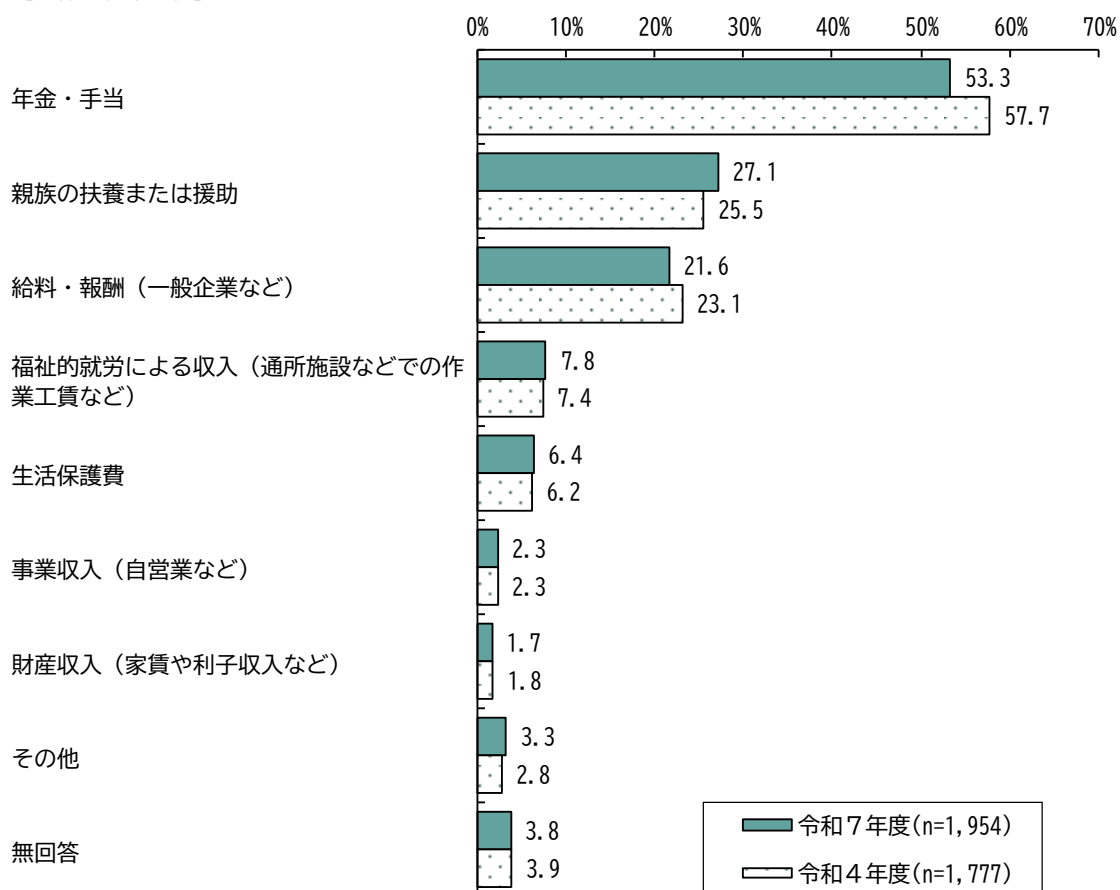
3 収入について

(1) 主な収入

問13 あなたが得ている主な収入は、次の中でどの収入ですか。(〇はいくつでも)

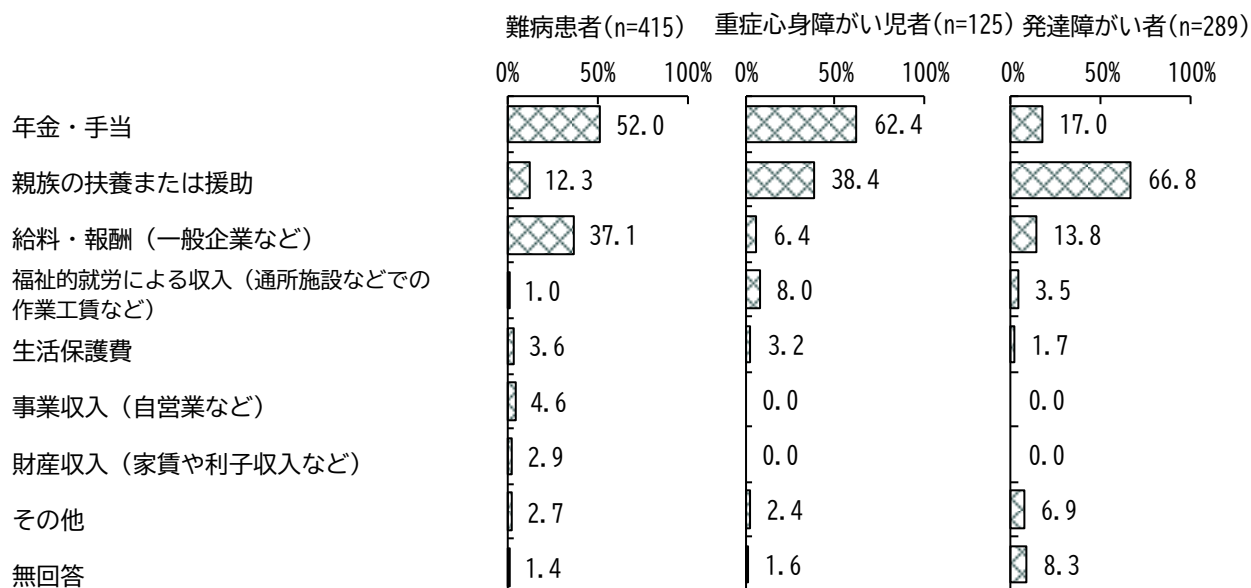
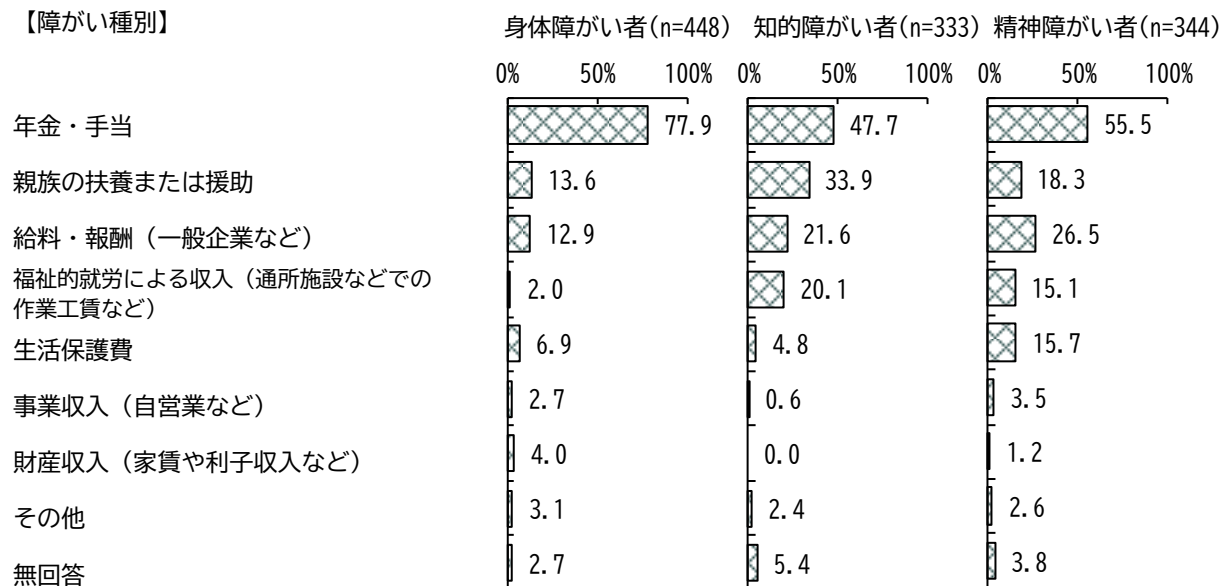
「年金・手当」が53.3%と最も多く、次いで「親族の扶養または援助」が27.1%、「給料・報酬（一般企業など）」が21.6%などとなっています。

【全体・経年比較】



障がい種別にみると、“発達障がい者”では「親族の扶養または援助」が最も多くなっています。

【障がい種別】



(2) 働いて得ている1か月あたりの給料・報酬・事業収入・工賃

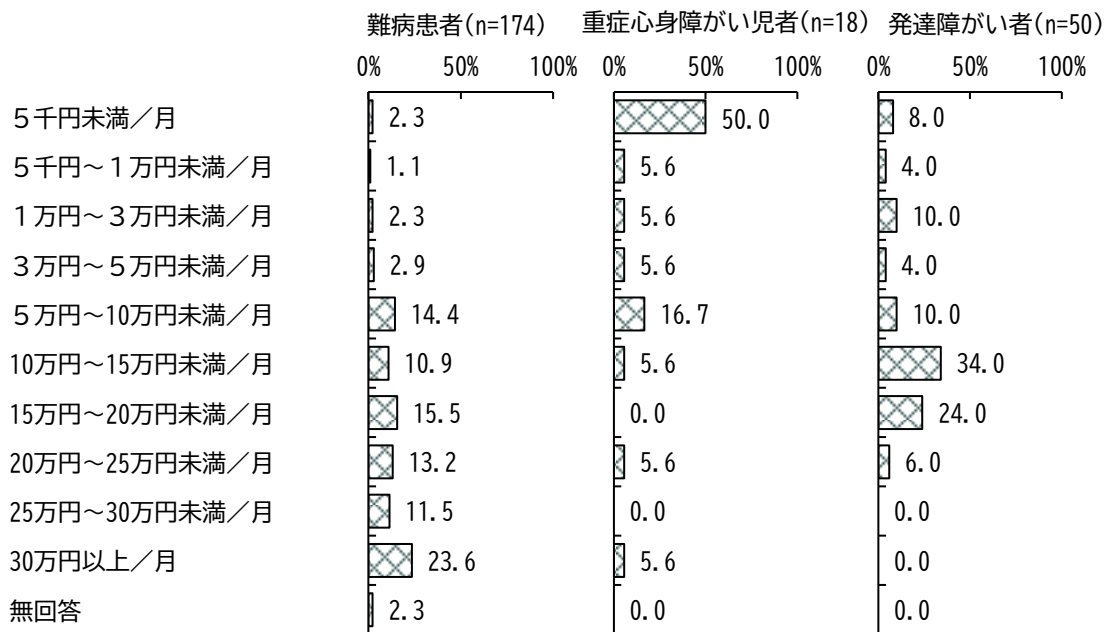
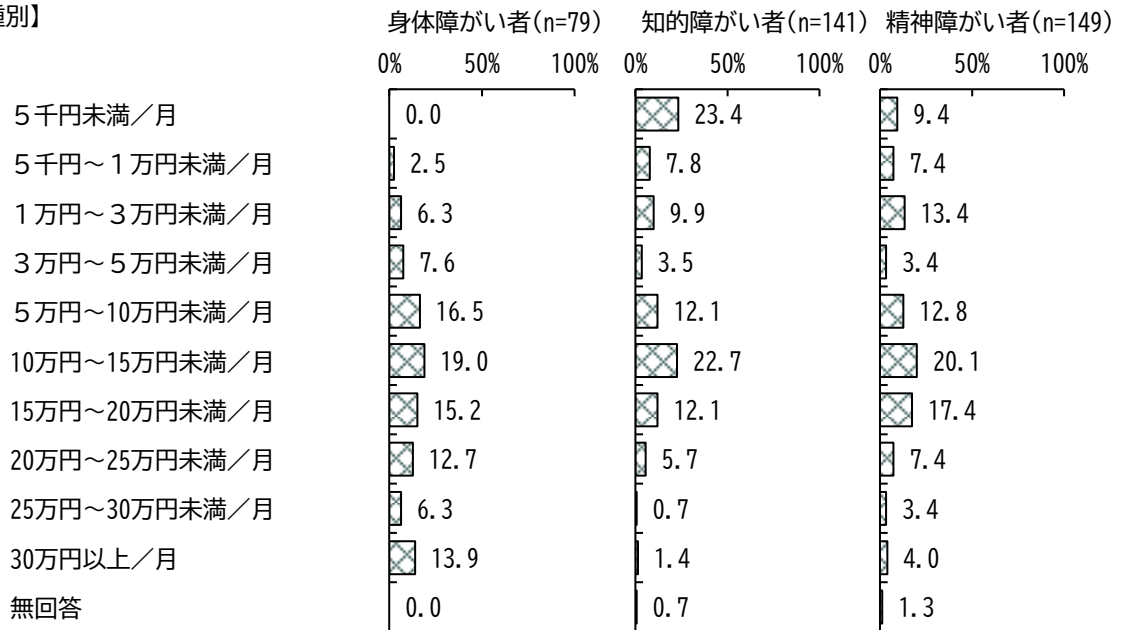
問13-1 問13で「1」～「3」とお答えの方（勤労による収入がある方）にお聞きします。
あなたが働いて得ている給料・報酬・事業収入・工賃は、1か月あたりどのくらいですか。
(○は1つ)

「10万円～15万円未満/月」が18.7%と最も多く、次いで「15万円～20万円未満/月」が15.4%、「5万円～10万円未満/月」が13.4%などとなっています。



障がい種別にみると、“知的障がい者”、“重症心身障がい児者”では「5千円未満/月」が最も多くなっています。また、“難病患者”では「30万円以上/月」が最も多くなっています。

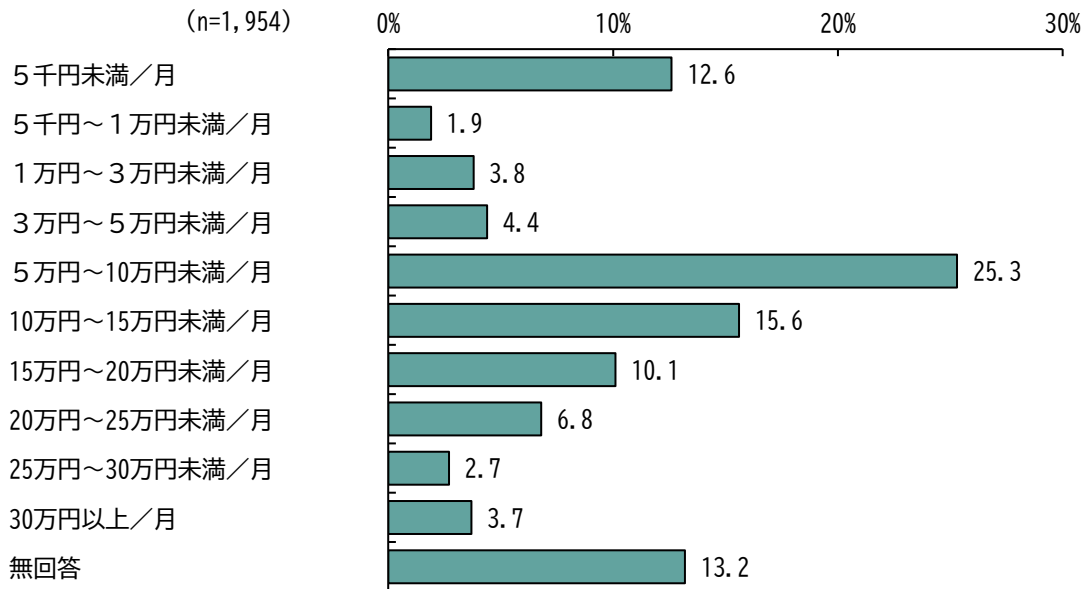
【障がい種別】



(3) 年金・手当・生活保護費・親族からの援助なども含めた1か月あたりの全収入

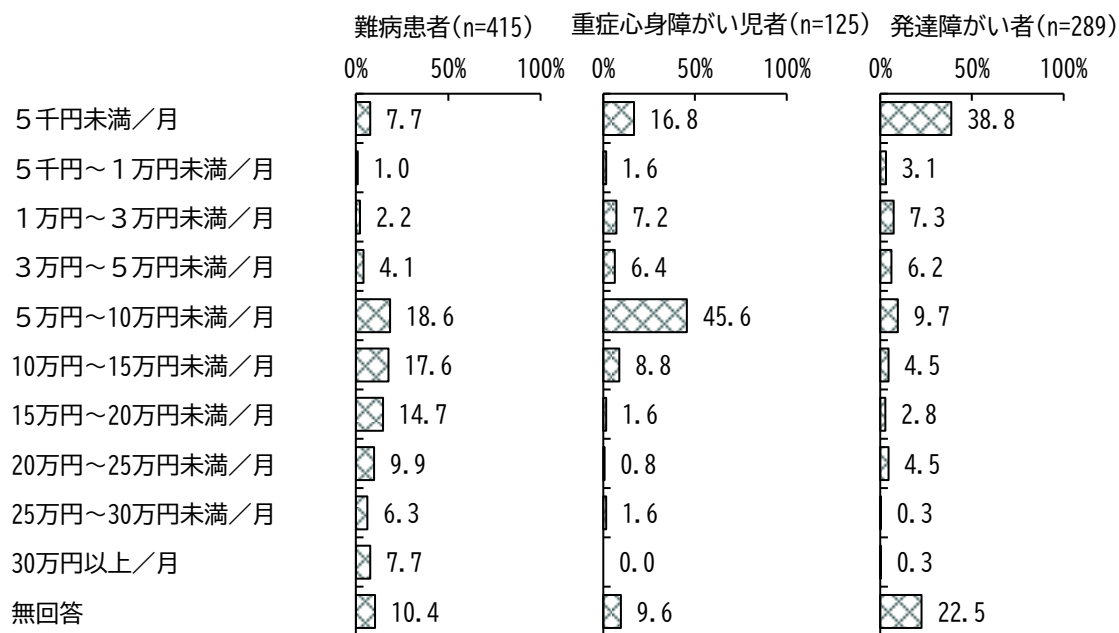
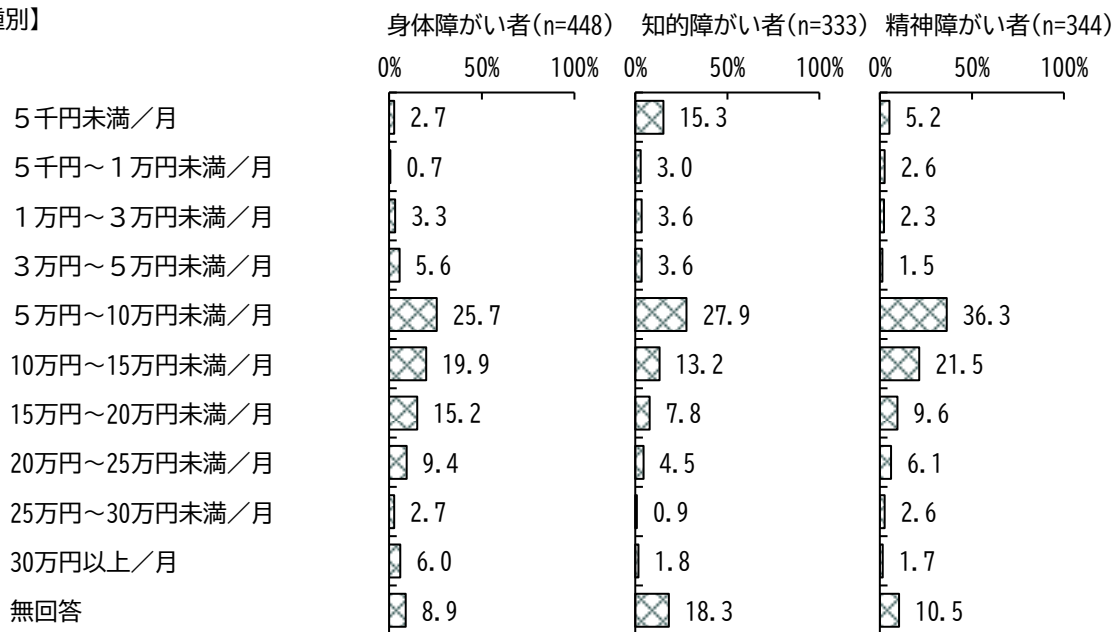
問14 年金・手当・生活保護費・親族からの援助なども含めたあなた一人の全収入は、1か月あたりどのくらいですか。(○は1つ)

「5万円～10万円未満/月」が25.3%と最も多く、次いで「10万円～15万円未満/月」が15.6%、「5千円未満/月」が12.6%などとなっています。



障がい種別にみると、“発達障がい者”では「5千円未満／月」が最も多くなっています。

【障がい種別】



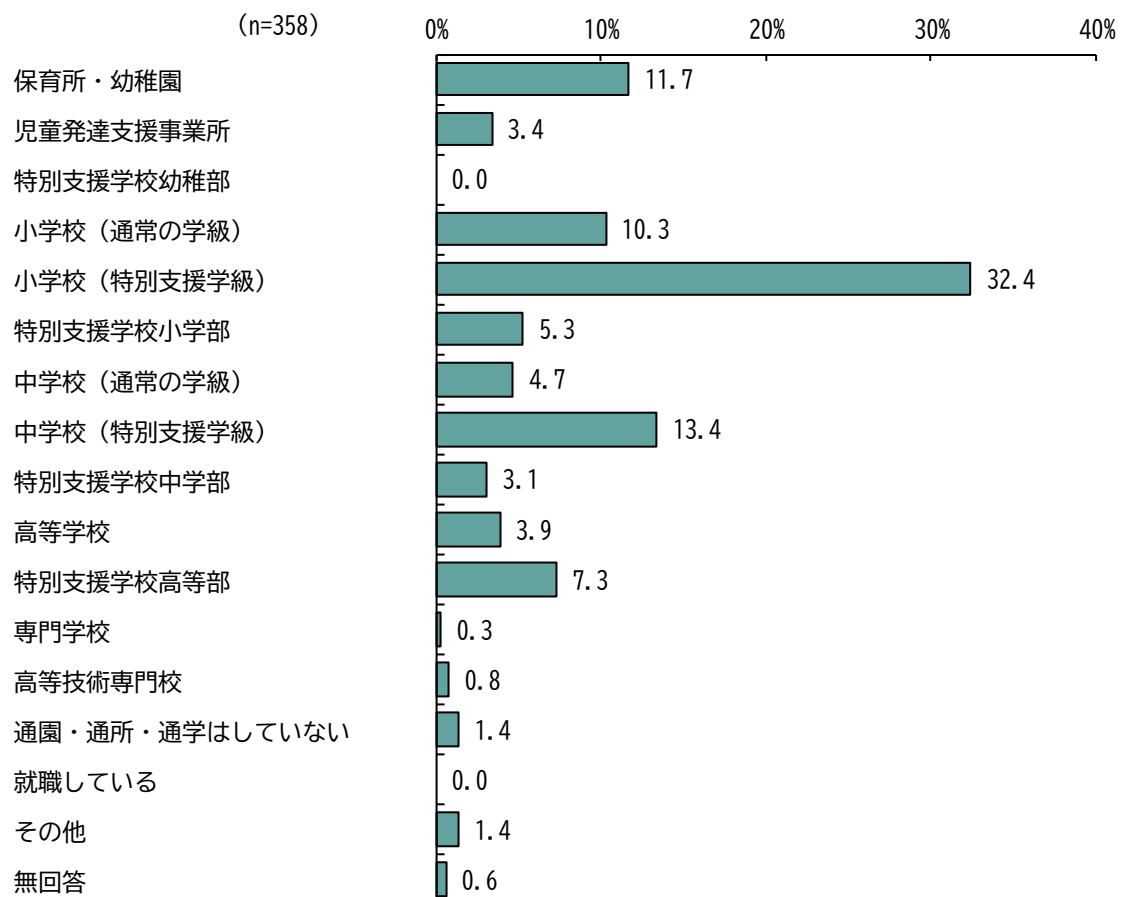
4 教育について

(1) 現在の通学・通園・通所

(問15～問18は、18歳未満の方がお答えください。)

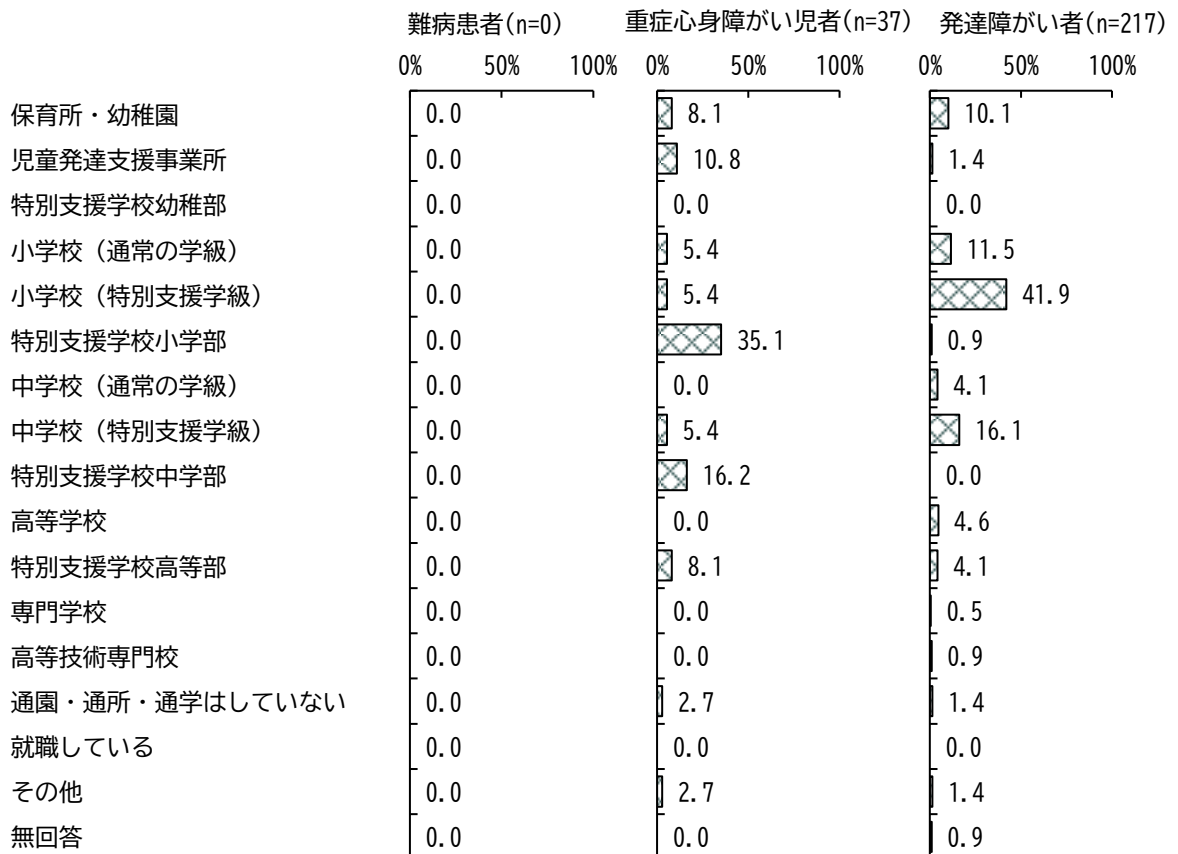
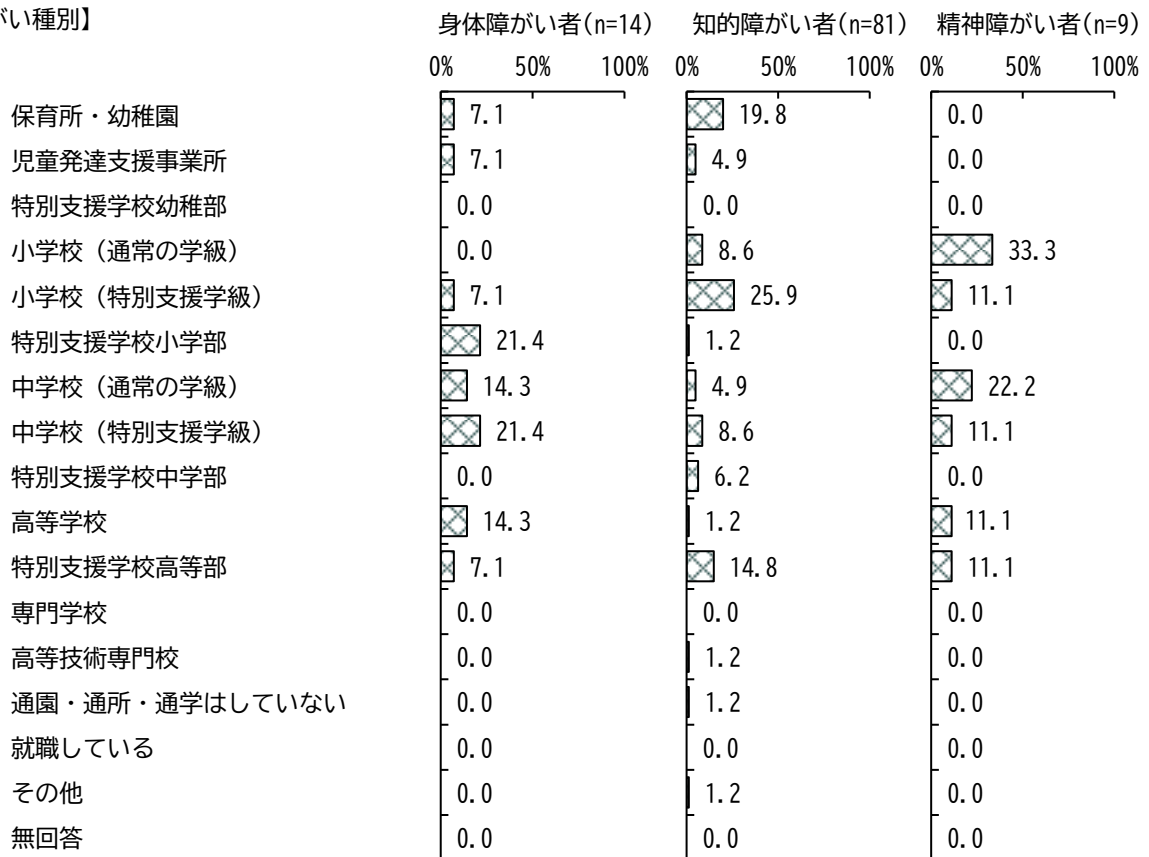
問15 あなたは、現在通学（通園・通所）していますか。（○は1つ）

「小学校（特別支援学級）」が32.4%と最も多く、次いで「中学校（特別支援学級）」が13.4%、「保育所・幼稚園」が11.7%などとなっています。



障がい種別にみると、“身体障がい者”では「特別支援学校小学部」、「中学校（特別支援学級）」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「小学校（通常の学級）」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「特別支援学校小学部」が最も多くなっています。

【障がい種別】



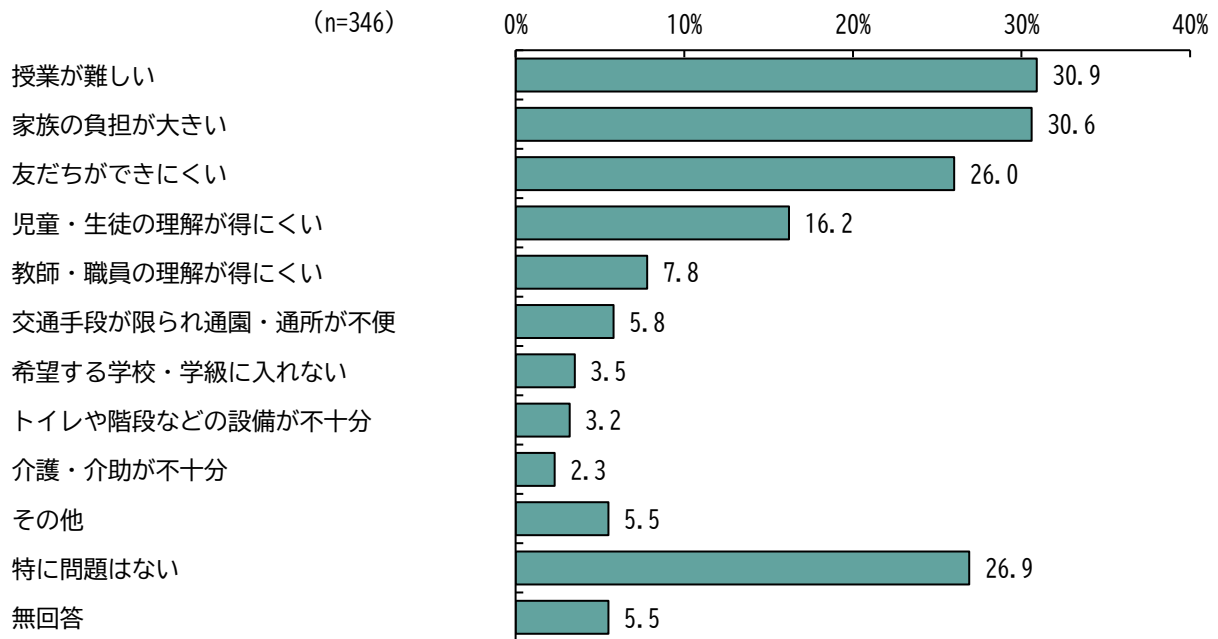
(2) 通学・通所・通園先で生活をするうえで困っていること

問15-1 問15で「1」～「13」のいずれかをお答えの方（現在通学（通園・通所）している方）にお聞きします。

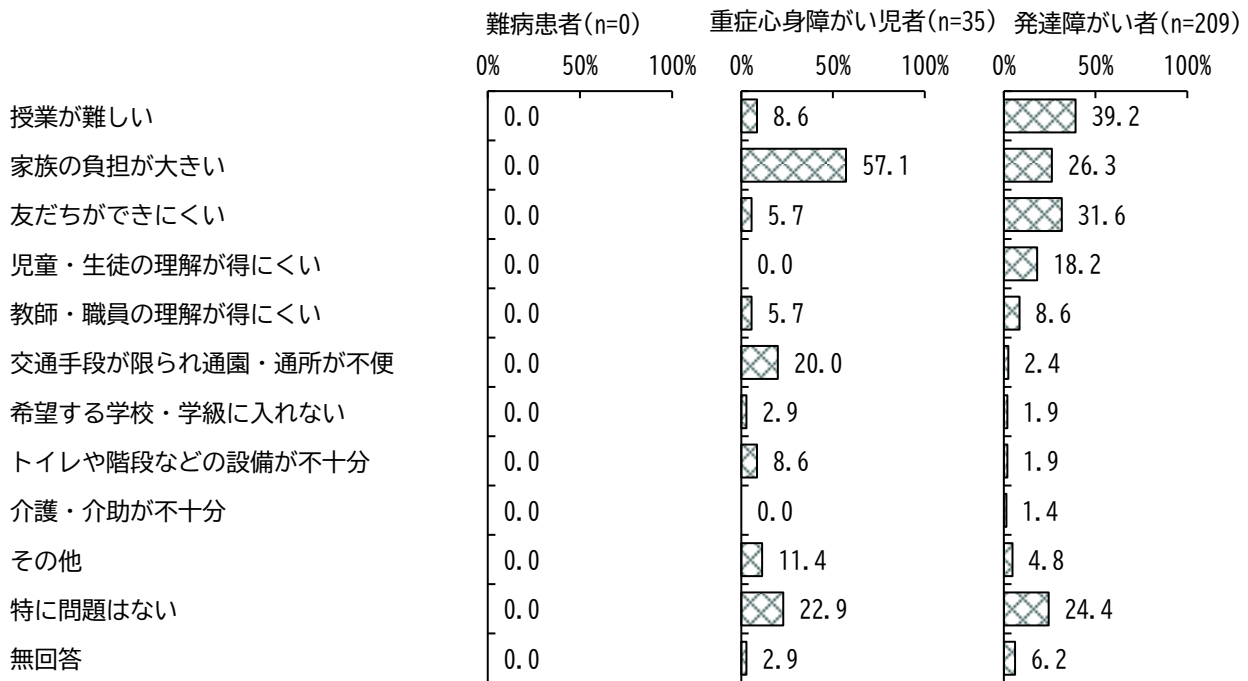
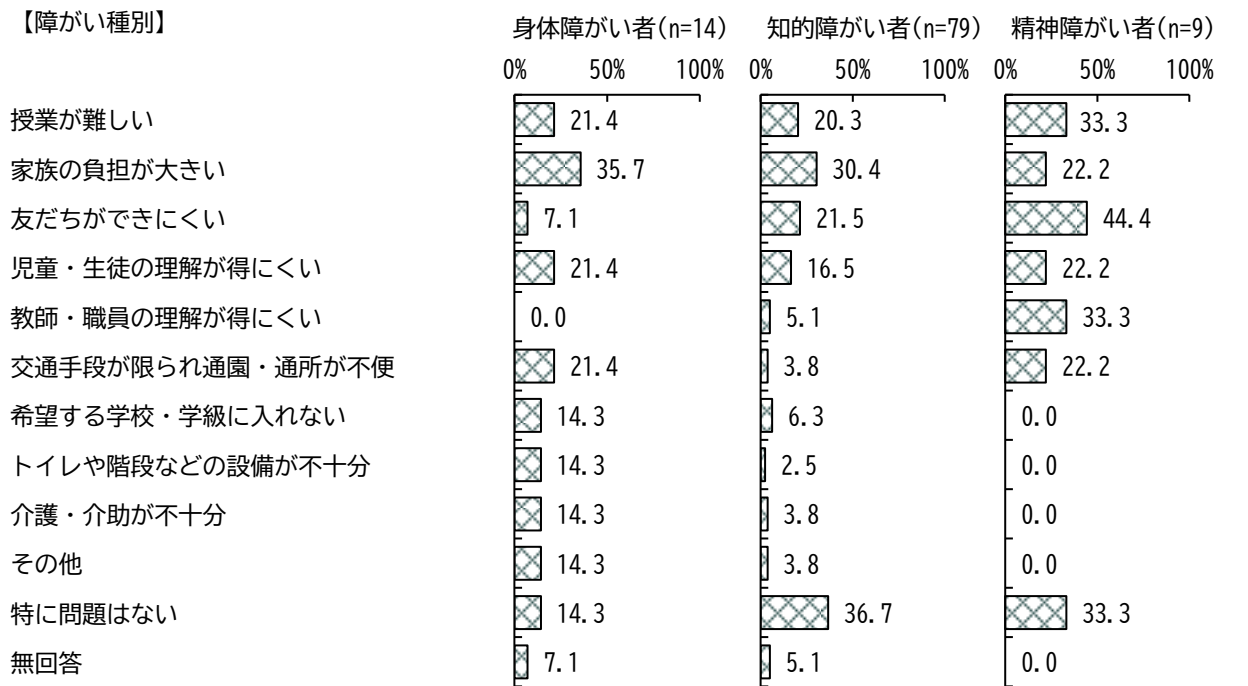
あなたが通学・通所・通園先で生活をするうえで、困っていることはありますか。

（主なものに1つだけ◎、その他のものに2つまで○）

「授業が難しい」が30.9%と最も多く、次いで「家族の負担が大きい」が30.6%、「友だちができにくい」が26.0%などとなっています。また、「特に問題はない」が26.9%となっています。



障がい種別にみると、“身体障がい者”、“重症心身障がい児者”では「家族の負担が大きい」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”では「特に問題はない」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「友だちができてにくい」が最も多くなっています。

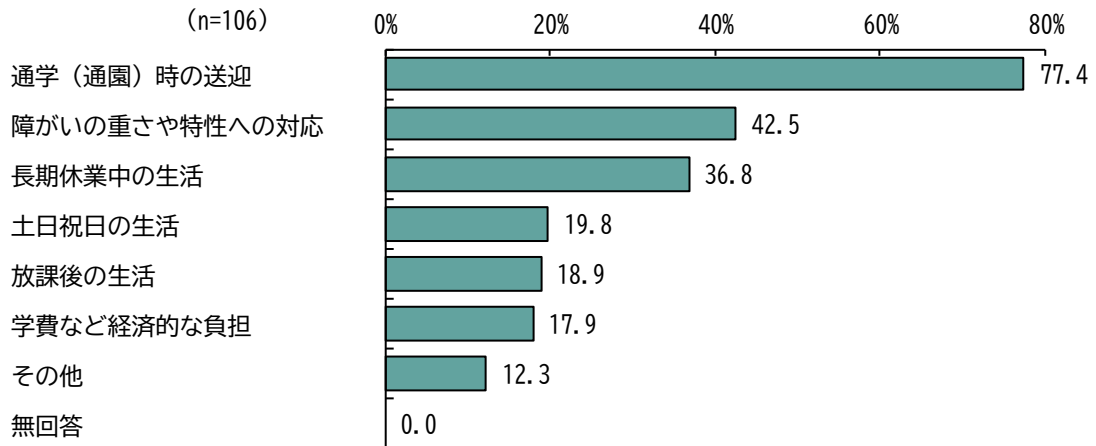


(3) 生活をするうえで家族が負担を感じていること

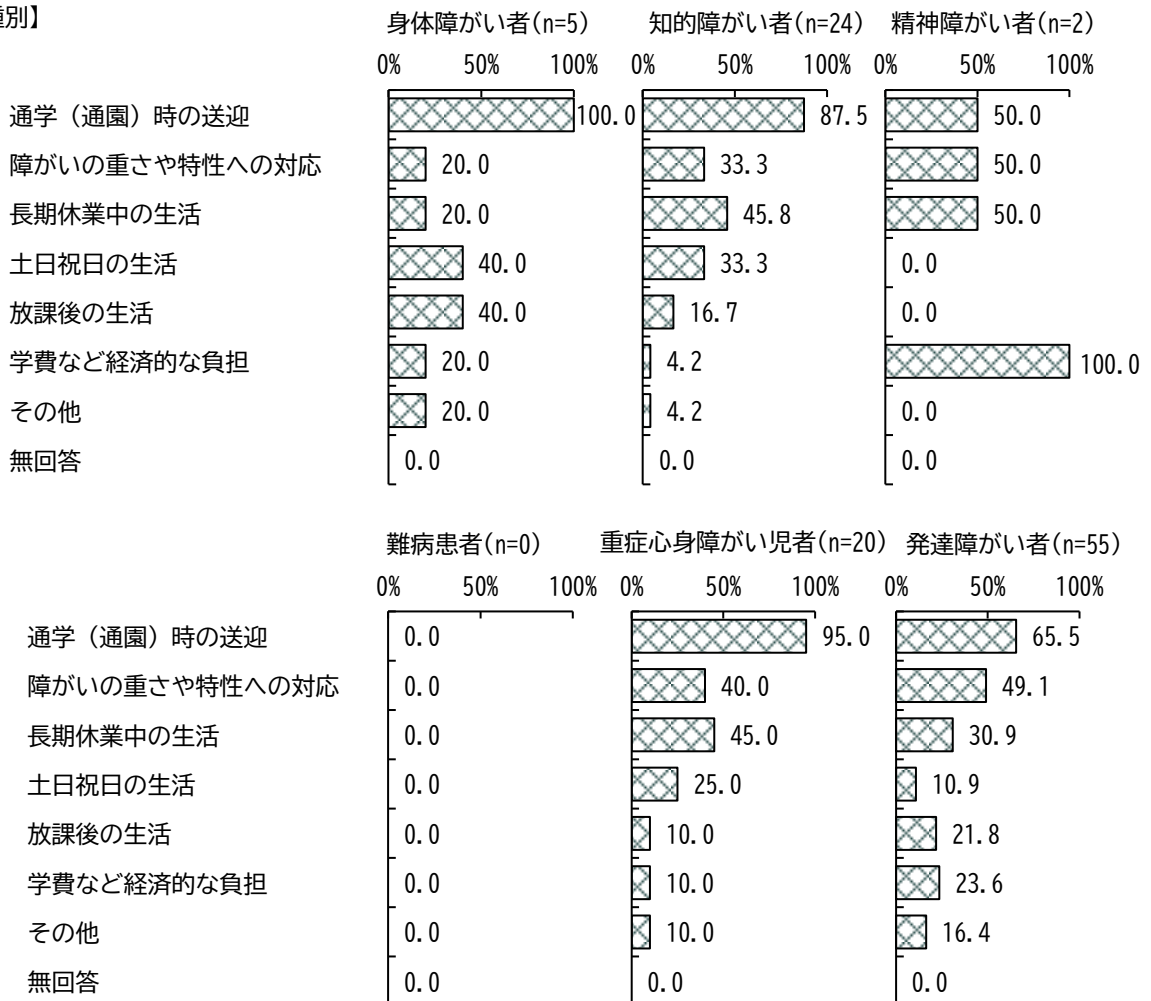
問15-2 問15-1で「1 家族の負担が大きい」に◎か○をつけた方にお聞きします。
 どのようなことに負担を感じていますか。(○は3つまで)

「通学(通園)時の送迎」が77.4%と最も多く、次いで「障がいの重さや特性への対応」が42.5%、「長期休業中の生活」が36.8%などとなっています。

障がい種別にみると、“精神障がい者”では「学費などの経済的な負担」が最も多くなっています。



【障がい種別】

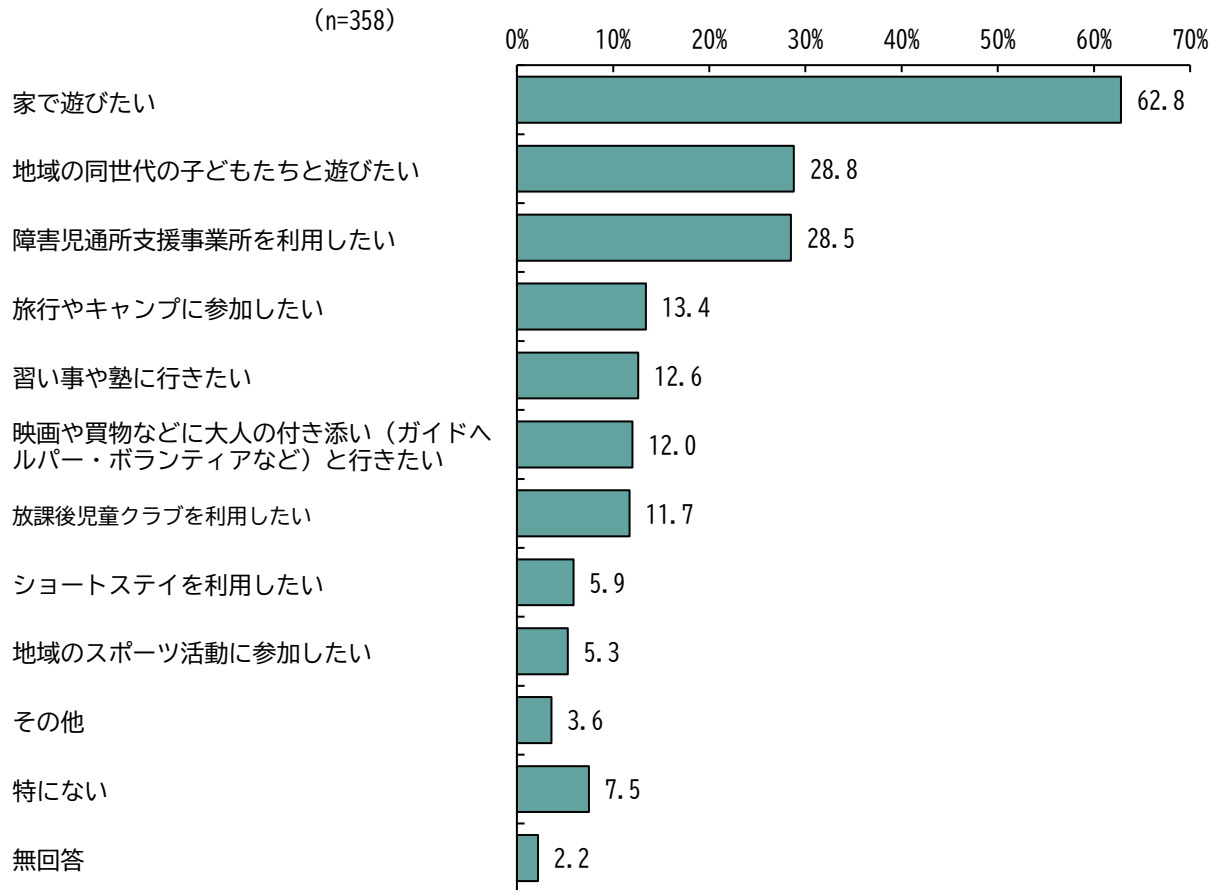


(4) 休みの日や放課後の活動についての希望

(問15～問18は、18歳未満の方がお答えください。)

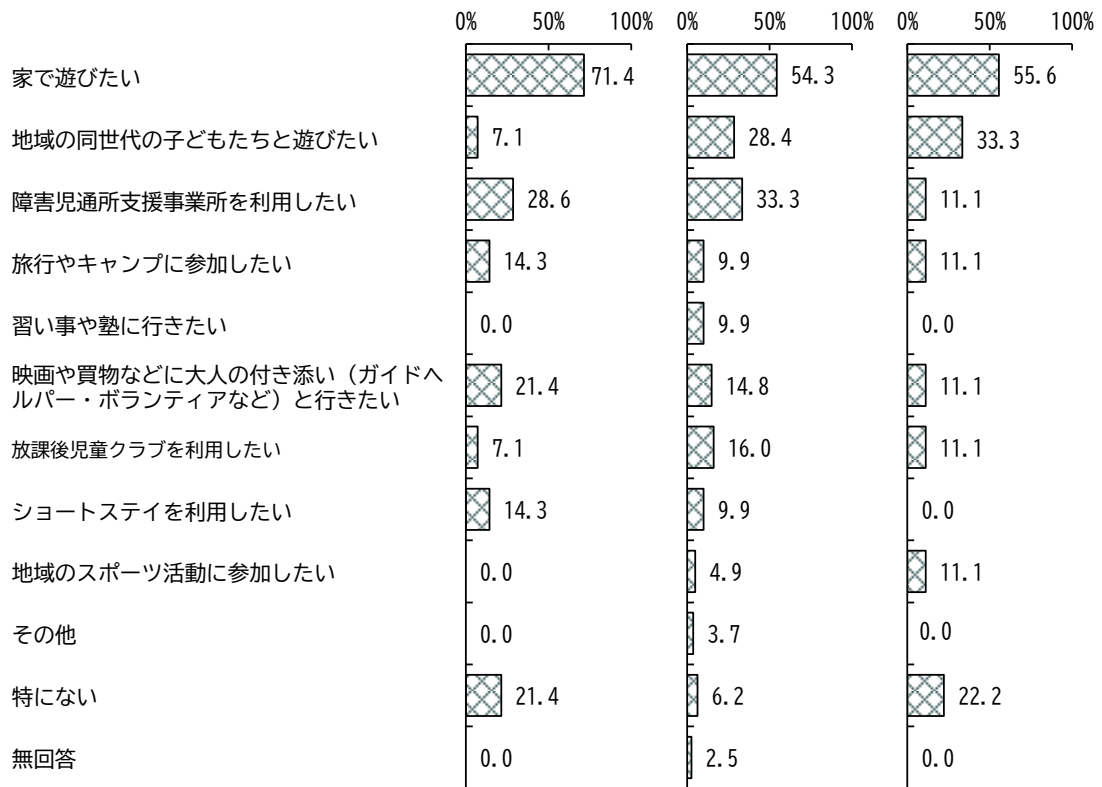
問16 あなたは、通学・通所・通園先が休みの日や放課後の活動について、どのような希望がありますか。(〇は3つまで)

「家で遊びたい」が62.8%と最も多く、次いで「地域の同世代の子どもたちと遊びたい」が28.8%、「障害児通所支援事業所を利用したい」が28.5%などとなっています。

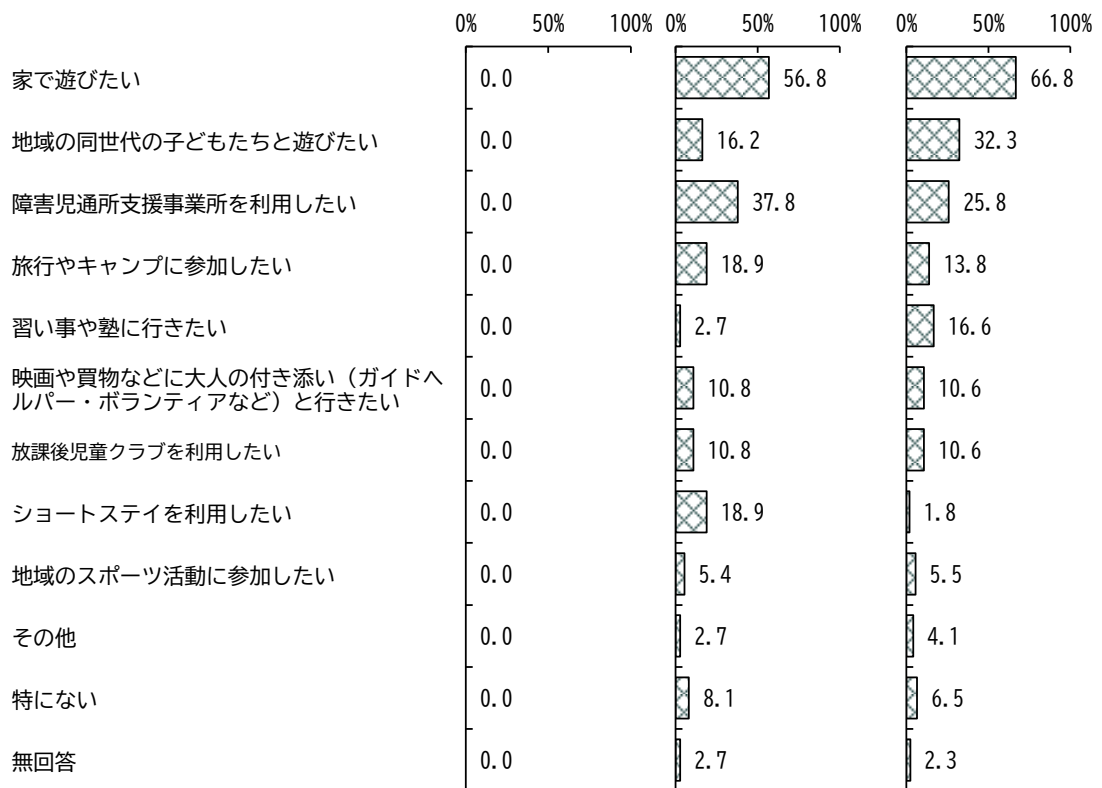


【障がい種別】

身体障がい者(n=14) 知的障がい者(n=81) 精神障がい者(n=9)



難病患者(n=0) 重症心身障がい児者(n=37) 発達障がい者(n=217)

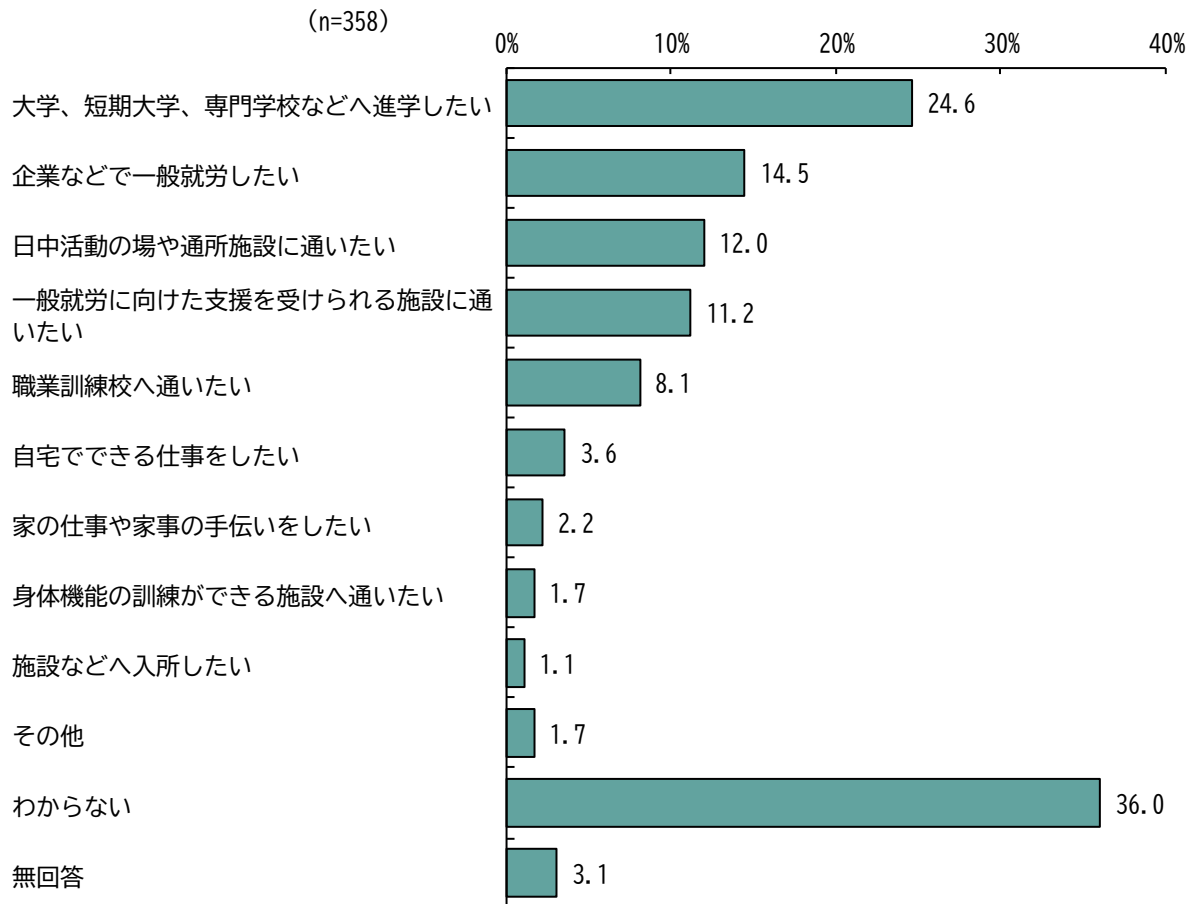


(5) 高等学校などを修了した後の進路希望

(問15～問18は、18歳未満の方がお答えください。)

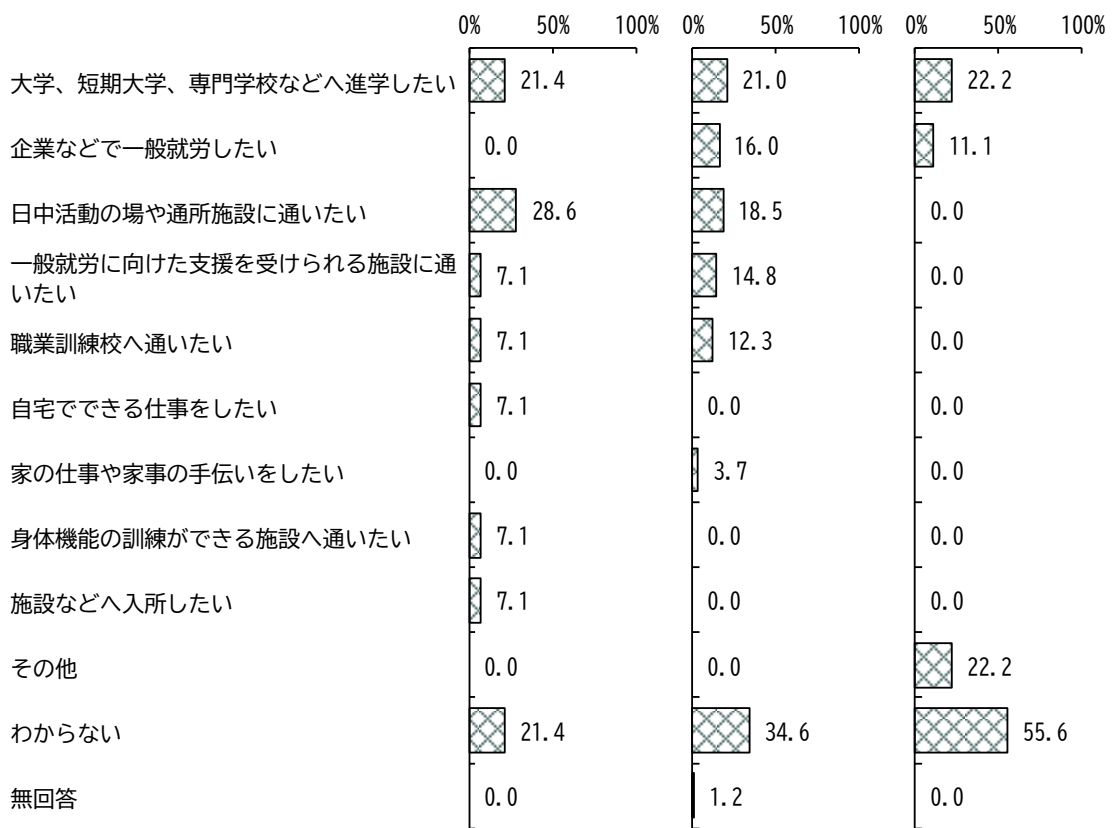
問17 あなたが高等学校などを修了した後の進路希望は次のどれですか。(○は1つ)

「わからない」が36.0%と最も多く、次いで「大学、短期大学、専門学校などへ進学したい」が24.6%、「企業などで一般就労したい」が14.5%などとなっています。

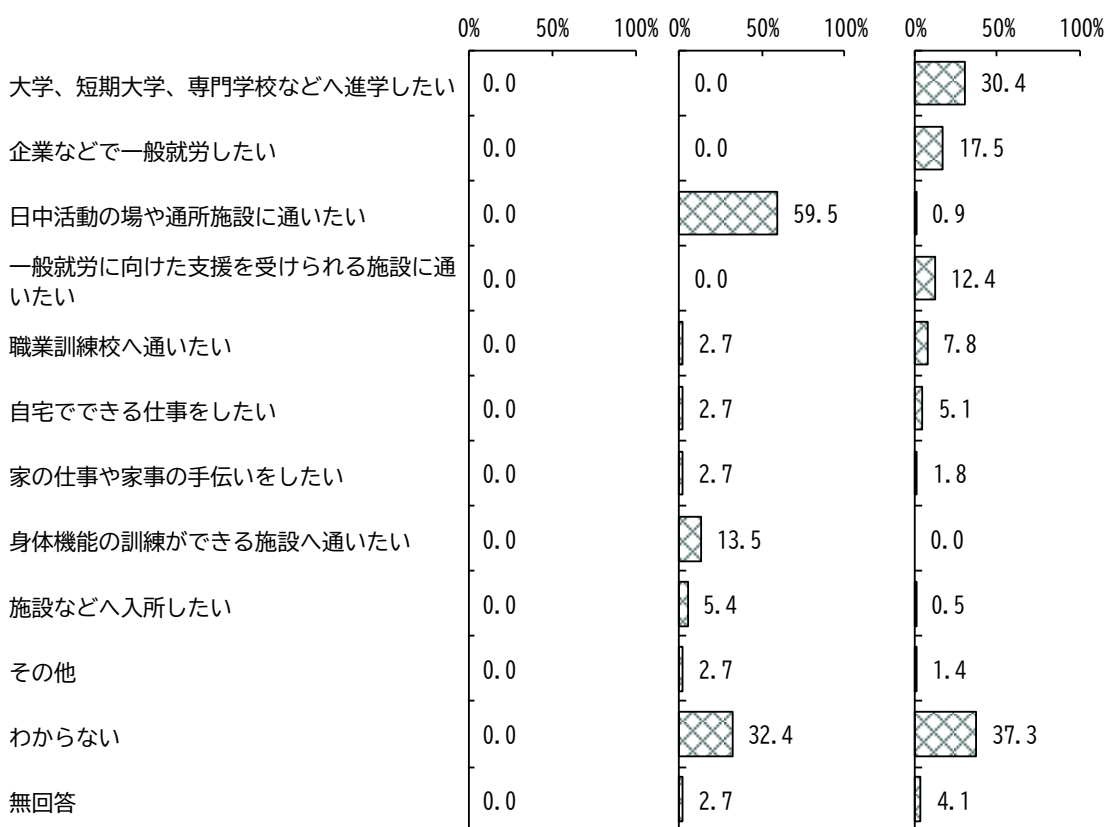


障がい種別にみると、“身体障がい者”、“重症心身障がい児者”では「日中活動の場や通所施設に通いたい」が最も多くなっています。

【障がい種別】 身体障がい者(n=14) 知的障がい者(n=81) 精神障がい者(n=9)



難病患者(n=0) 重症心身障がい児者(n=37) 発達障がい者(n=217)

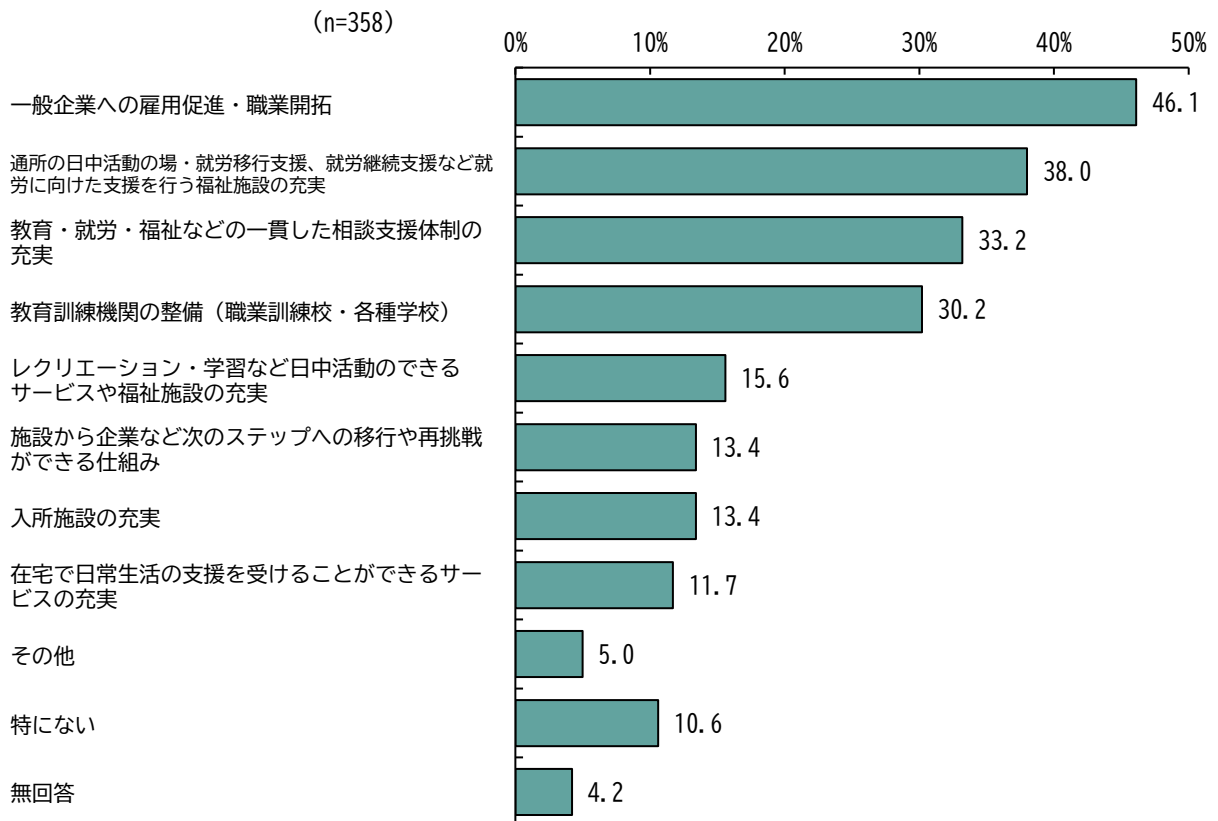


(6) 将来の進路のために希望すること

(問15～問18は、18歳未満の方がお答えください。)

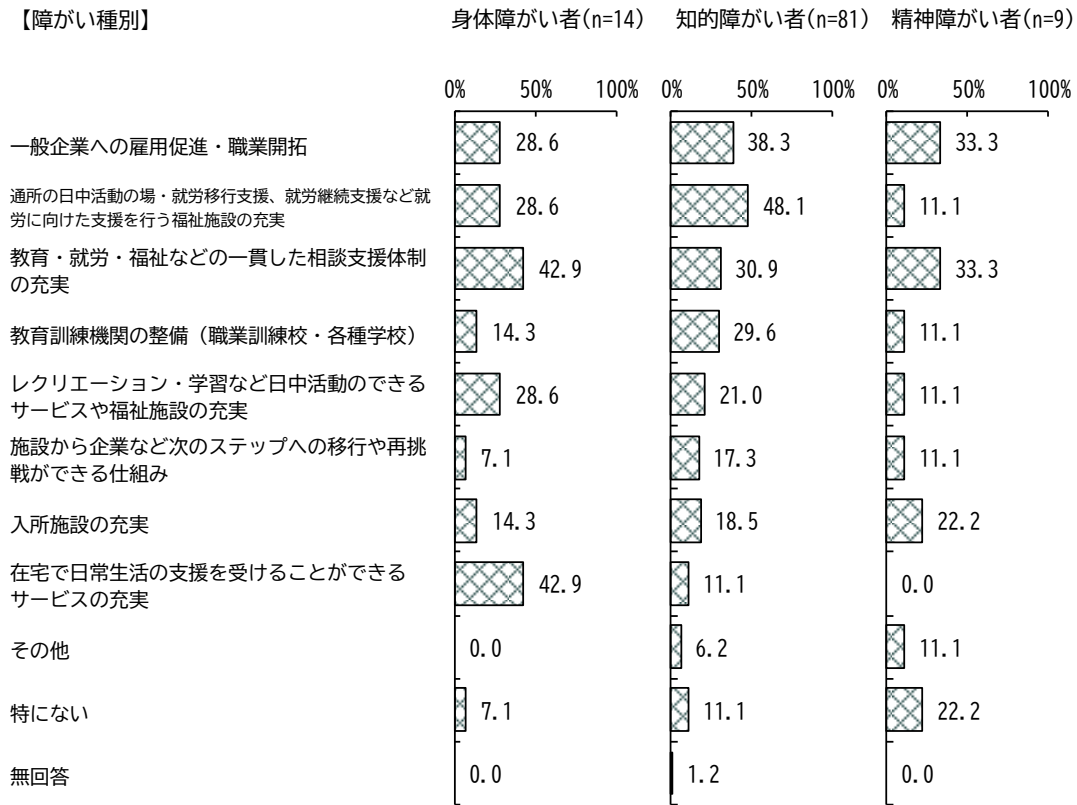
問18 学校教育終了後の進路のために、行政や社会に求めることは何ですか。(〇は3つまで)

「一般企業への雇用促進・職業開拓」が46.1%と最も多く、次いで「通所の日中活動の場・就労移行支援、就労継続支援など就労に向けた支援を行う福祉施設の充実」が38.0%、「教育・就労・福祉などの一貫した相談支援体制の充実」が33.2%などとなっています。

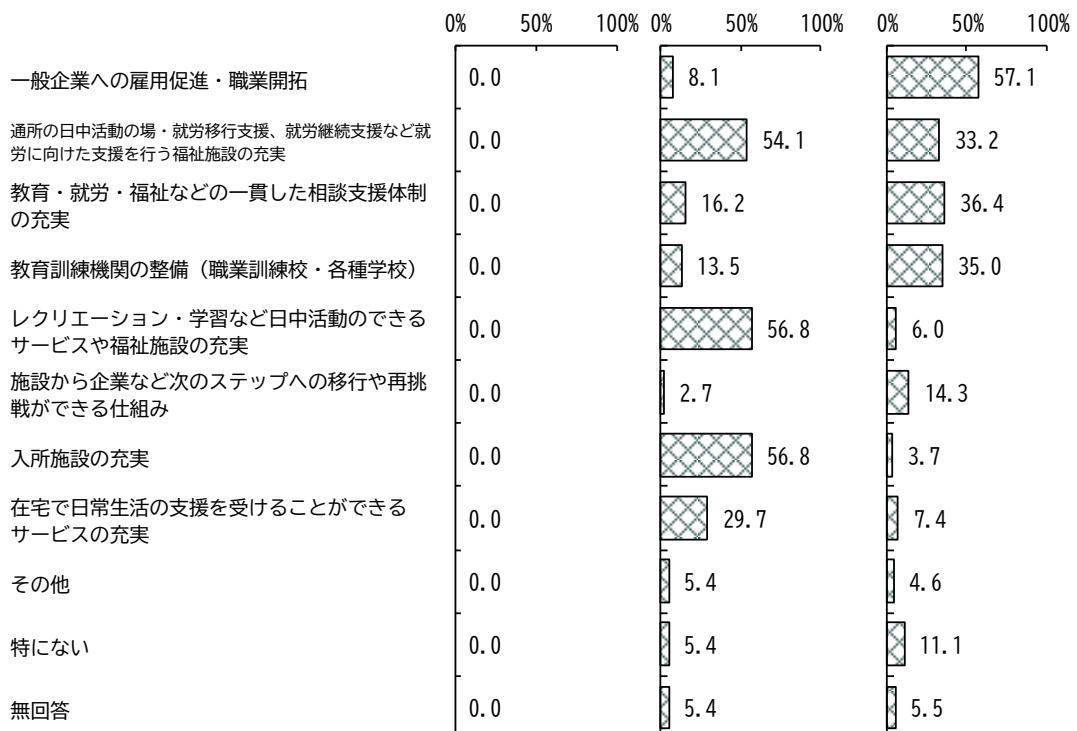


障がい種別にみると、“身体障がい者”では「教育・就労・福祉などの一貫した相談支援体制の充実」、「在宅で日常生活の支援を受けることができるサービスの充実」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”では「通所の日中活動の場・就労移行支援、就労継続支援など就労に向けた支援を行う福祉施設の充実」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「一般企業への雇用促進・職業開拓」、「教育・就労・福祉などの一貫した相談支援体制の充実」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「レクリエーション・学習など日中活動のできるサービスや福祉施設の充実」、「入所施設の充実」が最も多くなっています。

【障がい種別】



難病患者(n=0) 重症心身障がい児者(n=37) 発達障がい者(n=217)

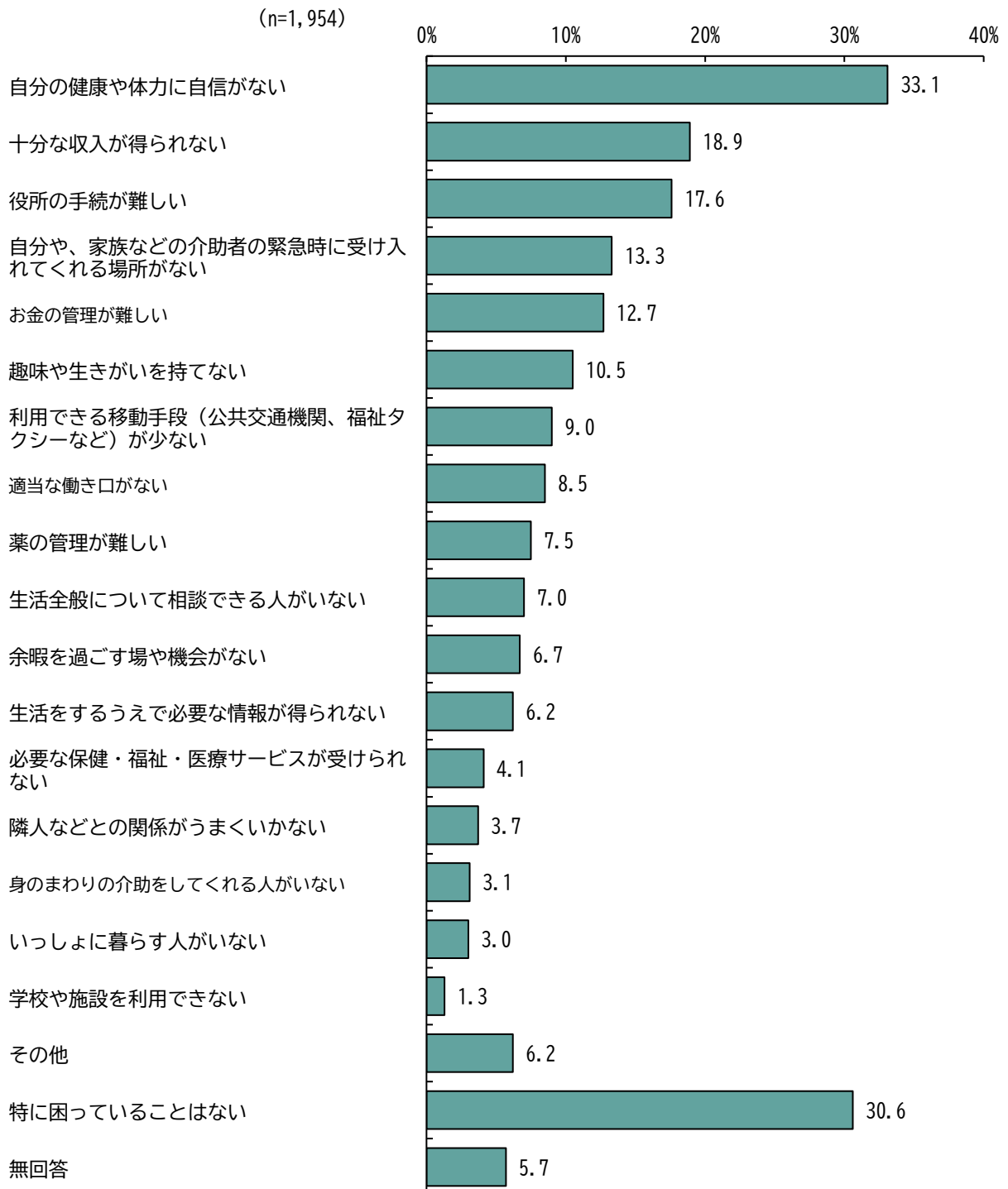


5 相談や福祉の情報について

(1) いまの生活で困っていること

問19 あなたは、いまの生活で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

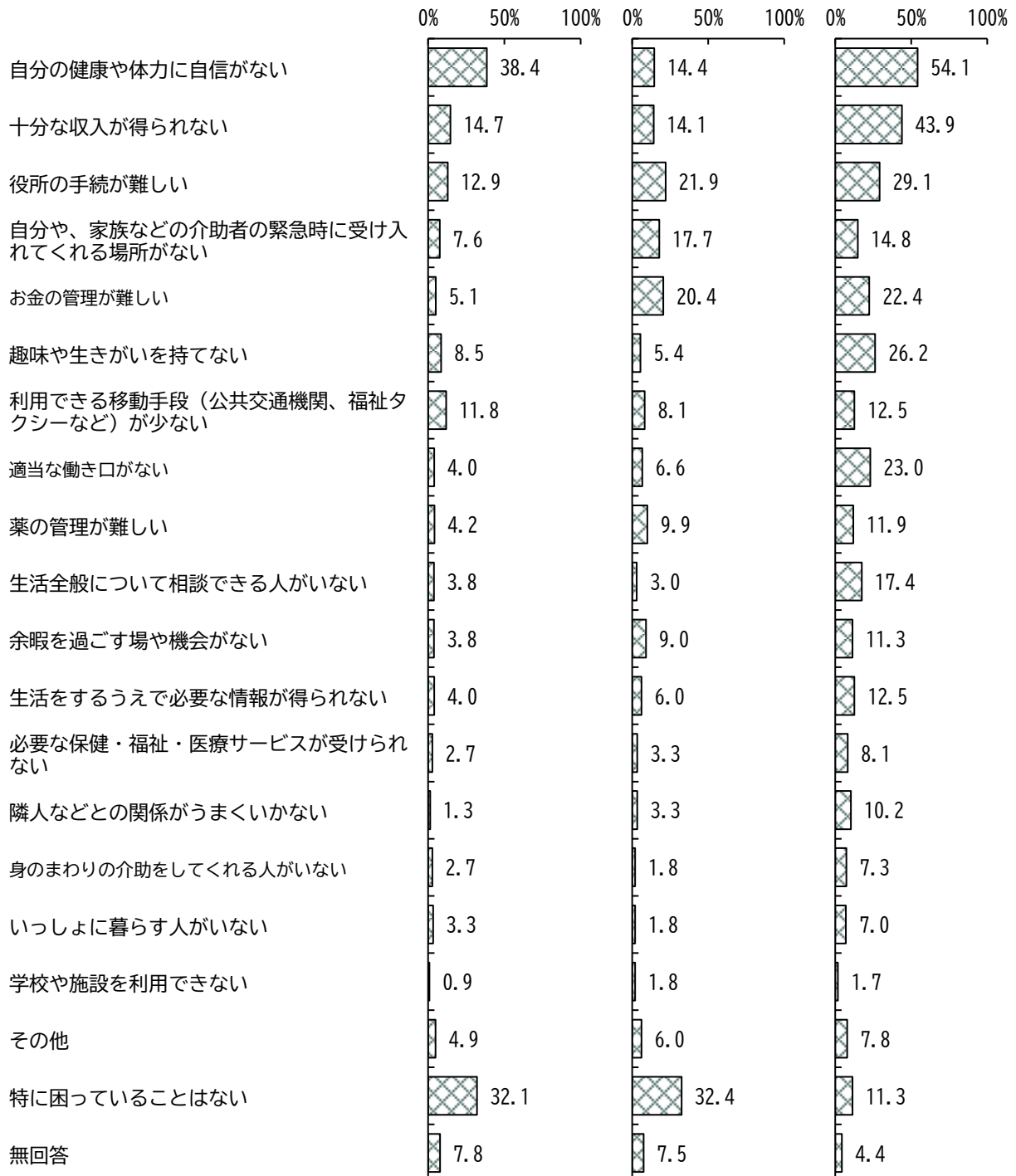
「自分の健康や体力に自信がない」が33.1%と最も多く、次いで「十分な収入が得られない」が18.9%、「役所の手続きが難しい」が17.6%などとなっています。また、「特に困っていることはない」が30.6%となっています。



障がい種別にみると、“知的障がい者”、“発達障がい者”では「特に困っていることはない」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「自分や、家族などの介助者の緊急時に受け入れてくれる場所がない」が最も多くなっています。

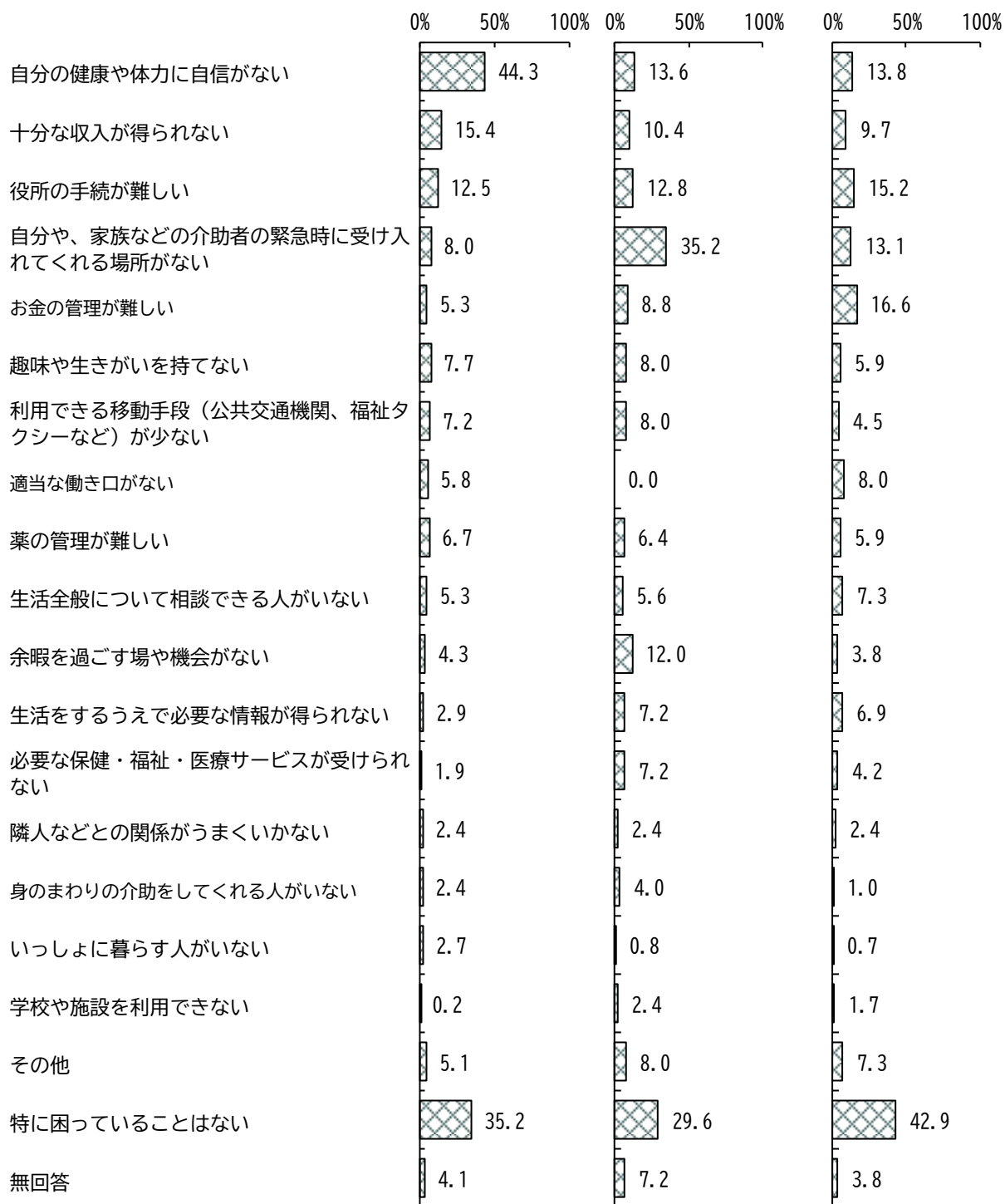
【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



【障がい種別】

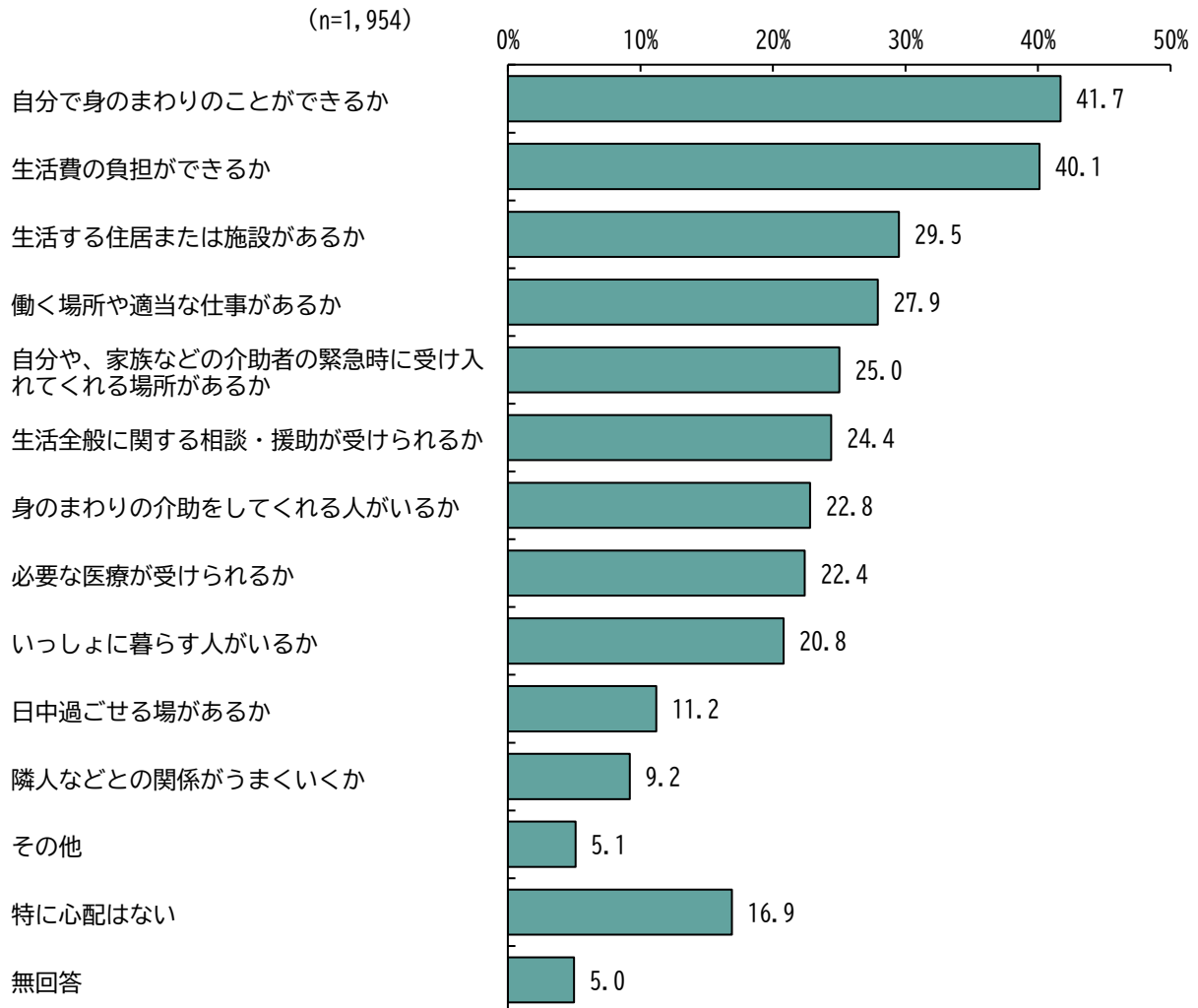
難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



(2) 将来の生活で心配なこと

問20 あなたは、将来の生活で心配なことはありますか。(〇はいくつでも)

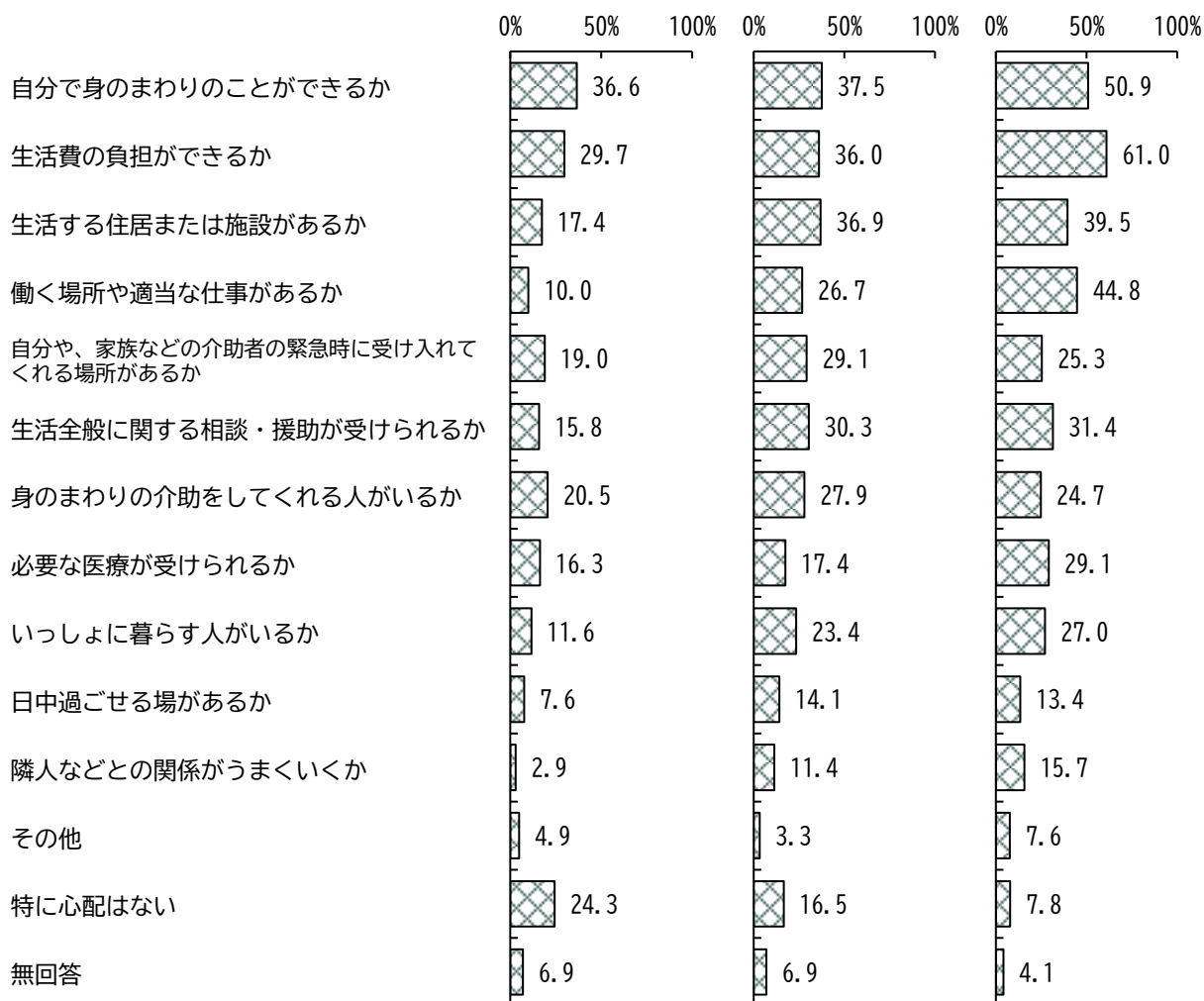
「自分で身のまわりのことができるか」が41.7%と最も多く、次いで「生活費の負担ができるか」が40.1%、「生活する住居または施設があるか」が29.5%などとなっています。



障がい種別にみると、“精神障がい者”では「生活費の負担ができるか」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「生活する住居または施設があるか」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「働く場所や適当な仕事があるか」が最も多くなっています。

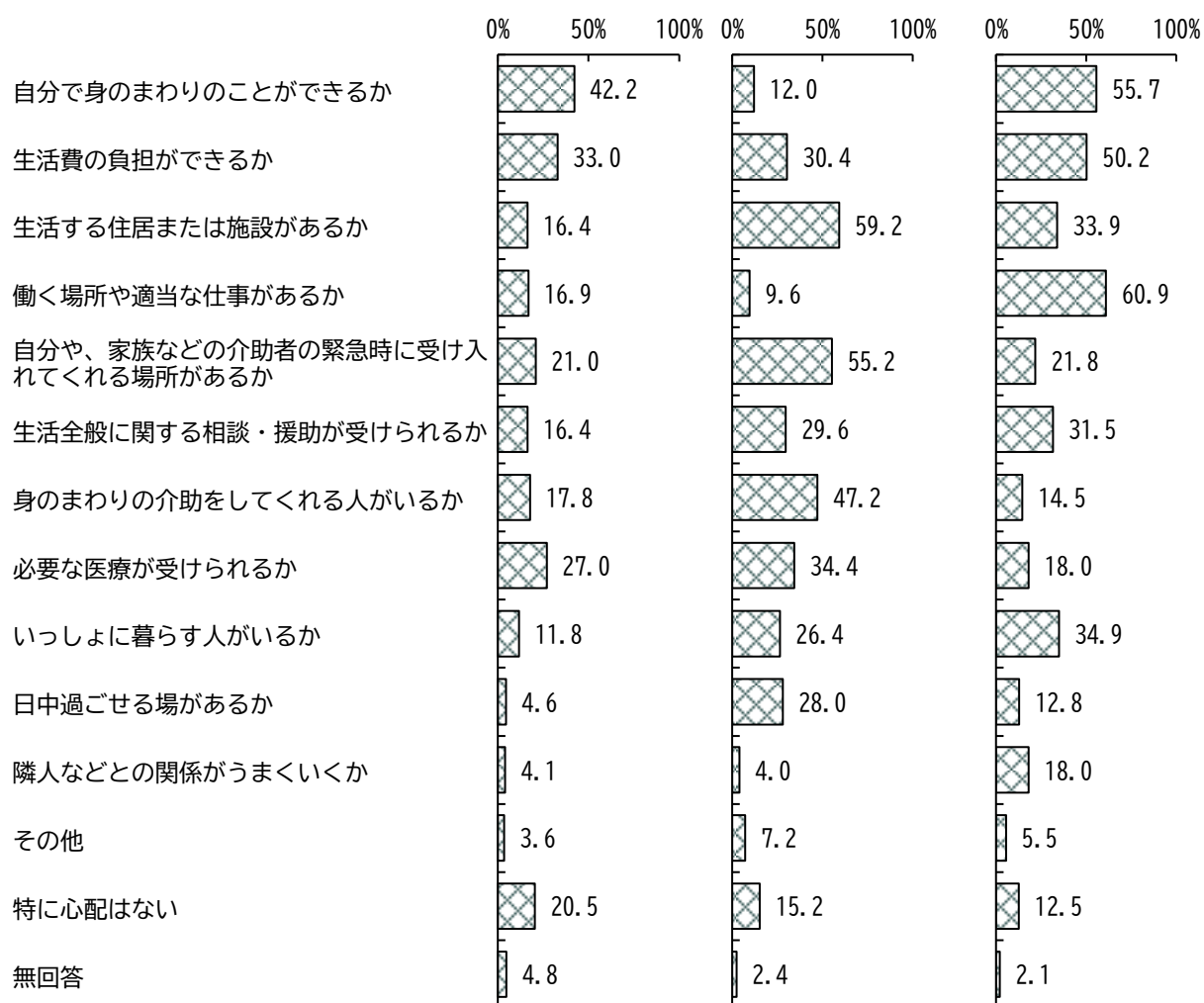
【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)

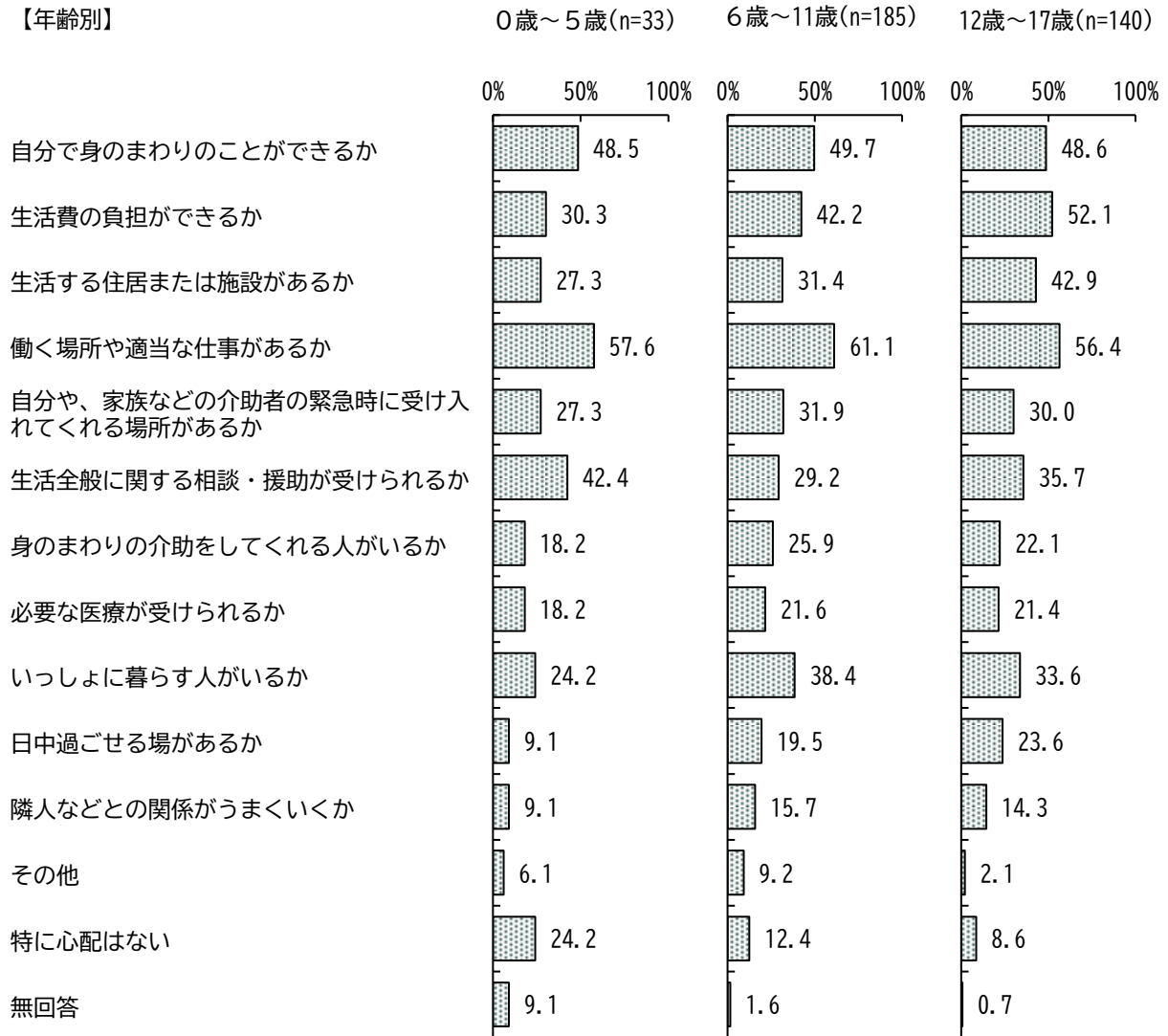


【障がい種別】

難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



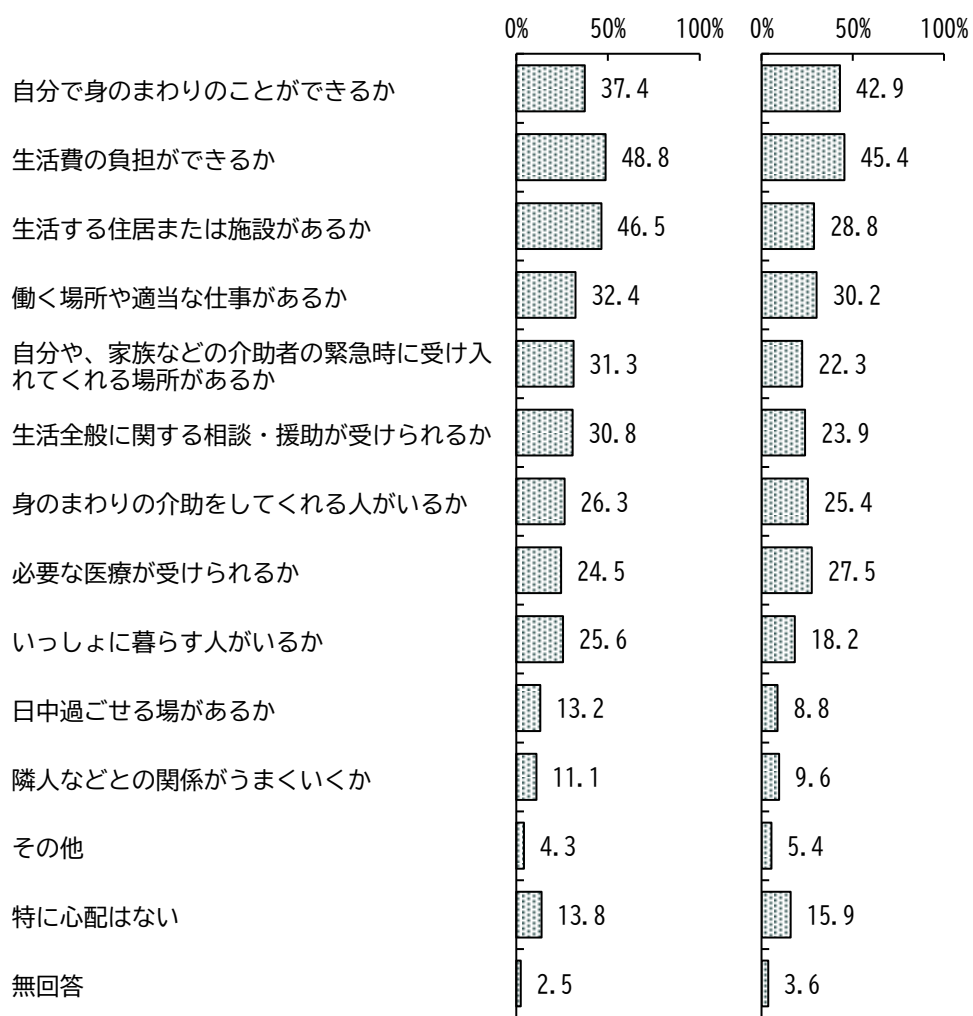
年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「働く場所や適当な仕事があるか」が最も多くなっています。また、“18歳～39歳”、“40歳～64歳”では「生活費の負担ができるか」が最も多くなっています。



【年齢別】

18歳～39歳(n=441)

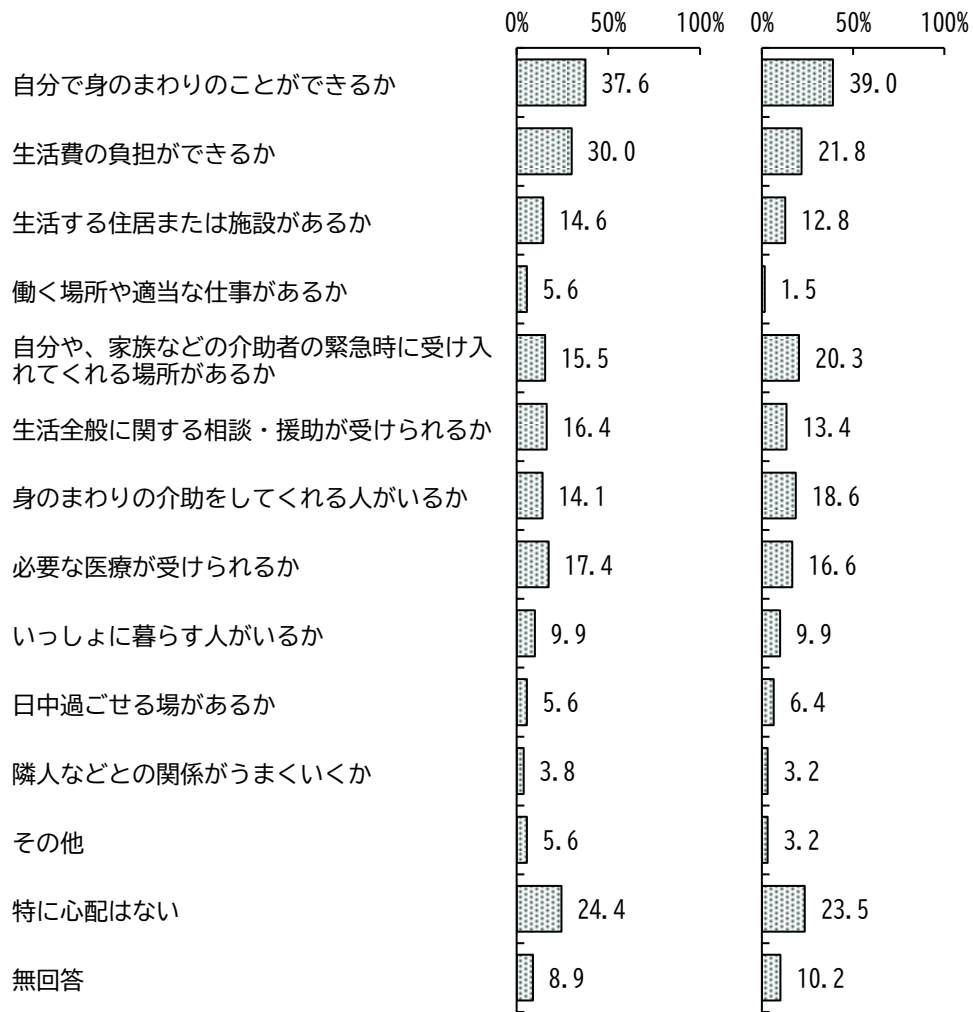
40歳～64歳(n=560)



【年齢別】

65歳～74歳(n=213)

75歳以上(n=344)

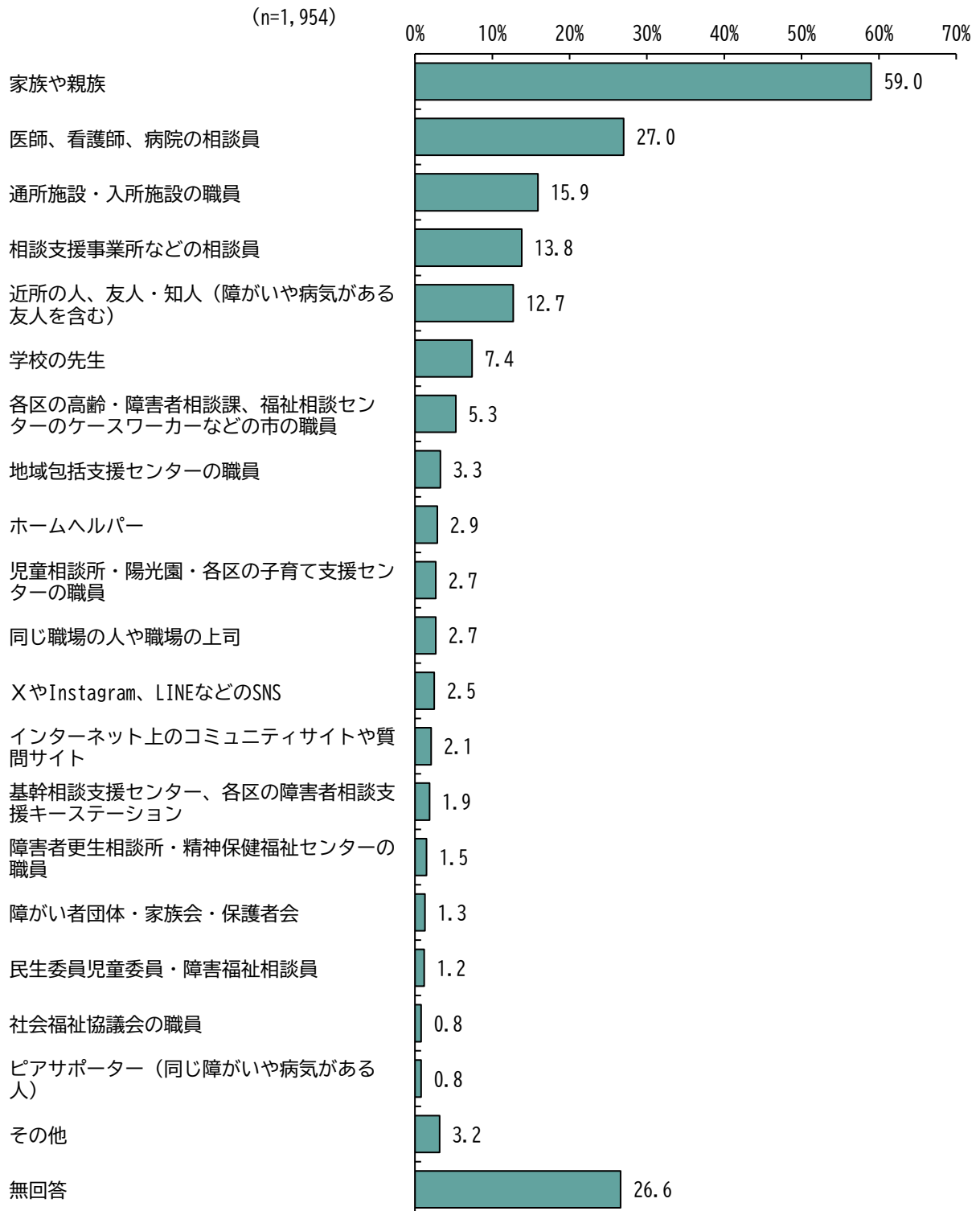


(3) 現在の困りごとや将来の心配の相談相手

問21 あなたは問19・問20のいま困っていることや将来の心配について、だれに相談していますか。また、だれに相談したいと考えていますか。(①②のそれぞれについて〇はいくつでも)

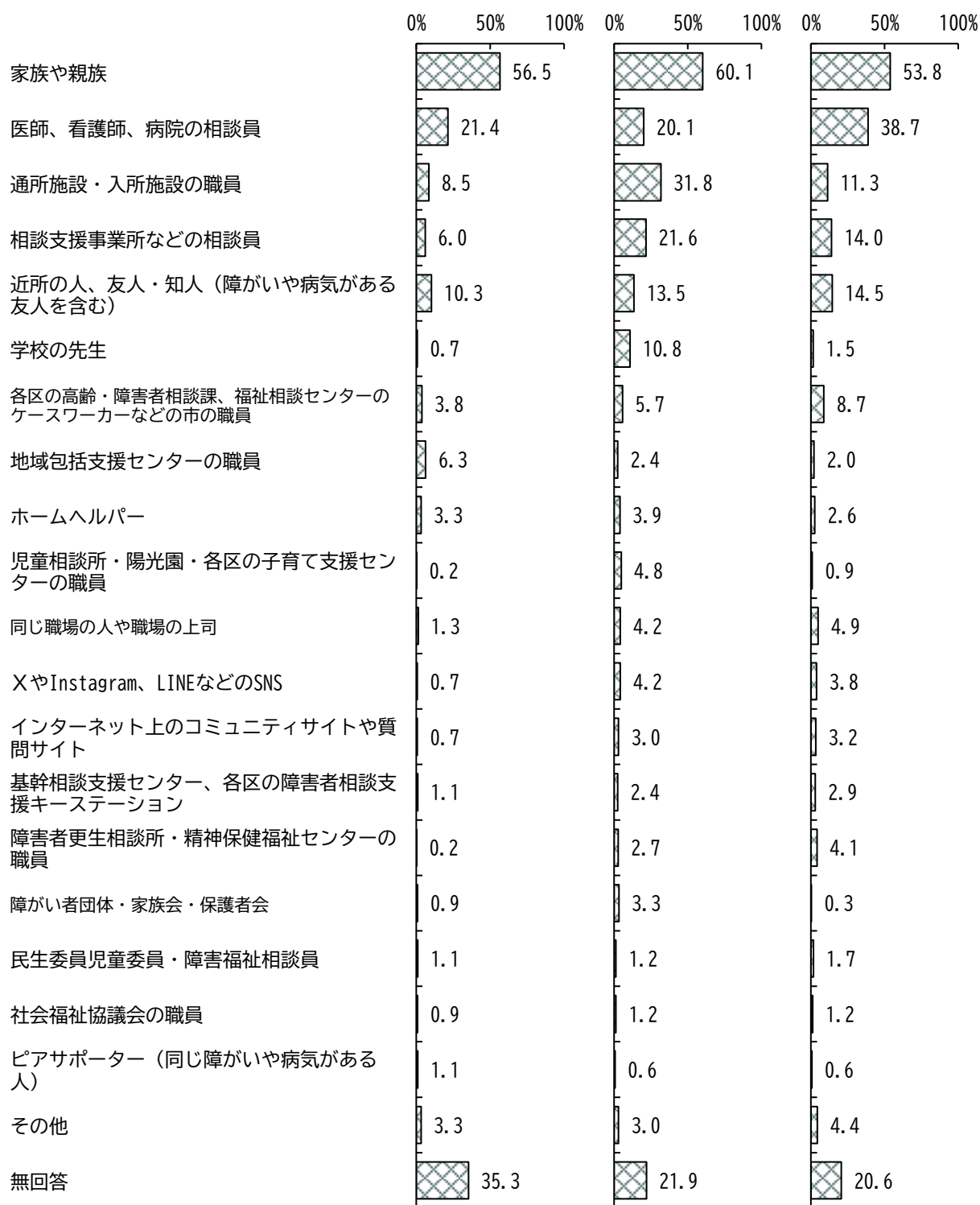
①相談している人

「家族や親族」が59.0%と最も多く、次いで「医師、看護師、病院の相談員」が27.0%、「通所施設・入所施設の職員」が15.9%などとなっています。



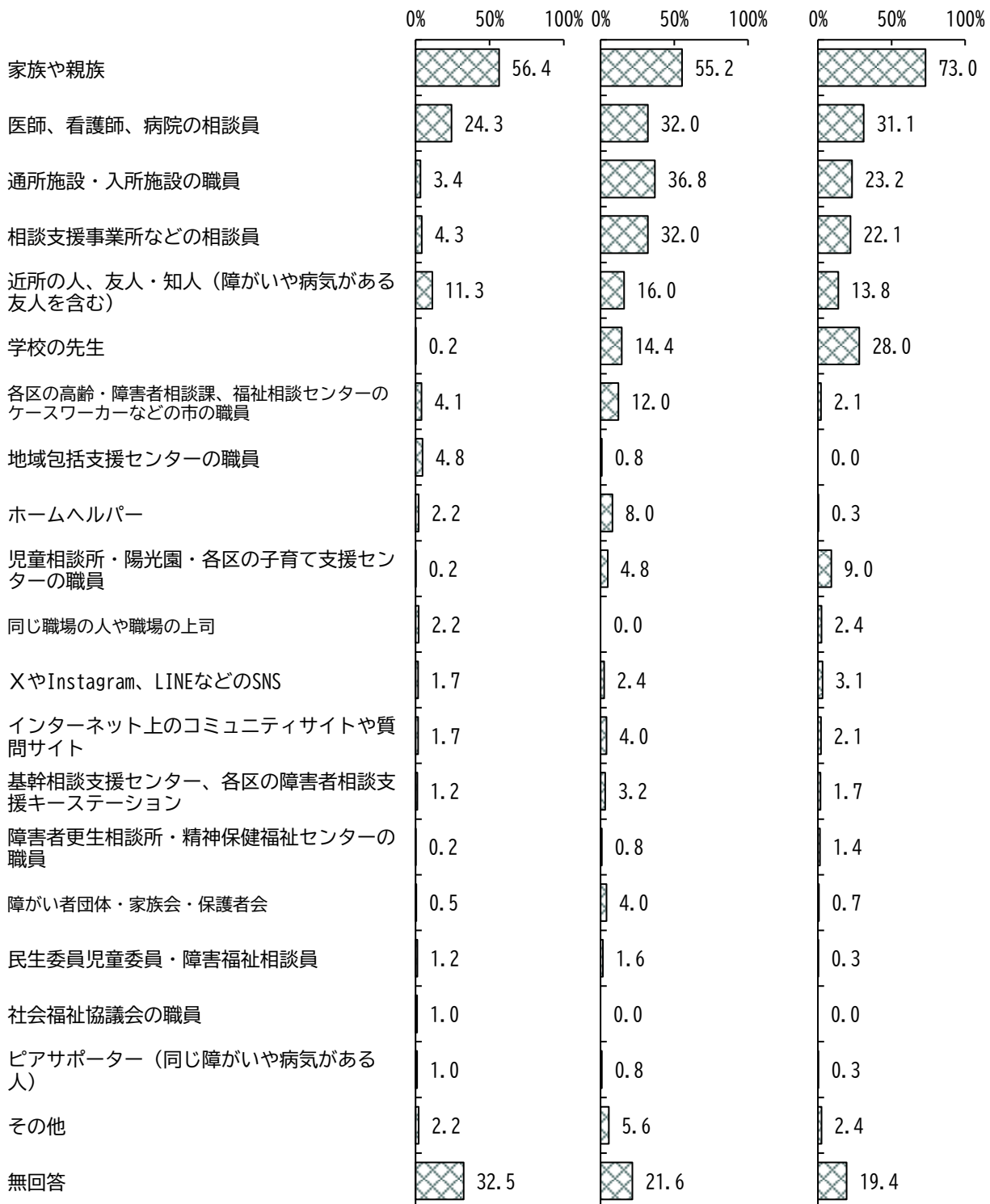
【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



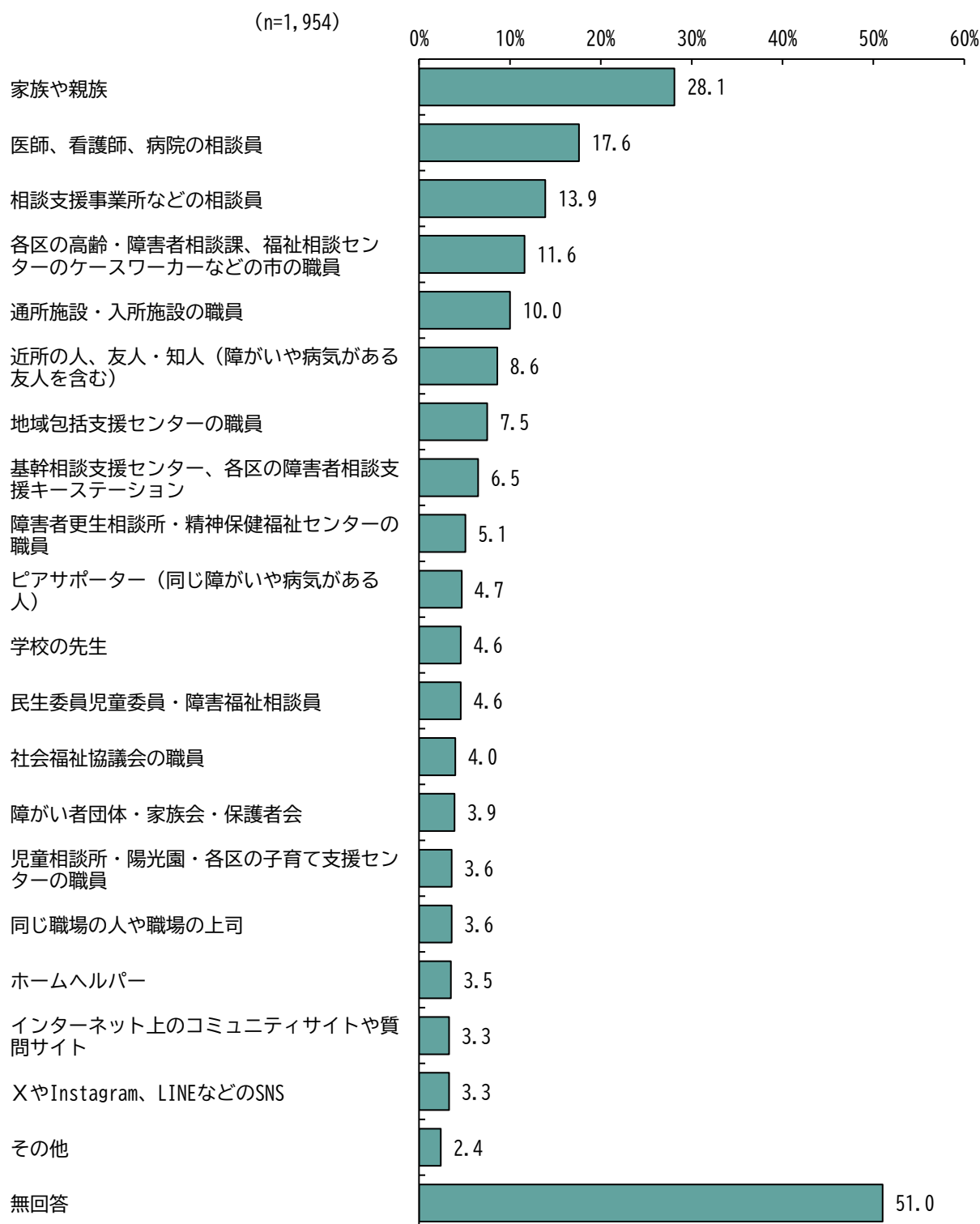
【障がい種別】

難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



②相談したい人

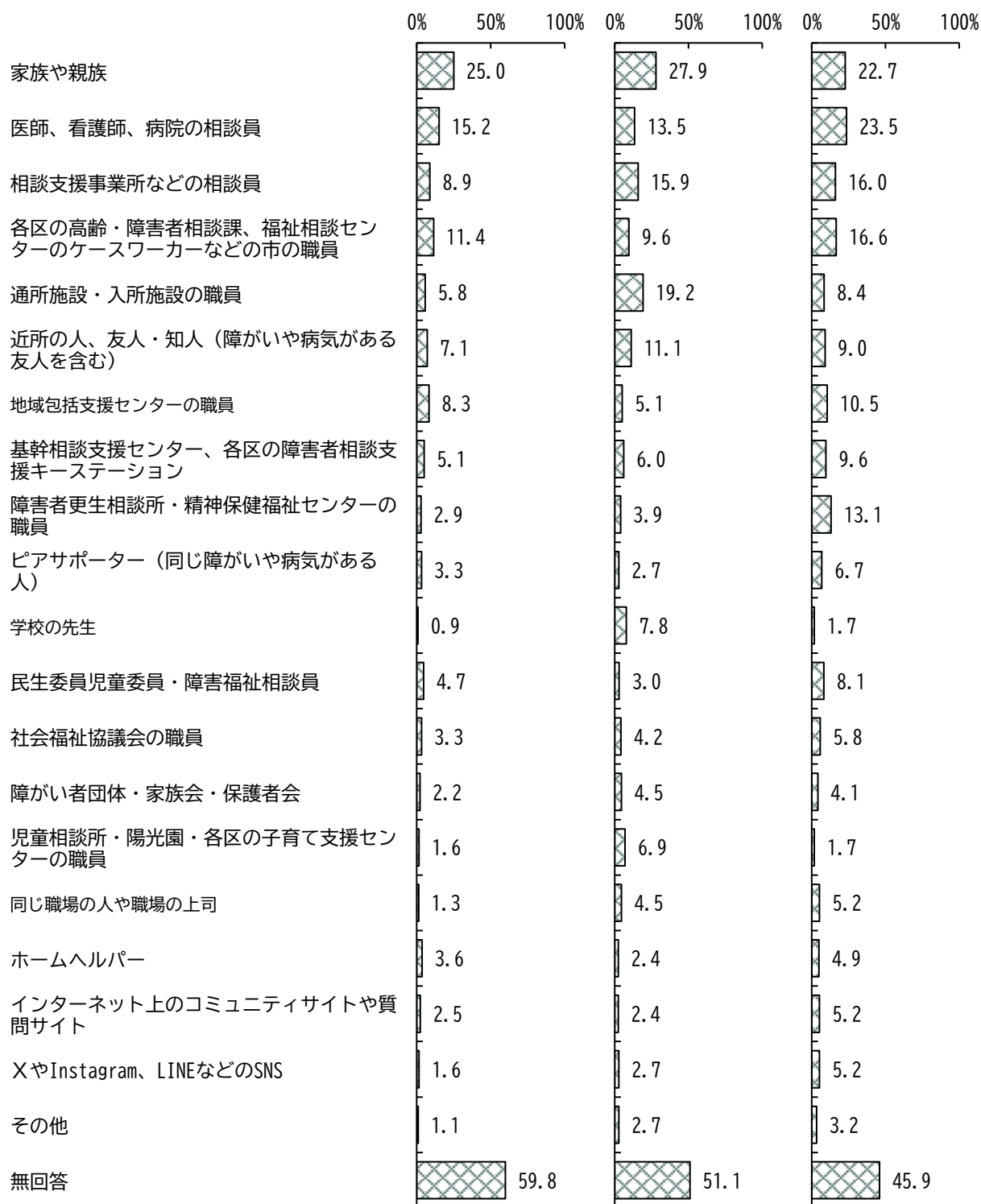
「家族や親族」が28.1%と最も多く、次いで「医師、看護師、病院の相談員」が17.6%、「相談支援事業所などの相談員」が13.9%などとなっています。



障がい種別にみると、“精神障がい者”では「医師、看護師、病院の相談員」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児”では「家族や親族」、「医師、看護師、病院の相談員」が最も多くなっています。

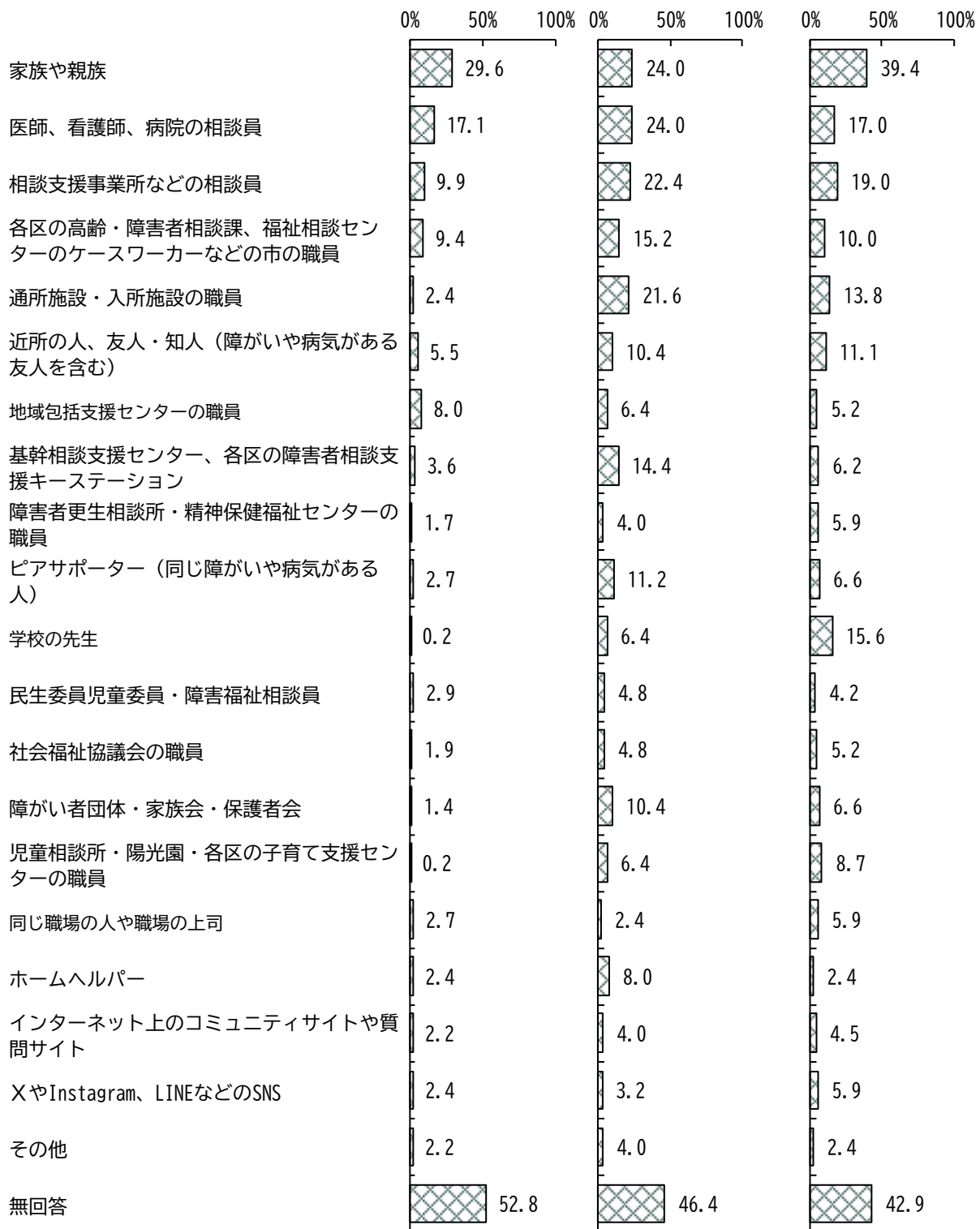
【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



【障がい種別】

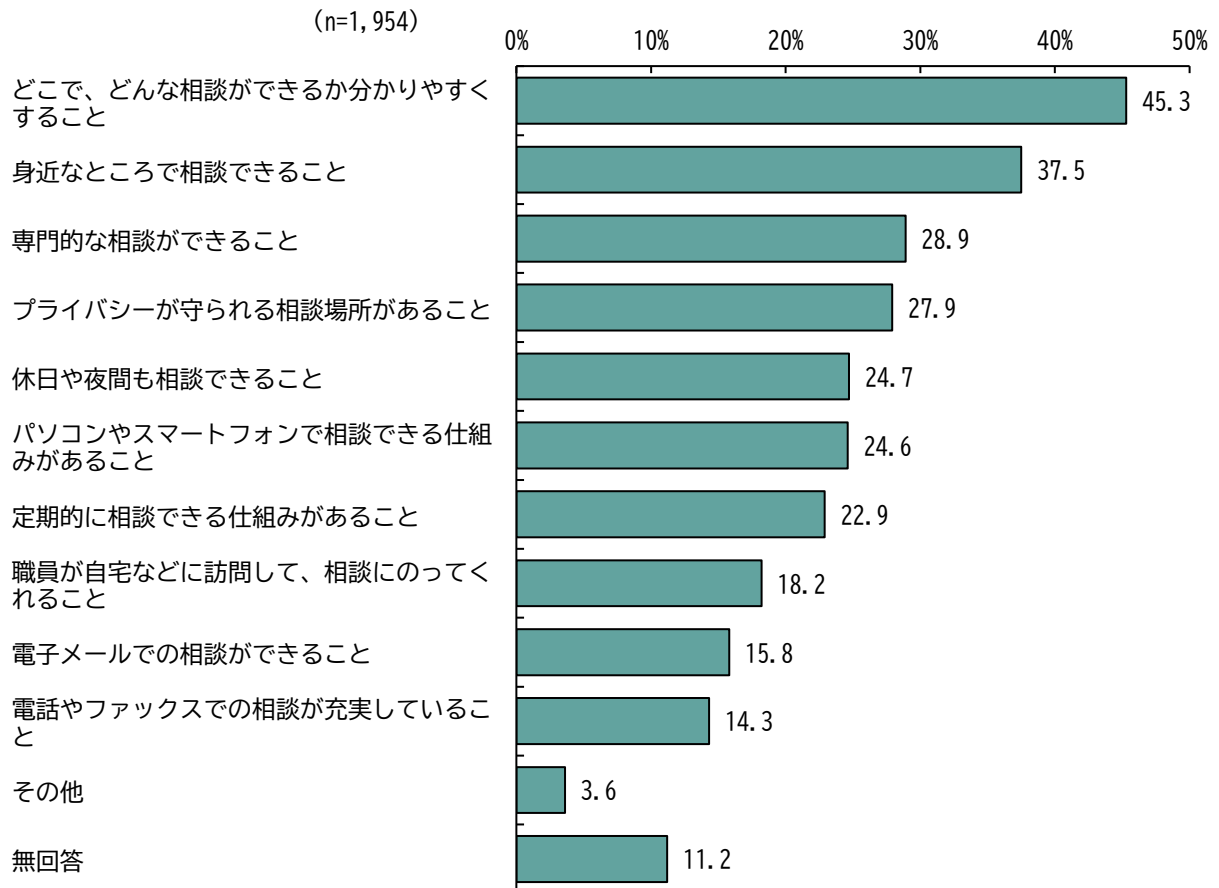
難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



(4) 気軽に相談するために必要だと思うこと

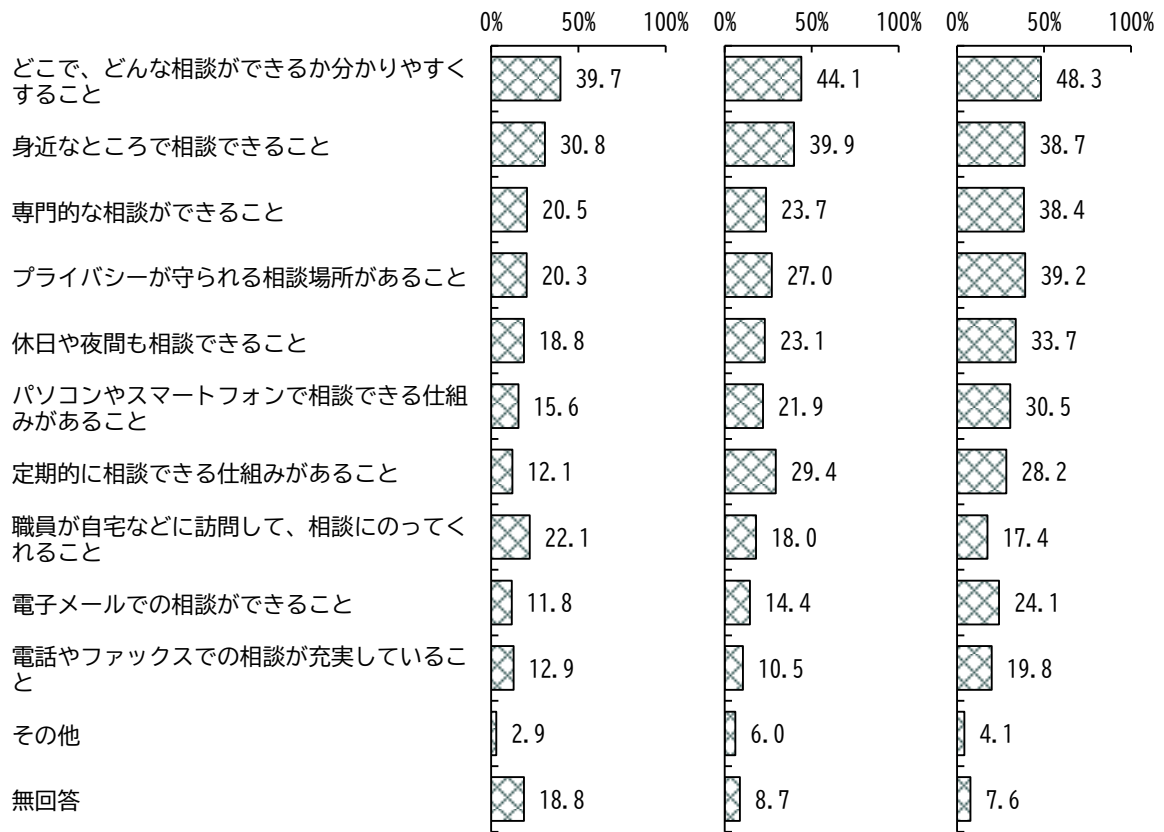
問22 あなたが、困ったときや悩んだときに気軽に相談するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「どこで、どんな相談ができるか分かりやすくすること」が45.3%と最も多く、次いで「身近なところで相談できること」が37.5%、「専門的な相談ができること」が28.9%などとなっています。

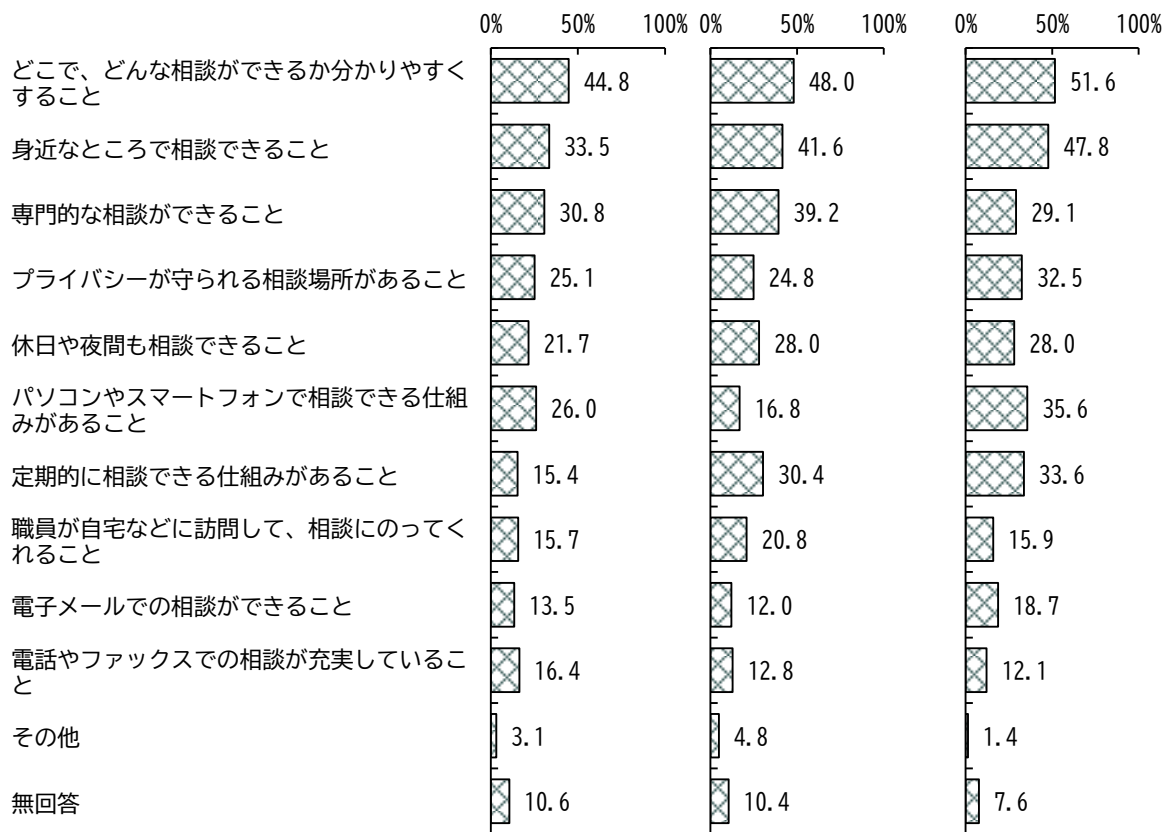


【障がい種別】

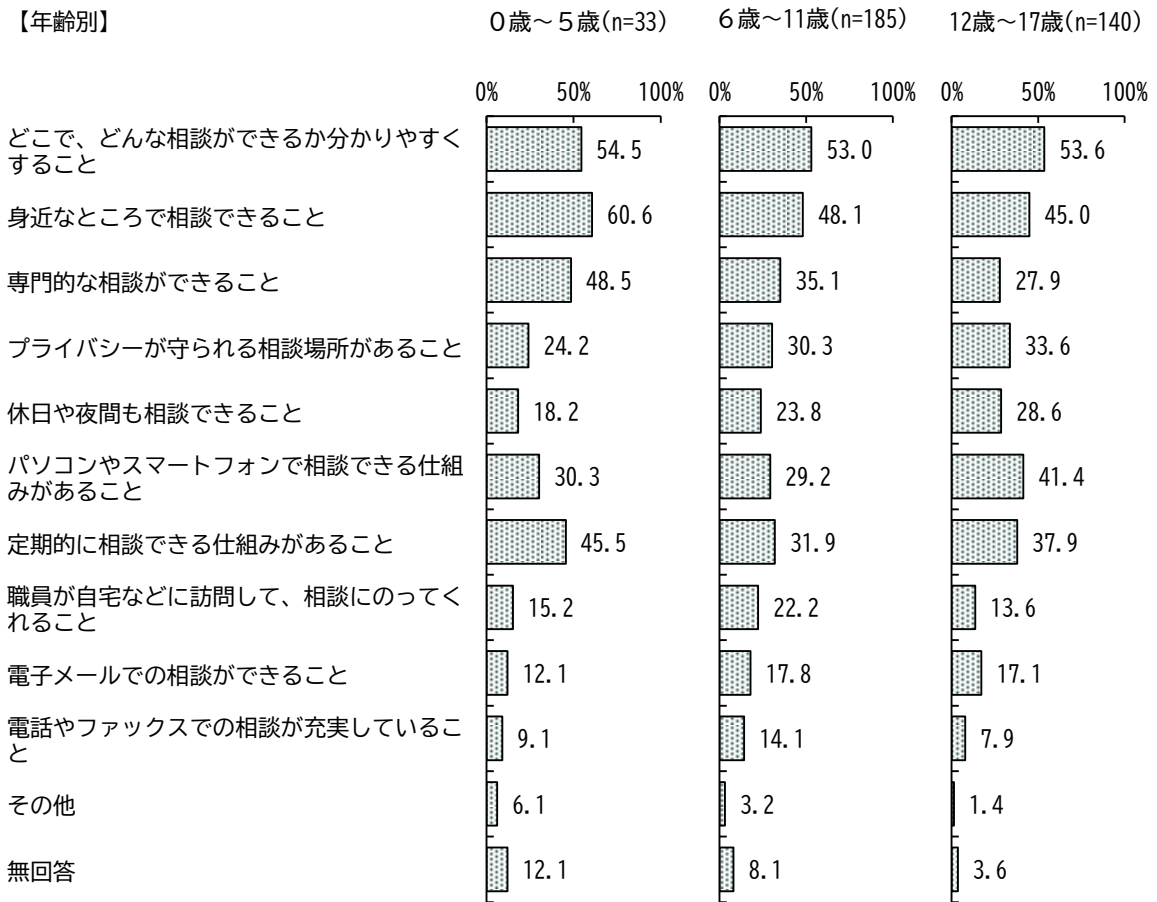
身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



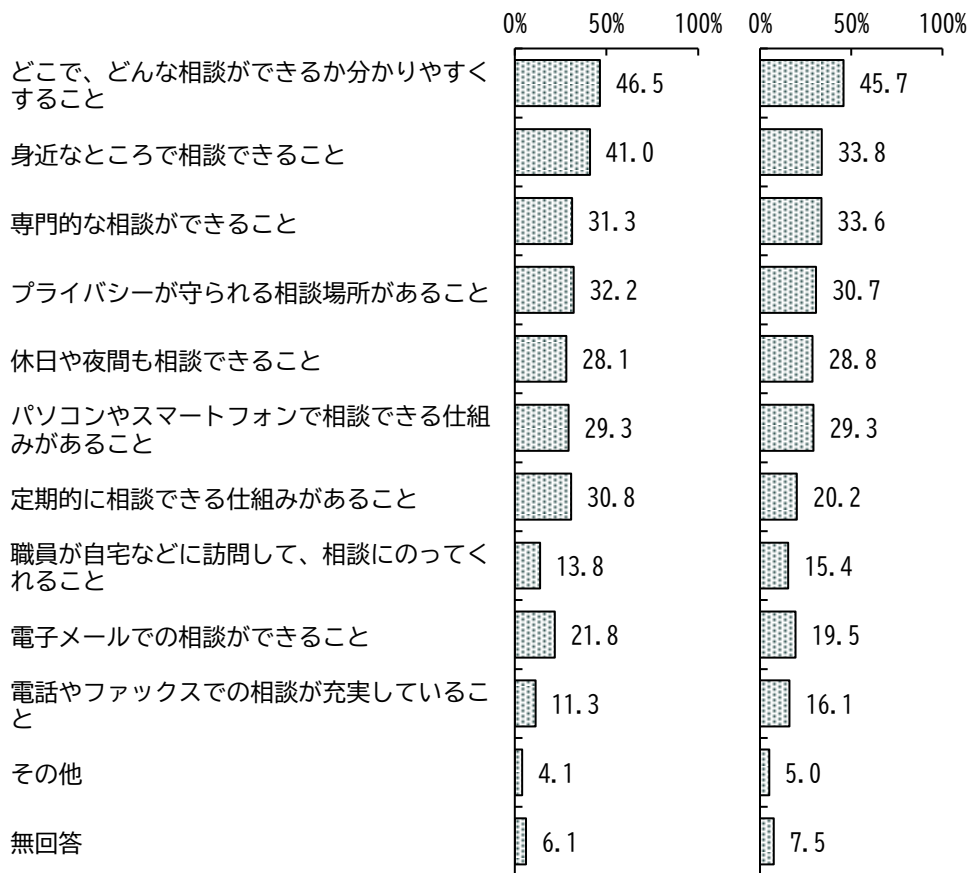
年齢別にみると、“0歳～5歳”では「身近なところで相談できること」が最も多くなっています。



【年齢別】

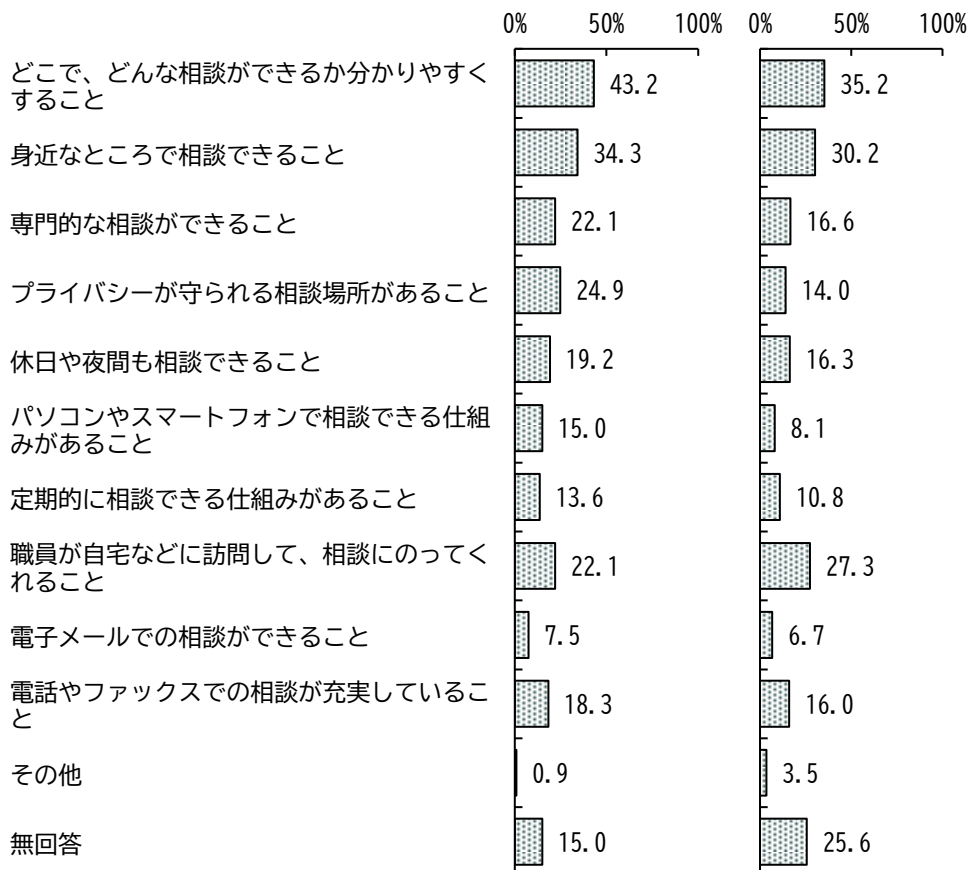
18歳～39歳(n=441)

40歳～64歳(n=560)



65歳～74歳(n=213)

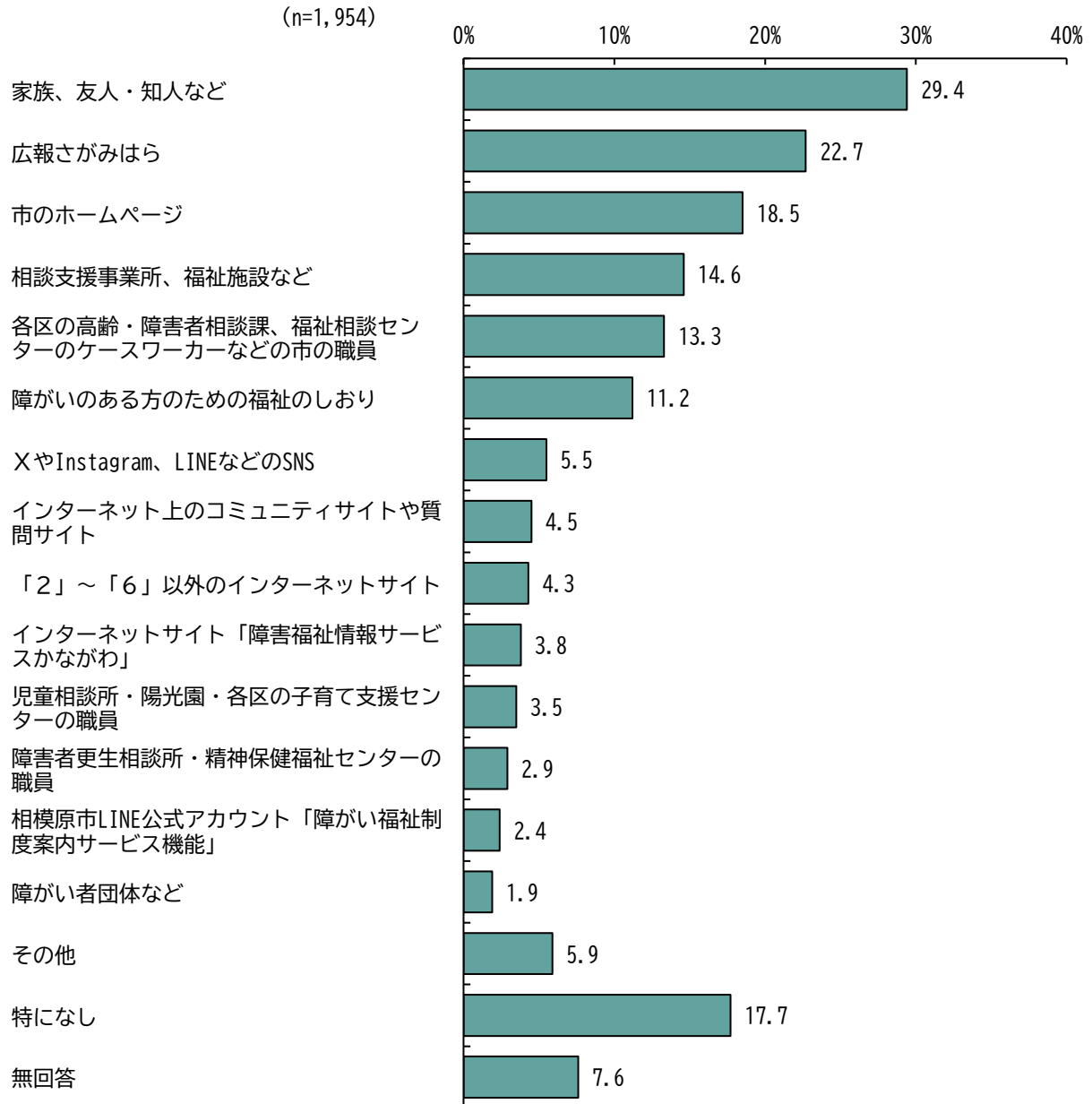
75歳以上(n=344)



(5) 福祉サービスの情報の入手方法

問23 あなたは、福祉サービスの情報を主にどこから入手しますか。(〇はいくつでも)

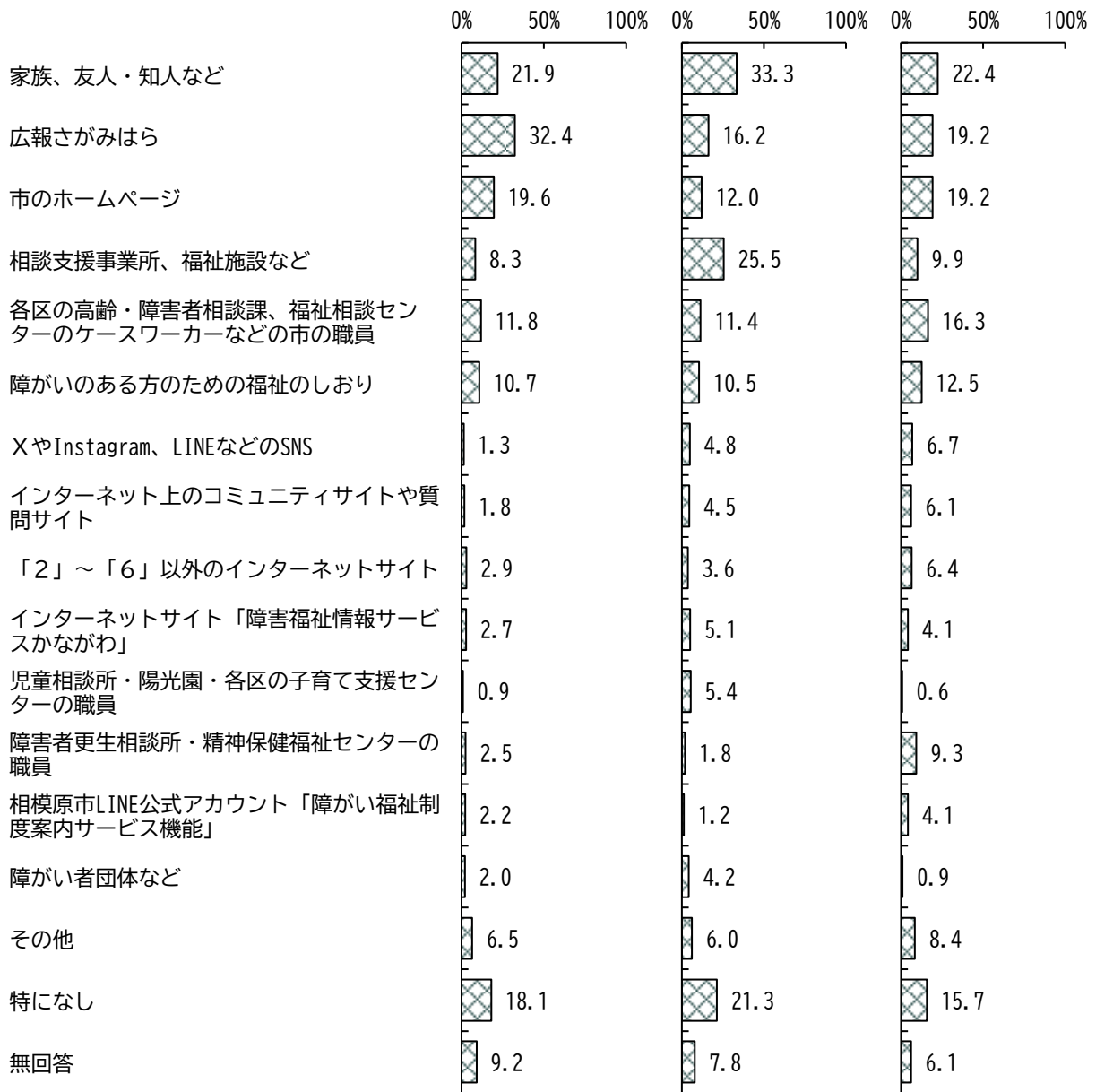
「家族、友人・知人など」が29.4%と最も多く、次いで「広報さがみはら」が22.7%、「市のホームページ」が18.5%などとなっています。



障がい種別にみると、“身体障がい者”、“難病患者”では「広報さがみはら」が最も多くなっています。

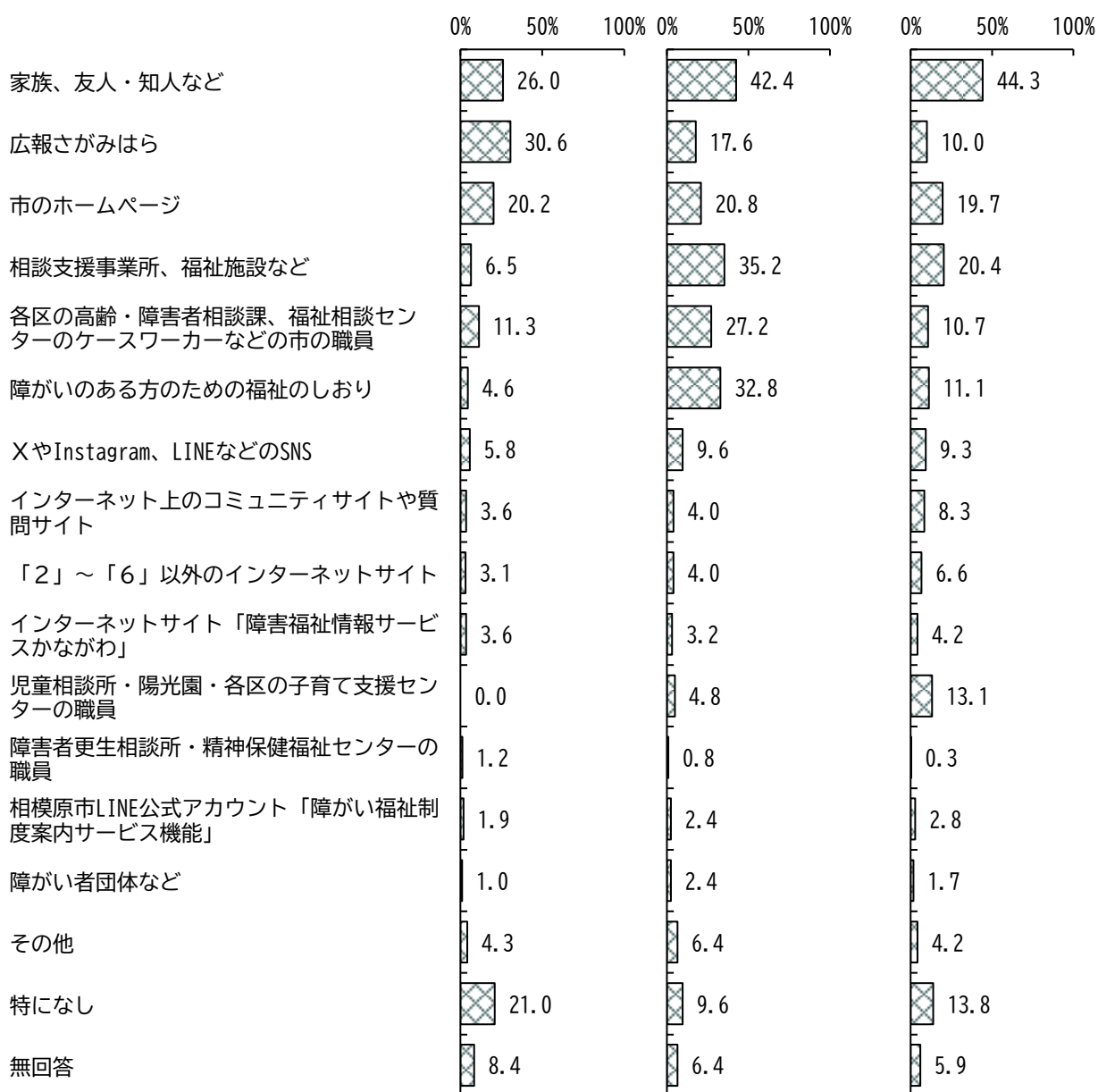
【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)

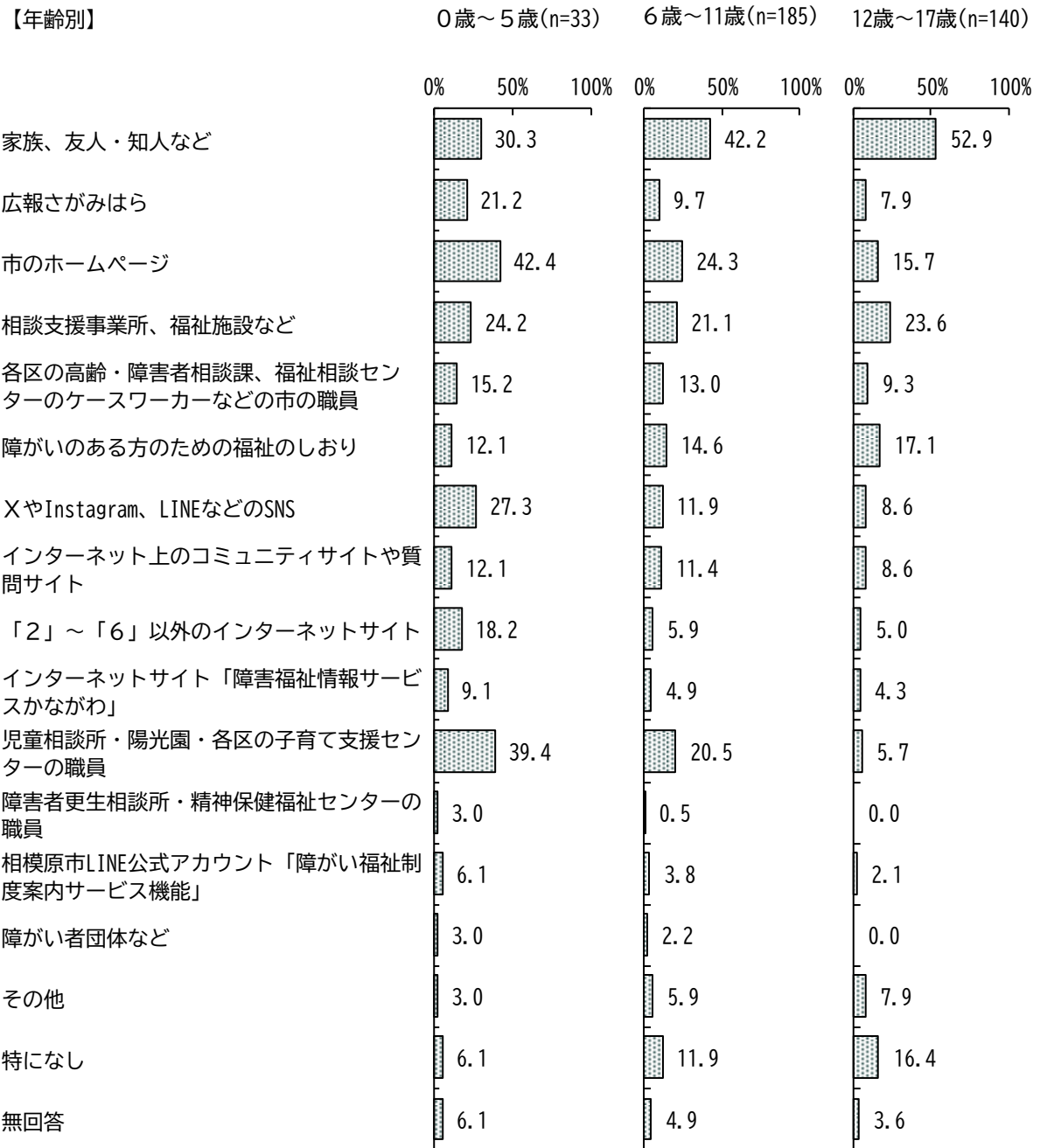


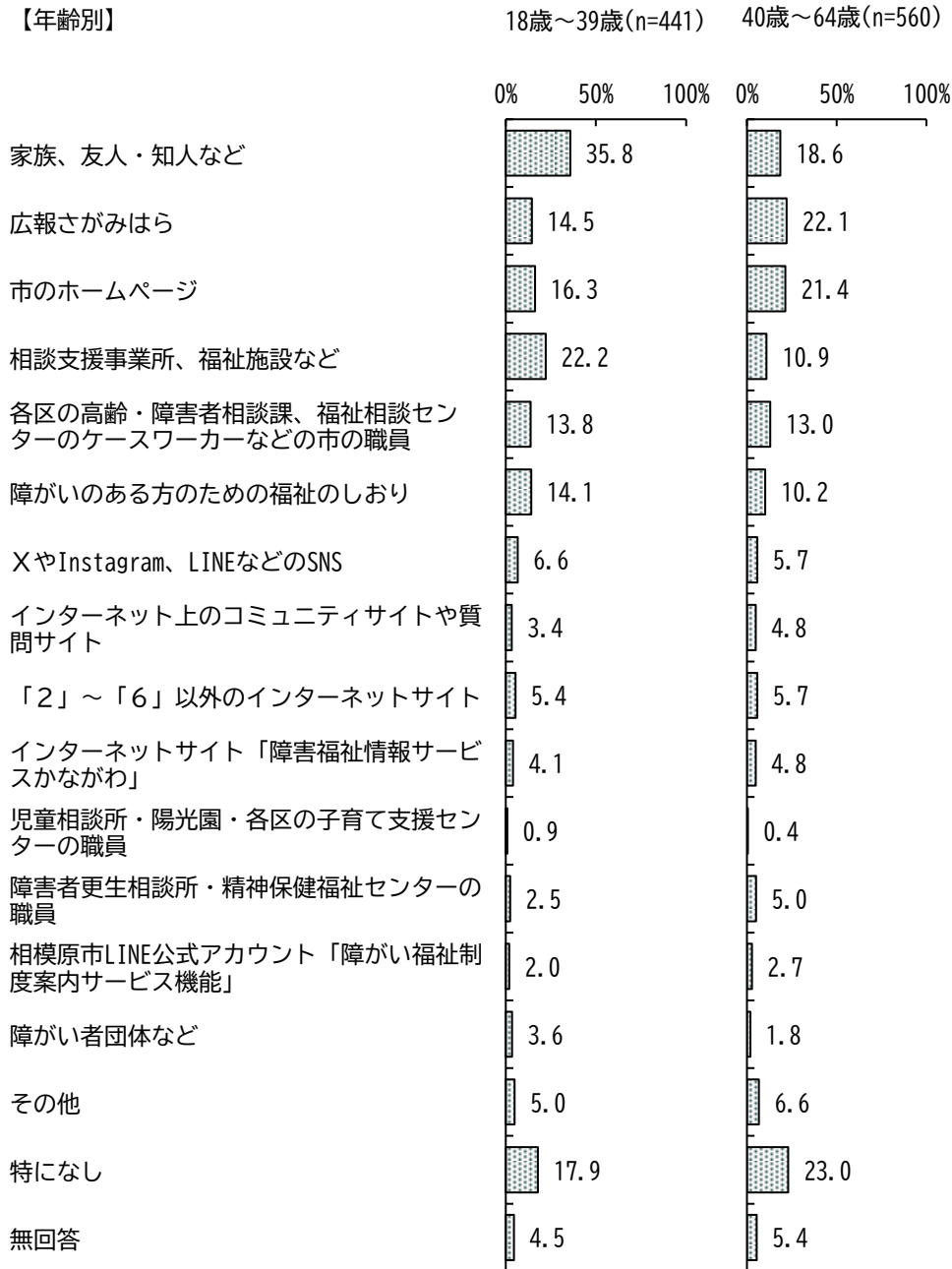
【障がい種別】

難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



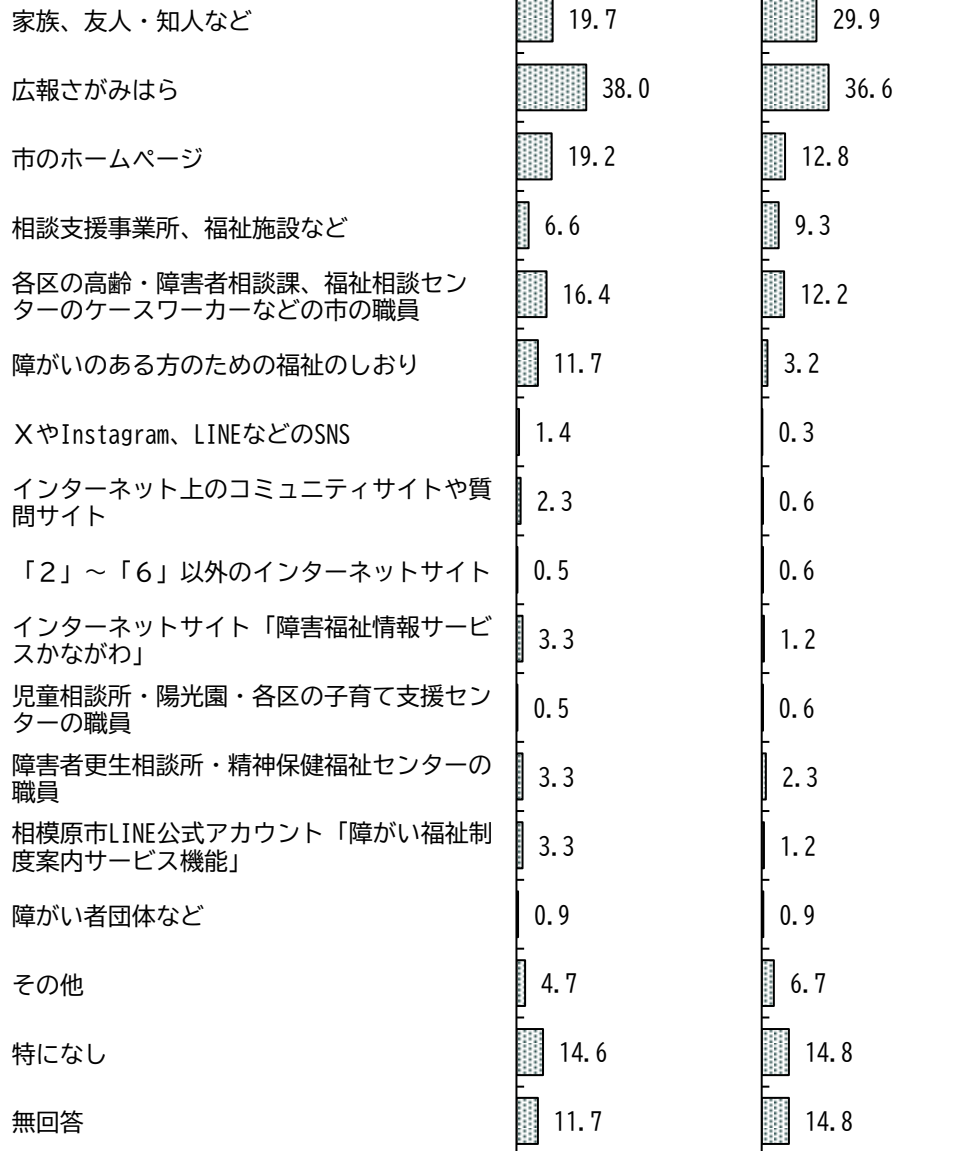
年齢別にみると、“0歳～5歳”では「市のホームページ」が最も多くなっています。また、“40歳～64歳”、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「広報さがみはら」が最も多くなっています。





65歳～74歳(n=213) 75歳以上(n=344)

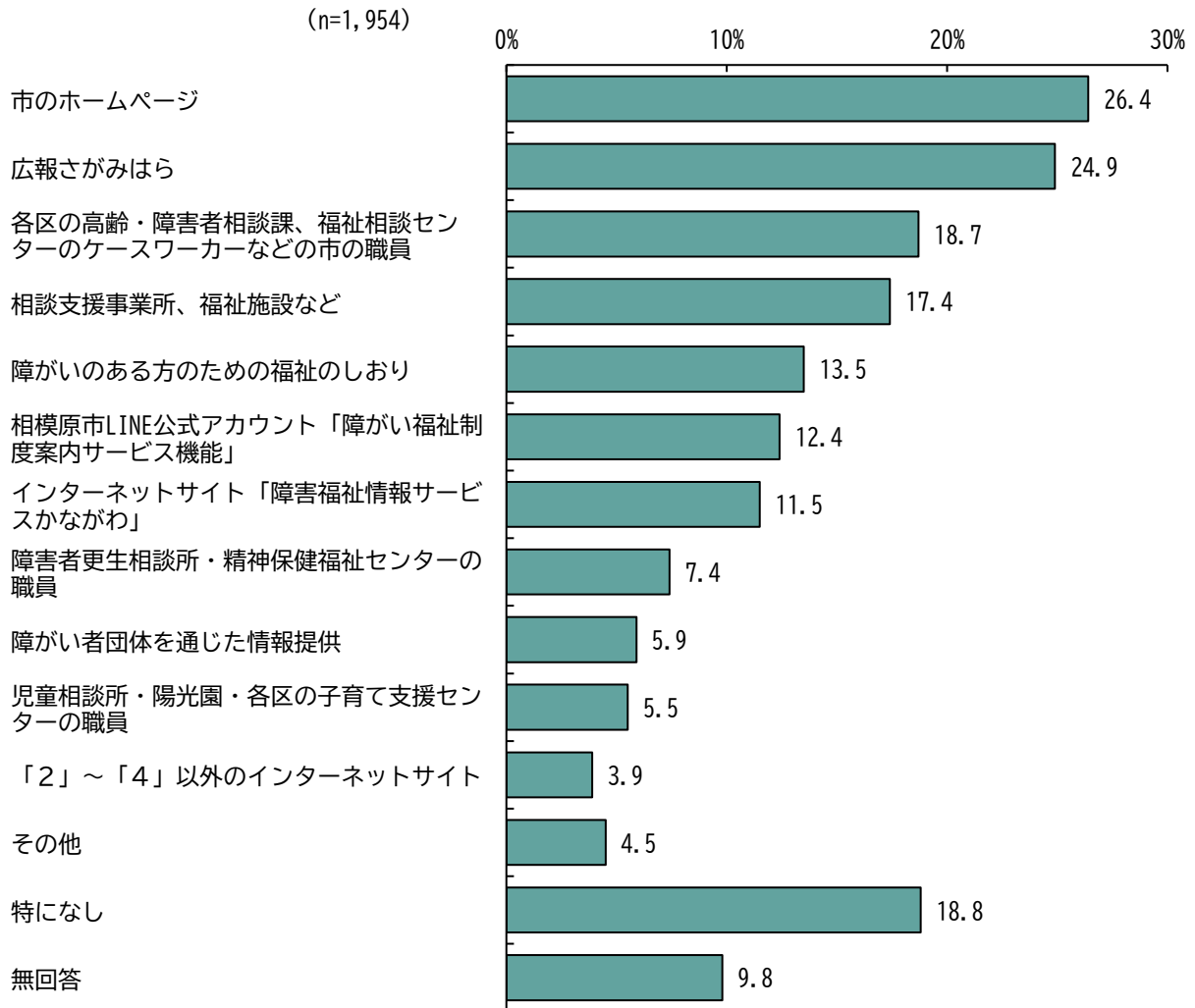
0% 50% 100% 0% 50% 100%



(6) 力を入れてほしい福祉サービスの情報

問24 福祉サービスの情報についてより力を入れてほしいのはどれですか。(〇はいくつでも)

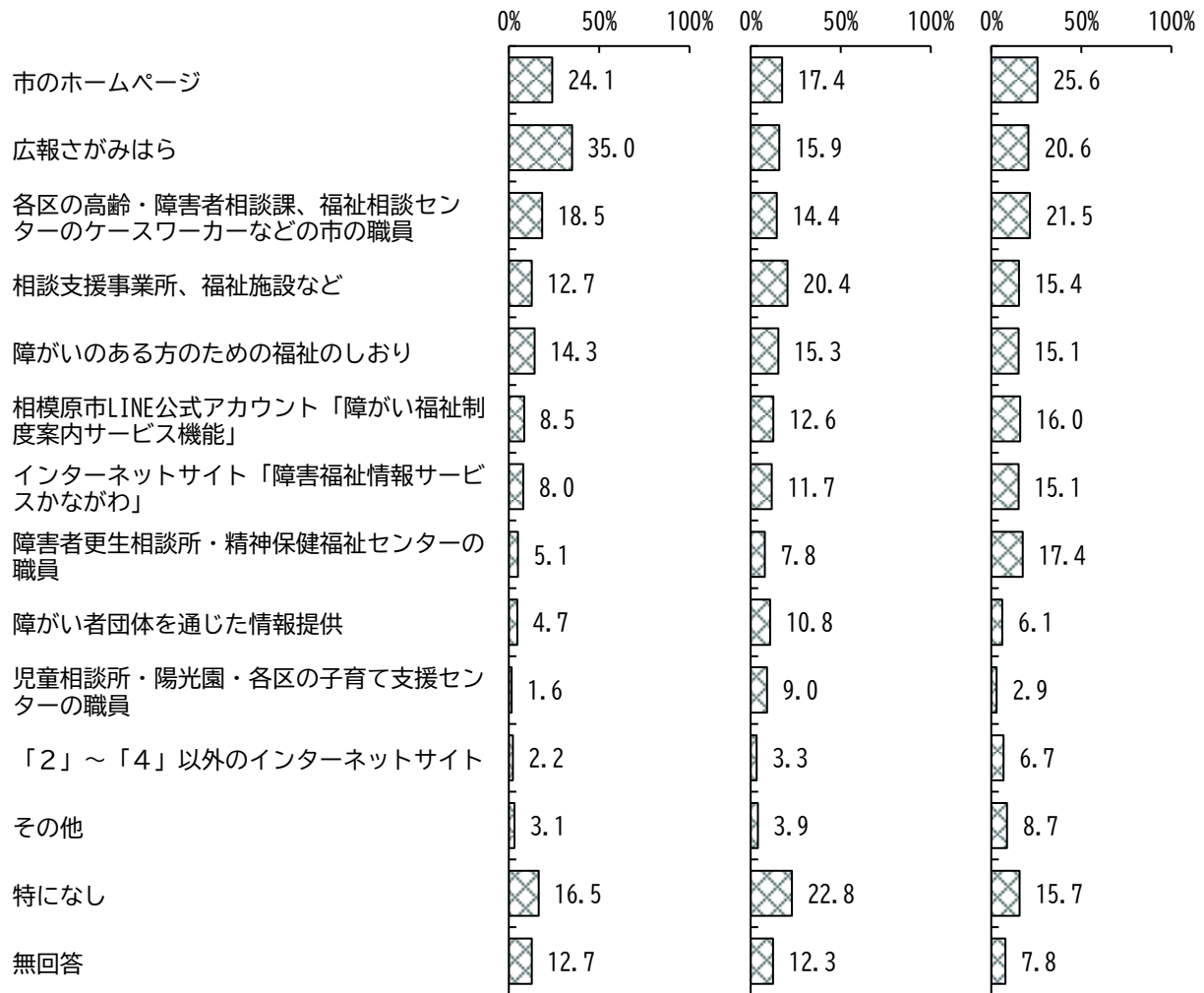
「市のホームページ」が26.4%と最も多く、次いで「広報さがみはら」が24.9%、「各区の高齢・障害者相談課、福祉相談センターのケースワーカーなどの市の職員」が18.7%などとなっています。また、「特になし」が18.8%となっています。



障がい種別にみると、“身体障がい者”、“難病患者”では「広報さがみはら」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「各区の高齢・障害者相談課、福祉相談センターのケースワーカーなどの市の職員」が最も多くなっています。

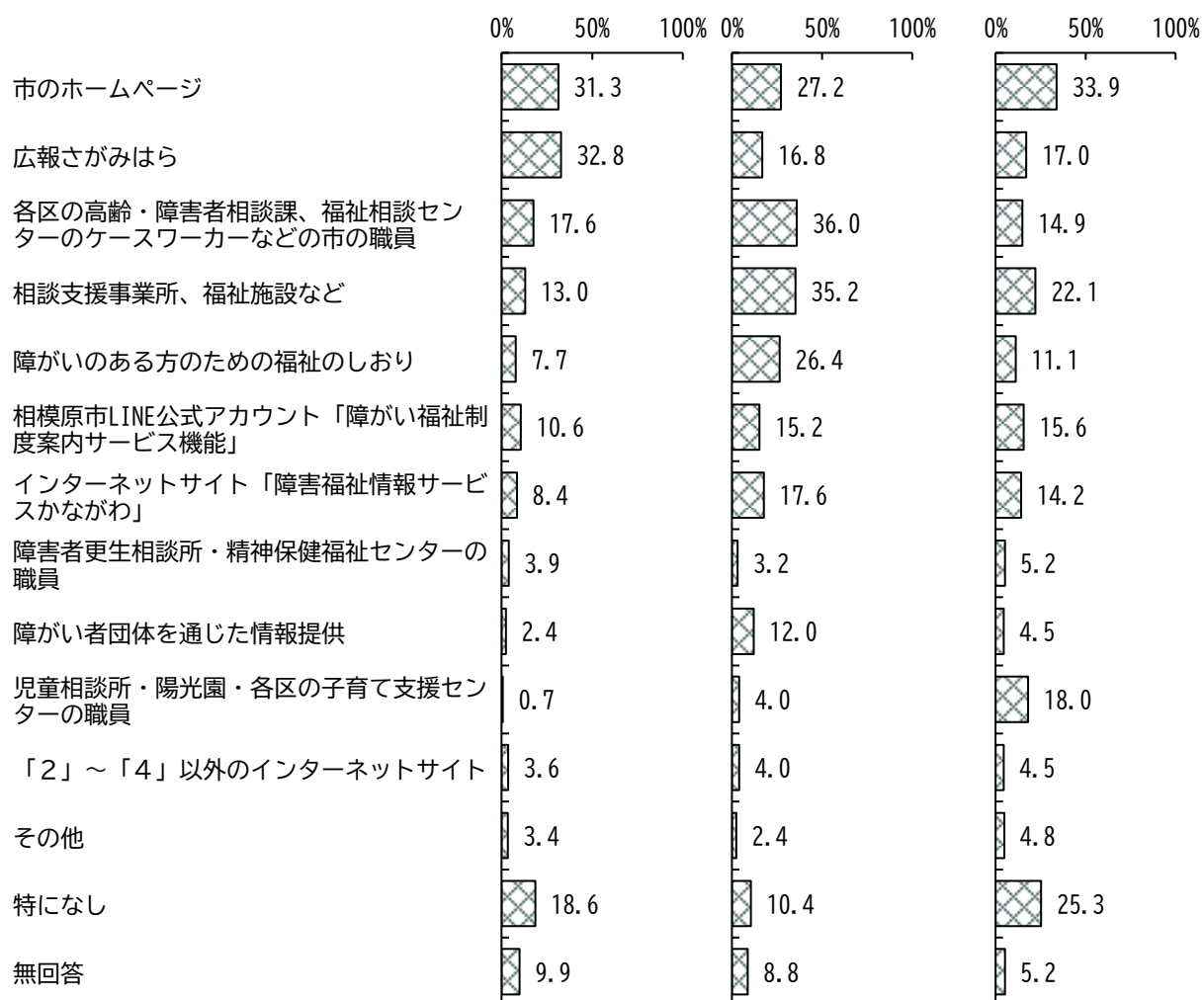
【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)

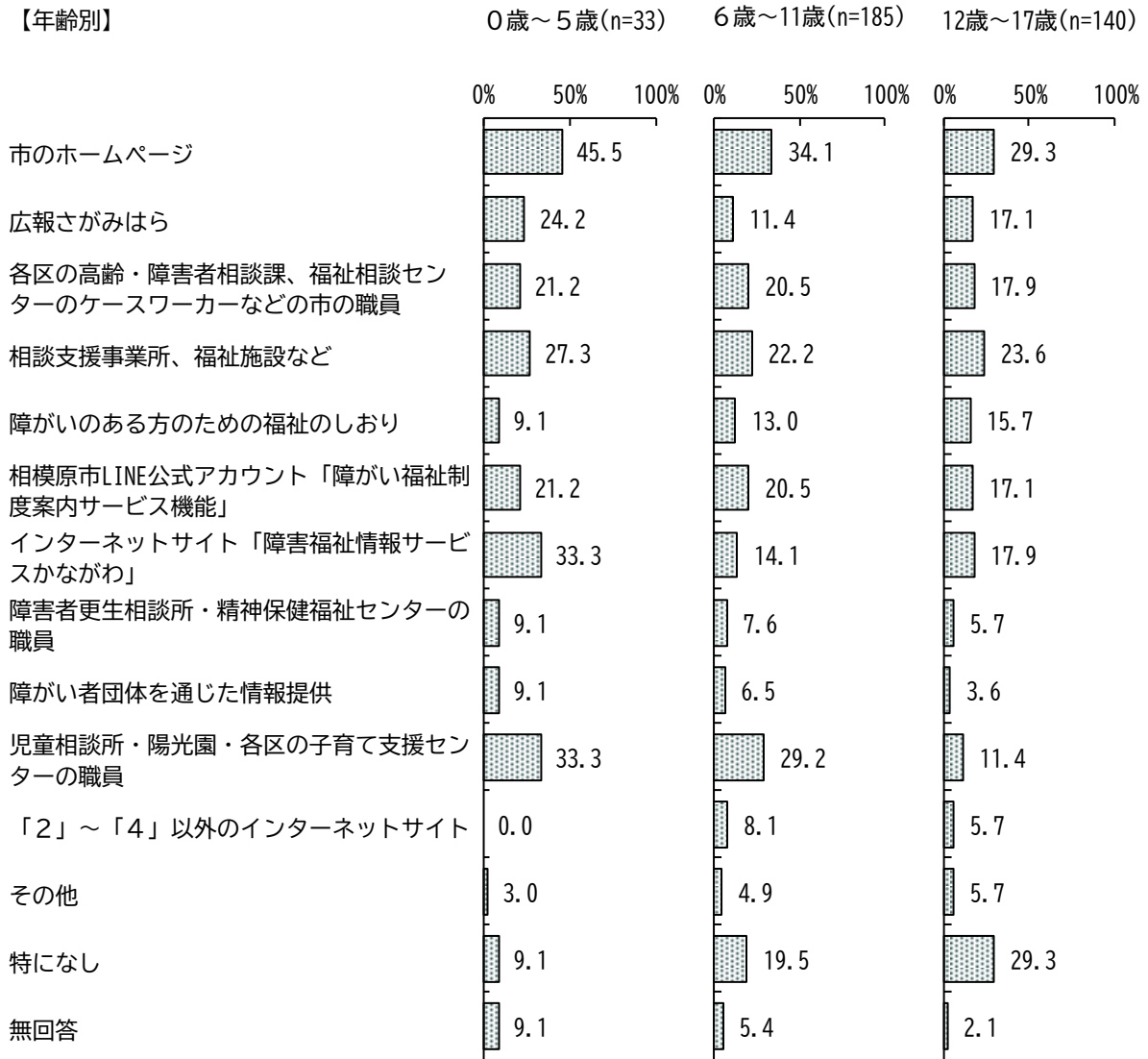


【障がい種別】

難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



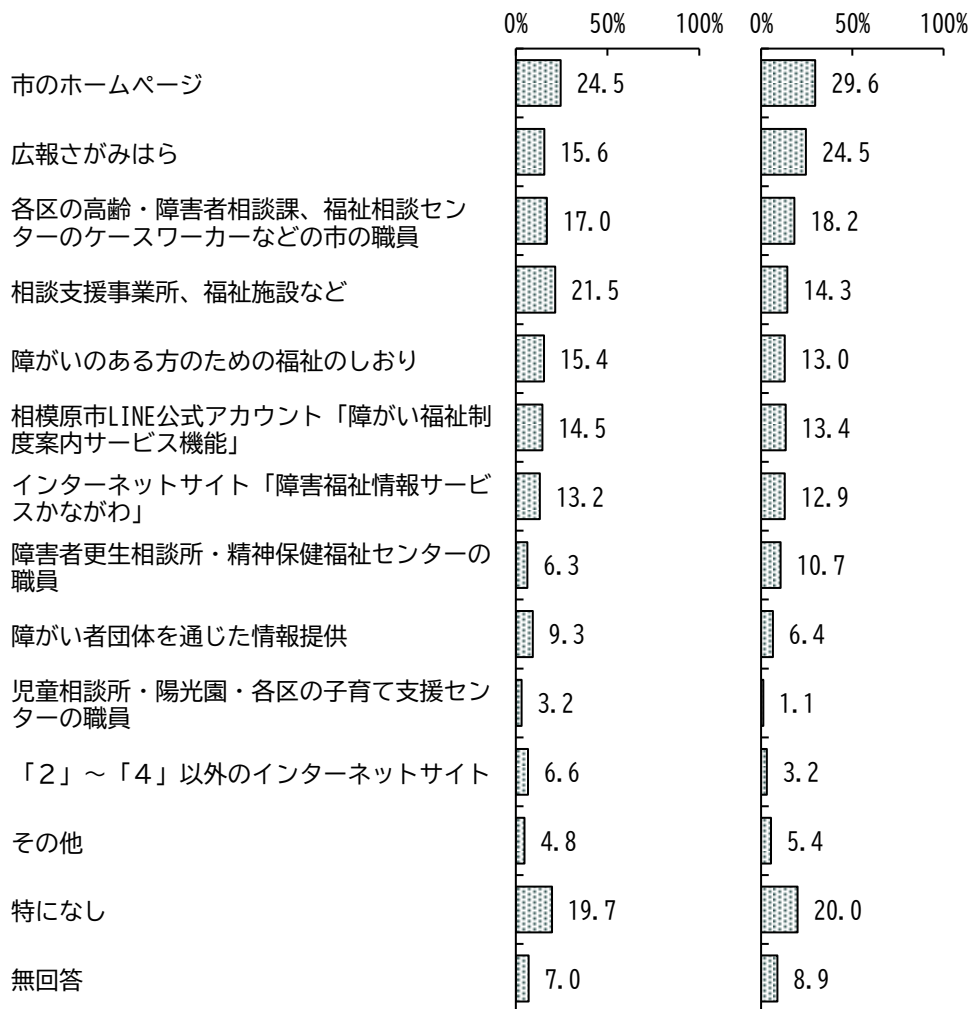
年齢別にみると、“12歳～17歳”では「市のホームページ」、「特になし」が最も多くなっています。また、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「広報さがみはら」が最も多くなっています。

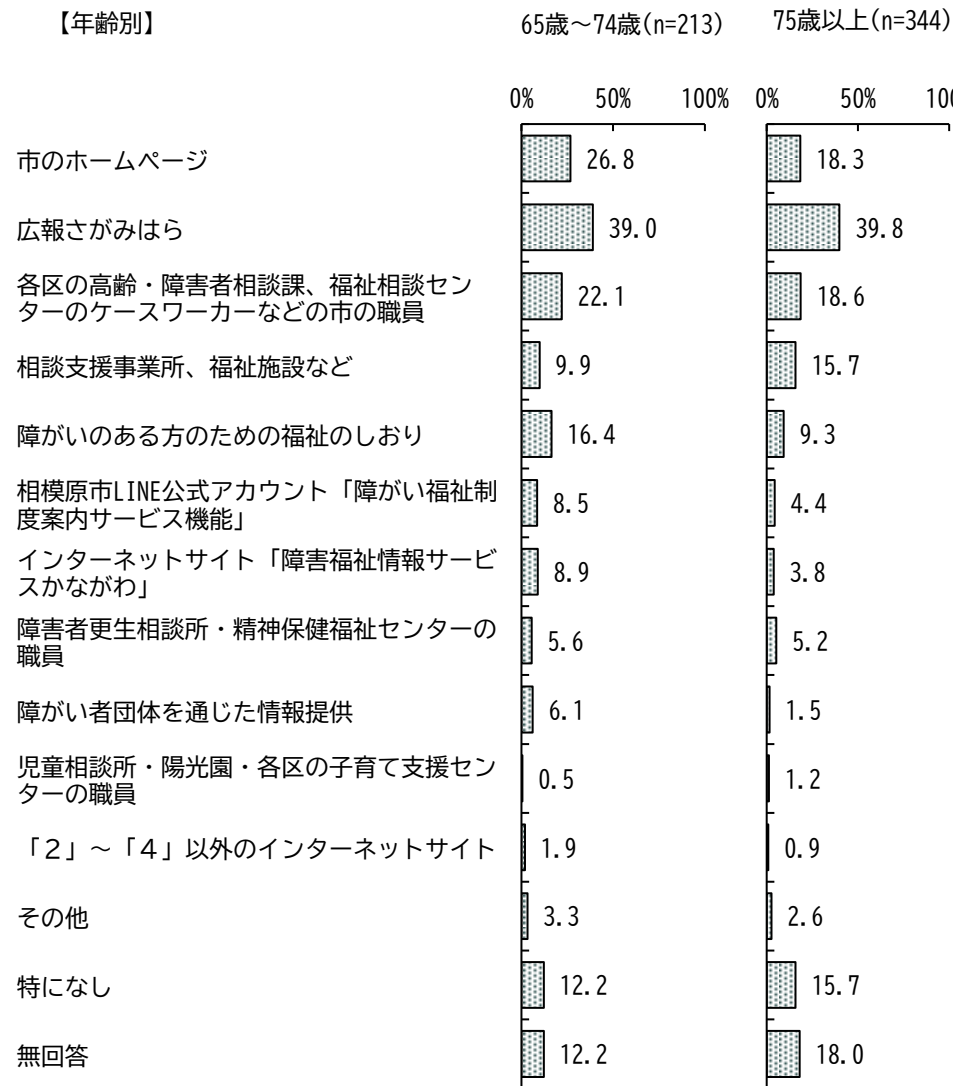


【年齢別】

18歳～39歳(n=441)

40歳～64歳(n=560)



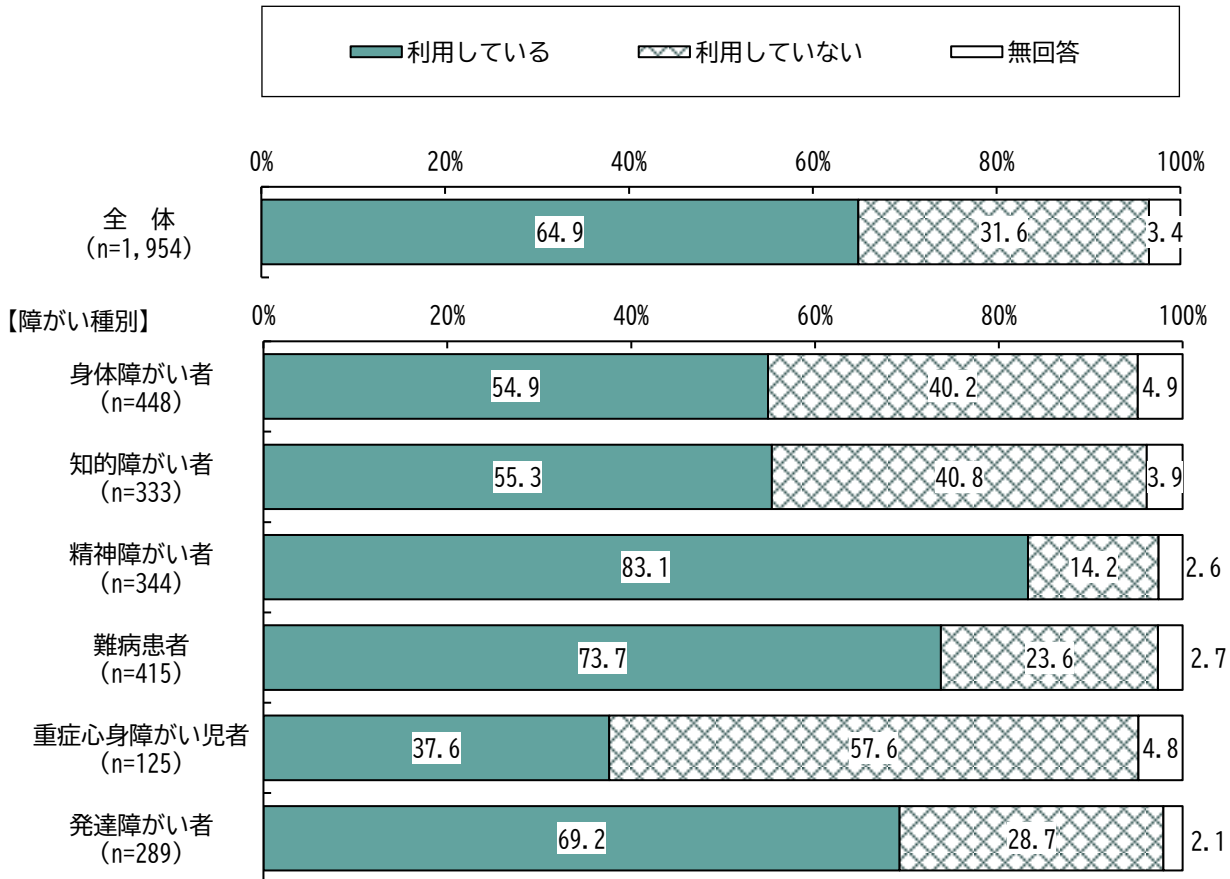


(7) パソコン・スマートフォン等の利用状況

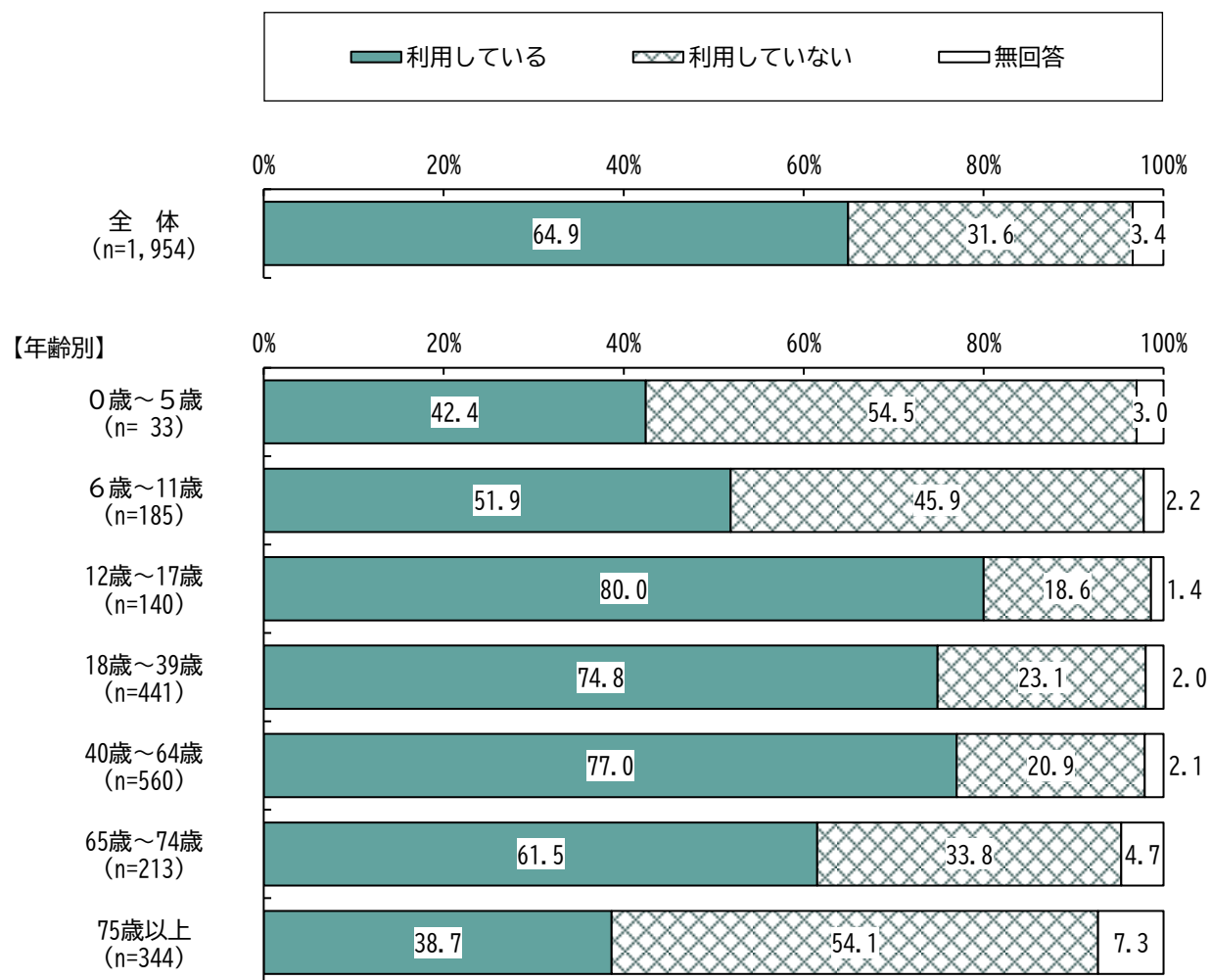
問25 あなたは、パソコンやスマートフォンなどを利用していますか。(○は1つ)

「利用している」が64.9%、「利用していない」が31.6%となっています。

障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「利用していない」のほうが多くなっています。



年齢別にみると、“0歳～5歳”、“75歳以上”では「利用していない」のほうが多くなっています。

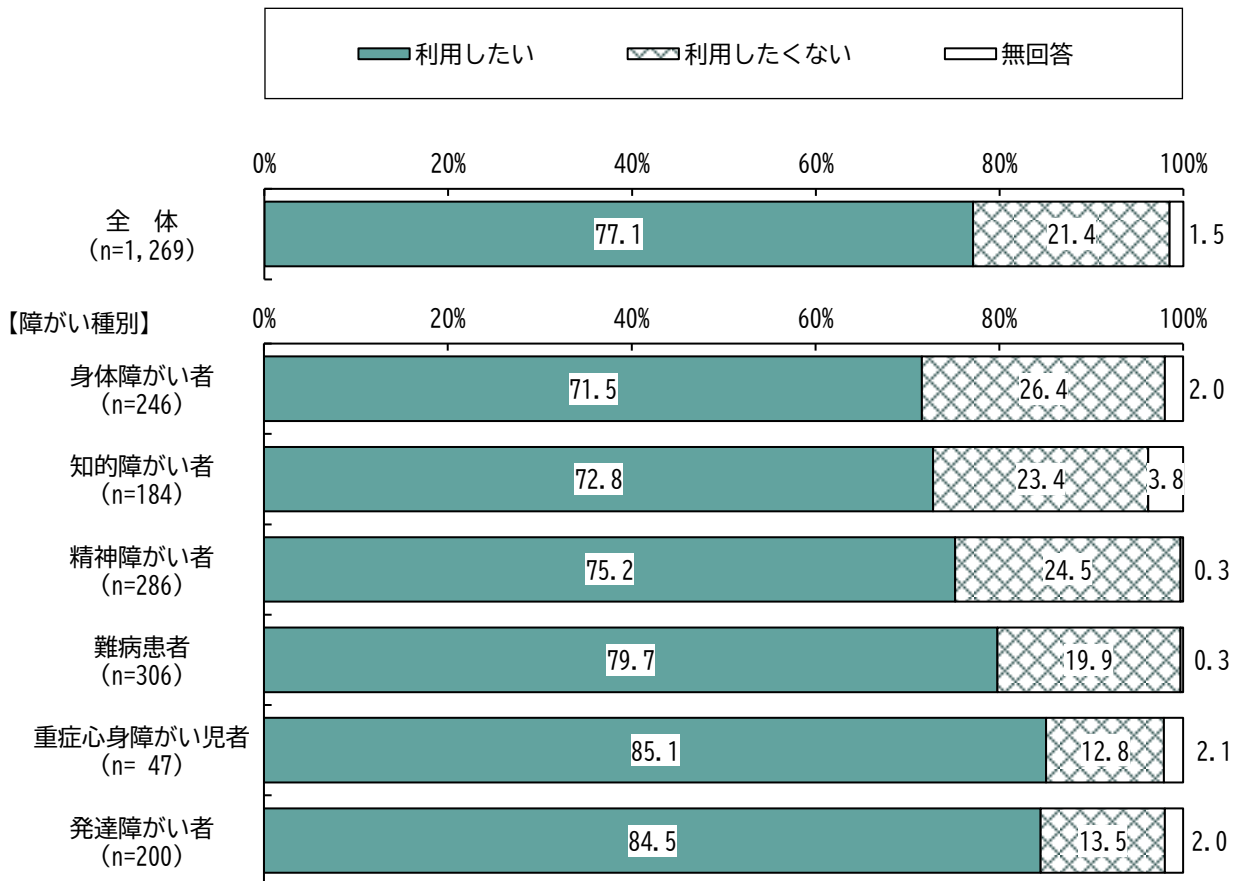


(8) パソコン・スマートフォン等での福祉サービスの申請や手続の希望

問25-1 問25で「1 利用している」とお答えの方にお聞きします。

あなたは、福祉サービスの申請や手続がパソコンやスマートフォンなどのできるようになったら利用したいですか。(○は1つ)

「利用したい」が77.1%、「利用したくない」が21.4%となっています。

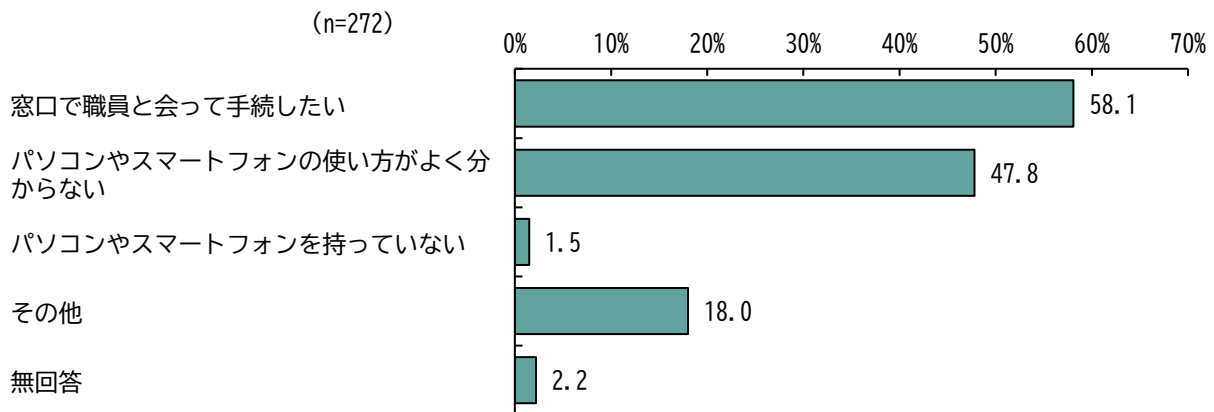


(9) パソコン・スマートフォン等での福祉サービスの申請や手続を希望しない理由

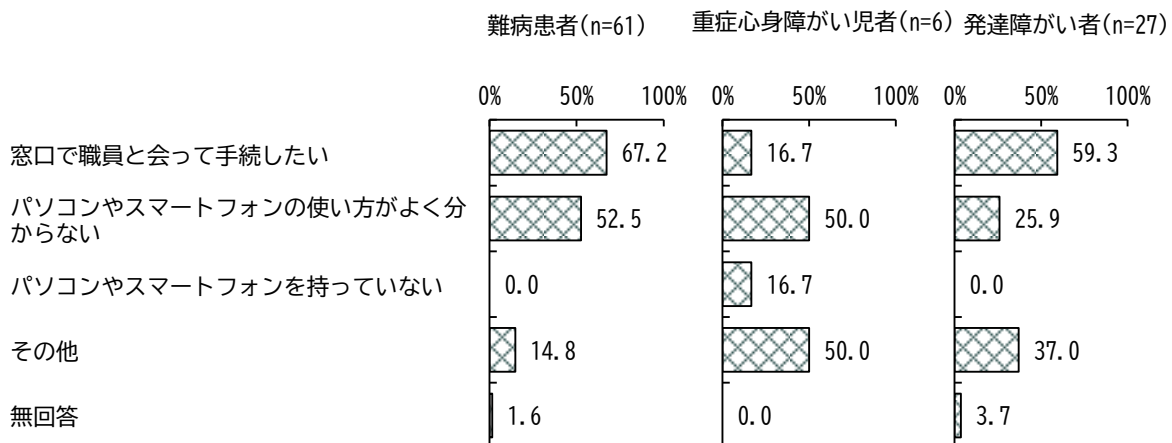
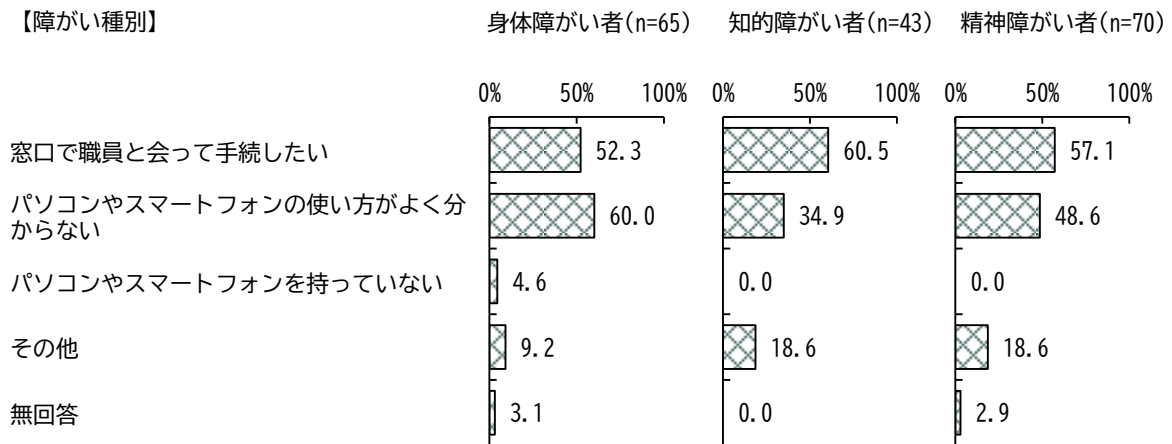
問25-2 問25-1で「2 利用したくない」とお答えの方にお聞きします。
利用したくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「窓口で職員と会って手続をしたい」が58.1%と最も多く、次いで「パソコンやスマートフォンの使い方がよく分からない」が47.8%などとなっています。

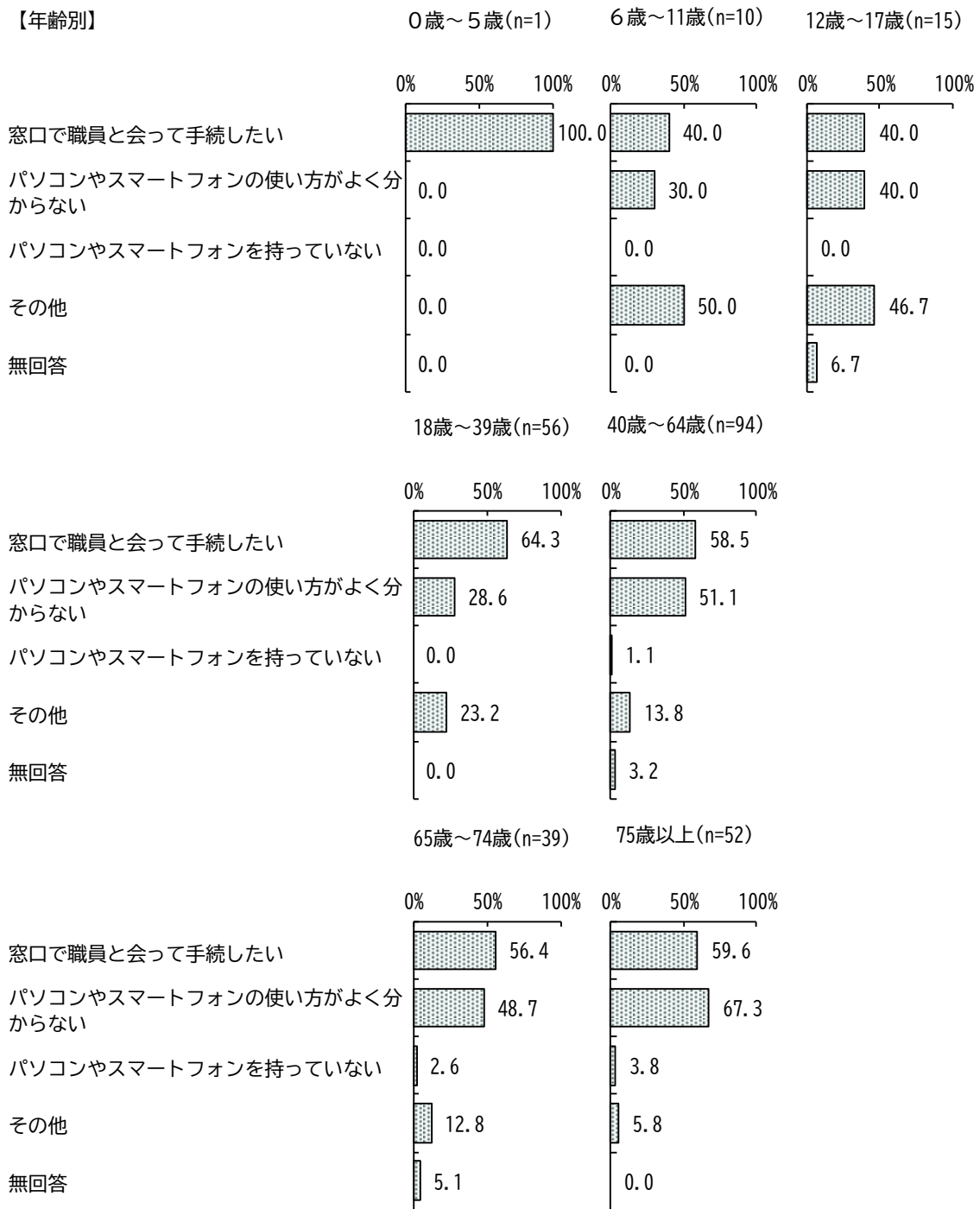
障がい種別にみると、“身体障がい者”では「パソコンやスマートフォンの使い方がよく分からない」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「パソコンやスマートフォンの使い方がよく分からない」、「その他」が最も多くなっています。



【障がい種別】



年齢別にみると、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「その他」が最も多くなっています。また、“75歳以上”では「パソコンやスマートフォンの使い方がよく分からない」が最も多くなっています。



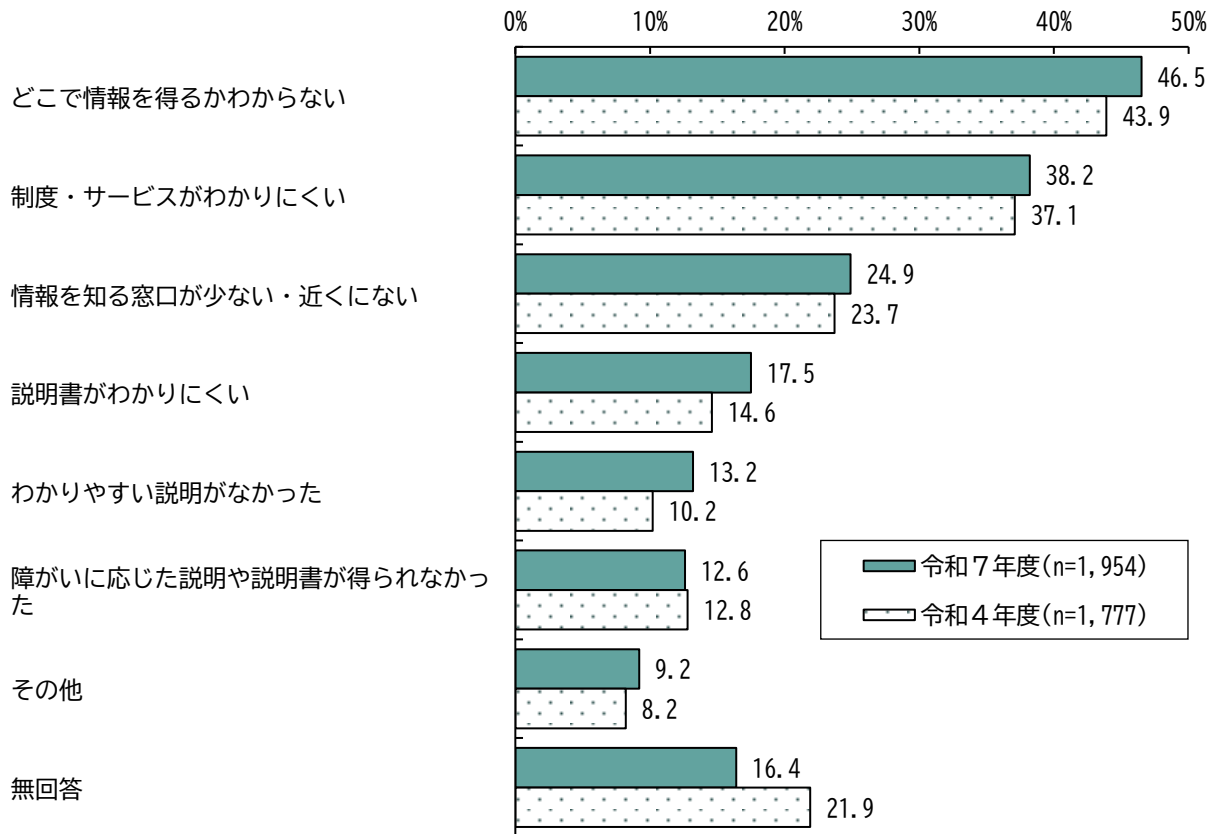
(10) 福祉サービスの情報を知るために困ったこと

問26 あなたは、これまでに福祉サービスの情報を知るために困ったことは何ですか。

(○はいくつでも)

「どこで情報を得るかわからない」が46.5%と最も多く、次いで「制度・サービスがわかりにくい」が38.2%、「情報を知る窓口が少ない・近くにない」が24.9%などとなっています。

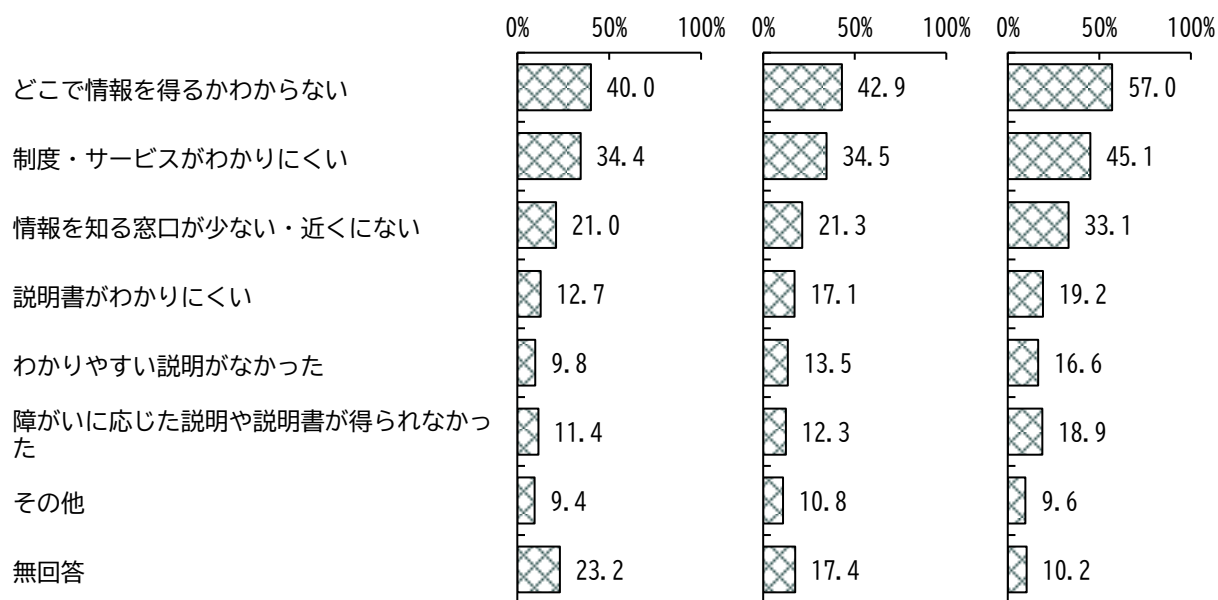
【全体・経年比較】



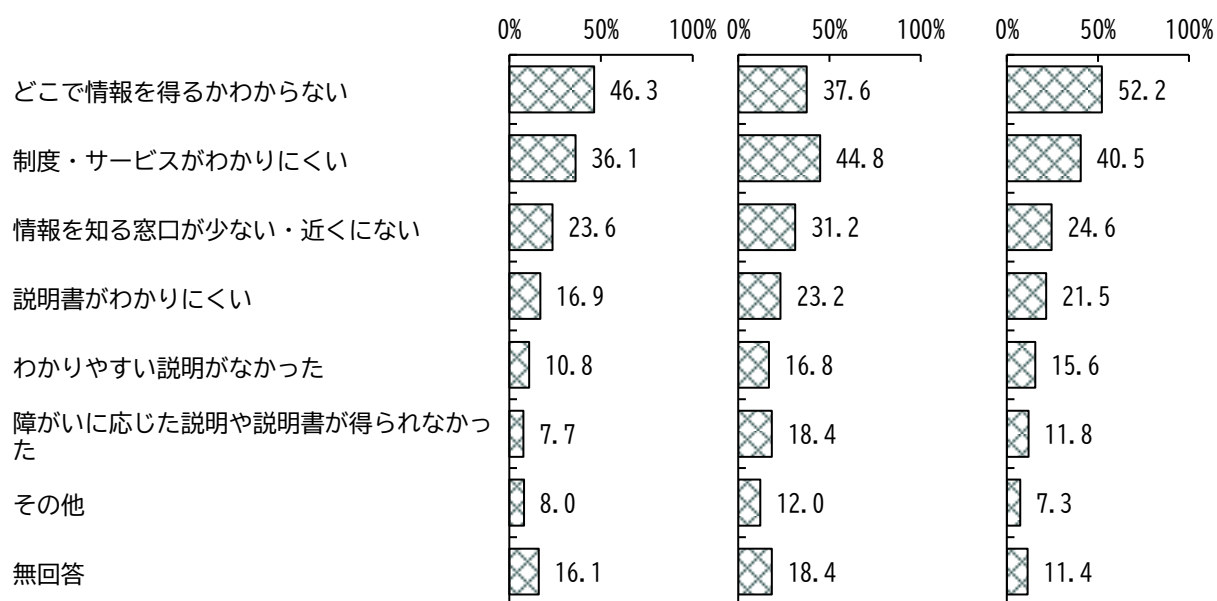
障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「制度・サービスがわかりにくい」が最も多くなっています。

【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)

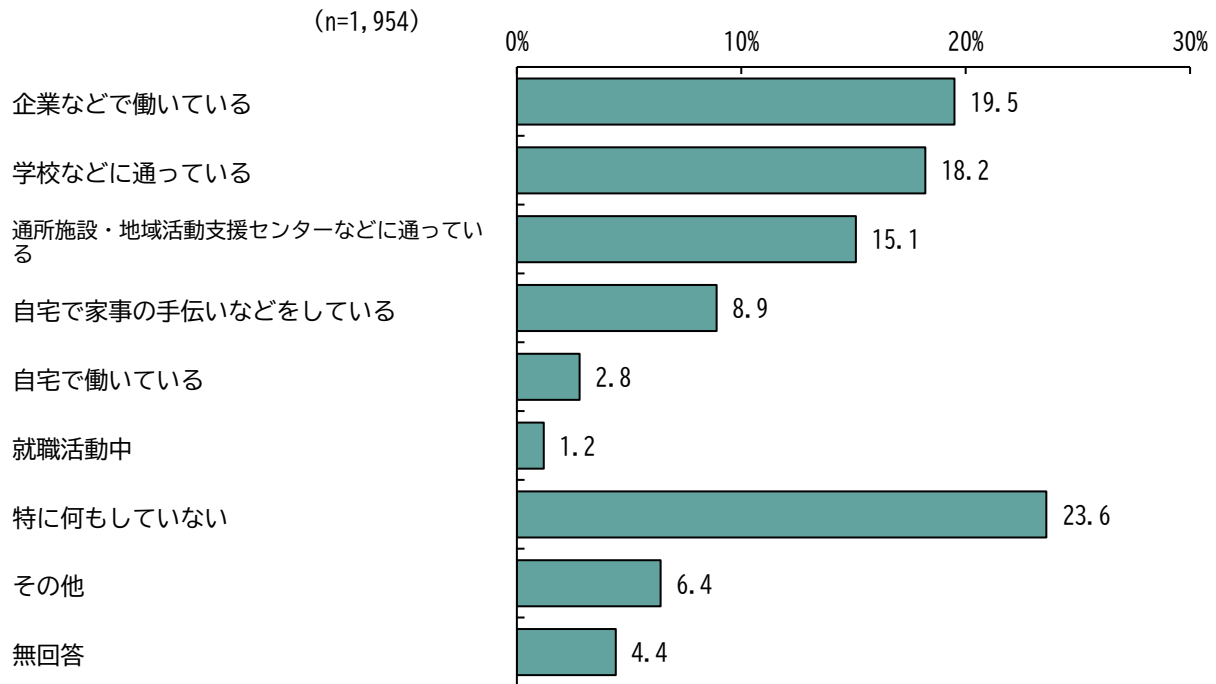


6 日中活動・就労について

(1) 平日の日中の主な過ごし方

問27 あなたは平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

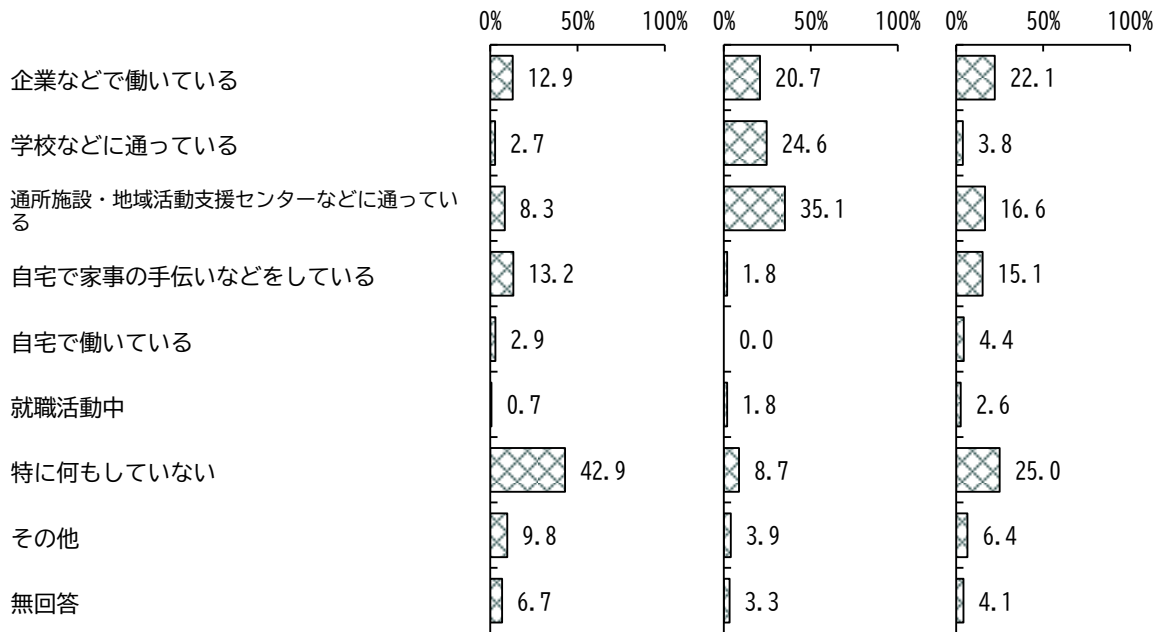
「企業などで働いている」が19.5%と最も多く、次いで「学校などに通っている」が18.2%、「通所施設・地域活動支援センターなどに通っている」が15.1%などとなっています。また、「特に何もしていない」が23.6%となっています。



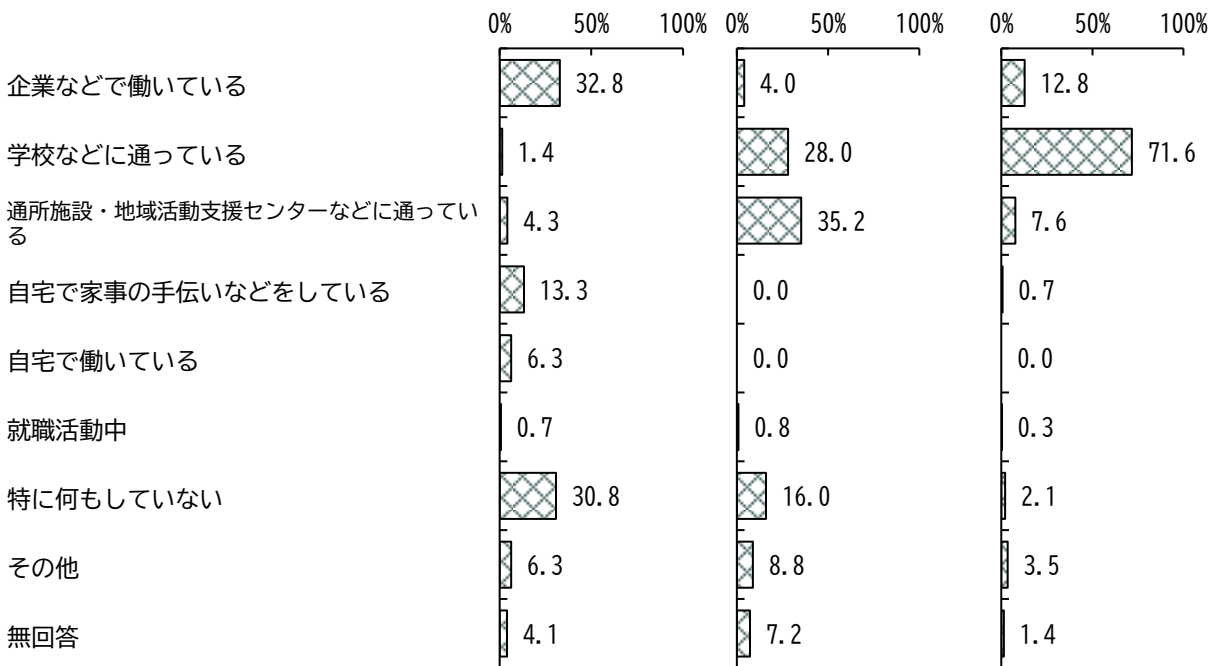
障がい種別にみると、“知的障がい者”、“重症心身障がい児者”では「通所施設・地域活動支援センターなどに通っている」が最も多くなっています。また、“難病患者”では「企業などで働いている」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「学校などに通っている」が最も多くなっています。

【障がい種別】

身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



(2) 障がいがあることで仕事をする上で不安や不満を感じること

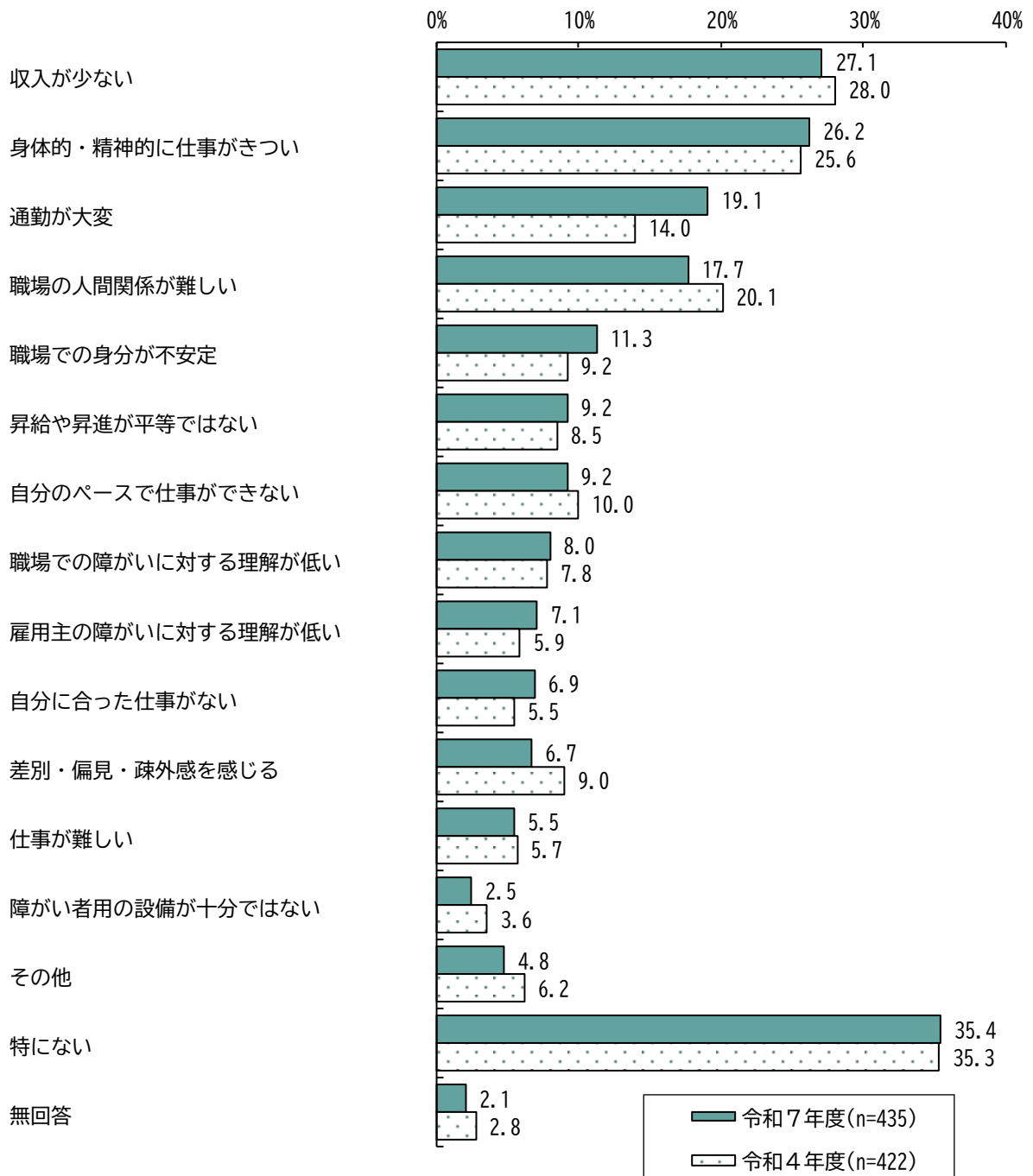
問27-1 問27で「1 企業などで働いている」または「2 自宅で働いている」とお答えの方にお聞きします。

あなたは障がいがあることで、仕事をする上で不安や不満を感じることはありますか。

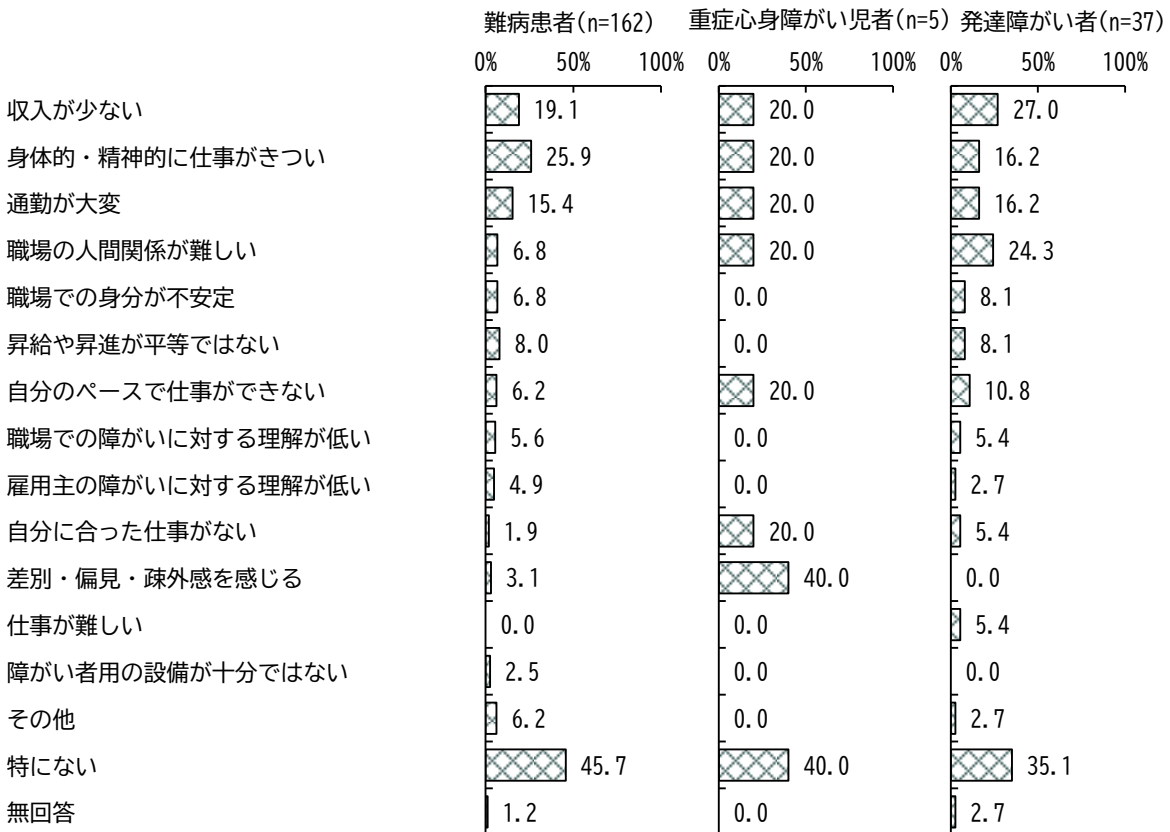
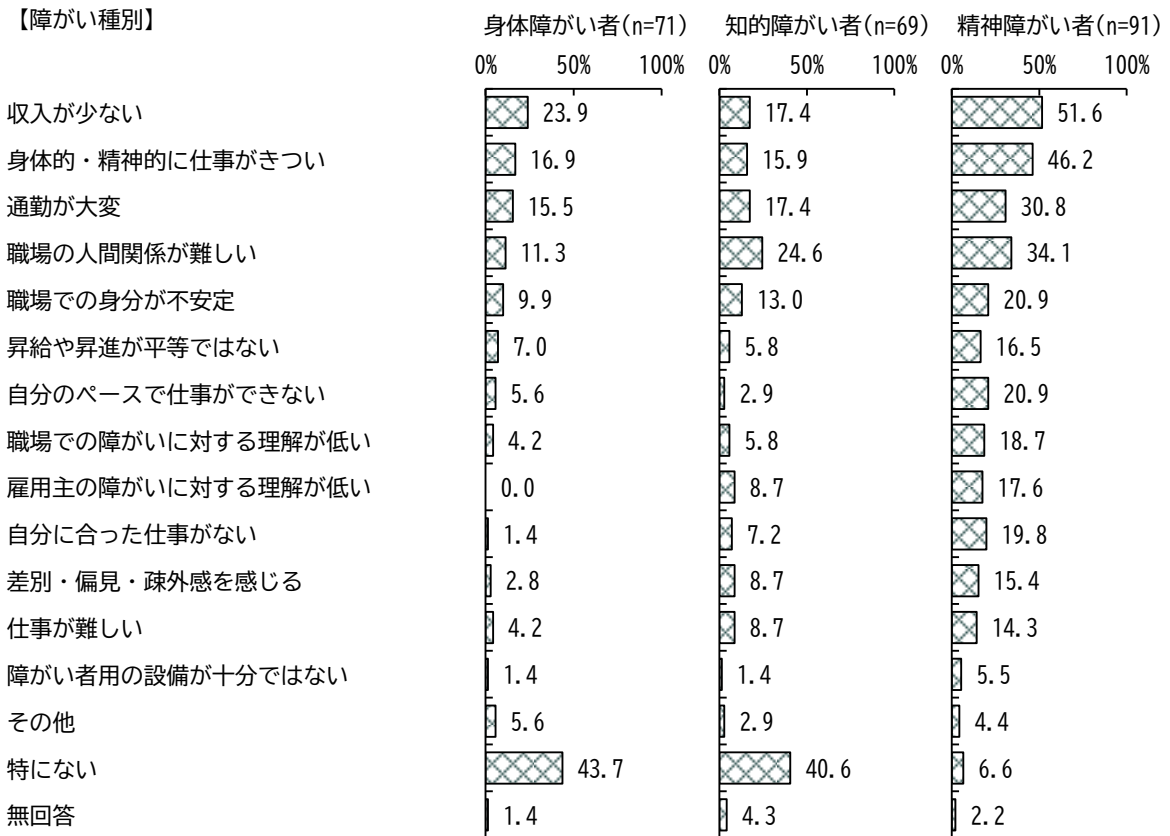
(○はいくつでも)

「収入が少ない」が27.1%と最も多く、次いで「身体的・精神的に仕事がきつい」が26.2%、「通勤が大変」が19.1%などとなっています。また、「特にない」が35.4%となっています。

【全体・経年比較】



障がい種別にみると、“精神障がい者”では「収入が少ない」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「差別・偏見・疎外感を感じる」が最も多くなっています。

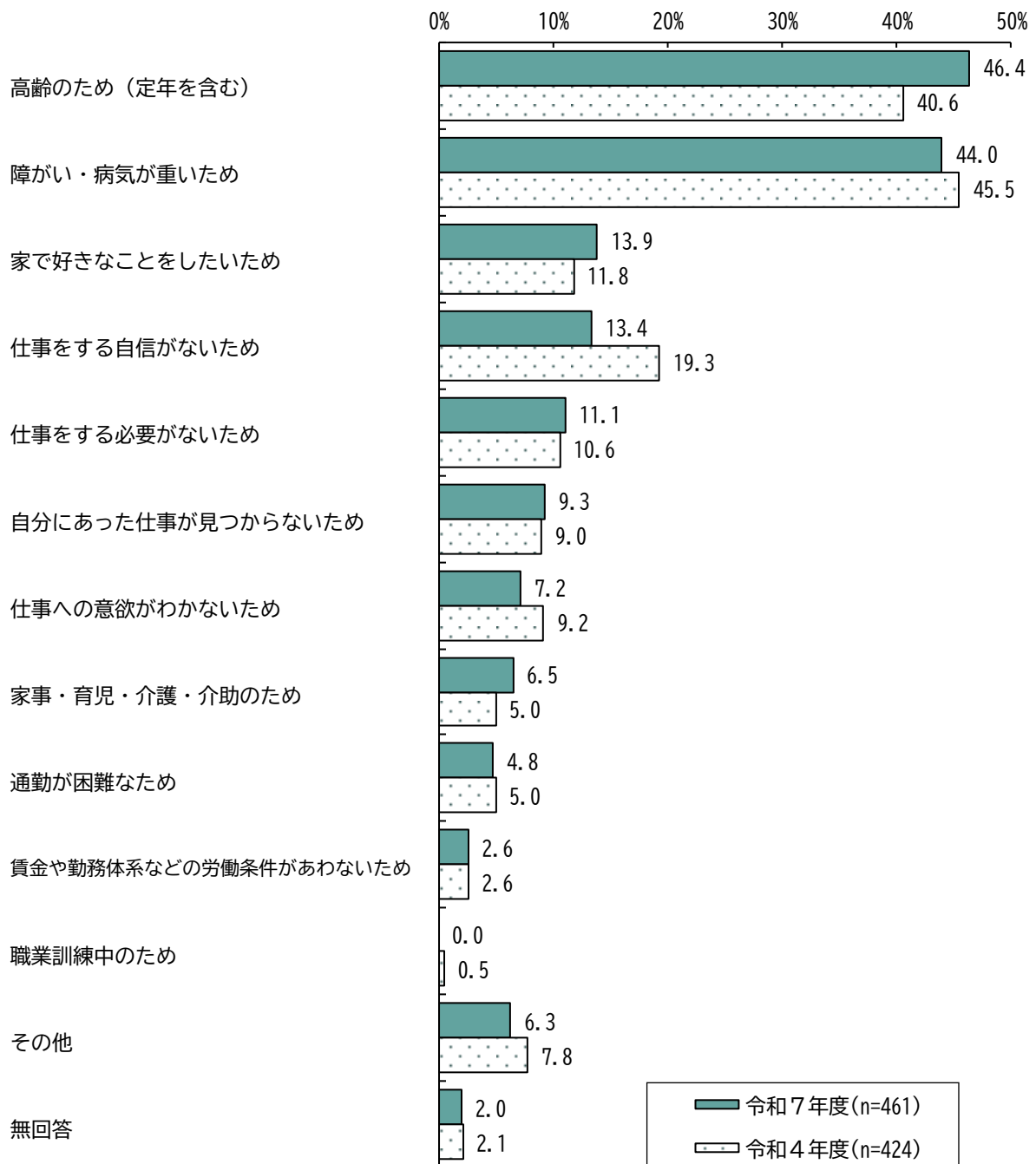


(3) 日中活動や就労等をしていない理由

問27-2 問27で「7 特に何もしていない」とお答えの方にお聞きします。
 特に何もしていない理由はどれですか。(〇はいくつでも)

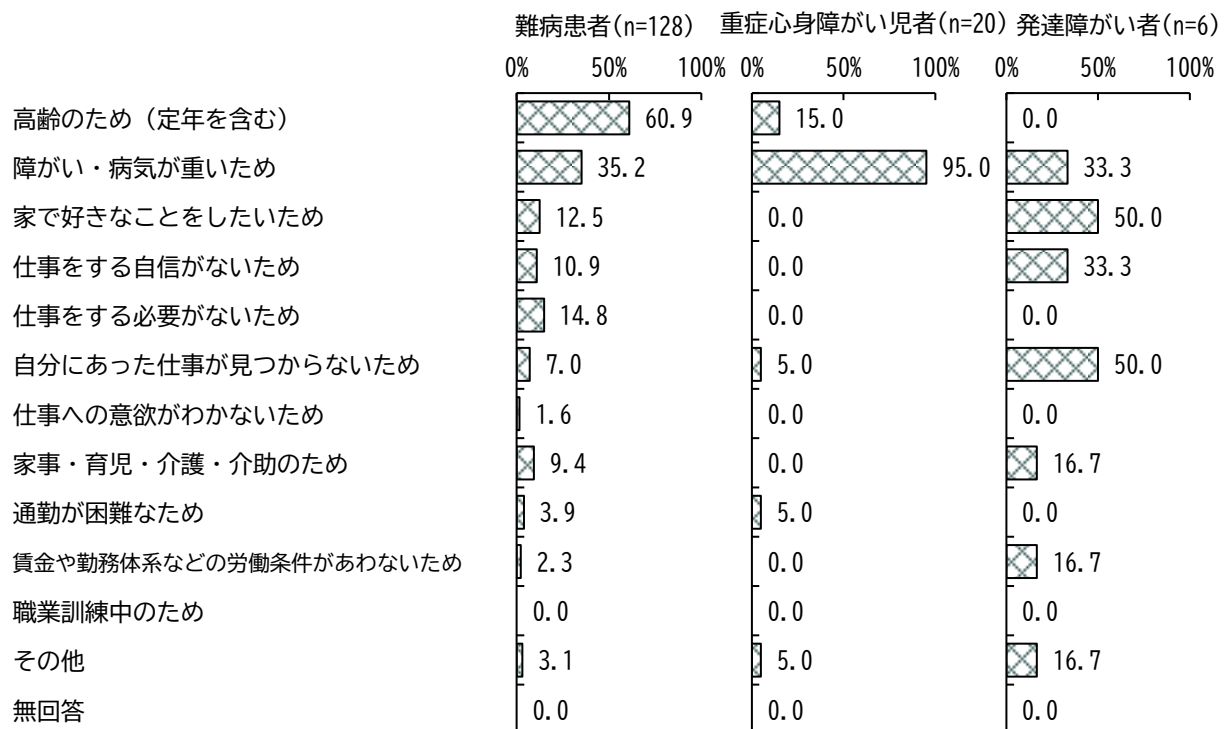
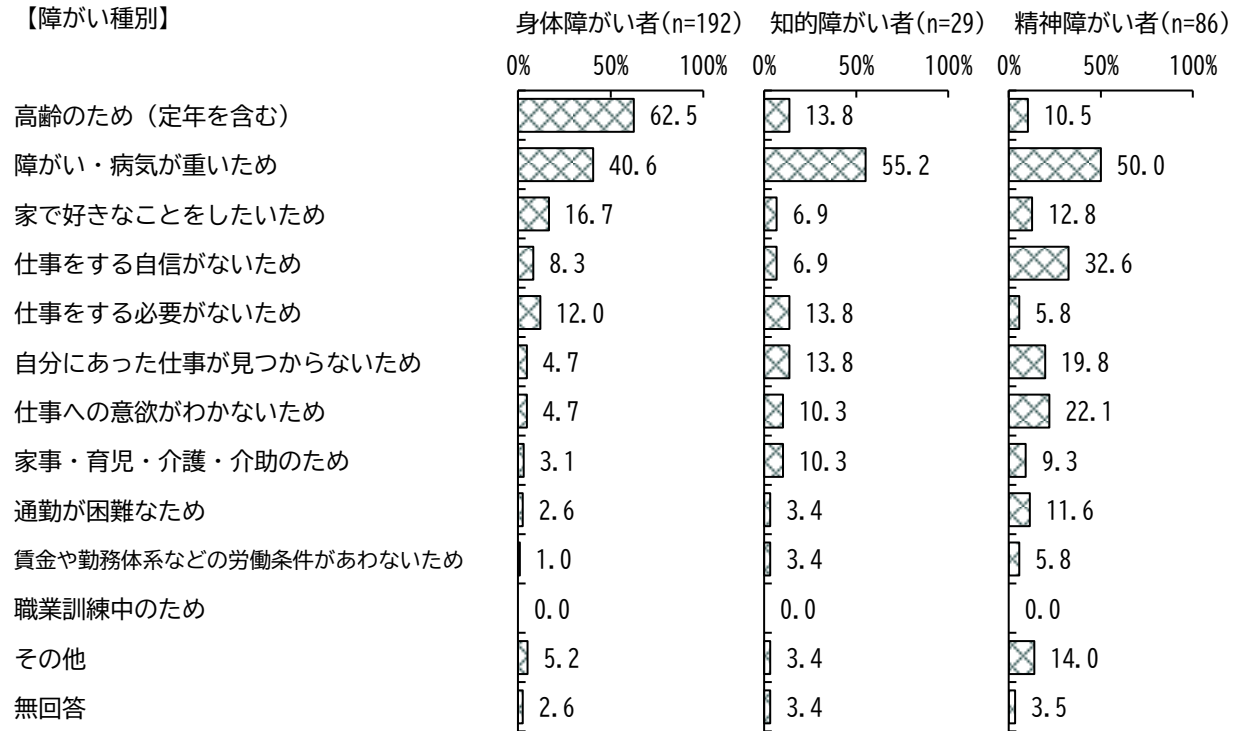
「高齢のため(定年を含む)」が46.4%と最も多く、次いで「障がい・病気が重いため」が44.0%、「家で好きなことをしたいため」が13.9%などとなっています。

【全体・経年比較】



障がい種別にみると、“知的障がい者”、“精神障がい者”、“重症心身障がい児者”では「障がい・病気が重いため」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「家で好きなことをしたいため」、「自分にあった仕事が見つからないため」が最も多くなっています。

【障がい種別】

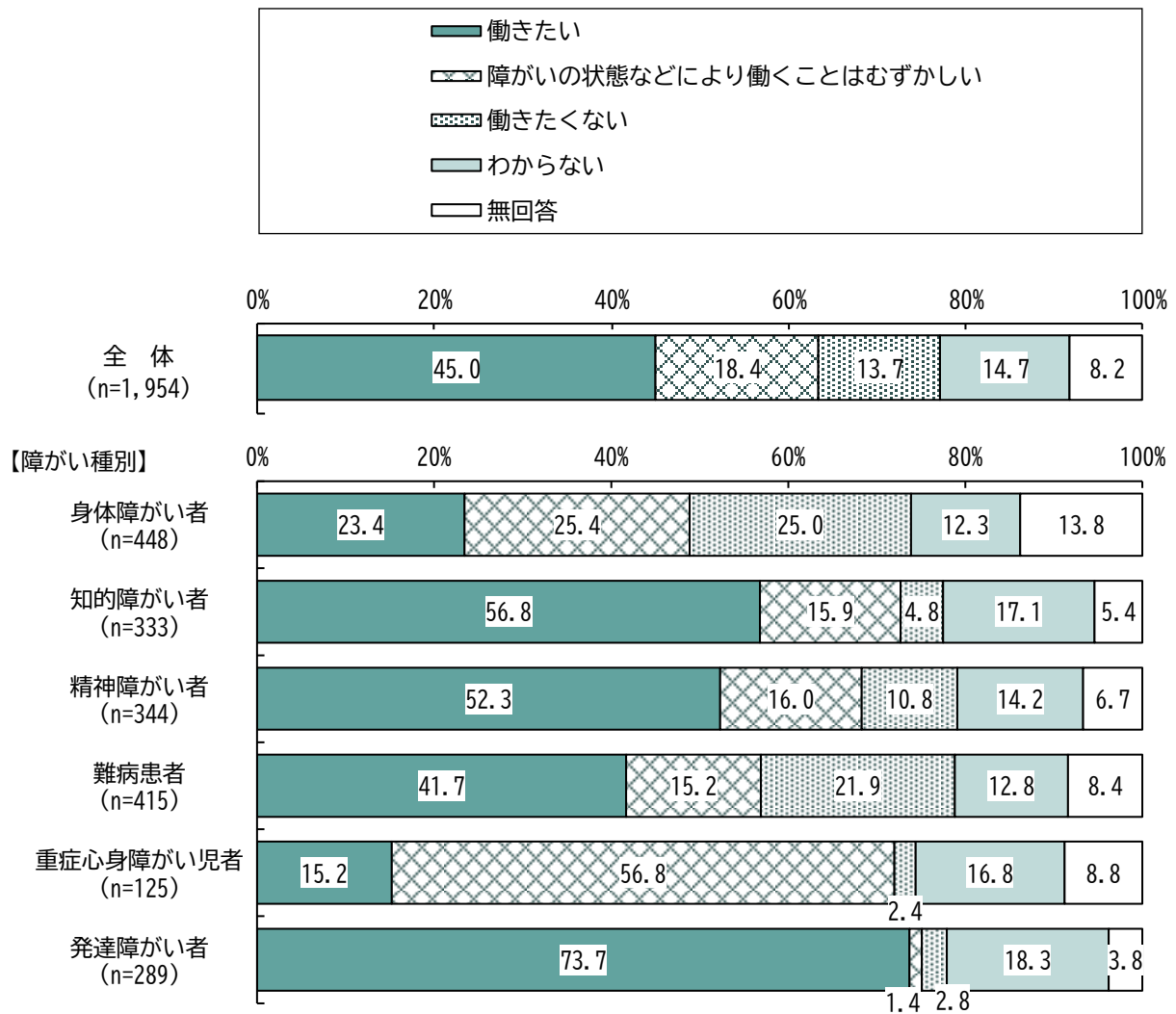


(4) 今後の就労希望

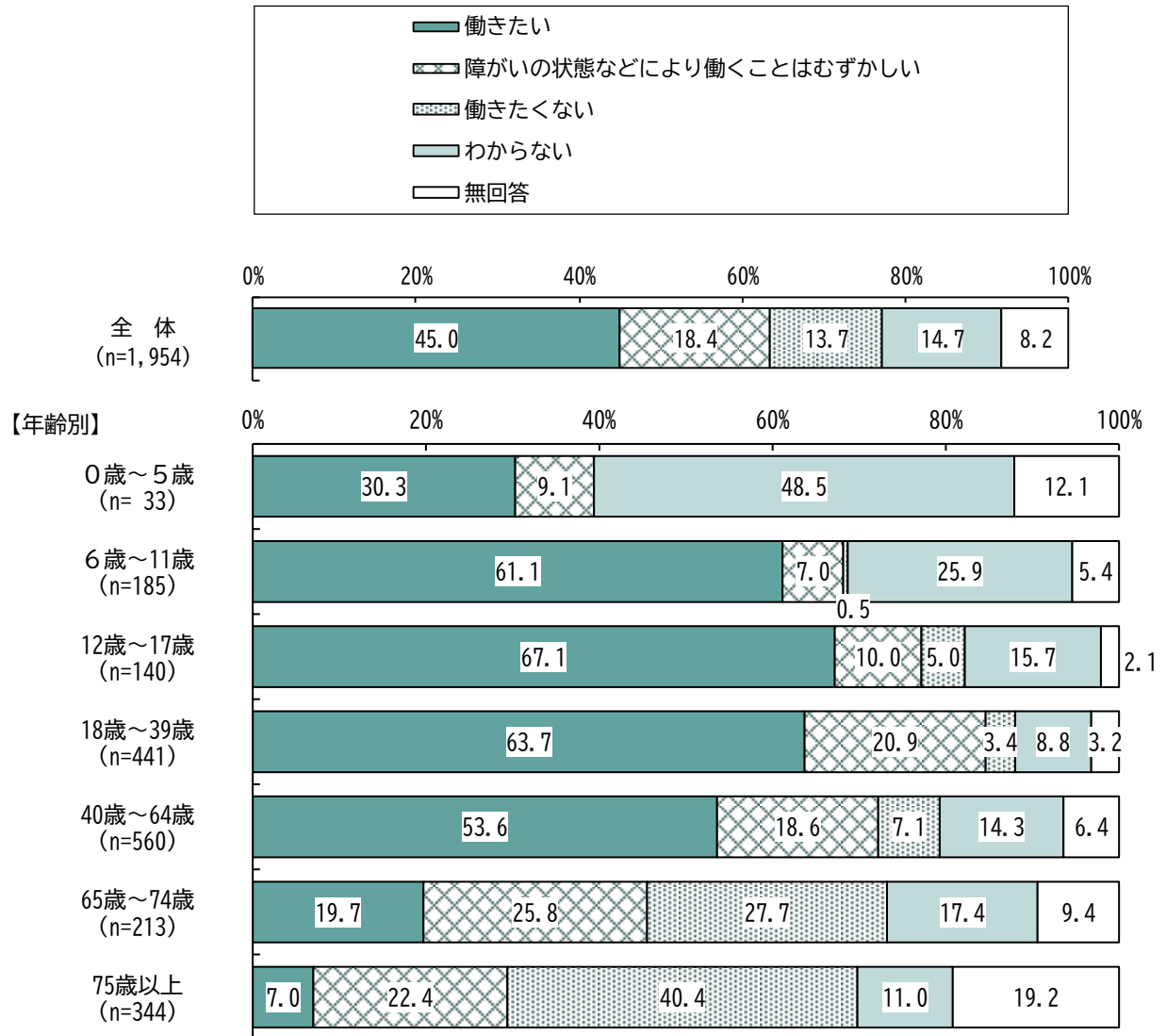
問28 あなたは今後（将来）、働きたいですか。（○は1つ）

「働きたい」が45.0%、「障がいの状態などにより働くことはむずかしい」が18.4%、「働きたくない」が13.7%、「わからない」が14.7%となっています。

障がい種別にみると、“身体障がい者”、“重症心身障がい児者”では「障がいの状態などにより働くことはむずかしい」が最も多くなっています。



年齢別にみると、“0歳～5歳”では「わからない」が最も多くなっています。また、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「働きたくない」が最も多くなっています。

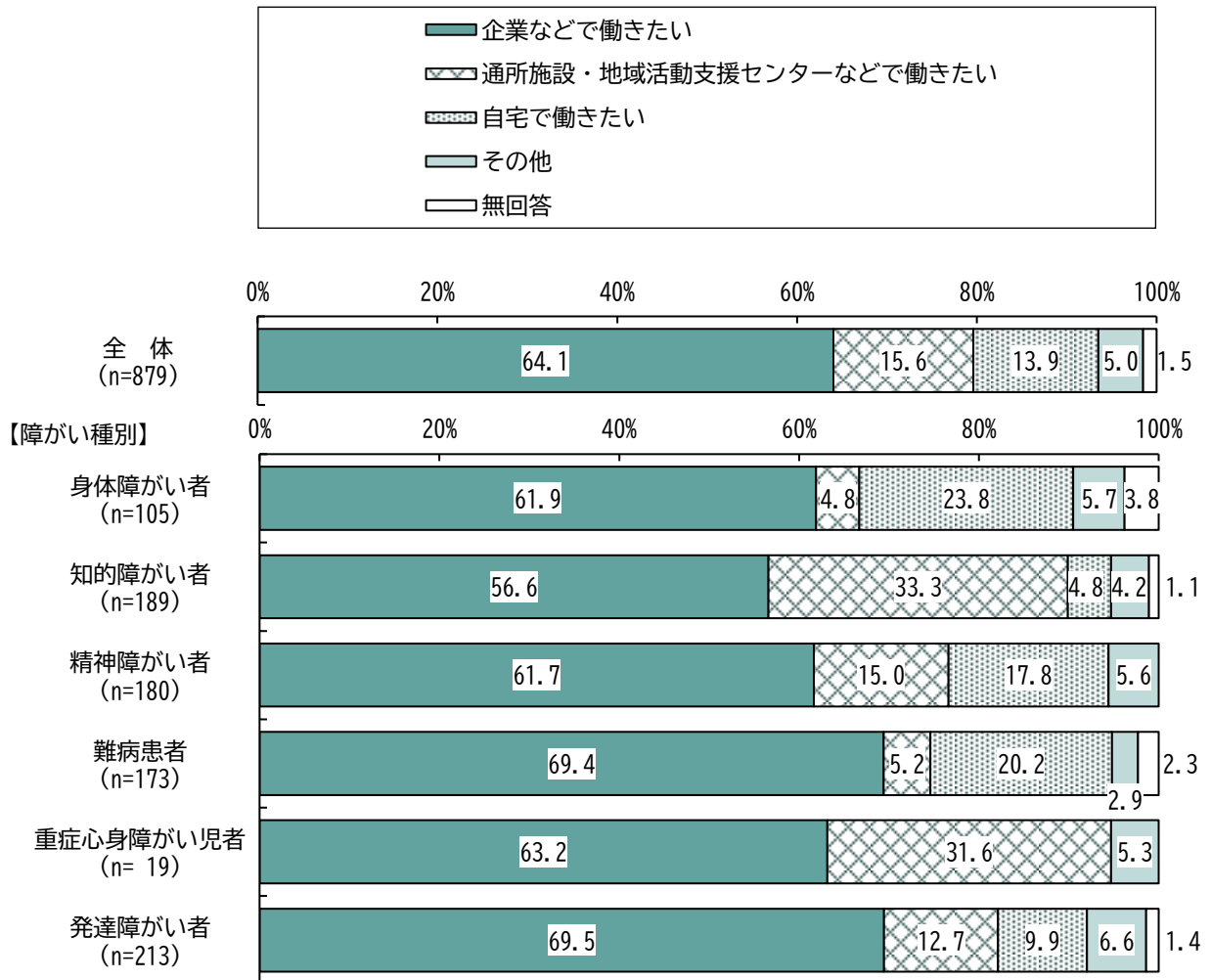


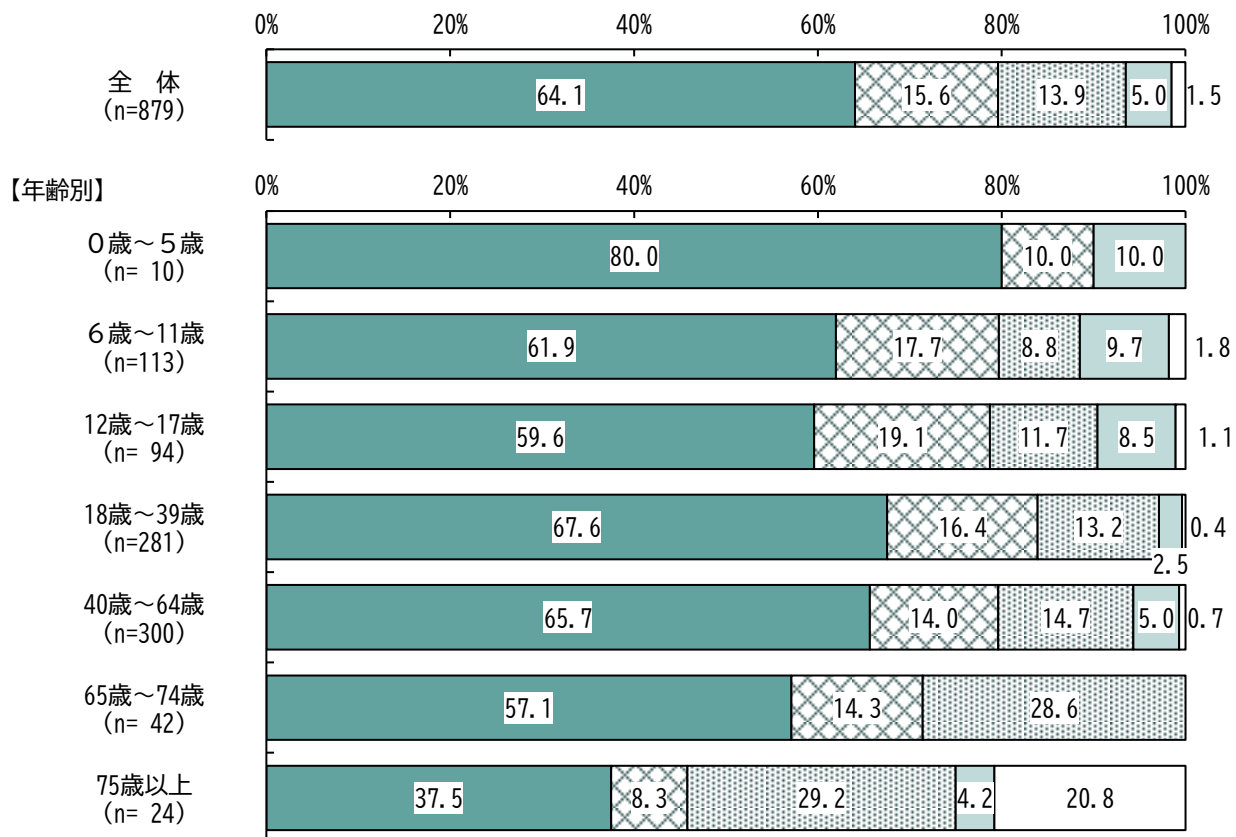
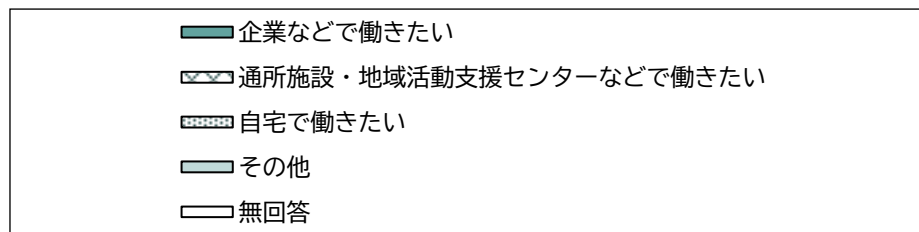
(5) 希望する勤務場所

(問28-1 から問28-3までは、問28で「1 働きたい」とお答えの方にお聞きします。)

問28-1 あなたはどのようなところで働きたいですか。(○は1つ)

「企業などで働きたい」が64.1%、「通所施設・地域活動支援センターなどで働きたい」が15.6%、「自宅で働きたい」が13.9%などとなっています。





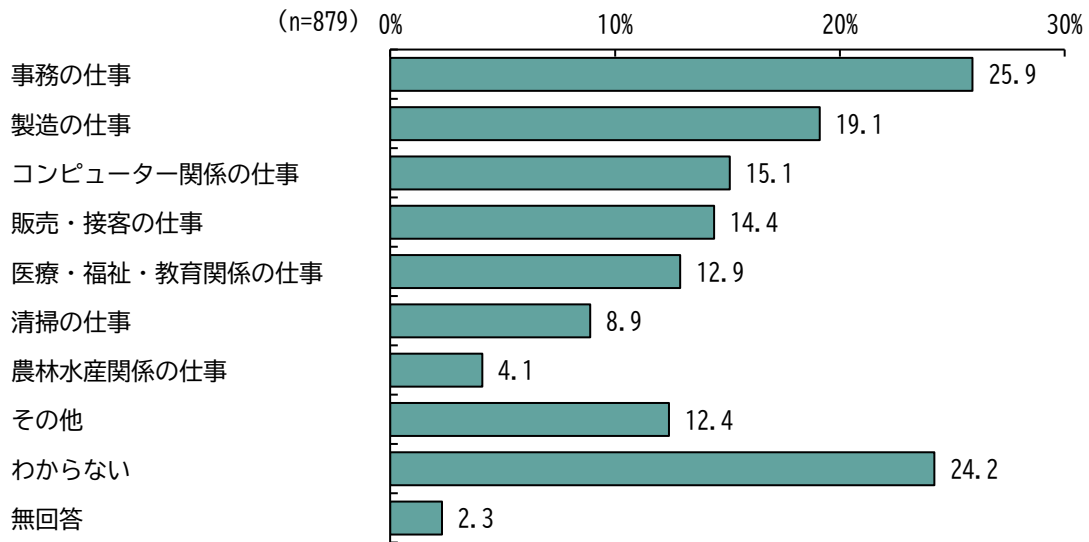
(6) 希望する職種

(問28-1 から問28-3までは、問28で「1 働きたい」とお答えの方にお聞きします。)

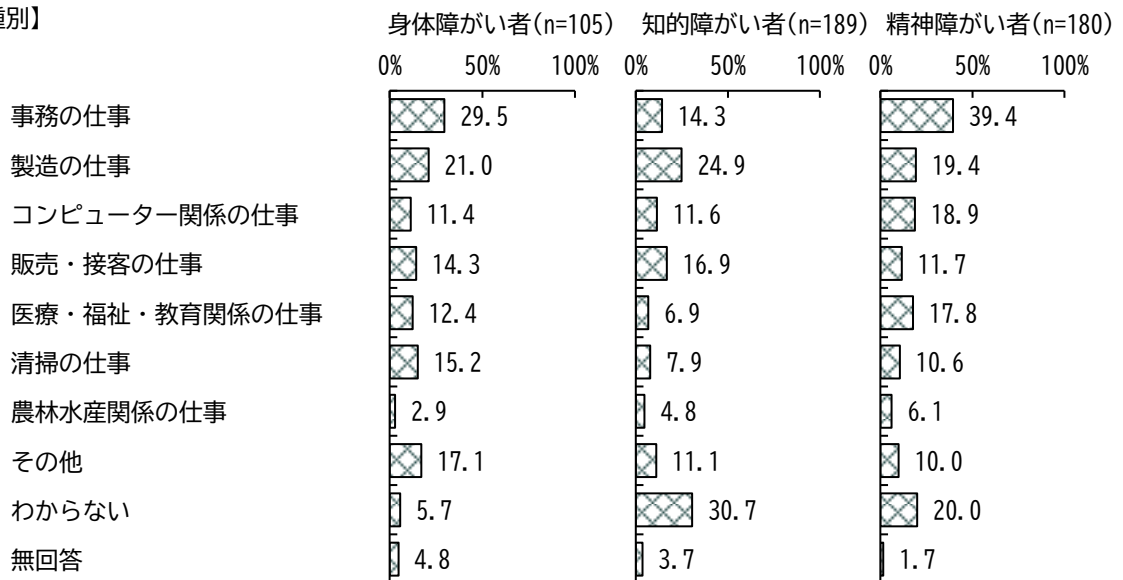
問28-2 あなたはどのような種類の仕事をしたいですか。(○はいくつでも)

「事務の仕事」が25.9%と最も多く、次いで「製造の仕事」が19.1%、「コンピューター関係の仕事」が15.1%などとなっています。また、「わからない」が24.2%となっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”、“重症心身障がい児”、“発達障がい者”では「わからない」が最も多くなっています。

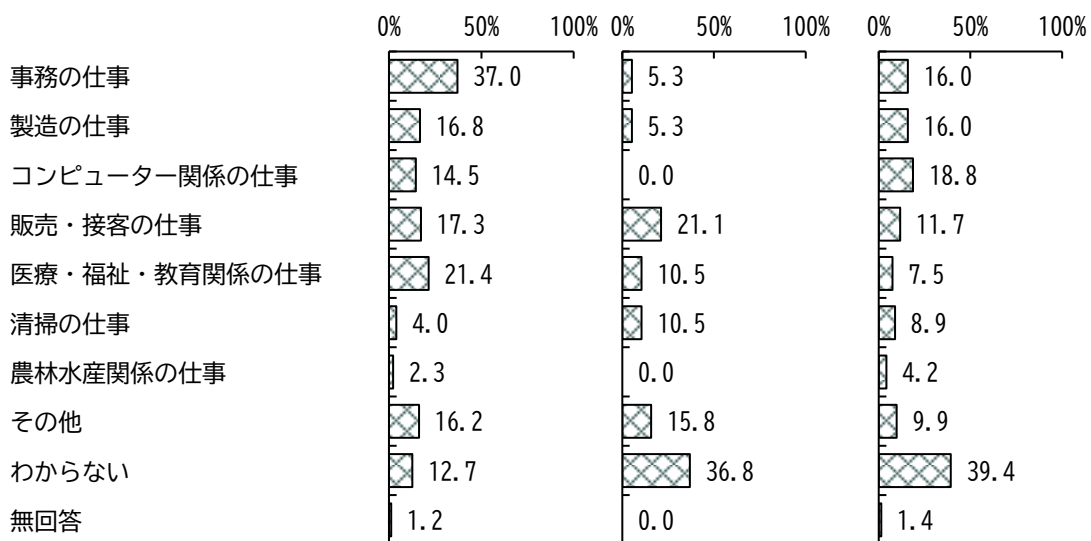


【障がい種別】



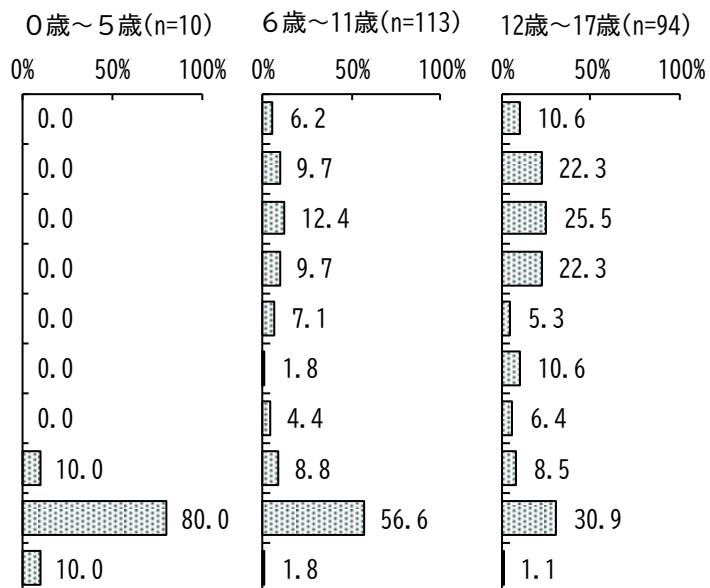
【障がい種別】

難病患者(n=173) 重症心身障がい児者(n=19) 発達障がい者(n=213)

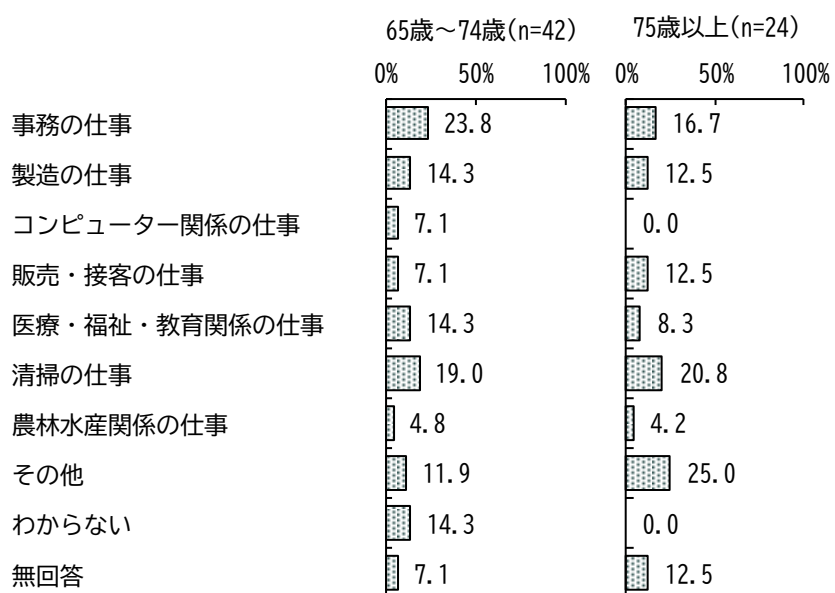
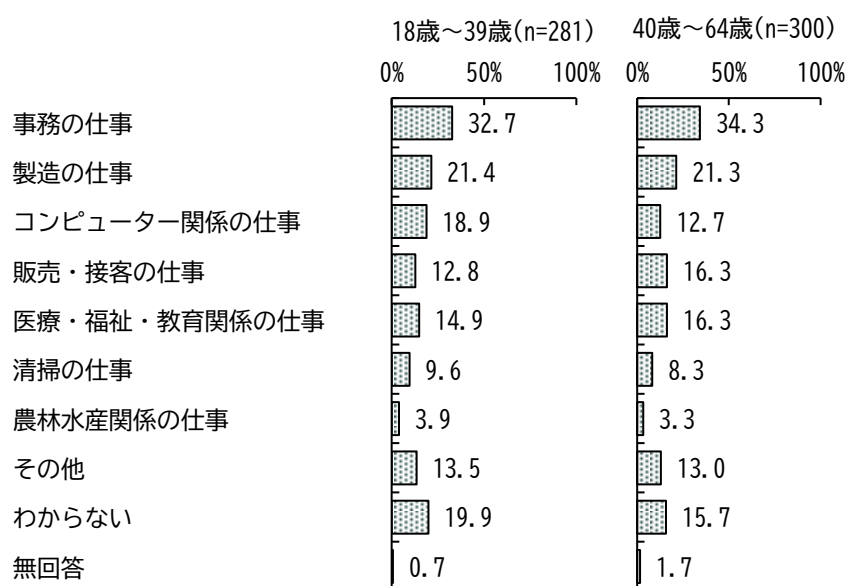


年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「わからない」が最も多くなっています。“75歳以上”では「その他」が最も多くなっています。

【年齢別】



【年齢別】



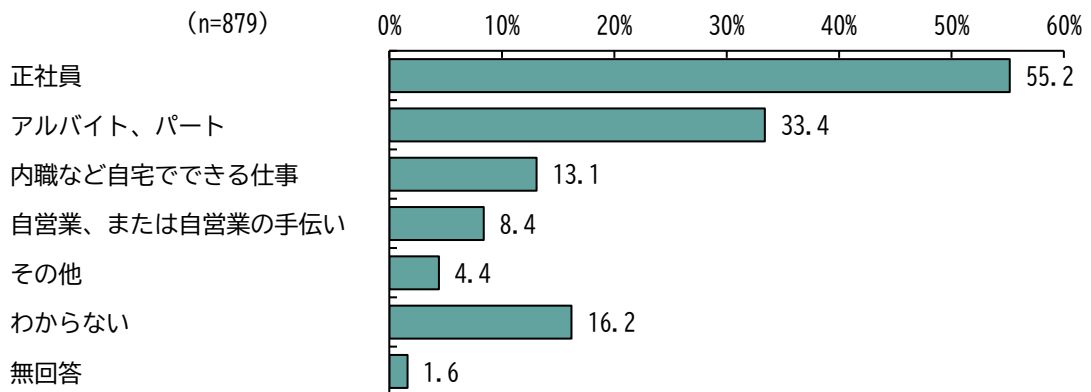
(7) 希望する勤務形態

(問28-1 から問28-3までは、問28で「1 働きたい」とお答えの方にお聞きします。)

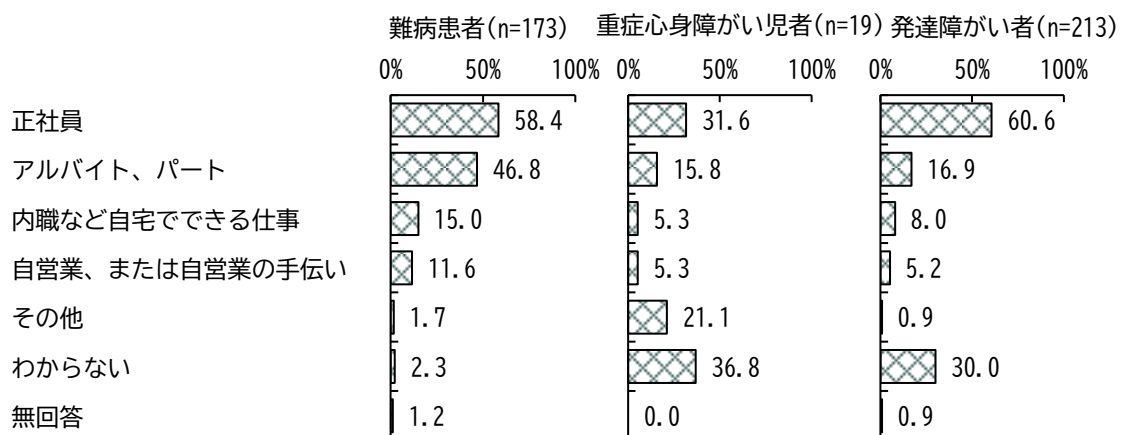
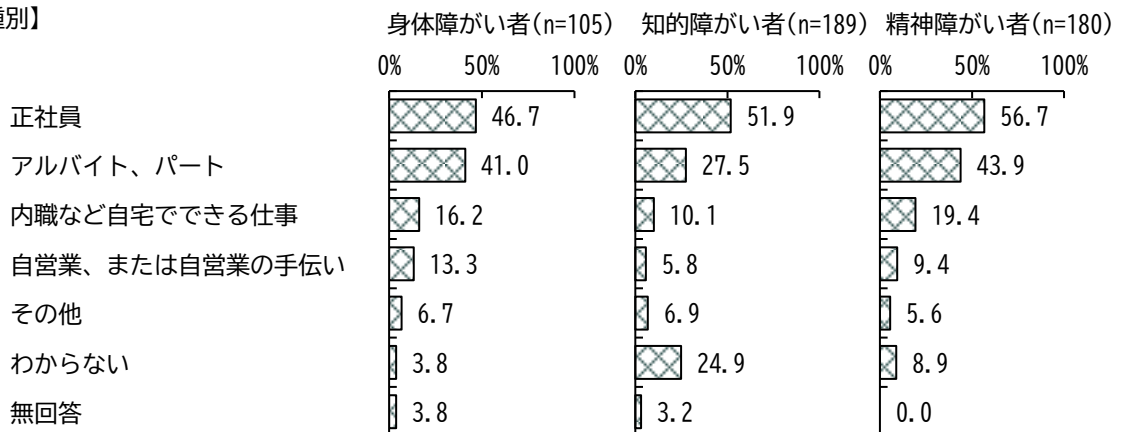
問28-3 あなたはどのように働きたいですか。(〇はいくつでも)

「正社員」が55.2%と最も多く、次いで「アルバイト、パート」が33.4%、「内職など自宅でできる仕事」が13.1%などとなっています。また、「わからない」が16.2%となっています。

障がい種別にみると、“重症心身障がい児”では「わからない」が最も多くなっています。

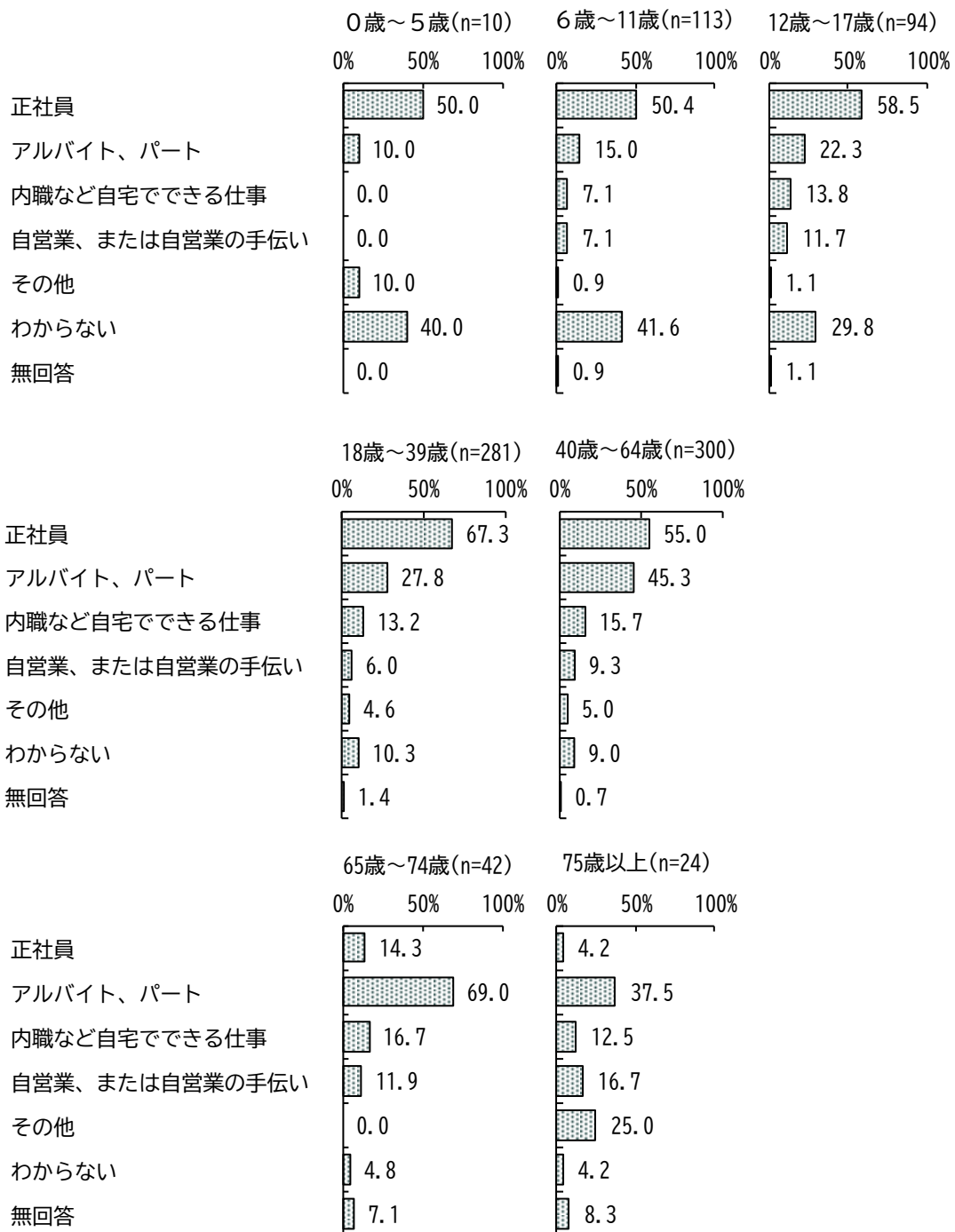


【障がい種別】



年齢別にみると、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「アルバイト、パート」が最も多くなっています。

【年齢別】

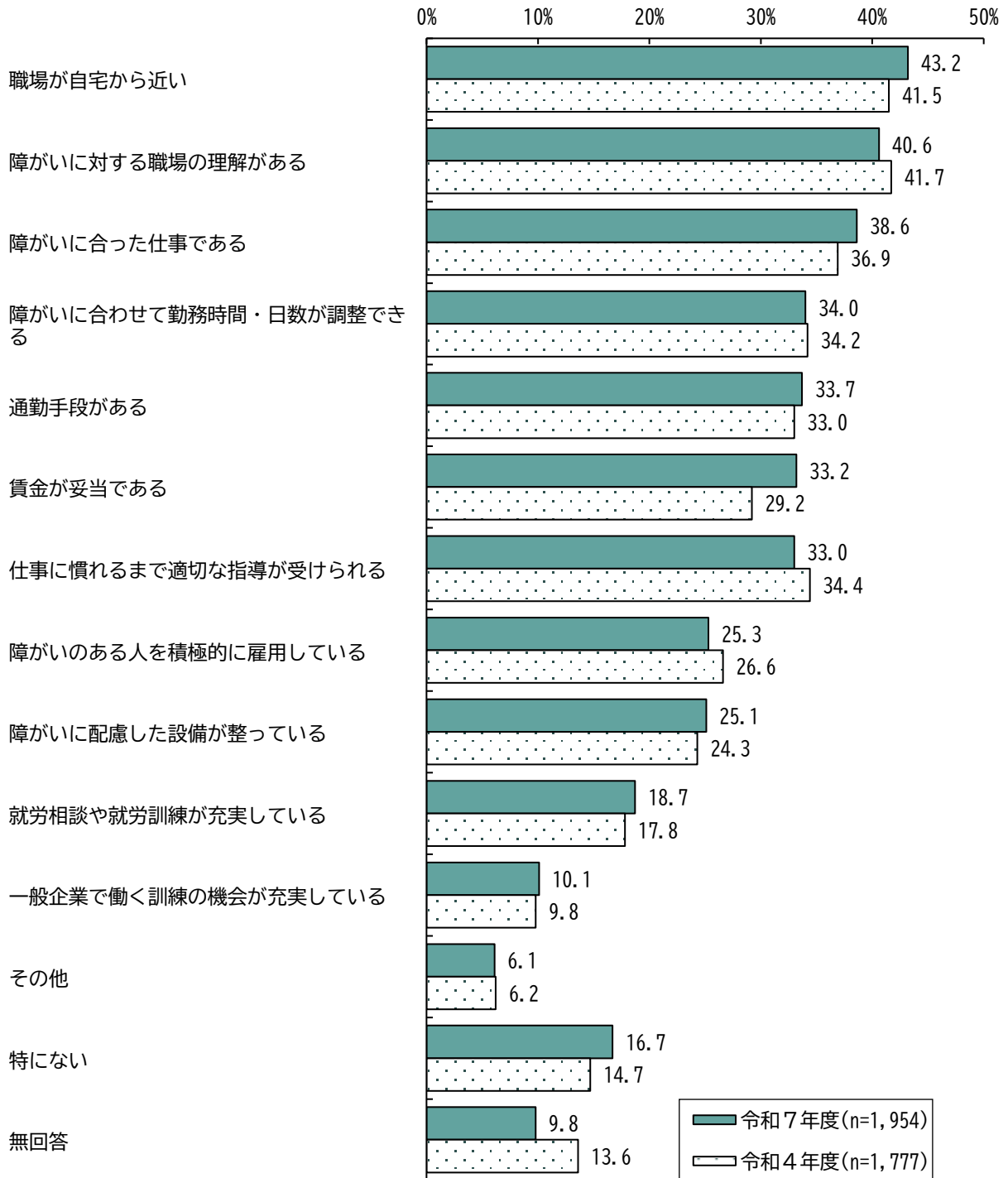


(8) 働く上で必要な条件

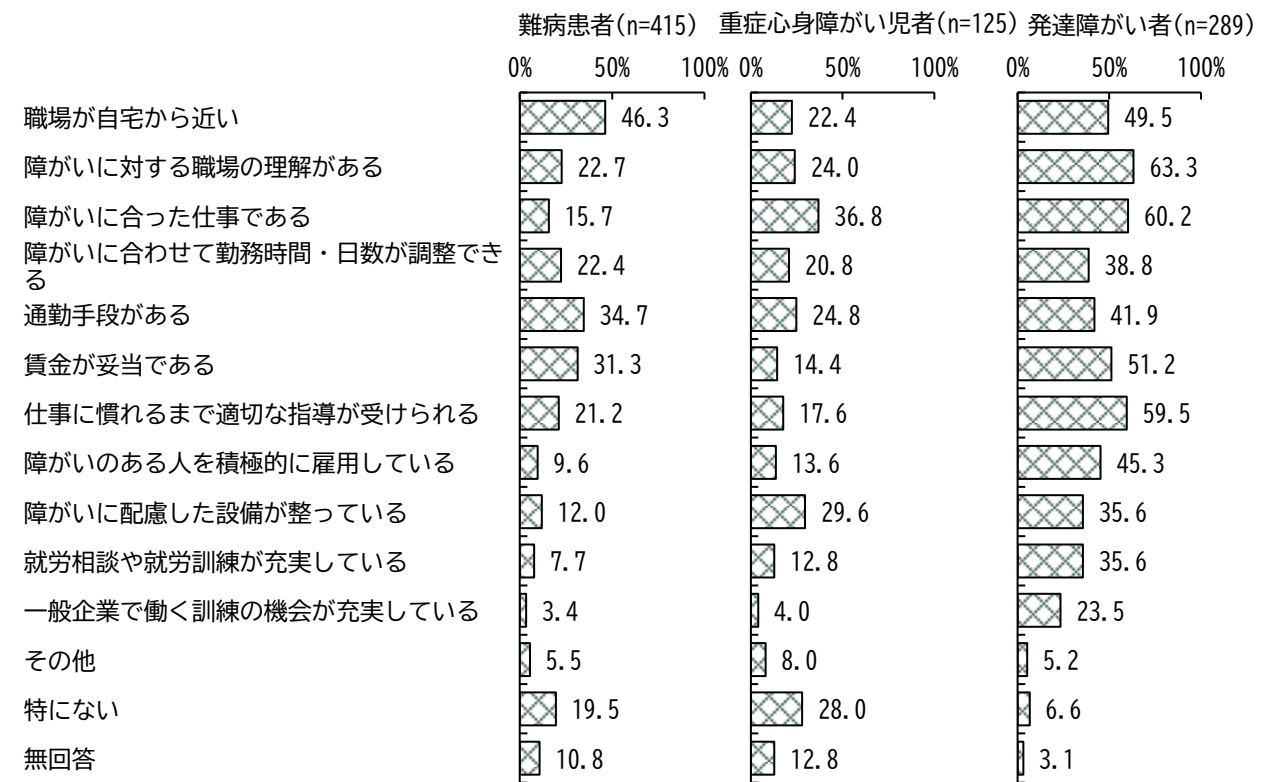
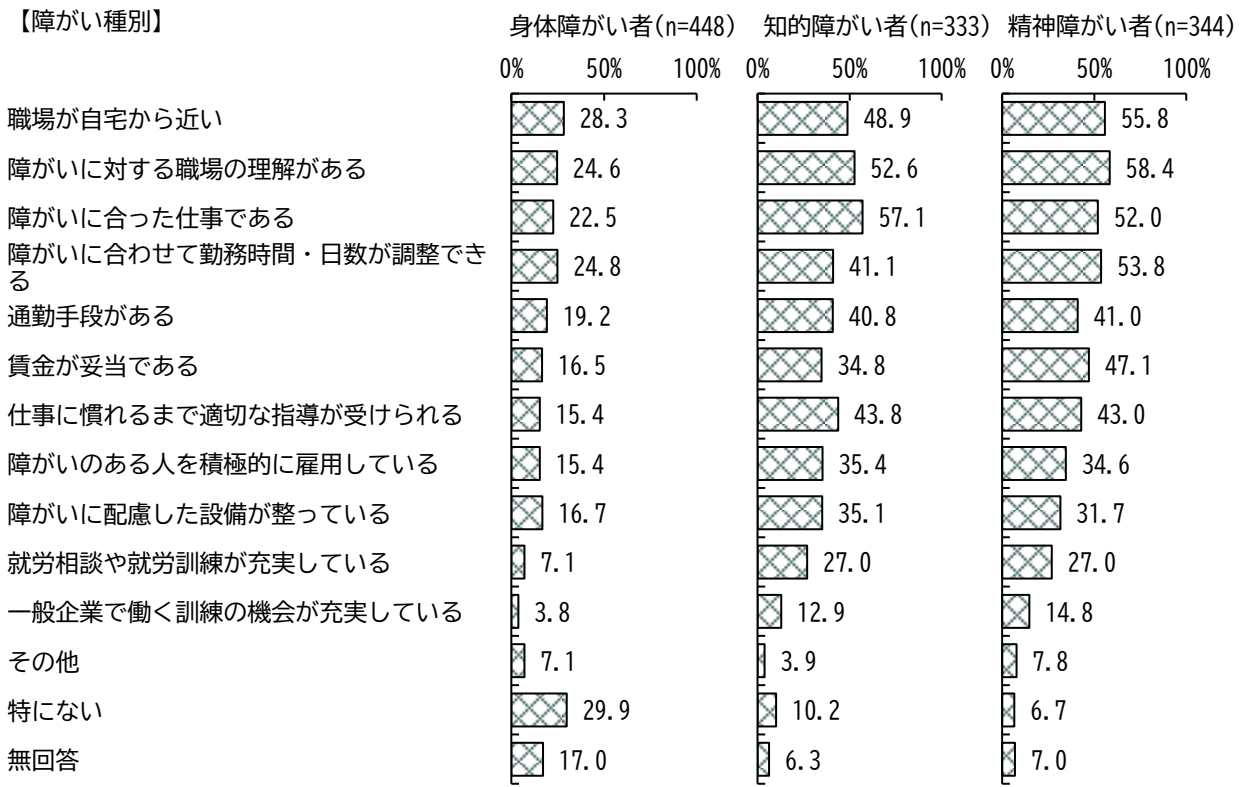
問29 あなたが働く上で、どのような条件が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「職場が自宅から近い」が43.2%と最も多く、次いで「障がいに対する職場の理解がある」が40.6%、「障がいに合った仕事である」が38.6%などとなっています。

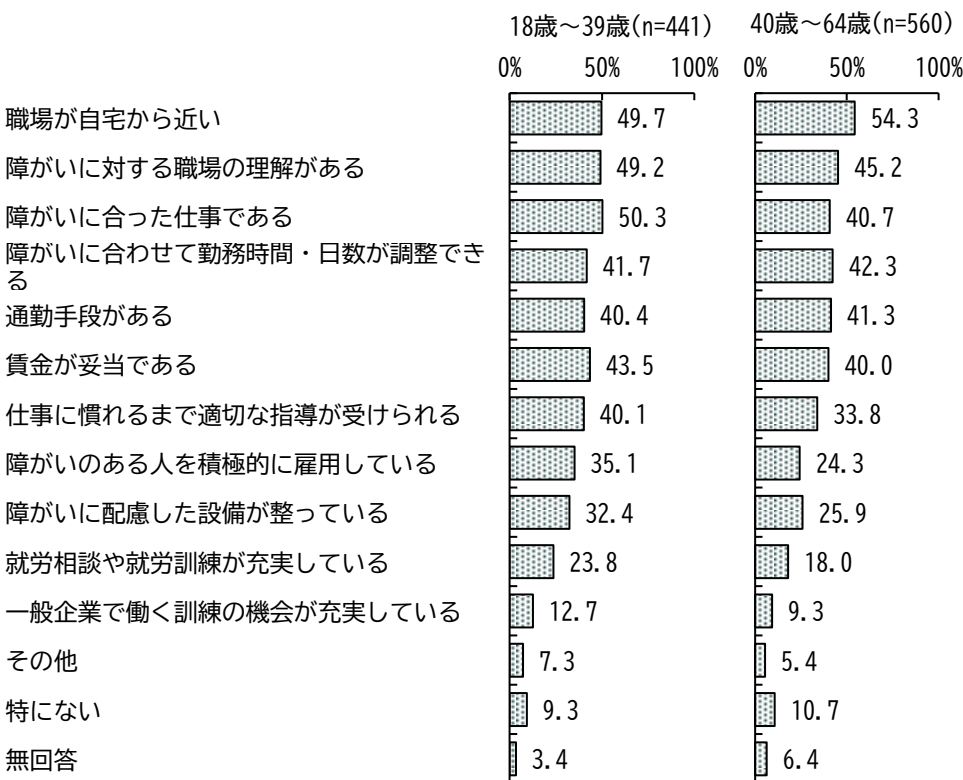
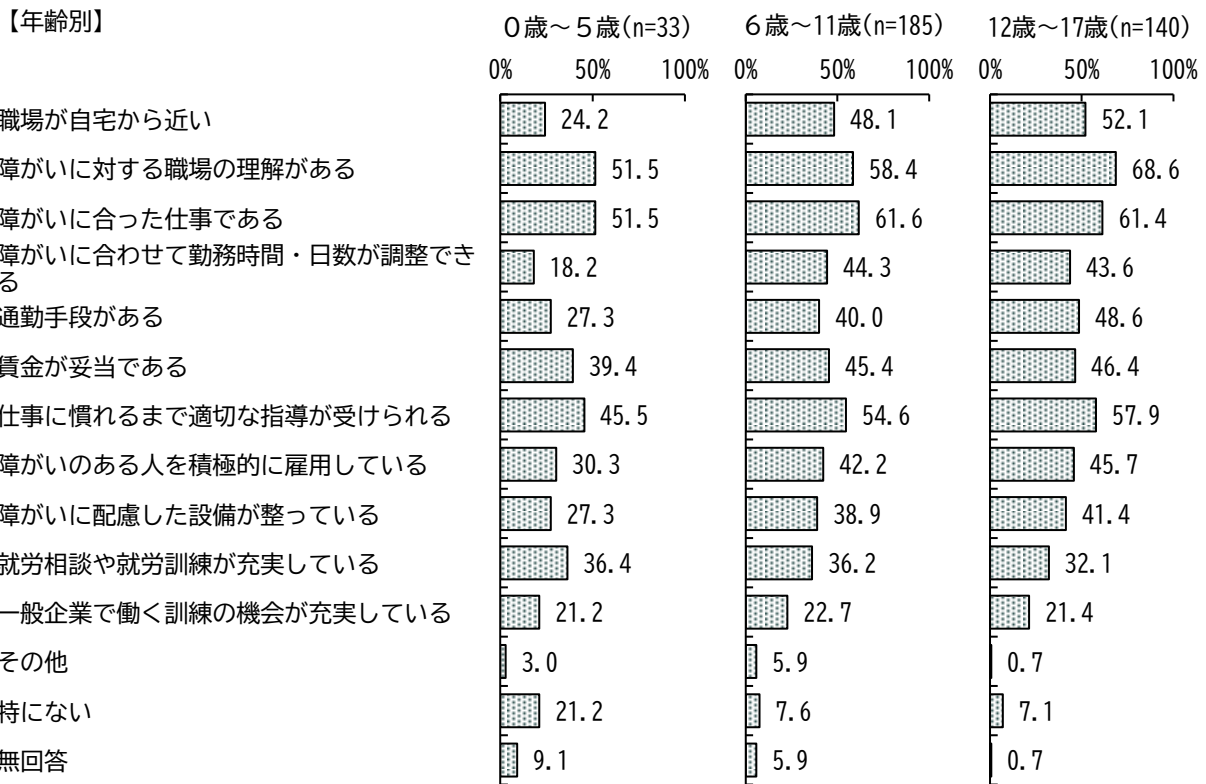
【全体・経年比較】

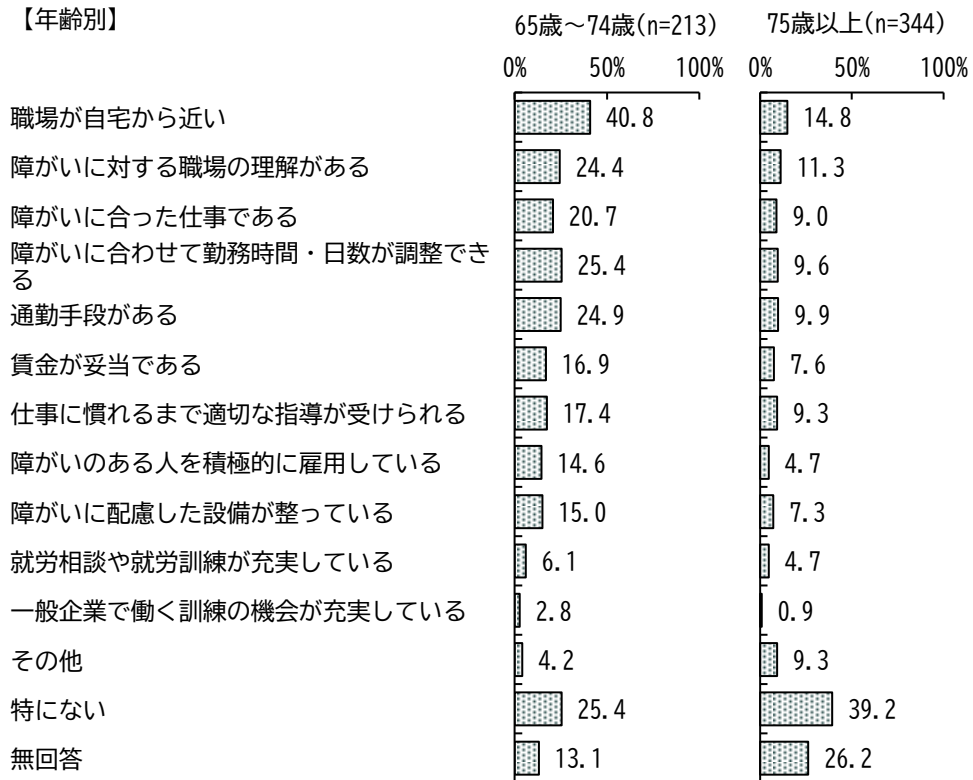


障がい種別にみると、“身体障がい者”では「特にない」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”、“重症心身障がい児者”では「障がいに合った仕事である」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”、“発達障がい者”では「障がいに対する職場の理解がある」が最も多くなっています。



年齢別にみると、“0歳～5歳”では「障がいに対する職場の理解がある」、「障がいに合った仕事である」が最も多くなっています。また、“6歳～11歳”、“18歳～39歳”では「障がいに合った仕事である」が最も多くなっています。また、“12歳～17歳”では「障がいに対する職場の理解がある」が最も多くなっています。また、“75歳以上”では「特にない」が最も多くなっています。



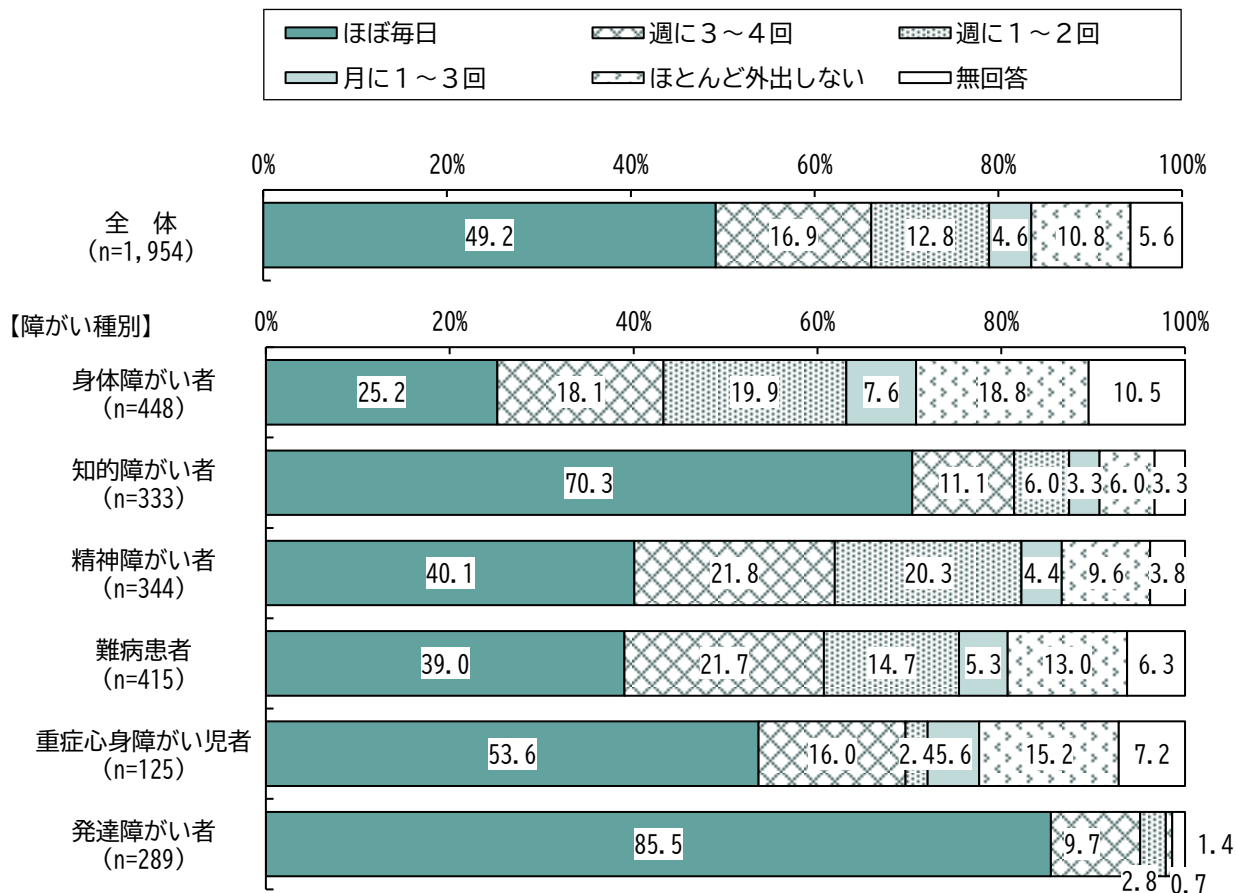


7 外出やバリアフリーについて

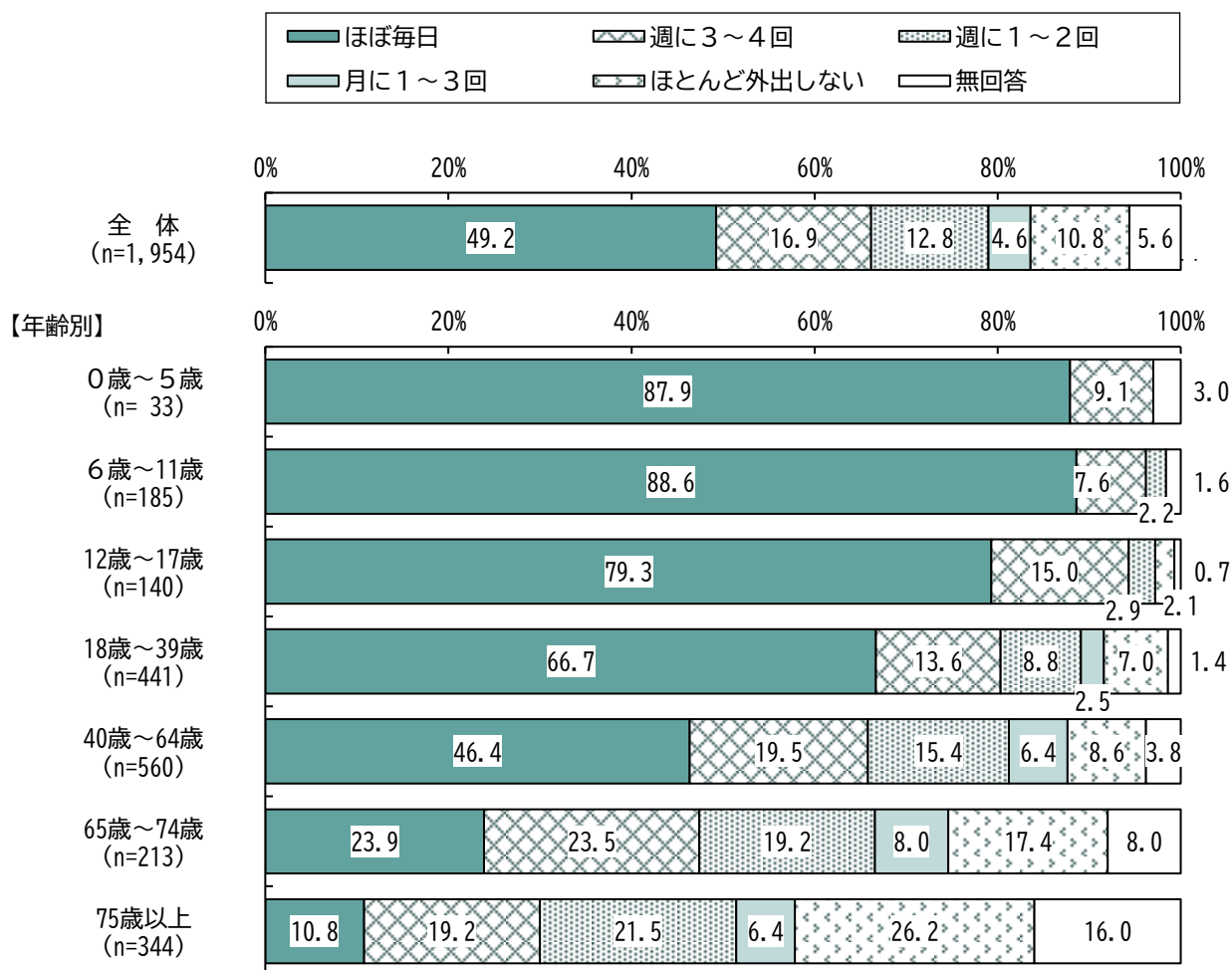
(1) 通院以外の外出の頻度

問30 あなたの外出の頻度（通勤・通学などを含む）はどれくらいですか。通院は含みません。
 (○は1つ)

「ほぼ毎日」が49.2%と最も多く、次いで「週に3～4回」が16.9%、「週に1～2回」が12.8%などとなっています。



年齢別にみると、“75歳以上”では「ほとんど外出しない」が最も多くなっています。



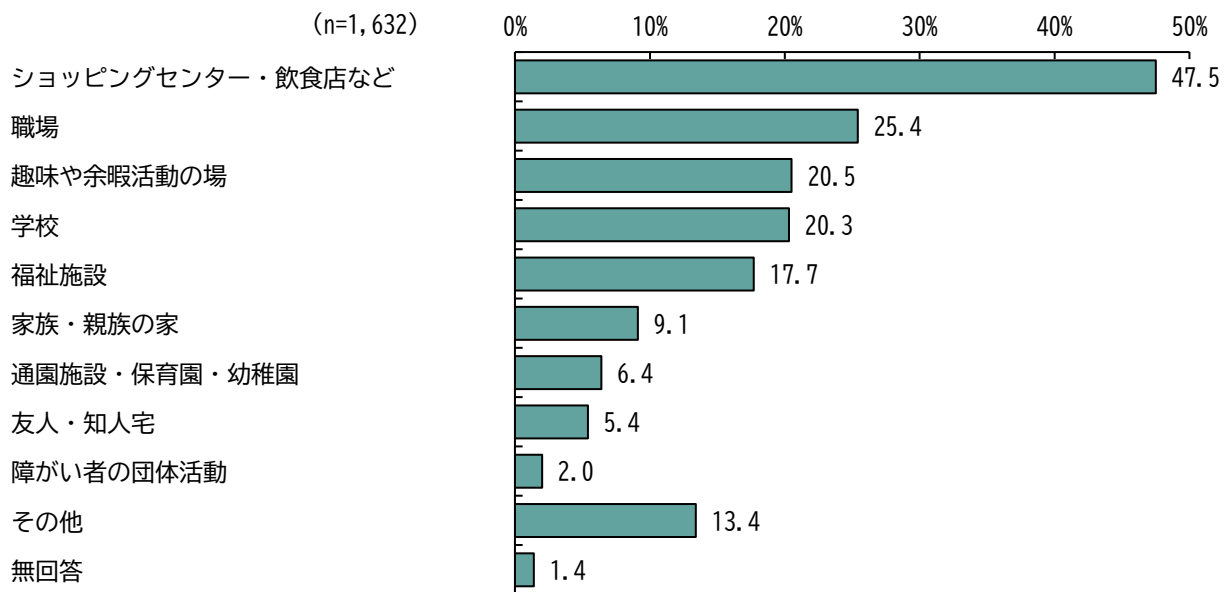
(2) 主な外出先

(問30-1 から問30-3までは、問30で「1」～「4」とお答えの方(外出をしている方)にお聞きします。)

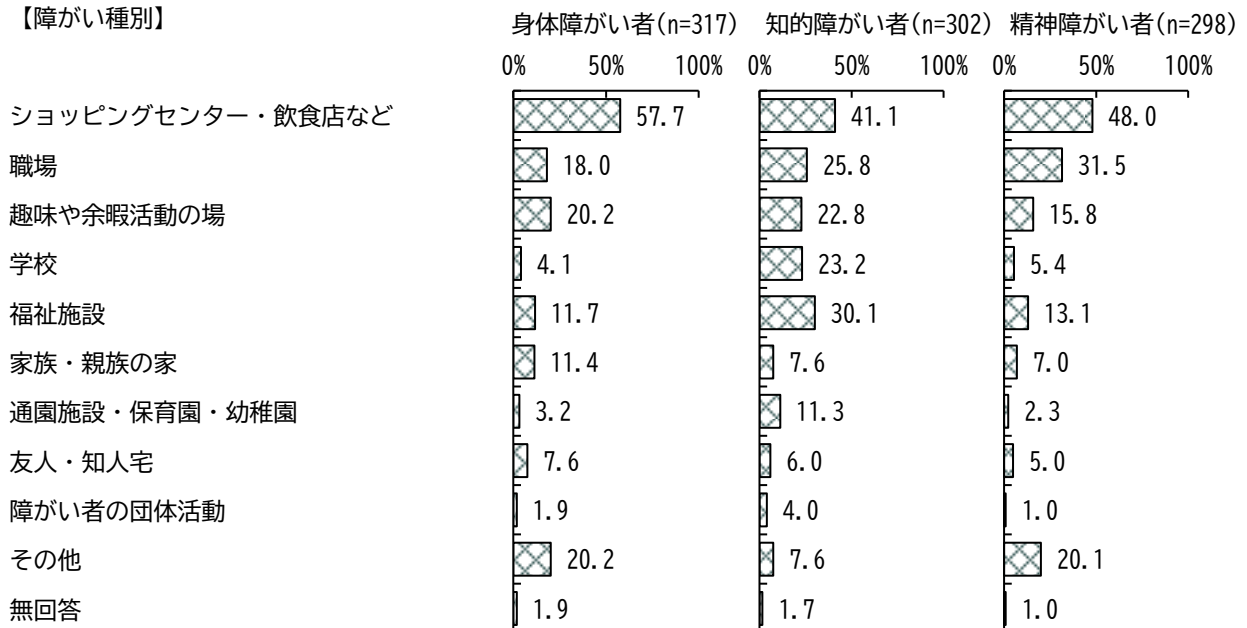
問30-1 主にどこに外出していますか。(〇はいくつでも)

「ショッピングセンター・飲食店など」が47.5%と最も多く、次いで「職場」が25.4%、「趣味や余暇活動の場」が20.5%などとなっています。

障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「福祉施設」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「学校」が最も多くなっています。

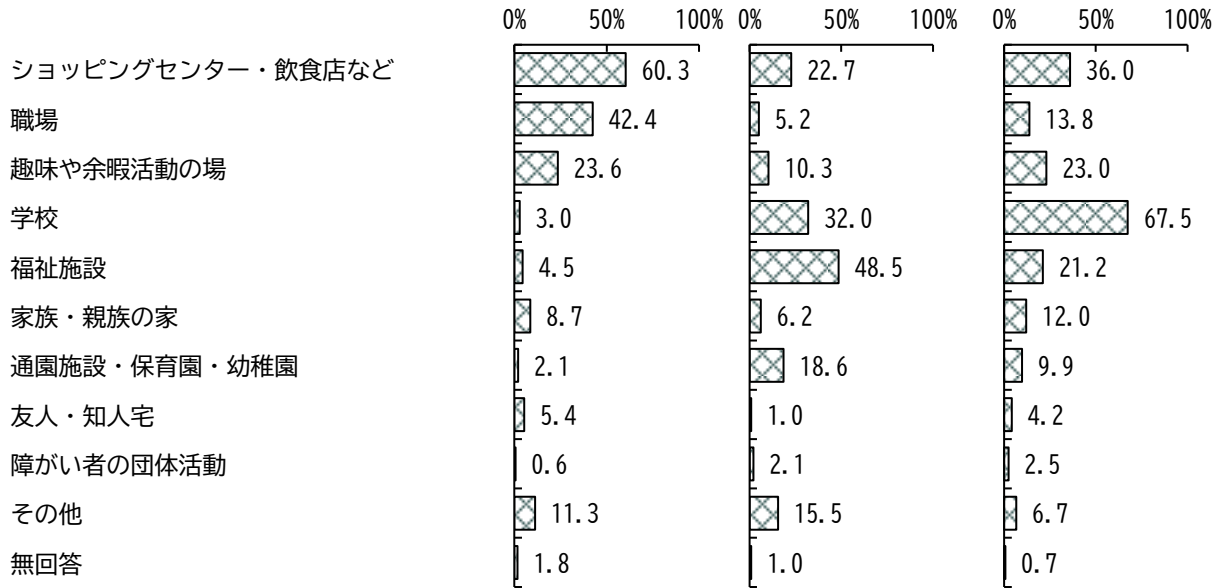


【障がい種別】



【障がい種別】

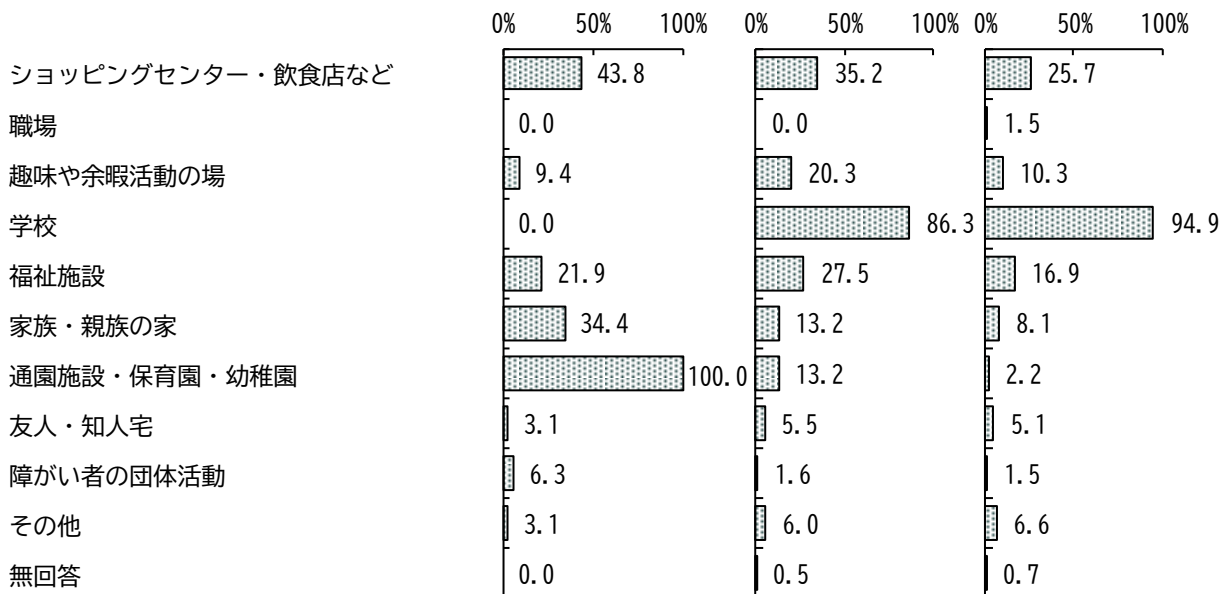
難病患者(n=335) 重症心身障がい児者(n=97) 発達障がい者(n=283)



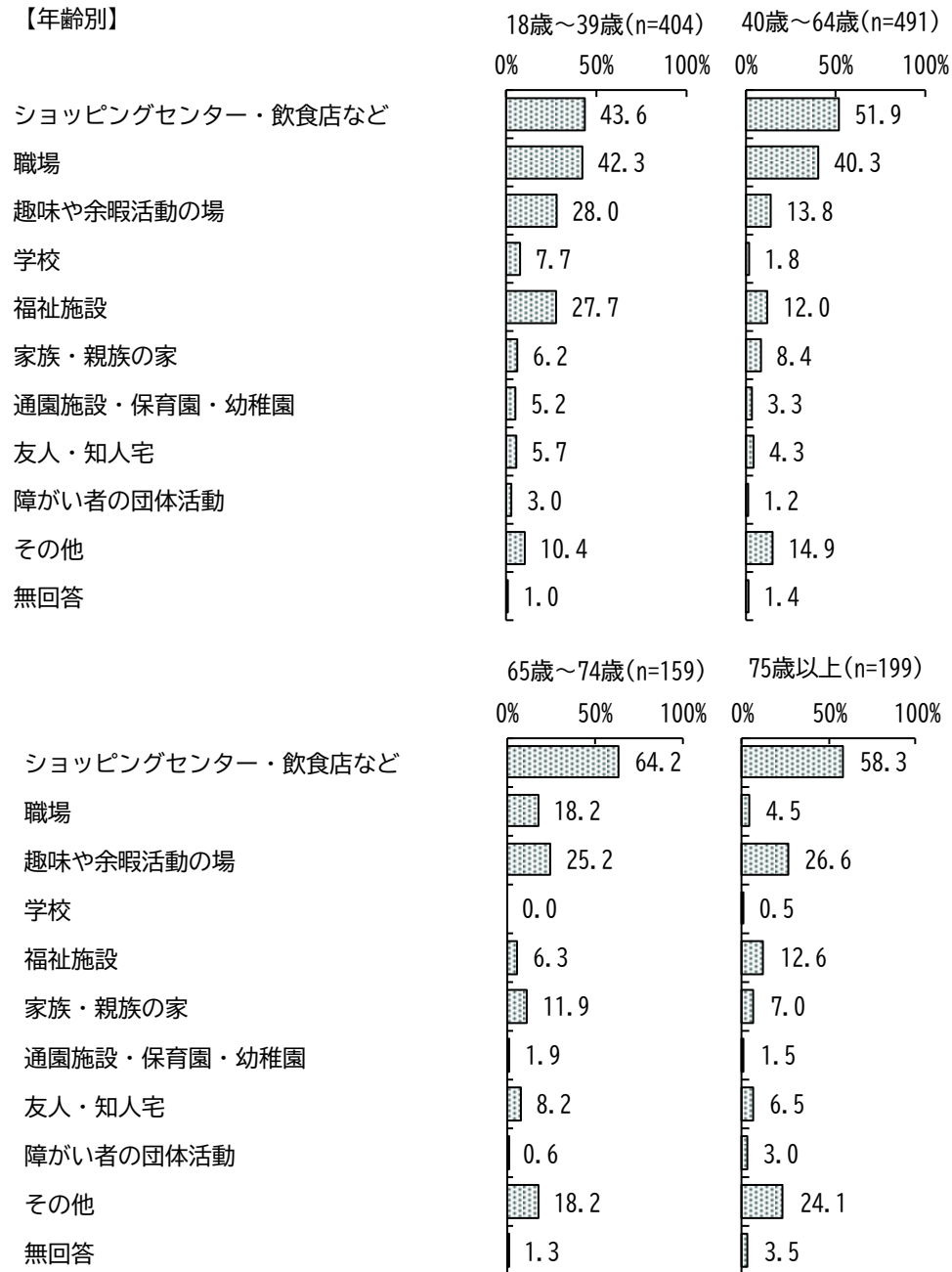
年齢別にみると、“0歳～5歳”では「通園施設・保育園・幼稚園」が最も多くなっています。また、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「学校」が最も多くなっています。

【年齢別】

0歳～5歳(n=32) 6歳～11歳(n=182) 12歳～17歳(n=136)



【年齢別】



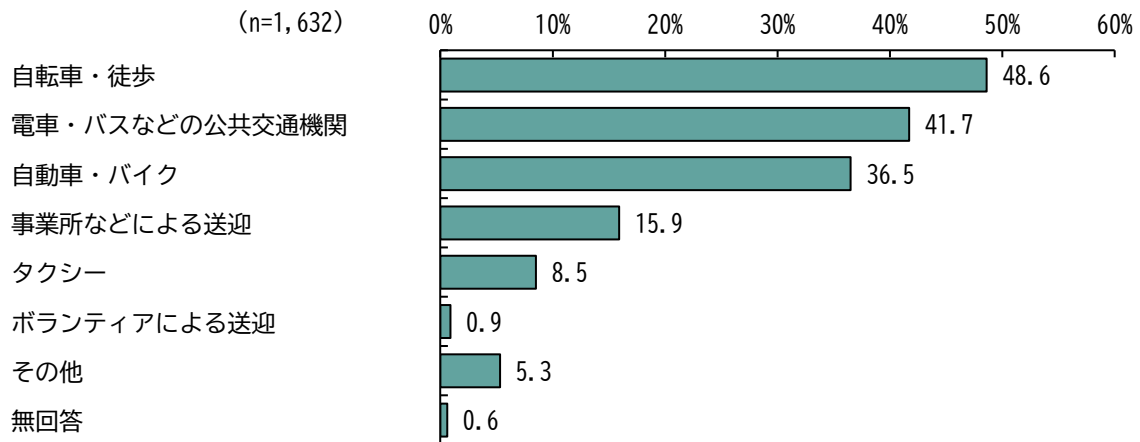
(3) 主な移動手段

(問30-1 から問30-3までは、問30で「1」～「4」とお答えの方(外出をしている方)にお聞きします。)

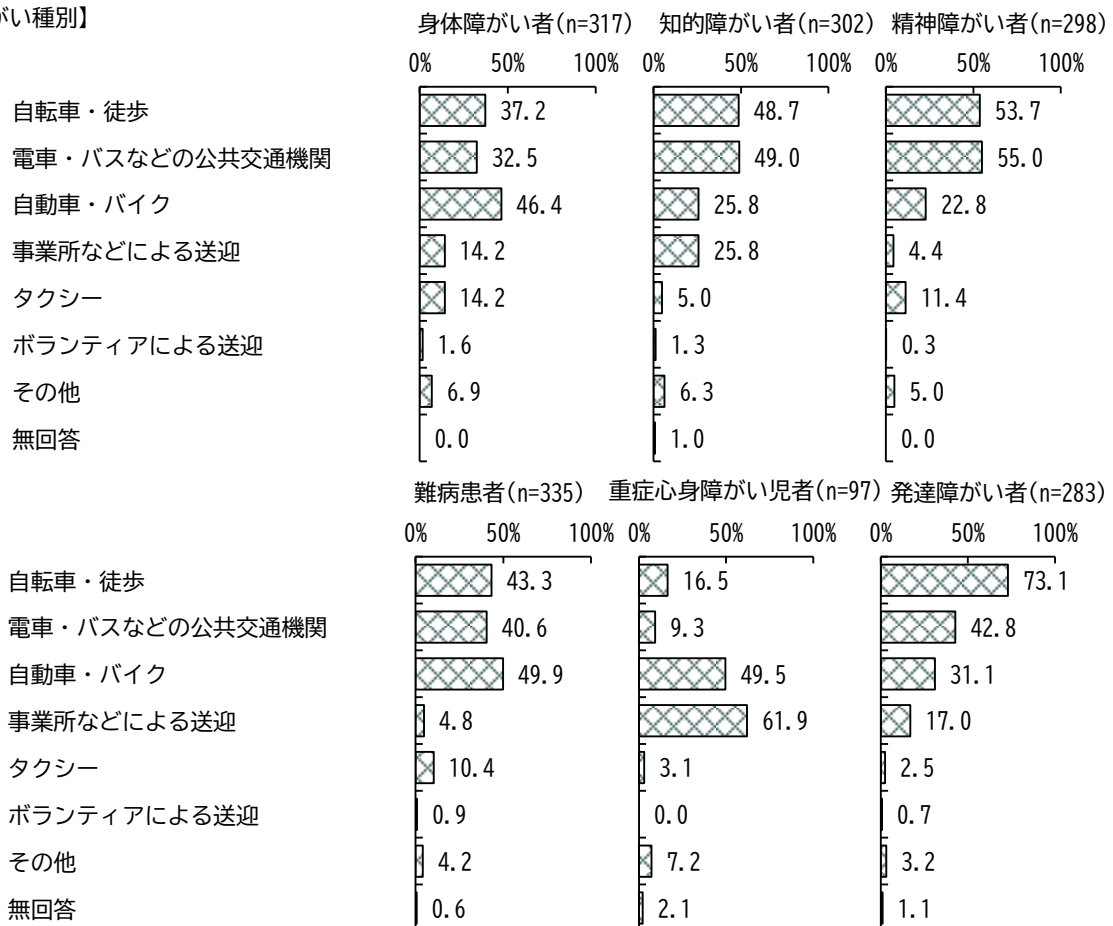
問30-2 主な移動手段は何ですか。(○はいくつでも)

「自転車・徒歩」が48.6%と最も多く、次いで「電車・バスなどの公共交通機関」が41.7%、「自動車・バイク」が36.5%などとなっています。

障がい種別にみると、“身体障がい者”、“難病患者”では「自動車・バイク」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”、“精神障がい者”では「電車・バスなどの公共交通機関」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「事業所などによる送迎」が最も多くなっています。

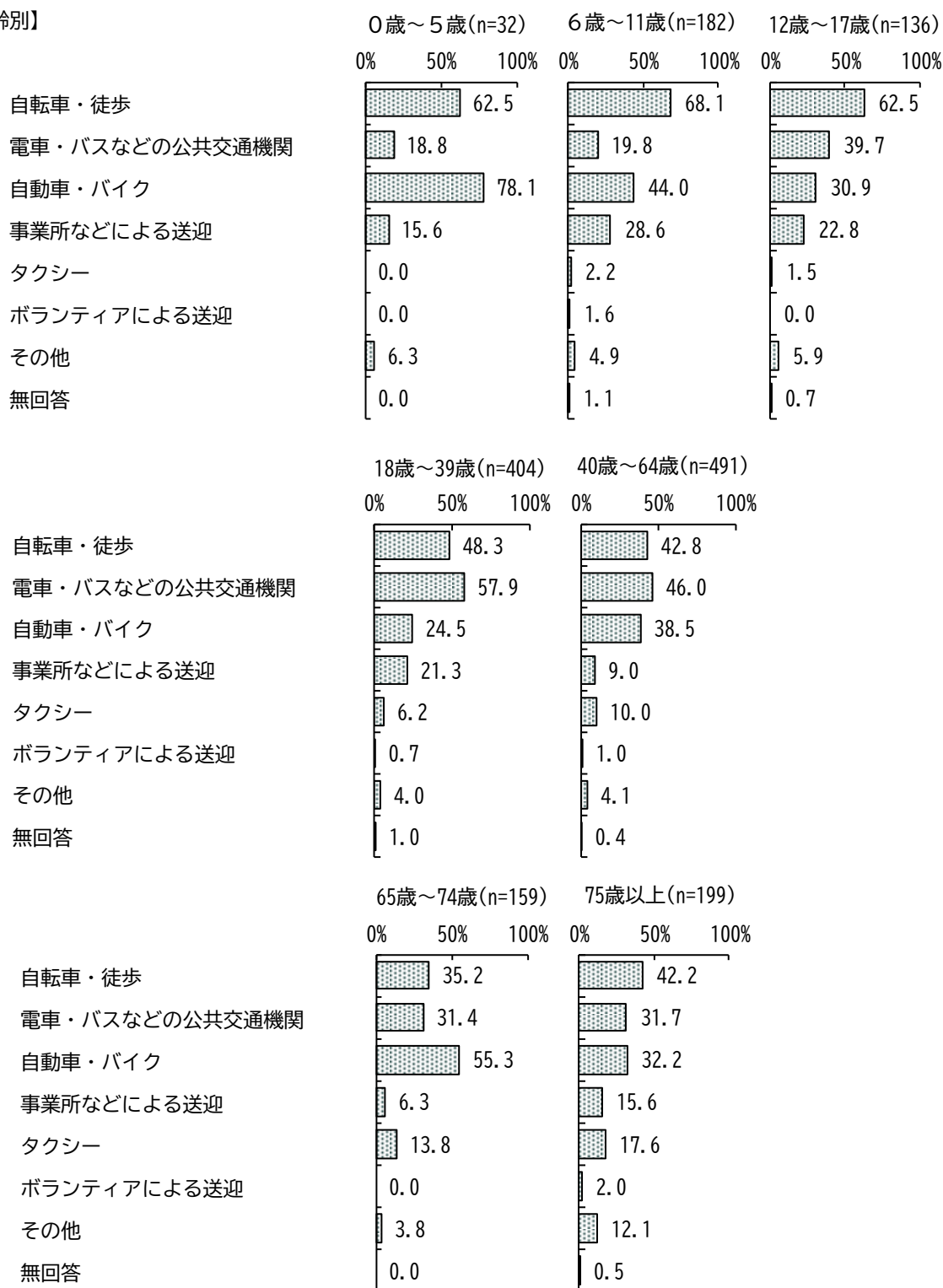


【障がい種別】



年齢別にみると、“0歳～5歳”、“65歳～74歳”では「自動車・バイク」が最も多くなっています。また、“18歳～39歳”、“40歳～64歳”では「電車・バスなどの公共交通機関」が最も多くなっています。

【年齢別】



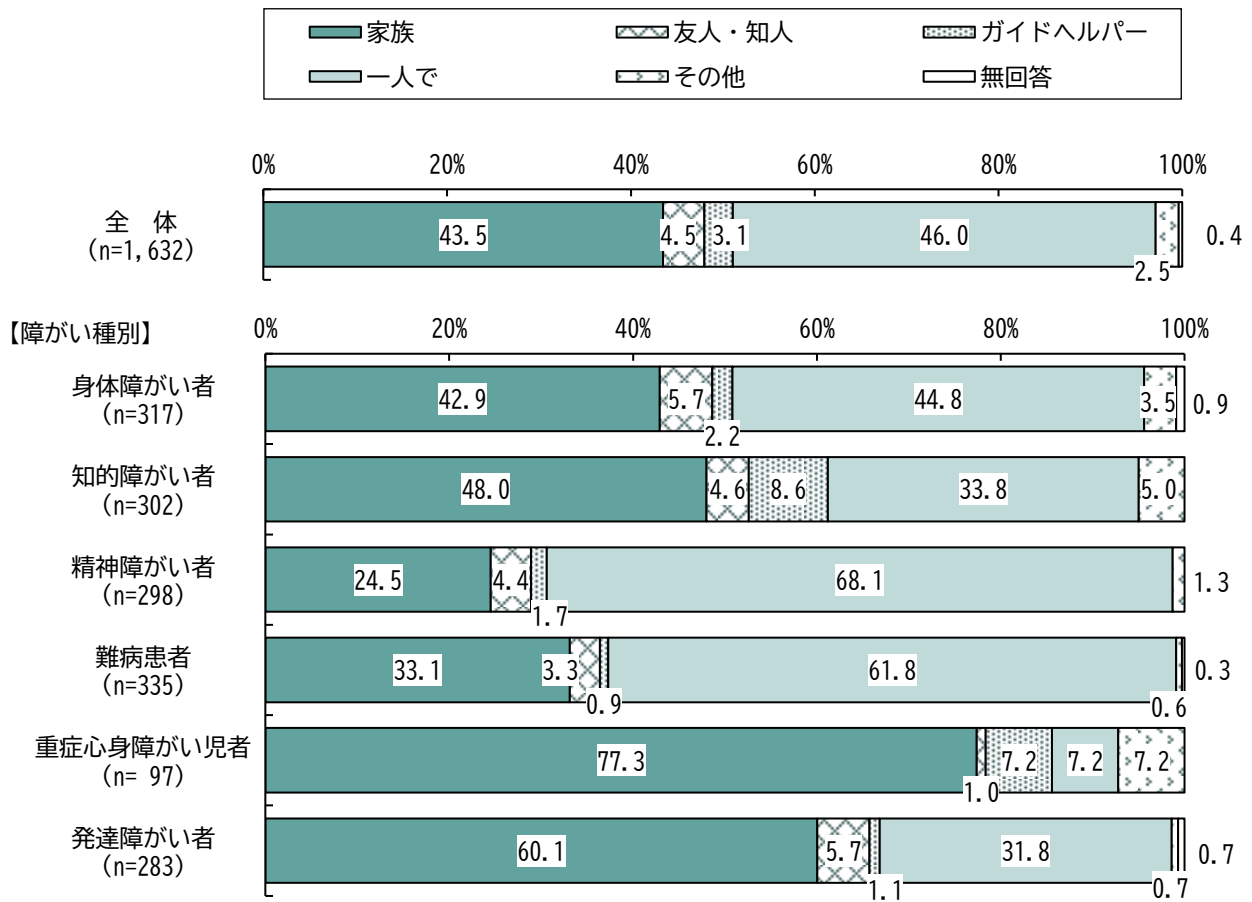
(4) 主に一緒に外出する人

(問30-1 から問30-3までは、問30で「1」～「4」とお答えの方(外出をしている方)にお聞きします。)

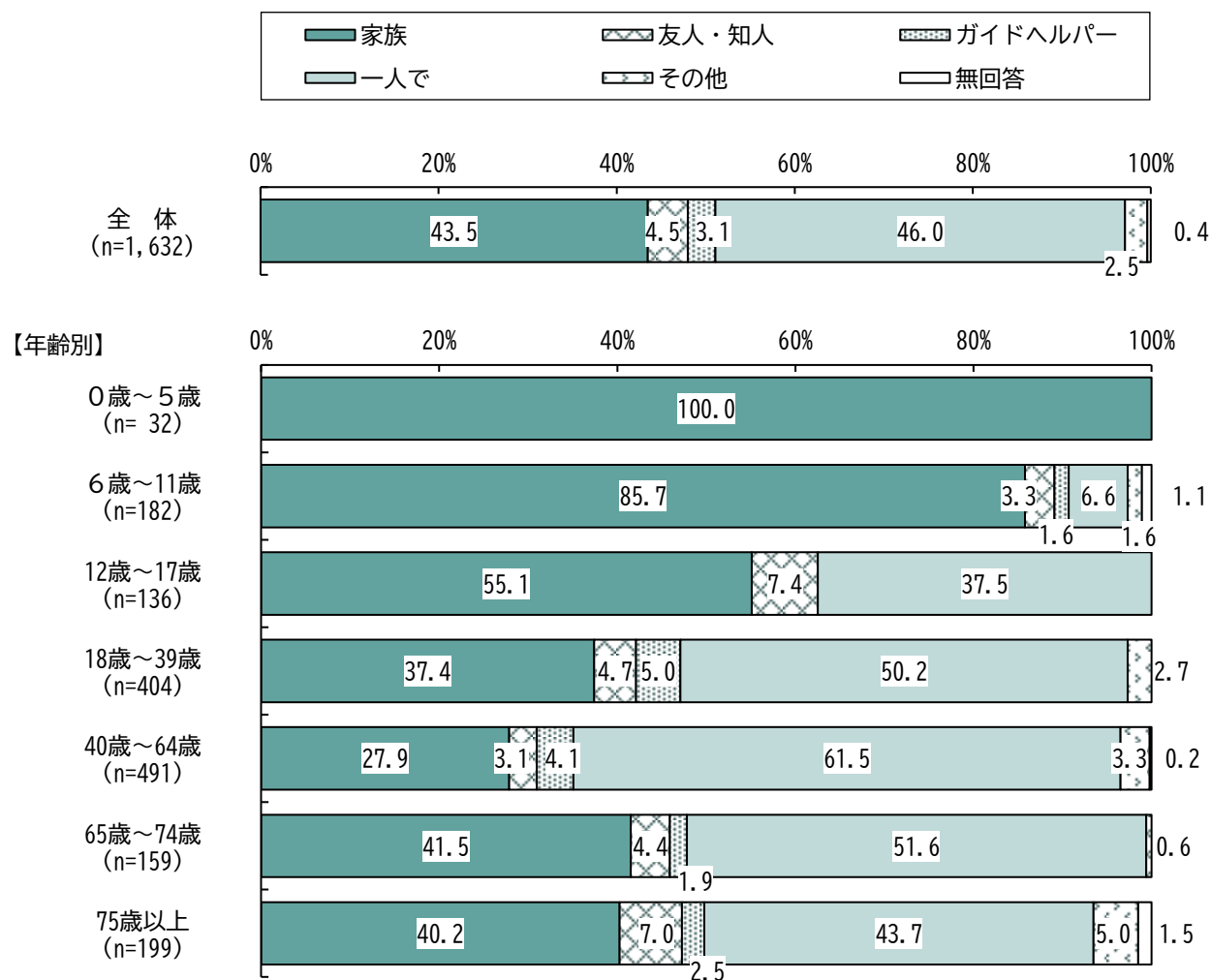
問30-3 外出は主にだれとしていきますか。(○は1つ)

「家族」が43.5%、「友人・知人」が4.5%、「ガイドヘルパー」が3.1%、「一人で」が46.0%などとなっています。

障がい種別に見ると、「知的障がい者」、「重症心身障がい児者」、「発達障がい者」では「家族」が最も多くなっています。



年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「家族」が最も多くなっています。

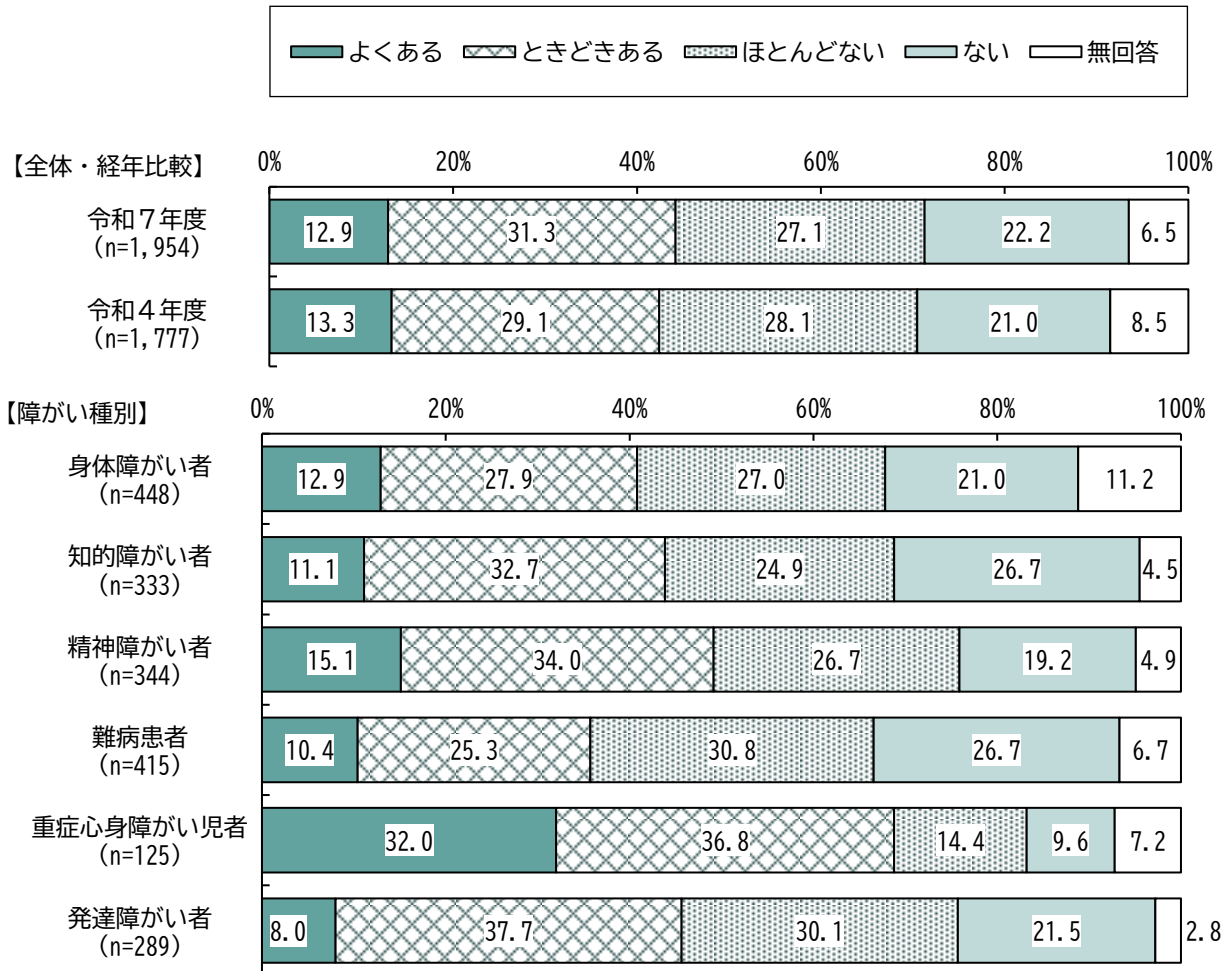


(5) 外出時の困りごとの有無

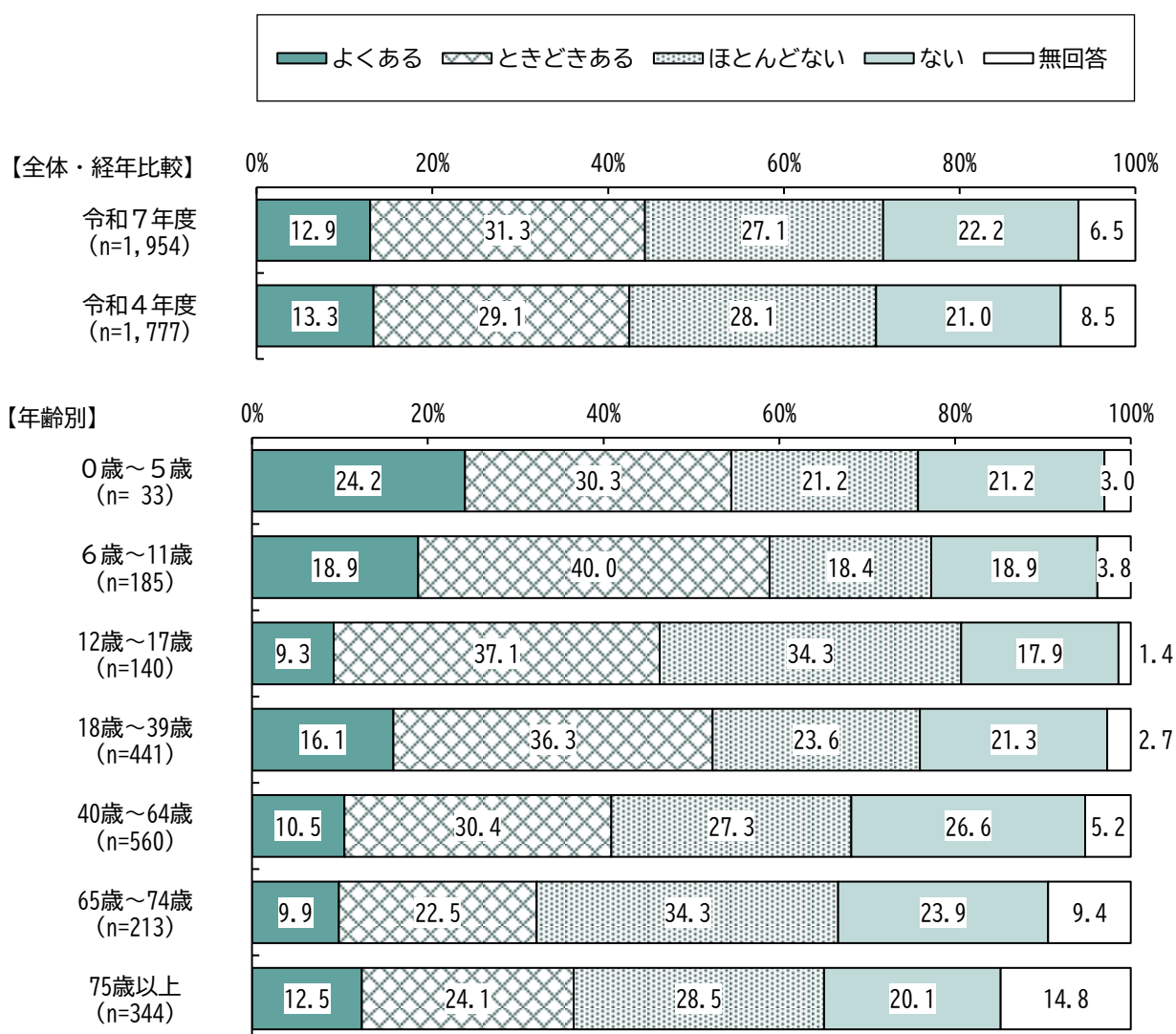
問31 外出したときに、困ったことはありますか。(○は1つ)

「よくある」が12.9%、「ときどきある」が31.3%、「ほとんどない」が27.1%、「ない」が22.2%となっています。

障がい種別にみると、“難病患者”では「ほとんどない」が最も多くなっています。



年齢別にみると、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「ほとんどない」が最も多くなっています。

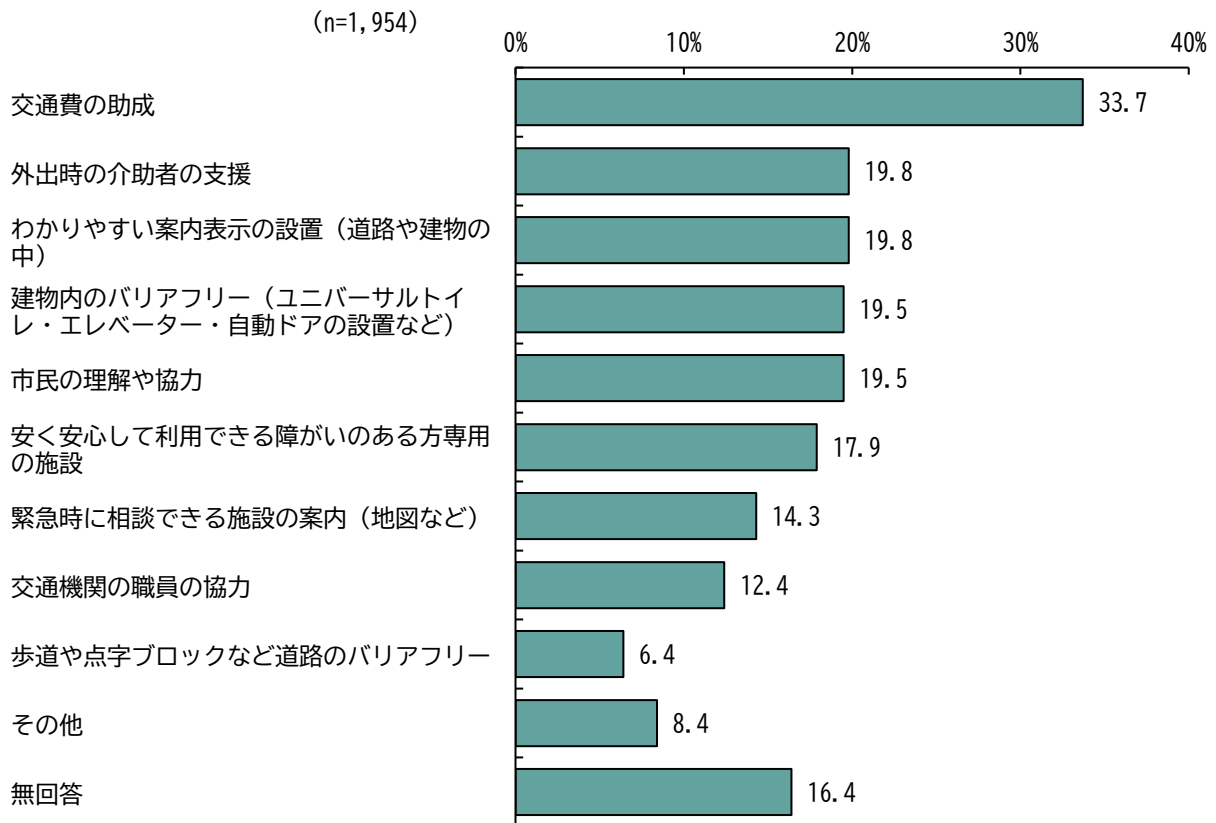


(6) 外出しやすくなるために希望すること

問32 あなたが外出しやすくなるために、希望するものは何ですか。(〇は5つまで)

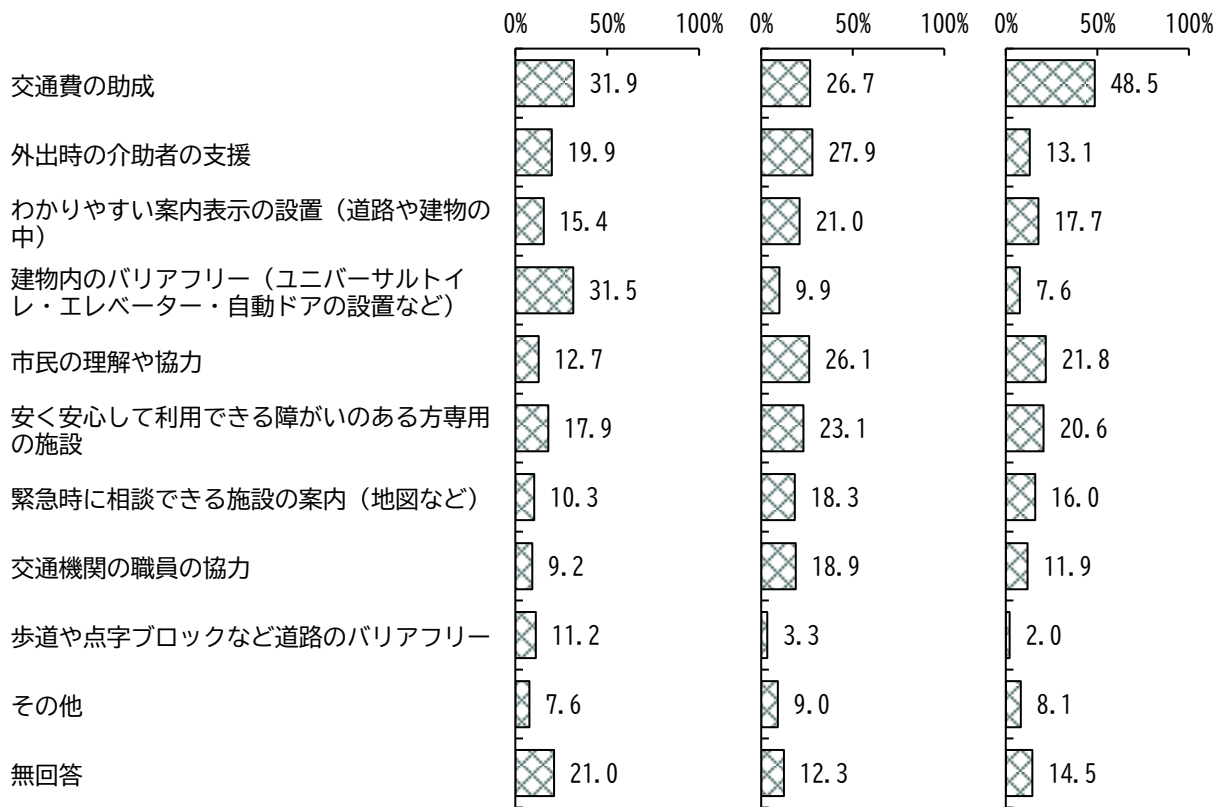
「交通費の助成」が33.7%と最も多く、次いで「外出時の介助者の支援」、「わかりやすい案内表示の設置（道路や建物の中）」が19.8%などとなっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”では「外出時の介助者の支援」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「建物内のバリアフリー（ユニバーサルトイレ・エレベーター・自動ドアの設置など）」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「わかりやすい案内表示の設置（道路や建物の中）」が最も多くなっています。

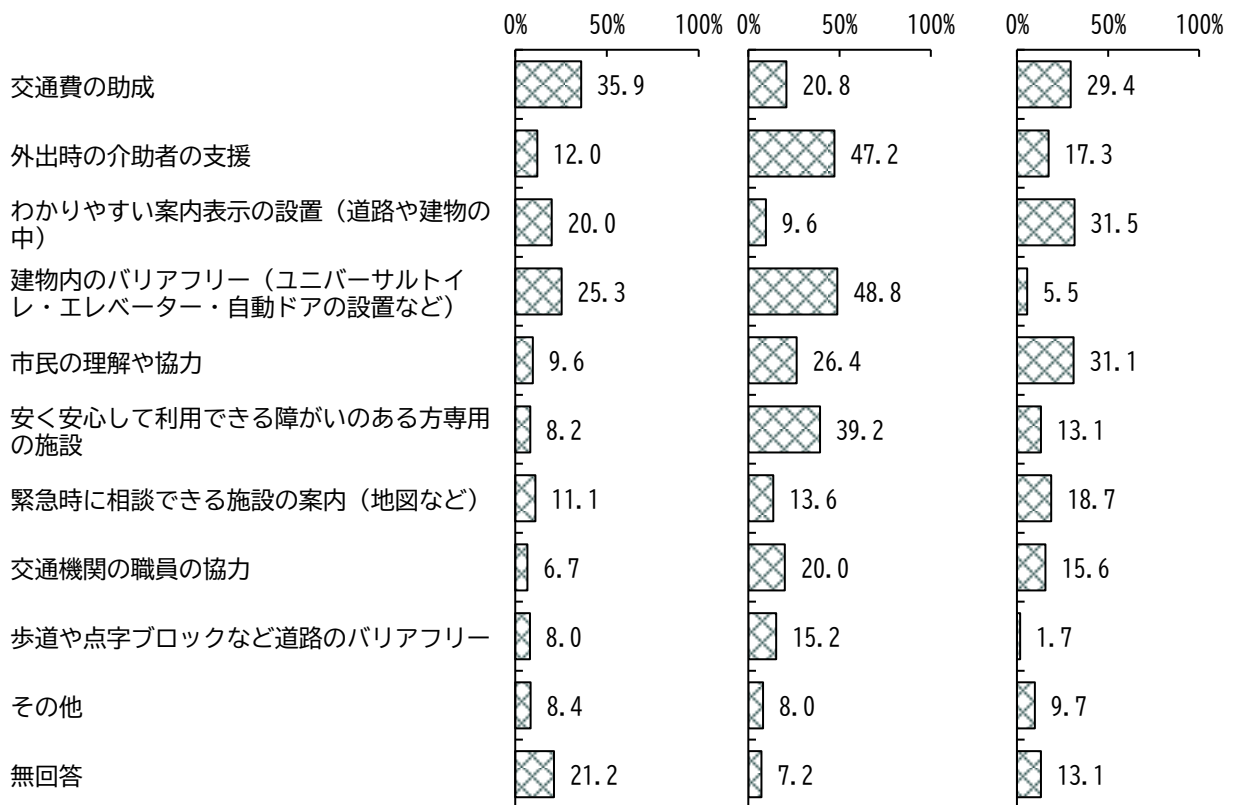


【障がい種別】

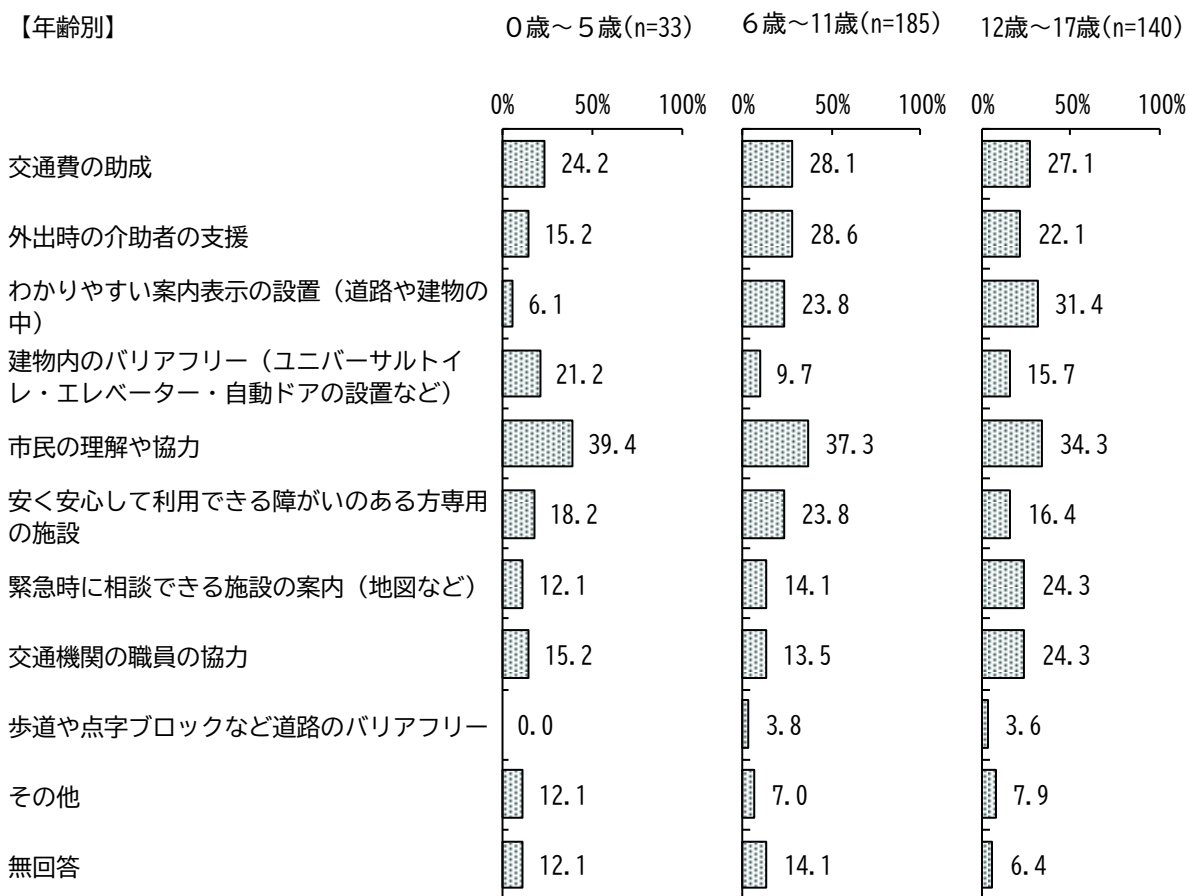
身体障がい者(n=448) 知的障がい者(n=333) 精神障がい者(n=344)



難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



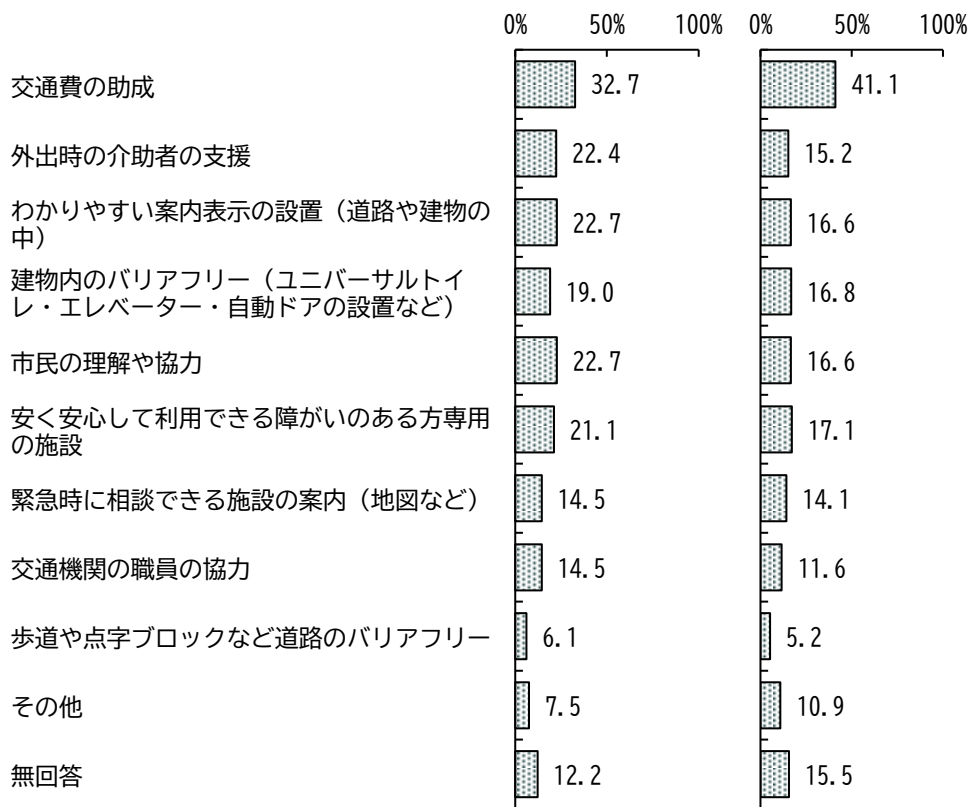
年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「市民の理解や協力」が最も多くなっています。



【年齢別】

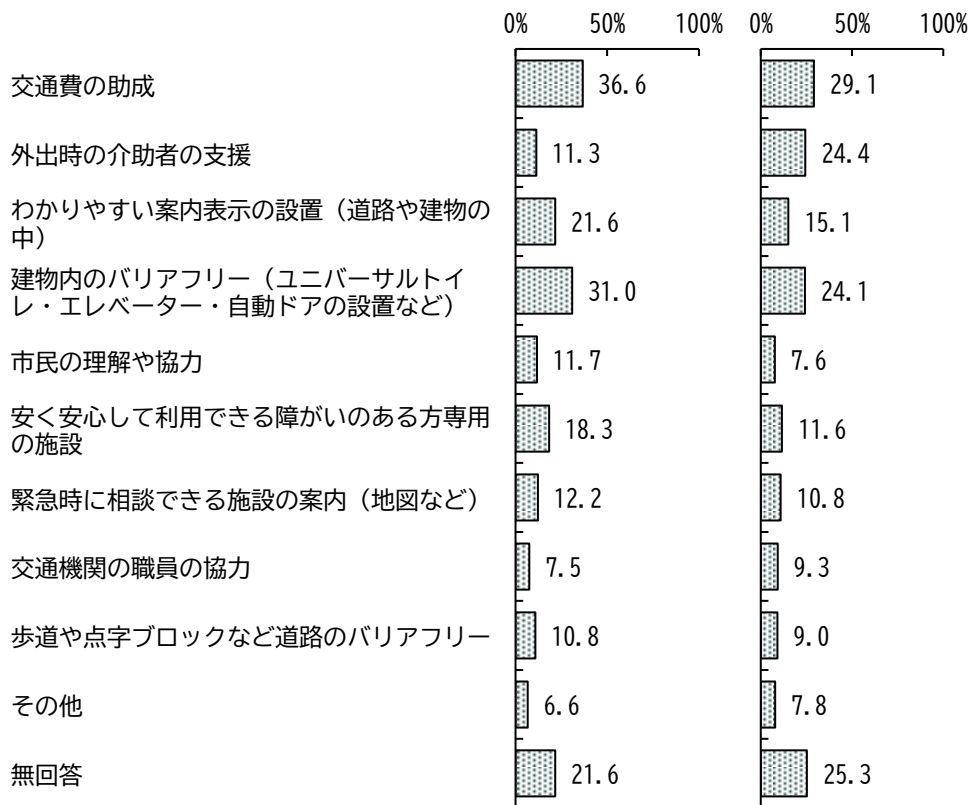
18歳～39歳(n=441)

40歳～64歳(n=560)



65歳～74歳(n=213)

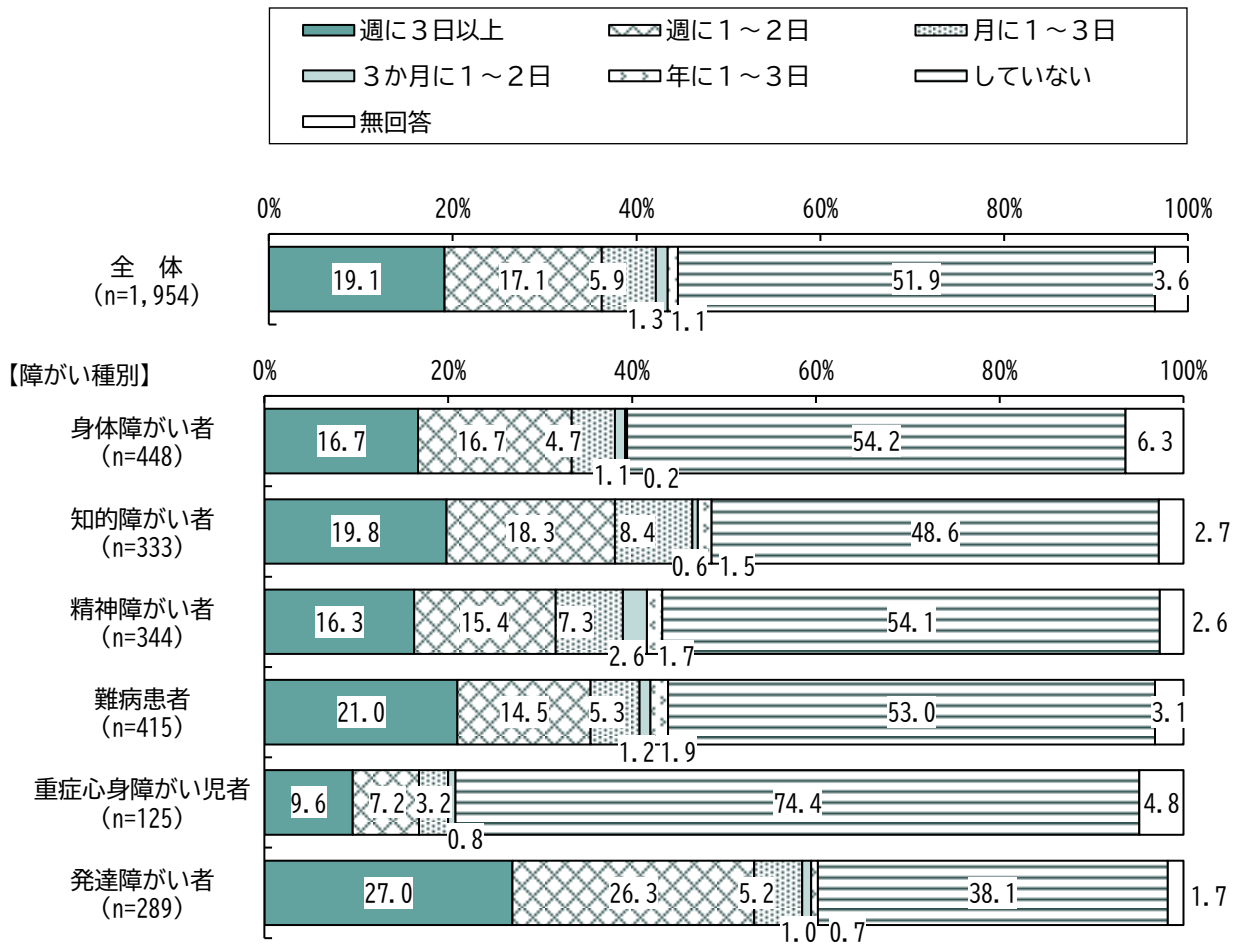
75歳以上(n=344)



(7) スポーツの実施頻度

問33 あなたはスポーツをしていますか。(○は1つ)

「していない」が51.9%と最も多く、次いで「週に3日以上」が19.1%、「週に1～2日」が17.1%などとなっています。

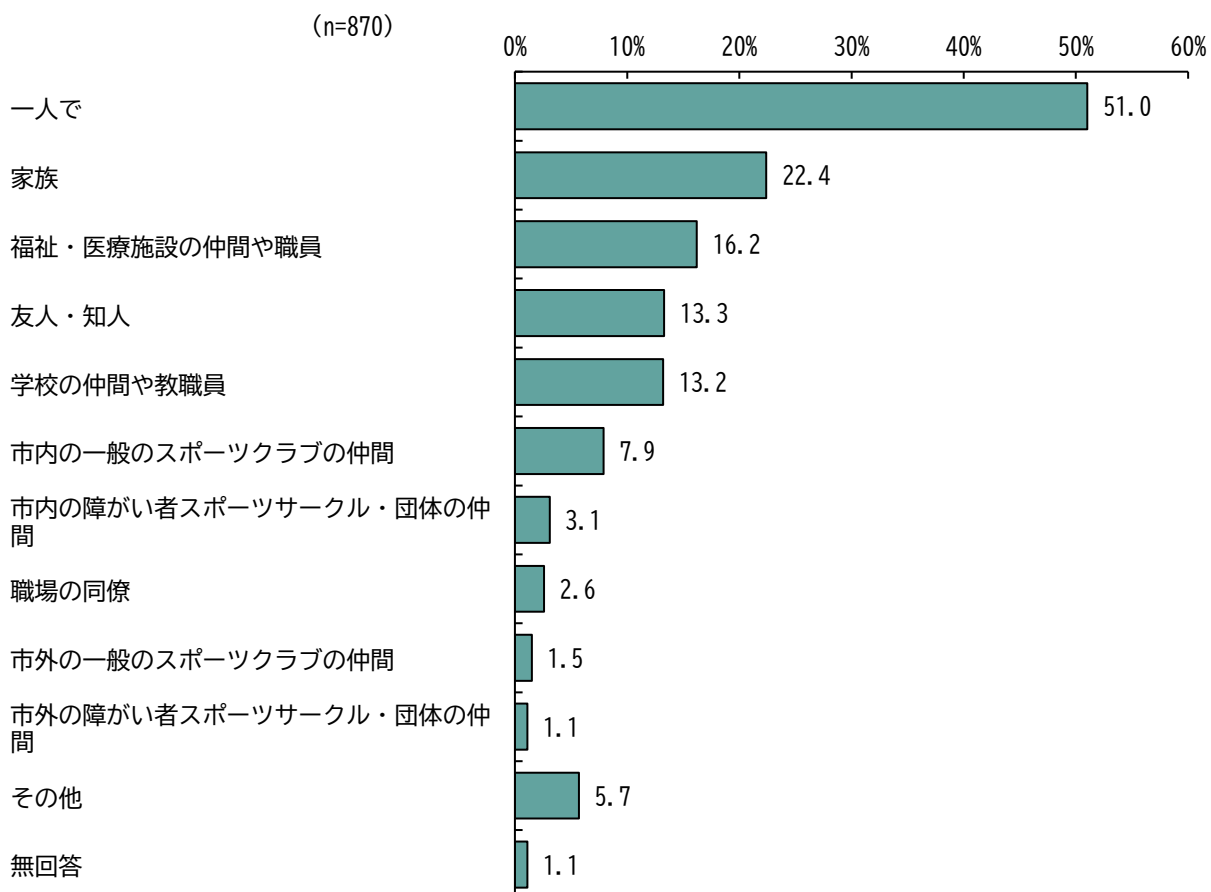


(8) 一緒にスポーツをする人

問33-1 問33で「1」～「5」とお答えの方（スポーツをしている方）にお聞きします。
スポーツはだれとしていますか。（〇はいくつでも）

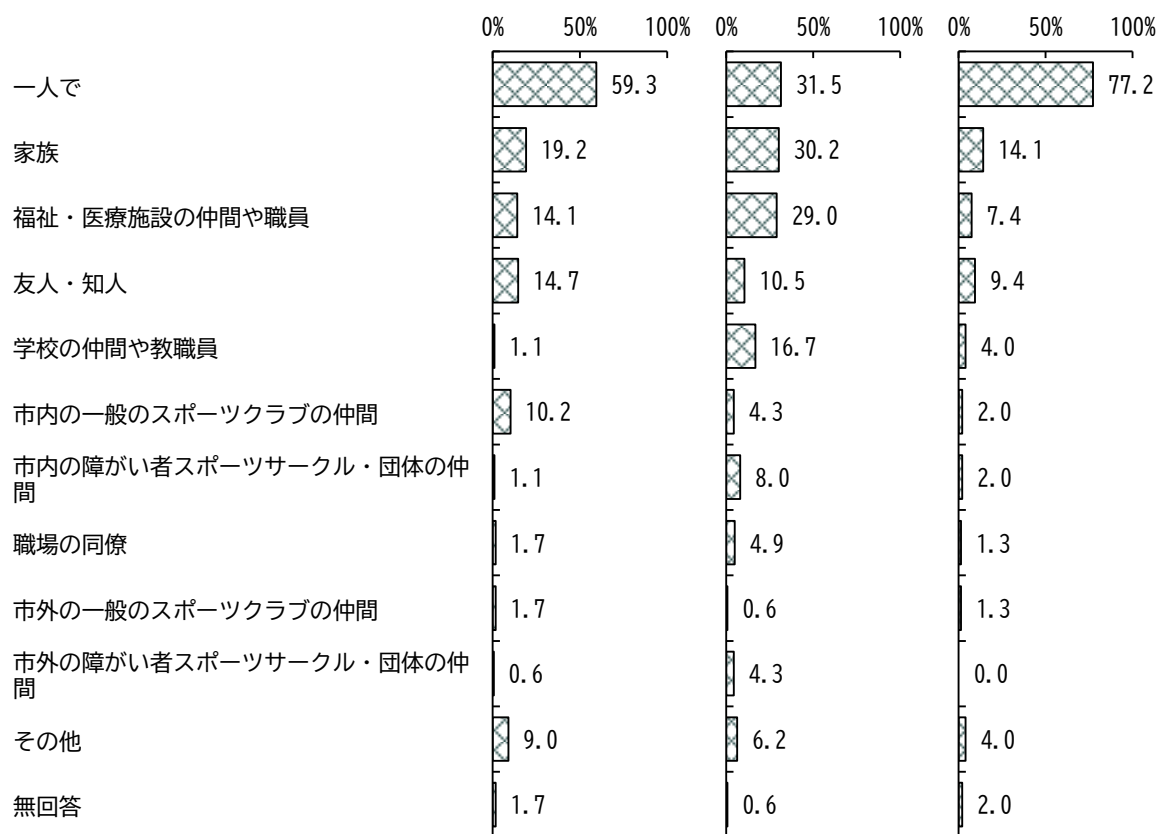
「一人で」が51.0%と最も多く、次いで「家族」が22.4%、「福祉・医療施設の仲間や職員」が16.2%などとなっています。

障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「福祉・医療施設の仲間や職員」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「学校の仲間や教職員」が最も多くなっています。

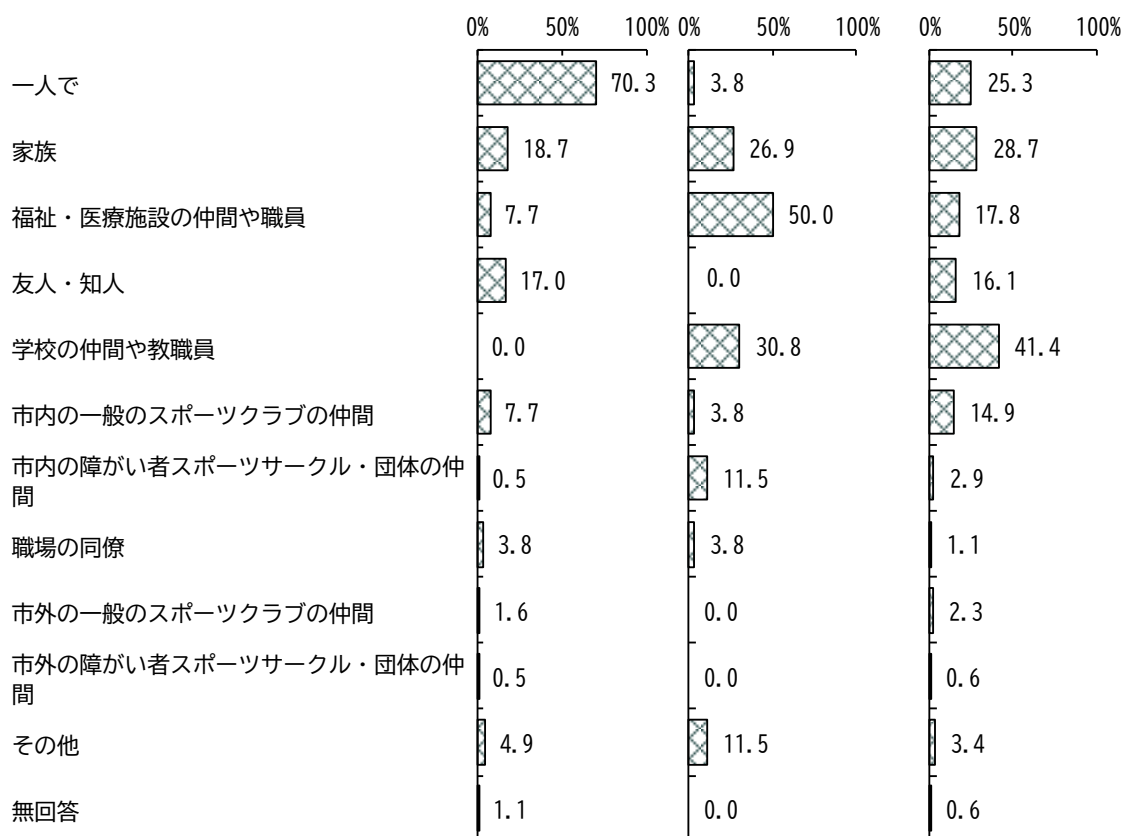


【障がい種別】

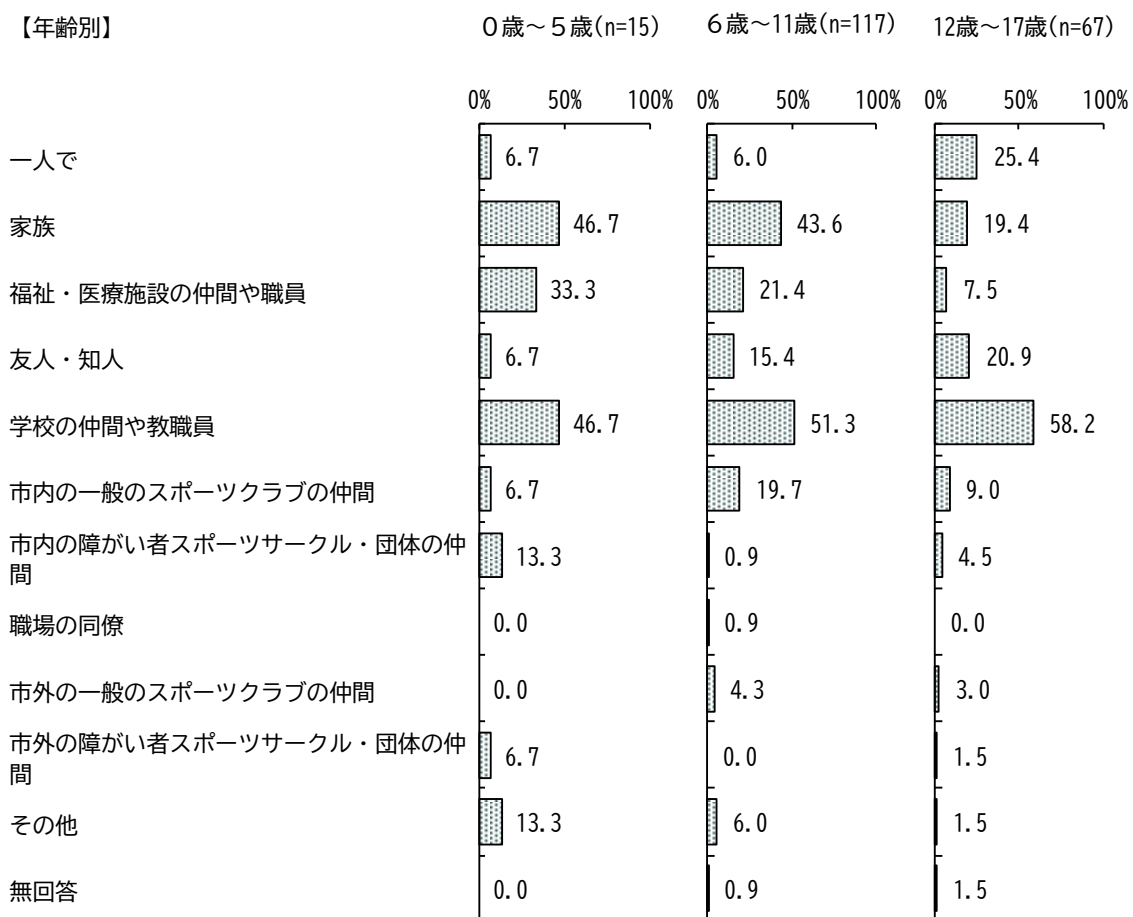
身体障がい者(n=177) 知的障がい者(n=162) 精神障がい者(n=149)



難病患者(n=182) 重症心身障がい児者(n=26) 発達障がい者(n=174)



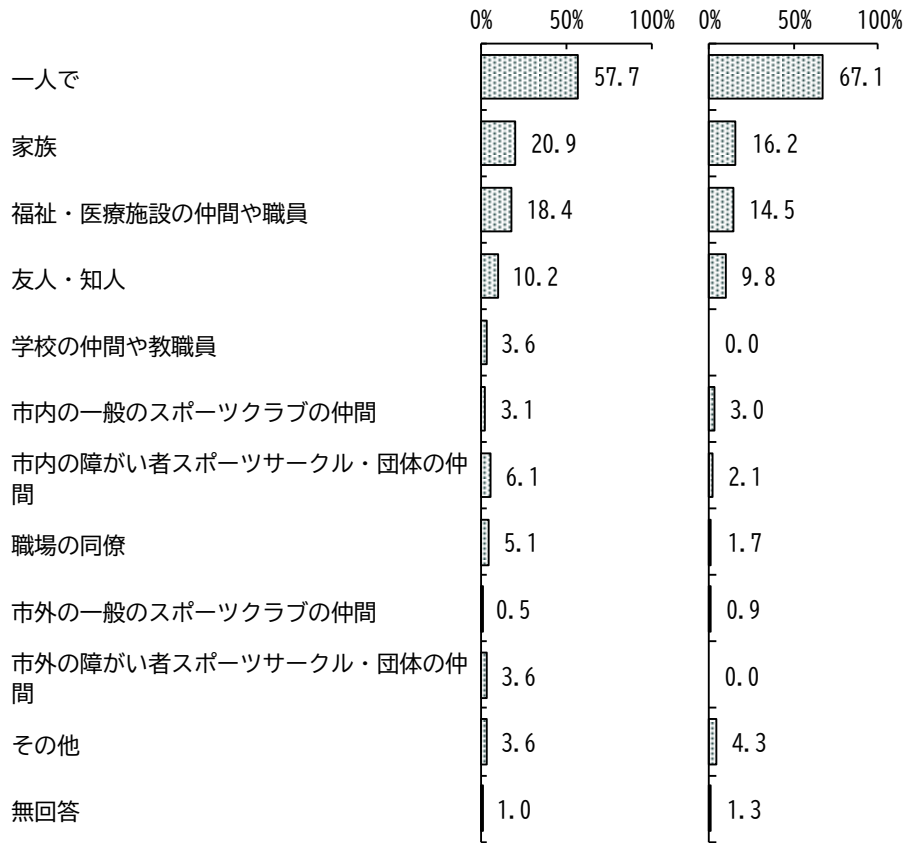
年齢別にみると、“0歳～5歳”では「家族」、「学校の仲間や教職員」が最も多くなっています。また、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「学校の仲間や教職員」が最も多くなっています。



【年齢別】

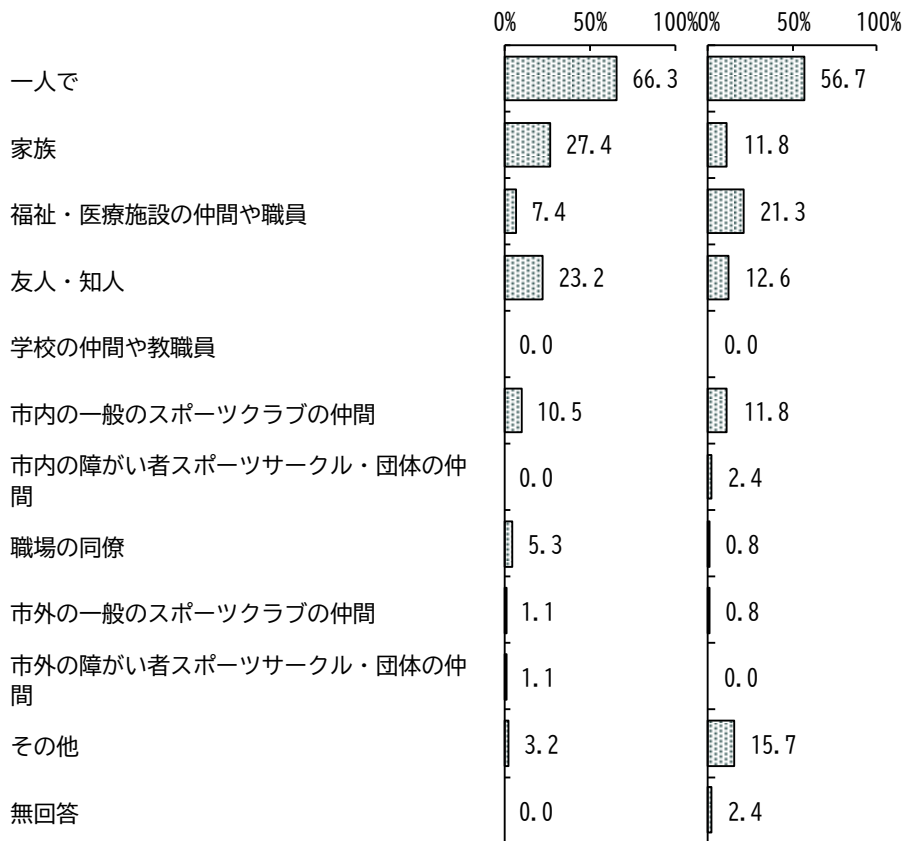
18歳～39歳(n=196)

40歳～64歳(n=234)



65歳～74歳(n=95)

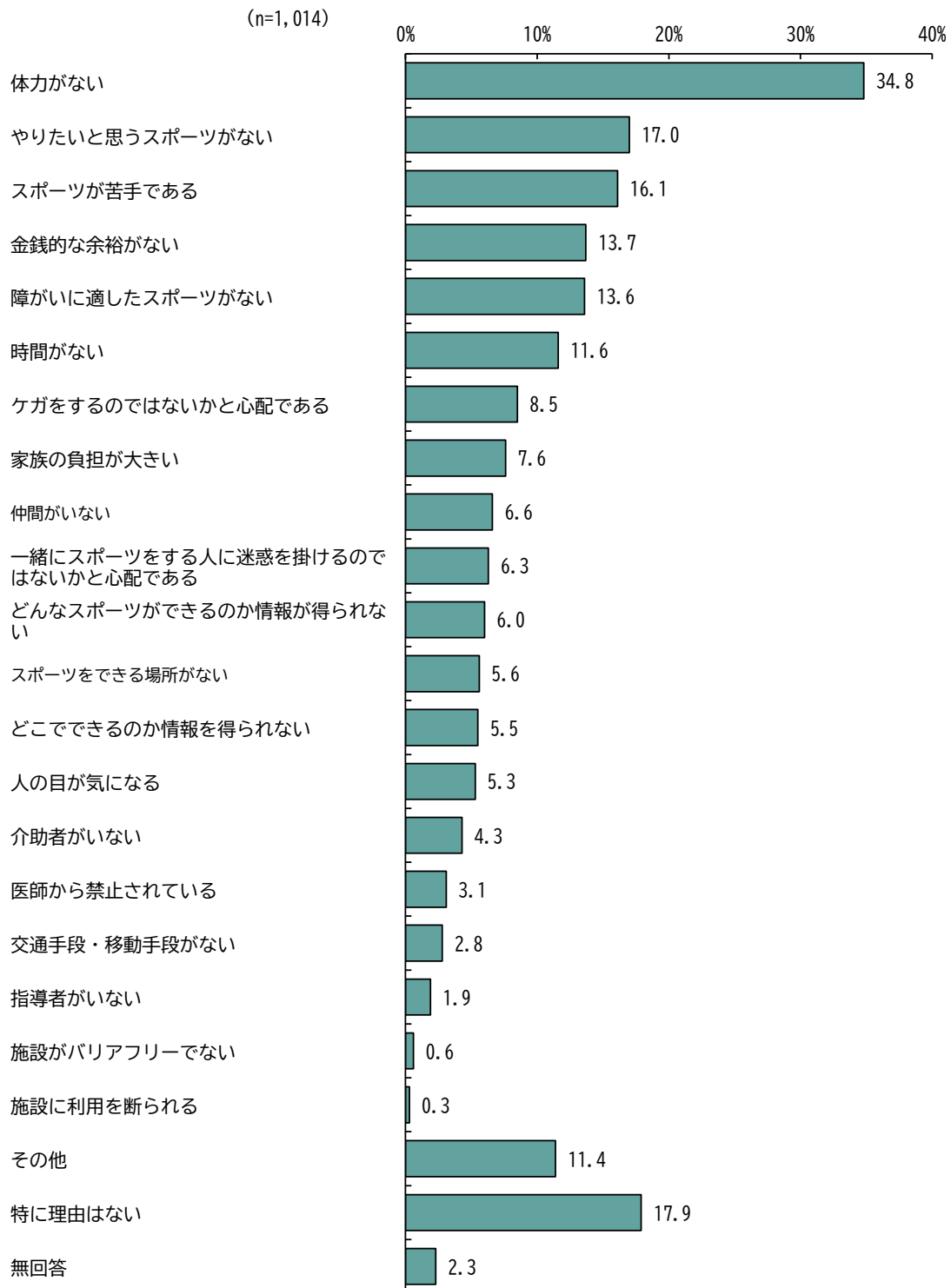
75歳以上(n=127)



(9) スポーツをしていない理由

問33-2 問33で「6 していない」とお答えの方にお聞きします。
 スポーツをしていないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

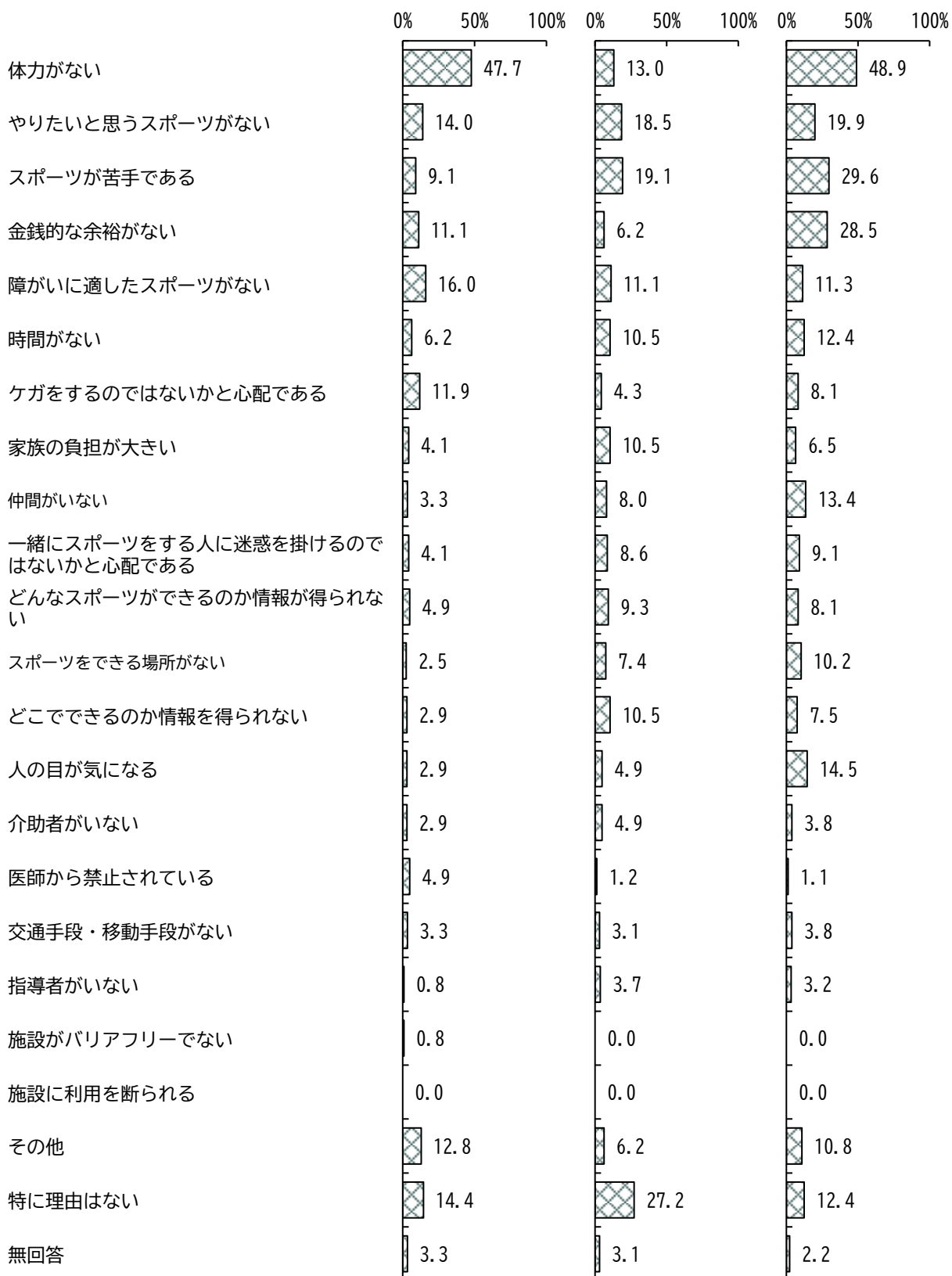
「体力がない」が34.8%と最も多く、次いで「やりたいと思うスポーツがない」が17.0%、「スポーツが苦手である」が16.1%などとなっています。また、「特に理由はない」が17.9%となっています。



障がい種別にみると、“知的障がい者”では「特に理由はない」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「障がいに適したスポーツがない」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「やりたいと思うスポーツがない」が最も多くなっています。

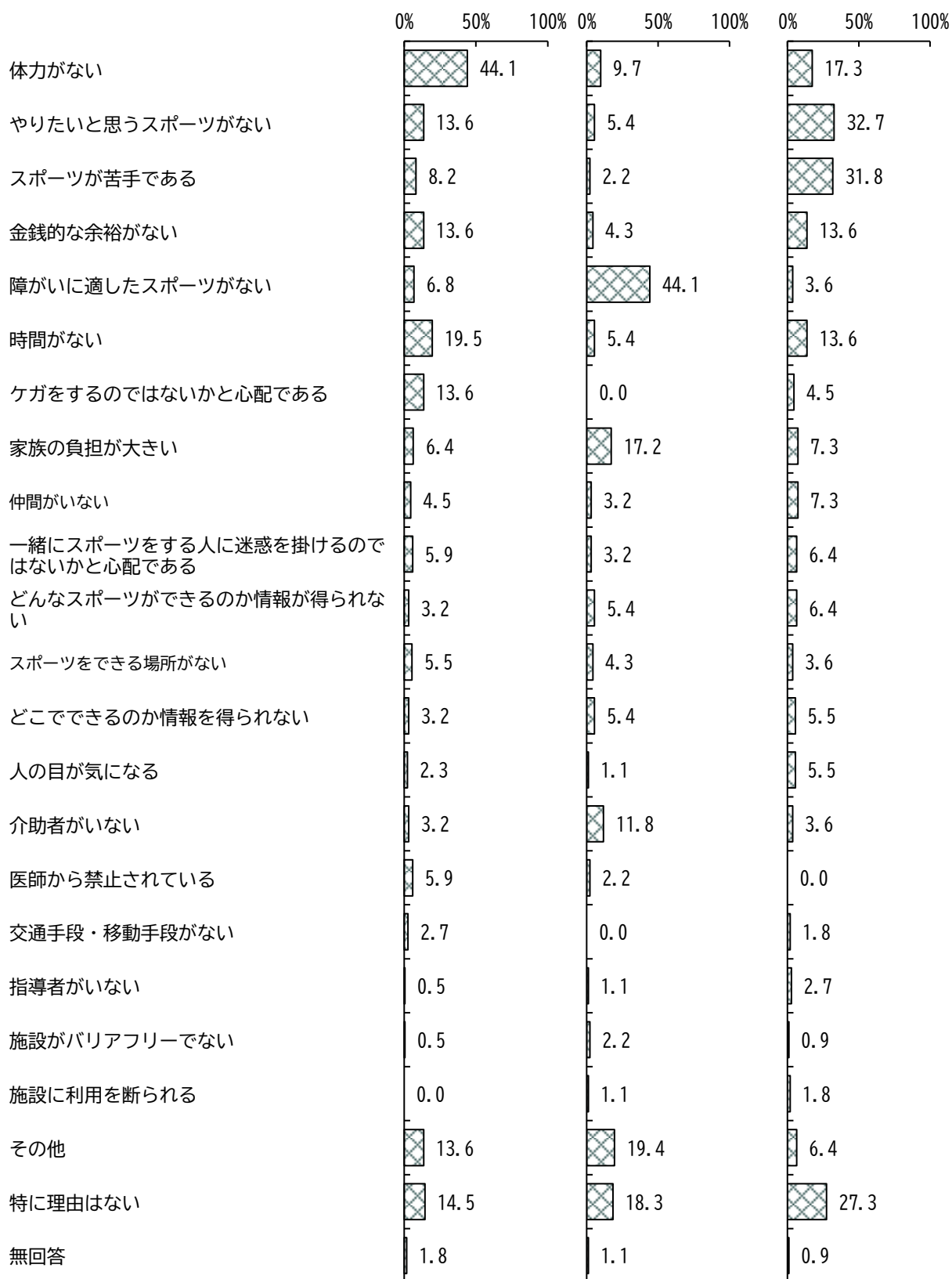
【障がい種別】

身体障がい者(n=243) 知的障がい者(n=162) 精神障がい者(n=186)

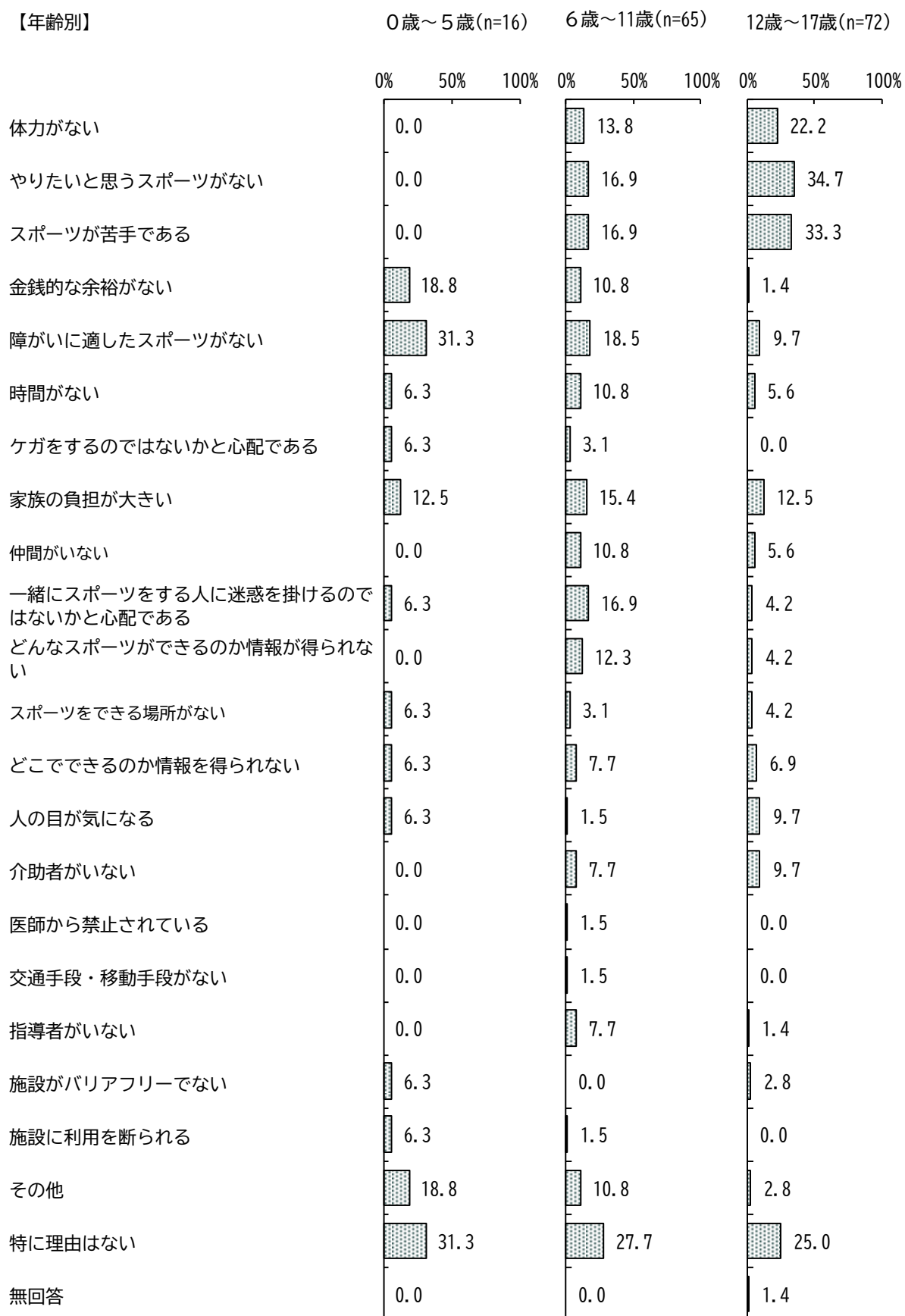


【障がい種別】

難病患者(n=220) 重症心身障がい児者(n=93) 発達障がい者(n=110)

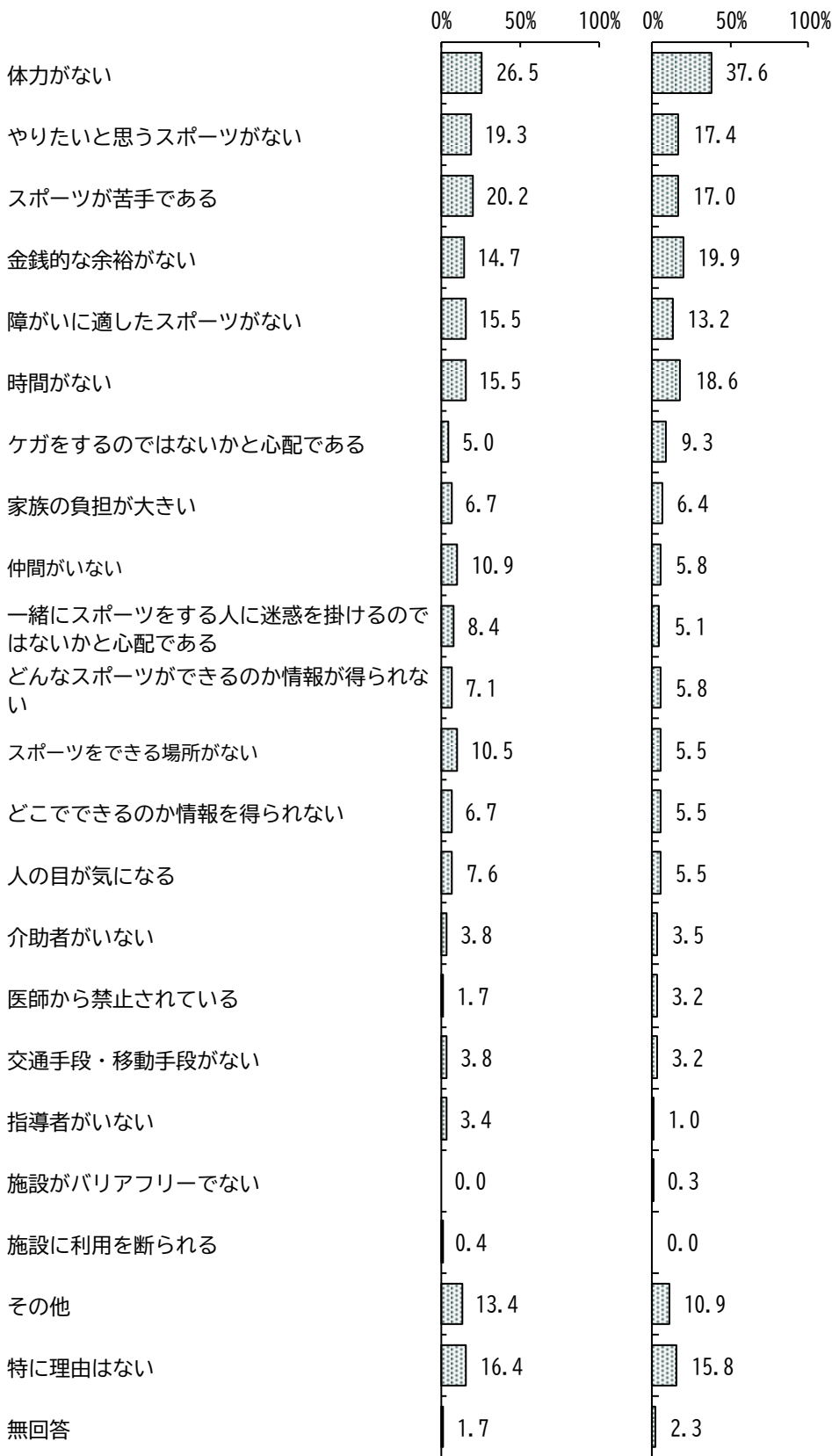


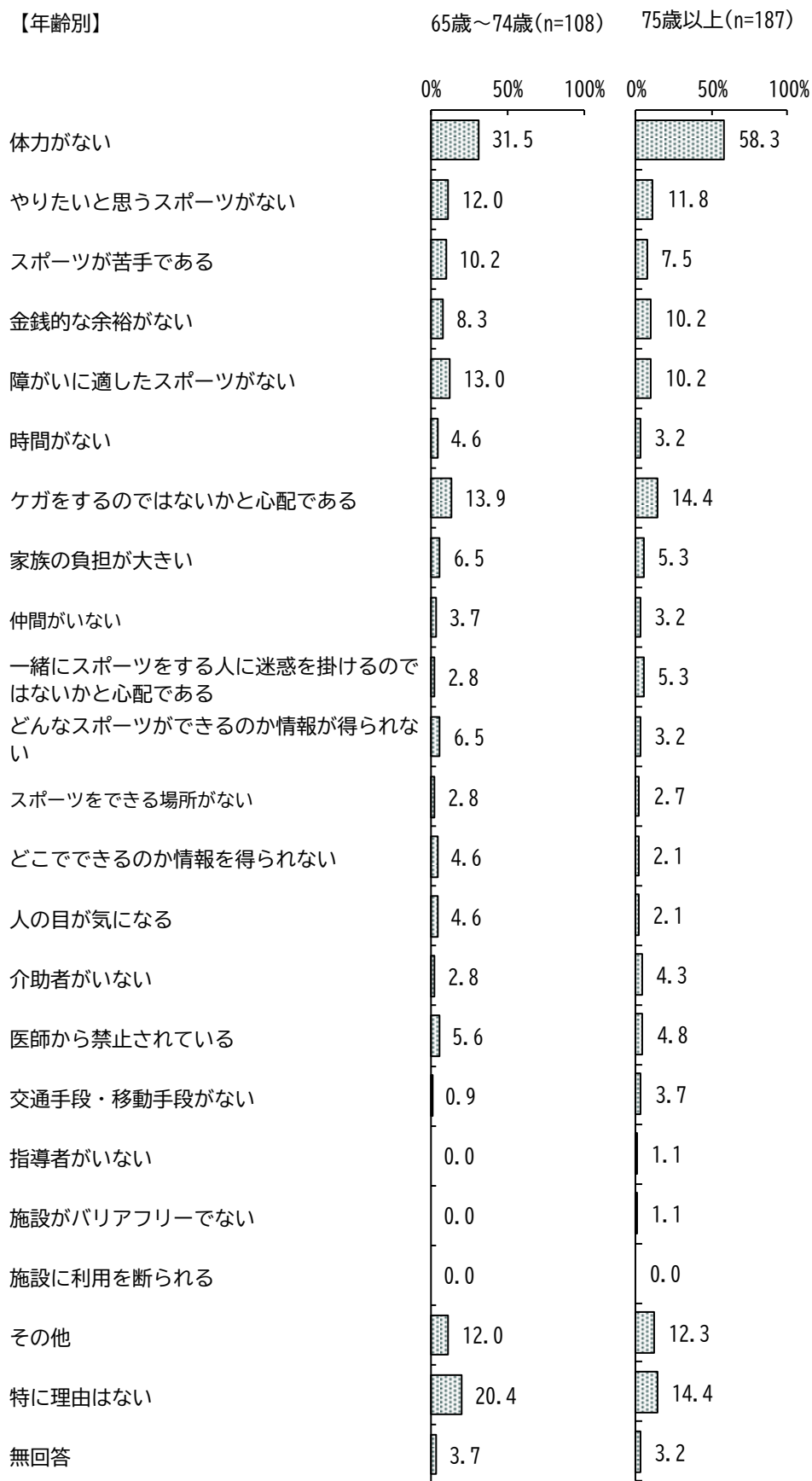
年齢別にみると、“0歳～5歳”では「障がいに適したスポーツがない」、「特に理由はない」が最も多くなっています。また、“6歳～11歳”では「特に理由はない」が最も多くなっています。また、“12歳～17歳”では「やりたいと思うスポーツがない」が最も多くなっています。



【年齢別】

18歳～39歳(n=238) 40歳～64歳(n=311)



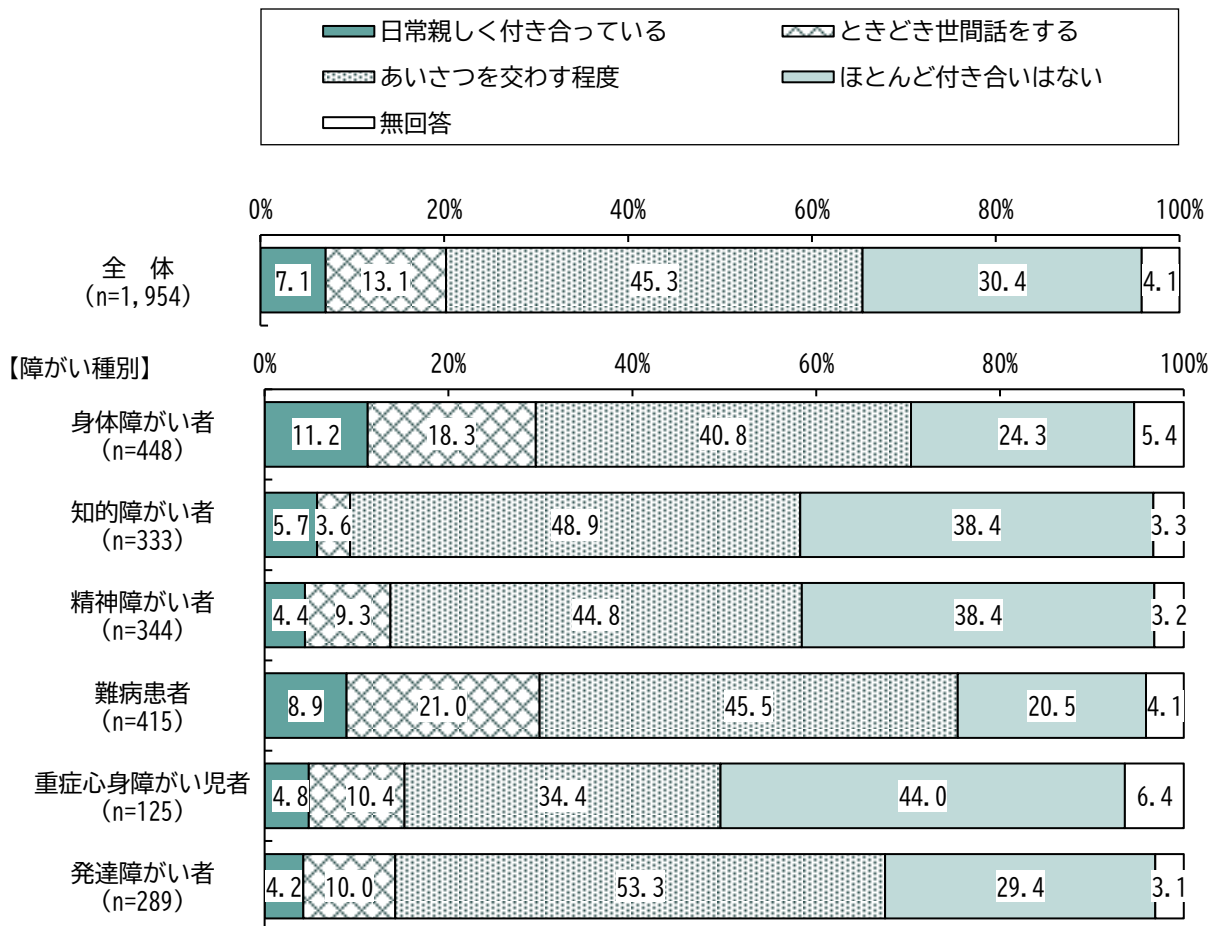


(10) 現在の近所づきあい

問34 あなたの現在の近所づきあいは次のどれに近いですか。(○は1つ)

「日常親しく付き合っている」が7.1%、「ときどき世間話をする」が13.1%、「あいさつを交わす程度」が45.3%、「ほとんど付き合いはない」が30.4%となっています。

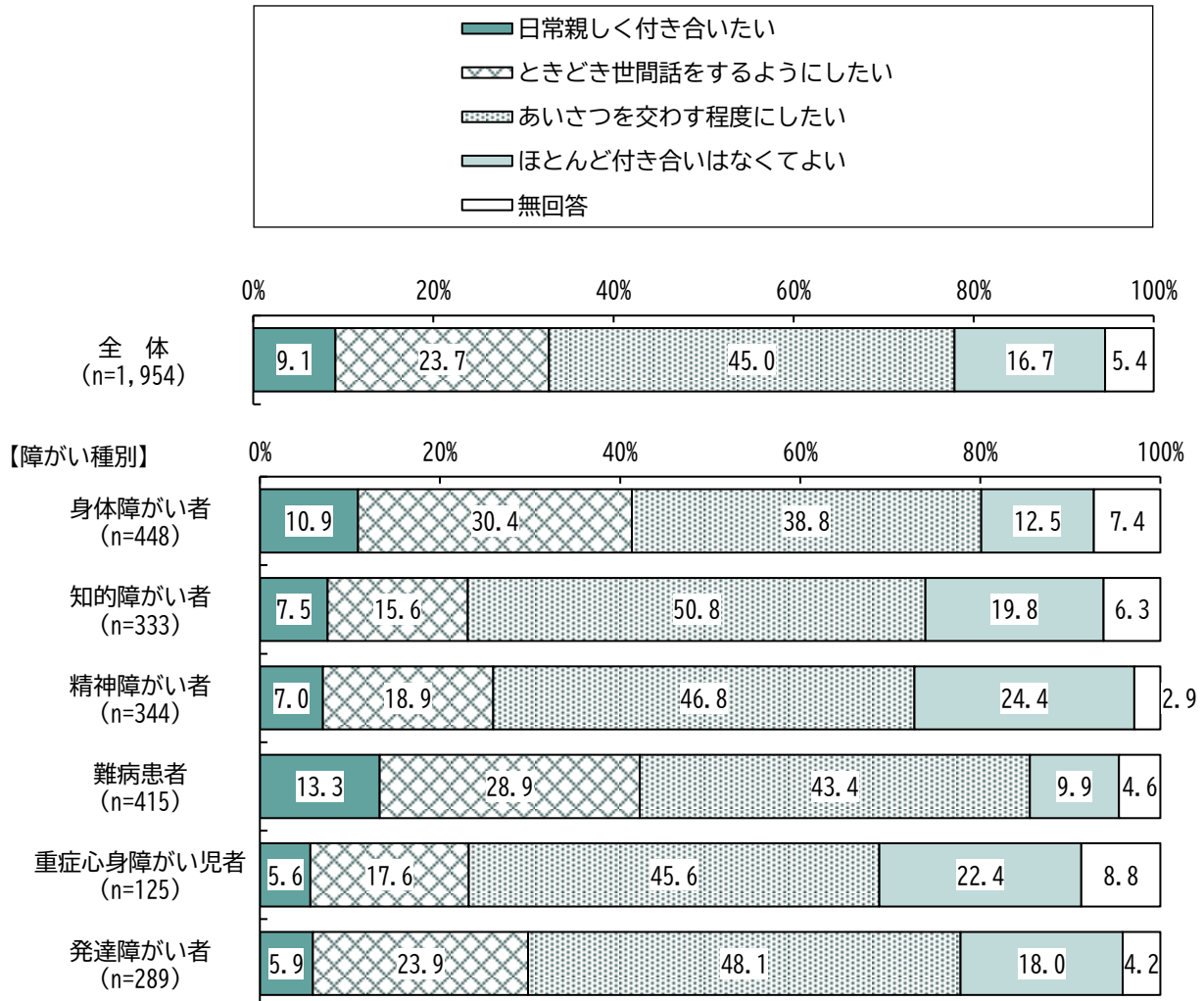
障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「ほとんど付き合いはない」が最も多くなっています。

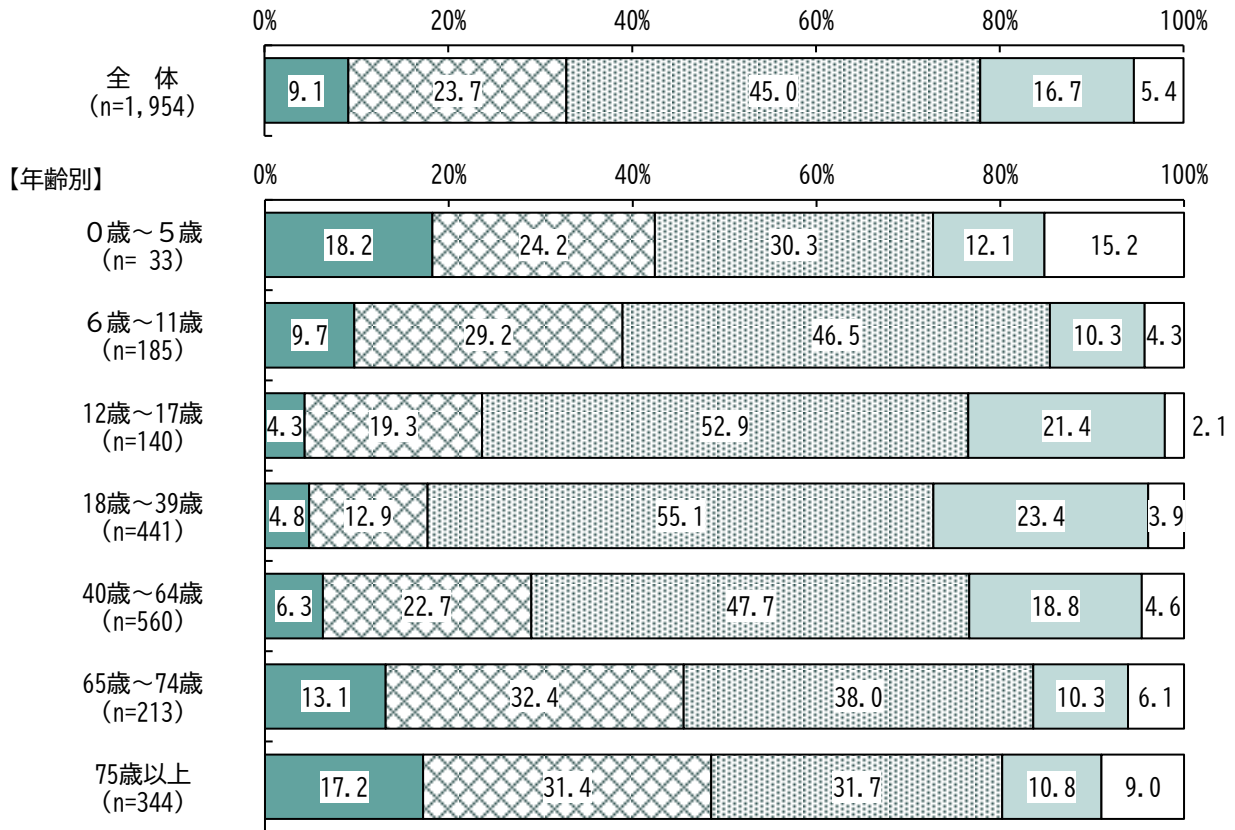
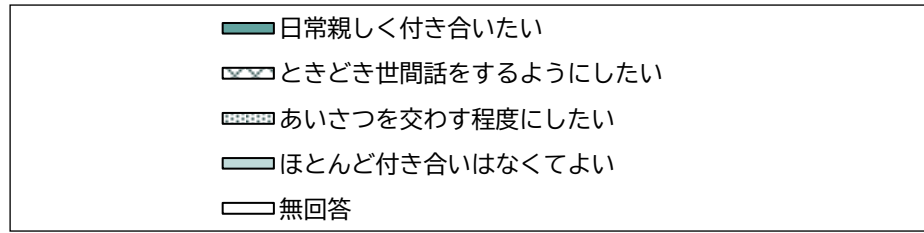


(11) 今後の近所づきあいの希望

問35 あなたは、今後の近所づきあいはどのようにしたいですか。(○は1つ)

「日常親しく付き合いたい」が9.1%、「ときどき世間話をするようにしたい」が23.7%、「あいさつを交わす程度にしたい」が45.0%、「ほとんど付き合いはなくてよい」が16.7%となっています。





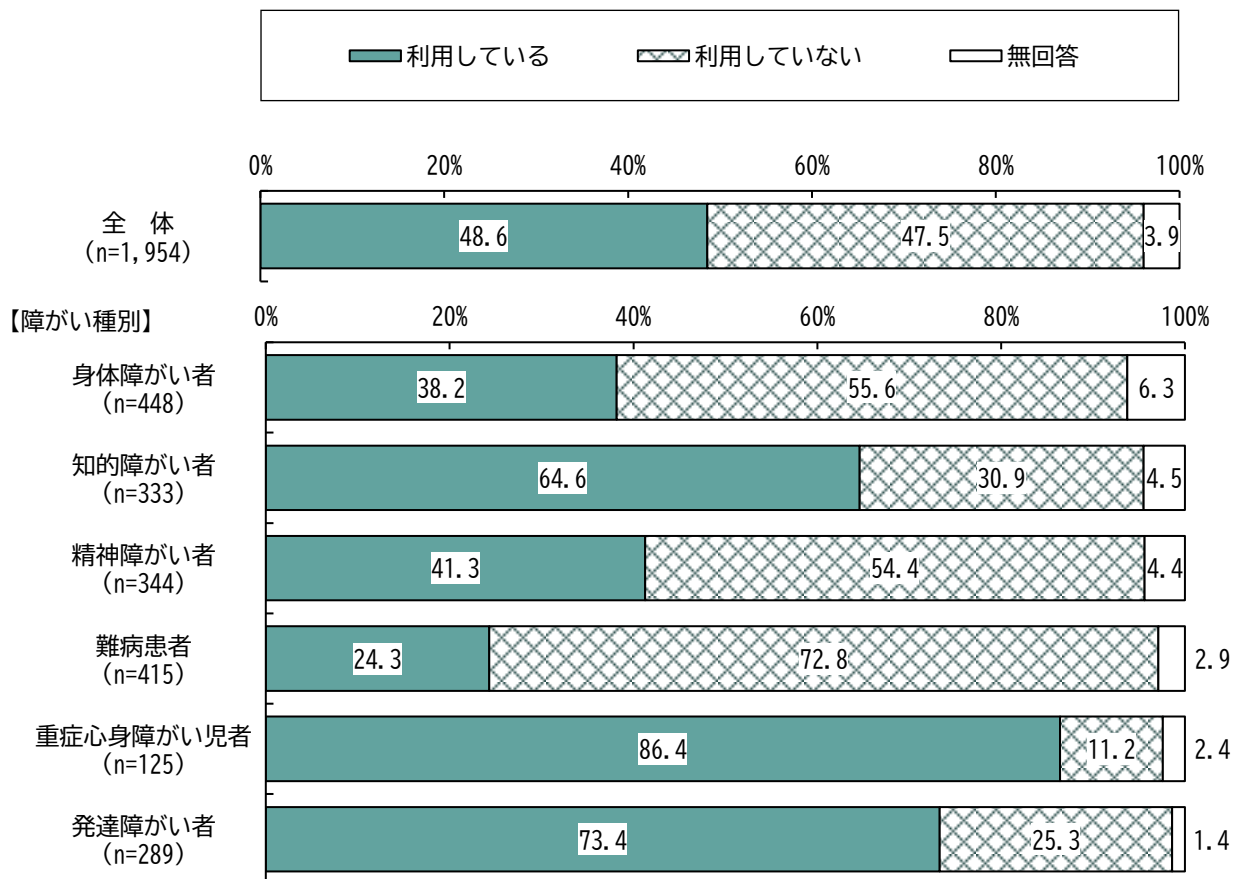
8 福祉サービスについて

(1) 福祉サービスの利用状況

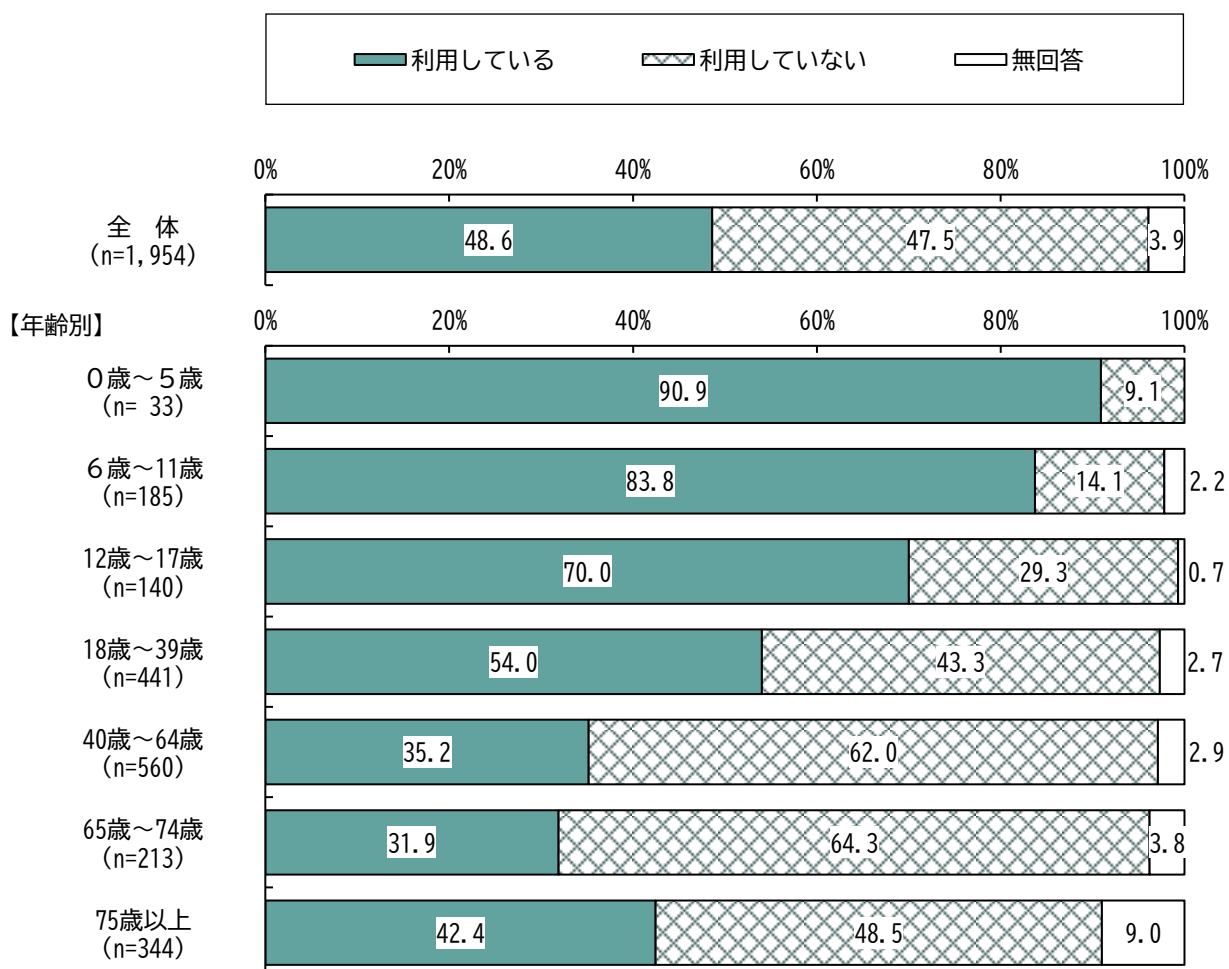
問36 あなたは、福祉サービスを利用していますか。(○は1つ)

「利用している」が48.6%、「利用していない」が47.5%となっています。

障がい種別にみると、“身体障がい者”、“精神障がい者”、“難病患者”では「利用していない」のほうが多くなっています。



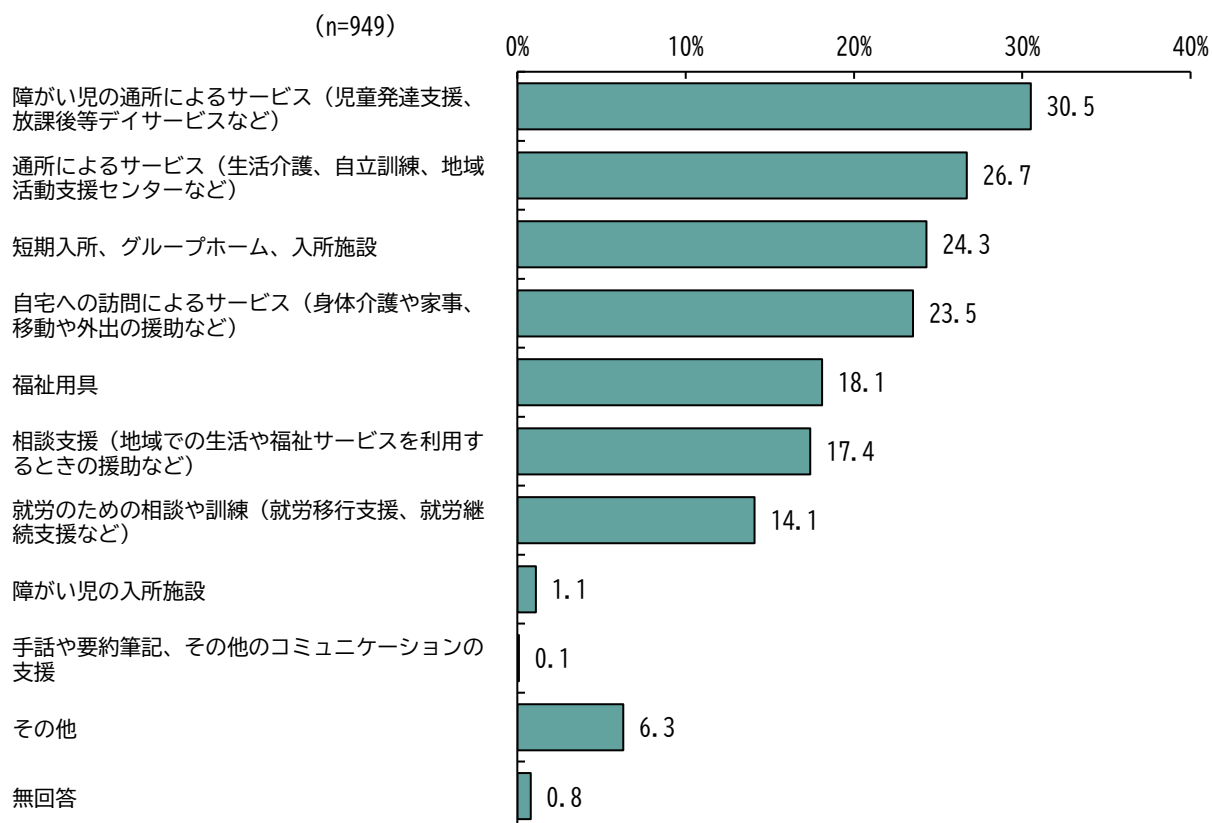
年齢別にみると、“40歳～64歳”、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「利用していない」の割合が多くなっています。



(2) 利用している福祉サービス

問36-1 問36で「1 利用している」とお答えの方にお聞きします。
どんな福祉サービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

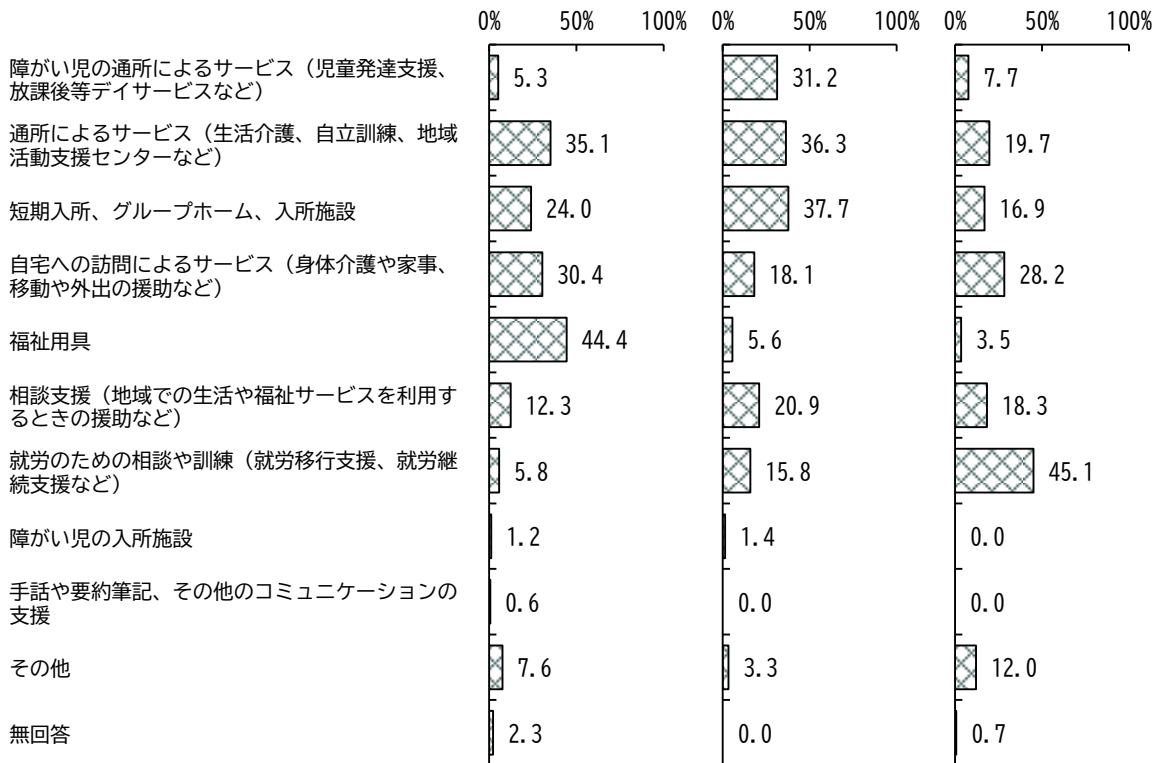
「障がい児の通所によるサービス（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）」が30.5%と最も多く、次いで「通所によるサービス（生活介護、自立訓練、地域活動支援センターなど）」が26.7%、「短期入所、グループホーム、入所施設」が24.3%などとなっています。



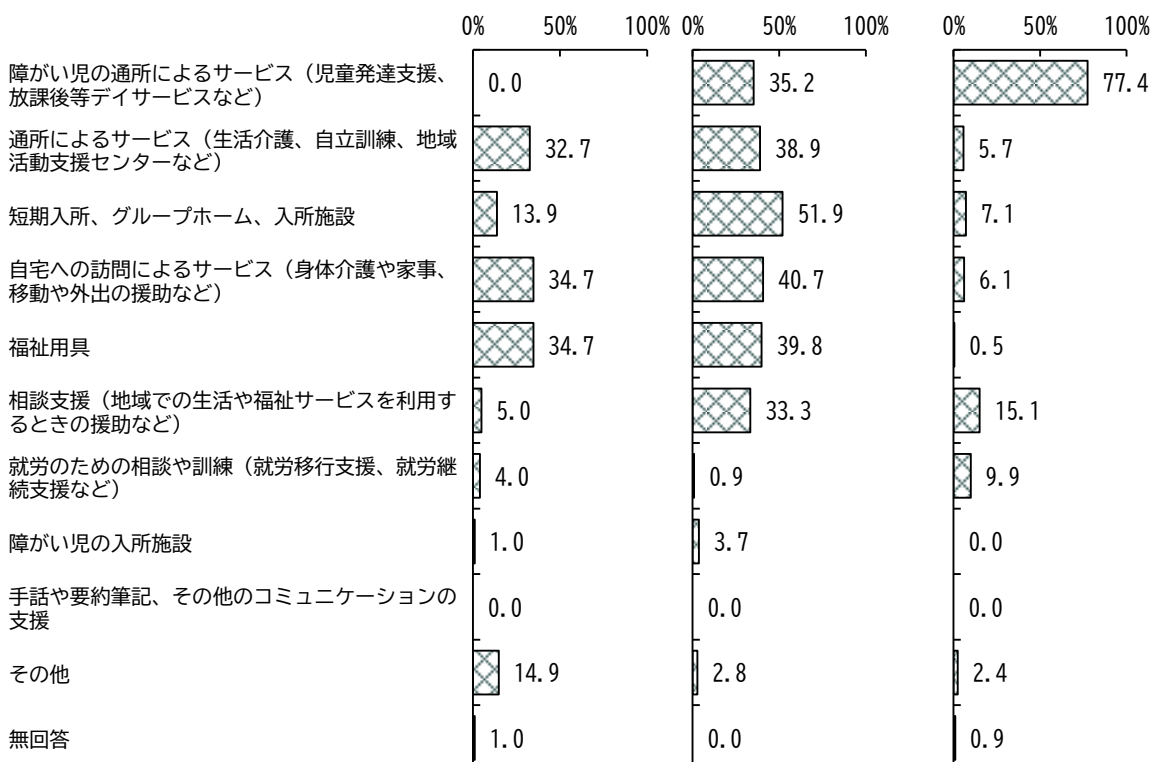
障がい種別にみると、“身体障がい者”では「福祉用具」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”、“重症心身障がい児者”では「短期入所、グループホーム、入居施設」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「就労のための相談や訓練（就労移行支援、就労継続支援など）」が最も多くなっています。また、“難病患者”では「自宅への訪問によるサービス（身体介護や家事、移動や外出の援助など）」、「福祉用具」が最も多くなっています。

【障がい種別】

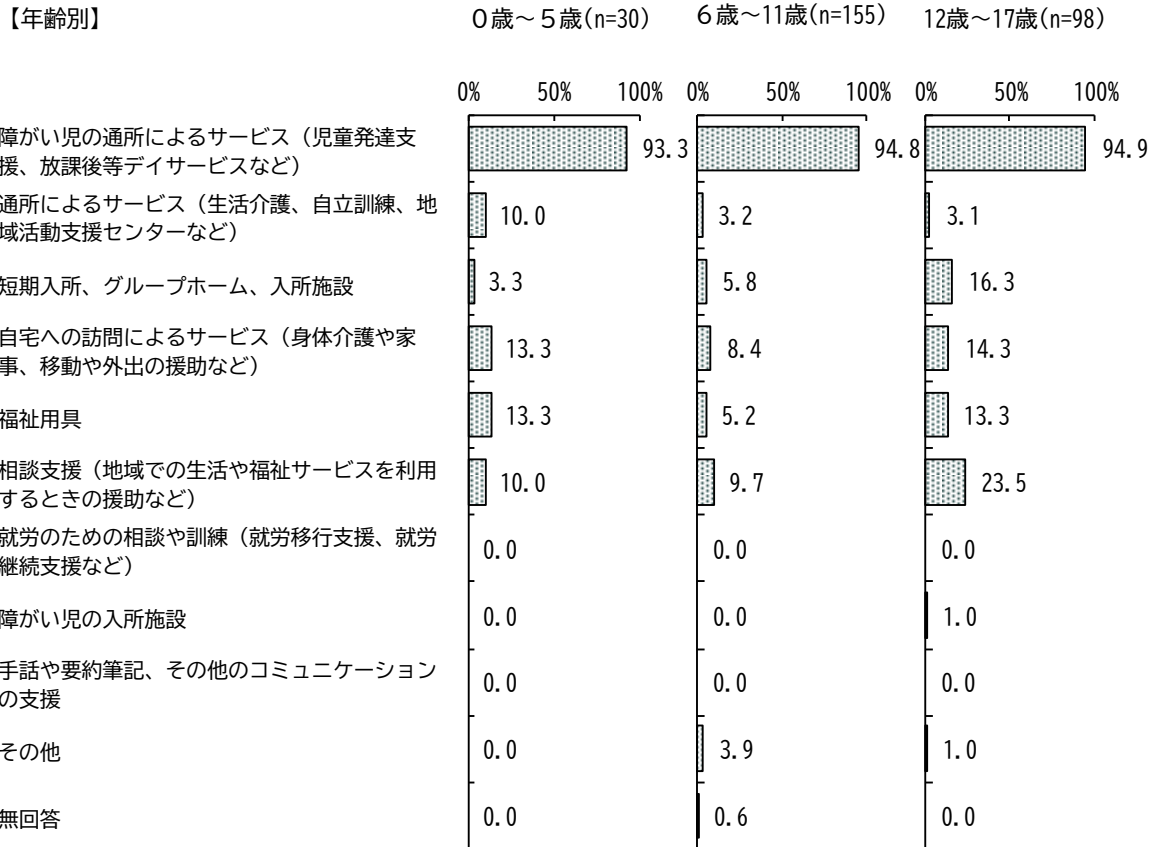
身体障がい者(n=171) 知的障がい者(n=215) 精神障がい者(n=142)



難病患者(n=101) 重症心身障がい児者(n=108) 発達障がい者(n=212)

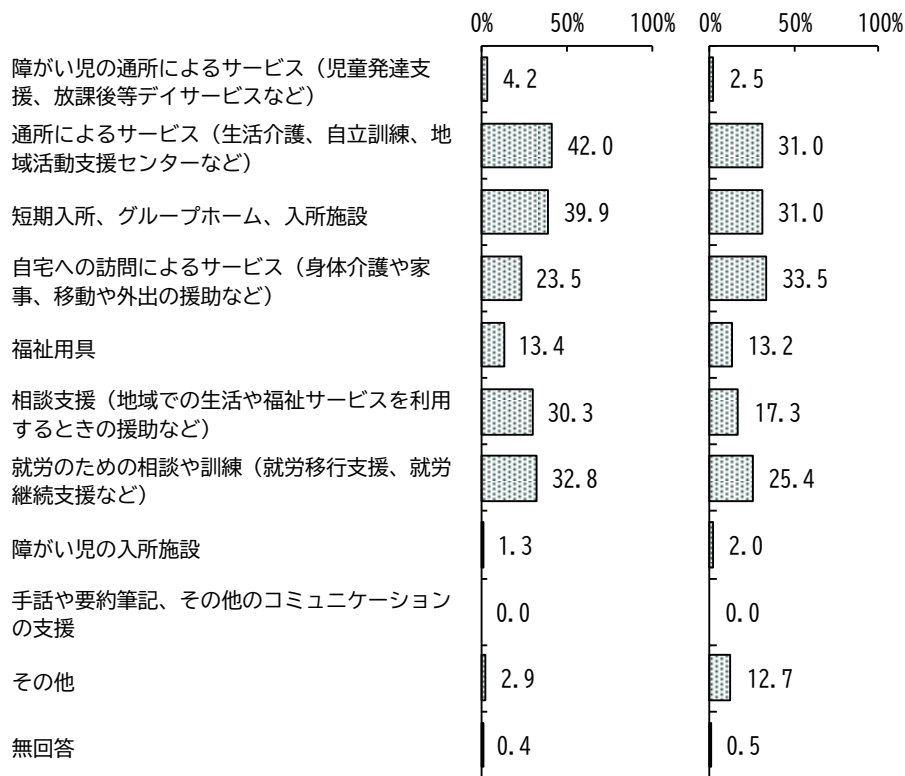


年齢別にみると、“18歳～39歳”では「通所によるサービス（生活介護、自立訓練、地域活動支援センターなど）」が最も多くなっています。また、“40歳～64歳”では「自宅への訪問によるサービス（身体介護や家事、移動や外出の援助など）」が最も多くなっています。また、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「福祉用具」が最も多くなっています。

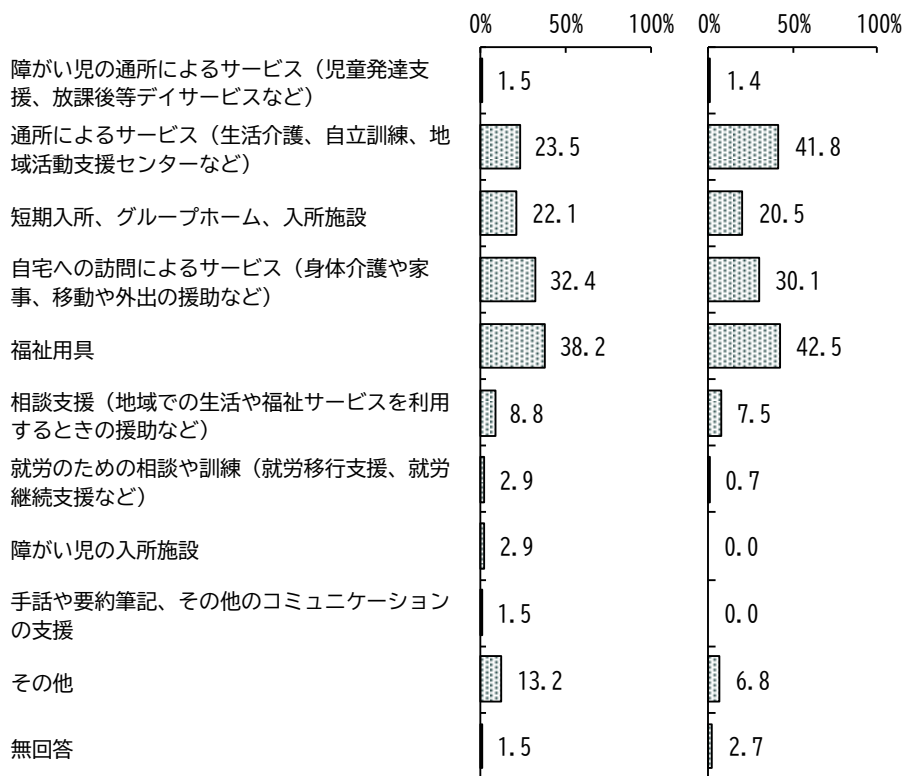


【年齢別】

18歳～39歳(n=238) 40歳～64歳(n=197)



65歳～74歳(n=68) 75歳以上(n=146)

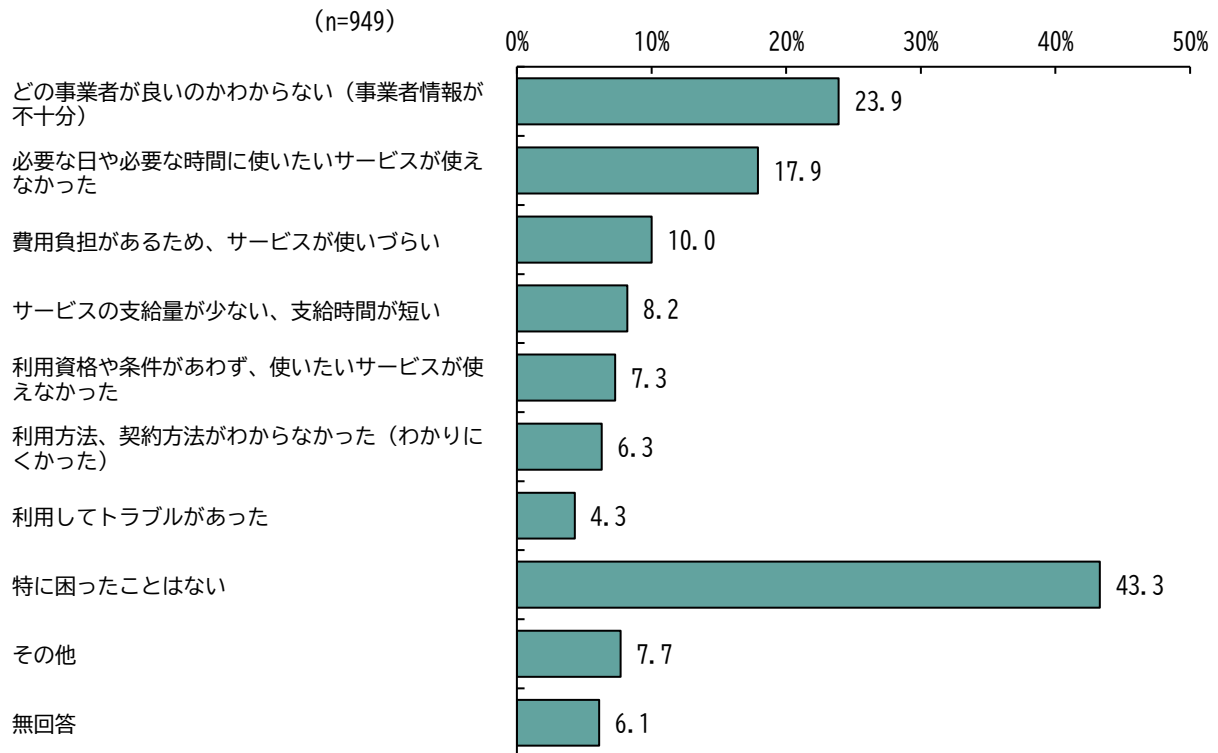


(3) 福祉サービスを利用するときに困ったこと

問36-2 問36で「1 利用している」とお答えの方にお聞きします。

福祉サービスを利用するときに何か困ったことがありましたか。(〇はいくつでも)

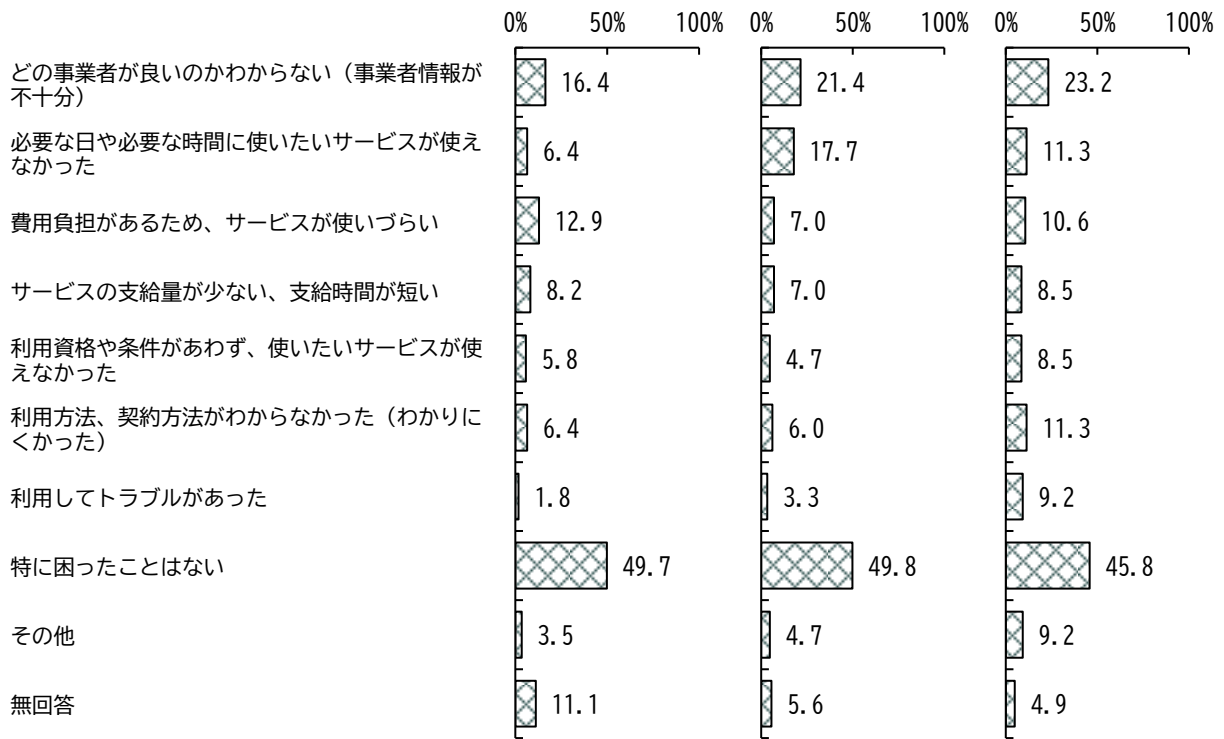
「どの事業者が良いのかわからない(事業者情報が不十分)」が23.9%と最も多く、次いで「必要な日や必要な時間に使いたいサービスが使えなかった」が17.9%、「費用負担があるため、サービスが使いつらい」が10.0%などとなっています。また、「特に困ったことはない」が43.3%となっています。



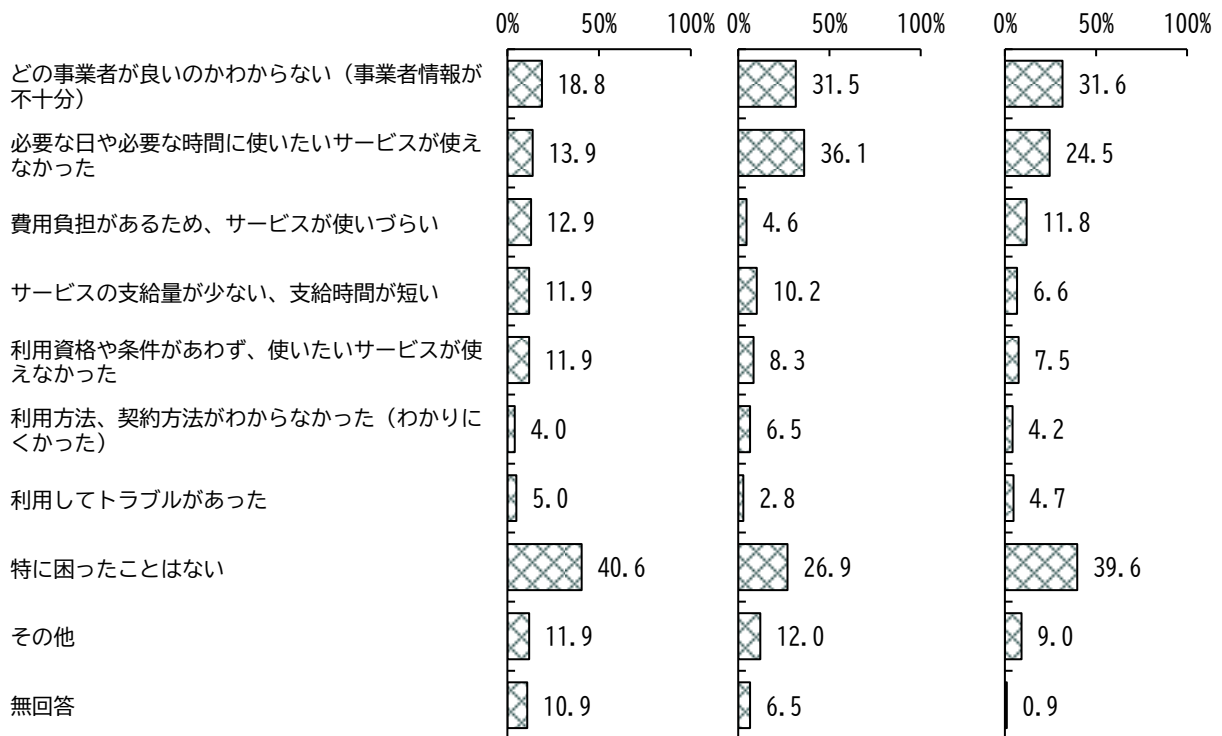
障がい種別にみると、「重症心身障がい児者」では「必要な日や必要な時間に使いたいサービスが使えなかった」が最も多くなっています。

【障がい種別】

身体障がい者(n=171) 知的障がい者(n=215) 精神障がい者(n=142)



難病患者(n=101) 重症心身障がい児者(n=108) 発達障がい者(n=212)



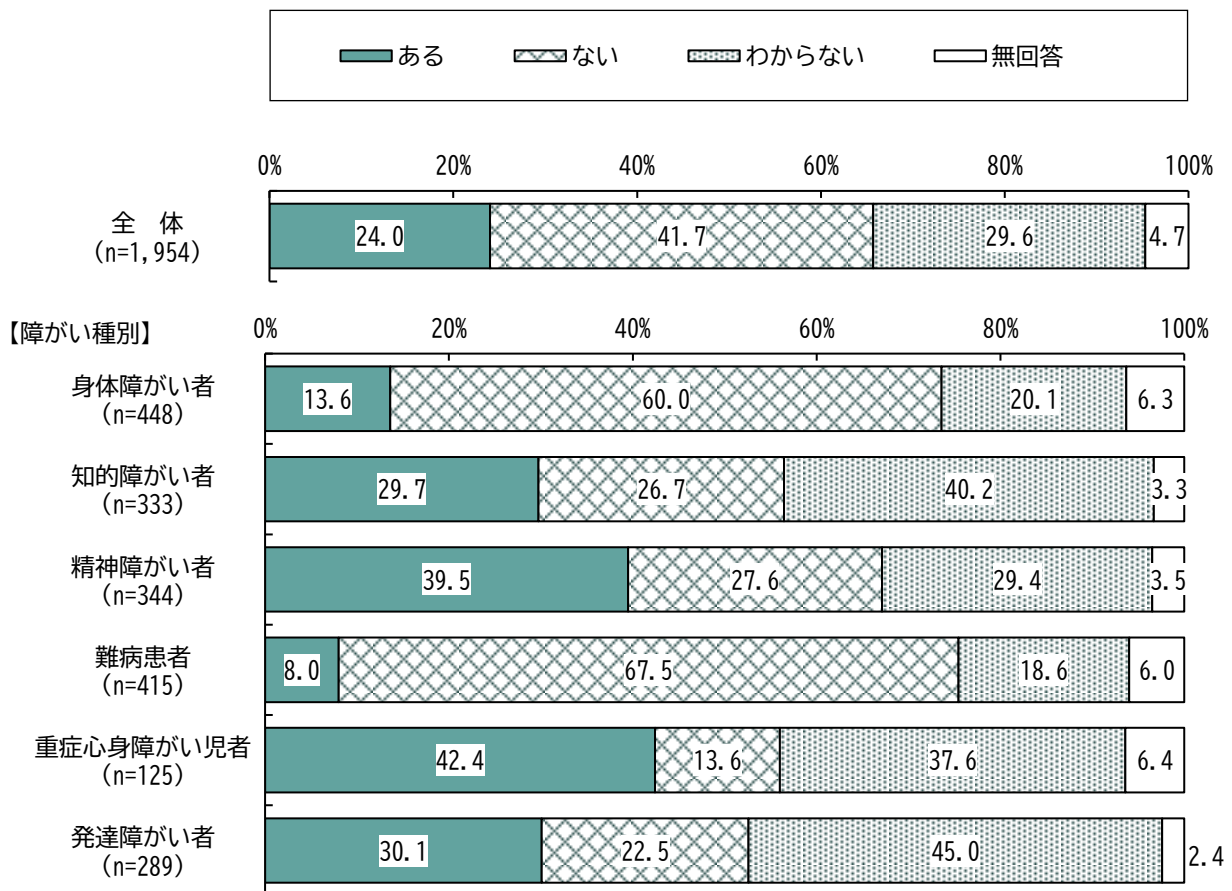
9 権利擁護について

(1) 障がいがあることを理由とした差別を受けた・差別されたと感じた経験の有無

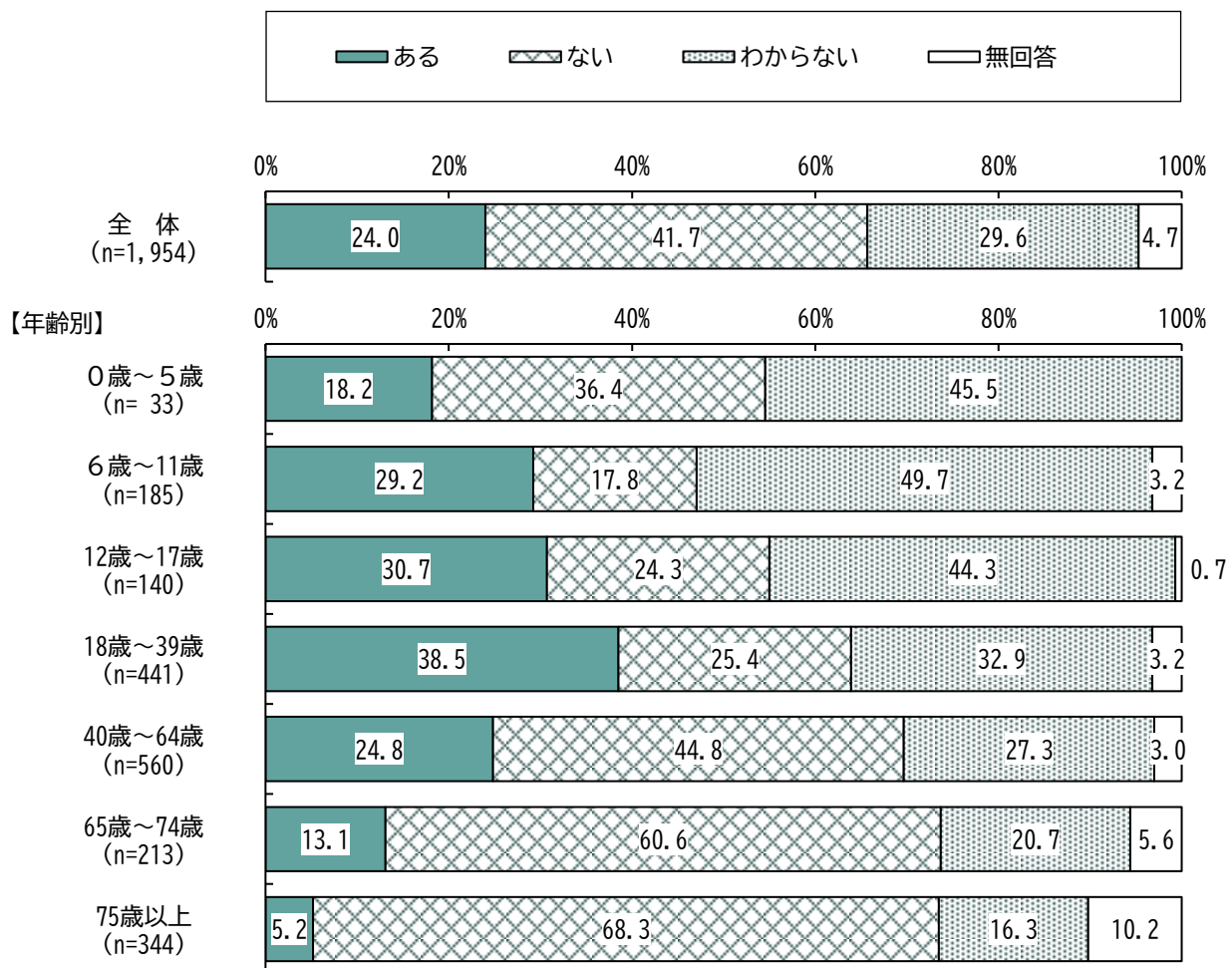
問37 あなたは、これまでに障がいがあることを理由に差別をされたことや差別されたと感じたことがありますか。(〇は1つ)

「ある」が24.0%、「ない」が41.7%、「わからない」が29.6%となっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”、“発達障がい者”では「わからない」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”、“重症心身障がい児者”では「ある」が最も多くなっています。



年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”、“12歳～17歳”では「わからない」が最も多くなっています。また、“18歳～39歳”では「ある」が最も多くなっています。



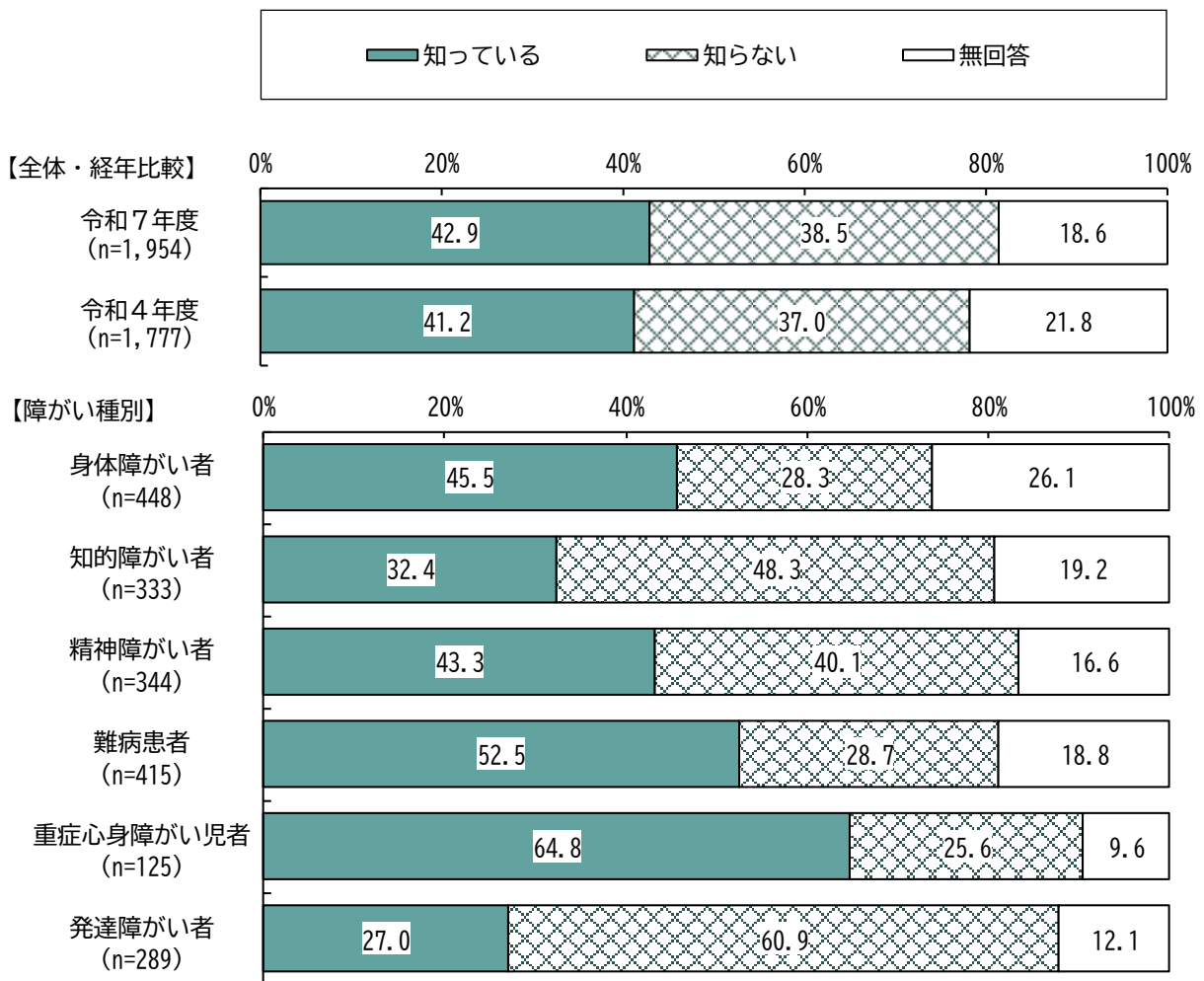
(2) 権利擁護に関する制度の認知度と今後の利用意向

問38 判断力が低下した方が、自分の財産や権利を守るために次のような制度がありますが、あなたはこれらについてどのように考えますか。(①②についてそれぞれ〇は1つ)

①成年後見制度<認知度>

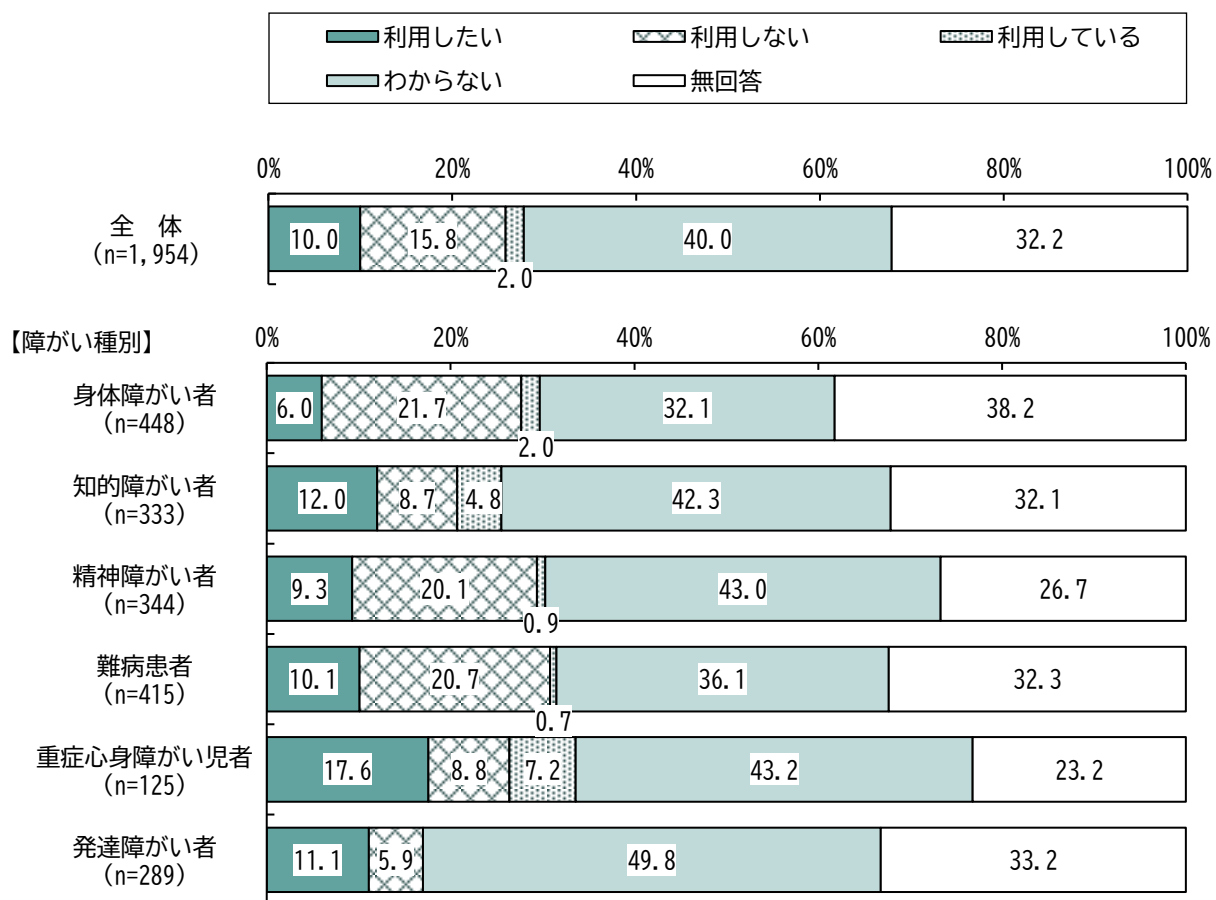
「知っている」が42.9%、「知らない」が38.5%となっています。

障がい種別にみると、“知的障がい者”、“発達障がい者”では「知らない」のほうが多くなっています。



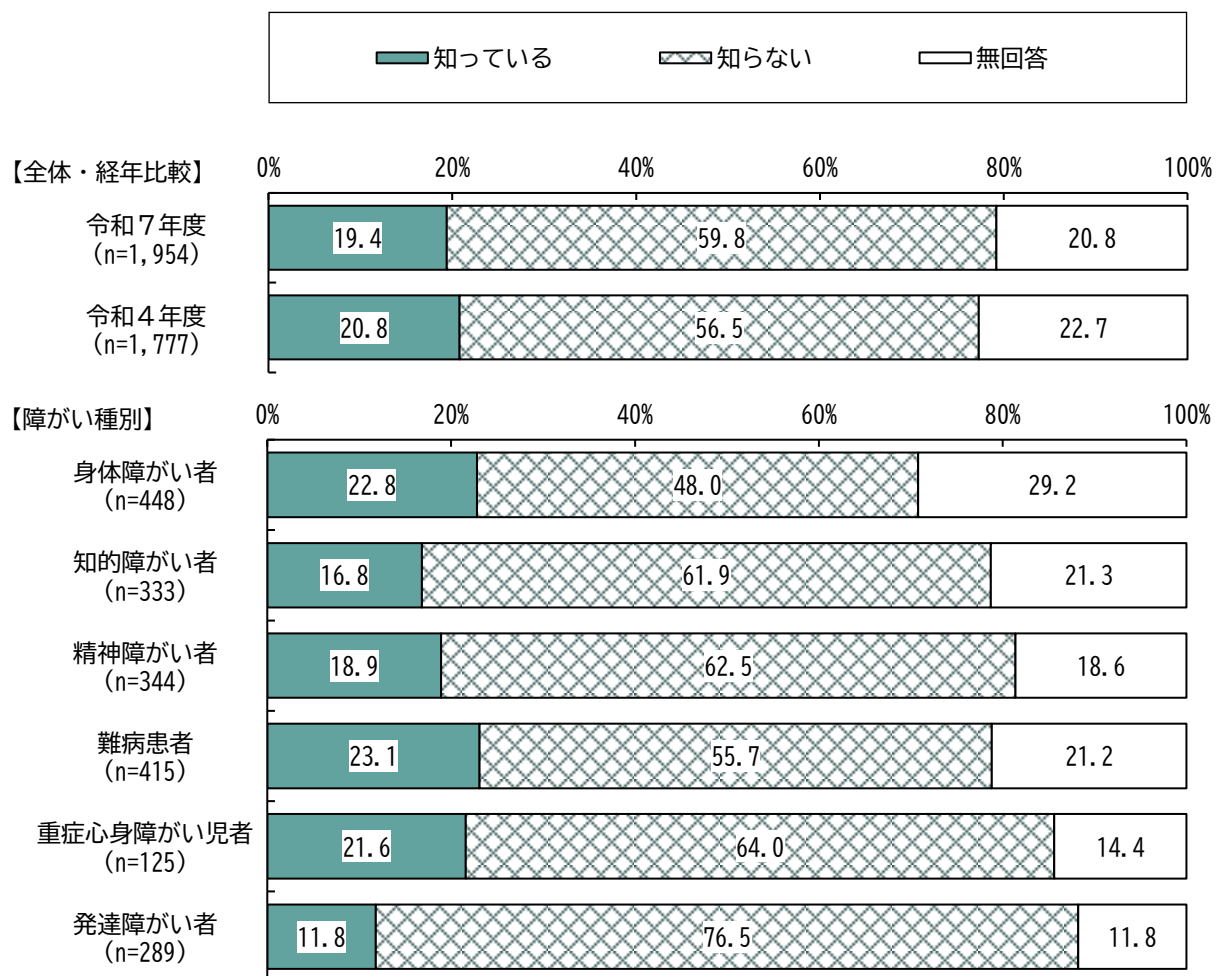
①成年後見制度<今後の利用意向>

「利用したい」が10.0%、「利用しない」が15.8%、「利用している」が2.0%、「わからない」が40.0%となっています。



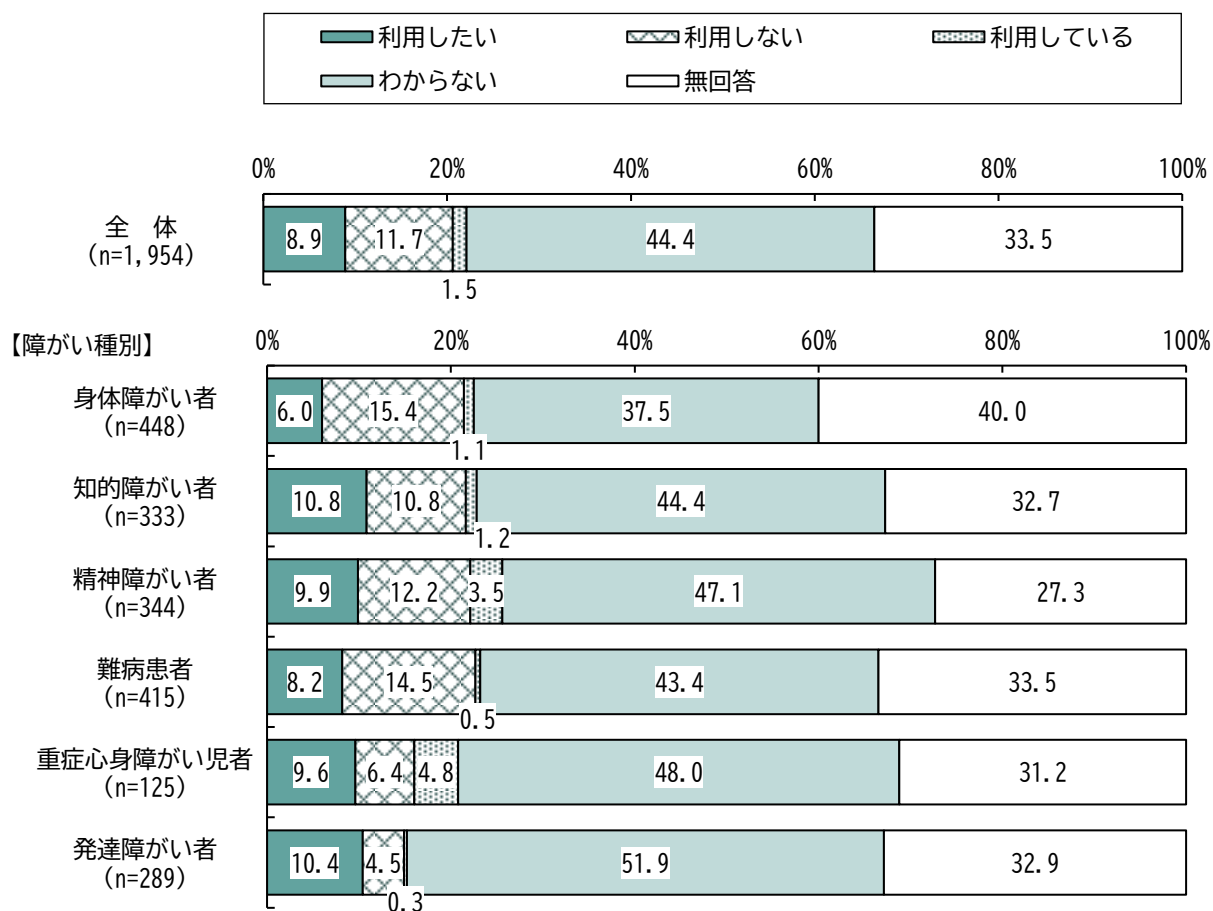
②日常生活自立支援事業<認知度>

「知っている」が19.4%、「知らない」が59.8%となっています。



②日常生活自立支援事業<今後の利用意向>

「利用したい」が8.9%、「利用しない」が11.7%、「利用している」が1.5%、「わからない」が44.4%となっています。



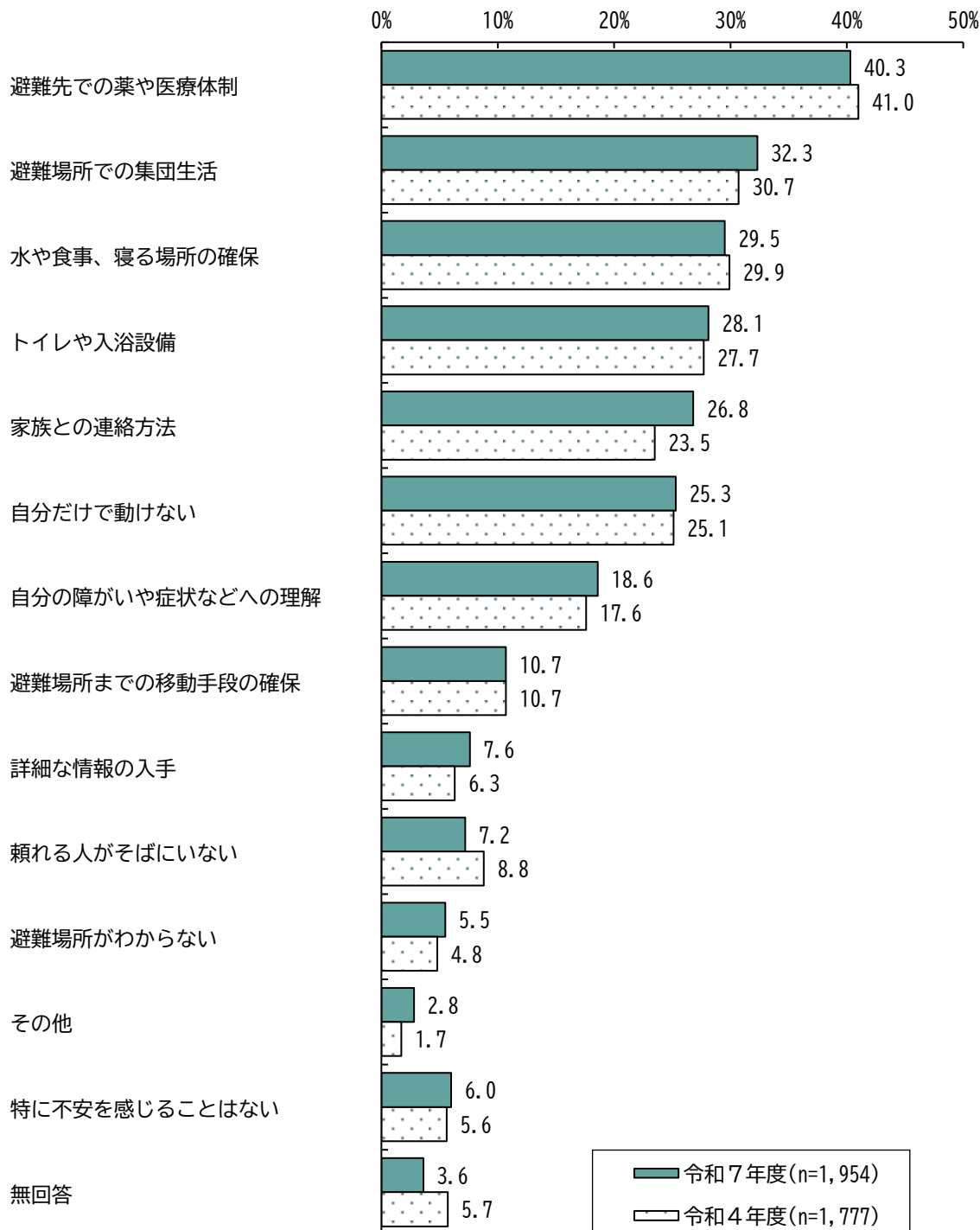
10 災害対策について

(1) 災害発生時の不安

問39 あなたは、災害が発生したとき、どのようなことに不安を感じますか。(〇は3つまで)

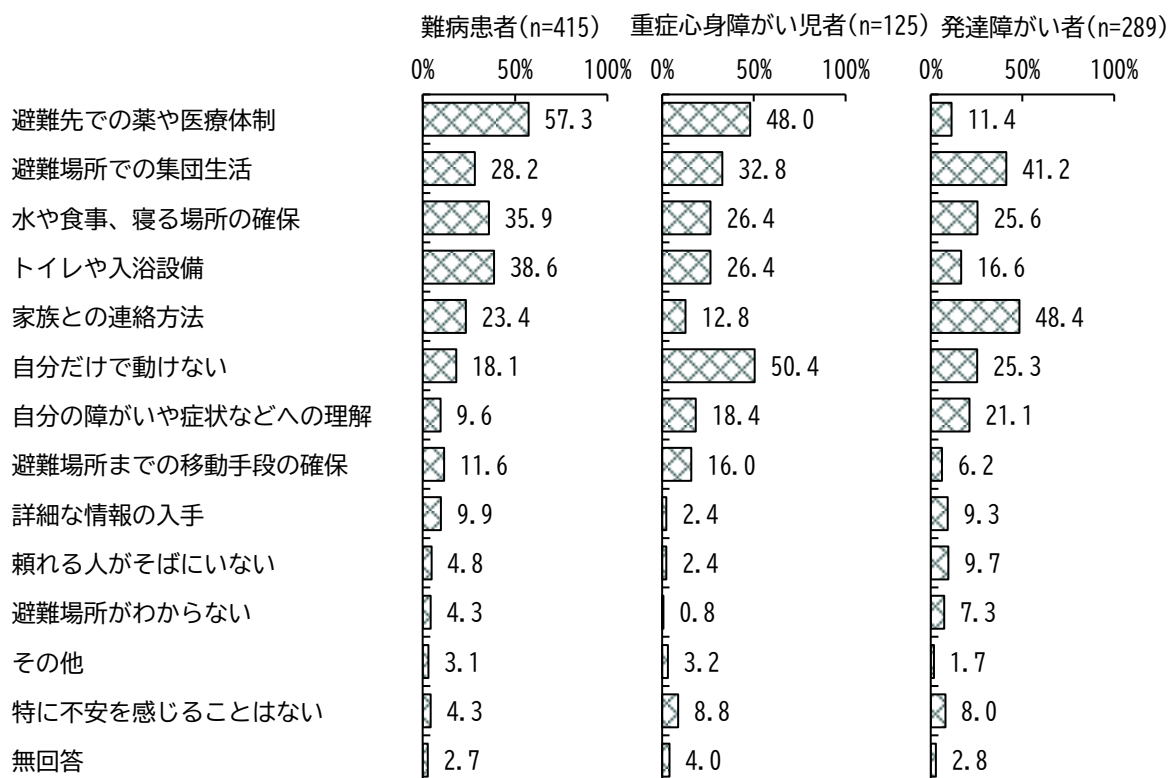
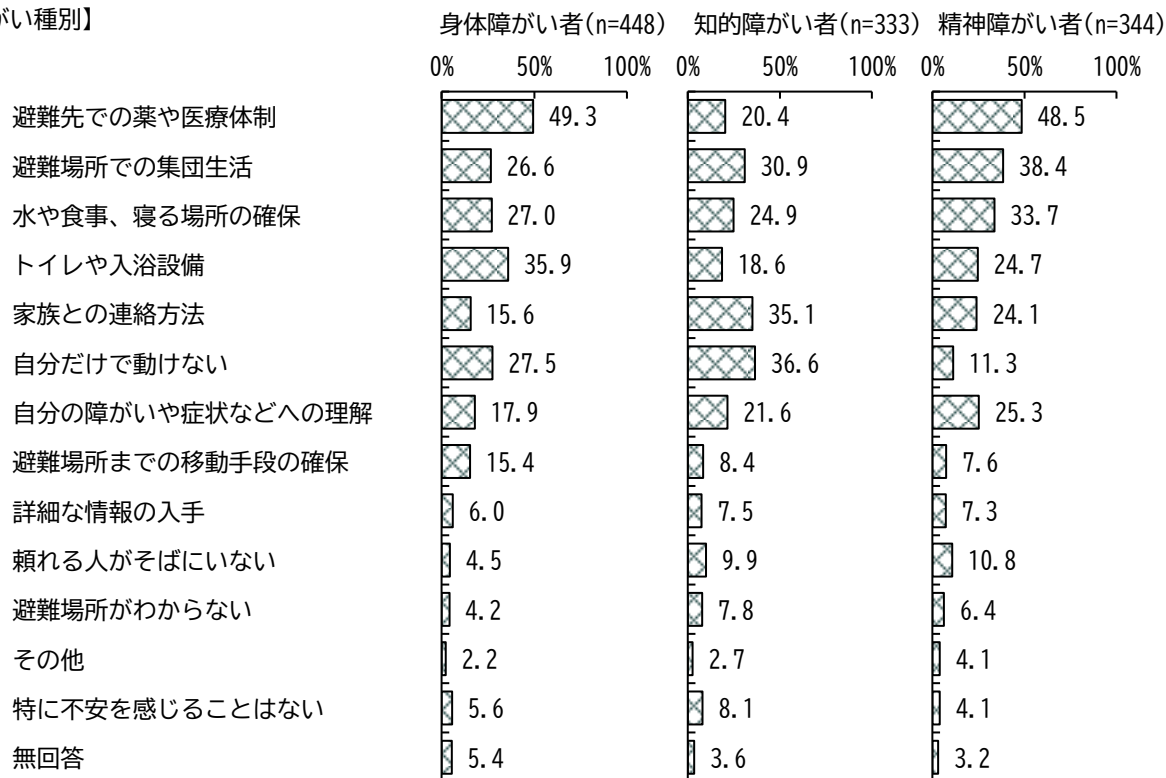
「避難先での薬や医療体制」が40.3%と最も多く、次いで「避難場所での集団生活」が32.3%、「水や食事、寝る場所の確保」が29.5%などとなっています。

【全体・経年比較】



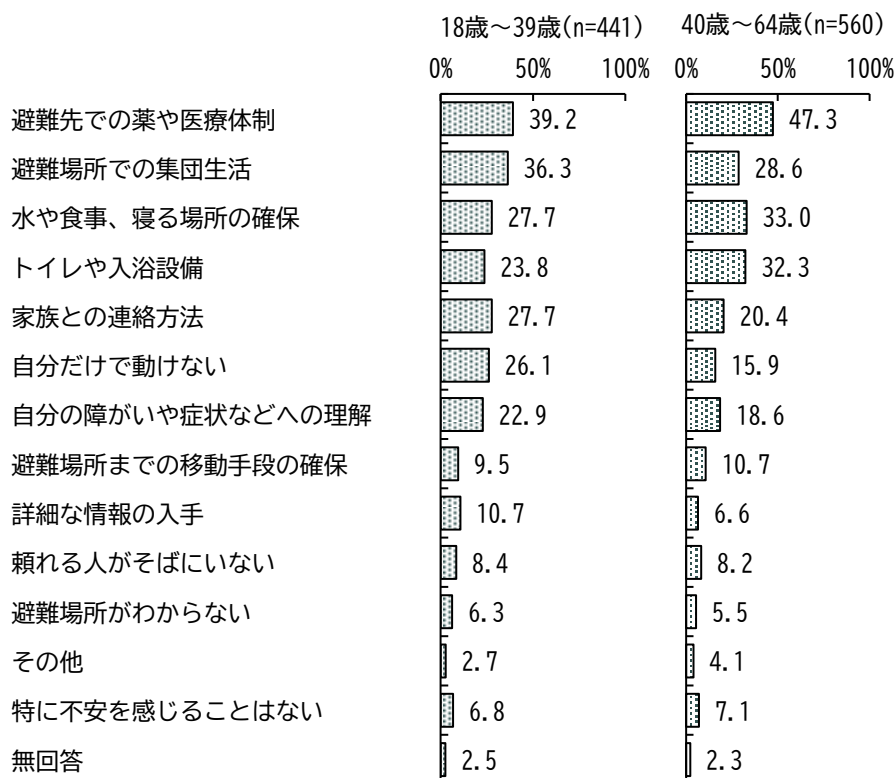
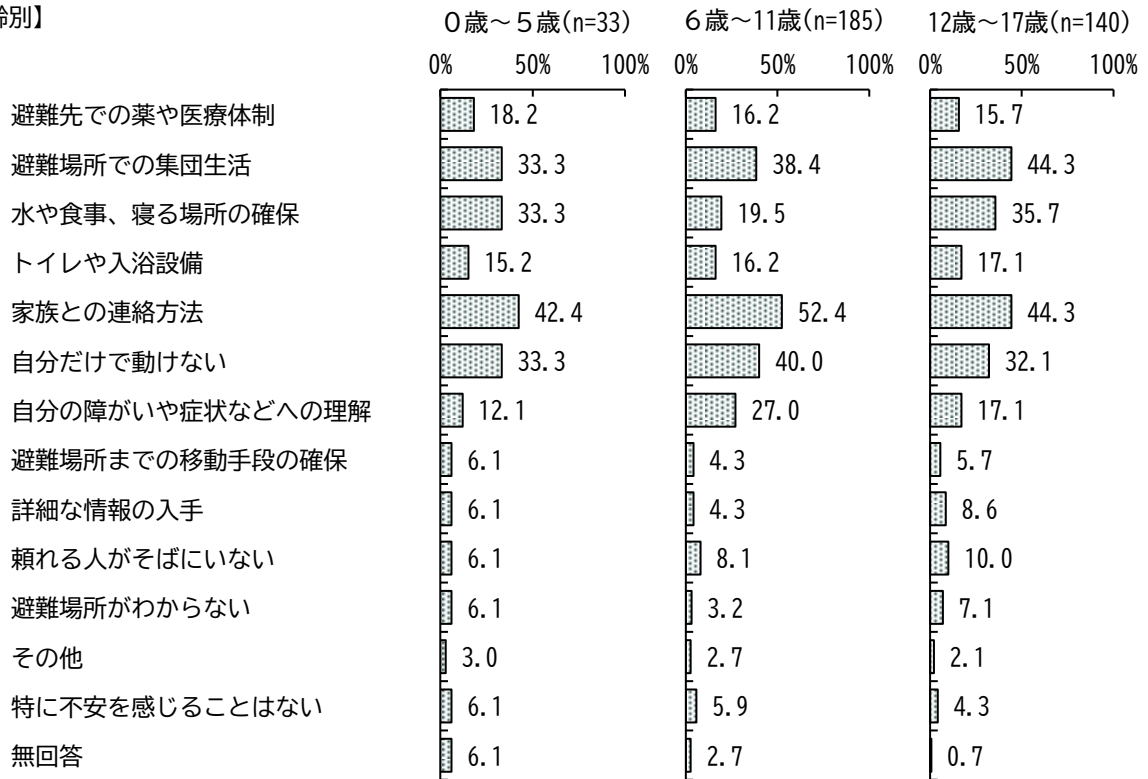
障がい種別にみると、“知的障がい者”、“重症心身障がい児者”では「自分だけで動けない」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「家族との連絡方法」が最も多くなっています。

【障がい種別】

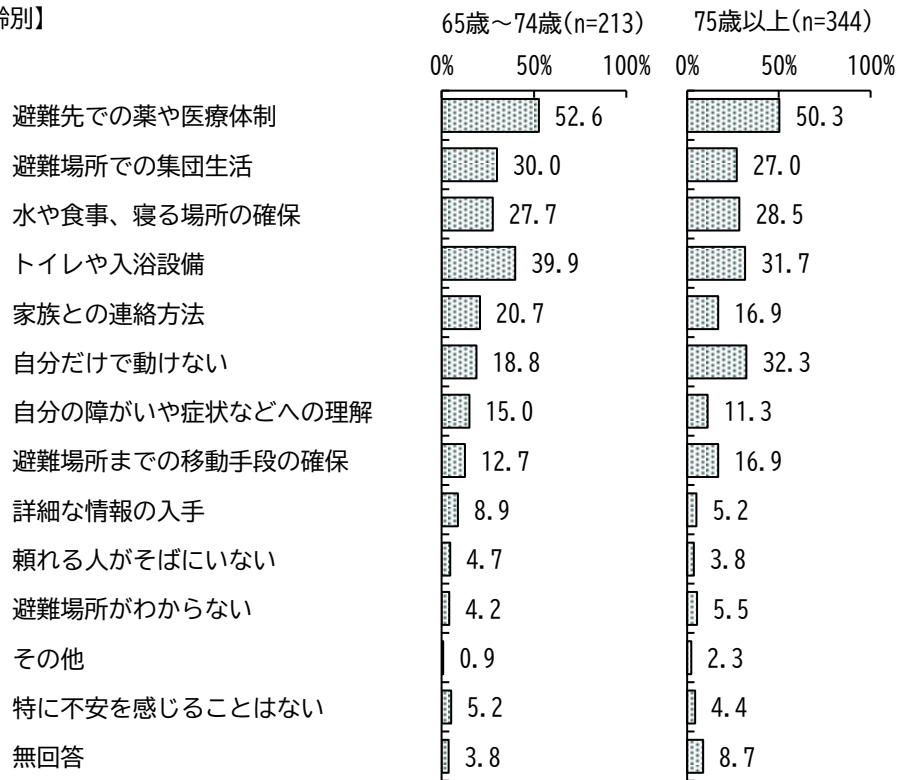


年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”では「家族との連絡方法」が最も多くなっています。また、“12歳～17歳”では「避難場所での集団生活」、「家族との連絡方法」が最も多くなっています。

【年齢別】



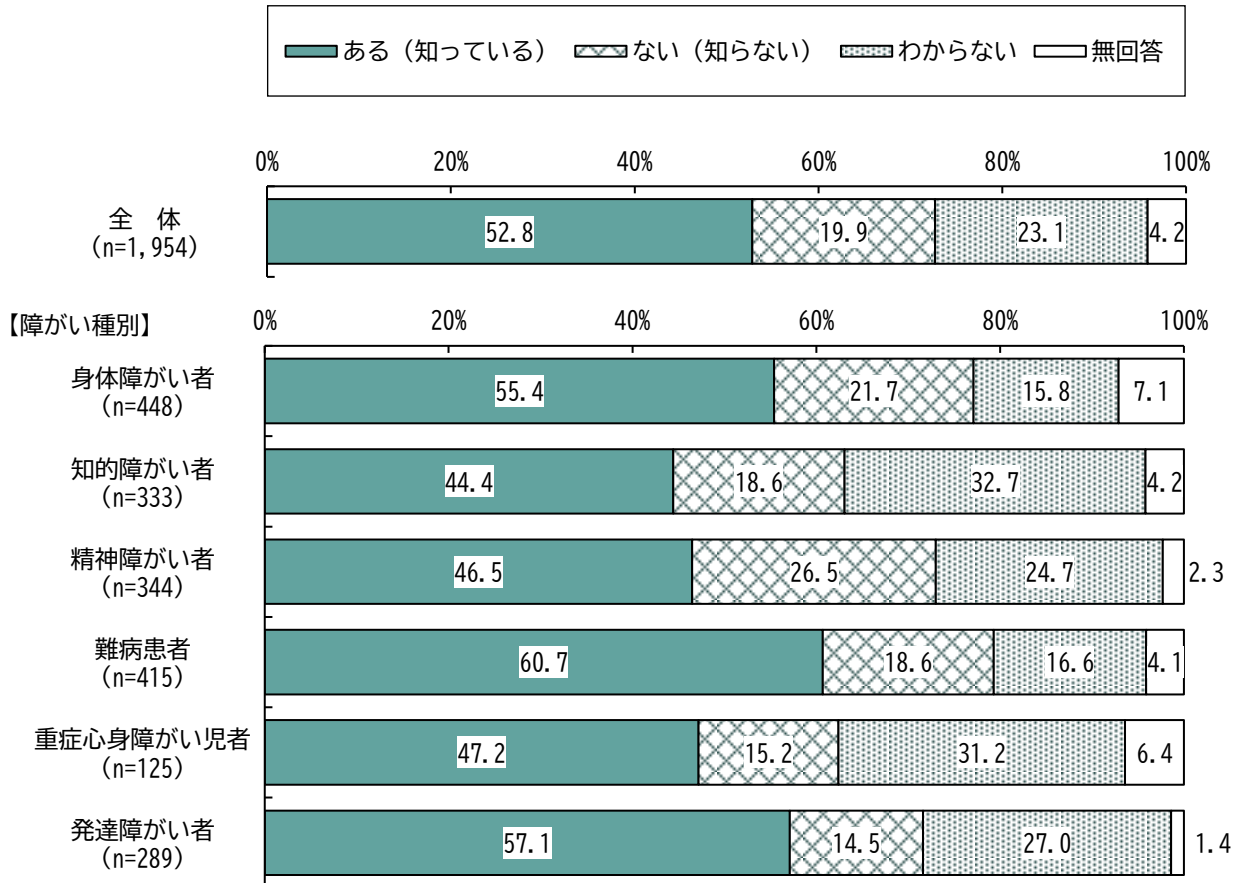
【年齢別】



(2) 災害発生時の自宅以外の避難場所の有無・避難場所の認知度

問40 あなたは、災害が発生したとき、自宅以外の避難場所がありますか。または、避難場所を知っていますか。(○は1つ)

「ある(知っている)」が52.8%、「ない(知らない)」が19.9%、「わからない」が23.1%となっています。

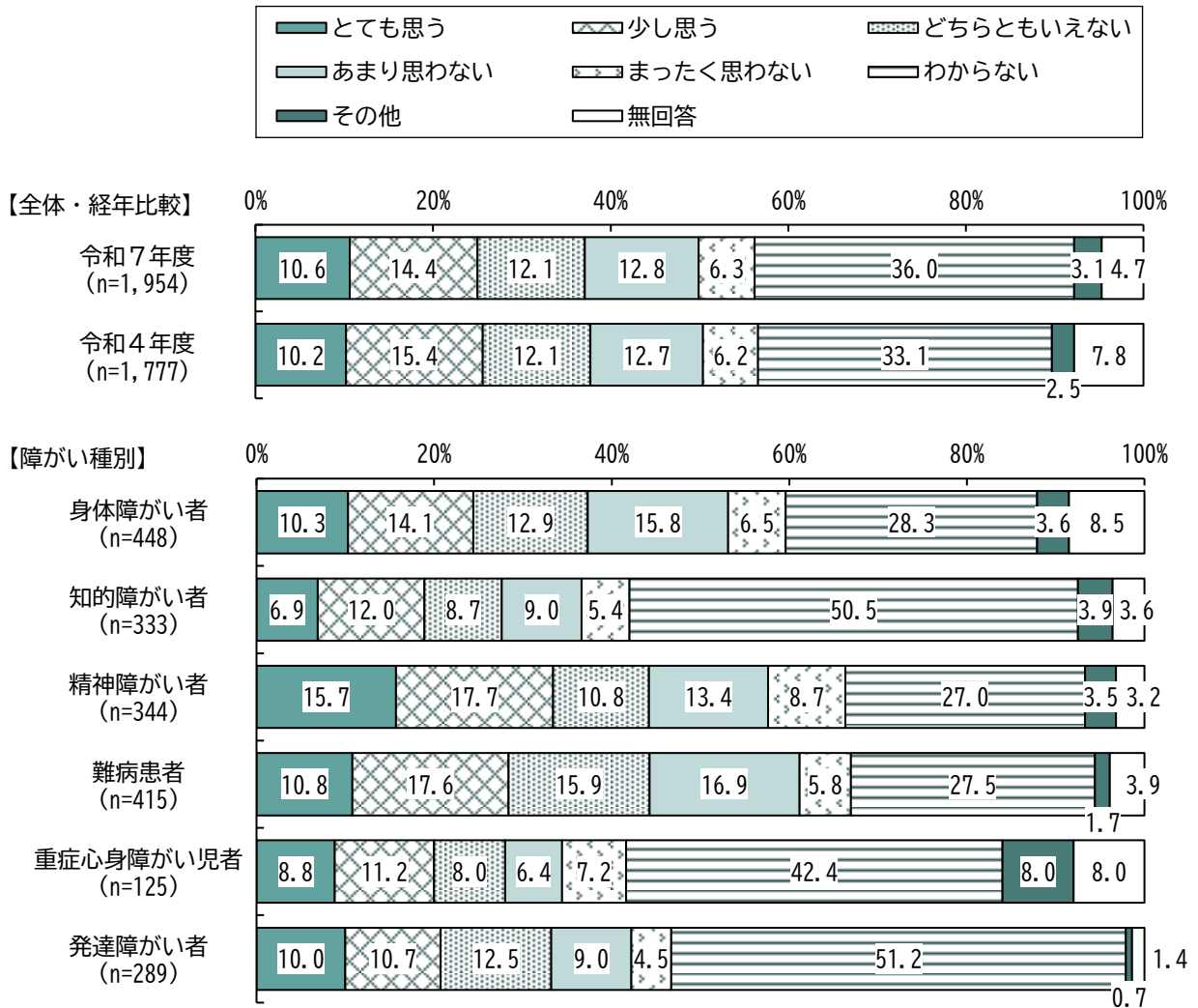


11 ピアサポート活動について

(1) 同じ障がいや病気をもつ人への支援をしたいと思うか

問41 あなたは、あなた自身の障がいや病気の経験を活かして、同じ障がいや病気のある方への支援をしたいと思いますか。(〇は1つ)

「わからない」が36.0%と最も多く、次いで「少し思う」が14.4%、「あまり思わない」が12.8%などとなっています。

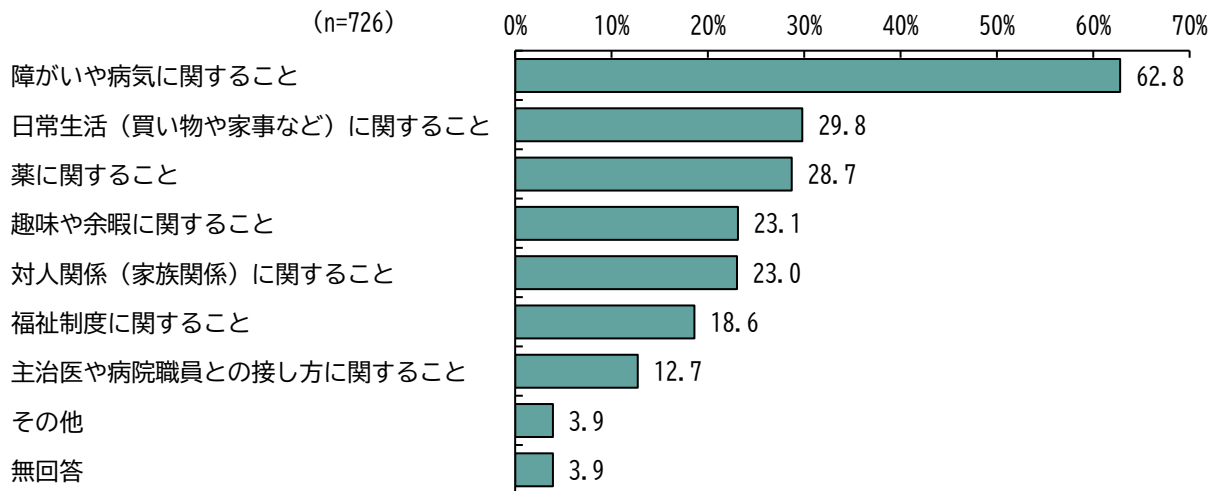


(2) 同じ障がいや病気をもつ人へ支援する上で役立てたい経験

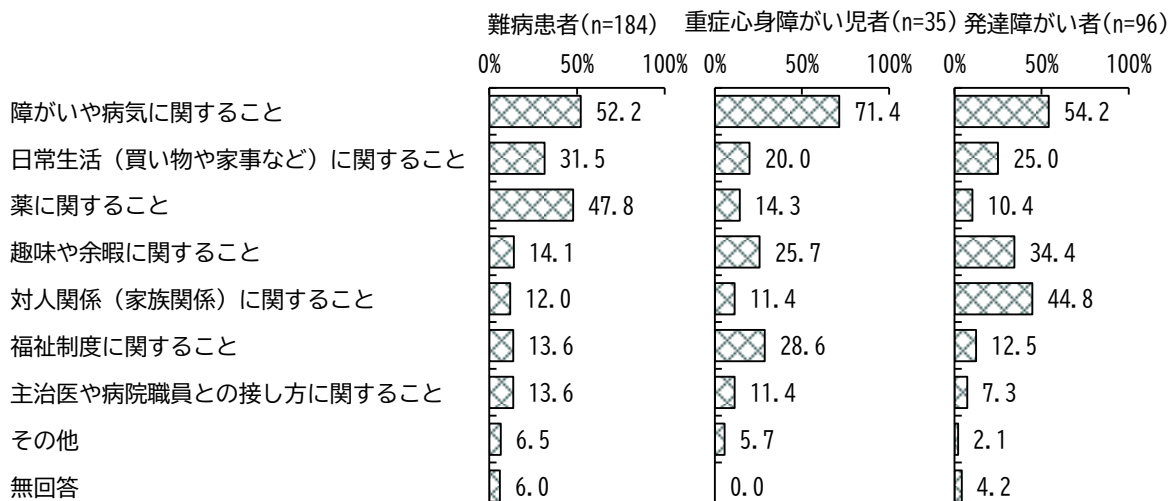
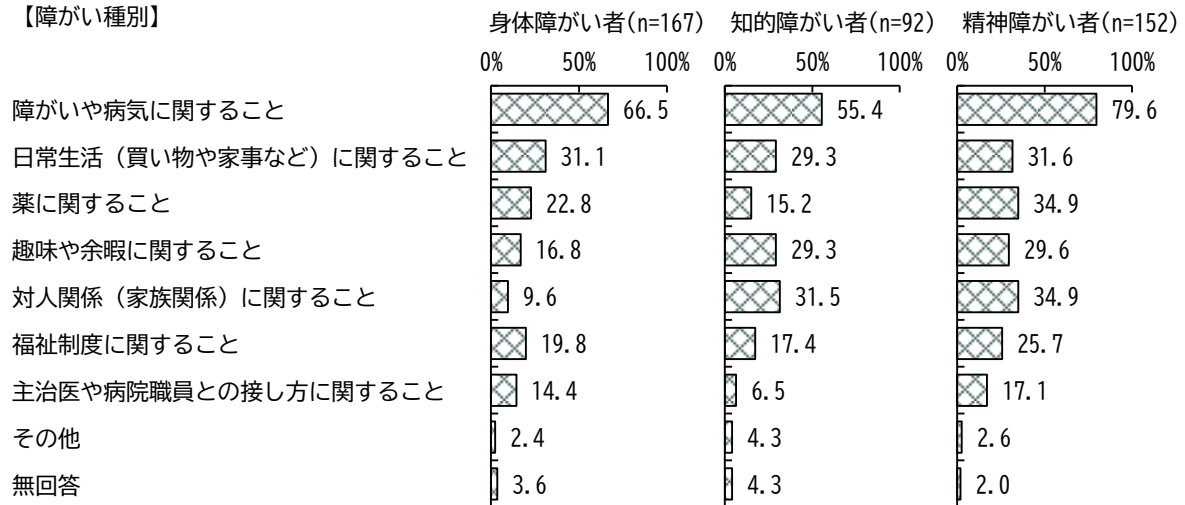
(問41-1と問41-2は、問41で「1」～「3」とお答えの方(同じ障がいや病気のある方への支援をしたいと思う方)にお聞きます。)

問41-1 あなたは、同じ障がいや病気のある方へ支援するにあたり、あなた自身のどのような経験を役立てたいと思いますか。(〇はいくつでも)

「障がいや病気に関すること」が62.8%と最も多く、次いで「日常生活(買い物や家事など)に関すること」が29.8%、「薬に関すること」が28.7%などとなっています。



【障がい種別】

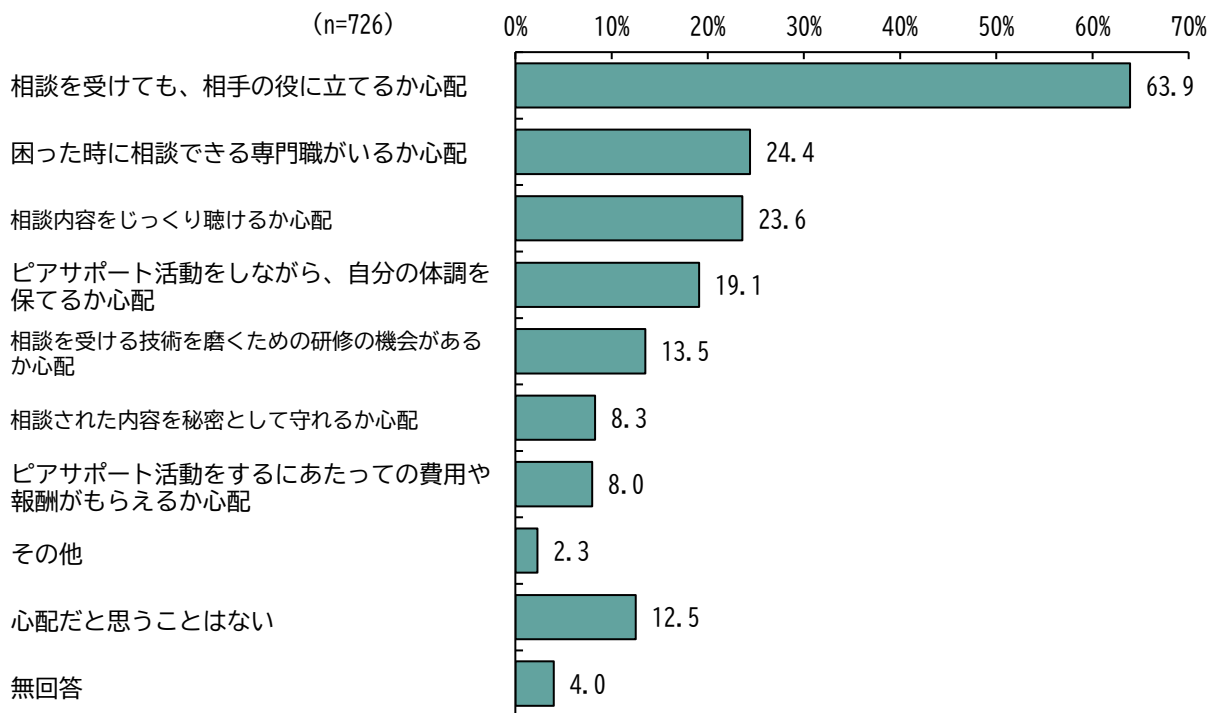


(3) 同じ障がいや病気をもつ人へ支援する上で心配なこと

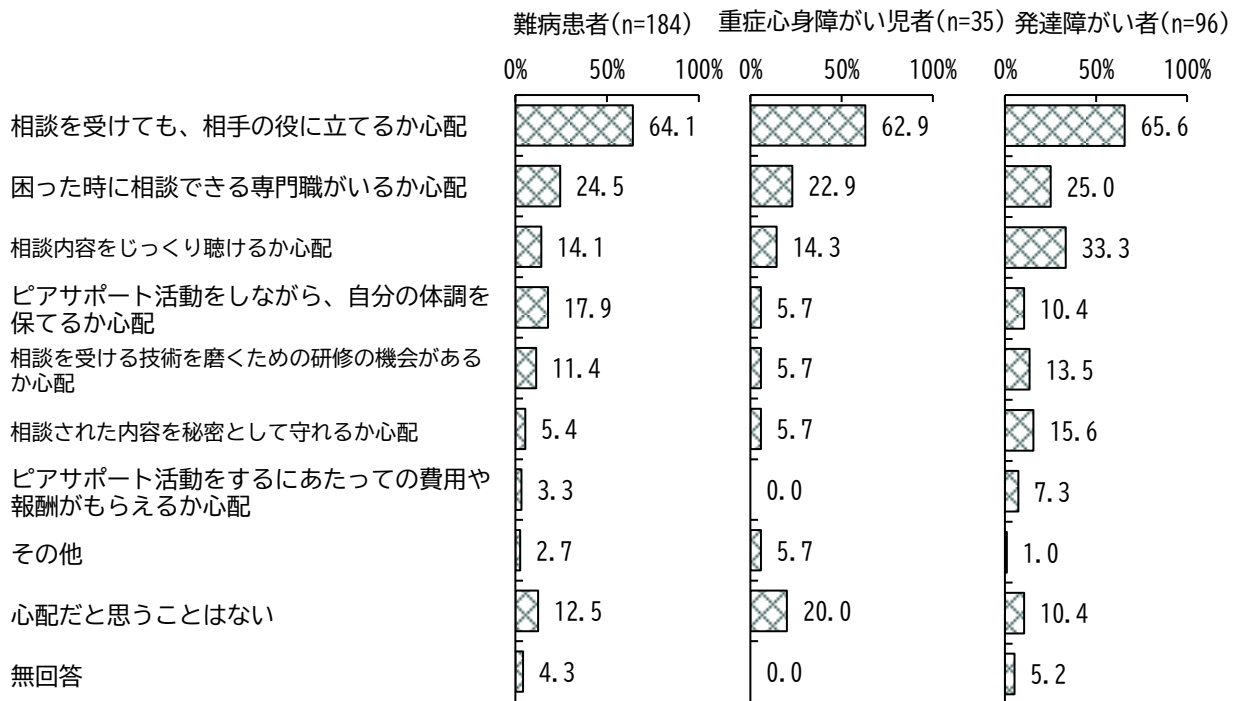
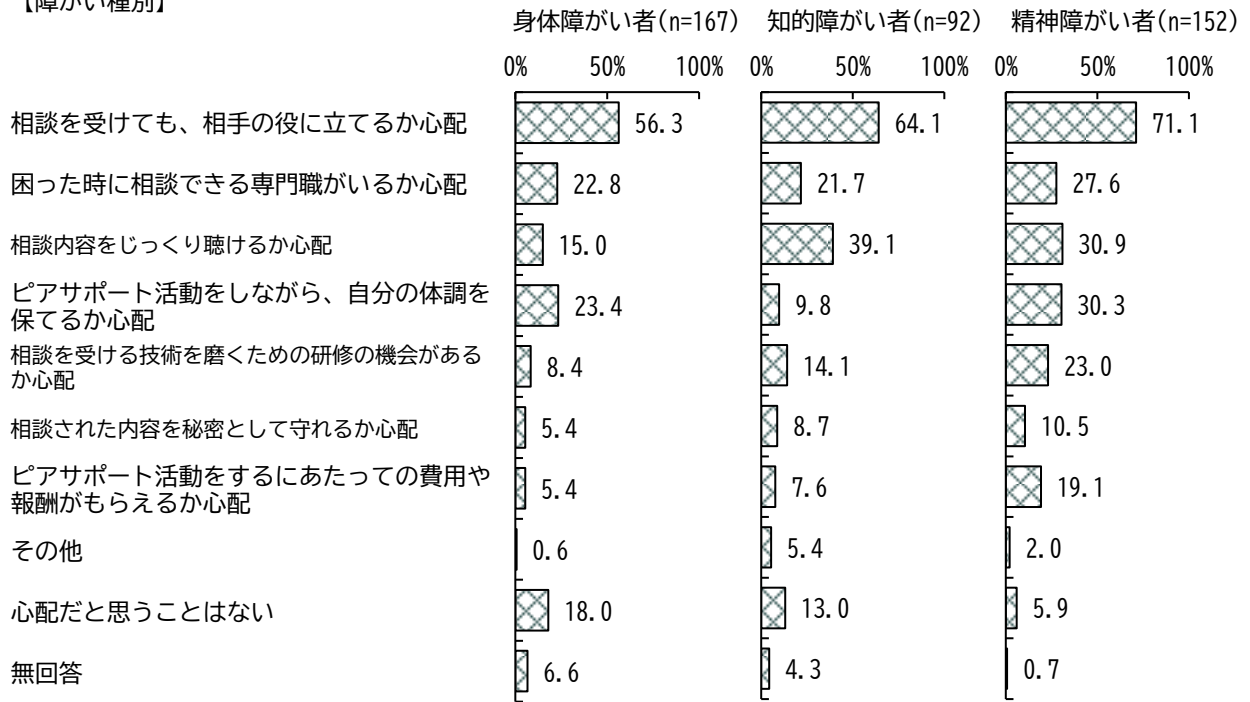
(問41-1と問41-2は、問41で「1」～「3」とお答えの方(同じ障がいや病気のある方への支援をしたいと思う方)にお聞きします。)

問41-2 あなたは、同じ障がいや病気のある方へ支援するにあたり、心配だと思うことはありますか。(〇はいくつでも)

「相談を受けても、相手の役に立てるか心配」が63.9%と最も多く、次いで「困った時に相談できる専門職がいるか心配」が24.4%、「相談内容をじっくり聴けるか心配」が23.6%などとなっています。



【障がい種別】



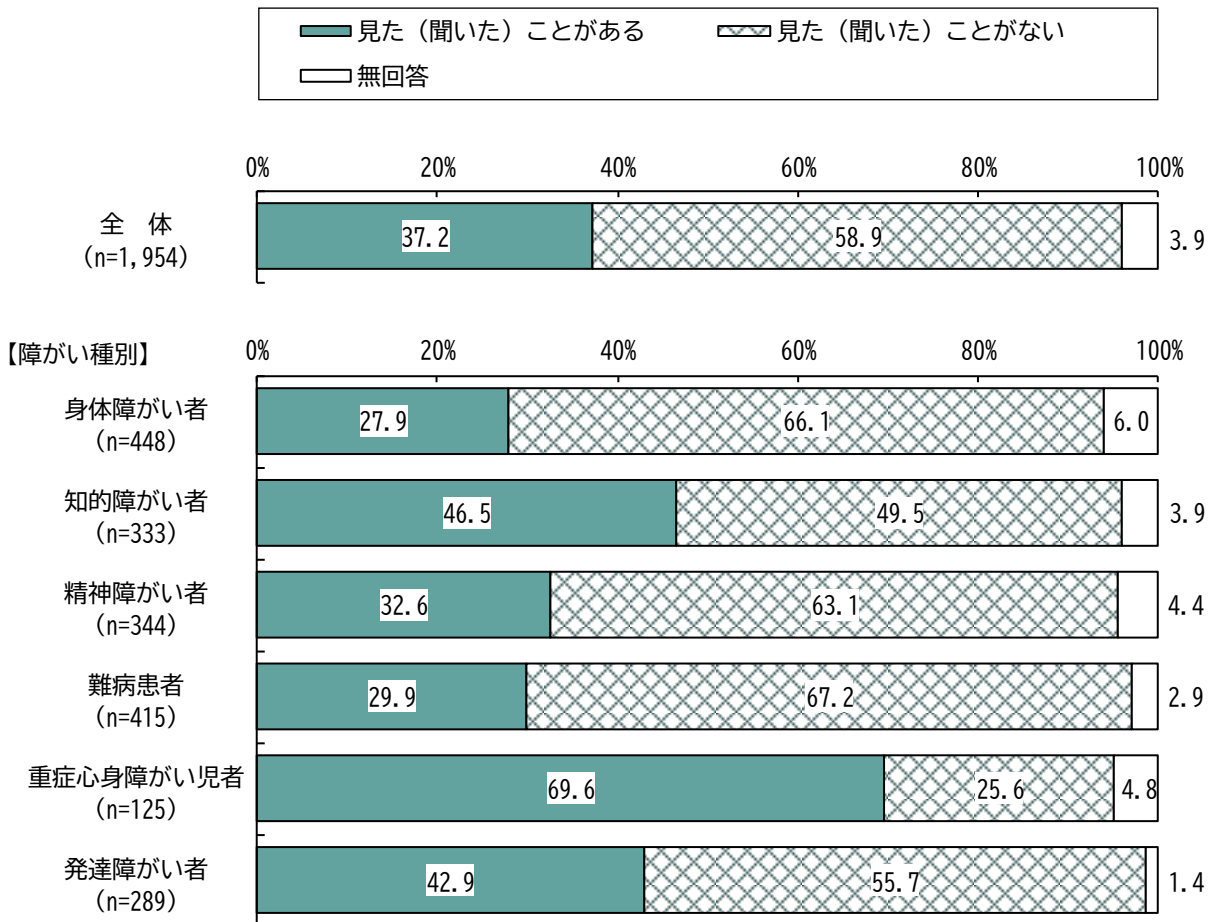
12 啓発について

(1) 「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズやデザインの認知度

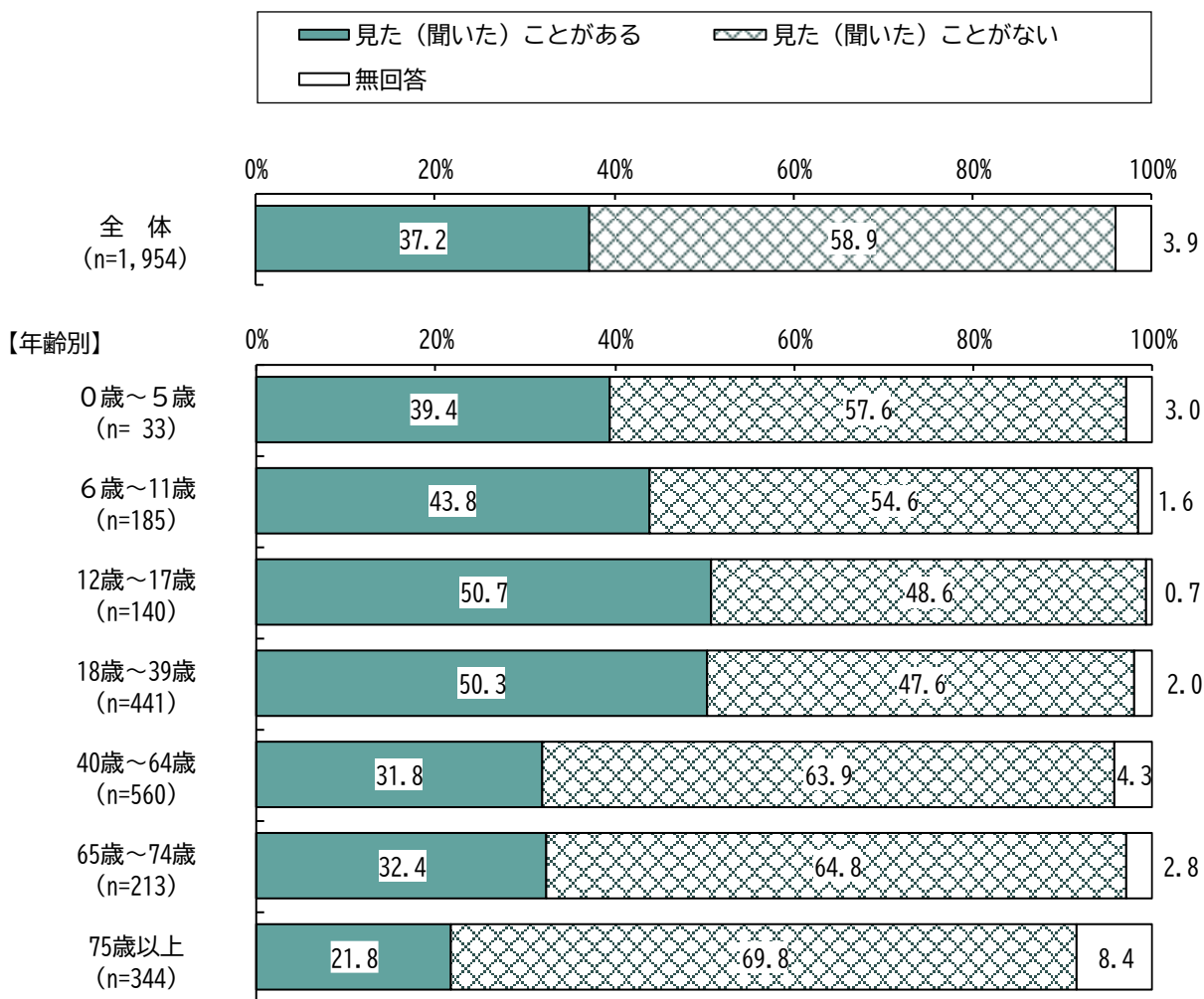
問42 相模原市では、障がいの有無にかかわらずあらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズのもと、様々な事業を行っています。あなたは、このキャッチフレーズを聞いたり、次のデザインを見たりしたことがありますか。(○は1つ)



「見た(聞いた)ことがある」が37.2%、「見た(聞いた)ことがない」が58.9%となっています。障がい種別にみると、“重症心身障がい児者”では「見た(聞いた)ことがある」のほうが多くなっています。



年齢別にみると、“12歳～17歳”、“18歳～39歳”では「見た（聞いた）ことがある」の割合が最も多くなっています。

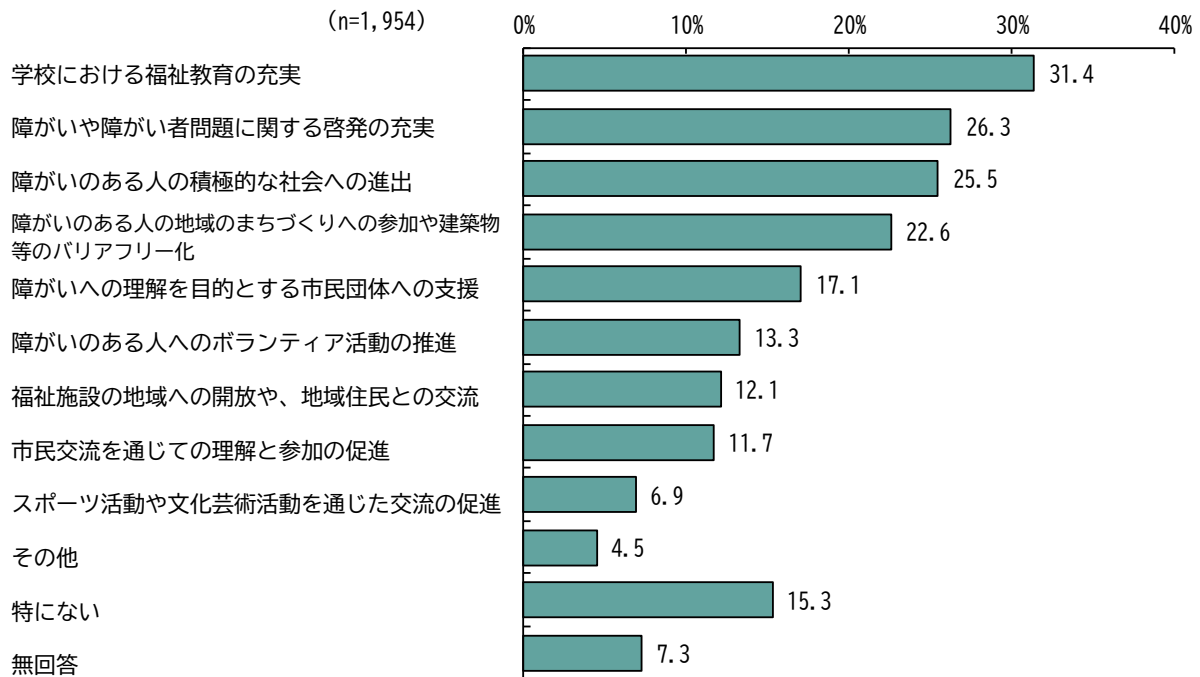


(2) 誰もが地域で生活できるよう地域の理解を進めるために力を入れるべきこと

問43 あなたは、障がいのある人もない人も共に地域で普通に生活できるように地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思いませんか。(〇は3つまで)

「学校における福祉教育の充実」が31.4%と最も多く、次いで「障がいや障がい者問題に関する啓発の充実」が26.3%、「障がいのある人の積極的な社会への進出」が25.5%などとなっています。

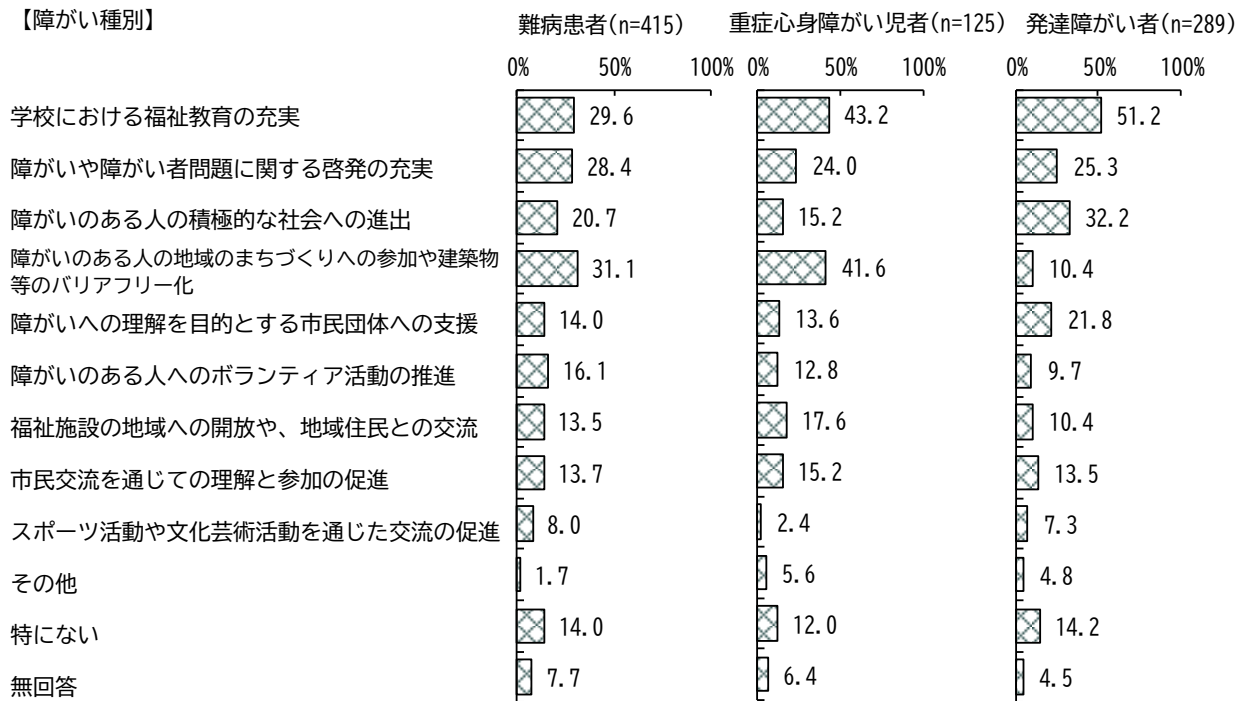
障がい種別にみると、“身体障がい者”、“難病患者”では「障がいのある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」が最も多くなっています。また、“精神障がい者”では「障がいのある人の積極的な社会への進出」が最も多くなっています。



【障がい種別】

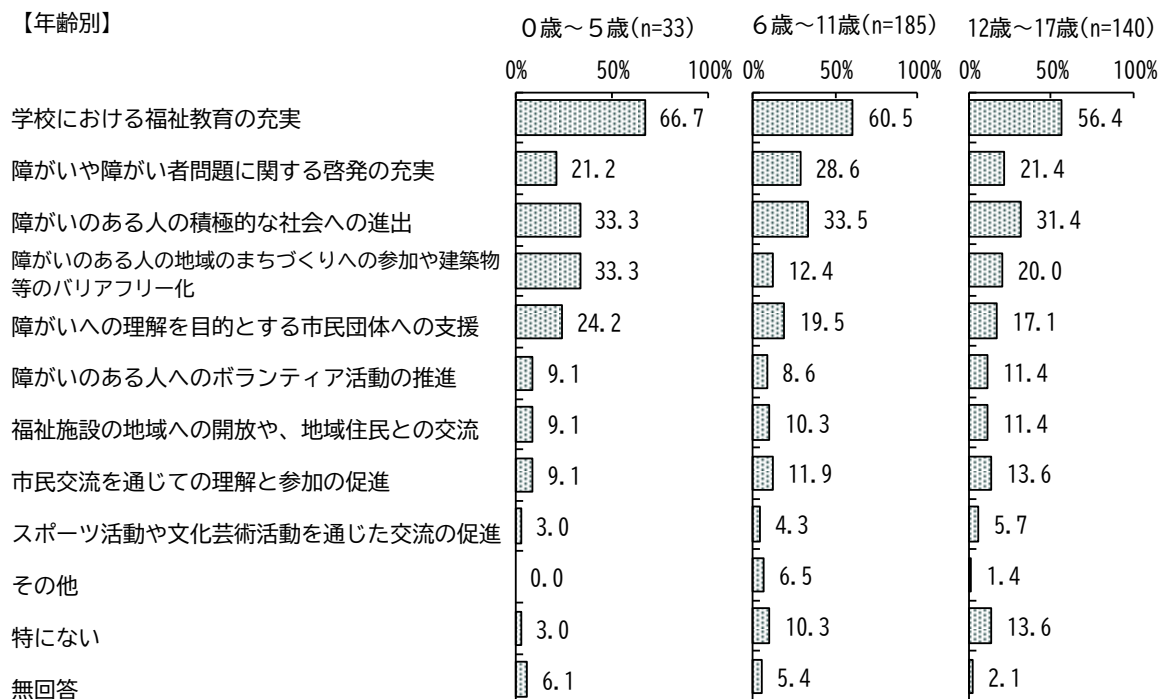


【障がい種別】

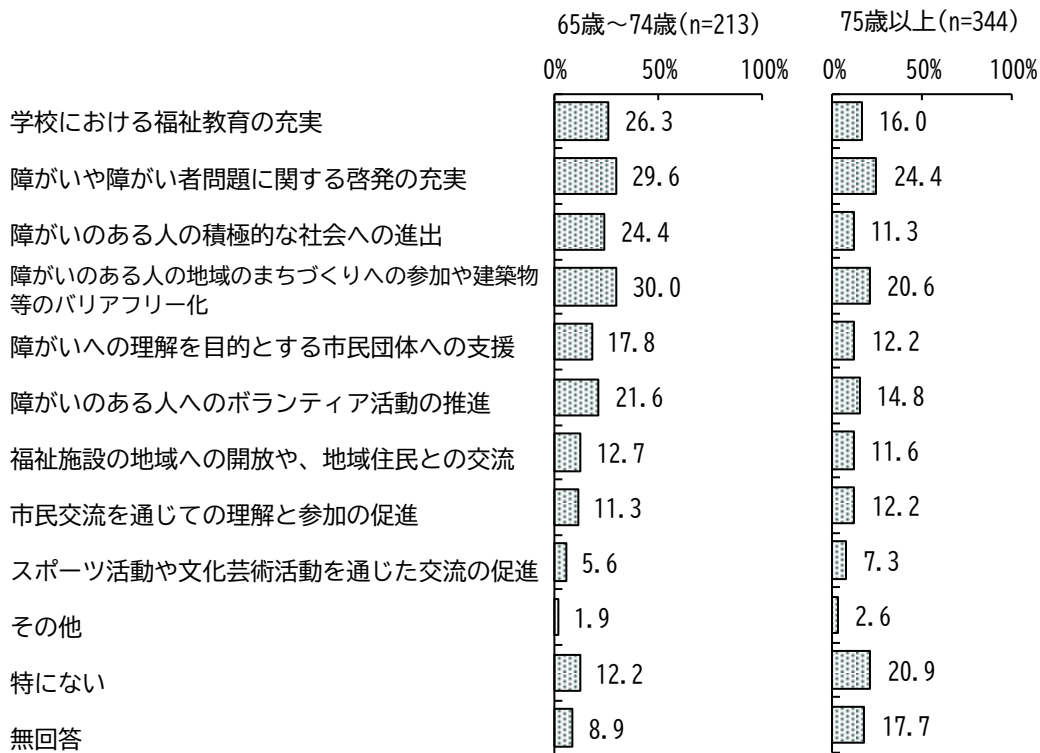
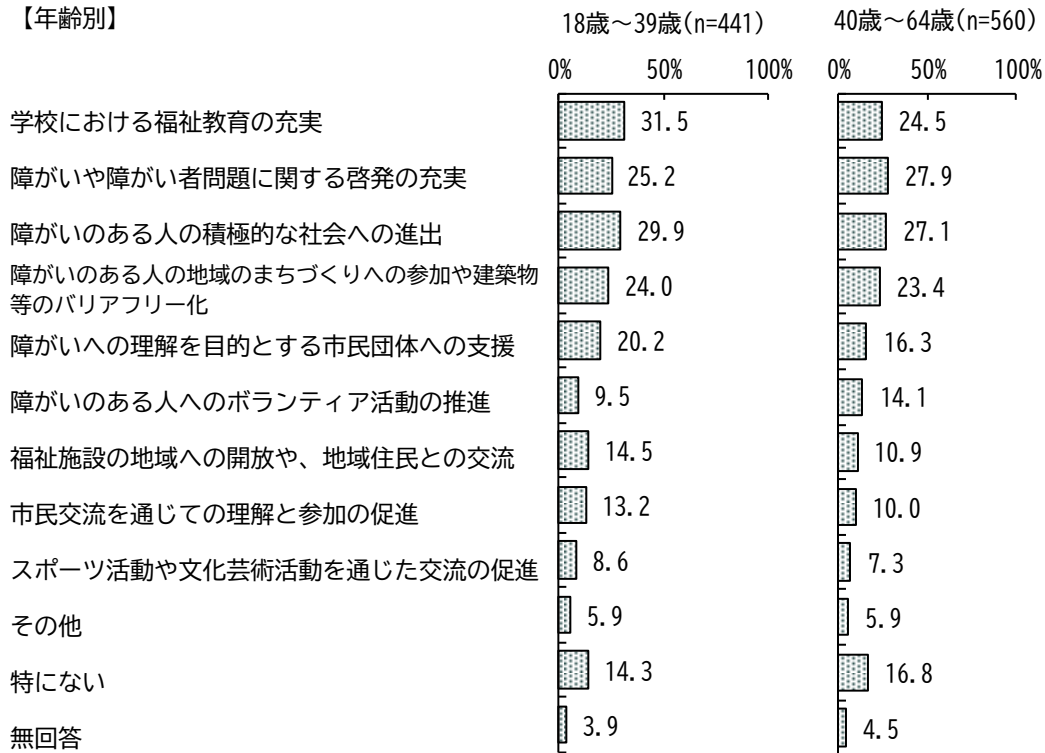


年齢別にみると、“40歳～64歳”、“75歳以上”では「障がいや障がい者問題に関する啓発の充実」が最も多くなっています。また、“65歳～74歳”では「障がいのある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」が最も多くなっています。

【年齢別】



【年齢別】



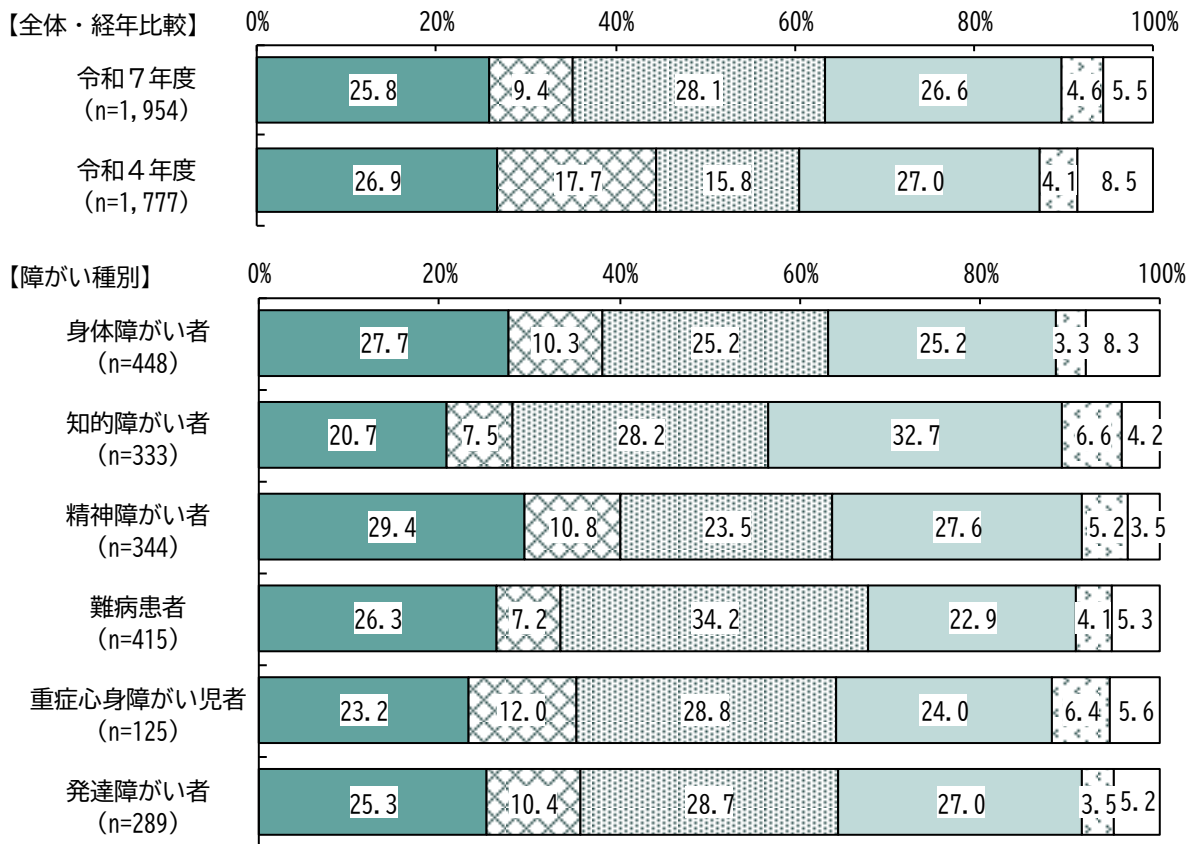
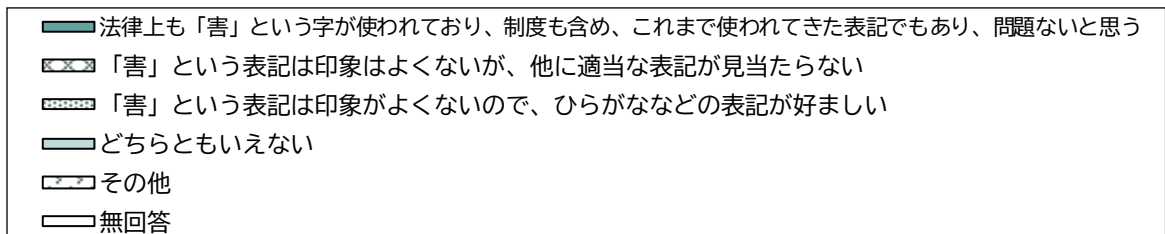
13 相模原市の障がい者施策について

(1) 障がい者の「害」という表記について

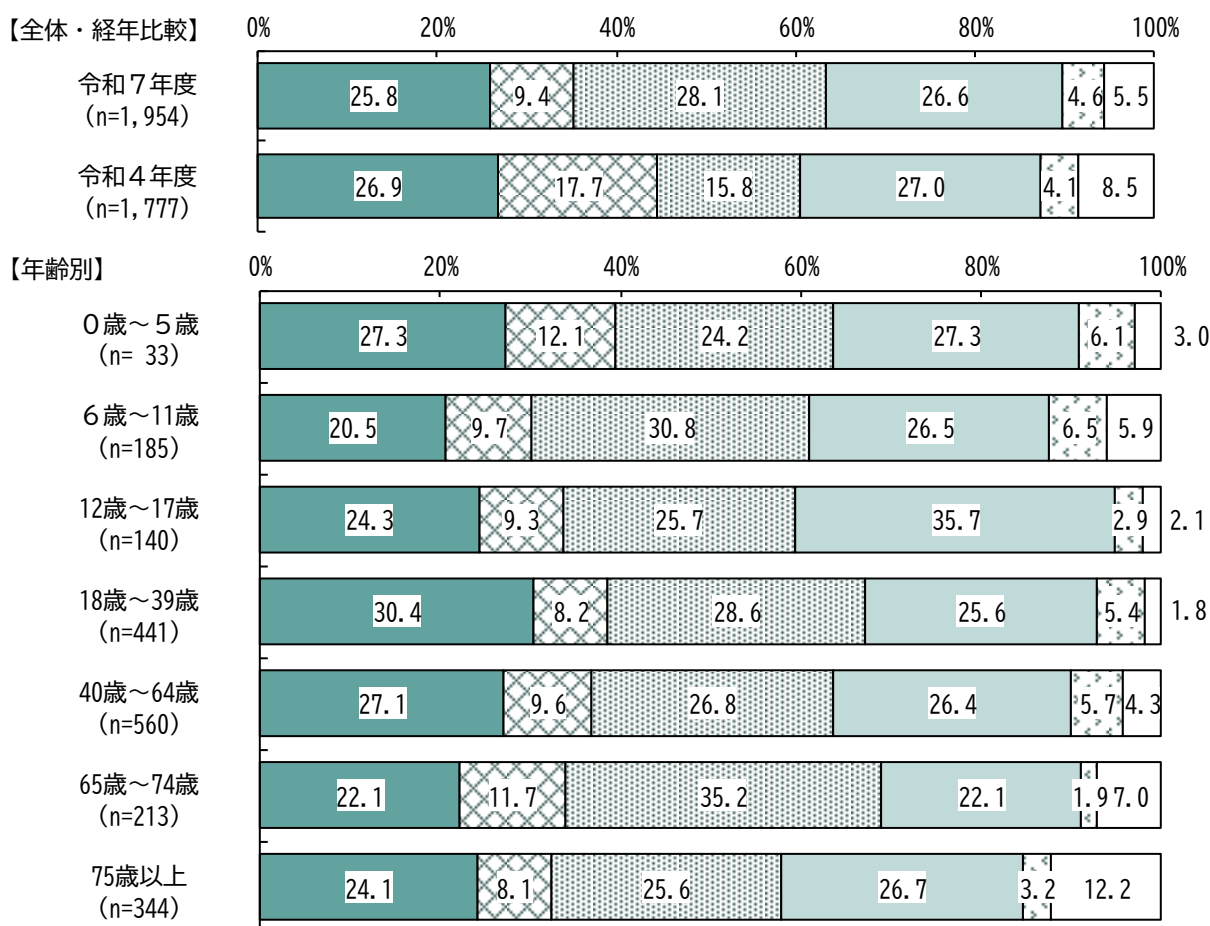
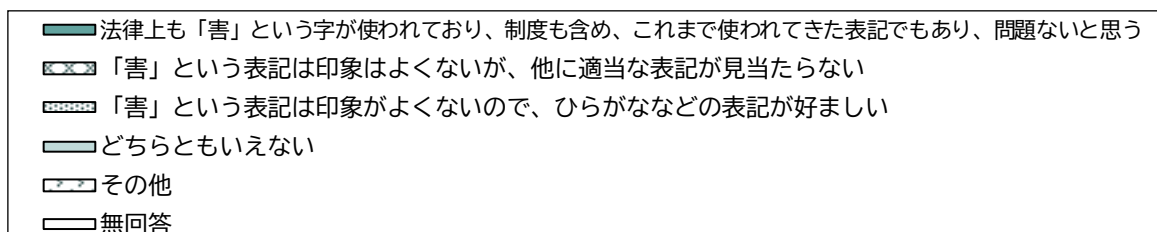
問44 相模原市健康福祉部局内では障がいの「害」という表記について文字の印象を和らげるために、試行的に法律用語、医療用語、課名以外についてのひらがな表記としております。障がい者の「害」という表記について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

「害」という表記は印象がよくないので、ひらがななどの表記が好ましい」が28.1%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が26.6%、「法律上も「害」という字が使われており、制度も含め、これまで使われてきた表記でもあり、問題ないと思う」が25.8%などとなっています。

障がい種別にみると、“身体障がい者”、“精神障がい者”では「法律上も「害」という字が使われており、制度も含め、これまで使われてきた表記でもあり、問題ないと思う」が最も多くなっています。また、“知的障がい者”では「どちらともいえない」が最も多くなっています。



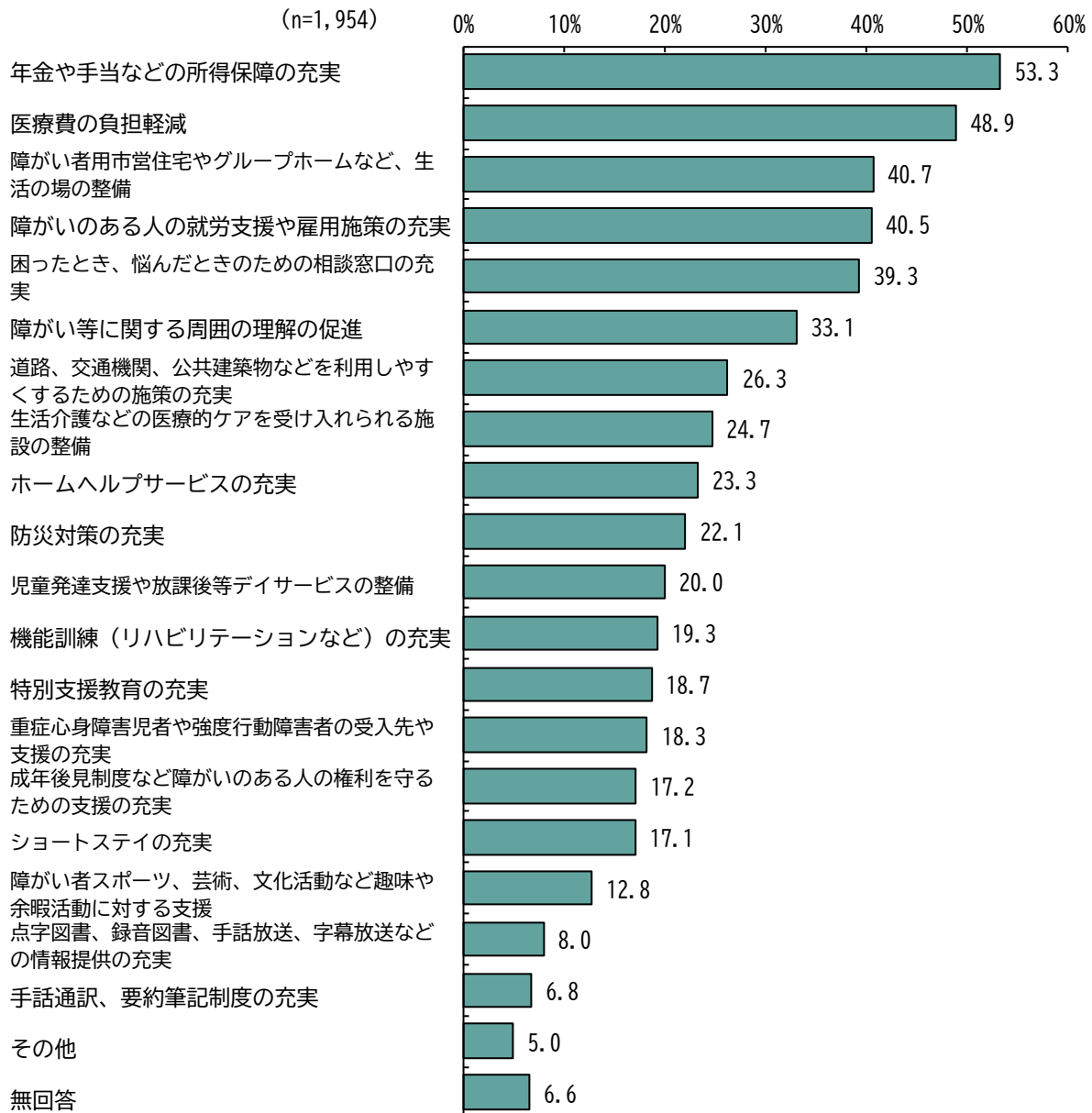
年齢別にみると、“0歳～5歳”では「法律上も「害」という字が使われており、制度も含め、これまで使われてきた表記でもあり、問題ないと思う」、「どちらともいえない」が最も多くなっています。また、“12歳～17歳”、“75歳以上”では「どちらともいえない」が最も多くなっています。また、“18歳～39歳”、“40歳～64歳”では「法律上も「害」という字が使われており、制度も含め、これまで使われてきた表記でもあり、問題ないと思う」が最も多くなっています。



(2) 障がいのある人が安心して生活するために望むこと

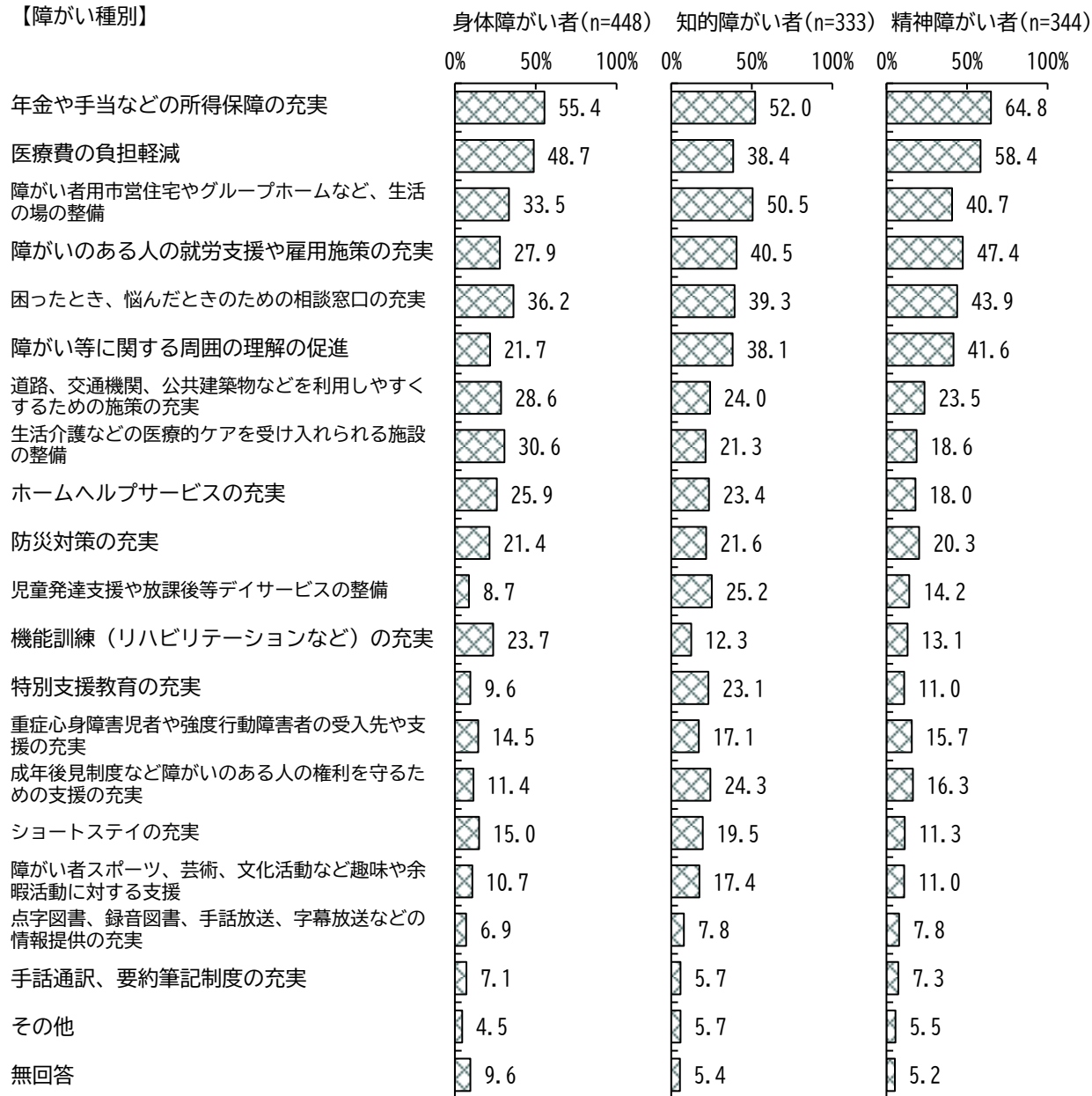
問45 あなたは、障がいのある人が安心して生活するために望むことは何ですか。(〇はいくつでも)

「年金や手当などの所得保障の充実」が53.3%と最も多く、次いで「医療費の負担軽減」が48.9%、「障がい者用市営住宅やグループホームなど、生活の場の整備」が40.7%などとなっています。



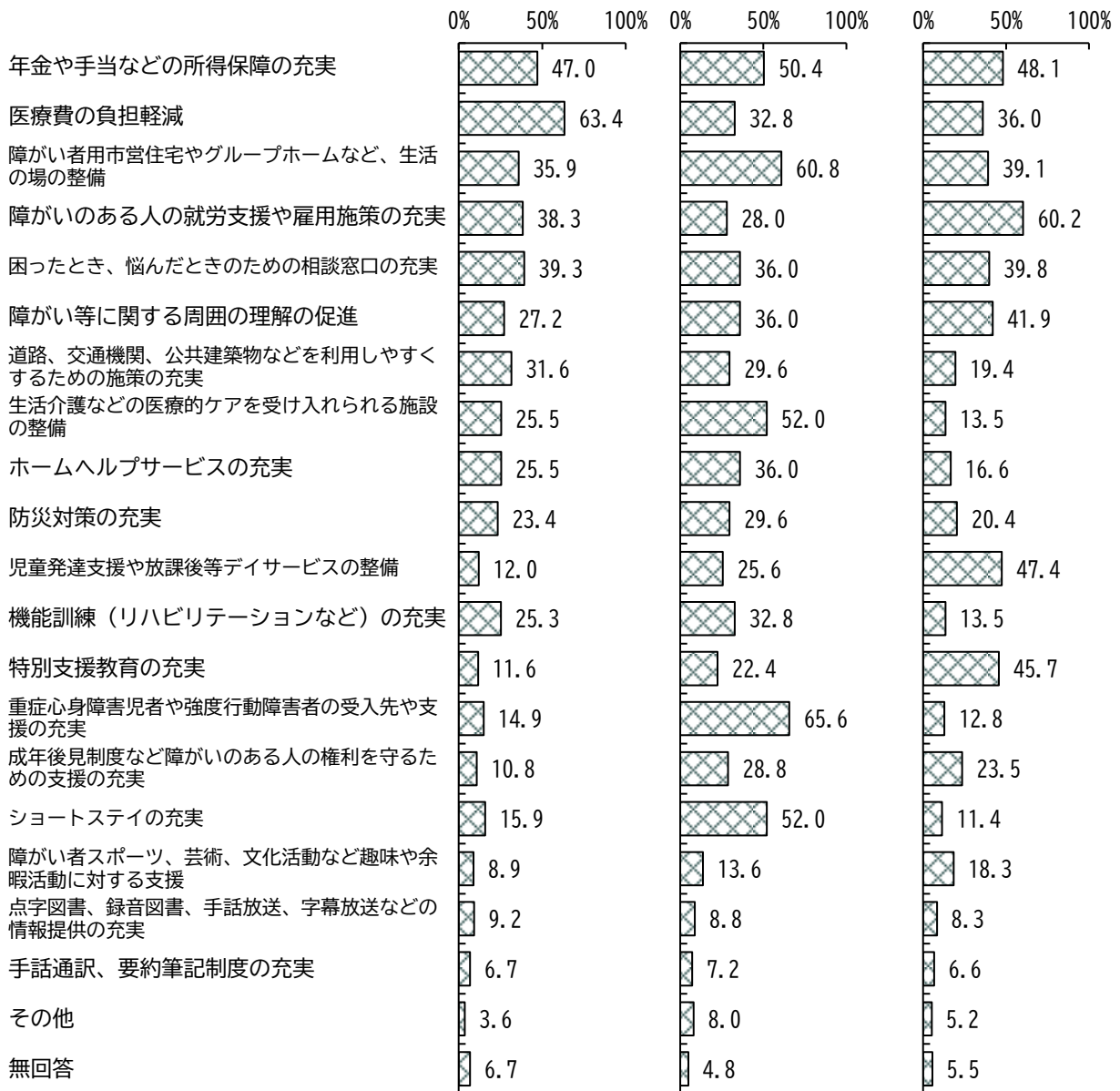
障がい種別にみると、“難病患者”では「医療費の負担軽減」が最も多くなっています。また、“重症心身障がい児者”では「重症心身障害児者や強度行動障害者の受入先や支援の充実」が最も多くなっています。また、“発達障がい者”では「障がいのある人の就労支援や雇用施策の充実」が最も多くなっています。

【障がい種別】

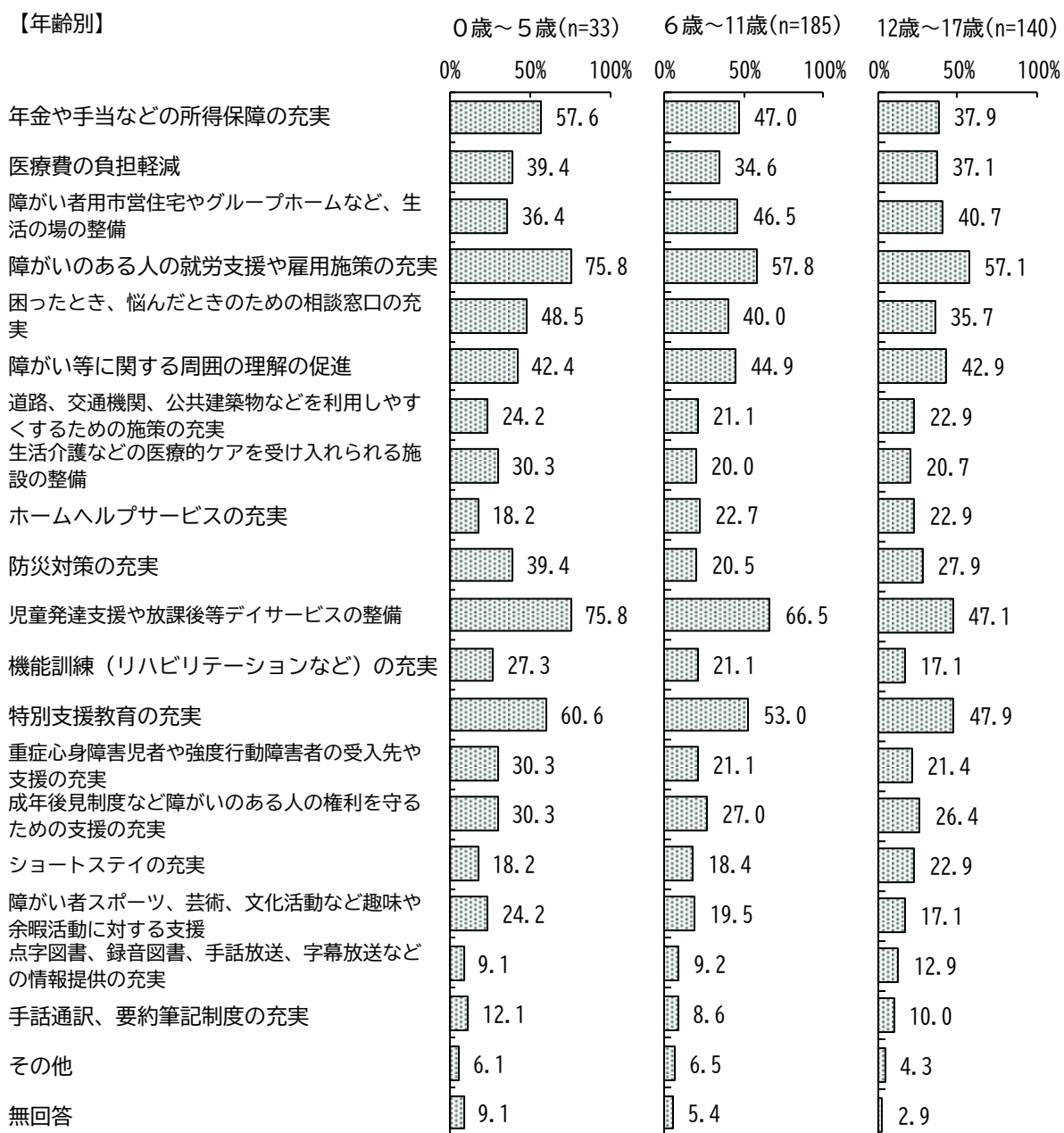


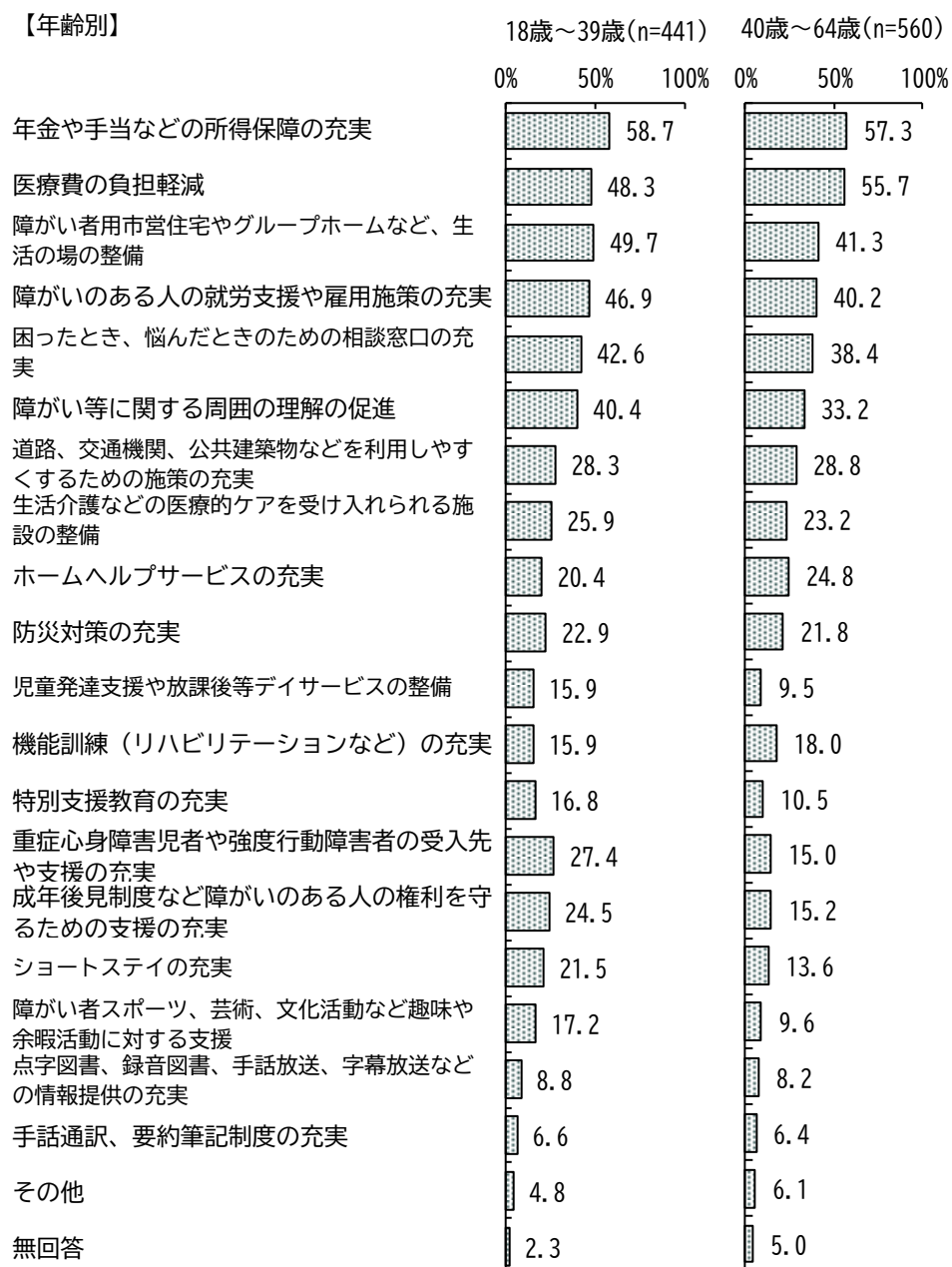
【障がい種別】

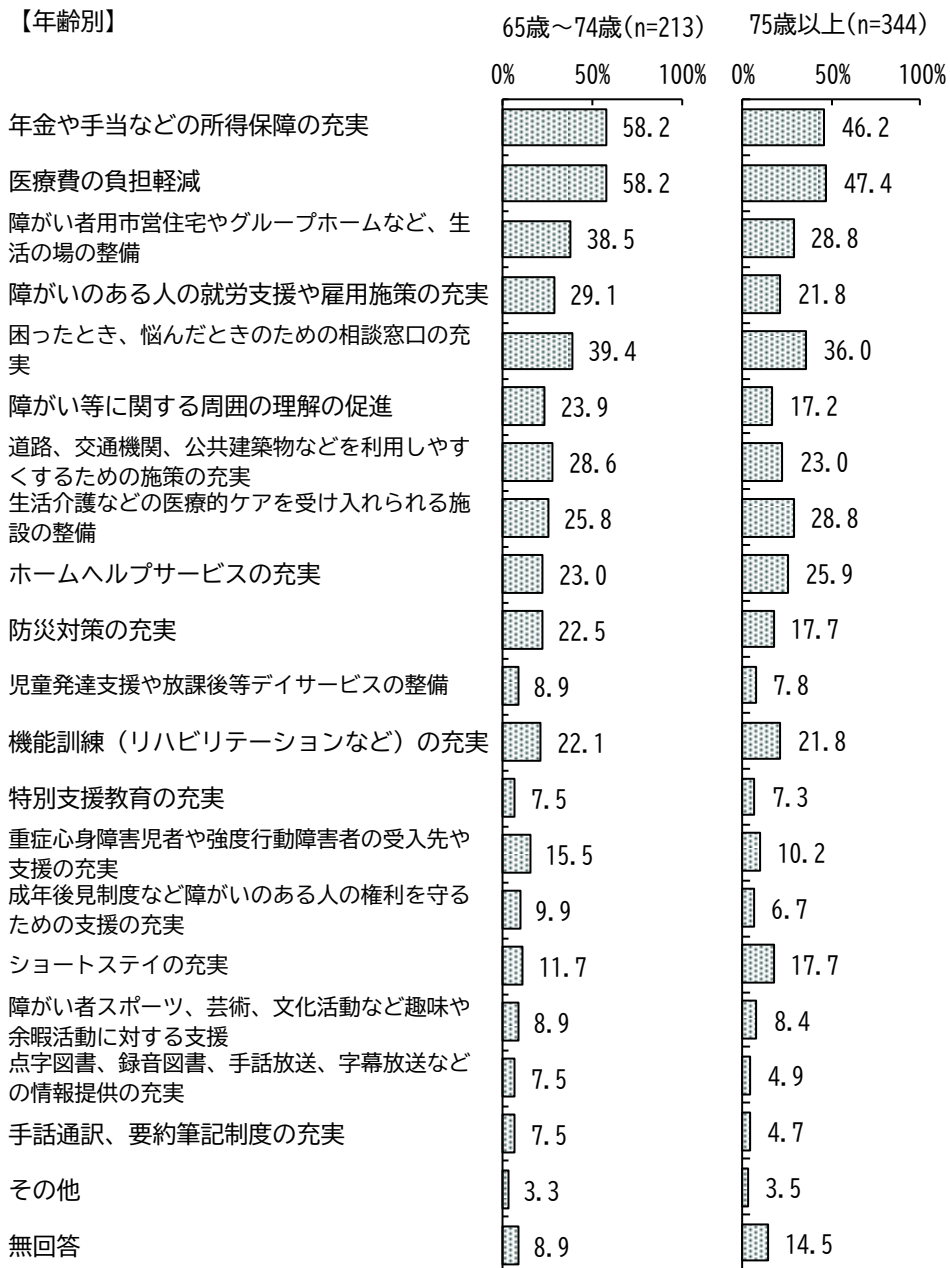
難病患者(n=415) 重症心身障がい児者(n=125) 発達障がい者(n=289)



年齢別にみると、“0歳～5歳”では「障がいのある人の就労支援や雇用施策の充実」、「児童発達支援や放課後等デイサービスの整備」が最も多くなっています。また、“6歳～11歳”では「児童発達支援や放課後等デイサービスの整備」が最も多くなっています。また、“12歳～17歳”では「障がいのある人の就労支援や雇用施策の充実」が最も多くなっています。また、“65歳～74歳”では「年金や手当などの所得保障の充実」、「医療費の負担軽減」が最も多くなっています。また、“75歳以上”では「医療費の負担軽減」が最も多くなっています。



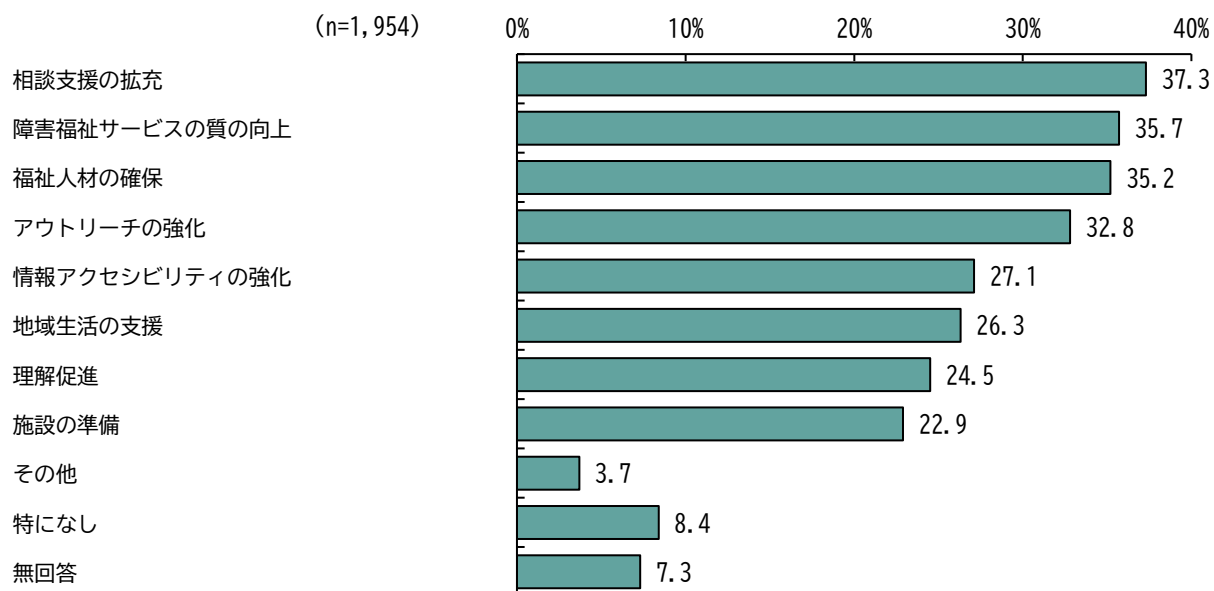




(3) 力を入れた方が良い行政の福祉施策

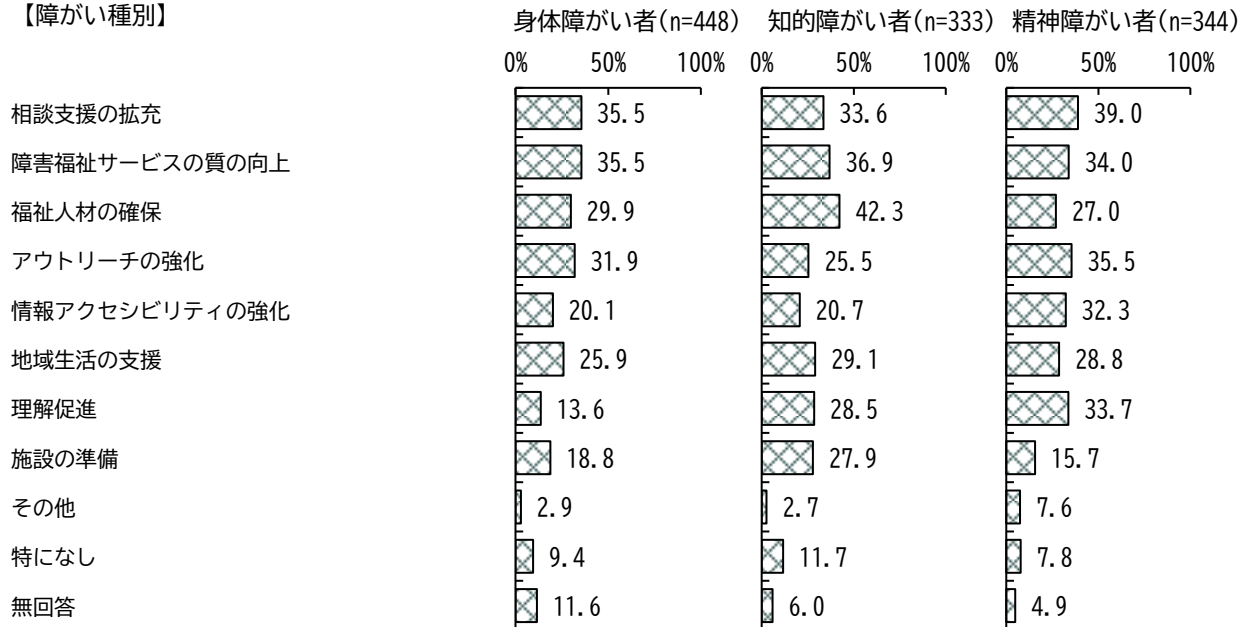
問46 行政の福祉施策においてどこに力を入れた方が良いと思いますか。(〇はいくつでも)

「相談支援の拡充」が37.3%と最も多く、次いで「障害福祉サービスの質の向上」が35.7%、「福祉人材の確保」が35.2%などとなっています。

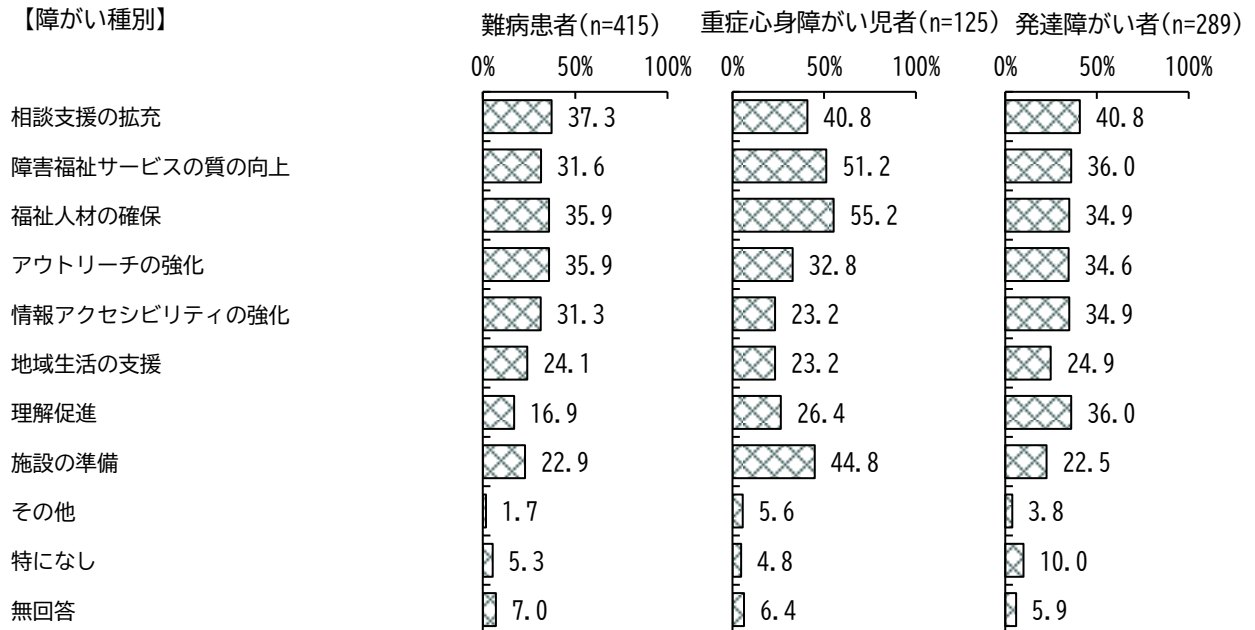


障がい種別にみると、“身体障がい者”では「相談支援の拡充」、「障害福祉サービスの質の向上」が最も多くなっています。“知的障がい者”、“重症心身障がい児者”では「福祉人材の確保」が最も多くなっています。

【障がい種別】

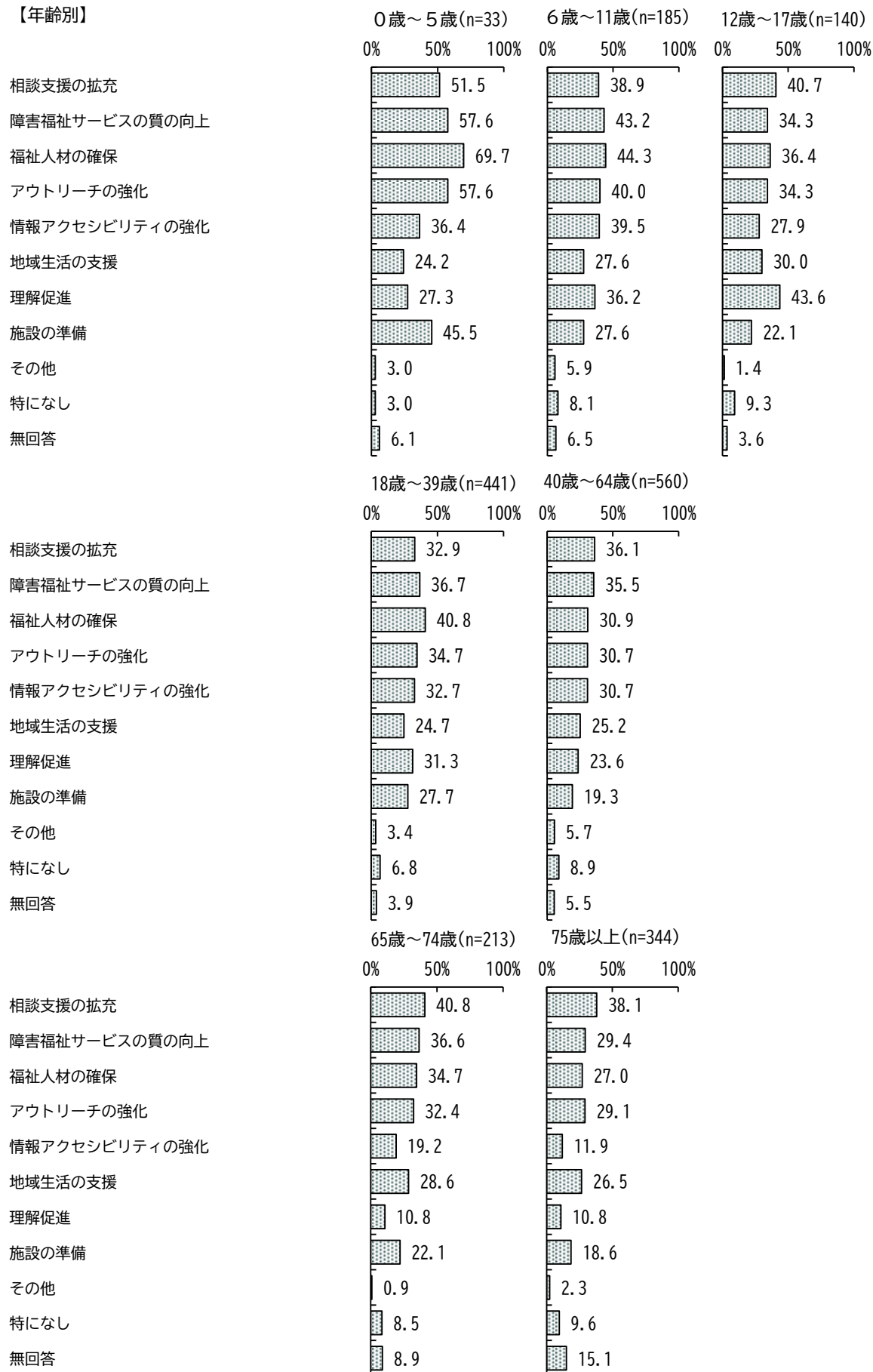


【障がい種別】



年齢別にみると、“0歳～5歳”、“6歳～11歳”、“18歳～39歳”では「福祉人材の確保」が最も多くなっています。また、“12歳～17歳”では「理解促進」が最も多くなっています。

【年齢別】



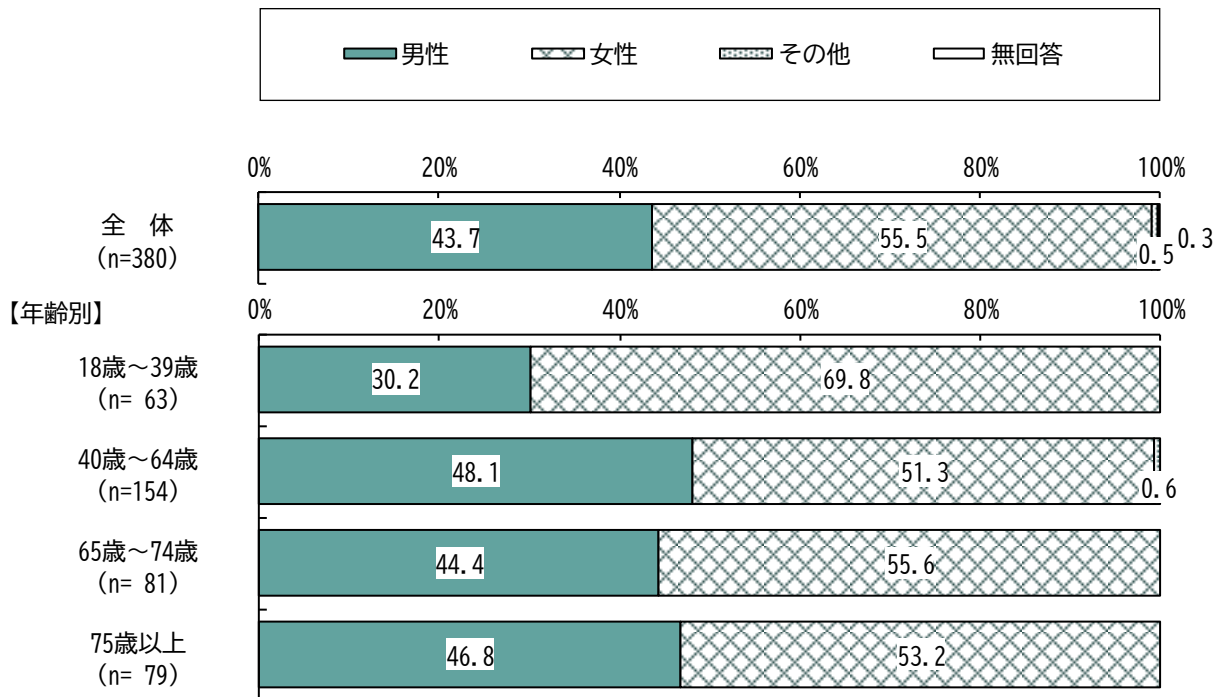
Ⅲ 市民アンケート調査の結果

1 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

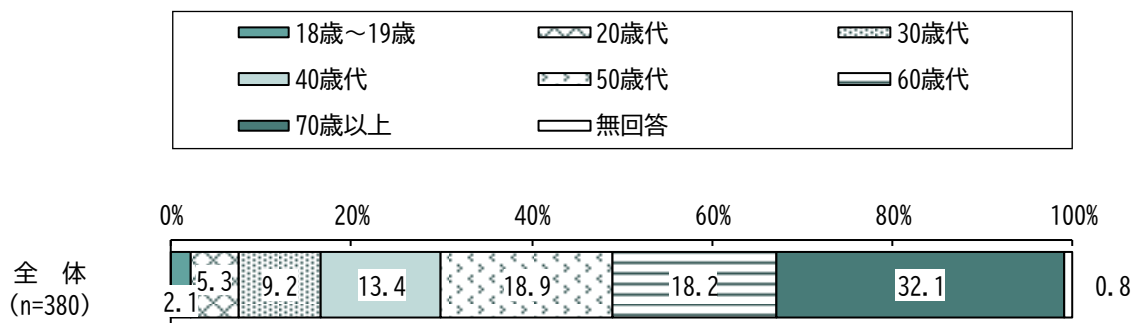
「男性」が43.7%、「女性」が55.5%、「その他」が0.5%となっています。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢（令和7年12月1日現在）をお答えください。(数字を記入)

「70歳以上」が32.1%と最も多く、次いで「50歳代」が18.9%、「60歳代」が18.2%などとなっています。

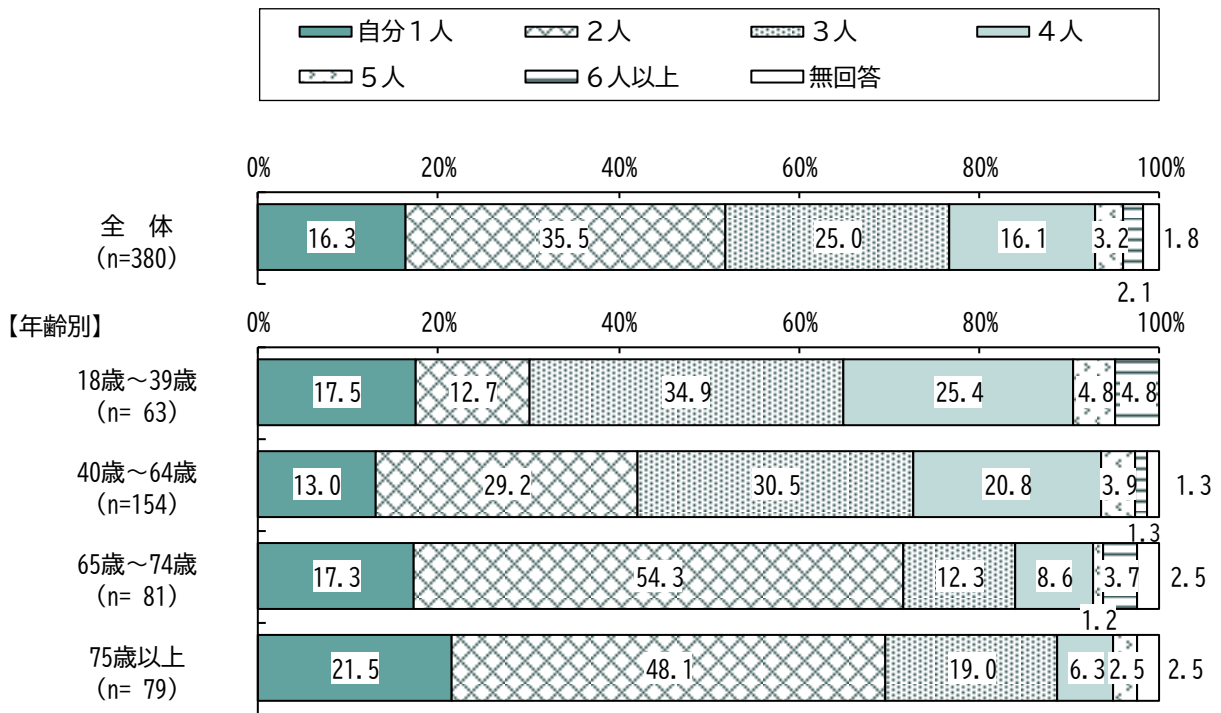


(3) 一緒に住んでいる家族の人数

問3 あなたと一緒に住んでいる家族は、あなたを含めて何人ですか。ご自分を含めた家族の人数をお答えください。(〇は1つ)

「2人」が35.5%と最も多く、次いで「3人」が25.0%、「自分1人」が16.3%などとなっています。

年齢別にみると、「18歳～39歳」、「40歳～64歳」では「3人」が最も多くなっています。

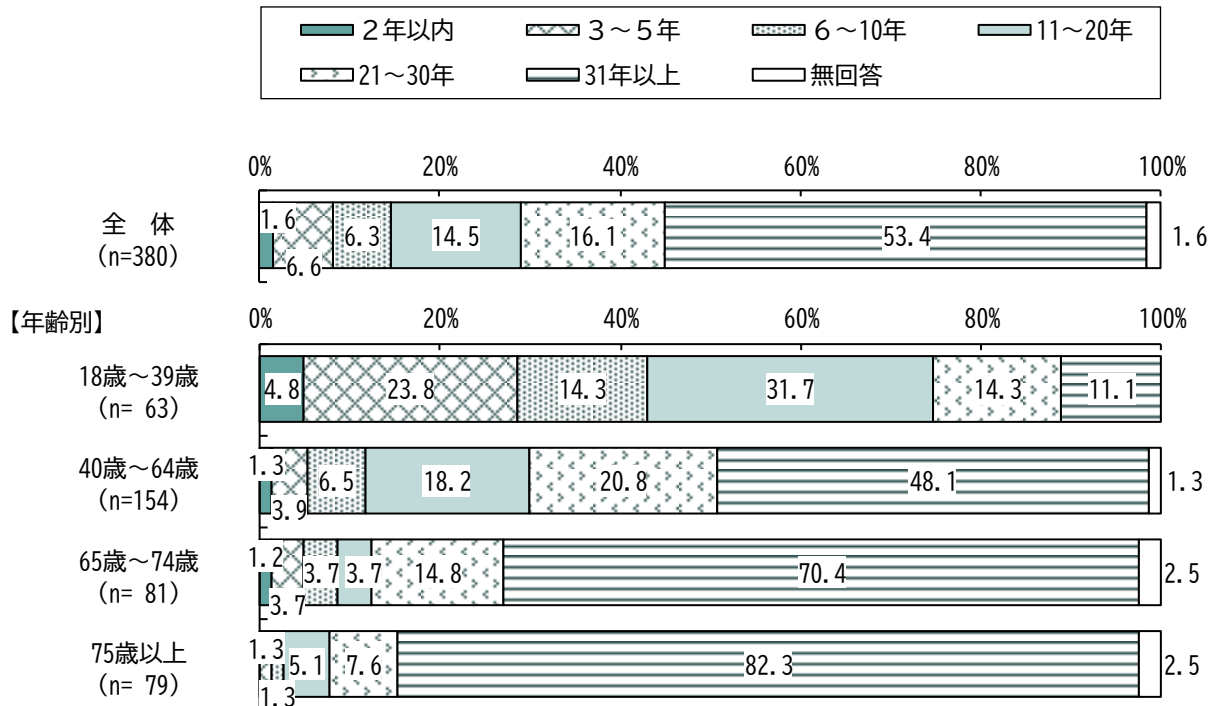


(4) 相模原市での居住年数

問4 あなたご自身、相模原市にお住まいになってから何年になりますか。(○は1つ)

「31年以上」が53.4%と最も多く、次いで「21~30年」が16.1%、「11~20年」が14.5%などとなっています。

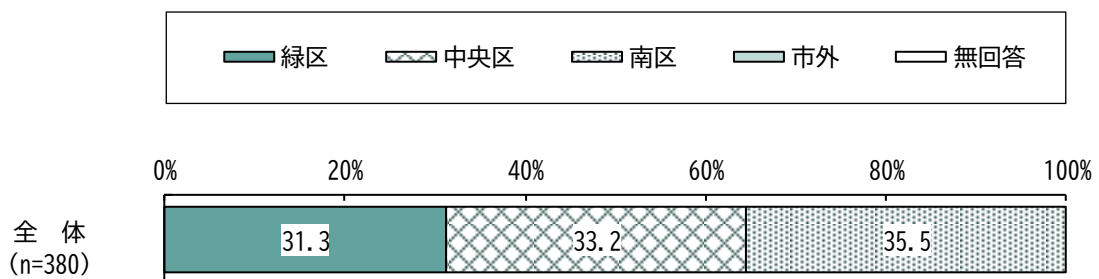
年齢別にみると、「18歳~39歳」では「11~20年」が最も多くなっています。



(5) 居住地区

問4-1 現在のお住まいの地区はどこですか。(○は1つ)

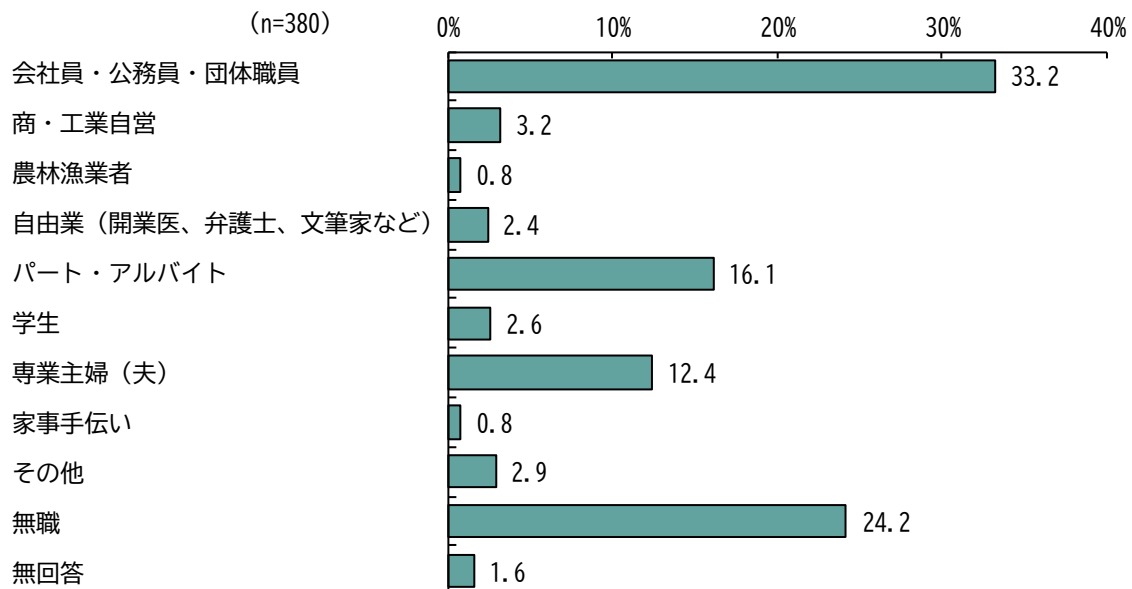
「緑区」が31.3%、「中央区」が33.2%、「南区」が35.5%、「市外」が0.0%となっています。



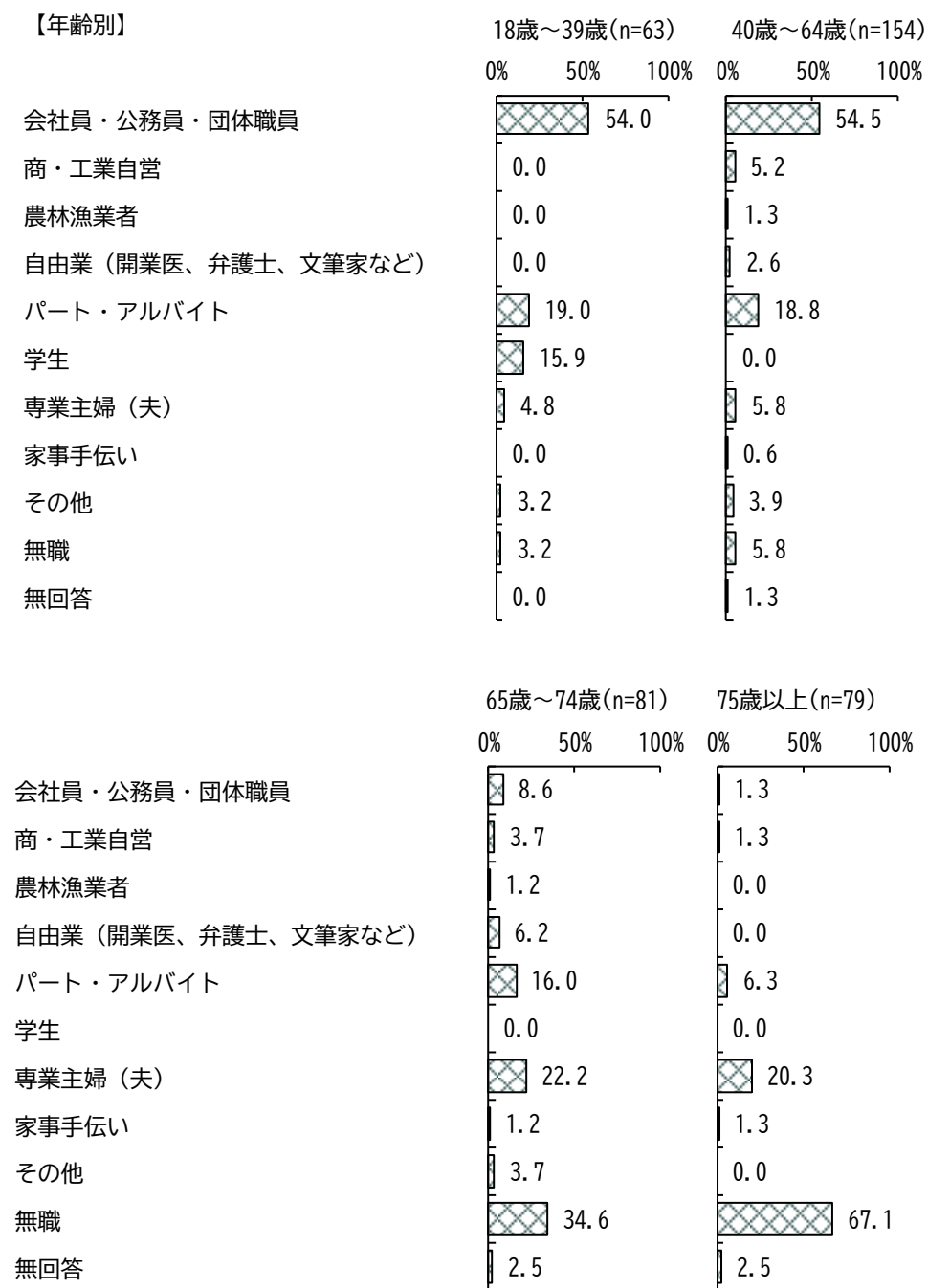
(6) 現在の仕事

問5 現在のお仕事についておうかがいします。(○は1つ)

「会社員・公務員・団体職員」が33.2%と最も多く、次いで「無職」が24.2%、「パート・アルバイト」が16.1%などとなっています。



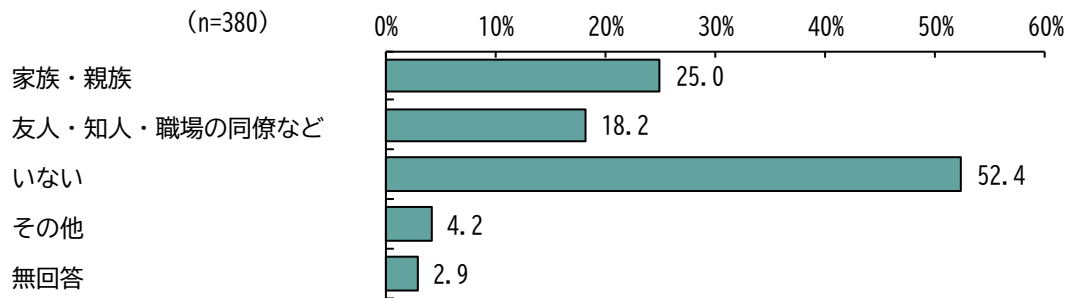
年齢別にみると、“65歳～74歳”、“75歳以上”では「無職」が最も多くなっています。



(7) 障がいのある知り合いの有無

問6 あなたは、身近に障がいのある人はいますか。または、いましたか。(〇はいくつでも)

「いない」が52.4%と最も多く、次いで「家族・親族」が25.0%、「友人・知人・職場の同僚など」が18.2%となっています。

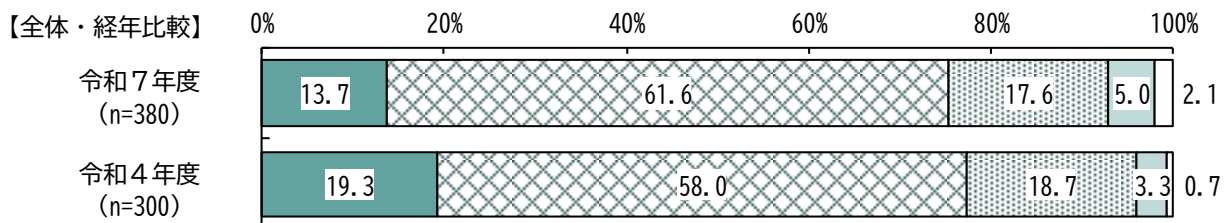
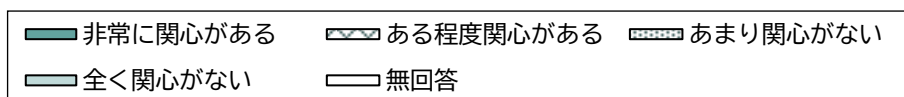


2 障がい者福祉への関心について

(1) 障がいのある人たちへの関心

問7 あなたは、障がいのある人たちに関心をお持ちですか。(〇は1つ)

「非常に関心がある」が13.7%、「ある程度関心がある」が61.6%、「あまり関心がない」が17.6%、「全く関心がない」が5.0%となっています。



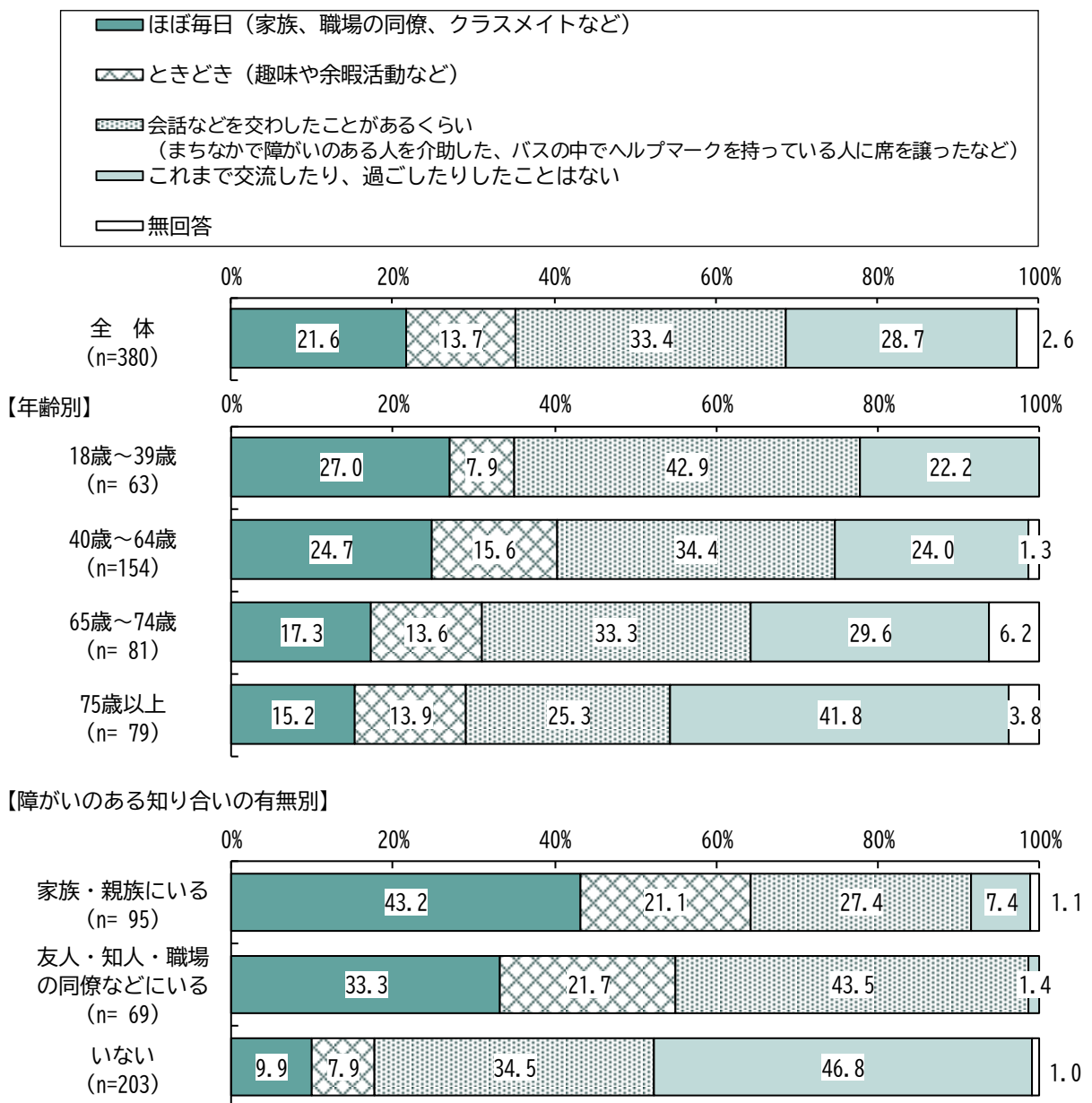
(2) 障がいのある人との交流

問8 あなたは、障がいのある人と交流したり、一緒に過ごしたりする機会がこれまでにどれくらいありましたか。(〇は1つ)

「ほぼ毎日(家族、職場の同僚、クラスメイトなど)」が21.6%、「ときどき(趣味や余暇活動など)」が13.7%、「会話などを交わしたことがあるくらい(まちなかで障がいのある人を介助した、バスの中でヘルプマークを持っている人に席を譲ったなど)」が33.4%、「これまで交流したり、過ごしたりしたことはない」が28.7%となっています。

年齢別にみると、“75歳以上”では「これまで交流したり、過ごしたりしたことはない」が最も多くなっています。

障がいのある知り合いの有無別にみると、“家族・親族にいる”では「ほぼ毎日」、「いない」では「これまで交流したり、過ごしたりしたことはない」が最も多くなっています。



3 障がいのある人に対する理解について

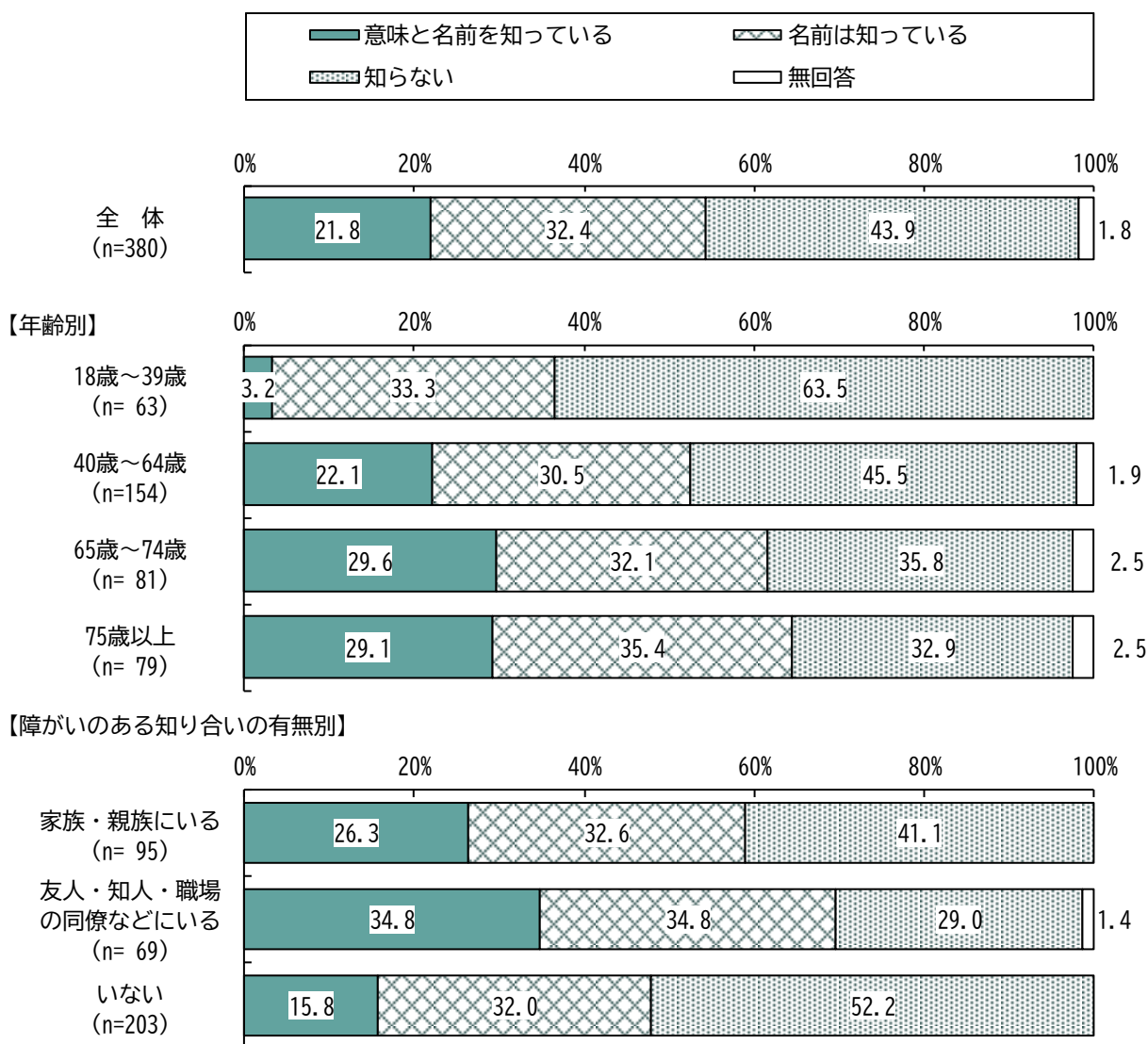
(1) 障害者虐待防止法の認知度

問9 障害者虐待防止法とは、虐待によって障がい者の権利や尊厳がおびやかされるのを防ぐ法律です。あなたは障害者虐待防止法について知っていますか。(○は1つ)

「意味と名前を知っている」が21.8%、「名前は知っている」が32.4%、「知らない」が43.9%となっています。

年齢別にみると、“75歳以上”では「名前は知っている」の割合が最も多くなっています。

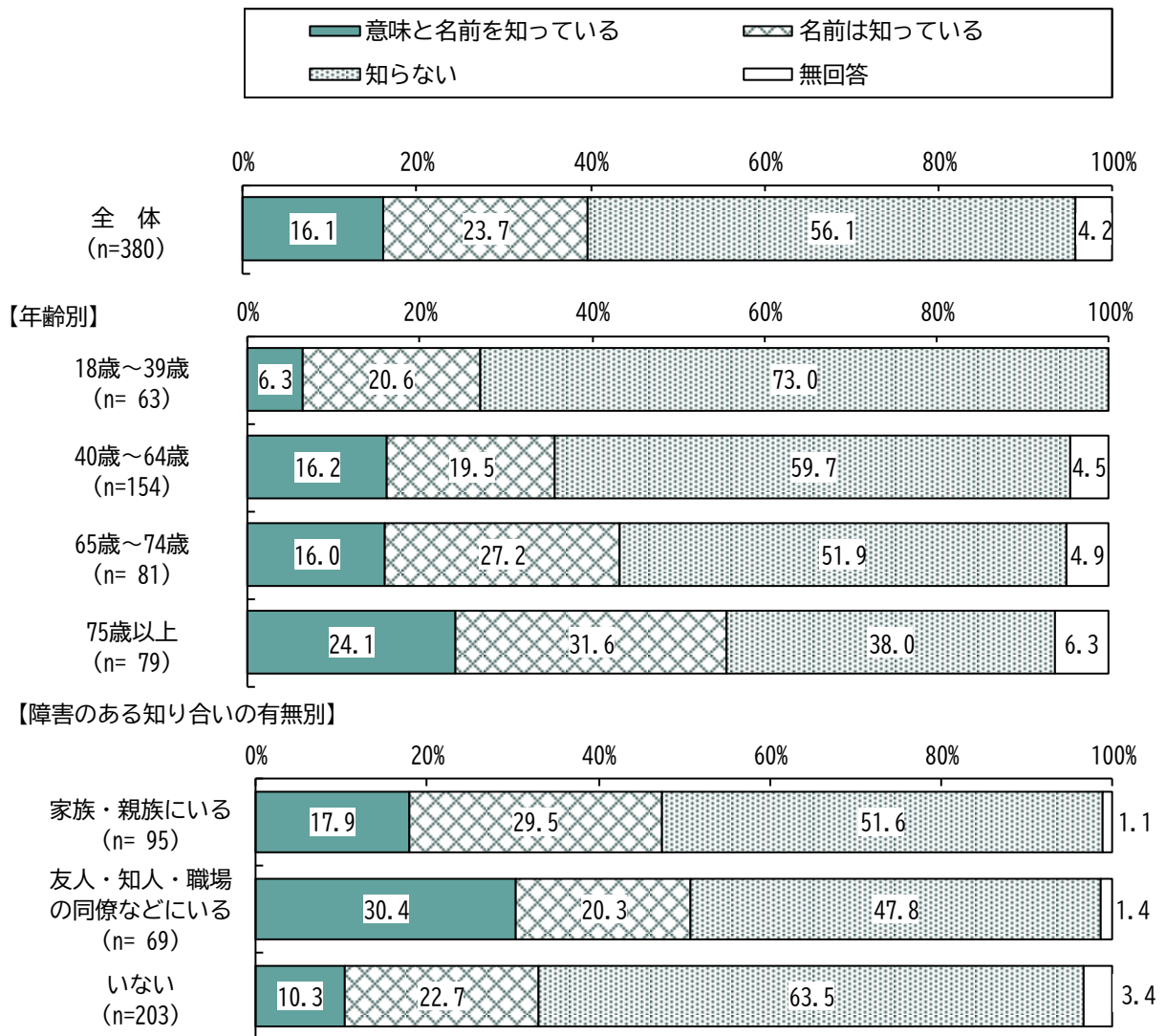
障がいのある知り合いの有無別にみると、“友人・知人・職場の同僚などにいる”では「意味と名前を知っている」の割合が最も多くなっています。



(2) 障害者差別解消法の認知度

問10 障害者差別解消法は、障がい者を理由とする差別を解消し、障がいの有無は関係なく、互いに人格と個性を尊重し、共生できる社会の実現を目指す法律です。あなたは、障害者差別解消法について知っていますか。(○は1つ)

「意味と名前を知っている」が16.1%、「名前は知っている」が23.7%、「知らない」が56.1%となっています。



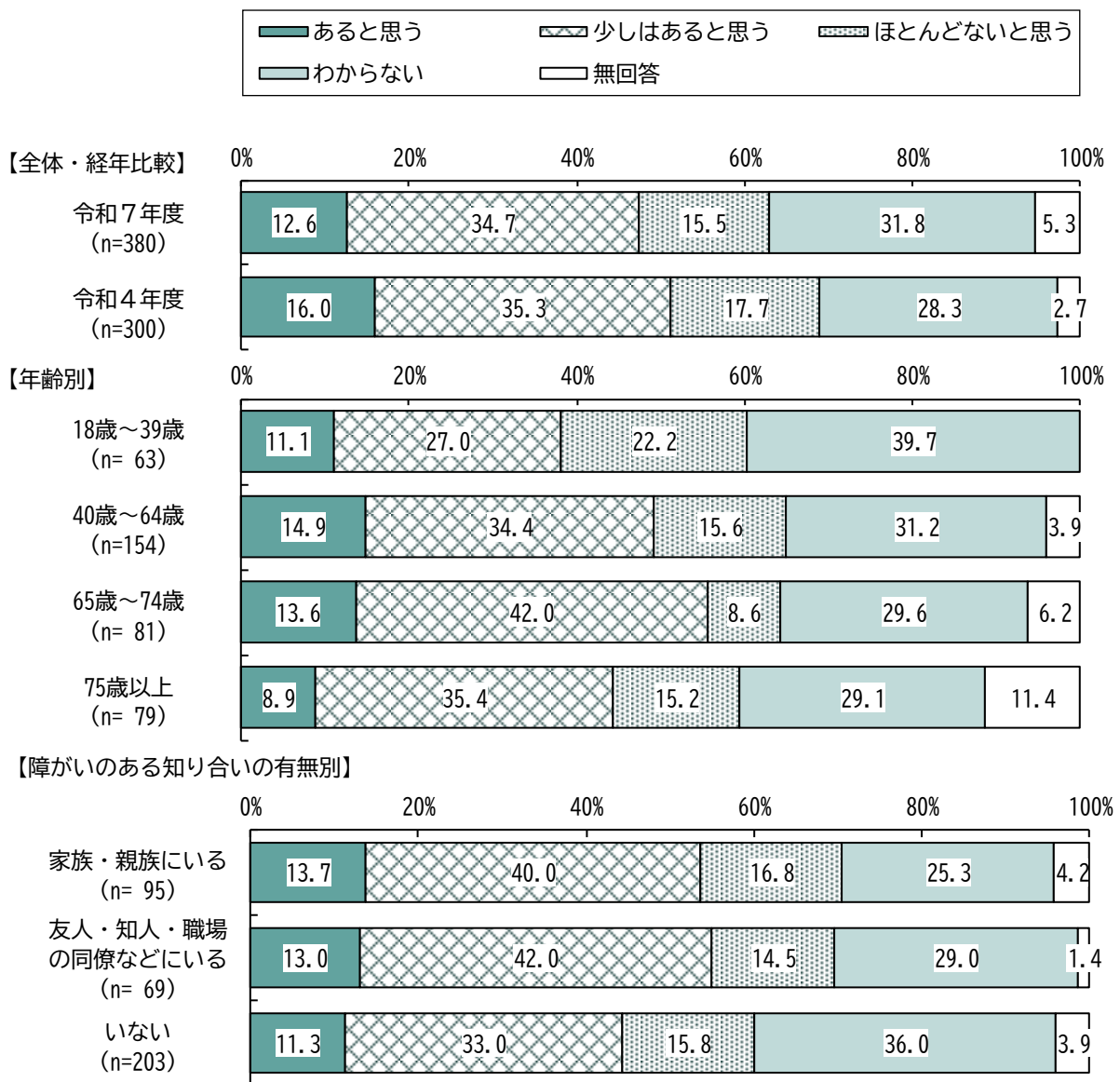
(3) 相模原市内での障がいを理由とする差別や偏見の有無

問11 あなたは、相模原市内では障がいのある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。(〇は1つ)

「あると思う」が12.6%、「少しはあると思う」が34.7%、「ほとんどないと思う」が15.5%、「わからない」が31.8%となっています。

年齢別にみると、“18歳～39歳”では「わからない」が最も多くなっています。

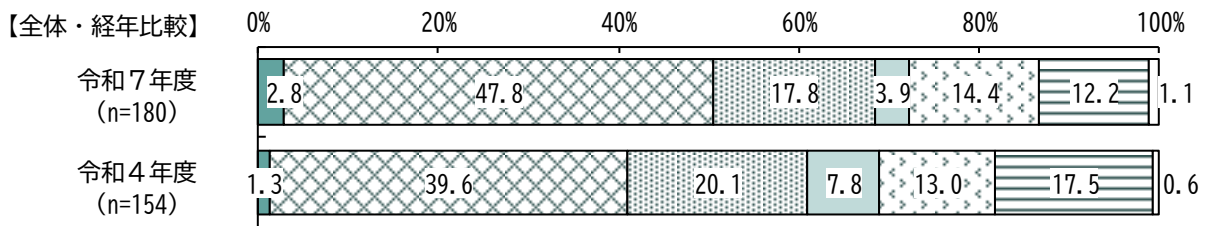
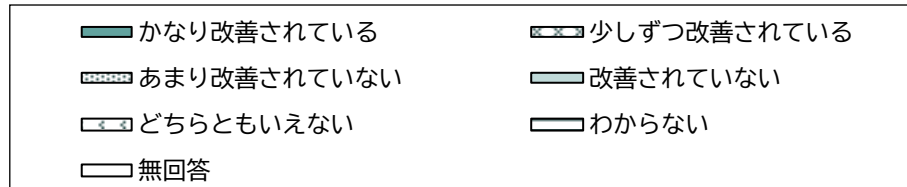
障がいのある知り合いの有無別にみると、“いない”では「わからない」が最も多くなっています。



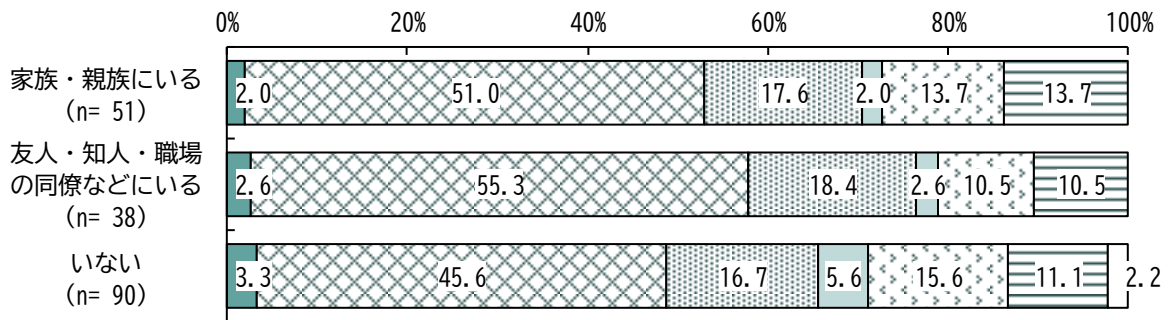
(4) 障がいのある人に対する差別や偏見の改善状況

問11-1 問11で「1 あると思う」「2 少しはあると思う」とお答えの方にお聞きします。
障がいのある人に対する差別や偏見は改善されていると思いますか。(○は1つ)

「少しずつ改善されている」が47.8%と最も多く、次いで「あまり改善されていない」が17.8%、「どちらともいえない」が14.4%などとなっています。



【障害のある知り合いの有無別】



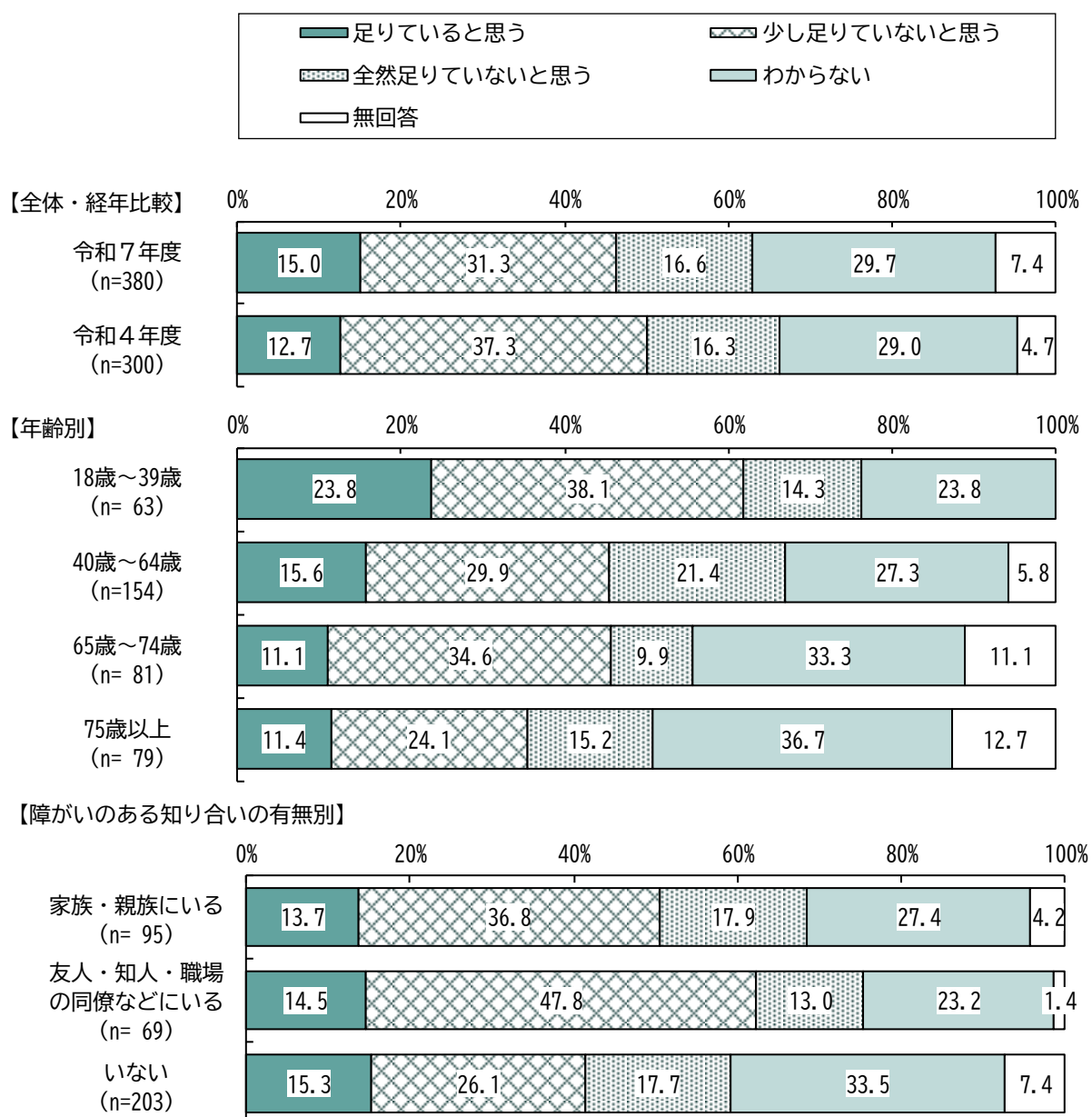
(5) 普段の生活の中での障がいのある人への対応や理解の状況

問12 あなたは、普段の生活の中で、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
(○は1つ)

「足りていると思う」が15.0%、「少し足りていないと思う」が31.3%、「全然足りていないと思う」が16.6%、「わからない」が29.7%となっています。

年齢別にみると、“75歳以上”では「わからない」が最も多くなっています。

障がいのある知り合いの有無別にみると、“いない”では「わからない」が最も多くなっています。

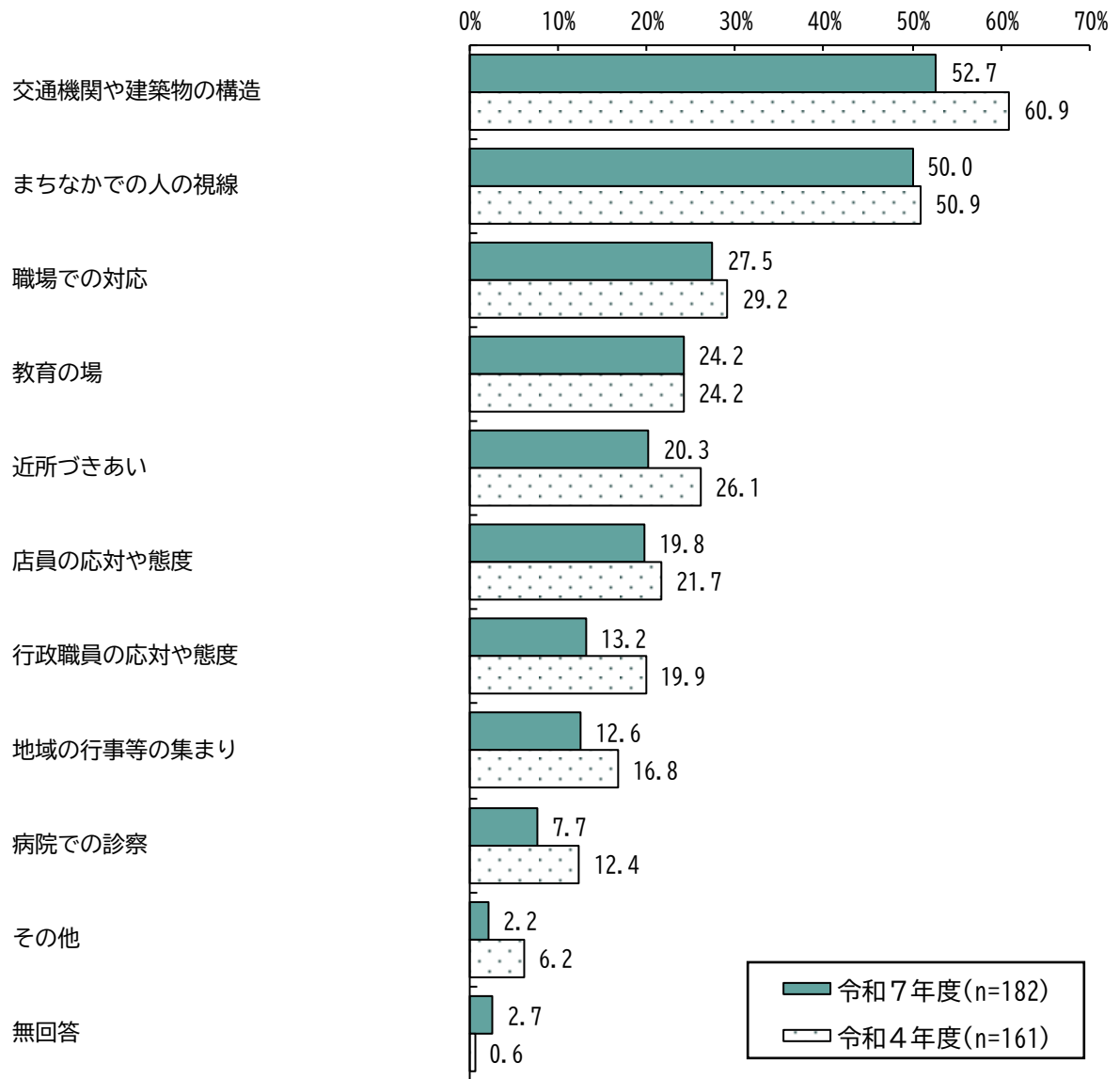


(6) 障がいのある人への対応や理解が足りていない状況

問12-1 問12で「2 少し足りていないと思う」「3 全然足りていないと思う」とお答えの方にお聞きします。
それはどんな場合ですか。(〇はいくつでも)

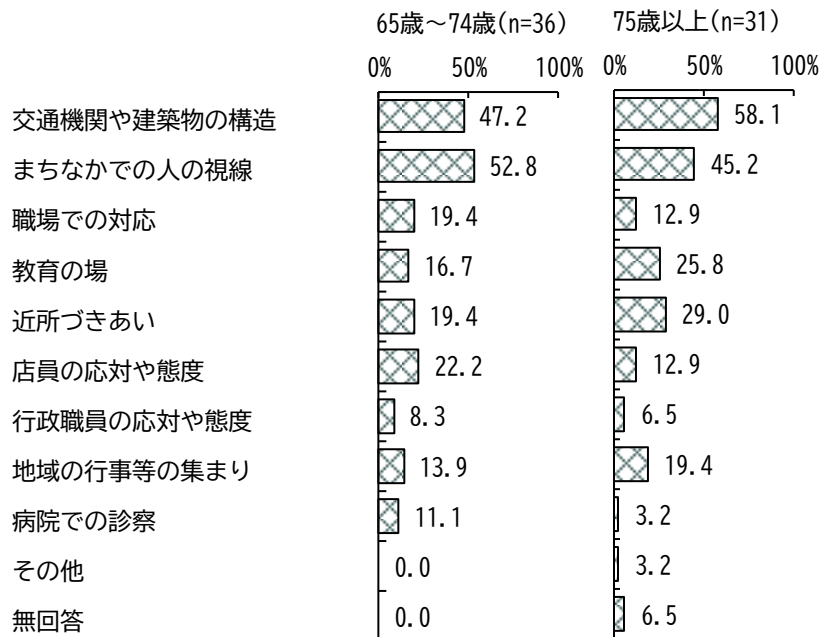
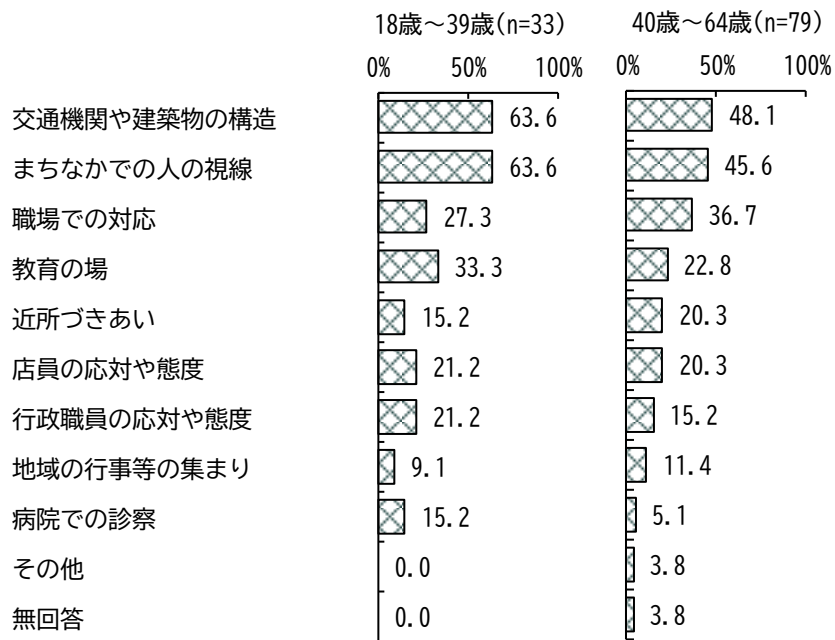
「交通機関や建築物の構造」が52.7%と最も多く、次いで「まちなかでの人の視線」が50.0%、「職場での対応」が27.5%などとなっています。

【全体・経年比較】

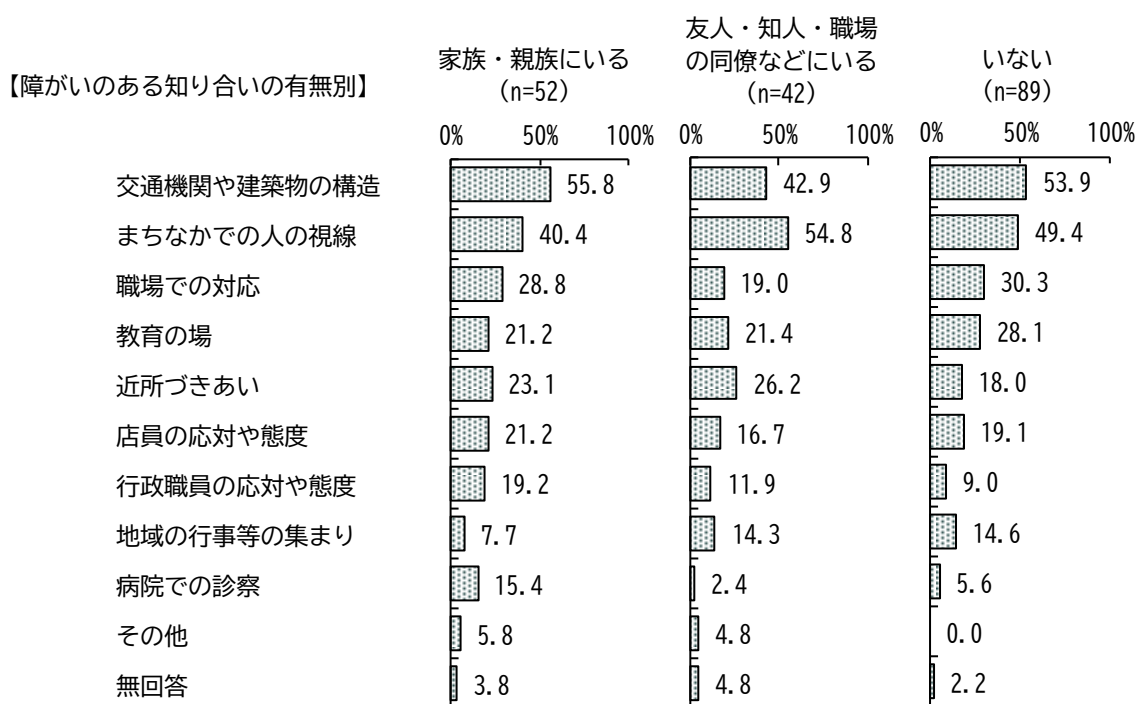


年齢別にみると、“18歳～39歳”では「交通機関や建築物の構造」、「まちなかでの人の視線」、「65歳～74歳”では「まちなかでの人の視線」が最も多くなっています。

【年齢別】



障がいのある知り合いの有無別にみると、“友人・知人・職場の同僚などにいる”では「まちなかでの人の視線」が最も多くなっています。

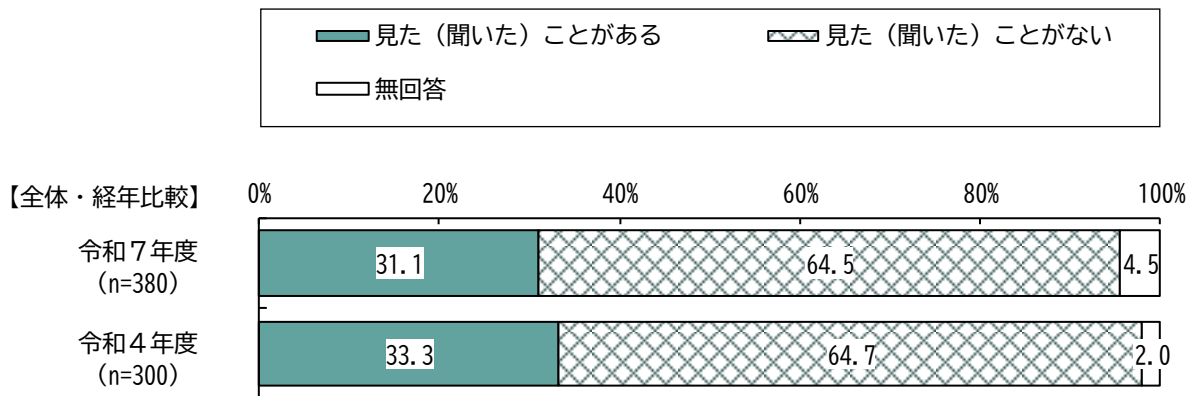


(7)「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズやデザインの認知度

問13 相模原市では、障がいの有無にかかわらずあらゆる人の尊厳が守られ、安全で安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、「共にささえあい 生きる社会」のキャッチフレーズのもと、様々な事業を行っています。あなたは、このキャッチフレーズを聞いたり、次のデザインを見たりしたことがありますか。(○は1つ)



「見た（聞いた）ことがある」が31.1%、「見た（聞いた）ことがない」が64.5%となっています。



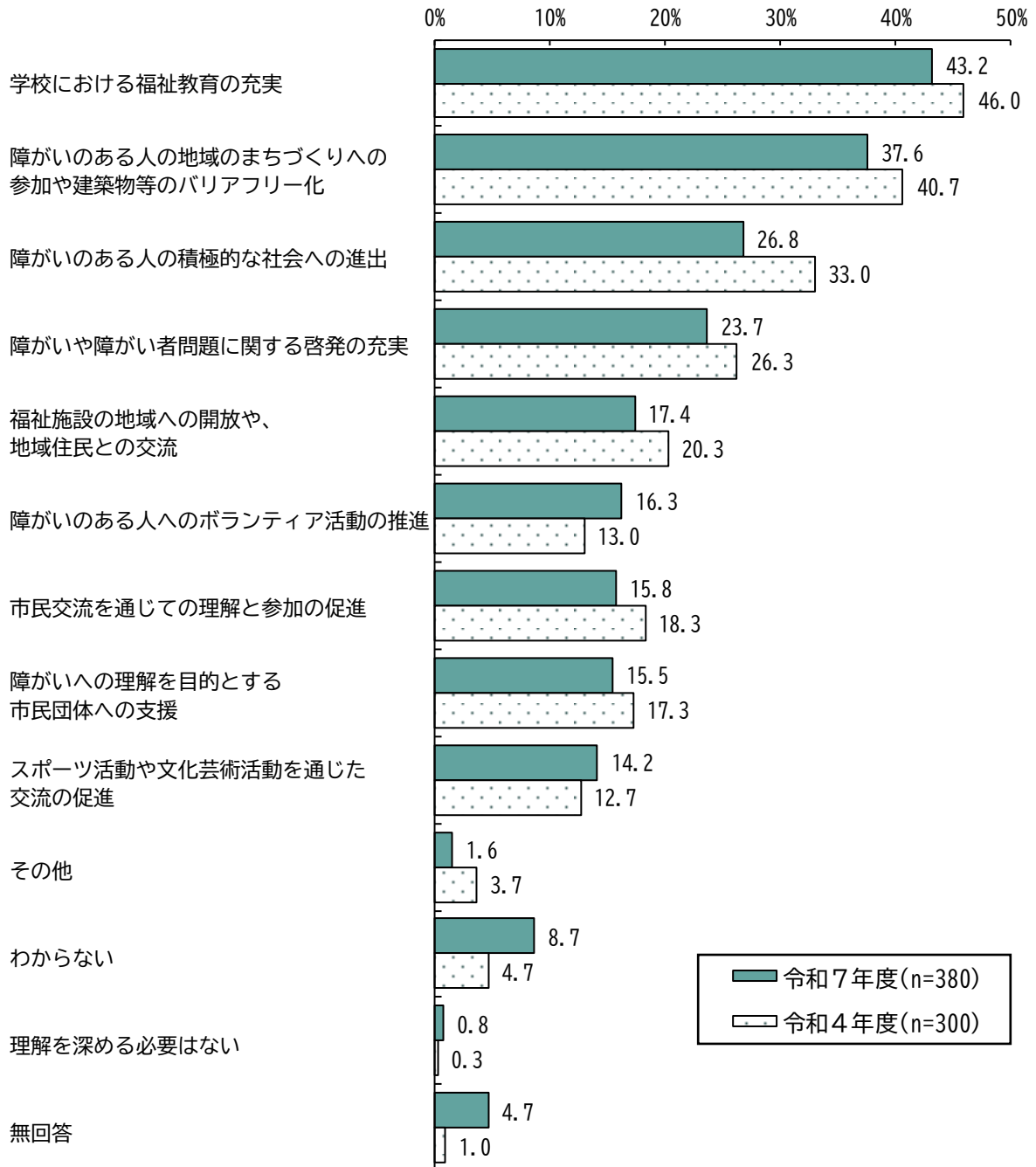
(8) 障がいのある人への市民の理解を深めるために必要なこと

問14 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が重要だと思いますか。

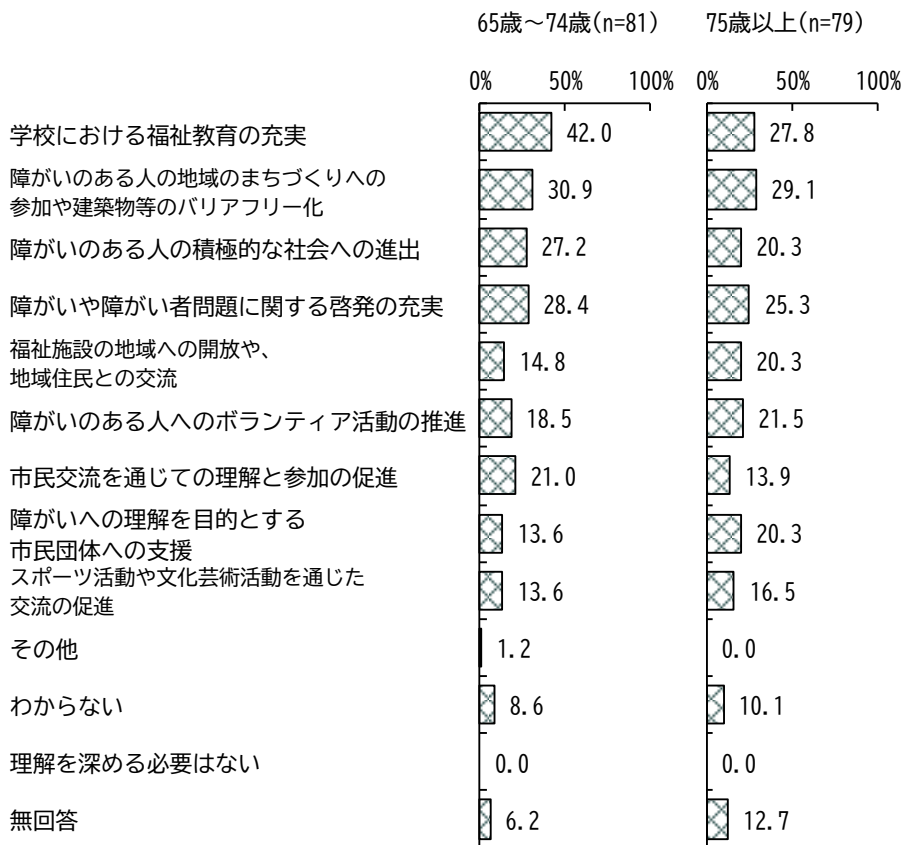
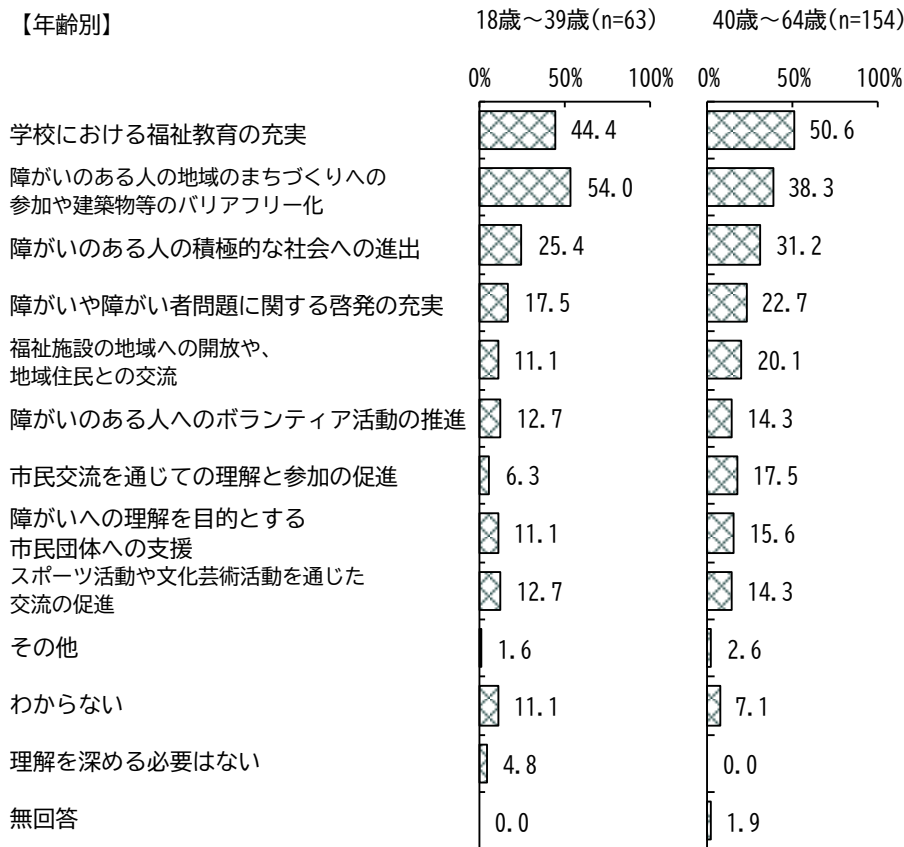
(○は3つまで)

「学校における福祉教育の充実」が43.2%と最も多く、次いで「障がいのある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」が37.6%、「障がいのある人の積極的な社会への進出」が26.8%などとなっています。

【全体・経年比較】



年齢別にみると、“18歳～39歳”、“75歳以上”では「障がいのある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」が最も多くなっています。



4 障がいのある人への支援・ボランティアなどについて

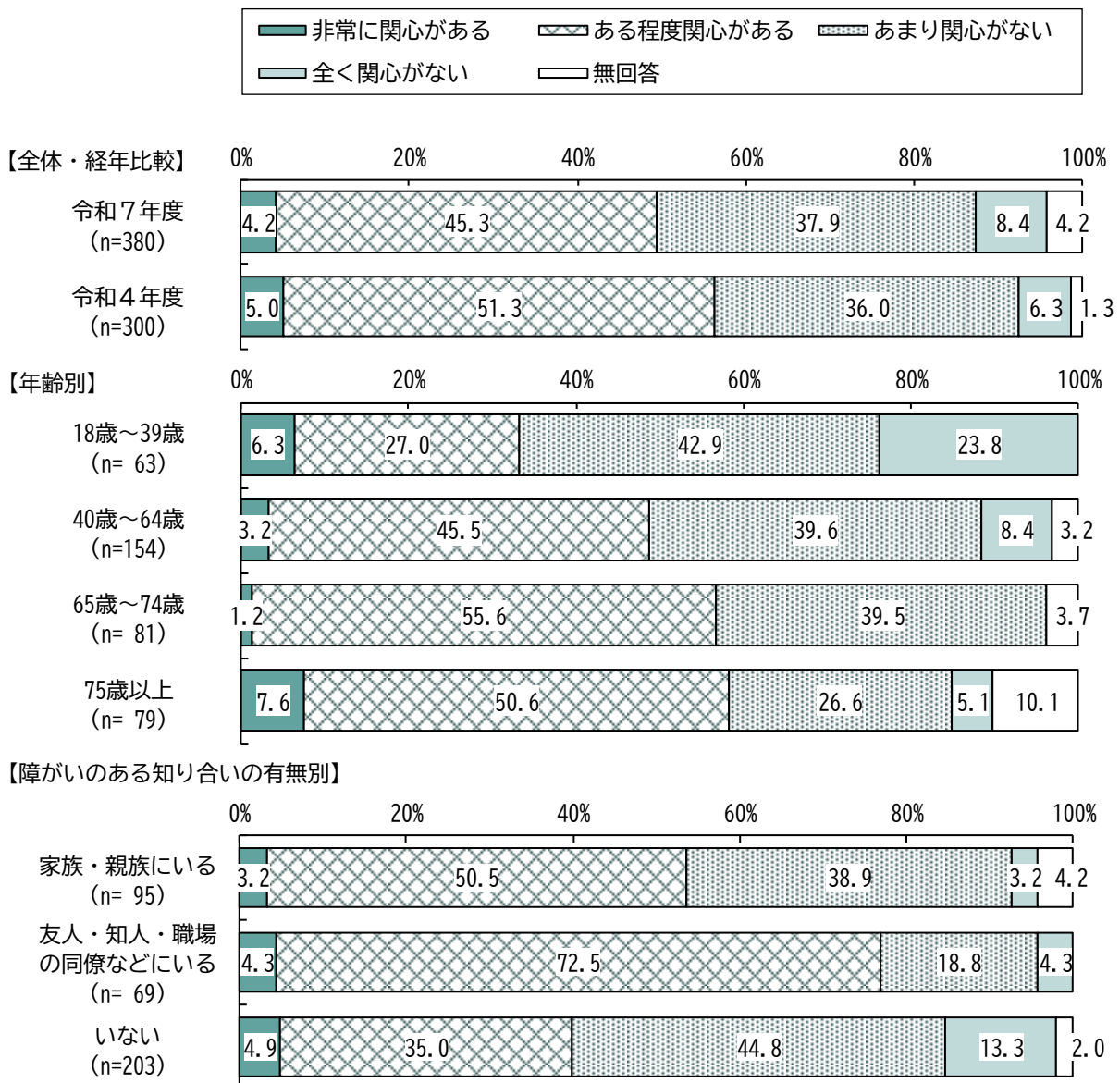
(1) 福祉に関するボランティア活動への関心の有無

問15 あなたは、障がいのある人に対するボランティア活動に関心がありますか。(○は1つ)

「非常に関心がある」が4.2%、「ある程度関心がある」が45.3%、「あまり関心がない」が37.9%、「全く関心がない」が8.4%となっています。

年齢別にみると、“18歳～39歳”では「あまり関心がない」が最も多くなっています。

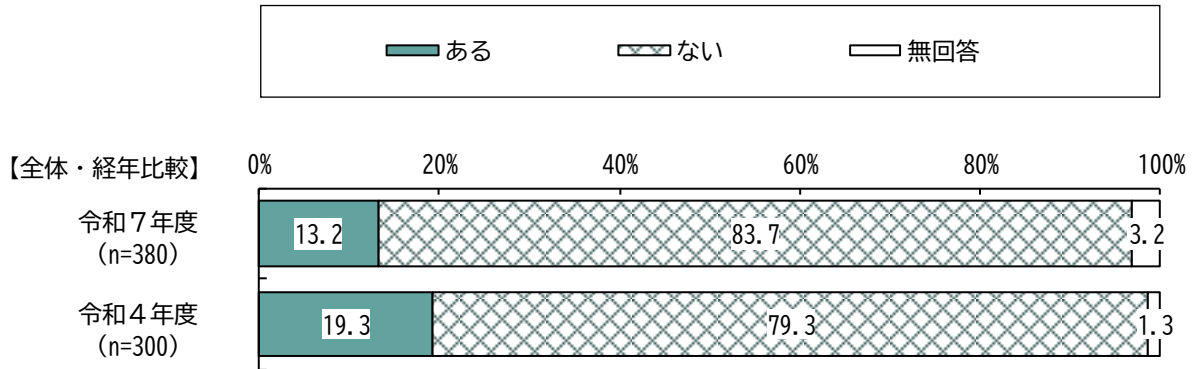
障がいのある知り合いの有無別にみると、“いない”では「あまり関心がない」が最も多くなっています。



(2) 福祉に関するボランティア活動経験の有無

問16 あなたは、障がいのある人に対するボランティア活動をしたことがありますか。(○は1つ)

「ある」が13.2%、「ない」が83.7%となっています。



(3) 福祉に関するボランティア活動の内容

問16-1 問16で「1 ある」とお答えの方にお聞きします。

それは、どのような活動ですか。(○はいくつでも)

「施設での手伝い」が48.0%と最も多く、次いで「バザー・イベントなどの手伝い」が32.0%、「生活面での援助」が20.0%などとなっています。



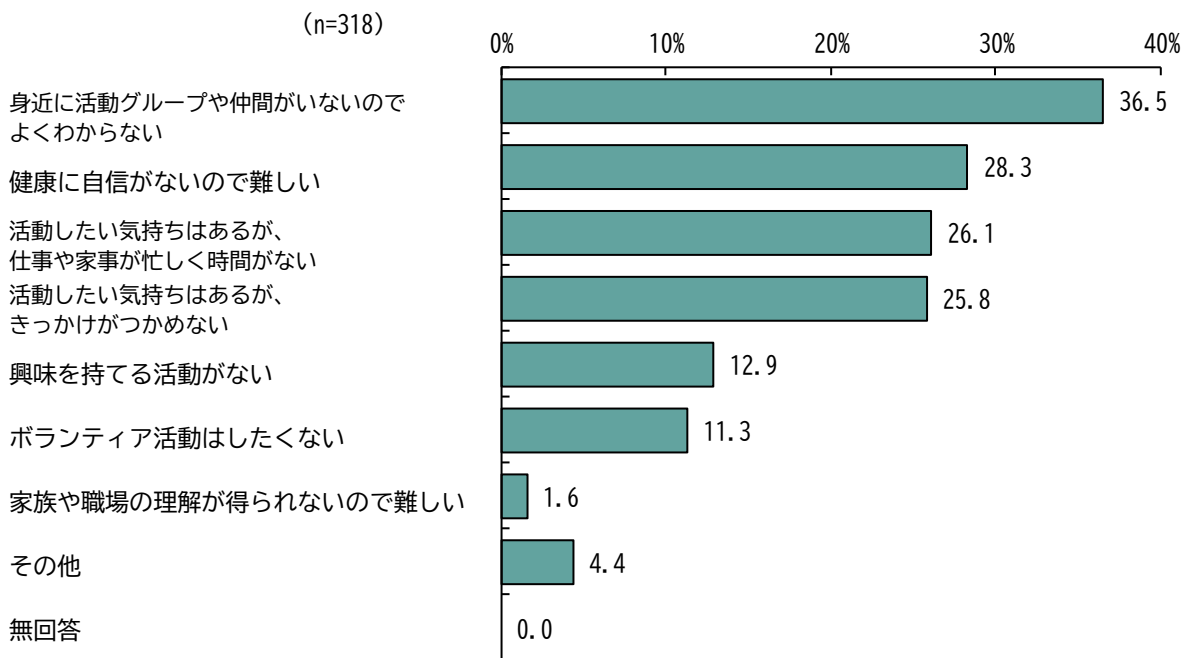
(4) 福祉に関するボランティア活動についての考え

問16-2 問16で「2 ない」とお答えの方にお聞きします。

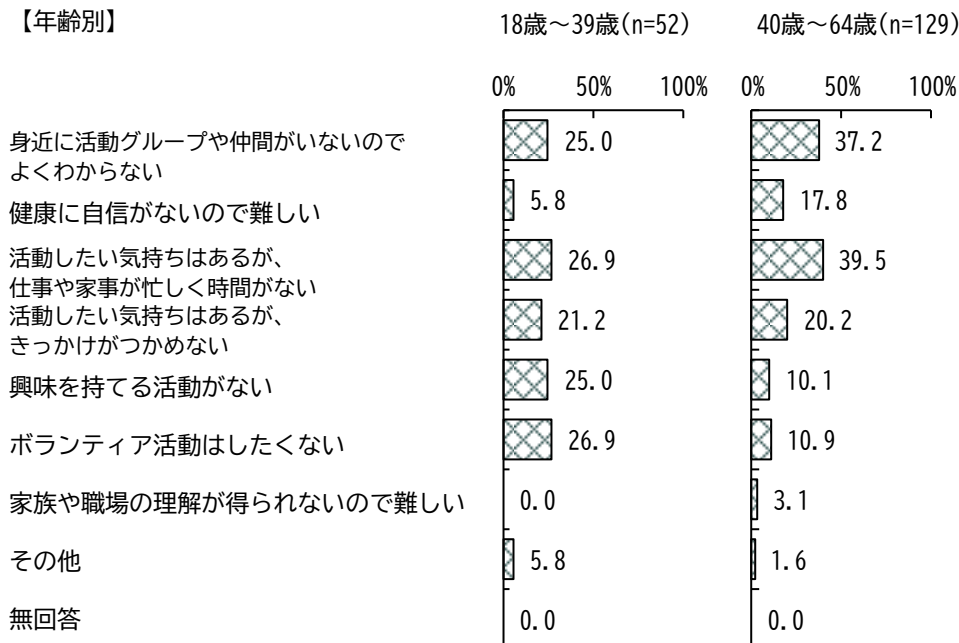
ボランティア活動について、どのようにお考えですか。(〇はいくつでも)

「身近に活動グループや仲間がないのでよくわからない」が36.5%と最も多く、次いで「健康に自信がないので難しい」が28.3%、「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事が忙しく時間がない」が26.1%などとなっています。

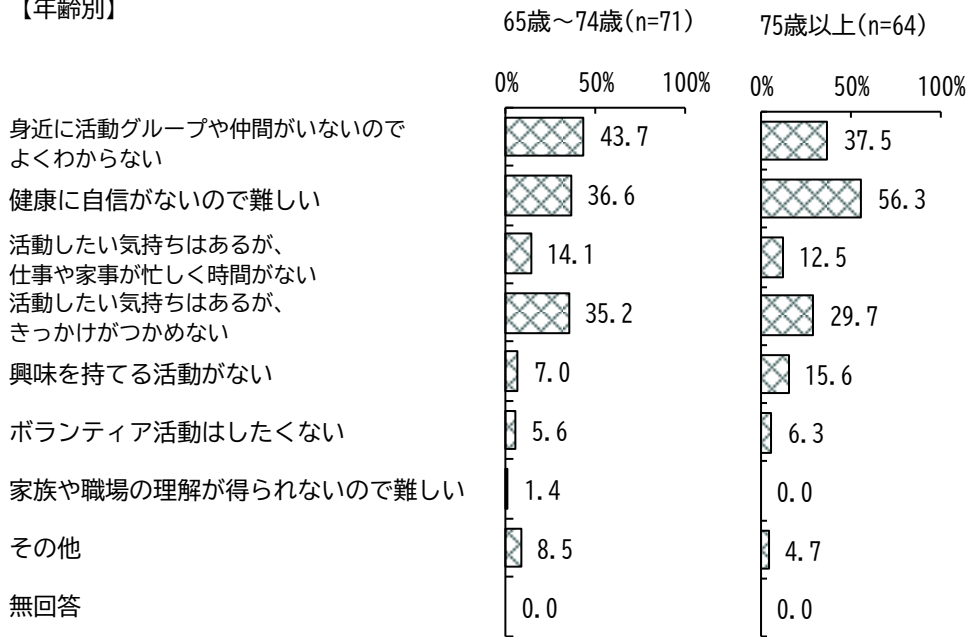
年齢別にみると、“18歳～39歳”では「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事が忙しく時間がない」、「ボランティア活動はしたくない」、「40歳～64歳”では「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事が忙しく時間がない」、「75歳以上”では「健康に自信がないので難しい」が最も多くなっています。



【年齢別】

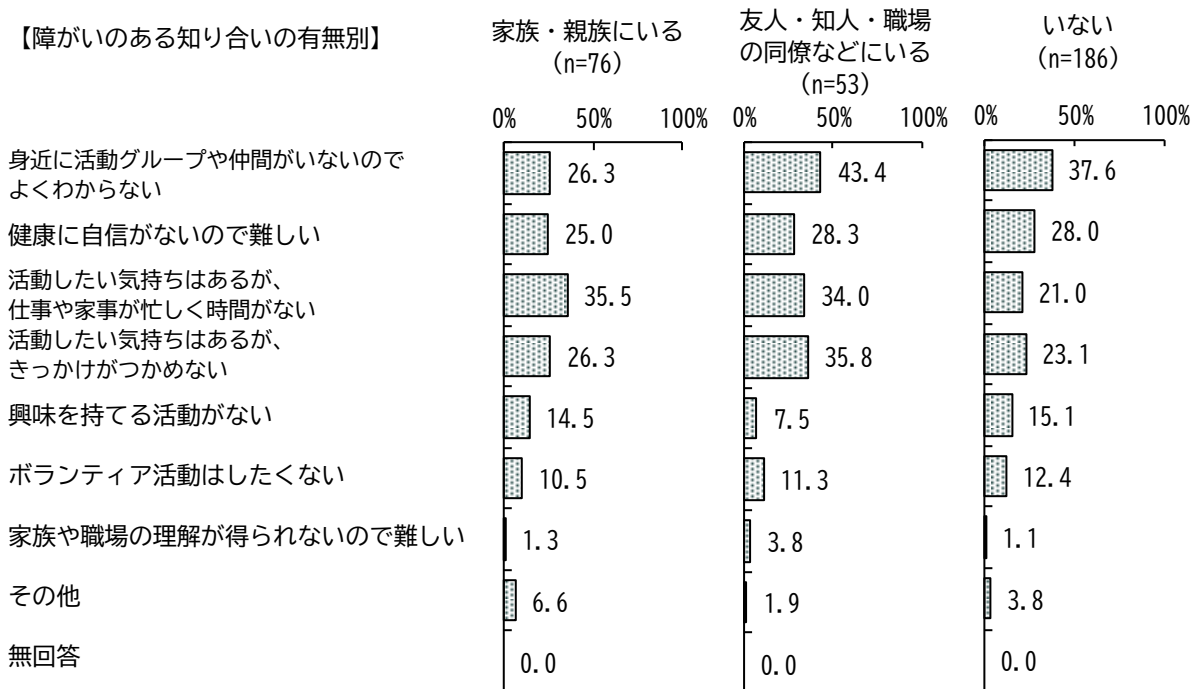


【年齢別】



障がいのある知り合いの有無別にみると、“家族・親族にいる”では「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事が忙しく時間がない」が最も多くなっています。

【障がいのある知り合いの有無別】

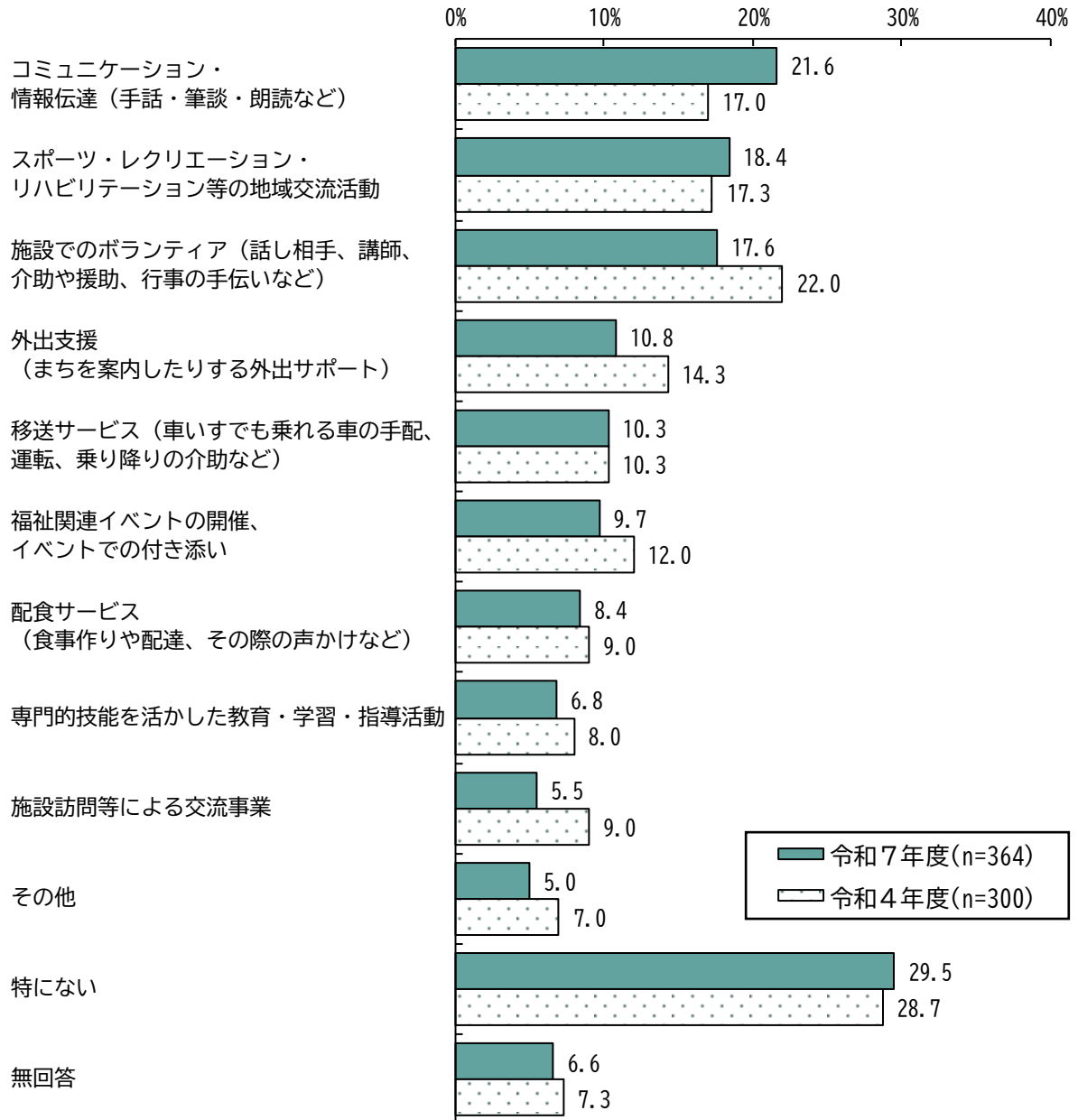


(5) 障がいのある人にしてみたい支援や活動

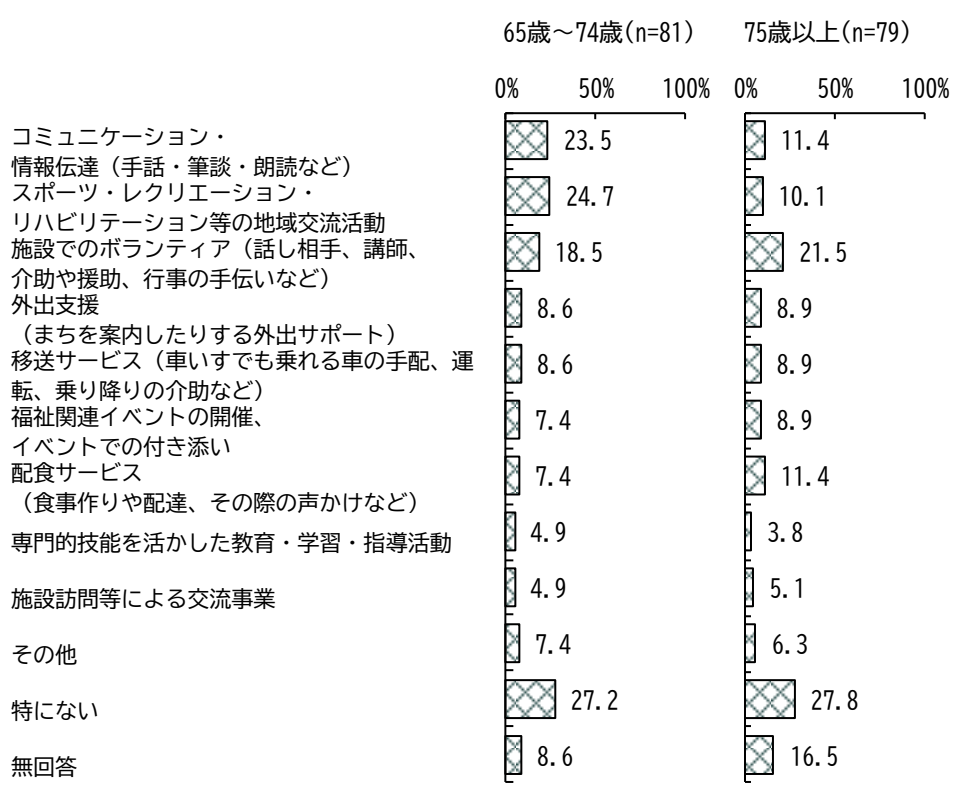
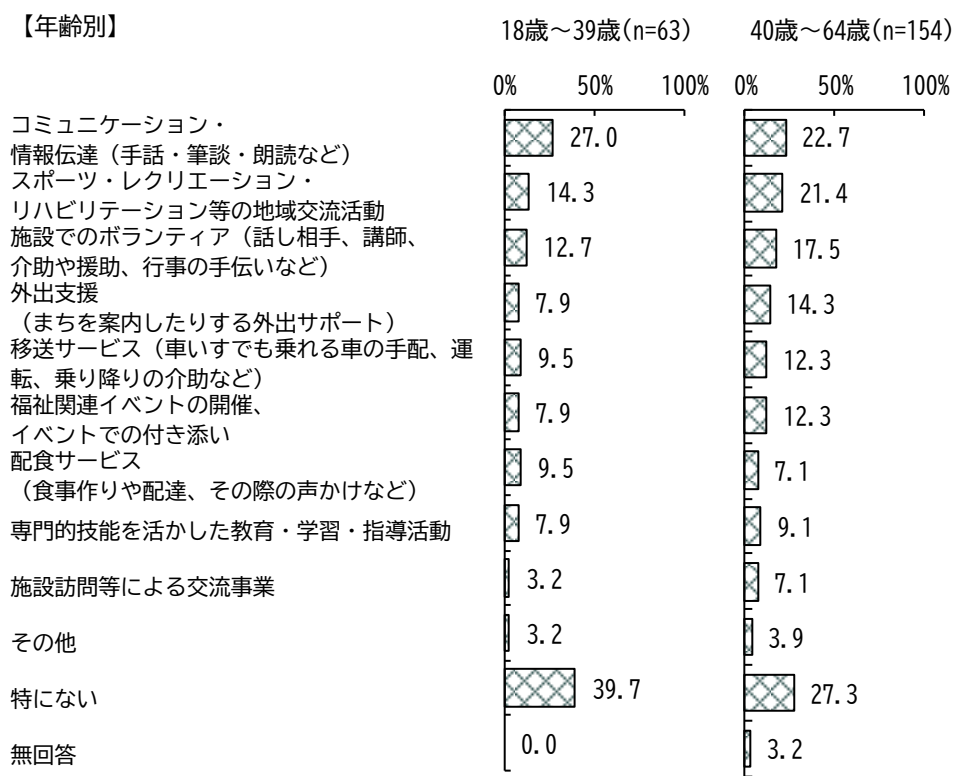
問17 あなたは、障がいのある人にどんな支援や活動をしてみたいですか。(〇は3つまで)

「特にない」を除き、「コミュニケーション・情報伝達（手話・筆談・朗読など）」が21.6%と最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動」が18.4%、「施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝いなど）」が17.6%などとなっています。

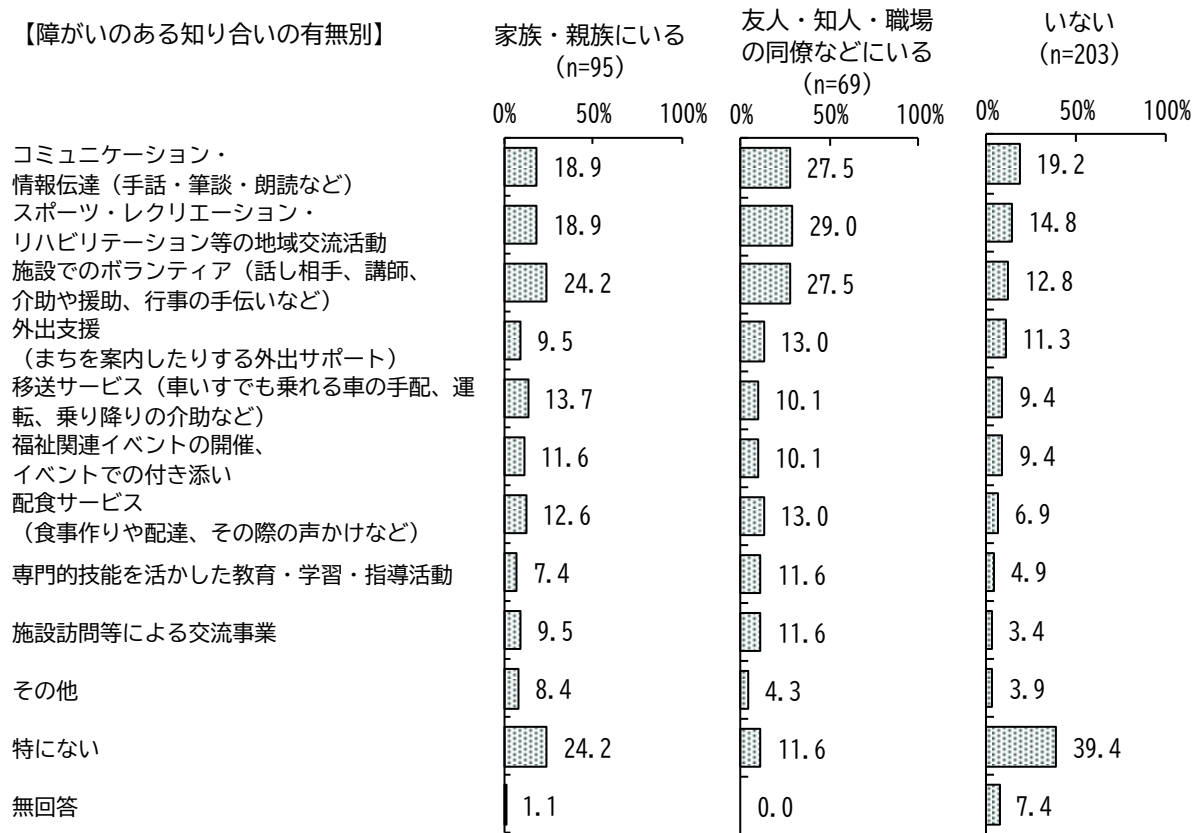
【全体・経年比較】



年齢別にみると、「特にない」を除き、“65歳～74歳”では「スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動」、「75歳以上」では「施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝いなど）」が最も多くなっています。



障がいのある知り合いの有無別にみると、「特にない」を除き、“家族・親族にいる”では「施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝いなど）」、“友人・知人・職場の同僚などにいる”では「スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動」が最も多くなっています。

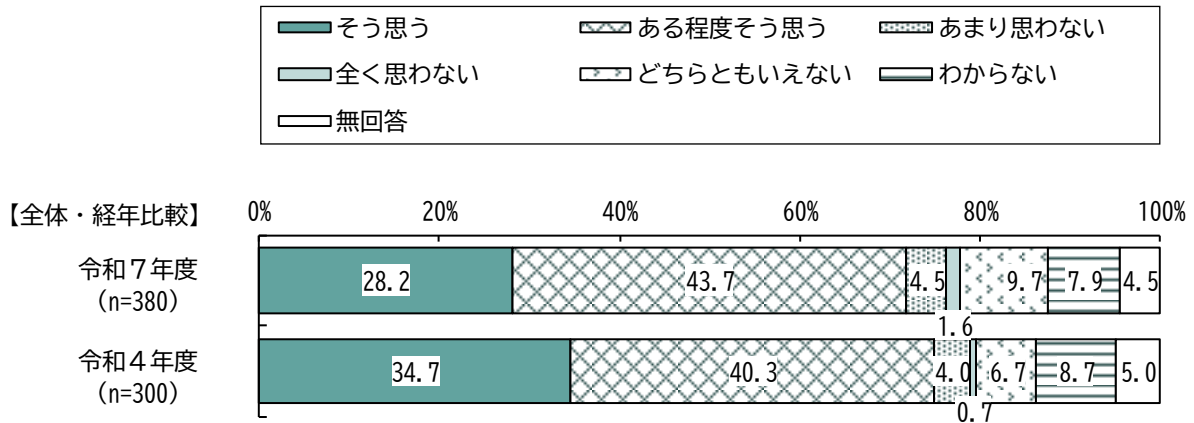


5 障がいのある人の就労・教育などについて

(1) 障がいのある人の雇用を進めることについての考え

問18 あなたは、障がいのある人が職場の同僚などとして、より雇用が進む必要があると思いますか。
(○は1つ)

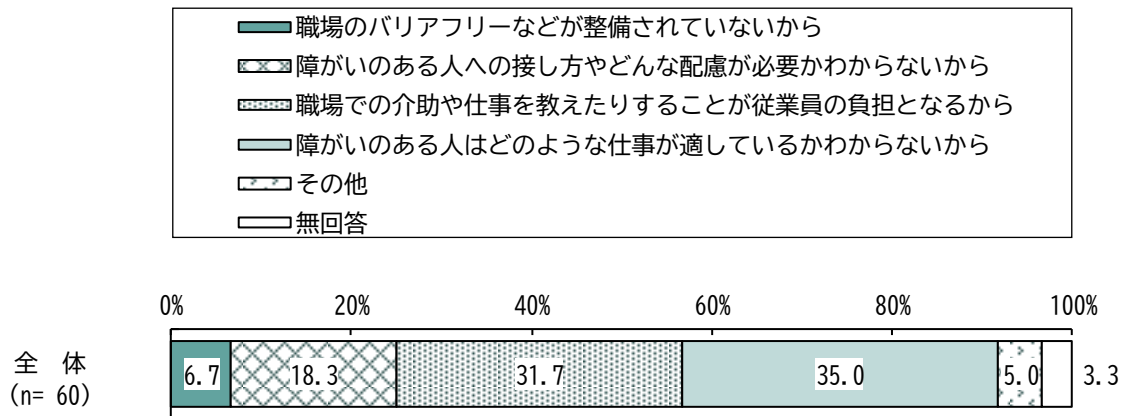
「ある程度そう思う」が43.7%と最も多く、次いで「そう思う」が28.2%、「どちらともいえない」が9.7%などとなっています。



(2) 障がいのある人の雇用を進める必要がないと思う理由

問18-1 問18で「3 あまり思わない」「4 全く思わない」「5 どちらともいえない」とお答えの方にお聞きします。
なぜそう思いますか。(○は1つ)

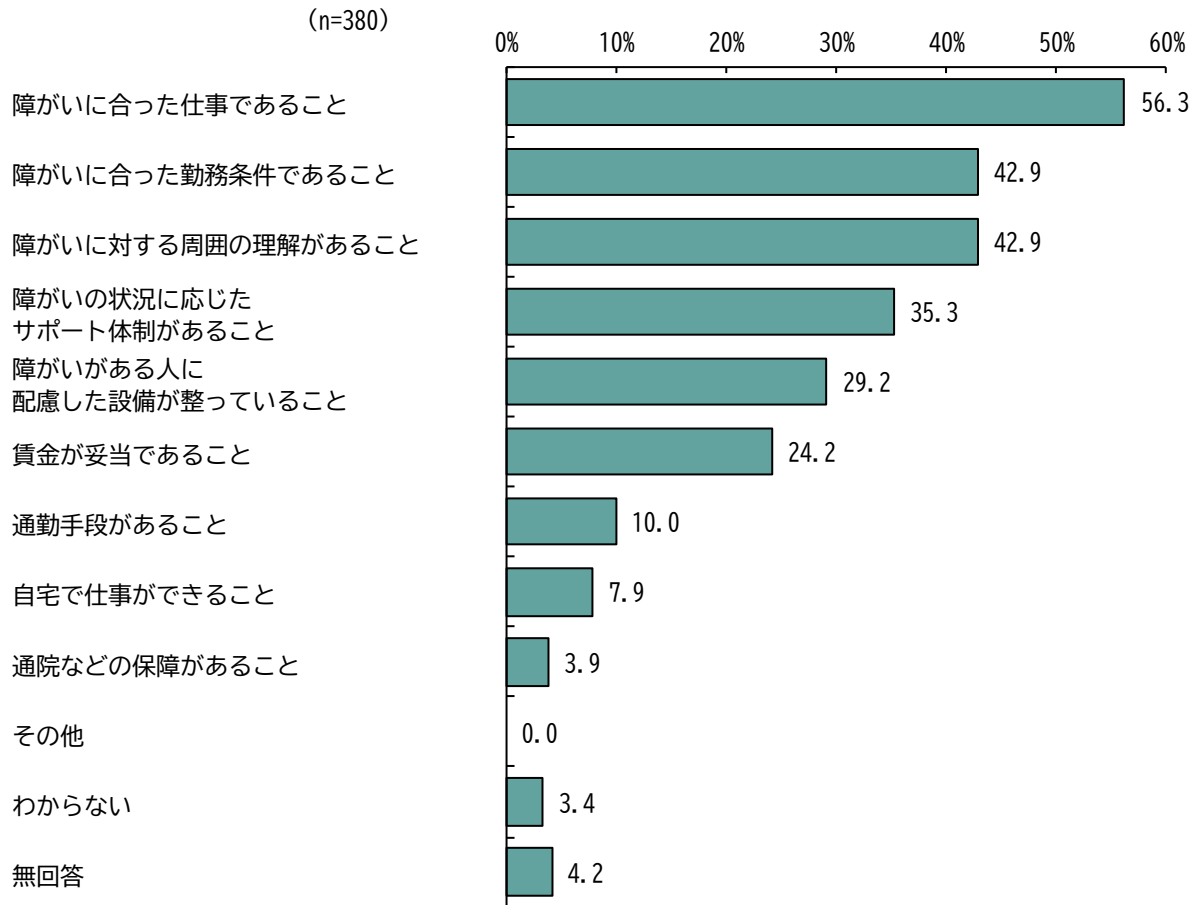
「障がいのある人はどのような仕事が適しているかわからないから」が35.0%と最も多く、次いで「職場での介助や仕事を教えたりすることが従業員の負担となるから」が31.7%、「障がいのある人への接し方やどんな配慮が必要かわからないから」が18.3%などとなっています。



(3) 障がいのある人が働くために必要だと思う条件

問19 現在、障がいのある人への就労支援施策が推進されています。あなたは、障がいのある人が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

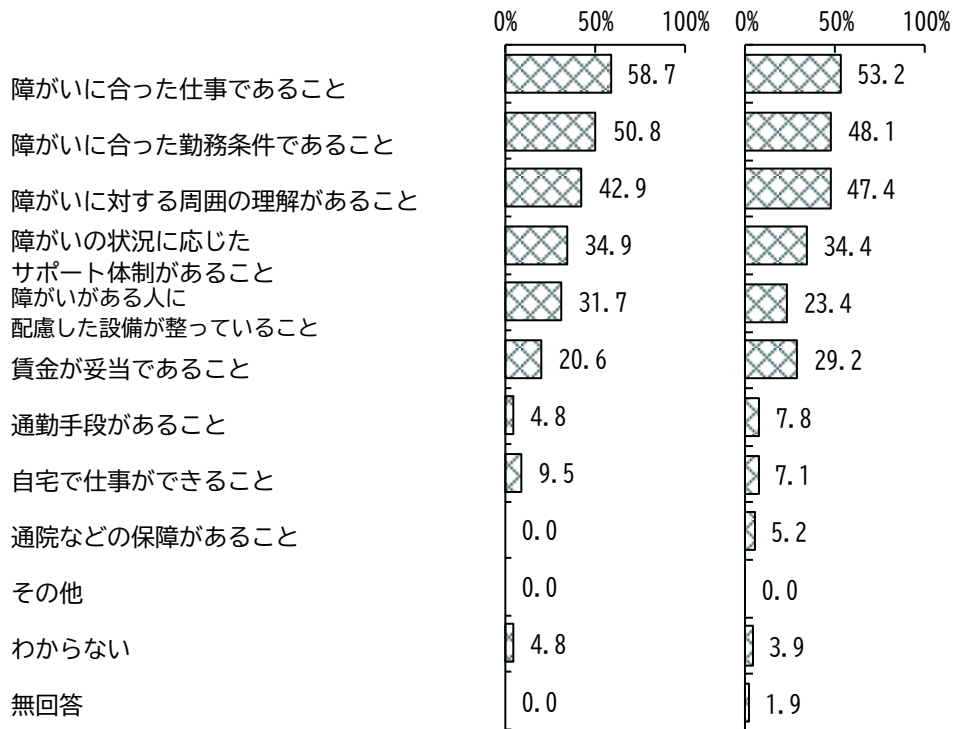
「障がいに合った仕事であること」が56.3%と最も多く、次いで「障がいに合った勤務条件であること」、「障がいに対する周囲の理解があること」が42.9%、「障がいの状況に応じたサポート体制があること」が35.3%などとなっています。



【年齢別】

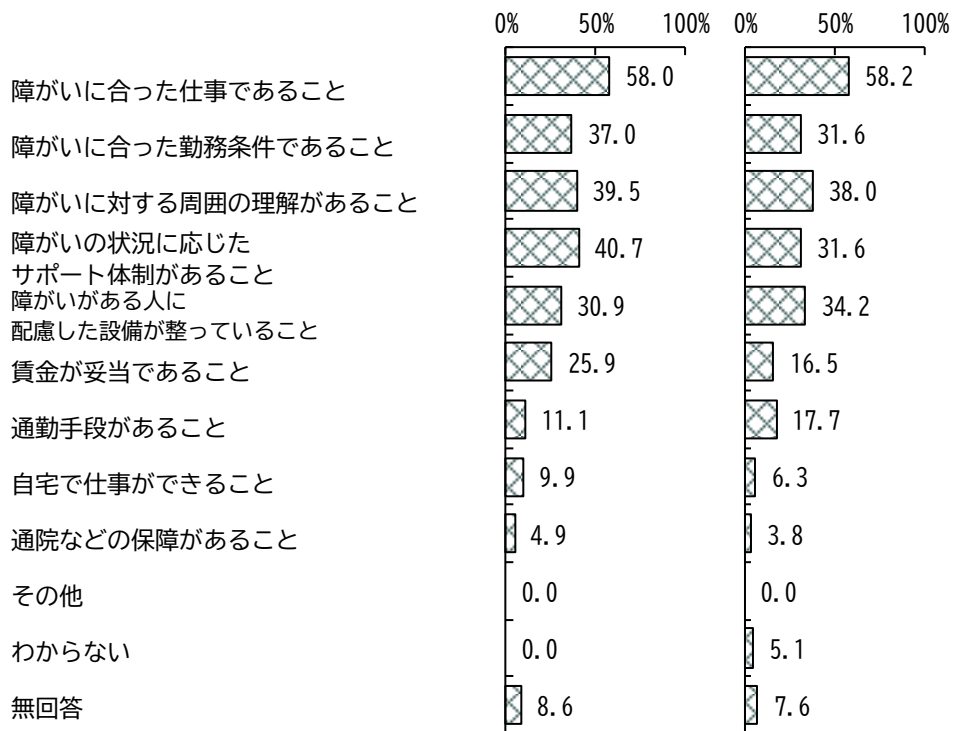
18歳～39歳(n=63)

40歳～64歳(n=154)



65歳～74歳(n=81)

75歳以上(n=79)



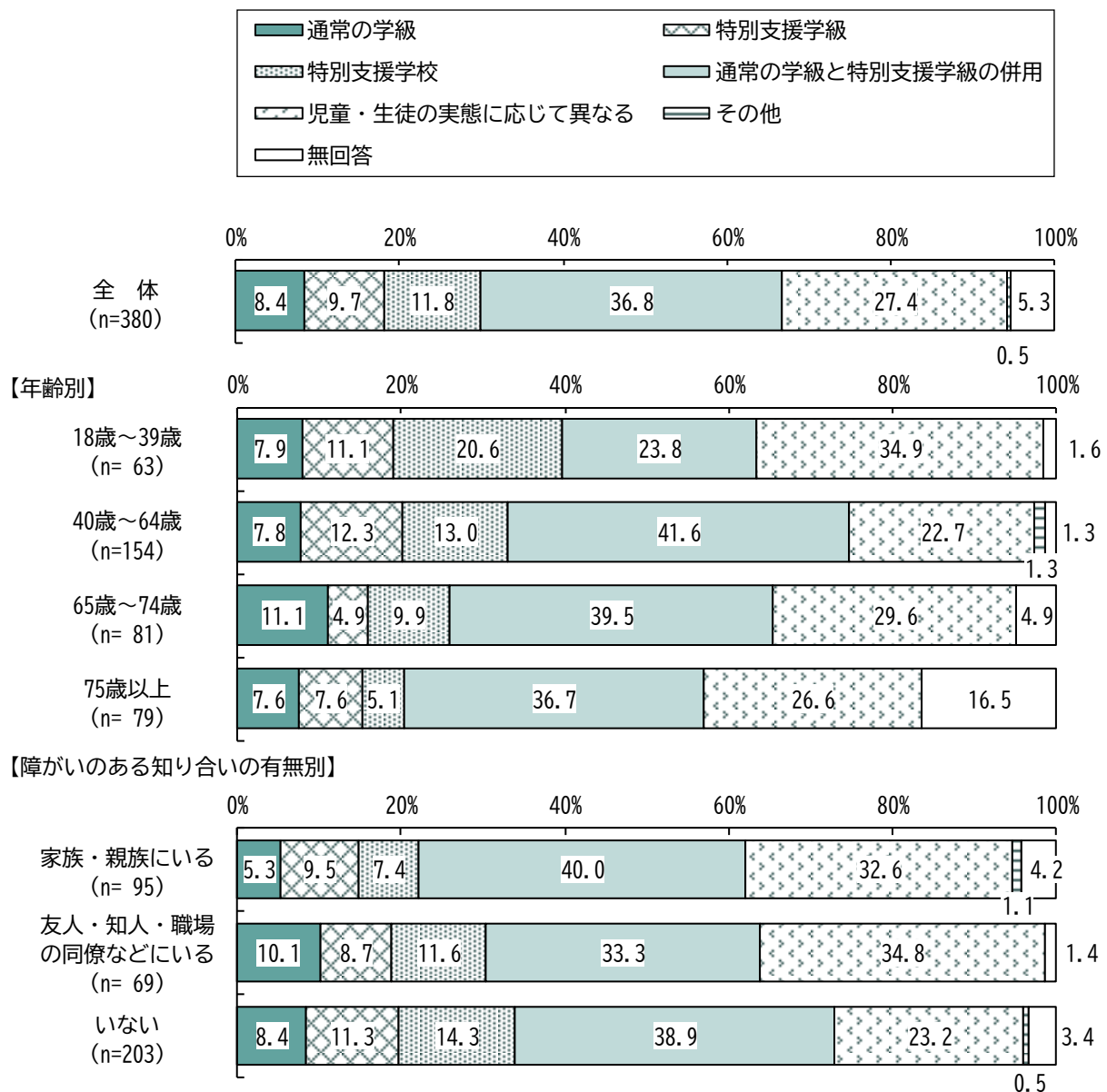
(4) 障がいのある児童・生徒の就学環境の整備

問20 あなたは、障がいのある児童・生徒の教育環境は、以下のどの学級、学校で整備されるのが良いと思いますか。(〇は1つ)

「通常の学級と特別支援学級の併用」が36.8%と最も多く、次いで「児童・生徒の実態に応じて異なる」が27.4%、「特別支援学校」が11.8%などとなっています。

年齢別にみると、“18～39歳”では「児童・生徒の実態に応じて異なる」が最も多くなっています。

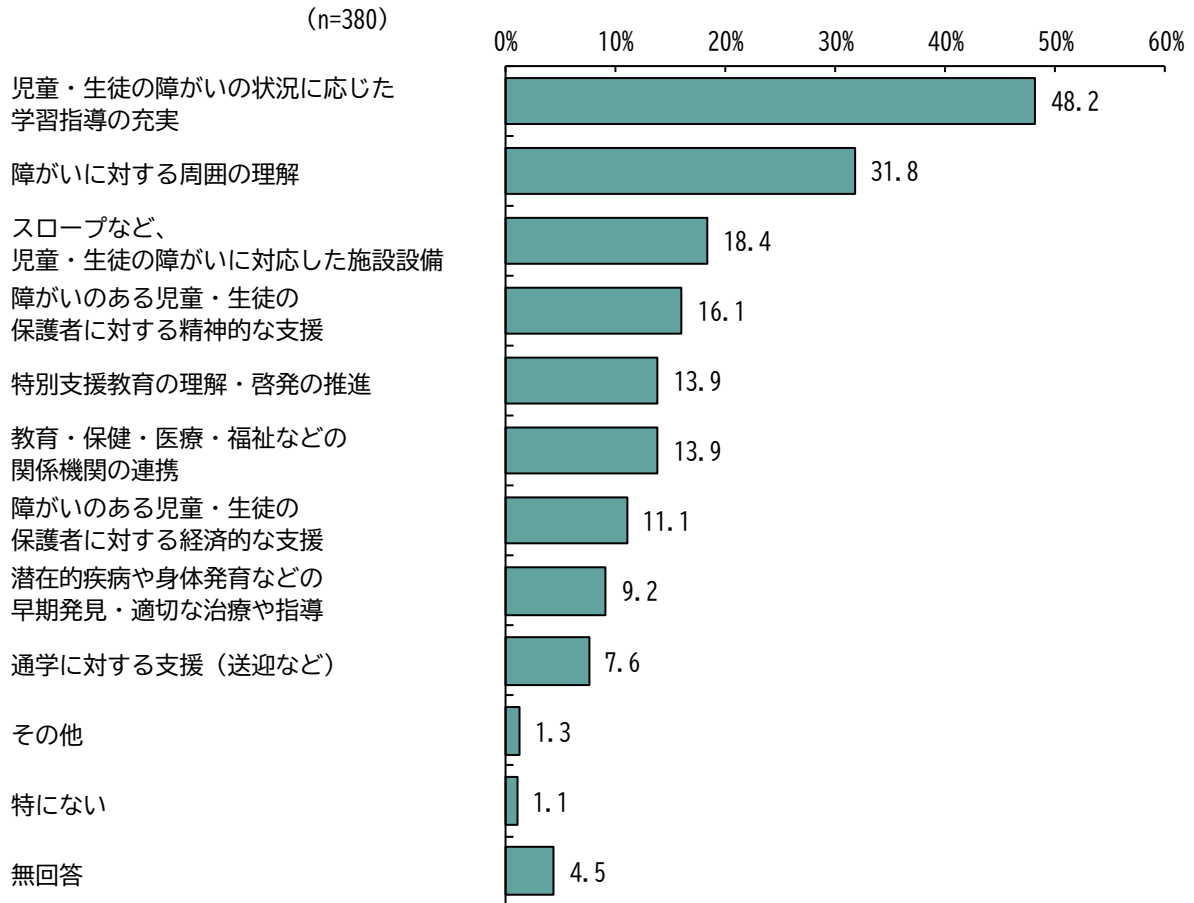
障がいのある知り合いの有無別にみると、“友人・知人・職場の同僚などにいる”では「児童・生徒の実態に応じて異なる」が最も多くなっています。



(5) 障がいのある児童・生徒の就学環境の整備について必要だと思うこと

問21 あなたは、障がいのある児童・生徒の教育に関し、どのようなことが必要であると思いますか。
(○は2つまで)

「児童・生徒の障がいの状況に応じた学習指導の充実」が48.2%と最も多く、次いで「障がいに対する周囲の理解」が31.8%、「スロープなど、児童・生徒の障がいに対応した施設整備」が18.4%などとなっています。

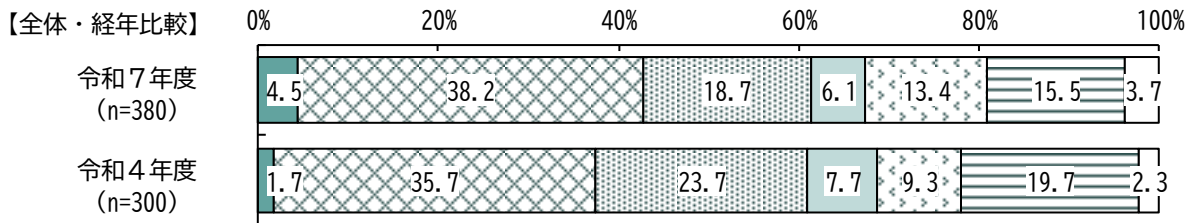
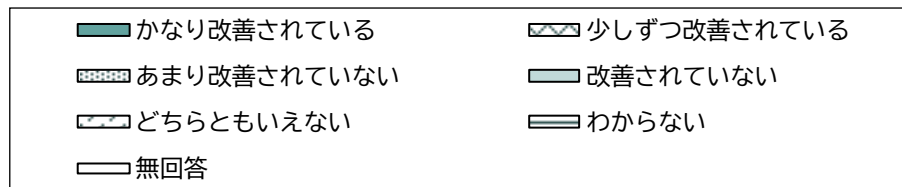


6 福祉のまちづくりについて

(1) まちの環境が障がいのある人が外出しやすく改善されているか

問22 まちの環境は、障がいのある人が外出しやすく改善されていると思いますか。(○は1つ)

「少しずつ改善されている」が38.2%と最も多く、次いで「あまり改善されていない」が18.7%、「わからない」が15.5%などとなっています。

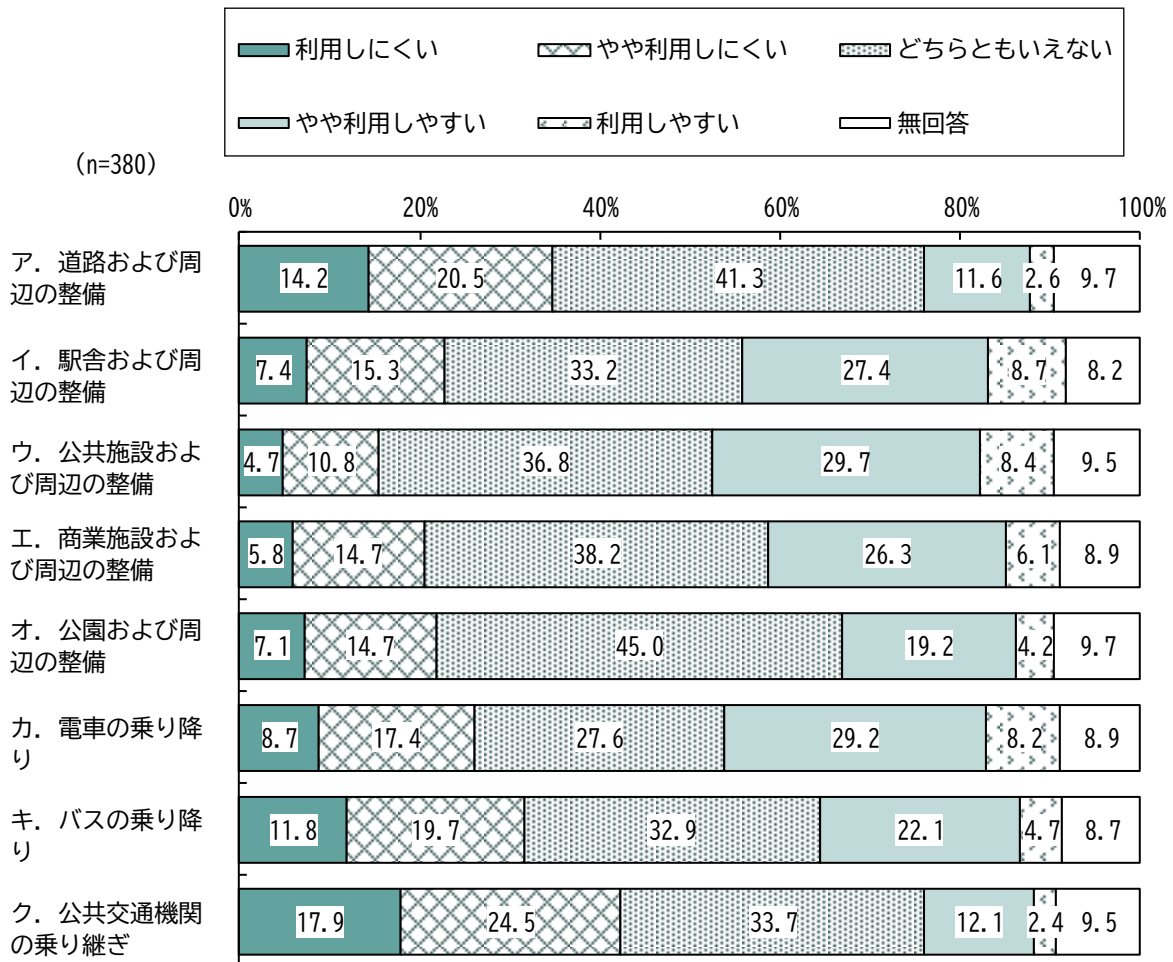


(2) 障がいのある人にとっての施設などの利用しやすさ

問23 あなたは、障がいのある人にとって次の施設などは使い勝手が良いと思いますか。

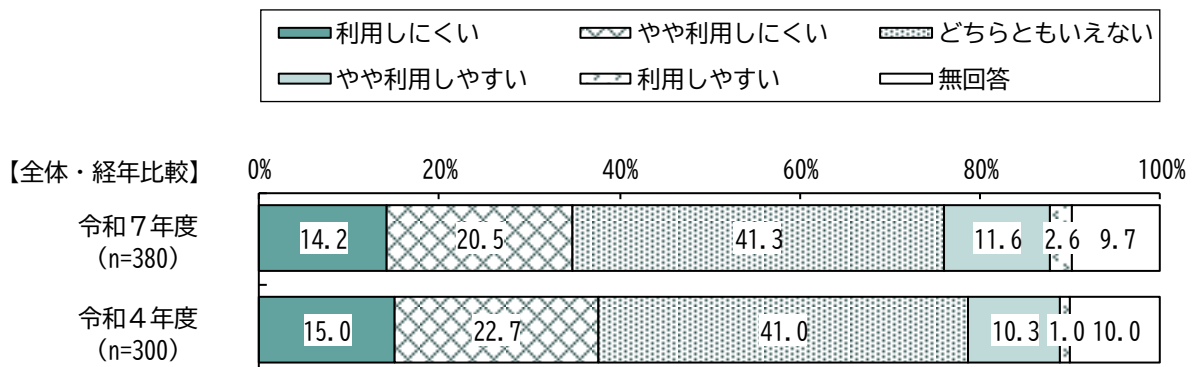
(ア～クの各項目それぞれ1つに○)

「利用しにくい」と「やや利用しにくい」を合わせた『利用しにくい』は、“公共交通機関の乗り継ぎ”で最も多くなっています。「利用しやすい」と「やや利用しやすい」を合わせた『利用しやすい』は“公共施設および周辺の整備”で最も多くなっています。



ア 道路および周辺の整備

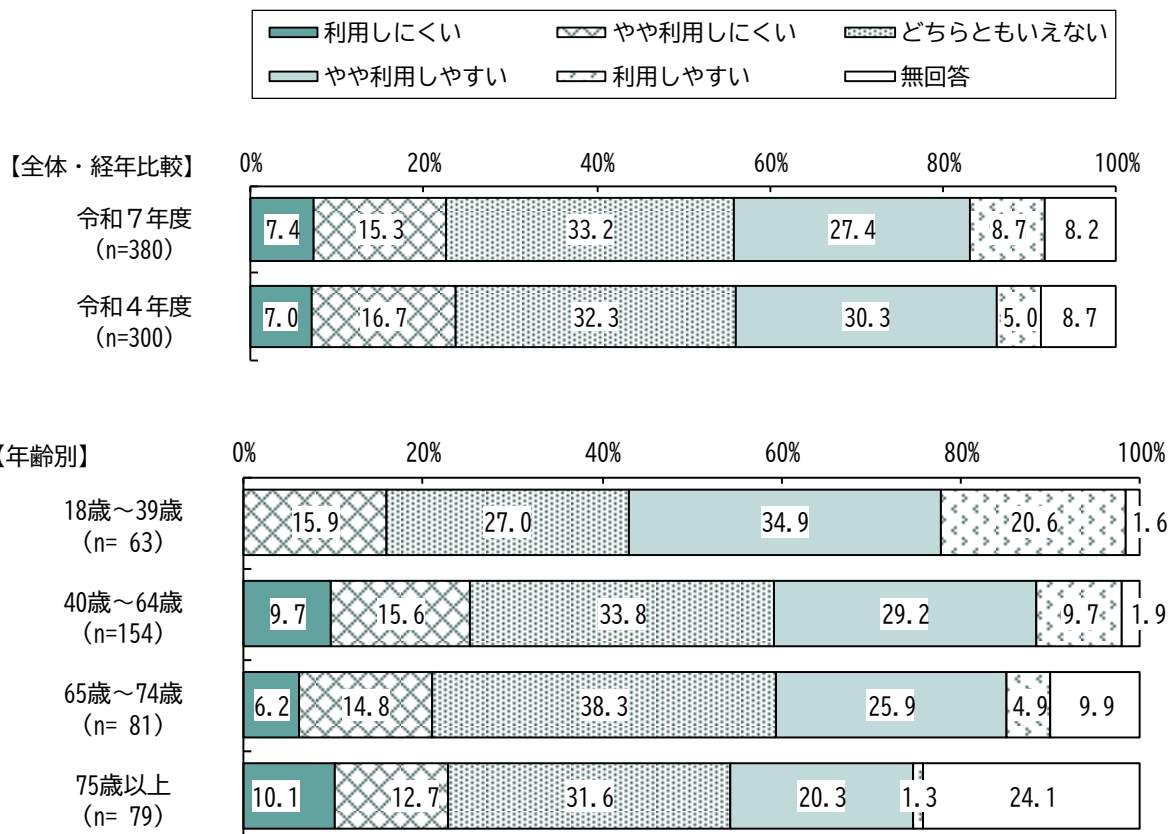
「どちらともいえない」が41.3%と最も多く、次いで「やや利用しにくい」が20.5%、「利用しにくい」が14.2%などとなっています。



イ 駅舎および周辺の整備

「どちらともいえない」が33.2%と最も多く、次いで「やや利用しやすい」が27.4%、「やや利用しにくい」が15.3%などとなっています。

年齢別にみると、「18歳～39歳」では「やや利用しやすい」が最も多くなっています。

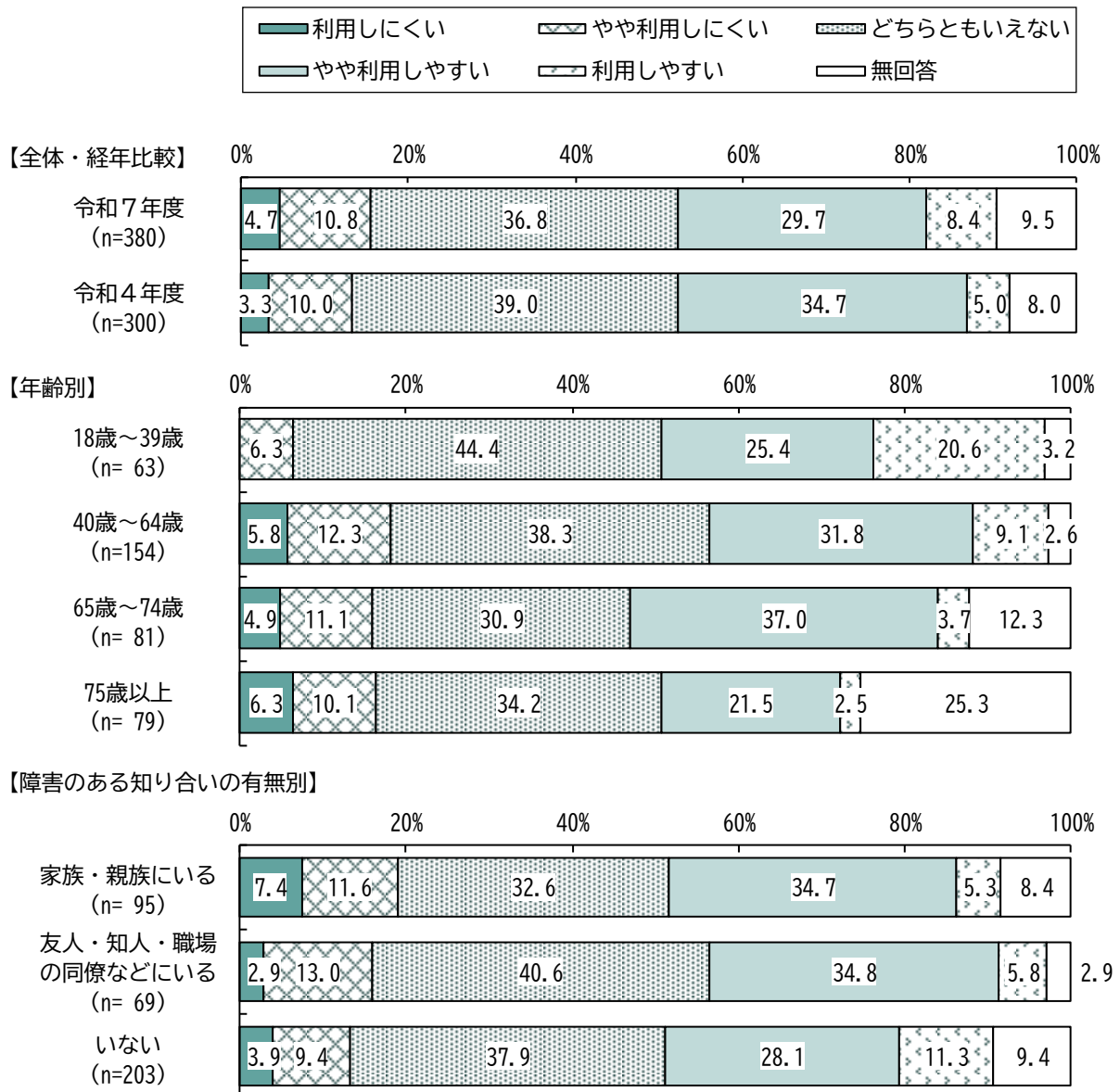


ウ 公共施設および周辺の整備

「どちらともいえない」が36.8%と最も多く、次いで「やや利用しやすい」が29.7%、「やや利用しにくい」が10.8%などとなっています。

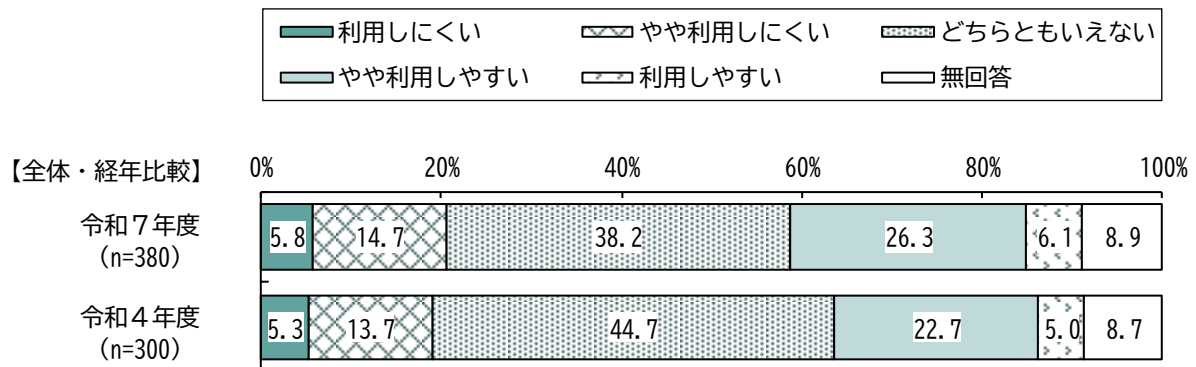
年齢別にみると、「65歳～74歳」では「やや利用しやすい」が最も多くなっています。

障がいのある知り合いの有無別にみると、「家族・親族にいる」では「やや利用しやすい」が最も多くなっています。



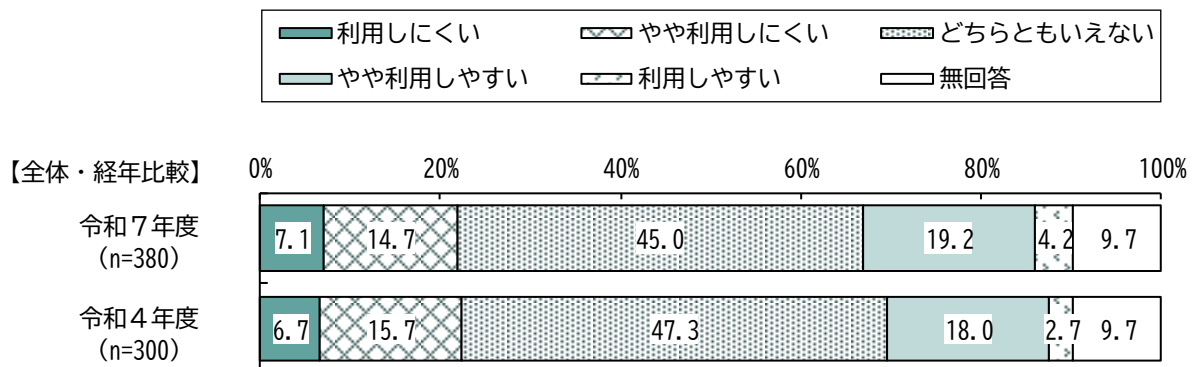
工 商業施設および周辺の整備

「どちらともいえない」が38.2%と最も多く、次いで「やや利用しやすい」が26.3%、「やや利用しにくい」が14.7%などとなっています。



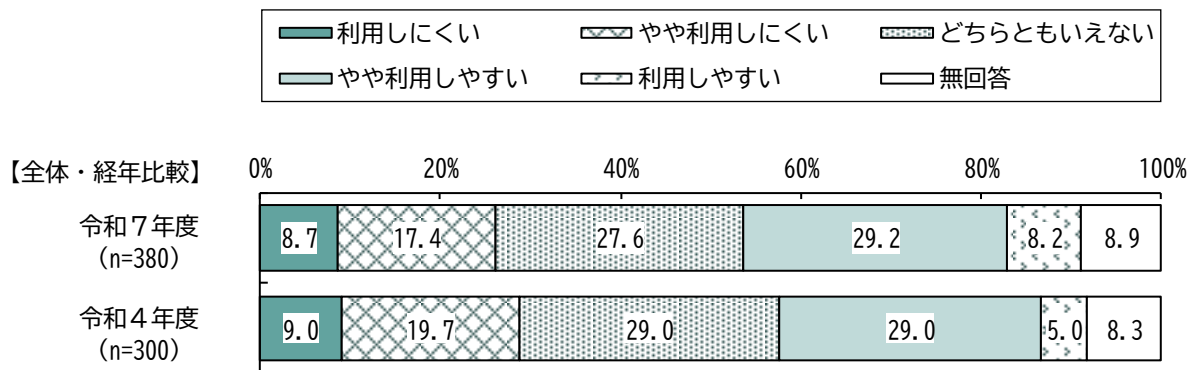
オ 公園および周辺の整備

「どちらともいえない」が45.0%と最も多く、次いで「やや利用しやすい」が19.2%、「やや利用しにくい」が14.7%などとなっています。



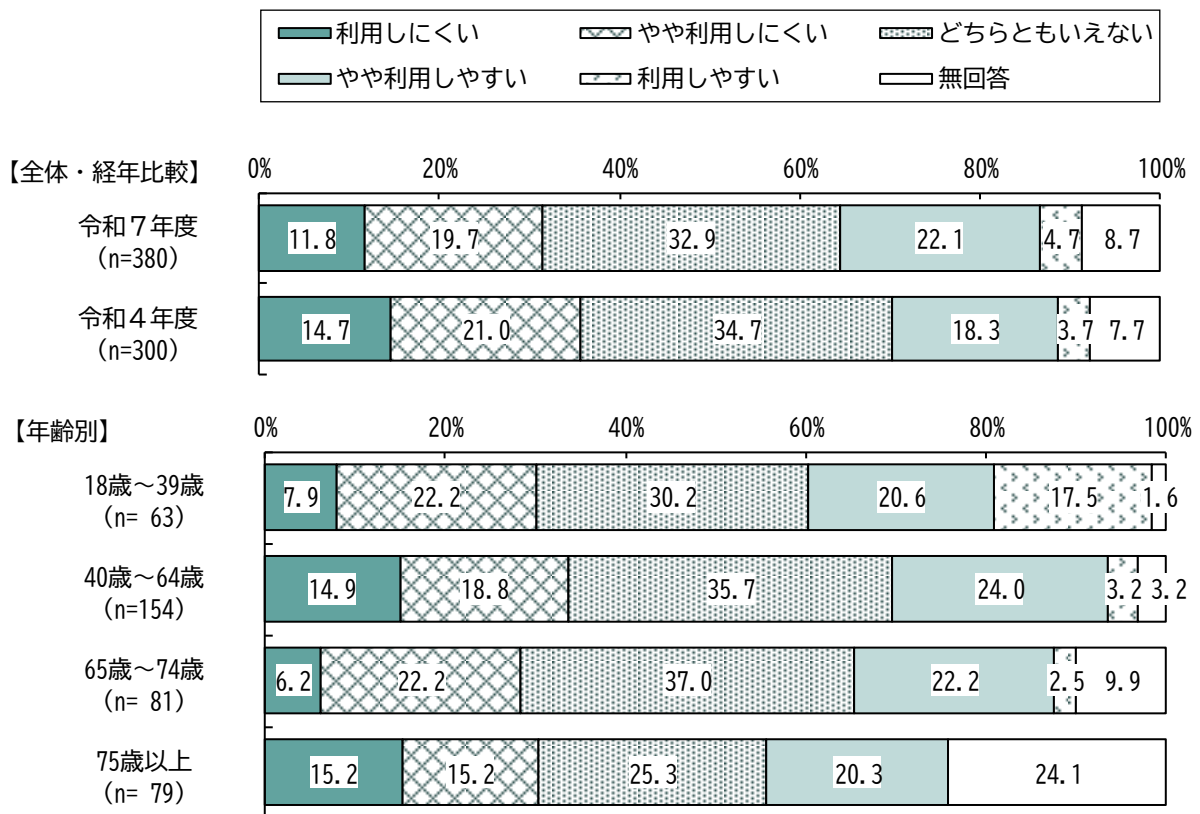
カ 電車の乗り降り

「やや利用しやすい」が29.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が27.6%、「やや利用しにくい」が17.4%などとなっています。



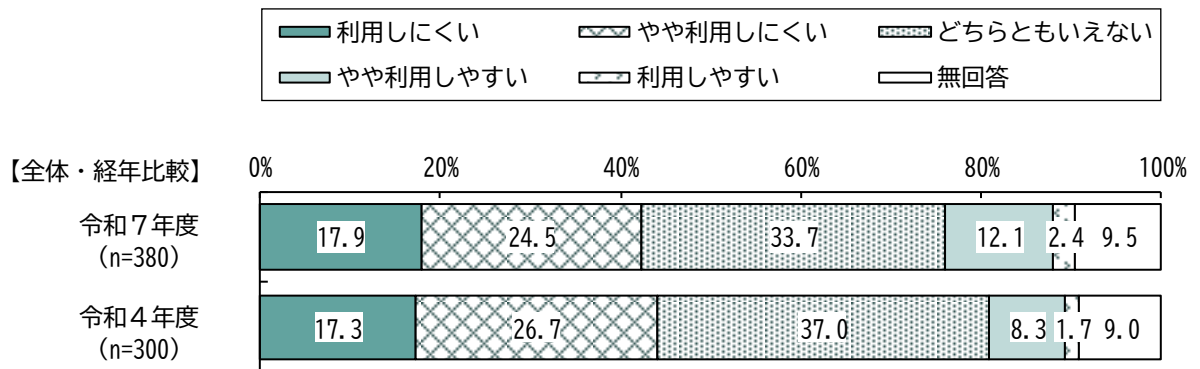
キ バスの乗り降り

「どちらともいえない」が32.9%と最も多く、次いで「やや利用しやすい」が22.1%、「やや利用しにくい」が19.7%などとなっています。



ク 公共交通機関の乗り継ぎ

「どちらともいえない」が33.7%と最も多く、次いで「やや利用しにくい」が24.5%、「利用しにくい」が17.9%などとなっています。



7 相模原市の障がい者施策について

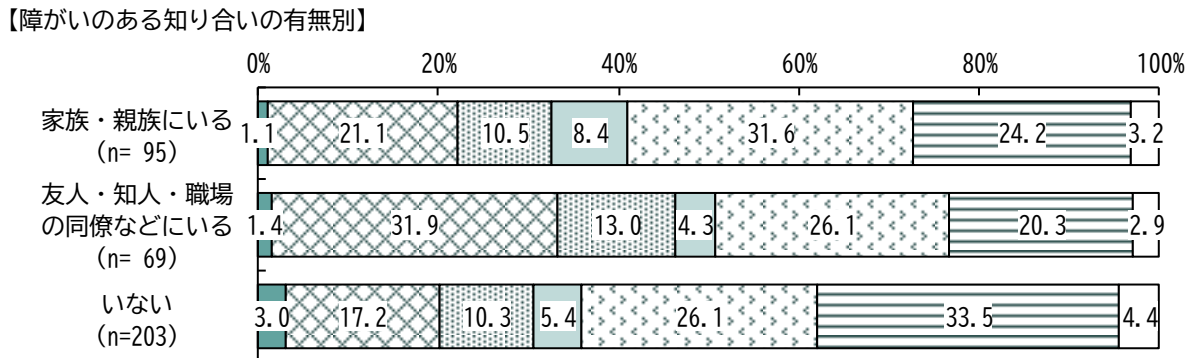
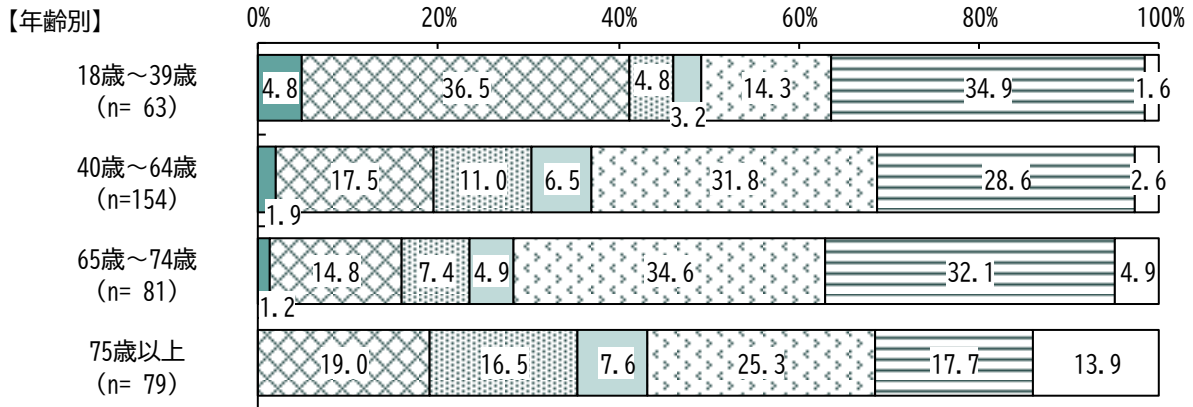
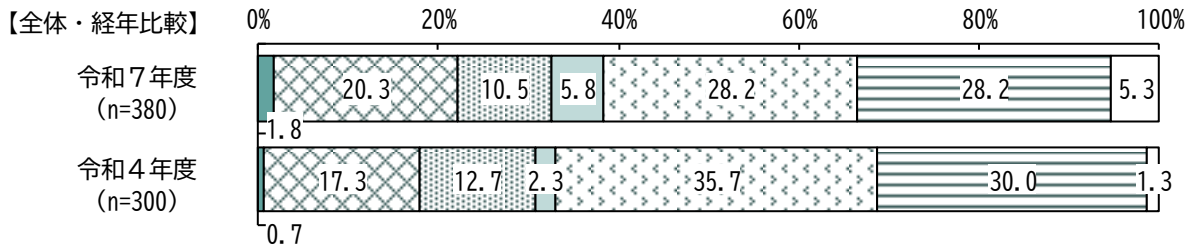
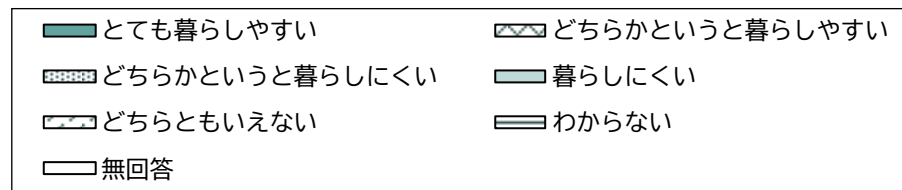
(1) 相模原市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思うか

問24 あなたは、相模原市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(〇は1つ)

「どちらともいえない」、「わからない」が28.2%と最も多く、次いで「どちらかという暮らしやすい」が20.3%、「どちらかという暮らしにくい」が10.5%などとなっています。

年齢別にみると、「18歳～39歳」では「どちらかという暮らしやすい」が最も多くなっています。

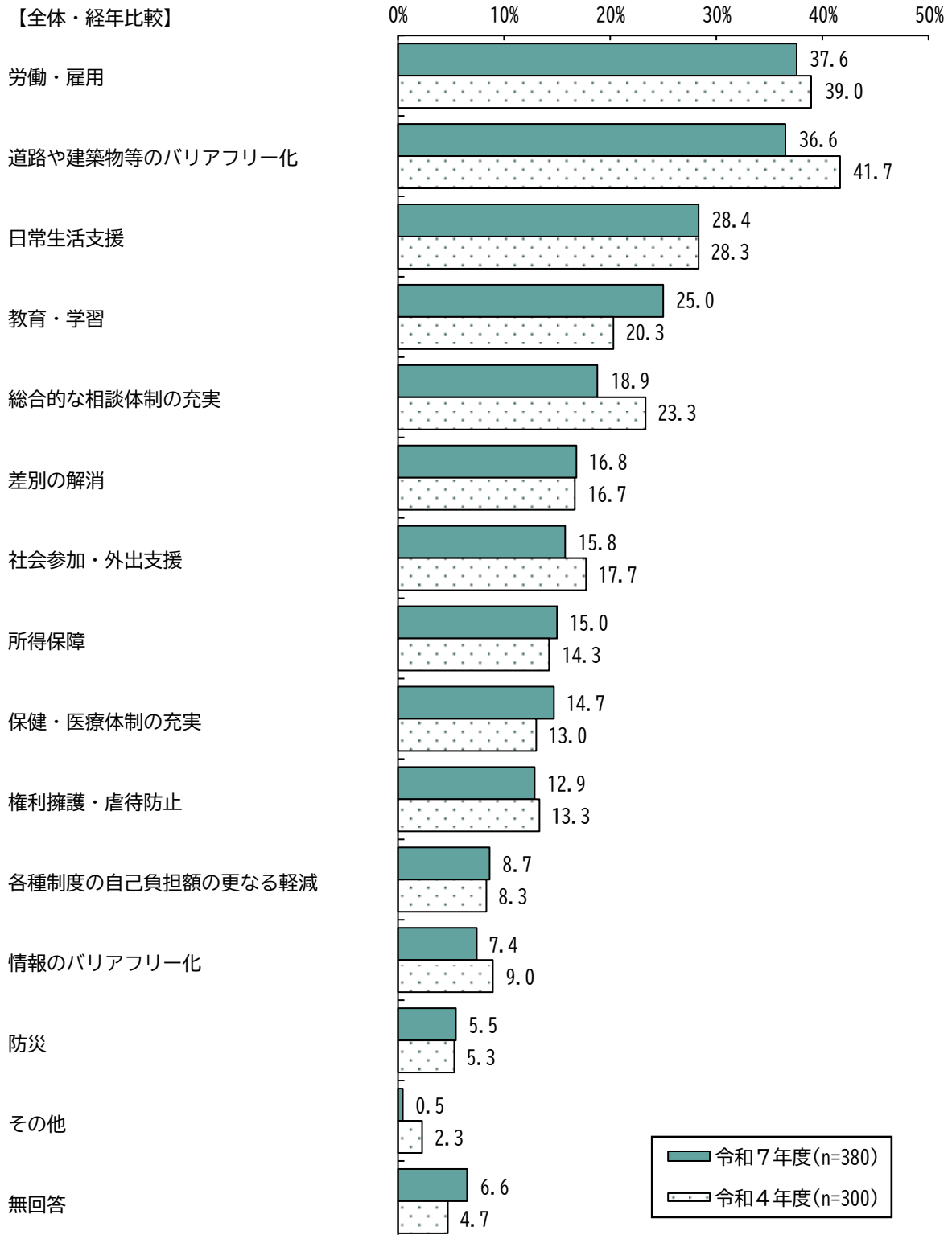
障がいのある知り合いの有無別にみると、「友人・知人・職場の同僚などにいる」では「どちらかという暮らしやすい」が最も多くなっています。



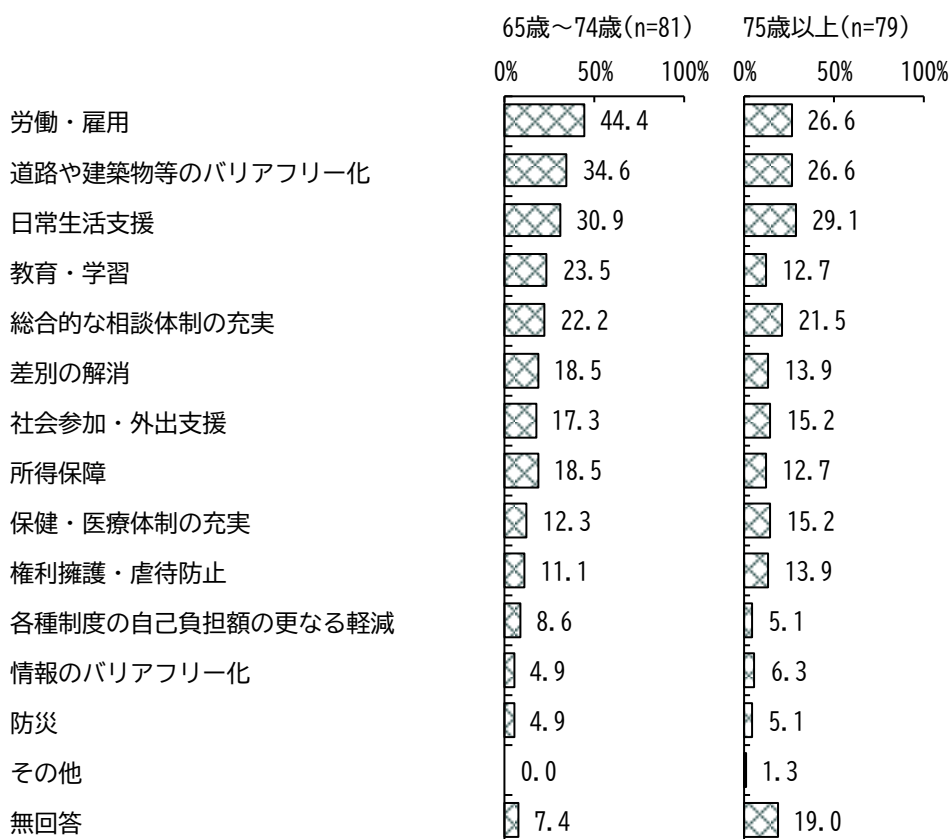
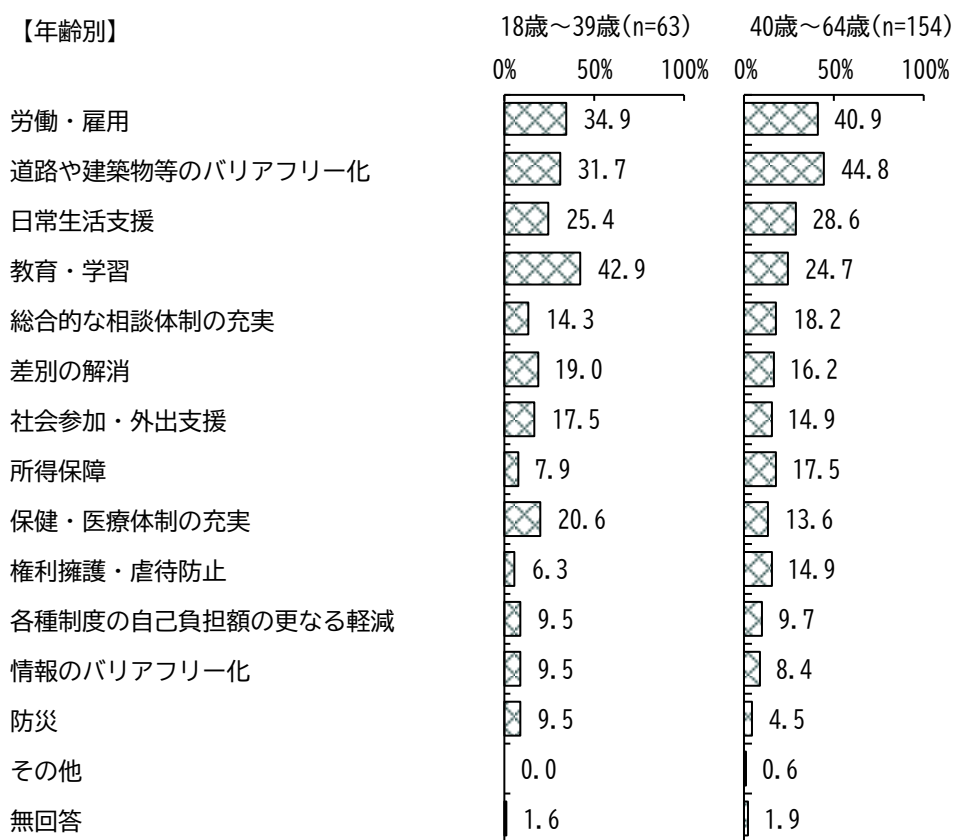
(2) 障がいのある人にとって暮らしやすいまちになるために重点的に取り組むべき分野

問25 相模原市が障がいのある人にとって暮らしやすいまちになるには、次のうちどの分野に重点的に取り組むことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

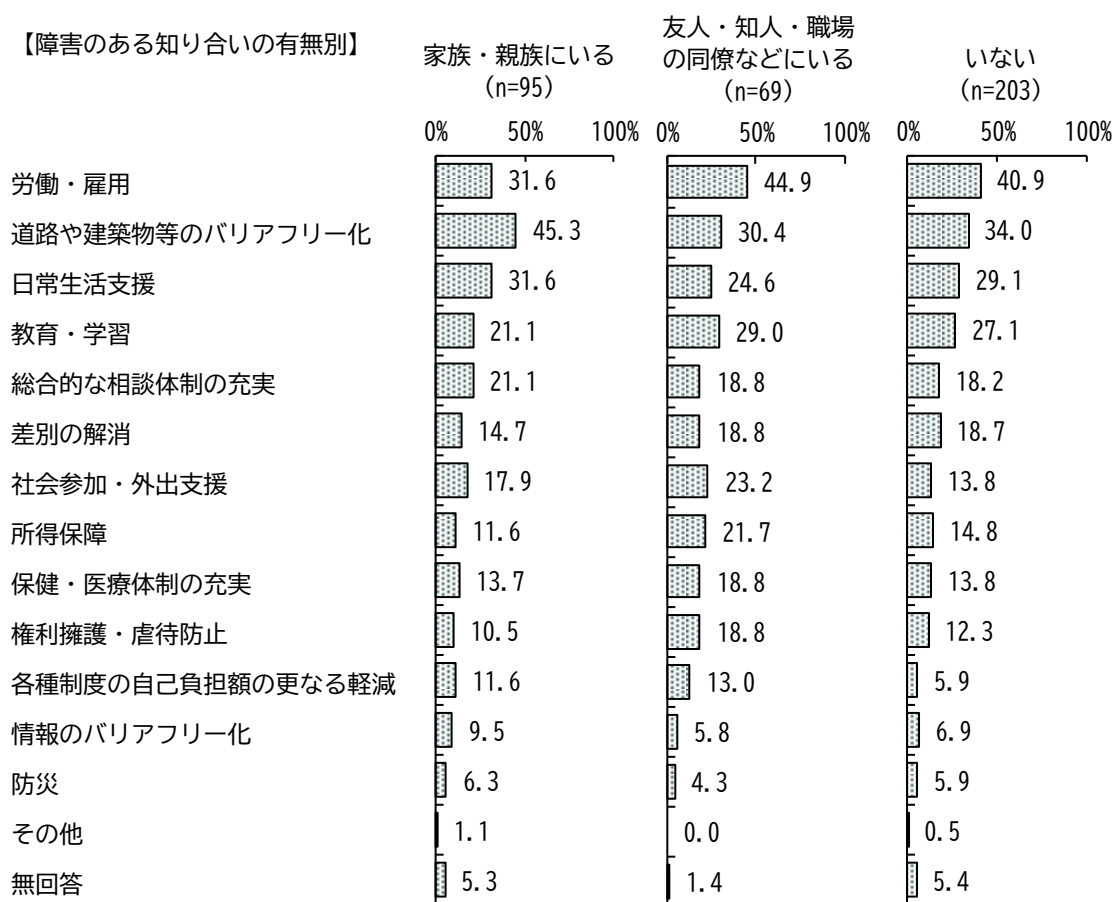
「労働・雇用」が37.6%と最も多く、次いで「道路や建築物等のバリアフリー化」が36.6%、「日常生活支援」が28.4%などとなっています。



年齢別にみると、“18歳～39歳”では「教育・学習」、「40歳～64歳」では「道路や建築物等のバリアフリー化」、「75歳以上」では「日常生活支援」が最も多くなっています。



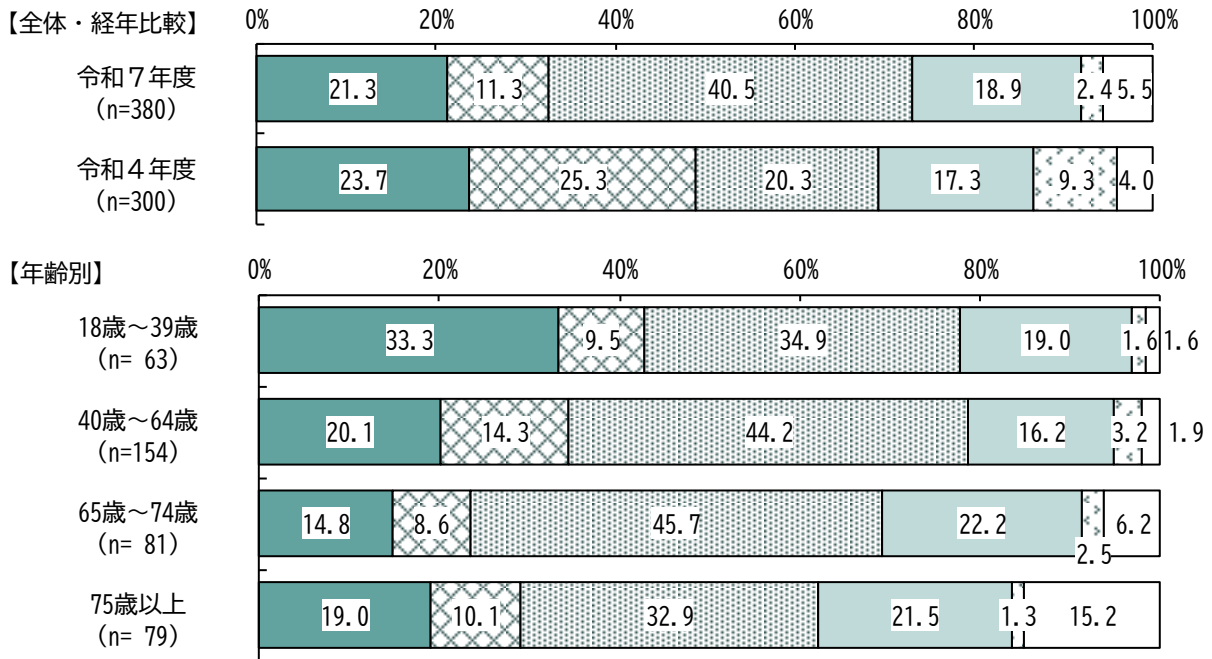
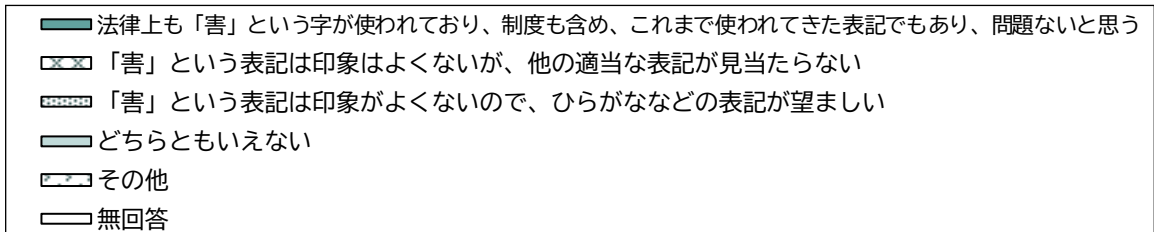
障がいのある知り合いの有無別にみると、“家族・親族にいる”では「道路や建築物等のバリアフリー化」が最も多くなっています。



(3) 障がい者の「害」という表記についての考え

問26 相模原市健康福祉局内では障がいの「害」という表記について文字の印象を和らげるために、試行的に法律用語、医療用語、課名以外についてひらがな表記としております。障がい者の「害」という表記について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

「害」という表記は印象がよくないので、ひらがななどの表記が望ましい」が40.5%と最も多く、次いで「法律上も「害」という字が使われており、制度も含め、これまで使われてきた表記でもあり、問題ないと思う」が21.3%、「どちらともいえない」が18.9%などとなっています。



IV 自由意見

1 障がいのある人

問48 現在、あなたが相模原市に要望したいことなどを自由に書いてください。

相模原市に要望したいことなどを自由に記述してもらったところ、634人から778件の意見が寄せられました。

障がい種別と記述内容により分類して整理し、相模原市に要望したいことや数が多かったご意見など主なものを掲載しました。

なお、記述原文の趣旨を損なわないよう配慮しながら、文章を読みやすく改めた場合があるほか、記述が長文にわたるもののうち、相模原市に要望したいことについて抜粋して示した場合があります。

(1) 身体障がい者 (142件)

①福祉サービスに関すること

- 通院時に介護タクシー・看護師・介助者に付き添いをお願いしているが、利用料金がとても高額なので援助、補助金を出していただきたい。
- 障がいの種類や度合いに応じて、それぞれに合った対応をしてほしい。
- 学校や施設で自立にむけた支援を行ってほしい。
- 家族の負担が少なくなる様な支援方法を考えてほしい。
- 重度身体障がい者が利用可能な通所支援事業所が著しく不足している。重度身体障がい者を排除しない通所支援体制の再構築が必要と考える。
- 通学等の送迎支援サービスを行ってほしい。
- 障害福祉サービスを強化してもらいたい。向上してもらいたい。
- 補助金を利用して補聴器を購入しているが、自己負担が高額となっている。聞こえづらくなっても買い替えができないので、さらなる補助を願う。

②施設・グループホームに関すること

- 施設の人材の確保。(他1件)
- 施設やグループホームを増やしてほしい。(他1件)
- 視覚障がい者が一時的に入居できる施設がほしい。
- 研修等による施設職員の質の向上。
- 重度障がい者の入所出来る施設を増やしてほしい。
- 施設設備の充実。
- 安い施設に待たずに入居できるようにしてほしい。

③公共交通機関、道路整備に関すること

- バスの増便。コミュニティバスの路線拡大。(他5件)
- 公共交通機関の補助・無償化。(他3件)
- 悪路の整備。(他3件)
- タクシー券を増やしてほしい。(他2件)
- ガソリンの補助を求める。(他1件)
- 介護タクシーの補助を増やしてほしい。
- 歩きつかれた際に休めるベンチを設置してほしい。

④医療に関すること

- 医療証の継続を望む。
- 医療証の所得制限導入の撤廃。
- 誰もが気軽にかけられる、かかりつけ医のような市民病院が近くにほしい。
- もっと身近に専門医が増えることを望む。
- 電話回線を利用した緊急通報サービスの範囲を広げ、障がい者も対象にしてほしい。

⑤バリアフリーに関すること

- バリアフリーの促進。(他2件)
- 公共交通機関や、その乗り場のバリアフリー化。(他1件)
- 公共施設のバリアフリー化。
- ストーマのあるトイレの設置。

⑥相談体制に関すること

- どこに相談すればよいかわからないので情報がほしい。(他3件)
- 本人や家族の不安、状況に寄り添った対応を求める。(他2件)
- 本人だけでなく家族もキーステーションで相談できるようにしてほしい。
- 専門知識を有する人員を配置・増員していただきたい。
- 支援員や専門家が家まで出張して見てもらえる仕組みづくりを考えてほしい。

⑦将来の不安に関すること

- 親亡き後の生活介護をしてくださる施設を用意して下さることを切に願う。
- 自分の事は自分ですべてしなくては、ならないのでとても不安である。
- 老後の生活に不安がある。

⑧教育、療育、学校に関すること

- 学校のバリアフリー化が追いついていないので進めてもらいたい。

⑨福祉施策に関すること

- 重度障害者等福祉手当の廃止に反対する。(他10件)
- 身体が不自由な人の旅行補助や、宿・交通手段の紹介、ツアーなどがあるといい。
- 重度訪問介護の報酬に、市独自の加算を設けるべきである。

⑩経済的な問題に関すること

- 生活費の支援。(他1件)
- 数年後の生活に対する不安を抱いている。
- お金がなくとも、安心して一生を終えられる市政をお願いしたい。国民年金だけでは暮らせない。
- 年金額が改訂され数万円増えたが、非課税から課税となり様々な料金・税も上がって生活が苦しくなった。本末転倒なので、救済措置を求める。
- 収入に変化はないが、施設費が3倍となった。障害年金を充実させ、施設費を安くしてほしい。

⑪就労に関すること

- 障がい者に対する職の斡旋。ケーススタディ事例をもっとオープンにしてほしい。IQ・能力の高い発達障がい者の就職先を増やしてほしい。
- フルタイムで働ける企業を増やしてほしい。
- 障がい者に対する雇用の充実。
- 障がい別に、働ける一般就労先を教えてほしい。

⑫書類や手続きに関すること

- 市職員の障がいに対する理解を深め、個人の困りごとに寄り添えるようになってほしい。
- 仕事を休まないで役所へ行けず、必要なものもわからないので改善してほしい。

⑬情報提供に関すること

- 地域の支援の内容がわかるものがあるといい。
- マイナンバーカードやLINEを使っての情報管理・発信に反対する。
- 福祉に関する税金や予算について、どのように活かされているのかをLINEなどで簡単に知ることができたらよい。
- 手帳の交付の際に、本で渡すだけでなく障がいに応じて利用できるサービスや制度の説明がほしい。
- 福祉サービスについて郵送してほしい。

⑭スポーツ施設、イベント施設に関すること

- スポーツ施設を障がいサービス事業所も使えるよう開放してほしい。
- 津久井地区にも、障がい者が出来る軽い運動が出来る場所が欲しい。
- 南区に車椅子でも使いやすい施設が欲しい。

⑮災害に関すること

- 災害時のためのトイレカーの導入を願う。
- 福祉避難所の数を増やし、災害時に障がい・高齢者が安心して避難できるようにしてほしい。

⑯理解、啓発に関すること

- 差別のない、障がいがある人も住みやすい街づくり。
- 電車の優先席では必要としている人に席を譲るように啓発してほしい。
- 市民に障がいに対する理解を増やしてほしい。

⑰その他

- 当事者にはアンケートが難しすぎる。(他1件)
- ヒアリングでアンケートを実施してはいかがか。
- 当てはまらない質問が多いので、障がい者・健常者・高齢者・未成年など区分を分けた方が良い。
- プライバシーにとらわれず、関係者でデータをもっと共有してほしい。
- 福祉施設や障害者相談課、病院など「直接、協力できるか確認して渡す」という形をとっていただきたい。
- 必ず集約を発表すること。
- 行政の職員にはだれもが住みよい社会を作っていただきたいと願っている。
- 「障害」の漢字表記に統一してほしい。

(2) 知的障がい者 (114件)

①福祉サービスに関すること

- 障がい者サービスの充実と質の向上。(他1件)
- 事業所の選択肢が増えるとよい。(他1件)
- 成人してからの福祉サービスが少ない。(他1件)
- ショートステイが必要なときに使えない。
- 医療機関や事業所、支援者同士の繋がり・連携をしっかりと確保していただきたい。
- 自立が難しい発達障がいや精神障がいの家族に対するフォローを要望する。

- 放課後等デイサービスの利用について、支援の必要度を数値化し、高いものから利用できる制度を導入していただきたい。

②施設・グループホームに関すること

- グループホームを増やしてほしい。(他2件)
- ショートステイが不足している。(他1件)
- 事業所に対する指導・監督体制。(他1件)
- 低収入でも入所できる施設やグループホームの増加。(他1件)
- 親のケアのための施設の充実。
- 職員の人材育成。
- 職員の方が持続的に楽しく就労できるような、勤務体系や給与体系。
- 障がい者職業訓練施設を増やしてほしい。

③公共交通機関、道路整備に関すること

- 悪路の整備。
- タクシー券を増やしてほしい。
- ガソリンの補助を増やしてほしい。
- バス・電車の増便。
- 無人タクシーの運行とその補助。

④医療に関すること

- 医療証の継続。(他1件)
- 誰もが気軽にかけられる、かかりつけ医のような市民病院が近くにほしい。
- 人工呼吸器使用者が市内で外来・入院・救急のいずれも受け入れられない状況の解消を求める。

⑤バリアフリーに関すること

- 人歩道と車道における段差解消。

⑥相談体制に関すること

- 気軽に相談できる場所があるといい。(他2件)
- どこに相談すればよいのかわからない。(他1件)
- 介護者が心身の健康を維持できるよう、気軽に相談できるカウンセラーなどの制度がほしい。
- LINEやメール等で休日に相談できる体制があるとありがたい。

⑦将来の不安に関すること

- 介護者である親に不足の事態が起きたとき、安心して人として尊重されて暮らしていける社会を強く要望する。(他8件)

⑧教育、療育、学校に関すること

- 障がいの比較的重い子供が希望すれば支援学校に入学出来るようにしてほしい。(他1件)
- 支援学校や職業訓練校、就労支援サービスを充実させてほしい。
- 障がい者にむけた学習支援がほしい。
- 中学卒業後の進路選択について、情報や相談窓口が少なく将来へのイメージがわからないため具体的な進路選択ができない。
- 特別支援学級、養護学校の教職員の負担軽減。
- 支援学校に入れない児童が、支援級にて必要な支援を受けられる体制の整備。
- 療育施設が空いてない。

⑨福祉施策に関すること

- 重度障害者等福祉手当の廃止に反対する。(他7件)
- 特別児童扶養手当の所得制限撤廃。(他2件)
- 福祉従事者や本人の親など、支える側への対応を求める。
- 行政において当事者を登用し、彼らの声を現場に生かすこと。
- 障がいのある方が集う開けた活動を実施してほしい。

⑩経済的な問題に関すること

- 助成などが更にあると助かる。
- 現金給付をしてほしい。
- 自己負担額が大きい。

⑪就労に関すること

- 転職のサポートをしてほしい。
- 大手企業、中小企業が、障がい者の雇用を増やしてほしい。
- 就労中もヘルパーを使えるようにしてほしい。
- 就職支援案内の充実。

⑫書類や手続きに関すること

- 手続きの簡素化。(他1件)
- 障がい福祉に理解がある職員に対応してほしい。

- 従来通り紙面での説明や手続きを希望する。
- We bで申請ができるとよい。

⑬情報提供に関すること

- 保護者間の交流や地域コミュニティでしか情報が得られず困っている。(他1件)
- その人に合った福祉サービスについて説明を受ける機会や、情報提供がほしい。(他1件)
- 子供の今後のことで先々の生活に不安をかかえている親に対する情報提供。
- グループホームの空き情報などを市と連携してわかりやすくしてほしい。
- 情報にインターネットですぐにアクセスできるとありがたい。
- 施設のリストはその施設の特徴が見てすぐわかるようなものにしてほしい。

⑭スポーツ施設、イベント施設に関すること

- 定期的に障がい者スポーツ、ポッチャなどを行ってほしい。
- 障がいのある方も気軽にスポーツや文化芸術に触れられるような場が欲しい。

⑮災害に関すること

⑯理解、啓発に関すること

- 障がいを抱える1人1人の方としっかり向き合い、障がいに問われず活動できる場が必要。
- ヘイト・スピーチやヘイト・クライムへの罰則強化を求む。
- 行政による積極的な啓発活動。
- 健常者の方からの好奇心な目で見られたり、差別的な発言等を聞く感じる事があるので、なんとかならないかと思う。

⑰その他

- 重度障がいもしくは成人が対象のアンケートのように思うが、送付対象者を考えてほしい。(他1件)
- アンケートが難しい。
- 内容がデリケートであり、自分でも書くのが辛い。
- スマートフォンで手帳や障がい者用パスモの管理ができるようにしてほしい。
- 成年後見人制度は後見人を選ばず、利用料も高額であるため、より利用しやすい制度になることを願う。
- 周囲に柵があるなど、多動の子供でも安全に遊べる公園等の情報提供。
- 虐待の通報窓口に、経験知識のある職員を配置してほしい。

(3) 精神障がい者 (192件)

①福祉サービスに関すること

- 精神障害手帳所持者が対象となる福祉サービス拡大。(他3件)
- カウンセリングに対する補助。(他2件)
- 手帳とは別に公共施設などの利用パスを発行してほしい。
- カウンセリングに対する補助が必要。
- 趣味など、安いお金で専門的な先生に見てもらいたい。
- 障がい者が孤立しない行政サービスの拡充。
- 福祉サービスが向上したという実績を数字により可視化して出してほしい。
- サービスを受ける側の安心につながるので、福祉従事者の待遇改善と人材確保を求む。
- 家族も対象となる手当。
- わかりやすい福祉サービス。

②施設・グループホームに関すること

- 終の棲家となる施設を十分に作ってほしい。(他1件)
- 職員のスキルに見合った賃金を求む。
- グループホームやデイケア施設の拡充。

③公共交通機関、道路整備に関すること

- 交通費の補助。(他3件)
- 悪路の整備。(他2件)
- バスの増便。(他2件)
- 市内の交通の便を良くしてほしい。(他1件)
- 精神手帳3級もタクシー券の対象としてほしい。
- 公共交通機関で手帳を提示せずに割引がなされる制度。
- タクシー券が使えるタクシー会社を増やしてほしい。

④医療に関すること

- 医療費の引き続きの援助。(他2件)
- どの医療機関を受診すればよいのかわからない。(他1件)
- 精神障害3級も医療証の対象としてほしい。
- 市精神科に通っていると言うと受診を拒否されるので、このようなことがないようにしてほしい。
- 重度精神障がいの収容施設がなく、転院先がない。
- カウンセリングの保険適用。

⑤バリアフリーに関すること

⑥相談体制に関すること

- 相談できる場所を増やしてほしい。(他6件)
- 相談できる専門の人を増やしてほしい。(他4件)
- ピアサポート活動やそのような人物を増やしていくとよいのではと思う。
- 障がいの内容や等級に応じた相談窓口の設置。
- 困った時に相談して支援を受けられるように整備してほしい。
- 役所職員に知識や理解がなく、窓口担当者によって相談内容やサービス利用に差が出ている。
- グレーな人を救うための支援や窓口、頼れる場所がほしい。

⑦将来の不安に関すること

- 親が活着ているうちは生活できるが、1人になったらどうやって生活していけばよいのか不安。(他3件)
- 1人になったときに頼れる人や場所がほしい。
- グループホーム退去後、生活保護の範囲で生活できるのか心配。

⑧教育、療育、学校に関すること

- 障がい分離教育でなくインクルーシブ教育が進まないと、共生社会は進まないと思う。

⑨福祉施策に関すること

- 重度障害者等福祉手当の廃止に反対する。(他36件)
- 社会的な居場所を見つけてほしい。
- 障がいのない人もある人もスポーツや文化活動を一緒に考えて参加できる企画。
- 障がいのある方が集う開けた活動を実施してほしい。
- 自立支援医療制度、障害者手帳の申請(更新)の時の診断書代を補助。
- ピアサポートの安易な制度設計はやめてほしい。

⑩経済的な問題に関すること

- 障がい者に対する経済的支援をしてほしい。(他2件)
- 現金給付をしてほしい。(他1件)

⑪就労に関すること

- 一般の人と同程度の賃金がもらえるようになるか、足りない分の補填が必要。(他2件)
- 障がいを持つ従業員に対し、配慮や理解のある職場。(他2件)
- 社会で働きたい。(他1件)

- 職種や技能の種類が増えてほしい。(他1件)
- 現在A型作業所で働いているが、65歳を超えても働ける場がほしい。
- 就職支援案内の充実。
- 就労支援サービスの事業所を増やしてほしい。
- 特例子会社とA型事業所を増やしてほしい。
- 積極的な障がい者雇用。

⑫書類や手続きに関すること

- 郵送やWebでの申請ができる手続きを増やしてほしい。(他5件)
- 開庁時間の延長。(他2件)
- 手続きの簡素化。(他1件)
- 担当する職員によって内容が変わるため、何度も役所に行かなければならないので、案内や説明を統一してほしい。(他1件)
- 市役所や区役所の待ち時間が長いため、窓口の人の数を増やしてほしい。
- マニュアル通りではなく手続きをする人に寄り添った対応をしてほしい。

⑬情報提供に関すること

- 障がいの内容及びその等級に応じた支援・サービスに関する情報提供をしてほしい。(他7件)
- インターネットやSNSがわからないので、紙媒体での情報提供をしてほしい。(他1件)
- 市のホームページが簡素でわかりにくいいため、詳細を載せてほしい。

⑭スポーツ施設、イベント施設に関すること

- 図書館・ホール等が一体となった施設がほしい。
- 社会文化活動にもっと力を入れてほしい。

⑮災害に関すること

- 災害時の障がい者への対応をどのように知ればよいのかわからない。
- 災害が起きた時にどうやって生き抜けばよいのかが心配。

⑯理解、啓発に関すること

- 障がい者が差別されることなく、一住民として、暮らしていきたい。(他5件)
- マイノリティの意見も汲み取ってほしい。
- 駐車場の障がい者スペースについて、車いす以外の障がいを持つ人も使用できると周知してほしい。
- 見た目で見えない障がいをもっている人も、周りの人が理解してくれるような呼びかけの強化をしてほしい。

⑰その他

- 障がい者に配慮しつつ、地域や一般社会との接点を持てるとうれしい。
- 前福祉計画の達成したものや不足と思われること。また、福祉サービスに従事している方々の意見なども知りたい。
- 今回の結果も広報などで詳しく報告し、それを踏まえての計画案も知りたい。
- 障がい者が親を介護するようなケースが想定されていないように感じる。
- 障がい者の国民健康保険料の軽減制度。
- 市営住宅の1～2階に障がい者の優先枠を設けてほしい。

(4) 難病患者 (126件)

①福祉サービスに関すること

- 重度訪問介護ができる事業所の確保。
- 買い物や日常生活への支援。
- より便利なサービスを、利用しやすい仕組み。
- ロボットの普及。

②施設・グループホームに関すること

- 障がい者を受け入れる施設に力をいれてほしい。
- 老後の入居施設を優先的に探してもらえるようにしてほしい。

③公共交通機関、道路整備に関すること

- タクシー券の枚数を増やしてほしい。(他5件)
- 介護・福祉タクシーの補助を増やしてほしい。(他3件)
- バスの増便。コミュニティバスの路線拡大。(他3件)
- 悪路の整備。(他2件)
- ガソリン券の補助。(他1件)
- 交通費の補助。
- 公的機関への交通手段を確保してほしい。

④医療に関すること

- 医療受給者証の申請をもっと簡単にし、有効期間を長くしてほしい。
- 運転免許証の返納後の通院が不安。

⑤バリアフリーに関すること

- 車いすで出かけやすい街づくり。(他1件)
- 自宅のバリアフリー化に対する支援。

⑥相談体制に関すること

- 部署異動をせず担当者を固定してほしい。(他1件)
- ピアサポートを各区においてほしい。
- 相談に行った時にわかりやすく説明が出来る相談員を願う。
- 小グループなどで市民の声を聞いてほしい。

⑦将来の不安に関すること

- 親が亡くなった後に残された子どもの生活が不安。(他1件)
- 老後の施設入所先があるか心配。

⑧教育、療育、学校に関すること

- 教育の段階で障がいや病と深く向き合う機会があるといい。

⑨福祉施策に関すること

- 指定難病に対する支援やサービスが少ない。(他5件)
- 重度障がい者等福祉手当の廃止に反対する。(他4件)
- 高齢の親が障がいをもつ子を世話することに対する支援。
- 軽症の人に対する補償の充実。
- 近隣自治体との障がい者支援格差をなくしてほしい。

⑩経済的な問題に関すること

- 指定難病の自己負担が増額し負担となっている。
- 薬代の負担が大きい。
- 難病により退職を余儀なくされたが、働けないため年金受給までの期間の生活がままならない。

⑪就労に関すること

- 障がいや病気に合わせた就職支援。
- 就職に難病者枠を設けてほしい。
- 障がい者雇用の促進。

⑫書類や手続きに関すること

- 医療受給者証手続きの簡素化と有効期間の延長。(他6件)

- 郵送・ウェブ申請の拡充。(他2件)
- 対応する職員の質向上。
- 医療証更新の用紙をもっと早く郵送してほしい。
- 手続きをわかりやすくホームページ等で案内してほしい。

⑬情報提供に関すること

- 指定難病の人が受けられる支援がわからないので知ることのできる仕組みがほしい。(他2件)

⑭スポーツ施設、イベント施設に関すること

- リハビリテーションのための運動の場、市民プール、トレーニングセンターの無償化。
- 運動ジム事業者とデイケア事業者のコラボで送迎付きのリハビリ事業。

⑮災害に関すること

- 災害時に使用できるマンホールトイレを強く望む。
- 障がい者がいる家庭用の災害時の対処法がわかる資料や広報活動が必要。

⑯理解、啓発に関すること

- まずは行政職員から障がいに関する知識をつけてほしい。(他2件)
- 偏見のない、人が人を尊重するまちづくりを進めてほしい。
- 難病に対する支援や理解度が低い。
- 車いすマークの駐車場を健康な人が使っていて困る事が多い。
- 自治会連合会や単位自治会を通した障がい福祉制度の理解と活動の推進を望む。

⑰その他

- アンケートが難しく、わかりづらい。(他4件)
- てんかんが精神障がいに当たるのを見直してほしい。
- 近隣市区と比較して福祉全般の差を感じるため追いつき追い越せの努力を願う。
- それぞれの福祉施策がお互いに繋がりあってほしい。
- 物価対策事業をスマートフォンで行うのは取り残される人がいるため不適だ。
- 生活しやすい相模原市になるよう願う。

(5) 重度心身障がい児者 (93件)

①福祉サービスに関すること

- 18歳以降使えなくなるサービスをなくしてほしい。(他2件)
- 家庭ごとの状況に応じた柔軟な対応を求める。
- 療育手帳の発行基準が地域ごとに違うのは疑問。
- 所得制限の撤廃。
- 物価高でオムツが値上がりしているため、日常生活用具の交付額をあげてほしい。
- 小児のオムツ給付の基準を見直してほしい。
- オムツ以外の排泄に関わるおしりふき等も日常生活用具の対象としてほしい。
- 障がいサービスに従事する人の定期的な評価を求める。
- 在宅か施設の二択ではなく、中間的なサービス利用ができるようにしてほしい。
- 肢体不自由児が利用できる生活介護やショートステイが増えてほしい。
- 児童発達支援センターへの通所にかかる費用を補助してほしい。
- 放課後等デイサービスの市内格差が不平等なので改善を望む。

②施設・グループホームに関すること

- 重症心身障がい児や医療的ケアがある人が入所・通所できる施設が増えるよう望む。(他9件)
- 重症心身障がい児・医療的ケア児が利用できるショートステイがない。(他4件)
- 受け入れてくれる施設の充実と職員の確保。(他2件)
- 職員に対する教育。(他1件)
- 性的暴行や暴力などで前科の有る人の介護ヘルパー業務への一定期間就労の禁止などの対策が必要。
- 普段は施設で生活しながら、週末や長期休みなどを家族と過ごすための支援がほしい。
- 放課後等デイサービスの利用が終了する17時から親が帰宅するまでの間をつなぐサービスがほしい。
- 質の悪いグループホームに対し行政が管理・指導を行ってほしい。

③公共交通機関、道路整備に関すること

- バスの増便。路線拡大。
- タクシー券の枚数を増やしてほしい。
- 重度障がい者及び未成年を車検証名義を本人とすることが不可能なので、介護者・世帯名義も同等扱いとしてほしい。
- タクシー券とガソリン券を金額指定で組み合わせ選択できる仕組みにしてほしい。

④医療に関すること

- 18歳以降、重度障がい医療を受けられる病院や、レスパイト入院を受け入れてくれる病院がない。(他2件)
- 医療と療育の地域格差を改善してほしい。
- 地域の中で医療と療育を一貫して診てもらえる所があると安心できる。
- 医療費助成の継続。

⑤バリアフリーに関すること

- ユニバーサルトイレの設置とその設置場所の周知を進めてほしい。(他4件)
- バリアフリー化の推進。
- 道路にベンチや手すりを設置してほしい。
- インクルーシブ公園に設置されている遊具の内容が、インクルーシブデザインの理念と乖離している。

⑥相談体制に関すること

- 相談支援やサービスの案内を一つの窓口で完結できるようにしてほしい。
- 市の保険者、障がい担当が毎年変わるため、説明に苦慮している。
- 相談できる施設を増やしてほしい。

⑦将来の不安に関すること

- 急用で利用したい場合や状況が変わったとき、親が介護できなくなったときに入所できるが不安。(他1件)
- 18歳を超えると特別支援学校を卒業し放課後等デイサービスに通えなくなる。本人へのケアが不十分になること、親がこれまでどおりの働き方をすることが難しくなることから、18歳を超えてもこれまでどおり生活できるような支援を切に願う。(他1件)
- 主たる介護者の母親が健康であり、自分の人生を全て子に捧げなければ成立しない生活が非常に不安。
- 施設に入ると人間らしい生活がしづらくなってしまわないかと不安。

⑧教育、療育、学校に関すること

- 放課後デイサービスの開所時間を長くしてほしい。
- 児童発達支援は小学校まで継続利用を可能にしてもよいと思う。
- 支援学校の定員の少なさ、支援級の先生の知識や経験の乏しさを感じる。
- 近隣の支援学校との情報交換会や、交流の機会を望む。
- 病院や療育の施設が順番待ちで動き出してから1年程かかるため、支援につながるスピードが速くなってほしい。

⑨福祉施策に関すること

- 障がいがあっても家族が安心して暮らせるよう、現場の実態に即した制度設計・改善を願う。
- 障害福祉サービスを縮小する方向に動いているので不安がある。
- 前向きに子どもと過ごしたい介助者のサポートを検討してほしい。

⑩経済的な問題に関すること

- リハビリや通院、送迎の時間の関係で障がい児がいる家庭は共働きが難しく、装具等の費用もかかるので経済的に厳しい。
- 障害年金の範囲内で生活が送れ、ケアが受けられるようにしてほしい。

⑪就労に関すること

- 就労先として生活介護を希望しているが、事業所が少なく就労先が見つからないので増やしてほしい。
- 人手不足を外国人労働者ではなく働ける高齢者や障がい者で解消してほしい。

⑫書類や手続きに関すること

- 18歳を迎えたときの手続きが煩雑だったので、手引き等があればよいと思う。
- 申請や手続きをインターネット等でできるようにしてほしい。
- 複数の手続きを年間でまとめて同時期に、また同じ用紙でまとめてできる申請方法等があると助かる。

⑬情報提供に関すること

- 障がいのある方の情報をまとめたサイトを行政主導で作成してほしい。
- 市のホームページをわかりやすくしてほしい。
- 重度心身障がい児の支援・相談機関としての児童相談所をもっと周知してほしい。

⑭スポーツ施設、イベント施設に関すること

⑮災害に関すること

⑯理解、啓発に関すること

- 教育や街での障がいに対する理解を深める活動に力を入れてほしい。
- 地域社会で一人ひとりが尊重される社会を一緒にめざして行ってほしい。
- ストレッチャー型の車イスや容姿の違い等も普通なこと、という価値観が持てるような教育を行ってほしい。

⑰その他

- 現場や現実をよく見てほしい。(他1件)
- 福祉に関わる職員の質の向上。
- 土、日、祝日楽しめる場所を増やして欲しい。
- 特別児童扶養手当の所得制限廃止。
- オムツのゴミが大量に出るため、ゴミの有料化を懸念している。障がい者家庭には優遇措置を検討いただきたい。

(6) 発達障がい者 (111件)

①福祉サービスに関すること

- タクシー券など少額でもいいので支給してほしい。
- 学習支援、運動療育など、放課後等デイサービスの質の向上。(他1件)
- 放課後等デイサービスが足りず入れないこと、事業所を選べないことがあるので増やしてほしい。(他1件)
- 知的障がいの有無で手帳が判定されるが、能力の差も加味してサービスが受けられるようにしてほしい。
- 放課後デイサービスの利用負担額の所得制限の撤廃。

②施設・グループホームに関すること

- 施設に対する指導・監督体制の構築を求める。(他1件)

③公共交通機関、道路整備に関すること

- バス・電車の本数、乗り場を増やしてほしい。
- タクシー券の支給。
- 精神障がいの人でも自転車の歩道走行を認めてほしい。
- 自転車専用路の整備を進めてほしい。
- 公共施設に公共交通機関で行けるようにしてほしい。
- 路線バスの増便、路線拡大。
- 電車の運賃の割引。

④医療に関すること

⑤バリアフリーに関すること

- 車イスでの走行が可能な歩道の整備。

⑥相談体制に関すること

- 読み書き、文書理解が難しい子どもの相談に乗ってくれる場所がほしい。(他1件)
- どこで相談ができるのかがわからない。
- 相談場所がほしい。
- 相談先がわかりやすいようフローチャートなどがあるといい。
- 子どもが暴れて親が困っているときに、すぐにかけて家族の相談にのってくれるサポート機関がほしい。
- 小・中・高への進学タイミングで迷うため、市からの情報提供や相談先の紹介をしてほしい。

⑦将来の不安に関すること

- 親が亡くなった後や病気になった時に住む場所やお金の事を心配している。(他1件)
- 成人したら親(介助者)がいなくても安心できる居場所と暮らしができるように支援してほしい。(他1件)
- 障がいがありながらも本人の将来の夢をかなえるために、本人や親はどうすればよいのか道筋が不明で不安に思う。
- 本人ひとりで自立できる収入が得られる職場があるのか。

⑧教育、療育、学校に関すること

- 教員は障がいに対する知識を学んでほしい。(他3件)
- 子どものペースや特性に合わせた学び方ができる場所がもっと増えてほしい。(他3件)
- 専門性のない教員の支援級への配置をやめてほしい。(他3件)
- 通級教室を各学校に設置してほしい。(他3件)
- 現在は軽度から重度の子まで同じ環境で集団学習を行うため、それぞれが適切な支援を受けて学習ができるようにしてほしい。(他1件)
- どこへ通っても同じ教育・支援を受けられることを望む。(他1件)
- 就学を控えているが、支援級の対応に不安が強い。
- 各小学校に通級を設置してほしい。
- オルタナティブスクールやフリースクールを増やしてほしい。
- インクルーシブ制度で各学校がどのくらい受け入れられるのか、目安等を表記してほしい。
- 普通の授業を受けられる環境がほしい。
- 健常者が習う習い事や、家庭教師の助成、障がい者の学習面の向上に関する支援がほしい。
- 特別支援級の先生の十分な数の確保と特別支援教育の充実。
- 保護者の支援を受けることへの抵抗をなくし、必要な子どもたちが確実な支援が受けられるよう、理解が得られるよう努力をしてほしい。

- インクルーシブな高校を増やし、障がいのある子どもたちにも将来の選択肢を与えてほしい。
- 発達に問題がありそうな子ども達が早く支援につながる仕組みが強化されるとよい。

⑨福祉施策に関すること

- 所得で利用負担に差がでないようにしてほしい。(他3件)
- 特別児童扶養手当の所得制限廃止。(他2件)
- 障がい者に対する趣味や習い事がもっと充実してくれれば、住みやすさにつながると思う。
- 働いて収入があると自己負担金が発生してしまうので、制度改正を希望する。
- 障がい者の手当を増やして欲しい。

⑩経済的な問題に関すること

- 障害年金の不足分を補うような支援金が必要。

⑪就労に関すること

- 就労支援の充実。(他1件)
- 就労継続支援B型の工賃に最低賃金の制度を適用してほしい。
- 障がいのある人が働く場所、働きやすい場所を、たくさん増やしてほしい。
- 公共施設やショッピングモール、放課後等デイサービスなど慣れ親しんだ場所で就労できるとよい。
- 障がい者の自立支援、雇用促進等。
- 障がいに合わせた働き方や日数や時間調整、交通費支給をしてほしい。

⑫書類や手続きに関すること

- 手続きを簡略化してほしい。(他1件)
- 複数の手続きが一度で済むようになるといい。
- webでの申請ができるようにしてほしい。

⑬情報提供に関すること

- 必要な支援を受けられるよう、どんな制度があり、どこで支援を受けられるかをもう少し詳しくしてほしい。(他1件)
- 将来に対しての勉強会やグループホーム体験等があるとよい。
- 市のホームページで詳しいことがわかるようにしてほしい。

⑭スポーツ施設、イベント施設に関すること

- 障がい児が通えるスポーツ教室があってほしい。
- スポーツ施設で療育手帳を利用した際、入場チケットに『障がい者』の記載があったので改善をお願いしたい。

⑮災害に関すること

⑯理解、啓発に関すること

- 幼稚園や小学校、その保護者への理解の促進。(他4件)
- 教員への理解の促進、質の向上。(他3件)
- 障がいのある人の理解と啓発を充実させてほしい。
- 学校教育の中で様々な立場の人について知る機会を設けてほしい。
- 関わる人の質の向上。
- 発達障がいがあっても、1人の人間として扱ってほしい。

⑰その他

- 障がいがある人もない人も安心して生活出来る支援を求む。
- アンケートに答えたら見返りが欲しい。
- アンケートが難しい。

2 市民

問27 最後に、市の障がいのある人への福祉施策について、ご意見やご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

相模原市に要望したいことなどを自由に記述してもらったところ、89人から111件の意見が寄せられました。

記述内容により分類して整理し、原則として原文のまま掲載しました。

なお、記述原文の趣旨を損なわないよう配慮しながら、文章を読みやすく改めた場合があるほか、記述が長文にわたるもののうち、相模原市に要望したいことについて抜粋して示した場合があります。

①福祉サービスに関すること

- 福祉サービスに従事する人々への行政的援助が必要。
- 過度なサービスを求める人については議論の必要があると思う。

②施設・グループホームに関すること

- 障がい施設は駐車場や乗降場所の確保できる広い場所に作ったほうがよい。

③公共交通機関、道路整備に関すること

- 悪路の整備。(他3件)
- 交通手段がないことによる外出しにくさの解消。(他1件)

④医療に関すること

- 医療機関が少ない。
- 医療証が永続的に使えるようにしてほしい。

⑤バリアフリーに関すること

- 駅のバリアフリー化が進んでいない。(他1件)
- 優先席やエレベーター、多目的トイレ、障がい者用の駐車場利用について、健常者への理解や配慮を求めたほうがよい。

⑥教育、療育、学校に関すること

- 小学校と近隣の特別支援学校間の交流に取り組んでいただきたい。
- 学校で対応にあたる職員の増員。
- インクルーシブ教育の重要性を感じる。
- 通常学級と支援学級の併用ができればよい。

⑦福祉施策に関すること

- 福祉・介護従事者への支援と処遇改善。(他2件)
- 官・民・教育の連携が必須だと思う。
- 個性や障がいの度合いに合わせた援助体制ができればよいと思う。(他1件)
- きょうだい児への支援も検討してほしい。
- 障がい者にとって住みやすい環境、働きやすい環境を願う。
- 無理にお互いが交わるような社会にするのではなく、お互いが気持ちよく生活できる社会を目指す福祉政策をとっていただきたい。

⑧経済的な問題に関すること

⑨就労に関すること

- 雇用拡充。(他2件)
- 雇用側と福祉施策、学校の連携が重要だと考える。
- 障がい者雇用の給与が少なく、働きに出るとマイナスになってしまう状況を改善してほしい。
- 就労の支援体制についての情報が分かりづらい。

⑩情報提供に関すること

- どのような施策やサポートが行われているのかを知らない。(他2件)
- 情報の周知や声掛けが必要ではないか。
- SNSでの発信が有効のように思う。
- 福祉やその情報について気軽に知れる場があればよいと思う。

⑪災害に関すること

⑫理解、啓発に関すること

- 障がいについて理解が深まるとよい。(他2件)
- 障がいのある方が求めていることや、手を貸したり、声をかけたりすることがよいことなのかもわからない。(他1件)
- 障がいのある人に対する意識が改善されるような施策が必要。
- 障がいのある子を持つ親への理解が進めばよいと思う。
- 差別と区別を一緒にしないこと。
- ボランティア等で接するのと近い人が当事者となるので、認識が変わった。

⑬地域の支え合い、協力に関すること

- 障がいのある人の立場にたって、思いやりを持って生活したい。(他2件)

- 交流の場やふれあう機会が必要だと思う。(他2件)
- 障がいのある人の側にも譲り合いの気持ちを持って欲しい。(他1件)
- 障がいのある人が将来の心配をせずに暮らせる世の中であつたら良い。

⑭その他に関すること

- 高齢者支援に力を入れてほしい。(他3件)
- 障害の「害」という字が好ましくないと認識した。(他1件)
- 障がいのある人への…。と云うことば自体不自然でよくない。
- 車イスバスケットチームについて広報等でとりあげてほしい。
- 市役所での手続きに時間がかかるので、簡単に済むようになるか、サポートをしてもらえるようになるとうい。

V ヒアリング調査の結果

1 障がい等の理解・啓発について

- 失語症を正しく理解していただくための、広報等をお願いしたい。一般市民の方に失語症の特性を知ってもらい理解を広めたい。
- 選挙時の名前照会時に聴覚障がい者が来てもマスクで口が見えなかったり聞こえていないのに次に進まれたりすると不安になるため、進め方に配慮をしてほしい。従事者説明会の時にコミュニケーションボードの使い方等の説明をきちんとしてほしい。
- 障がいの啓発は講演会の開催やリーフレットの作成等を継続して欲しい。
- 横浜線、神奈中バスの車内ではヘルプマークを付けていても席を譲ってくれる事が無いです。(健常者が優先席に堂々と座っている) ヘルプマークの宣伝活動をしてもらいたいです。
- 地域住民や、学校、企業等に障がい理解を深める啓発活動を今後も力を入れていきたい。行政と企業とタイアップしてイベント、商品開発をしていけたらと思う。バオバブのようなお店は他市にはないので、さがみんを利用した商品やお土産を製作して広げていきたい。
- 共生社会の実現に向けて、教育機関、市、福祉事業所等で様々な取り組みがされていると思う。しかし、障がいのある人とない人が出会う、触れ合う機会はまだまだ少ないと感じる。理解、啓発のためには幼少期から共に育ち、学ぶ機会がもっと必要だと思う。
- 教育関係機関への障がいや福祉サービスの理解・啓発をすすめてほしい。
- 啓発活動、研修内容等、周知する方法、周知先、どういった人たちに理解、啓発していきたいのか、いくべきなのか。しっかりと具体的なビジョンを明確化してほしい。

2 権利擁護について

- 権利について守られていないこともある為、多角的な取り組みが必要と思う。
- 上記と同様。無意識なうちにしてしまう虐待や権利侵害も怖い。人を思いやる、人に優しく接することが当たり前になってほしい。
- 津久井やまゆり園事件が、市内でおきていることから、もっと啓発やイベントを主体にとりくむとよい。

3 相談支援について

- 事業所数は増えているようだが、パンク状態の改善は見られない。成されるべき相談支援（特に計画相談）モニタリング、計画書作成等が未だに不十分のままであり、特に何か問題が発生してしまった当事者に適切な支援が成されないのが心配。障がいのある人が年を取ると重度化するが大人になってからの居場所がない。生活介護で日中短期を利用して夕方まで時間を費やすシステムが不足している。相談先が必要なため、相談支援専門員の不足を解決してほしい。また、事業所の情報等を渡せないため、親に対しての相談支援専門員の周知をしてほしい。

- 子どもや家庭を取り巻く課題が複雑化・多様化する中で、相談支援の不足を強く感じています。実際に地域を見ていくと、相談支援事業所の閉鎖や、子どもを対象とした相談を扱っていない事業所が多いことに気づきました。その結果、保護者が適切な相談先につながれず、困りごとを抱え込んでしまう状況が生じています。相談支援は、福祉サービス利用の入口であり、家族の不安を早期に受け止める重要な役割を担っています。しかし、現状の報酬体系では、丁寧な支援や継続的な関わりを行うことが難しく、事業としての継続性にも課題があります。子ども分野の相談支援が安定的に運営できるよう、経営的にも成り立つ報酬体系や支援体制の見直しを要望します。
- 支援学校の生徒が、卒業までに相談支援事業所とつながりたいニーズがあるが、どこも手一杯のように感じている。サービス利用の架け橋となってくれる存在が必要なご家族も少なくないため、資源が増えると良いと感じる。
- 相談支援専門員の人員安定化のために補助金をつけてほしい。
- 地域生活をより安全に送られるようにするための、地域生活支援拠点事業を早急に整備いただきたい。その整備にあたり、肝になる相談支援体制について、後方的な支援だけでなく、民間事業所と共に前に出て一緒に取り組んでほしい。機能強化型Ⅰ or Ⅱの取れる事業所整備を市が率先して支援してほしい。
- 2006年に創設された相談支援員制度ですが、電話での利用相談を受けた際の聞き取りでも、まだまだ利用されていない方が多いように感じています。ご自身の判断で利用しないということであっても、生活状況や身体状況に、急な変化があった時の備えとして全ての方に相談支援専門員がつくことが望ましいのではないかと考えます。
- 事業運営が成り立たない中、モニタリング実証方法やセルフプランから相事業登録への強化など現実に合わないことが多い。市として対策や方針を出すとうい。

4 福祉・保健・医療サービスについて

- 歩行訓練士の確保および同行援護サービス提供事業所等への配置といった歩行訓練制度の充実と提供体制の整備

[要望理由] 視覚障がい者はホーム転落や踏切での死亡事故、歩道および道路での接触事故などのリスクに直面している。これらのリスクを軽減するためには、ハード面の整備だけでなく、安全な歩行を実現するための技術習得が不可欠である。しかし、現状ではそのような訓練を受けることのできる場所は限られており、必要な支援が行き届いていない状況である。そのため、視覚障がい者が希望するタイミングでいつでも歩行訓練を受けられる環境の整備を求める。高齢・障害者福祉課からは、「歩行訓練士の育成及び同行援護サービス提供事業所等への配置といった歩行訓練制度の充実につきましては、他市の事例等を参考にまいります」との回答であるが、数年にわたって同様の回答であり進捗が見られない。

[具体的な要望項目]

(1) 相模原市の同行援護事業に関わる中心的存在である相模原市立障害者支援センター松が丘園への歩行訓練士の配置。

(2) 視覚障がい者が希望するタイミングでいつでも歩行訓練を受けられる環境の整備。

- 相模原市内での同行援護サービス従事者の養成研修の充実
 [要望理由] 同行援護従業者養成研修の受講料が高額なこと、また市内には上記の研修を受けられる場がなく、従来の従事者の高齢化と併せて新規従事者の育成が困難となっている現状から、同行援護サービス従事者数が減少している。このような課題によりサービスの需要と供給のバランスが崩れており、利用する側としても不便が生じている。
 [具体的な要望項目]
 (1) 相模原市の同行援護事業に関わる中心的存在である相模原市立障害者支援センター松が丘園での同行援護従業者養成研修を可能にする取り組み。
 (2) 同行援護従業者養成研修開催者または受講者への受講料支援等による受講者負担軽減。
 (3) 相模原市内での同行援護従業者養成研修の実施。
- 日常生活用具への対象製品・サービス追加並びに給付基準額の見直し
 [要望理由] 視覚障がい者の社会参加・生活の質を向上させる製品・サービスは数多くあるが、それらが高価なこと等から、必要な製品・サービスを生活に取り入れられない当事者が多くいる。また、製品価格が値上がりしたために従来自己負担がなかった者への負担額の発生や1割負担をしていた者の自己負担額が増え、金銭的な負担が大きくなっている。これらのことから、視覚障がい者と晴眼者間での生活の質の隔差を縮小するためにも、金銭的な負担の軽減も図る必要が生じているため。
 [具体的な要望項目]
 (1) 視覚障害者用誘導装置「あしらせ」の給付対象組み込み。
 (2) 視覚障害者向け遠隔サポートシステム「アイコサポート」の「包括加入プラン」の採用。
 (3) 活字文書読み上げ装置への対象製品追加。
 (4) 値上がり製品の給付上限額の見直し。
- 近年施行されている障害者差別解消法や障害情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法、手話施策推進法と相まった聴覚障がい者の施策
- 手話通訳者派遣制度に関しては団体の目標に挙げているが、その他に民間事業者が手話通訳者派遣を依頼できる窓口を設ける。
- 手話通訳について、派遣ができないという回答が増えている。本人が市の行事に出席する場合は派遣できるが民間への派遣ができない。県での派遣もできるが非常に高額だという意見が会員から出ている。民間でも手話の派遣がなく合理的配慮で筆談が多い。手話通訳の照会など相模原には情報提供施設が無い。
- 地域福祉、地域生活についての③と同様に、福祉・保険・医療サービスを受けるための循環福祉バスを希望。
- 重度障害者等福祉手当の廃止は決まったが、必要な補助金制度は、他市等の動向を注視せず独自の制度として継続願いたい。
- 福祉と医療の連携（特に重度障害の当事者）が必要と感じる場面によく出会う。この問題はそのまま上記NO3にも通ずる。当事者が重い病となった時、福祉がどのように関わるのかが不明。「心ある福祉事業所や従事者だのみ」の状況となっている。通学支援の新規事業があるが、ヘルパーが不足しているため、教育部門と一緒に進めていくものではないか。また、担い手の確保をしてほしい。

- 現在、タクシー券と燃料券の配布を行っているが、加えてバス券の配布を行って3種類から選択できるようにしてほしい。助成ではなく回数券の方が良い
- 日中サービス支援型が増え、重度障害者の方が増えている中で事業所職員の支援スキルが伴っていない。
- 子ども（18歳以下[思春期]）の情緒面や行動面の困り感について、相談できる医療機関などの情報の提供があると良いと思う。
- ・医療的ケアのある児童生徒の通学支援や、自力通学を目指す生徒の通学支援が充実すると良い。
・福祉事業所の選択肢が増えると良い。またそこで働く方の賃金が向上することで持続可能な運営が可能となると思う。
・家族支援が必要なケースにおいて、福祉、医療、教育がよりスムーズに連携できると良い。
- 身体に障がいのある方の事業所の整備
- 強度行動障害の状態像にあるもの、またはそのリスクの高い方への支援について、相模原市における標準的な支援を確立してほしい。その為に、発達障害者支援センターの機能強化と発達障害者地域支援マネージャーの配置をお願いしたい。発達障害者支援センターの機能強化に、広域的支援人材や中核的支援人材による機関コンサルテーションの拡充、心理検査の実施、集中的支援あり方検討も加えることをお願いしたい。
- 地域生活を支えるためのGH整備については、量の拡充は重要だが、それだけでなく質の担保についても検討してほしい。質については、支援内容の質だけでなく、ハード面の質も重要であるため、建築費用や什器費など運営費補助金、ならびに市街化調整区域での事業許可を支援してほしい。利用者の家賃補助は昨今の物価上昇等も鑑み、現行をベースに拡充いただけるようお願いしたい。
- 分かりやすく掲示して行ってほしい。
- 計画を策定する方は現場に足を運び、現場を知り、利用者を知り、現状を理解した上で作業を進めてほしい。

5 教育・育成について

- 手話施策推進法、情報アクセシビリティ法が進んでいるが、手話を活用しているのは市長の会見の時のみである。例えば、博物館やエコパーク等で学ぶ際に、手話が無いので聴覚障がいのある子供の学ぶ機会が減っている。QRコードを読み込むと手話が出てくるなどきちんと学べるようになってほしい。聞こえる子も聞こえない子も平等に学べる機会があるべきである。
- 幼少期から障がいの有る人も無い人も一緒に学び相手に対する配慮を体得できるような環境を培って欲しい。

- 障がいのある子どもや発達に特性のある子どもへの理解を広げるためには、学校現場での継続的な理解啓発が重要だと考えます。小中学校等において、当事者や家族、地域の団体等が関わる出前授業を積極的に取り入れることで、子どもたちが「知る」「感じる」「考える」機会を持つことができます。これは、将来的な差別や偏見の解消だけでなく、互いを尊重し合う地域づくりにもつながります。単発の特別授業にとどまらず、教育課程の中で位置づけた形での出前授業の導入や、実施団体との連携体制の構築を期待します。
- 小中学校の通常級において、一人ひとりの子どもに応じた支援の充実が図られるよう、取組を進めてほしい。
- 地域の子どもは、地域の学校で学べる環境づくりを進めてほしい。それを支えるために県立の特別支援学校を活用してほしい。
- 福祉人材が募集しても採用ができない状況。教育、育成、離職防止を含め福祉人材が増えるようなアプローチが必要ではないか。このままでは福祉、介護という分野では運営、サービス提供が難しくなる可能性も出てくるのではないか。
- インクルーシブ教育の推進、共生社会の実現に向けた市の取組みが、もっと市民に分かりやすく伝わると良いと思う。効果的な広報の仕方について検証するなど検討したらどうか。

6 就労について

- 身体の回復はほぼ出来ていて、言語のみの回復が遅れている年齢60代の方々の就労支援をお願いしたい。病気等で体が回復しても言語障害が残ると働けるのに働けない状態になり、再就職も接客は特に難しい。若い人は特に家にずっといることがつらく、金銭的な面でも困っている。
- 現在、就労継続支援は3年間、それ以降はなくなってしまいます。就労を長く定着するための支援はもともと発達の遅れのある障がい者には厳しい環境だと思います。3年では足りない。支援をしてくれる（就労のための）第三者を3年以降も（3ヶ月ごとでもいいので）欲しています。そのような制度を考えてほしい（無料ではいいません）
- 就労選択事業支援事業がスタートしたが、厚労省のHPによると相模原市の就労選択支援事業所数は3事業所のみである。10月にスタートしたが、文書での通知のみであったので、市としてどう取り組んでいく方向なのか説明していただく機会があるとよい。
- 障がい者雇用の学校のアフターフォロー後に、必要であればお世話になる就労支援センターも年々件数が増え、必要な支援にも大きく幅があるように感じている。職業センター等のその他必要な機関とも連携して、必要なタイミングで利用できると良い。
- 公共施設内での施設外就労の場を創設すること。

7 生活環境について

- ・安全な歩道の確保
 - ・歩道と車道の段差や歩道のデコボコ、傾きが多く危険
 - ・空地の宅地開発申請時に歩道の提供の条例化
- ・歩行困難者の移動
 - ・介護タクシーの高額化と当日利用が難しい
 - ・障がい者の一般タクシー利用は断られる事が多い
 - ・施設や個人の車の有効利用による歩行困難者の移動手段として利用
- 緑区合同庁舎前バス停付近への横断歩道の設置および中央分離植樹帯の一部撤去費用の予算確保について市の要望として管轄に申入れ
[要望理由] 障がい者を含む幅広い市民の利便性向上に資するものであり、長年要望しているが実現していない。横断歩道を設置することにより、警察から指導された300メートルの長い距離を歩かなくても20メートルほどで総合庁舎敷地入り口へ行くことができることや下記に示す課題点の解決に結びつくことを考えれば、非常に合理的な判断だと言える。
 - ①橋本駅発の神奈中バス「緑区合同庁舎前」停留所は、合同庁舎の目の前に止まるにもかかわらず緑区の行政の中核である区役所などへ行くためには歩行距離が長く、視覚・肢体障がい者、車いす・ベビーカー・シルバーカー・松葉づえ使用者、高齢者、子供連れ、妊産婦などにとって大きな歩行負担となっている。
 - ②警察から指導された地下道ルートはエレベーターまでの距離が指示された距離の2倍以上あり、長い地下道や向かい側のエレベーターを降りてからの距離も長くなり、現在使用しているルートより歩行距離が増加する。また、多数の車の出入り口や歩道を横切る車道があり、安全とは言い難い。
 - ③長い地下道は人通りがほとんどなく、特に女性からは犯罪被害の懸念があり不安だとの意見がある。
 - ④バス停近くの住民や通勤・通学の方々からも不便だという声が上がっている。
- 聴覚障がい者への情報発信に関して
- 地域生活支援拠点等の整備をもっと確実なものにしてほしい。特に緊急時（トラブルやアクシデントも含む）に各方面がスムーズに連携できるよう、また緊急避難が可能な施設（機関）を設置することを強く希望する。

8 防犯・防災について

- 地域ごとの障がいのある人の具体的な避難マップ、手順。受け入れる側と障がいのある人双方が安心していられる仕組。福祉のしおりにのせてもらうなどの工夫（どこに実際聞いたらいいかわかるような周知。自分で探すキャパがない）

- 災害時において、障がいのある子どもや家族が特に大きな不安や困難を抱えることは、日頃の相談やヒアリングを通じて明らかになっています。避難行動、避難所での生活、情報取得など、平常時からの備えと理解が不可欠です。福祉の視点を取り入れた防災、いわゆる「福祉防災」の取り組みを、計画的・継続的に進めていく必要があります。

具体的には、

- ・ 障がい特性に配慮した避難支援の周知
- ・ 家族向けの防災講座や相談の機会
- ・ 地域・学校・福祉事業所との連携

などが重要だと考えます。日常の延長線上にある防災として、福祉分野と防災分野が連携した取り組みを強化することを要望します。

- 本校は相模原市から福祉避難所の指定を受けているが、避難所運営に必要な物資等の提供がない。今後、市と連携して早急に対策をしていく必要がある。
- ・ 本校の立地は土砂災害警戒区域に一部入っていること、道路が寸断され孤立化する可能性がある地域にある。市の福祉避難所に指定されているが、実際に対応できるのか不安がある。
・ 障がいのある子どもや大人が安心して過ごせる避難所について検討し、準備を進めてほしい。
- 夜間に見知らぬ人が来たりするので、防犯意識を高める取り組みが必要。

9 余暇活動・文化活動について

- 障がい者の施設としてけやき体育館1ヶ所しかない。他の施設（テニスコート）などの障がい者の優先権がほしい。健常者はスクールに入ったりもできるが障がい者はどこでもできるわけではなく、自分達で立ち上げたりしないとならず、その上施設がない現状がきびしい。

10 その他について

- 計画の評価時に数字で評価の段階を表したと、聞こえない立場の評価がないため疑問に思う。手話に関しては明確な数字指標が無い。
- ・ 体制や実地等のあり方を見直し、事業所の負担をへらすこと。
・ 営利目的の障害サービス事業や、雇用代行サービスに行政としての関わりをしっかりとこなっていくこと。

VI 調査結果のまとめ

1 障がい等の理解・啓発について

市民アンケートの結果では、「非常に関心がある」が13.7%、「ある程度関心がある」が61.6%、「あまり関心がない」が17.6%、「全く関心がない」が5.0%となっています。「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある（計）』が75.3%で、令和4年度と同様の傾向となっています。

相模原市内での障がいを理由とする差別や偏見の有無は、「あると思う」が12.6%、「少しはあると思う」が34.7%、「ほとんどないと思う」が15.5%、「わからない」が31.8%となっており、「あると思う」と「少しはあると思う」を合わせた『あると思う（計）』は47.3%となっています。また、普段の生活の中での障がいのある人への対応や理解の状況は、「足りていると思う」が15.0%、「少し足りていないと思う」が31.3%、「全然足りていないと思う」が16.6%、「わからない」が29.7%となっており、「少し足りていないと思う」と「全然足りていないと思う」を合わせた『足りていないと思う（計）』は47.9%で、令和4年度から減少傾向となっています。具体的に障がいのある人への対応や理解が足りていない状況は、「交通機関や建築物の構造」が52.7%と最も多く、次いで「まちなかでの人の視線」が50.0%、「職場での対応」が27.5%などとなっています。

障がいのある人への市民の理解を深めるために必要なことは、「学校における福祉教育の充実」が43.2%と最も多く、次いで「障がいのある人の地域のまちづくりへの参加や建築物等のバリアフリー化」が37.6%、「障がいのある人の積極的な社会への進出」が26.8%などとなっています。

2 権利擁護について

障がいのある人へのアンケートの結果では、成年後見制度の認知度は「知っている」が42.9%、「知らない」が38.5%となっており、令和4年度と同様の傾向となっています。

また、日常生活自立支援事業の認知度は「知っている」が19.4%、「知らない」が59.8%となっており、令和4年度と同様の傾向となっています。

成年後見制度の今後の利用意向は「利用したい」が10.0%、「利用しない」が15.8%、「利用している」が2.0%、「わからない」が40.0%となっており、また、日常生活自立支援事業の今後の利用意向は「利用したい」が8.9%、「利用しない」が11.7%、「利用している」が1.5%、「わからない」が44.4%で、いずれも「利用したい」は約1割となっています。

3 相談支援について

障がいのある人へのアンケートの結果では、現在の困りごとや将来の心配の相談相手は「家族や親族」が59.0%と最も多く、次いで「医師、看護師、病院の相談員」が27.0%、「通所施設・入所施設の職員」が15.9%となっており、また、相談したい人は「家族や親族」が28.1%と最も多く、次いで「医師、看護師、病院の相談員」が17.6%、「相談支援事業所などの相談員」が13.9%などとなっています。

いまの生活で困っていることは、「自分の健康や体力に自信がない」が33.1%と最も多く、次いで「十分な収入が得られない」が18.9%、「役所の手続が難しい」が17.6%などとなっており、重症心身障がい児者では「自分や、家族などの介助者の緊急時に受け入れてくれる場所がない」が最も多くなっています。また、将来の生活で心配なことは、「自分で身のまわりのことができるか」が41.7%と最も多く、次いで「生活費の負担ができるか」が40.1%、「生活する住居または施設があるか」が29.5%などとなっており、精神障がい者では「生活費の負担ができるか」、重症心身障がい児者では「生活する住居または施設があるか」、発達障がい者では「働く場所や適当な仕事があるか」が最も多くなっています。

気軽に相談するために必要だと思うことは、「どこで、どんな相談ができるか分かりやすくすること」が45.3%と最も多く、次いで「身近なところで相談できること」が37.5%、「専門的な相談ができること」が28.9%などとなっています。

ピアサポート活動について、同じ障がいや病気をもつ人への支援をしたいと思う人は、「とても思う」と「少し思う」を合わせた『支援をしたい（計）』が25.0%となっている一方で、支援する上で心配なことは「相談を受けても、相手の役に立てるか心配」が63.9%と最も多く、次いで「困った時に相談できる専門職がいるか心配」が24.4%、「相談内容をじっくり聴けるか心配」が23.6%などとなっています。

4 福祉・保健・医療サービスについて

障がいのある人へのアンケートの結果では、福祉サービスを利用するときに困ったことは、「どの事業者が良いのかわからない（事業者情報が不十分）」が23.9%と最も多く、次いで「必要な日や必要な時間に使いたいサービスが使えなかった」が17.9%、「費用負担があるため、サービスが使づらい」が10.0%などとなっています。

かかりつけ医療機関の有無は、「ある」が87.7%、「ない」が9.4%となっており、特に難病患者で「ある」が95.7%と高くなっています。また、全体では「診療所や医院・クリニック」が59.5%、「総合病院や大学病院」が56.0%となっており、「診療所や医院・クリニック」は精神障がい者が76.7%、発達障がい者が70.1%と7割を超え、「総合病院や大学病院」は難病患者が82.1%と8割を超えています。

5 教育・育成について

障がいのある人へのアンケートの結果では、通学・通所・通園先で生活をするうえで困っていることは「授業が難しい」が30.9%と最も多く、次いで「家族の負担が大きい」が30.6%、「友だちができてにくい」が26.0%などとなっています。

生活をするうえで家族が負担を感じていることは、「通学(通園)時の送迎」が77.4%と最も多く、次いで「障がいの重さや特性への対応」が42.5%、「長期休業中の生活」が36.8%などとなっており、精神障がい者では「学費などの経済的な負担」が最も多くなっています。

休みの日や放課後の活動についての希望は、「家で遊びたい」が62.8%と最も多く、次いで「地域の同世代の子どもたちと遊びたい」が28.8%、「障害児通所支援事業所を利用したい」が28.5%などとなっています。

市民アンケートの結果では、障がいのある児童・生徒の就学環境の整備について必要だと思うことは、「児童・生徒の障がいの状況に応じた学習指導の充実」が48.2%と最も多く、次いで「障がいに対する周囲の理解」が31.8%、「スロープなど、児童・生徒の障がいに対応した施設整備」が18.4%などとなっています。

6 就労について

障がいのある人へのアンケートの結果では、障がいがあることで仕事をする上で不安や不満を感じることは、「収入が少ない」が27.1%と最も多く、次いで「身体的・精神的に仕事がきつい」が26.2%、「通勤が大変」が19.1%などとなっており、令和4年度から「通勤が大変」は増加傾向となっています。

今後の就労希望は、「働きたい」が45.0%、「障がいの状態などにより働くことはむずかしい」が18.4%、「働きたくない」が13.7%などとなっており、「働きたい」は12歳～17歳で67.1%、18歳～39歳で63.7%と高くなっています。また、希望する勤務場所は「企業などで働きたい」が64.1%、希望する職種は「事務の仕事」が25.9%、希望する勤務形態は「正社員」が55.2%と最も多くなっています。

働く上で必要な条件は、「職場が自宅から近い」が43.2%と最も多く、次いで「障がいに対する職場の理解がある」が40.6%、「障がいに合った仕事である」が38.6%などとなっています。

7 生活環境について

障がいのある人へのアンケートの結果では、通院以外の外出の頻度は、「ほぼ毎日」が49.2%と最も多くなっています。

外出時の困りごとの有無は、「よくある」が12.9%、「ときどきある」が31.3%、「ほとんどない」が27.1%、「ない」が22.2%となっており、「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある(計)』が44.2%で、令和4年度と同様の傾向となっています。

外出しやすくなるために希望することは、「交通費の助成」が33.7%と最も多く、次いで「外出時の介助者の支援」、「わかりやすい案内表示の設置(道路や建物の中)」が19.8%などとなっており、知的障がい者では「外出時の介助者の支援」が、重症心身障がい児者では「建物内のバリアフリー(ユニバーサルトイレ・エレベーター・自動ドアの設置など)」が、発達障がい者では「わかりやすい案内表示の設置(道路や建物の中)」が最も多くなっています。

8 防犯・防災について

障がいのある人へのアンケートの結果では、災害発生時の不安は、「避難先での薬や医療体制」が40.3%と最も多く、次いで「避難場所での集団生活」が32.3%、「水や食事、寝る場所の確保」が29.5%などとなっており、令和4年度の順位と同様の傾向となっています。また、知的障がい者、重症心身障がい児者では「自分だけで動けない」が、発達障がい者では「家族との連絡方法」が最も多くなっています。

災害発生時の自宅以外の避難場所の有無・避難場所の認知度は、「ある(知っている)」が52.8%、「ない(知らない)」が19.9%、「わからない」が23.1%となっており、「ある(知っている)」は難病患者で60.7%と高くなっています。

9 余暇活動・文化活動について

障がいのある人へのアンケートの結果では、スポーツの実施頻度は、「していない」が51.9%と最も多く、次いで「週に3日以上」が19.1%、「週に1～2日」が17.1%などとなっています。

スポーツをしていない理由は、「体力がない」が34.8%と最も多く、次いで「やりたいと思うスポーツがない」が17.0%、「スポーツが苦手である」が16.1%などとなっており、重症心身障がい児者では「障がいに適したスポーツがない」が、発達障がい者では「やりたいと思うスポーツがない」が最も多くなっています。

10 その他

障がいのある人へのアンケートの結果では、現在の近所づきあいは、「日常親しく付き合っている」が7.1%、「ときどき世間話をする」が13.1%、「あいさつを交わす程度」が45.3%、「ほとんど付き合いはない」が30.4%となっており、重症心身障がい児者では「ほとんど付き合いはない」が最も多くなっています。

一方、今後の近所づきあいの希望は、「日常親しく付き合いたい」が9.1%、「ときどき世間話をするようにしたい」が23.7%、「あいさつを交わす程度にしたい」が45.0%、「ほとんど付き合いはなくてよい」が16.7%となっています。

市民アンケートの結果では、障がいのある人との交流は、「ほぼ毎日（家族、職場の同僚、クラスメイトなど）」が21.6%、「ときどき（趣味や余暇活動など）」が13.7%、「会話などを交わしたことがあるくらい（まちなかで障がいのある人を介助した、バスの中でヘルプマークを持っている人に席を譲ったなど）」が33.4%、「これまで交流したり、過ごしたりしたことはない」が28.7%となっており、75歳以上では「これまで交流したり、過ごしたりしたことはない」が最も多くなっています。

(参考) 調査票

相模原市障害福祉計画等策定基礎調査
報 告 書

令和8年3月

調査主体 相模原市 健康福祉局 地域包括ケア推進部 地域包括ケア推進課
〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15
TEL : 042-769-9222 FAX : 042-759-4395

「障害」の「害」の字について、文字の印象を和らげるため、
本書では、ひらがな表記としている場合があります。